女性のためのアジア平和国民基金

三者合同懇談会

平成 10 年 10 月

98.10.9. 東京

フィリピン人元慰安婦敗訴

個人への賠償『国際法、請求権認めず』

東京地裁判決

第二次大戦中に旧日本軍に連行され、現地で従軍慰安婦にさせられたとして、フィリピン人女性四十六人が日本政府を相手取り、一人二千万円、総額九億二千万円の補償を求めた訴訟で、東京地裁の市川睦明裁判長は九日、「当時の国際法は個人による賠償請求を認めていない」として訴えを棄却する判決を言い渡した。

元従軍慰安婦が国に賠償を求めた訴訟の判決は二件目。今年四月、山口地裁下関支部は「国会議員は、賠償立法をすべき憲法上の義務があったのに怠った」として韓国人女性三人に計九十万円の支払いを命じている。

市川裁判長は、占領地での文民保護の義務を定めた戦時国際法「ハーグ陸戦条約」三条について「交戦国が被害を被った個人の所属する国家に対して負うべき国家間の賠償責任」との判断を示したうえで、「個人の請求権は認めていない」と指摘。

フィリピン国内法や日本の民法適用による国の責任を求めた原告の主張については「（当時の法に基づく不法行為があったとしても）戦前の国の行為には国家賠償法は適用されず、賠償責任は問えない」として退けた。

訴えていたのは、ルソン島出身のアモニタ・パラハディアさんらやパナイ島出身のトマサ・サリノグさん（ともら四十六人（このうち七人が提訴後に死亡）。

訴えによると、アモニタさんらは一九四二（昭和十七）年以降、フィリピンを占領した日本軍に連行、駐屯地に監禁されるなどして慰安婦にされた。現在も精神的後遺症の心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しんでいるという。

「苦痛に追い打ち」

原告側怒り

「私たちのつらい思いに追い打ちをかける判決」「日本政府は正義を無くしている」――。フィリピン人元従軍慰安婦訴訟の五人の原告は閉廷後、東京地裁の正面玄関前で敗訴判決にこぶしを振り上げ、涙を浮かべてやり場のない怒りをぶつけた。

判決言い渡しは、午前十時から同地裁民事一〇二号法廷で行われた。一般傍聴の八十席は、原告の支援者らで埋め尽くされた。

「原告らの各請求をいずれも棄却する」。市川裁判長が主文を読み上げた瞬間、傍聴席から悲鳴ともつかないどよめきが起こった。「ひどい」「恥知らず」。原告らは最初、内容を理解できずに当惑した表情を見せたが、通訳から説明を受けると涙をこわばらせた。

慰安婦訴訟

10.9.4.13

個人の直接請求権認めず

東京地裁 比女性の訴え棄却

太平洋戦争中、旧日本軍が占領していたフィリピンで「従軍慰安婦」とされ、性的暴力を受けたとして、フィリピン人女性四十六人（うち七人が死亡）が日本政府を相手に一人あたり二千万円、総額九億二千万円の損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁は九日、敗訴の下で日本軍がどのようなことをしたかの判断に入らないまま、元慰安婦側の請求を退ける判決を言い渡した。川端和治裁判長は「軍隊によって被害を受けた個人が直接、その軍隊の所属する国に損害賠償を求める権利を認めた国際慣習法が成立していたとは言えない」と述べた。

（22面に関連記事）

従軍慰安婦問題をめぐっては、一昨年と今年夏にまとめられた国連の特別報告官による報告書がいずれも、日本政府は元慰安婦個人が受けた被害を賠償すべきだと提案していた。今回の訴訟では、国際慣習法に基づいて被害者個人が国に補償を求めることができるのかどうかが最大の争点となり、国内の裁判所での司法判断が注目されていた。

この点について、元慰安婦側は、交戦国に占領地で「個人の生命」などを尊重することを求めた「ハーグ条約」が、「被害者個人の請求権を認める国際慣習法を成文化したものだ」と主張。「日本政府は被害を回復する義務がある」と訴えた。

これに対して判決はまず、「個人が被害を受けた相手の国に被害回復を直接求めるためには特別の国際法規範がなければならない」と判断。そのうえで、原告が請求の根拠としたハーグ条約について、「国家間の賠償責任を定めたもので、被害者個人が直接賠償請求をできるような権利を認めるものではない」と述べた。

98. 10. 9. 朝日

98.10.9. 産経（夕）

比女性46人の訴え棄却

慰安婦訴訟 東京地裁判決 損害賠償請求認めず

第二次世界大戦中、日本軍に連行され慰安婦をさせられたとして、フィリピン人女性四十六人が、国を相手に総額九億二千万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が九日午前、東京地裁であり、市川正巳裁判長は「原告の請求には理由がない」として請求を棄却した。原告側は控訴する方針。

従軍慰安婦訴訟の判決は、今年四月に山口地裁下関支部が原告の韓国人女性の請求を一部認めた「関釜裁判」に次いで二例目。

訴えていたのは、トマサ・サリノグさんら。訴えによると、サリノグさんは十三歳のとき、自宅に侵入して来た日本兵に父親を殺され、日本兵駐屯所近くの建物で、複数の日本兵の相手を連日させられたとしている。

原告側は、日本軍のこうした行為は、交戦国の住民に対する侵害を定めたハーグ条約に違反し、日本政府は補償措置を講じる必要があると主張していた。

市川裁判長は「個人に対して個人が被害回復を直接求めるには特別の国際法規範が必要」と述べ、「ハーグ条約で、そうした国際慣習法が成立していたとは認められない」として訴えを退けた。フィリピンや日本の民法に基づく請求が不法行為の時効主張についても「加害行為が仮に認められたとしても、国は戦前の賠償責任を負わないという原則により、不法行為として成立しない」と判断した。

原告は平成五年四月に第一次提訴したが、判決までに七人が死亡している。

◇

判決後会見したサリノグさんは「こんな判決がでるのなら訴えを起こすのではなかった。どうもって故郷に帰ればいいのか」と目頭を押さえた。原告弁護団も「事実認定に踏み込んでいない。旧来の国際法理論に基づいた時代の流れに逆行する判決」と批判した。

98.10.10. J.T. (1面) 1/2

Tokyo court dismisses sex slave suit, refuses to confirm alleged ordeals

The Tokyo District Court on Friday rejected claims by 46 former "comfort women" from the Philippines who were seeking compensation from the Japanese government for forcing them to provide sex for Japanese soldiers during World War II.

Presiding Judge Yoriaki Ichikawa of the Tokyo District Court dismissed the suit, invalidating the plaintiffs' argument that they are entitled to individual compensation based on international laws that regulated behavior of military forces at that time.

Eighteen of the plaintiffs filed the lawsuit in April 1993, while 28 others joined in five months later. They were demanding ¥20 million each in damages from the government for their mental suffering.

Lawyers for the plaintiffs said they will appeal the case to a higher court.

During the Imperial Japanese Army's wartime occupation of the Philippines, the troops abducted the women — many of whom were still teens at the time — confined them in local army posts and repeatedly raped them, according to the plaintiffs.

In the five years since the lawsuit was filed, seven of the plaintiffs, mostly in their late 60s and 70s, have died, according to their lawyers.

The ruling was the second out of six lawsuits filed against the government by victims of Japan's wartime sexual slavery. Plaintiffs include women from South Korea, the Philippines, China, the Netherlands and a Korean resident in Japan.

In contrast with the first ruling in April by the Yamaguchi District Court, however, Friday's Tokyo District Court decision was a total defeat for the plaintiffs.

The court refused to even confirm if the women suffered the damage they claim they did, supporting the defendant's argument that individual victims of war do not have a right to demand redress from a state.

In most of some 40 ongoing war compensation suits filed

CONTINUED ON PAGE 2

98.10.10. J.T. (2部) 2/2

Court vetoes sex slave compensation

CONTINUED FROM PAGE 1

against Japan by its foreign victims, Tokyo has refused to enter a plea on individual cases, asserting that individuals have no legal basis to seek governmental redress and invalidating the claims.

The government also has argued in court that it cannot be held accountable for Japan's actions under the Meiji Constitution, which did not have a law to compensate victims who suffered from illegal acts of the state.

Friday's ruling was in line with the government's stance.

The court also held that the plaintiffs' rights to seek redress had already expired under the Japanese Civil Code.

The ruling drew immediate protests from plaintiffs and their supporters.

"If I only knew this was the judgment (that was going to be) given to me, I wouldn't have wasted my time coming here," plaintiff Tomasa Salinog, 69, told a news conference soon after the ruling.

Salinog tearfully added that during the five years of proceedings, she endured the agony of having to recount her traumatic experience in court, only in vain. "I have put in so much effort . . . We can't accept the decision."

The plaintiffs' lawyers had based their claims on international treaties as well as domestic laws of the Philippines and Japan, including the Hague Convention of 1907. In an attempt to establish the government's obligation to pay damages to the victims based on the convention, the lawyers called a Dutch legal expert to the courtroom.

Frits Kalshoven, professor emeritus at the University of Leiden, testified in June last year that Article 3 of the convention clearly implies, although it does not spell out, that individuals have the right to be compensated by nations whose military forces have violated rules of war.

The plaintiffs' lawyers also presented papers written by a Filipino clinical psychologist that said the women continue to suffer from post-traumatic stress disorder because of their wartime experience.

Indai Lourdes Sajor, international liaison officer for Malaya Lolas, a group for victims of rapes and sexual slavery by wartime Japanese soldiers, also expressed disappointment that the court did not touch on the specific sufferings of the victims.

"I was hoping for at least a profound indictment — that it (the court) would recognize rape as a war crime," Sajor said. "It really is a travesty of justice."

SUPPORTERS FLANK two former Philippine "comfort women" — Tomasa Salinog (second from left) and Amonita Balajadia (second from right) — Friday morning as they enter the Tokyo District Court to hear a ruling on their suit against the state over their wartime sexual enslavement. TOSHIKI SAWAGUCHI PHOTO

The first comfort women ruling, handed down in April by the Yamaguchi District Court's Shimonoseki branch, partially acknowledged claims of Korean victims.

The Yamaguchi court awarded ¥300,000 each to three former sex slaves, saying the government neglected its constitutional duty to seek the enactment of a law awarding compensation despite its 1993 admission of responsibility for the wartime abuses.

Philippine victims of sexual slavery and their supporters were divided into two camps in 1996 amid a controversy over the Japanese government-initiated Asian Women's Fund.

A group of comfort women and their supporters expressed their opposition to the semi-private fund, saying the fund is part of Japan's attempt to cover up its war responsibility.

The fund, established in July 1995, offered a one-time solatium of ¥2 million to each of about 300 former sex slaves in the Philippines, South Korea and Taiwan, although the money is not legal compensation since it was raised from private individuals.

Of the 46 Philippine plaintiffs, 24 have accepted money from the fund, according to supporters of the women.

新聞記事

①

～金大中大統領訪日関係～

98.9.5. 朝日（夕）

金大統領

慰安婦問題は日本政府の責任

女性基金を批判

韓国の金大中大統領が「（従軍）慰安婦問題は日本政府の責任で日本国民の責任ではない」とし、「女性のためのアジア平和国民基金」（アジア女性基金）による償い金の支給について「事の本筋をすり替えることになる」などと厳しく批判、日本政府が自主的に国家賠償することを望んでいることがわかった。金大統領自らの発言として、アジア女性基金への反対が日本側に明確にされるのは初めて。

金大中大統領

岩波書店の岡本厚・「世界」編集長のインタビューに答えたもので、九日発売の同誌十月号に掲載される。

金大統領は、独裁政権下での民主化闘争の中で「世界」の「韓国からの通信」などの記事に大きく励まされたとして、ソウルの官邸で岡本編集長の会見に応じた。

金大統領は十月の訪日を前に、焦点となっている「過去の清算」の意味について、「まず日本が自ら過去を反省し、清算する。そして韓国が、それを受け入れ、韓国もまた過去を清算すること」とし、そのためには両国の歴史家による共同研究によって共通の歴史認識を持つことだと話している。

特にアジア女性基金から支給される元慰安婦への償い金については「われわれはハルモニたちが受け取るのに反対した。（日本の）国民からお金をもらう筋合いがない」「事の本質からして間違っている」と表明。「九六五年の日韓条約で解決済みとの日本政府の姿勢に対しても「法律的に言えば、そのように解釈することもできるでしょう」としつつ、国連人権小委員会での議論もひき、日本がこのまま賠償しなければ、「国連の場でも、さらに問題になる。世界の常識がどう見るかということです」と話した。

日本の慰安婦への賠償を望む

金大統領 「世界」誌と会見

金大中大統領は軍隊慰安婦問題に関して、日本政府の自主的な国家賠償を望んでいることを強く示唆した。

金大統領は8日に発行される時事月刊誌「世界」の10月号に載せられる岡本厚編集長との会見で、「日本政府は慰安婦問題が法律的には65年の国交正常化条約で全て解決されたと主張しているが、法律の解釈で済むというものではない」とし、「国連人権委員会が日本政府の責任と賠償を取りあげたことがその根拠であり、このまま放っておけば国連等の国際舞台で一層問題となるであろう」と指摘した。

金大統領は韓日両国の過去清算問題について「日本の自発的な清算が足りなかったため、戦後の日本の肯定的な面について韓国国民が十分に理解できずにいる」と語り、「本当の意味での韓日間過去清算は、まず日本が自らの過去を反省して清算し、韓国がこれを受け入れ清算することである」と付け加えた。

(韓国日報 9月 8日 2面)

"日, 위안부 배상 희망"

金대통령 세카이誌회견

【도쿄=황영식특파원】 김대중(金大中)대통령은 군대위안부 문제와 관련, 일본정부의 자주적인 국가배상을 바라고 있음을 강력히 시사했다.

김대통령은 8일 발행되는 시사월간지 「세카이(世界)」 10월호에 실린 오카모토 아쓰시(岡本厚)편집장과의 회견에서 『일본 정부는 위안부문제는 법률적으로는 65년 국교정상화 조약으로 모두 해결됐다고 주장하고 있지만 법률 해석으로 문제가 끝나는 것은 아니다』면서 『유엔 인권위원회가 일본 정부의 책임과 배상을 거론한 것이 그 증거로 그대로 두면 유엔 등 국제무대에서 더욱 문제가 될 것』이라고 지적했다.

김대통령은 한일 양국의 과거청산 문제에 대해 『일본의 자발적인 청산이 부족했던 때문에 전후 일본의 긍정적인 면에 대해 한국 국민이 충분히 알지 못하고 있다』면서 『진정한 한일 과거청산은 우선 일본이 스스로 과거를 반성하고 청산하면 한국이 이를 받아 들이고 과거를 청산하는 것』이라고 밝혔다.

"위안부는 日정부 책임 「민간돈」 받을 이유 없어"

金대통령 발언

【東京=李濟기자】 김대중 대통령은 「일본군 위안부」 문제는 일본정부의 책임이지, 일본국민의 책임이 아니며 따라서 여성기금이란 민간기구의 돈을 받을 이유가 없다고 밝혔다.

김 대통령은 최근 일본의 진보적 월간지 「세카이(世界)」와 가진 회담에서 이같이 말하면서 민간인 돈을 받는 것은 사안의 본질을 바꾸어놓는 것이라는 견해를 밝혔다.

"慰安婦は日本政府の責任、「民間の金」を受け取る理由がない"

金大統領　発言

金大中大統領は日本の進歩的月刊誌「世界」との会談で「日本軍慰安婦」問題は日本政府の責任であって日本国民の責任ではなく、従って女性基金という民間機構の金を受け取る理由がないと語った。

金大統領はまた、「そのような金を受け取ることは事案の本質をすり替えることになる」との見解をも表明した。

（朝鮮日報　9月　8日　2面）

98.9.9. 毎日

ニュースポックス

●元慰安婦問題にメドを

野中広務官房長官は8日午後の記者会見で、韓国の金大中（キム・デジュン）大統領が雑誌「世界」のインタビューで、アジア女性基金から支給される元慰安婦への償い金を「（日本の）国民からお金をもらう筋合いがない」などと批判していることに対し「関係者の承知を編め、ぜひ、金大統領訪問時にこういう問題もそこを来さないようにしたい」と述べ、大統領の来日を機に元慰安婦問題などに一定のメドを付けたいとの考えを示した。

●女性交流の新たな出発に

金大中韓国大統領夫人の李姫鎬（イ・ヒホ）さんは8日、来月7日からの訪日を前に、韓国を訪問中の毎日新聞などの日本女性記者団と会見し「この訪日が過去の歴史を清算し、女性同士の交流などを通じて新たな歴史の出発となることを期待する」などと語った。李さんは、軍事独裁政権への金大統領の民主化闘争を支える一方、韓国の女性の地位向上に努力してきた人物としても知られる。【ソウル・大道寺瑞子】

●民主党が衆院裏対

民主党は8日の常任幹

済報告関係閣僚会議。9時閣議。23分宮沢喜一蔵相、高村正彦外相、中川昭一農相、与謝野馨通産相、野中広務、鈴木宗男、上杉光弘、古川貞二郎正副官房長官。52分亀相官邸。55分太田誠一総務庁長官、古川官房副長官。10時38分谷公士郎政務次官。55分大原一三百長党衆院議員。11時28分カーパー金米州知事会議長。登録一郎内閣外政審議室長同席。

午後1時18分小坂憲次自民党衆院議員。2時金守漢韓日親善協会中央会会長ら。三塚博日韓親善協会中央会会長、遠藤利明日韓親善協会中央会会長同席。3時15分野中官房長官。33分与謝野馨通産相、広瀬勝貞通産省機械情報産業局長。51分比叡鉄也前沖縄県名護市長。野中、鈴木正副官房長官同席。4時金瑞鎬韓国国会副議長。外政審議室長、阿南惟茂外務省アジア局長ら同席。25分外政審議室長、阿南アジア局長。36分佐藤行雄国連大使。41分田島高志前カナダ大使。44分井植敏三洋電機会長。5時コンピューター西暦2000年問題に関する閣僚会議。7分同会議を逐中退席。25分上杉官房副長官。30分同会議に戻る。8時29分鈴木副長官。45分公邸。

98.9.9. 読売

韓国大統領来日までに打開模索

「償い金」で官房長官

野中官房長官は八日夕の記者会見で、韓国の金大中大統領が、日本の「女性のためのアジア平和国民基金」（アジア女性基金）による元日本軍従軍慰安婦への「償い金」支給事業を批判していることについて、「こういう問題で齟齬をきたさない方向を求めていきたい」と述べ、来月の大統領訪日までに打開策を目指す考えを明らかにした。

慰安婦問題で再検討を示唆

野中官房長官

野中広務官房長官は八日の記者会見で、韓国の金大中大統領が雑誌インタビューで元従軍慰安婦問題を日本政府に責任があると述べていることに関連して「（十月に）大統領がお越しになられた時に、この問題で齟齬をきたさないような方向を求めていきたい」と述べた。

国民からの募金形式で進める「女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）」が支給する償い金に、「日本政府には法的責任がある」として韓国政府は反対している。同長官の発言は、現行の基金方式で解決を目指す政府の方針を再検討する考えを示したものだ。

98.9.9. 朝日

今回こそ過去清算し同等の立場で協力を

韓国大統領夫人、来日控え会見

【ソウル8日＝岡本峰子】韓国の李姫鎬大統領夫人は八日、ソウルの大統領府で日本人記者団と会談し、来月七日に控えた訪日や国内の女性問題などについて答えた。金大中大統領とともに来日する予定の李さんは「今回の訪問は過去にあった首脳会談とは違う。今回こそ過去の困難すべてを清算し、新しい出発のきっかけになってほしい。北東アジアの平和をともに実現するため、同等の立場で協力しあえるようになることを期待している」などと戦後問題解決への期待を込めた。

李さんは、東京での拉致事件や死刑判決など民主主義を求めて死線をくぐり抜けた金氏を支えた感想について「信仰心を支えに苦難を克服したなどと話した。

また来日やサッカーの2002年ワールドカップ（W杯）の日韓共催などを控えた両国の友好のためには、草の根的な交流が必要だと強調。「女性、青少年、経済など各方面、専門分野で相互交流を進めれば、異なる立場を理解しあえるようになる」と交流の活発化への期待を述べた。

の破たん処理への考え方をまとめた「金融再生問題に関する基本方針」を発表した。日本長期信用銀行の公的資金投入については、政府・自民党の金融再生関連

98.9.10. 産経

慰安婦問題

政府従来見解を強調

野中官房長官 基金に理解を求める

野中広務官房長官は九日の衆院内閣委員会で、韓国政府が元慰安婦に対する「アジア女性基金」からの償い金（一時金）支給に反対し、国家賠償を求めている問題について、「わが国としてさきの大戦に対するサンフランシスコ講和条約、日韓基本条約で賠償請求権は解決していると認識している」と述べ、請求権問題は解決済みとの政府見解を堅持する考えを強調した。

そのうえで、「政府として基金の性格について金大中（キム・デジュン）大統領が来日する前に理解を深めてもらう努力をしていきたい。訪日した際、できるだけ組語（そご）のないようにしたい」と述べ、基金の事業について韓国側の理解を求める考えを示した。民主党の佐々木秀典氏の質問に答えた。

野中長官は八日午後の記者会見で、韓国の金大中大統領が日本の月刊誌とのインタビューで元慰安婦に対する「日本政府としての措置」を求める発言をしていることについて、「そういう記述があるのは承知している。大統領が来日する前に、先般訪韓した日韓議員連盟の感触をききながら関係者の衆知を集め、大統領が来日したと巷に組語をきたさない方向を求めていきたい」と述べていた。

この発言については、政府部内からも「本当だったら、日韓三十年の基本的立場を変えることになる」（首相周辺）との懸念が出ていた。

98.9.11. 読売〈夕〉(2面)

「天皇」の呼称を使用へ

韓国政府、「日皇」に替え

【ソウル11日＝伊藤彰浩】韓国大統領府スポークスマンは十一日、韓国政府がこれまで、日本の「天皇」を指すために国内的に用いてきた呼称「日皇」の使用をやめ、今後は国内でも「天皇」の呼称を用いる方針を明らかにした。

金大中大統領の訪日日程を発表した会見で新たな立場を示したもので、同スポークスマンは、呼称変更の理由について「相手国の呼称をそのまま使う外交慣例に従った」と説明した。

韓国内では八〇年代、在日韓国人の掲揚をめぐる問題などをきっかけに、過去の植民地時代を想起させる「天皇」の呼称をとりやめようという論議が巻き起こり、以後、マスコミなどの間では「日皇」「日王」などの呼び方が多く用いられてきた。

韓国大統領の来日を閣議決定

政府は十一日の閣議で、韓国の金大中大統領を十月七日から十日までの四日間、国賓として迎えることを決定した。金大統領は小渕首相と首脳会談を行うほか天皇、皇后両陛下と会見する。大阪の地方視察も予定している。

【ソウル11日＝伊藤彰浩】韓国大統領府は十一日、金大中大統領の日本公式訪問日程を発表し、小渕首相と行う首脳会談で、「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップのための共同宣言」を発表する予定であることを明らかにした。

98.9.12. 毎日

ちょっとひとこと

● 大沼　保昭

10月に訪日する韓国の金大中（キムデジュン）大統領が、「世界」10月号でインタビューに答えている。その中で金大統領は、①日韓双方が勇気をもって歴史を見つめるべきだ②韓日が最も近い国だという事実を認識すべきだ③友人となるための交流が必要だという3点を日本国民へのメッセージとしている。

これは両国のほとんどの人が問題するだろう。問題は、それなのに日韓の和解が遅々として進まないという点にある。右の3点の内容と前提につき両国間に齟齬（そご）があるからである。

①②については、1980年代前半まではともかく、それ以降の日本はかなりの努力をしてきた。教科書での朝鮮・韓国の扱いにせよ、マスコミの韓国報道にせよ、むろん完全とはいえないにせよ、ずいぶん改善された。現在の日本の教科書の朝鮮・韓国の扱いは韓国の教科書の日本の扱いよりはるかに多面的であり、公平である。在日韓国人の処遇も、指紋押捺（おうなつ）の撤廃など、80年代以降かなり改善された。

● 金大統領来日と日韓の和解

問題は、こうした日本の改善の努力と成果が十分韓国側に伝えられていないことにある。そのため、韓国の日本批判には、植民地支配責任を認めない日本という過去のイメージと韓国自身の反日教育に基づく一方的なものが少なくない。この点は、日韓の文化・教育交流に尽くしてきた上田正昭・鶴沢法暎教授も「世界」で指摘している。

こうした雰囲気の中では、日本国民の善意も素直な形で伝わりにくい。たとえば、金大統領はアジア女性基金を通じた元「慰安婦」への日本国民の償いを、「慰安婦」問題は日本政府の責任であって国民の責任でない、と否定的にとらえている。

しかし、日本は国民主権の国である。「妄言」を吐いて閣僚を辞任する責任は、日本国民が選んだ人たちである。女性基金に拠金した多くの国民はこの責任を感じて、政府には明確な謝罪と政府の補償を求めつつ、せめてもの償いとして拠金してきたのである。

日韓首脳会談では歴史認識の問題が一つの柱となるだろう。フィリピンでは、法的な請求は維持しつつ日本国民の償いの気持ちと総理のお詫（わ）びの手紙は受け取るという解決が実現した。両首脳は、どのような形であれ韓国の犠牲者への日本国民のお詫びと償いの気持ちが素直な形で韓国民へ届く解決を探ってほしい。（東大教授・国際法）

過去史 털고 21세기 동반관계 논의

金대통령 訪日 의미-현안

다음달 7일로 예정된 김대중(金大中) 대통령의 국빈 방일(訪日)은 식민지배와 과거사문제 등으로 얼룩진 20세기 양국관계를 정리하고 새로운 21세기를 연다는 보다 자세의 진실성이 거친한 역사적 의미를 내포하고 있다. 양국 정상은 「21세기를 향한 새로운 한일 파트너십을 위한 공동선언」이라는 새로운 협력원칙을 천명할 계획이다. 이 선언에서 한국은 일본의 과거사 반성이 진지하고 성실한 정부 이를 수용하고, 일본이 전후(戰後) 보여준 모범적인 성과들을 평가할 예정이다. 그러나 이번 「잔치」는 미래를 위해서는 넘어야 할 한일 현안이 많다.

◆과거사 문제=김 대통령은 「지금까지의 반성은 분명히 이뤄 각서」 서명 연결을 강조할 때, 모두 보류한 상태로 「제네바회의」가 위험하고 있는 바 한국이 「반성은 논 형식이다. 특별한 실질적 대가도 없이 일본을 한미가 마련한 대북 포용정책의 틀에 끌어들이는 것이 절대 공식하고 있는 것이 아니다.

해 공식하고 있다. 그러나 「지금까지의 반성은 분명히 이뤄 각서」 서명 연결을 강조할 때, 모두 보류한 상태로 「제네바회의」가 위험하고 있는 바 한국이 「반성은 논 형식이다. 특별한 실질적 대가도 없이 일본을 한미가 마련한 대북 포용정책의 틀에 끌어들이는 것이 절대 공식하고 있는 것이 아니다.

◆안보협력=최근 북한(조선)의 잠수정 침투 사건 등 일본 내외의 발사체 문제로 악화된 일본여론은 햇볕정책 옹호 펴는 한국정부에 큰 부담이다. 당장 「정수로 계가 걸린 문제여서 실무협상이 쉽지는 않다. 그러나 양국은 외무장관 회담과 의원외교 등을 통한 「정치적 빅딜」을 통해 최종 결단을 내려 방에 전향적인 자세를 취해왔다. 지난 4월 일본 언론인들에게 북한 정상은 공해 연화 합동안정을 한 말도 했다. 그러나 국내 문화인들은 국내 일본 정부 노력도 요청 대중 남치사건 등=지금까지 일본은 한번도 방한한 적이 없다. 이번에 「진지한 초청」을 고려중이지만 일본의 적절한 사과 문제 등을 강조할 때, 실현되기 쉽지 않아 보인다. 73년 「동경납치사건」 문제에 대해 김 대통령은 피해당사자로서 진실규명을 위한 진상공개를 요구할 수 있으나, 외교적 마찰성 때문에 신중한 문제제기는 없을 것이라는 전망이다.

이밖에 양국 정부는 「파트너십」에 따른 실천방안에도 정성을 들이고 있다. 문화 예술 청소년 교류 등에 대한 구체적 실천계획을 마련키 위해 논의를 진행중이다. 양국은 2년 국 ■ 권 ■

◆경제협력=우리 정부는 30억달러 추가지원을 요청할 계획이지만 일본 의견은 반반이지만 정부가 국민을 설득하면 해 줄 것이라는 전망이다. 투자 확대와 경제리라 기대한다는 입장이다. 투자 확대와 경제리라 기대한다는 입장이다.

◆언론협력=최근 한일 축구 월드컵 예선 관계를 「라이벌」로 인한 의 고민이다.

◇김대중 대통령과 부인 이희호 여사가 11일 경주 보문단지에서 열린 경주 문화엑스포 개막식에 참석해 꽃다발을 받고 있다. <청와대사진기자단>

민족할 「반성」 쉽지 않을듯

실무협상보다 「정치적 빅딜」 모색 어업협정

「진지한 초청」 고려… 실현 미지수 日 방한

金대통령, 내달 7일 訪日

① 정상회담서 「21세기 새 파트너십」 선언

김대중(金大中) 대통령은 내달 7일 부인 이희호(李姬鎬) 여사와 함께 3박 4일 일정으로 일본을 국빈 방문한다고 박지원(朴智元) 청와대 대변인이 11일 발표했다. ▼관련기사 3면

취임후 처음으로 일본을 방문하는 김 대통령은 7일 도쿄에서 아키히토(明仁) 일왕(日王)을 면담하고, 8일 오부치 게이조(小渕惠三) 총리와 정상회담을 갖는다.

양국 정상은 회담후 「21세기를 향한 새로운 한일 파트너십을 위한 공동선언」을 발표하고, 양국 외무장관은 이를 실천적으로 뒷받침할 「행동계획(ACTION PLAN)」을 발표할 것이라고 청와대 관계자는 전했다.

김 대통령은 또 일본 국회에서 연설하고(8일), 일본 경제단체가 공동으로 주최하는 오찬 간담회에 참석하며 오사카(大阪)를 방문한다.

공식수행원은 홍순영(洪淳瑛) 외교통상 박태영(朴泰榮) 산업자원 김선길(金善吉) 해양수산 부장관, 김석규(金錫圭) 주일대사 내외, 한덕수(韓悳洙) 특사교섭본부장, 청와대의 강봉균(康奉均) 경제 임동원(林東源) 외교안보 박지원(朴智元) 공보수석, 김하중(金夏中) 의전비서관, 정덕구(鄭德龜) 재경부 차관, 문봉주(文鳳柱) 외통부 아태국장 등 12명이다.

<洪淳浩기자·hong@chosun.com>

金大統領、来月7日に訪日

首脳会談で「21世紀の新パートナーシップ」を宣言

金大中大統領が来月７日に婦人を伴って３泊４日の日程で日本を国賓訪問すると、パク・チウォン青瓦台スポークスマンが１１日に発表した。

就任後初めて日本を訪問する金大統領は７日に東京で明仁日王（ママ）に面談し、８日午後に小渕恵三総理と首脳会談を持つ。

両国首脳は会談後「２１世紀に向けて新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」を発表し、両国の外相はこれを実践的に後押しする「行動計画（ACTION　PLAN)」を発表すると青瓦台関係者が伝えた。

また、金大統領は日本の国会で演説し（８日）日本の経済団体が共同で主催する昼食会に参席し、大阪を訪問する（後略）

（朝鮮日報　９月　１２日　１面）

過去史を精算し、21世紀の同伴関係を論議

金大統領訪日の意味・懸案

満足できる「反省」易しくはなさそう（過去史処理）

来月７日に予定されている金大中大統領の国賓訪日は、植民侵奪と過去史問題等で停滞している２０世紀の両国関係を整理して新しい２１世紀を開くという大きな歴史的意味を掲げている。両国首脳は「２１世紀に向けての新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」という新しい協力原則を明らかにする計画である。この宣言で韓国は日本の過去史反省が真摯で誠実な場合はこれを受容し、日本が戦後に見せてきた模範的な成果を評価する予定である。しかし、このような「バラ色の未来」のためには乗り越えねばならない懸案が多い。

▲過去史問題＝金大統領は「歴史共同研究を通して真実を把握することが根本的な解決策」であると強調してきた。形式よりは姿勢の真実性が重要だという立場である。日本もこのような脈略で適切な表現の模索に苦心している。しかし、「今までの反省で十分である」という日本国内の世論を勘案すると誰もが満足する「反省」は決して易しくはない様相である。韓国政府も「発言自体よりも国民の説得がより重要だ」という認識で、国民の説得に苦心していると伝えられている。

（中略）

▲日本文化の開放＝金大統領は日本文化の輸入開放に転向的な姿勢をとってきた。去る４月に日本のマスコミに「国民の意見は半々であるが、政府が国民を説得すれば解決されることと期待する」とも語った。しかし、文化人らは国内の文化製品市場が日本製に占領されてしまうことを憂慮し、強い反対の立場を見せている。

（後略）

（朝鮮日報　９月　１２日　３面）

①

김대중대통령 내달 7일 訪日

김대중(金大中)대통령은 다음달 7일부터 10일까지 3박4일간 일본을 국빈방문한다고 박지원(朴智元)청와대 대변인이 11일 발표했다. 김대통령은 방일중 아키히토(明仁)천황을 면담하며, 오부치 게이조(小淵惠三)총리와 정상회담을 갖는다. ★관련기사 5면

김대통령은 오부치총리와의 정상회담에서 한·일어업협정 개정문제 및 불행했던 과거사 정리 등 양국간 현안을 일괄 타결하고 미래지향적 우호협력관계를 천명하는 「21세기를 향한 새로운 한·일 파트너십을 위한 공동선언」을 채택할 예정이다.

양국은 이 공동선언에서 일본정부가 과거 한국국민에게 고통을 준데 대해 진심으로 사과하고 그같은 불행한 일이 재발되지 않도록 마음속 깊이 다짐한다는 내용을 담기로 합의한 것으로 알려졌다. 김대통령은 귀로에 오사카(大阪)를 방문, 일본 간사이(關西)지역의 주요 단체가 공동으로 주최하는 만찬에 참석하고 재일동포들을 만날 계획이다. /유승우기자

③

日, 戰時 만행실태 규명 초당파 의원聯 곧 발족

【도쿄=연합】 태평양 전쟁중 일제가 저지른 만행의 실태를 조사할 「진상규명법」의 제정을 목적으로 하는 일본의 초당파 의원연맹이 이달 하순 발족할 것이라고 교도통신이 15일 보도했다.

「진상규명법」은 아시아 주변국과의 신뢰 구축을 위해 ▲국회도서관에 항구평화국을 신설하고 ▲구 내무성과 의무성 등에 묻혀 있는 자료를 발굴, 진상을 밝히는 것 등을 골자로 하고 있다.

②

한·일史 '얽매이지 않고 풀어쓴다'

김대중(金大中)대통령은 다음달 7일 시작되는 일본 국빈 방문을 통해 양국관계를 근본적으로 다시 자리매김하겠다는 강한 의욕을 갖고 있다. 한일관계는 「포괄적 방식」으로 해결해야 한다는 게 김대통령의 지론이다. 김대통령은 4월 런던에서 열린 아시아·유럽정상회의(ASEM)에서 하시모토 류타로(橋本龍太郎)당시 일본총리와 가진 정상회담에서 이같은 뜻을 전했었다. 「양국은 국교정상화 이후 33년간 상호협력은 있었지만, 이해와 우정이 증진되지는 않았습니다. 격의없이 얘기하고 후손들이 진정한 우호

金대통령 내달 방일 의미

과거사 매듭 '21세기 공동선언' 채택

안보·漁協·문화개방등 포괄적 해결

친선을 나눌 수 있는 역사적 계기를 만들고 싶다는 생각입니다」

여기에는 먼저 「원초적인 신뢰」가 구축되지 않는 한 어업협정이든, 안보협력이든 개별적 현안의 해결은 무의미하다는 생각이 담겨 있다. 이를 위해 김대통령은 일본측이 과거 청산과 관련한 「선행조치」를 취해줄 것을 촉구해왔다. 우리측으로서도 2차대전 이전의 일본과 구분, 평화를 지향해 온 「전후(戰後) 일본」을 재평가하기 위해 적극적인 노력을 기울이겠다는 것이다.

한일간 교감의 결과는 정상회담에서 채택될 「21세기를 향한 새로운 한일 파트너십을 위한 공동선언」이다. 선언에는 과거사가 더 이상 관계발전의 장애가 되지 않도록, 역사 문제에 대한 양국의 인식을 명확히 표명하기로 했다. 양국은 이어 외무장관 회담에서 선언이 명시한 협력원칙을 구체화하기 위한 30여개 항목의 행동계획(ACTION PROGRAM)도 채택할 예정이다.

한일 공동선언은 우리 외교사상 최초의 포괄적 협력문서라는 의미가 있다. 하지만 과거 문제의 표현을 놓고는 진통이 계속되고 있다. 사과, 「통석(痛惜)」의 념(念)등 일본측의 일방적 의사표시가 아니라 합의된 인식을 담을 것인만큼 교섭이 쉽지 않고, 일본측 인식이 우리측 기대에 미치지 못하고 있다는 전언이다. 청와대도 김대통령의 일본 의회연설, 가자회견문 작성을 위해 일본 지역에서 여론조사를 실시키로 하는 등 신중을 기하고 있다. 김대통령의 이번 방일에서는 또 최근 불거진 안보협력 문제도 함께 어업협정, 일본 대중문화 개방, 일본천황의 방한 여건 조성 등 현안을 일괄타결하는 계기가 될 것으로 전망된다.

/유승우기자

①

金大統領、来月7日に訪日

首脳会談で「21世紀の新パートナーシップ」を宣言

金大中大統領は来月7日から10日まで3泊4日間日本を国賓訪問すると、パク・チウォン青瓦台スポークスマンが11日に発表した。金大統領は訪日中に明仁天皇（ママ）に面談し、小渕恵三総理と首脳会談を持つ。

金大統領は小渕総理との首脳会談で韓日漁業協定改定問題、及び不幸な過去史の整理等、両国間の懸案を一括して妥結させ未来志向的な友好協力関係を明らかにする「21世紀に向けて新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」を採択する予定である。

両国はこの共同宣言に日本政府が過去に韓国国民に苦痛を与えたことに関して心から謝り、あのような不幸なことが再発することのないよう強く心に留めるという内容を盛り込むことで合意したと伝えられている。（後略）

（韓国日報　9月　12日　1面）

②

韓・日史「縛られず解きほぐす」

金大統領訪日の意味
過去史に決着「21世紀共同宣言」採択
安保・漁協・文化開放等、包括的な解決

金大中大統領は来月7日からの日本への国賓訪問で、両国関係を根本的に解決させるという強い意欲を示している。韓日関係は「包括的な方式」で解決しなければならないというのが金大統領の持論である。金大統領は4月にロンドンで開かれたアジア・ヨーロッパ首脳会議（ASEM）における橋本龍太郎（当時）首相との首脳会談で次のように表明した。「両国は国交正常化以後33年間、相互協力はあったが理解と友情は深められなかった。お互いわだかまりなく話し合い、子孫が本当の意味での友好親善を深められるような歴史的契機を作りたい。」

これにはまず「根元的な信頼」が築き上げられない限り、漁業協定であれ安保協力であれ個別的な懸案の解決は無意味だという考えが込められている。このため金大統領は日本側が過去の清算と関連した「先行処置」をとることを促してきた。我々の側でも2次大戦以前の日本と区分して、平和を志向してきた「戦後日本」を再評価するために積極的な努力をするということである。

韓日間での交感の結果は首脳会談で採択される「21世紀に向けた新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」である。宣言では過去史がこれ以上関係発展の障害とならないよう、歴史問題についての両国の認識を明確に表明することにした。両国は続いての外相会談で、宣言が明示した協力原則を具体化するために30余項目の行動計画（ACTION　PROGRAM）も採択する予定である。

韓日共同宣言はわが国の外交史上最初の包括的協力文書という意味がある。しかし、過去問題の表現においては陣痛が続いている。お詫び、「痛惜の念」等、日本側の一般的な意思表示ではなく合意された認識を盛り込んだものであるほどに交渉が容易ではなく、日本側の認識が我々の期待に達していないとのことである。青瓦台も金大統領の日本議会での演説、記者会見文作成のために日本地域で世論調査を実施するなど、慎重を期している。また、金大統領のこのたびの訪日は、最近再び声のあがってきた安保協力問題とともに漁業協定、日本の大衆文化の開放、日本天皇の訪韓与件の整備等、懸案を一括して妥結させる契機となることが展望される。

（韓国日報　9月　12日　5面）

98.9.16. 読売

慰安婦問題再び火種？

女性基金の「償い金」は事の本筋をすり替える

来日控え韓国大統領発言

来月七日からの金大中韓国大統領の来日を控え、アジア女性基金による元日本軍従軍慰安婦への「償い金」支給に金大統領が異論を唱えたことが、政府内で波紋を呼んでいる。小渕首相との初顔合わせとなる今回の来日を「未来志向の日韓関係構築」を改めて確認する機会と位置づけている政府としては、慰安婦問題が日韓両国間の火種として再燃することを懸念している。

金大統領の発言は、月刊誌「世界」十月号に掲載されたインタビューでのもので、「慰安婦問題は日本の政府の責任で日本の国民の責任ではない。だから、国民からお金をもらう筋合いはなく、そういうものをもらえば事の本筋をすり替えることになる」と指摘した。

金大中大統領

慰安婦問題を含む戦後補償問題は、一九六五年の日韓条約で「道義的責任はあるが法律的には解決済み」というのが政府の基本的立場。このため、九〇年代に入ってから慰安婦問題が日韓両国間で問題となったのを受け、九五年からは、一般国民の寄付金で元慰安婦らに補償する女性基金に対し、政府も事務経費負担などで全面支援し、間接的に「道義的責任」を果たす、という形を取っている。

今のところ、金大統領の発言に対して韓国国内に大きな反響が見られないこともあり、日本側は「女性基金自体を否定したものでも、日本政府に補償を求めるものでもなく、六五年の日韓条約を根本から覆そうというものでもない」（外務省筋）と受け止めている。

日韓両国間には、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）のミサイル発射問題を受けて、北朝鮮に共同で対処する上での密接な連携を確認する、という差し迫った課題もある。このため、「できれば女性基金問題は首脳会談の議題にはしたくない」（首相周辺）というのが本音で、こうした点も、とりあえず静観する姿勢につながっているようだ。

ただ、韓国政府は金泳三・前大統領時代から、女性基金を批判し、元慰安婦約四百人に対して女性基金からの支給を受けないよう呼びかけている。このため、金大統領が首脳会談で、何らかの形で慰安婦問題に言及する可能性は否定できない。

野中官房長官は「大統領が来日した時に、この問題で双方が組織をきたさないようにしたい」（八日の記者会見）と強調しており、当面は水面下で韓国側の出方を探る形となりそうだ。

③

日　戦時の蛮行の実体究明に超党派議員連がまもなく発足

太平洋戦争中日帝が繰り広げた蛮行の実態を調査する「真相究明法」制定を目的とした日本の超党派議員連盟が今月下旬に発足すると共同通信が１５日に報道した。

「真相究明法」はアジア周辺国家との間に信頼関係をを築くために▲国会図書館に恒久平和局を新設し▲旧内務省と外務省等に埋もれている資料を発掘、真相を明らかにすることなどを骨子としている。

（韓国日報　９月　１６日　国際面）

●인터뷰——유엔 前인권위원장 보벤 교수

"日은 위안부문제 잘못 인정해야"

유엔 인권위원장을 역임한 데오 반 보벤(64) 네덜란드 마스트리히트대 교수가 유엔 인권선언 50주년을 기념해 국회 헌정기념관에서 열린 「아시아의 여성인권:무력갈등과 성폭력」 세미나 참가차 한국을 찾았다. 그는 지난 92년 유엔 인권위원회 특별보고관으로 제출한 「중대한 인권 침해 피해자에 대한 배상기준」이란 보고서로 유명한 인물. 이 자료는 「위안부」에 대한 배상 책임을 지적한 UN보고서에 큰 영향을 미쳤다.

『거듭되는 국제사회의 지적에도 일본이 「위안부」 문제에 너무 늦게, 너무 적게 반응을 보이고 있는 것이 유감입니다. 일본 정부나 양식있는 시민들이 솔직히 과거 잘못을 인정하는 것이 필요하며, 유엔은 이를 촉구하는 역할을 할 수 있을 것입니다.』

1962년 유엔 인권위를 시작으로 30여년간 유엔에서 활동해온 반 보벤 교수는 『네덜란드도 2차 대전때 독일에 점령돼 갖은 고초를 겪었지만, 전후(戰後) 독일이 사죄와 배상에 적극 노력했기 때문에 우호적 관계를 갖게 됐다』며 위안부 문제의 조속한 해결을 다시한번 강조했다. 2000년 세워질 상설 국제형사재판소에도 깊이 관여하고 있는 반 보벤 교수는 『인권을 위해서는 사후 처리를 담당하는 국제형사재판소도 필요하지만, 사전에 무력분쟁을 예방하는 노력이 무엇보다 중요하다』고 강조했다. <李先敏기자·smlee@chosun.com>

インタビュー―国連前人権委員長　ボーベン教授

「日本は慰安婦問題で過ちを認めなくては」

国連人権委員長を歴任したデオ・バン・ボーベン教授（蘭・マーストリヒト大）が、国連人権宣言５０周年を記念して国会の憲政記念館で開かれる「アジアの女性人権：武力問題と性暴力」セミナー参加のために韓国を訪れた。彼は去る９２年に国連人権委員会の特別報告官として提出した「重大な人権侵害被害者に対する賠償基準」という報告書で有名な人物。この資料は慰安婦について賠償責任を指摘したUN報告書に大きな影響を与えた。

「繰り返される国際社会の指摘にも拘わらず、日本が「慰安婦」問題にあまりにも遅く、小さな反応しか見せないことは遺憾である。日本政府や良識のある市民が率直に過去の過ちを認めることが必要であり、国連はこれを促す役割を果たすことができるであろう。」

１９６２年、国連人権委を振り出しに３０年あまり国連で活動してきたバン・ボーベン教授は「オランダも第２次対戦の時にドイツに占領されて様々な辛酸をなめたが、戦後にドイツが謝罪と賠償に積極的な努力をしたので友好的な関係を結ぶことができた。」とし、慰安婦問題の迅速なる解決を今一度念を押した。２０００年に設立される常設国際刑事裁判所にも深く関与しているバン・ボーベン教授は「人権のためには事後処理を担当する国際刑事裁判所も必要であるが、事前に武力紛争を予防する努力がなによりも重要である。」と強調した。

（朝鮮日報　９月１８日　２５面）

98.9.18. 読売

「村山談話」の枠内で日韓声明

「歴史認識」で外務首脳

外務省首脳は十七日、金大中・韓国大統領の来日時に日韓両国が発表する歴史認識の間題を清算する声明について、「九五年の村山富市首相の談話の内容の枠内で行う方針に変更はない。韓国の方もそれで多くの人が理解してくれるのではないか」と述べた。

戦後五十周年を機会に発表された村山談話は「わが国は遠くない過去の一時期、植民地支配と侵略によって、多くの国々とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました」述べたうえで、反省とおわびの意を示している。

98.9.19.朝日

「戦後補償前進を」

日韓首脳に要請書

韓国の金大中大統領来日を機に戦後補償要求運動の前進を目指す国内の市民団体が十八日、金大統領と小渕恵三首相あてに合同で要請書を送った。

歴史学者の山田昭次氏をはじめ、各地で慰安婦問題などを支援しているグループなど六十余団体、百五十人以上の個人が賛同し、韓国の強制労働問題対策協議会などとも協力して「日韓連帯キャンペーン実行委員会」を組織している。

金大統領来日で警戒

韓国の金大中大統領の来日に備えて、警視庁は十八日、東京都江東区の駐機場で、機動隊員ら約千二百人を集めて大規模な警備訓練をした。金大統領は十月七日に来日し、東京と大阪を訪問する。警視庁はこの間、一九九六年のクリントン米大統領来日時と同じ規模の厳戒で警備する方針で、すでに都内では十七日から警戒態勢に入っている。

98.9.19.毎日

日本の大衆文化解禁に向け

ソウルで日韓シンポ

【ソウル18日大韓文護】日本の「大衆文化解禁」に向け、韓国政府の基本政策の骨子作りを目指す「韓日文化交流政策諮問委員会」（委員長、池明観・梨花女子大日本学研究所長＝写真㊤）の主催するシンポジウム「東北アジアの文化と韓日関係」が18日、ソウルで開催された。日韓の文化人、学者が日本の大衆文化解禁に関する意見を述べ合い、一般市民にも公開された。

シンポでは詩人・辻井喬（堤清二氏＝写真㊨）が基調講演を行い、「文化の自由交流には賛成するが『無質が良質を駆逐する』ような事態が起きないためのシステムや枠組みが必要」と主張。韓国側の姜万吉高麗大史学科教授は「文化交流の制限は日本文化に強制的に固化された韓国文化の独自性を回復するために必要な期間だった」と述べ、性急な解禁に対する慎重論を展開した。また日本側からは映画監督の小栗康平氏、漫画評論家の小野耕世氏が参加した。

98.9.19.毎日

北朝鮮ミサイル発射問題で

日朝議連から脱退

金発議員都国

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）のミサイル発射問題で18日までに、都議会の自民党派で作る日朝友好促進議員連盟（日朝議連）から都議会自民党が一斉に脱退した。「ミサイルを発射するような国とは付き合えない」というのが理由だが、自民党の会派分裂も為に影響していると見られる。

日朝議連は1988年に設立。参加議員は共産党を除く全会派から81人。このうち、都議会自民党の26人が17日、「非は非と指摘できず、表のみを取り繕う友好は相互に不信の念を助長する」と脱退届を出した。

議連の会長は、都議会自民党から離脱した自民党都議団（自民党東京）の宇田川芳雄氏。事務局長は、民主党の河合秀二郎幹事長。自民党東京や民主党は、都議会自民党との対決色を強めており、「両会派からは『無がらせだ』との声が聞れた。

98.9.20.朝日

韓国大統領

村山談話の確認を要望

社民党の田英夫広報委員長は十九日、韓国・ソウルの大統領府で金大中大統領と約二時間会談し、十月に予定されている大統領の訪日について意見交換した。同日夕、帰国した田氏によると、金大統領は「村山談話については高く評価しているが、主体をはっきりさせて、日本の首相が国民を代表する形で、韓国国民に謝っていただきたい」と述べたという。一九九五年八月に当時の村山富市首相が第二次大戦中の植民地支配と侵略に対して「反省の意と心からおわび」を表明する談話を発表しているが、金大統領はこの談話がアジア諸国を対象にしているため、訪日時には韓国に絞った形で小渕恵三首相が言及することを求めたものだ。

また、従軍慰安婦問題について金大統領は田氏に対して「このままでは日本の立場を悪くする。今回、はっきり解決していただきたい」と述べた。

98.9.20.毎日

「天皇訪韓、2001年に」

韓国大統領が田氏に表明

来月要請の可能性も

98.9.20.毎日

韓国を訪問した社民党の田英夫参院議員は19日、金大中大統領とソウルの青瓦台（大統領府）で会談した。大統領は「21世紀は共同して国際社会に臨むよう両国関係にしたい」と強調したうえで「2001年に天皇が訪韓されるよう目指したい」と述べた。天皇訪韓をめぐっては、W杯サッカーを日韓が開催する2002年の実現を目指す声があるが、この発言は、大統領が天皇の早期訪問を新たな日韓関係の象徴として位置付けたい意向を示したものと言える。

金大統領は10月7日から国賓として日本を訪問、初日に天皇陛下と会見する。日本外務省は天皇訪韓を政治的テーマにしたくない意向だが、大統領が天皇陛下と会見の際、訪韓を要請することも予想される。

大統領は「過去の歴史の清算」について、アジア侵略を謝罪した1995年の「村山首相談話」を高く評価。そのうえで「小渕恵三首相が日本国民を代表し、韓国国民に対し話しかけてほしい」と述べた。さらに、植民地時代に日本が強要した創氏改名や日本語の強制使用を取り上げ、「民族の文化に対する侵略だった」と強く批判した。

大統領訪日の準備の中で、日本政府は韓国に対し「村山談話以上の謝罪はできない」との姿勢を伝えている。今回、大統領が同談話を評価したことで、日本政府は同談話をベースに、創氏改名などを含む形で韓国国民に直接謝罪する文書を検討するとみられる。

98.9.20.日経

日韓、来月に経済閣僚懇

共同文書案 謝罪、95年談話ベース

98.9.20 日経

【ソウル19日＝伊集院敦】日韓両国が十月七日からの金大中大統領の訪日の際に発表する共同文書の概要が十九日明らかになった。焦点の歴史認識問題では、日本が「侵略」を認めて「痛切な反省」と「心からのお詫び」を表明した戦後五十年（九五年）の村山首相談話をベースに記述する。経済分野では両国間で経済関係閣僚懇談会を十月下旬にも開催することなどを盛り込む。安全保障や対朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）政策での協力、文化・青少年交流の拡大も掲げ、今回の共同文書を今後の日韓関係発展の基礎とする。

日韓関係筋によると、共同文書は金大統領と小渕恵三首相が発表する「二十一世紀に向けた新たなパートナーシップ宣言」（仮称）と外相同士が調印する具体的なアクションプログラム（行動計画）の二本立てで構成する。

経済閣僚懇談会は日韓の経済協力やアジア経済危機の打開策について話し合うもので、鹿児島などが開催候補地に挙がっている。韓国の経済危機克服に向け、日本からの新たな融資（二十億～三十億ドル）を打ち出す予定だ。

歴史認識問題は韓国側が「戦後五十年の首相談話以上のことは言えない」との日本側の立場を基本的に受け入れる方針を固めた。これに関連して金大統領は十九日、訪韓した田英夫参院議員（社民党）との会談で同談話について「いい内容だ」と指摘、評価する考えを示した。

98.9.21. 日経

オピニオン 解説

韓国大統領訪日の課題

儀式化した謝罪 再考を

日韓双方に原因

摩擦減らす努力必要

韓国の金大中大統領が十月七日訪日する。日本政府は過去の慣例に沿って謝罪する可能性が高い。韓国政府は「謝罪で過去の歴史にピリオドを打てる」との立場だ。だが多くの日本人は「何度『これが最後の謝罪』というのか」とげんなりし、嫌韓感情を強めている。謝罪を続けるべきなのか、考えてみたい。

なぜ、韓国政府は繰り返し謝罪を求めるのだろうか。それは謝罪が「定例儀式」と化したからだ。大統領が天皇陛下や首相と会っても謝罪されないと、「対日姿勢の後退」と国民から批判される可能性がある。

そうした雰囲気を加速するのが韓国メディアだ。昭和天皇が崩御した際、ある新聞は社説で「ヒロヒトは謝らずに死んだ」と書いた。同じ筆者は金斗煥大統領訪日の際「日皇（天皇）、大統領に謝罪」との大見出しで一面トップの記事を書いていた。

これを指摘したところ筆者は「あのときはあのとき、今は今」と答え、なぜそんな質問をするのか、といった風情だった。天皇陛下や首相の度重なる謝罪も、韓国内では「不十分だった」あるいは「なかった」ことになっているが、一因は韓国メディアの姿勢だ。

さすがに、知日派の政治家からは「日本だってそろそろ怒り出すぞ」との懸念も語られ始めた。それでも歴代政権が姿勢を変えないのは、韓国の特殊性からだ。どの政権も「自らが初の正統的政権」という建前であり、前政権への謝罪を「正式な謝罪」とは認めにくい。

もちろん日本側にも原因はある。それは政治家の発言と、日本メディアによる「失言報道」である。

例えば「日本の植民地支配は韓国経済の発展の基となった」といった発言だ。この種の発言は「何度も謝罪を求めるのは、謝罪後に問題発言が繰り返されるからだ」（金泰圭駐日韓国大使）と、韓国側の〝理論的根拠〟に使われている。

最近はそうした説を唱える韓国の学者もいる。だが「そうかもしれないな」と韓国人が内心思ろからこそプライドを傷つけるのだ。日本人と同様に韓国人も急速な経済成長が自信の裏付けだ。この辺の機微を日本人は理解すべきだろう。

逆に、別に韓国人のプライドを傷つけるとは思えない政治家の発言に関し、日本のメディアが「問題発言だ」と報じ、韓国のメディアがそれを後追いして摩擦を生むケースも多い。

増える嫌韓発言

嫌韓的発言は謝罪を巡る日本の国内対立を反映し増える傾向にあるようだ。発言の根には「リベラル派が安易に謝罪を繰り返す」「一部のメディアはリベラルなふりをしたいがために、政治家の発言の揚げ足をとる」との保守政治家の反発がある。多くの日本人が「韓国側にも問題がある」と考え始めたことも、彼らを勇気づけている。

ただ、国内向けの発言だとしても韓国人の反発を招くのに変わりはない。「ドイツは謝罪を繰り返さない」と言う人もいるが、ドイツの政治家は周辺国民の神経をさかなでする発言を繰り返しはしない。

謝罪問題は本質的な日韓対立に根差したものではなく、双方の内政をにらんだ「外交的謝罪ゲーム」の側面が強い。だがゲームのコストは膨れ上がり、そろそろ限界に達してきた。

司馬遼太郎氏が文芸春秋に連載し日本人に大きな影響を与えた「この国のかたち」も、盧泰愚政権の謝罪要求を境に急速に韓国に冷たくなった。各種世論調査は日本の嫌韓感情の高まりを示す。これは韓国の反日感情も加速するだろう。各国が機動的な首脳外交を展開しているときに、謝罪の内容を固めないと首脳会談も開けないという状況は放置できなくなっている。

解決への道は一つだ。日本は韓国が謝罪を要求せざるを得ない雰囲気をつくらないよう全力をあげること。例えば在日韓国人の地方参政権の問題は新たな摩擦の火種になる可能性がある。そして韓国も謝罪を要求するのをやめることだ。

ただ、日韓関係を悪化させている謝罪問題が解決したとしても急速な関係改善を期待すべきではない。韓国人の心の奥底には、国を植民地化された悔しさが存在する。それは相当の年月を経ても消えないだろう。

その意味で「ろくさいから謝っておこう」式の日本の安易な謝罪派も、「今回謝罪すれば日韓関係は未来志向に転じる」と、いとも簡単に主張する韓国人も、真剣に日韓関係を考えているとは言えないのだ。

（アジア部　鈴置高史）

98.9.21 朝日

日韓合同授業研究会

教師レベルの信頼築く

雁部先生が合同学習を発表した「日韓合同授業研究会」交流会は、今夏ソウルなどで開かれた。朝鮮学校での実践や子どもの様子が韓国で報告される機会はあまりなく、韓国の教師たちは熱心に聴き入っていた、という。研究会の日本側代表・菅元幸夫さんは「授業実践の積み重ねと先生レベルの交流が、日本・南北朝鮮の架け橋になれば」と話す。

研究会には、日本と韓国の教師らが参加している。戦後50年の1995年にスタートし、今年で4回目。「歴史文化」を縦軸に、「同時代にアジアで生きる仲間」という視点から「環境」を横軸に、授業実践を持ち寄り、フィールドワークに出かけるなど交流の幅を広げてきた。会が始まった当初は、韓国側の根強い「反日感情」など、両国の溝の深さを再認識させられることが多かったが、回を重ねるごとに「互いの顔が見える信頼関係」を築けてきた、という。

研究会は、今年の交流会の報告会を26日午後6時半から、東京・文京シビックセンターで開く。問い合わせは、原さん方（電話047・332・5074、午後7時－10時）へ。

98.9.21.読売

生活論点 for 21

野原 蓉子さん　産業カウンセラー

女性を見下していませんか

セクハラ 意識の差

セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）をめぐる男女の意識の差は大きい。体に触るなどの性的言動さえ慎のないと思っている男性は「新婚だから早く帰宅を」と言われてもセクハラと言われることがあると戸惑う。女性が問題にしているのは、男性の対女性観なのだ。働く人の心の相談にのっている野原さんは「男性たちよ、心のどこかで女性を見下してはいないか」と問いかける。（聞き手・永峰 好美）

来年四月に施行の改正男女雇用機会均等法では、企業のセクハラ防止への配慮義務を初めて盛り込んだ。労働省の指針では、セクハラを許さないことを就業規則に明示したり、未然防止のための相談窓口を設けたりすることを求めており、企業は対応に大わらわ。野原さんにも勉強会の講師の依頼が相次いでいる。

「セクハラ問題を担当することになった男性管理職と打ち合わせをしていたら、『私はもっていませんの。うちの職場には年のはら・ようこ。埼玉県生まれ。61年埼玉大学。臨床心理士。教育を経て、日本産業カウンセリングセンター長就任。現在、同センター理事長。

最近は企業からのセクハラ防止策の相談も多い（東京・元赤坂で）＝小林武仁撮影

とった女性しかいませんから』と言うんです。それがセクハラだとは思いもしない。今でも」

「線引き」の問題ではない 根源は男性の価値観

の理解の理解なんですね」

労働省の委託調査によると、企業の人事担当者の9割はセクハラを防ぐため「何らかの対応をとるべきだ」と回答。しかし、実際に防止措置をとっているのはわずか5・5%に過ぎない。

「企業の勉強会では『体に触ったり、職場にヌードポスターを張ったりするのがセクハラ』というのは分かる。でも、お嬢さんと呼ぶのも、飲み会でお酌を頼むのもまずいんですか』と、よく質問されます。どんな行為がセクハラに当たるのか、白か黒かの線引きをすれば片付く性質の問題ではないことが、なかなか分かってもらえません」

小手先の対策で、セクハラは防げない。指針でも、職場の男女の意識のあり方を問題そうと呼びかけている。

「他人が嫌がることはしない、言わないというのが、職場に限らず社会のルールっ。それなのに、『やめて下さい』と女性が訴えても、男性は『なんだいなあ、そんなんじゃ大人になれない』などと言って繰り返す。そうした行為の根っこには、女性を見下す気持ちや性的な対象としてしか見ない発想がある。それが時に表れてみえるから、女性は怒っているのです」

男性は、悪の意識のつもりでも、女性にとっては全く強で、不快な言葉として受け止められる場合が多い。

「管理職と話してスーツで決めてきた女性に、男性上司が『今日はデート？』と聞いたとします。彼女は、仕事のために美容師の学校にだけっと勉強を終えたのかもしれない。それなのにデートかと聞かれたら、『私が仕事に熱心だなんて上司は夢にも思っていないんだろうな』と、仕事への意欲も失う」

職場で、女性は男性から仕事上の対等なパートナーとして見られていない。それがセクハラの大問題だのだと訴える女性の気持ちを、男性には分かってもらえない。

「伝統的といわれる会社ほど、女性は良妻で集団にはなじまないと、はじかれてきた。でも、社会が停滞している時には、過去のしがらみとされる女性の発言が役に立つ。職場の中で、緊張感の価値観をいかに認めていくかが課題です。厳しい競争時代、セクハラで女性の仕事への意欲をそいでいる男性に問は、生き残っていけないですよ」

セクハラ防止のために近道はない。男女の意識のギャップを埋めるために、まずできることは何だろう。

「すぐに女性管理職を増やすのは無理でも、セクハラとなりがちな言動はコントロールできるはず。まず、それから始めてほしいものです」

「企業の担当者はセクハラがないか目を光らせるよりも、社員が抱えている悩みをオープンにできる環境作りを心がけてほしいですね」。歯切れのいい物言いで、多くの人の信頼を集めている

98.9.22. 統一日報

戦後補償

公式謝罪と国家賠償を

韓日市民団体が両首脳に要望

来月七日からの金大中韓国大統領の訪日と小渕恵三日本首相との首脳会談を控えて、旧日本軍慰安婦や強制連行の戦後補償をめざす韓国と日本の市民団体が十八日、日本政府の責任を認めて公式謝罪し国家賠償を行うよう求める小渕首相および金大統領あての合同の要請書をそれぞれ日本外務省、駐日韓国大使館に伝達した。

要請書に加わったのは、強制連行・企業責任追及裁判全国ネットワーク（横浜市）、戦後責任を問う関釜裁判を支援する会（福岡市）など日本の六十余りの団体と、韓国の挺身隊問題対策協議会（挺対協）、太平洋戦争犠牲者遺族会（遺族会）など。これらの団体は同日夕、東京・飯田橋で集会を開き「金大中大統領の来日を機会に戦後補償の実現を」・日韓（韓日）連帯市民キャンペーン実行委員会」を結成した。

小渕首相への要請書は、▽国連人権委員会が、慰安婦問題への日本の法的責任を認め、被害者個人への賠償、実行者の処罰を勧告したマクドゥーガル報告を「歓迎し留意する」との決議を採択した（八月）▽山口地裁下関支部が慰安婦被害者への賠償立法化を怠ったとして日本国に賠償支払いを命じる判決を下した（四月）――などを指摘、韓国人元慰安婦への謝罪と補償を行うよう求めている。

記者会見する市民団体（18日）

また、日本政府や企業を相手に訴訟を起こしている韓国人元軍人、軍属、強制連行労働者などにも、日本国と企業の責任を認めて戦後処理を進めること、さらに慰安婦やこれら被害者に関する資料の全面公開を要望した。

伝達に先立って衆議院第一議員会館で記者会見した連帯実行委代表の山田昭次立教大教授は、「戦後補償は、戦争責任をきちんと問われなかったサンフランシスコ講和条約以来の、日本の歴史的課題だ」として、「金大中大統領の訪日を機会に一歩でも二歩でも解決へ前進させたい」と述べた。

韓国挺対協の金允玉共同代表は、十七日まで二日間韓国で開かれたシンポジウムで、慰安婦問題への日本の態度の正当性いかんを国際司法裁判所に問うことが決議されたことを紹介、また日本の「女性のためのアジア平和国民基金」の解散を要求した。

・韓国・遺族会の金仁模常任理事は、日本政府と国民へのメッセージで「本当の謝罪と補償」などを要望した。

98.9.22. 読売

日韓外相が会談

【ニューヨーク21日＝内田明憲】高村外相は二十一日早朝（日本時間同日夜）、ニューヨーク市内のホテルで、韓国の洪淳瑛・外交通商相と会談した。

十月の金大中大統領来日時に日韓両国政府が発表する共同文書について、高村外相は「両国関係の過去、現在、未来に関する包括的な文書を作成したい」とし、歴史認識問題に一定の決着を図るとともに、未来志向の両国関係の確立に向けた内容にしたいとの考えを示した。洪外交通商相も「了解している」と応じた。

新日韓漁業協定の締結問題については、金大統領来日までに実質的な決着を目指すことで一致した。

過去の文化侵略 日本に反省要求

金大中大統領

十月七日から国賓として来日する金大中韓国大統領＝似顔＝が来日時に発表する日韓両国の共同文書に、「過去の文化侵略に対する日本の反省」を盛り込むよう求めていることが二十一日、明らかになった。金大統領が十九日にソウルで社民党の田英夫参院議員と会談した際、意向を表明。田氏が二十一日、野中官房長官を訪ね、意向を伝えた。

田氏によると、金大統領は共同文書に関連し、アジア諸国への植民地支配と侵略に対し「おわび」と「反省」の意を示した九五年の村山首相談話を評価したうえで、「村山談話ではだれがだれにおわびしたのかはっきりしない。日本の首相が韓国国民に対して謝罪するという、おわびの主体をはっきりさせる必要がある」と指摘した。

さらに、金大統領は、今世紀前半の日本による朝鮮半島植民地支配時代に、①創氏改名政策による日本式の姓名への改称強要②日本語の強制③天皇崇拝、神社参拝の強制――などがあったことについて、「民族の文化を破壊した行為で、こうした文化侵略に対する反省を求めたい」と強調した。

韓日현안 사전정지 '한창'

DJ방일 15일 앞두고

- 과거사
  천황표현등 우리측 성의
  日선 '진솔한 사과' 보여야
- 어업협정
  중간수역 동쪽 한계선
  장관급 협상서 타결예상

김대중(金大中)대통령의 일본 국빈방문(10월7일)을 보름여 앞두고 한일 양국간에 과거사 처리, 어업협정 개정, 일본문화 수입개방 등 각종 현안에 대한 막바지 사전정지작업이 진행되고 있다. 이중 핵심쟁점인 과거사문제와 어업협정문제의 진도를 점검해 본다.

◇과거사문제. 과거사 처리문제는 한일정상회담때마다 되풀이되고 있는 난제중의 난제지만 이번에는 김대중정부의 전향적 대일관으로 해결의 실마리는 찾은 상태다. 양국은 이번 정상회담에서 「21세기를 향한 새로운 파트너십」이라는 공동선언문을 채택하는 것을 계기로 20세기의 불편한 관계를 완전히 정리한다는 방침이다.

우리정부는 지난 4월 과거사 처리문제의 「뜨거운 감자」였던 일본 군대위안부 피해자들에게 3,150만원씩의 지원금을 지급하고, 일본에 정부차원의 배상요구를 하지 않겠다고 선언함으로써 먼저 길을 열었다. 또한 종래의 「일왕」에서 「천황」표현을 쓰겠다고 공식 발표, 과거사 문제에 대한 일본의 상응한 조치를 촉구했다. 정부는 일본측에 「마음에서 우러나오는 진솔한 사과」를 공식적으로 요구하고 있을 뿐 사과내용과 수준은 일본에 맡기겠다는 자세다. 그러나 일본 자민당은 우리가 요구하는 표현수준에는 난색을 표하고 있다.

◇어업협정 YS정권 말기에 일본이 어업협정을 일방적으로 파기하는 바람에 한일관계를 급랭시켰던 양국간 최대 현안. 새정부 출범 이후인 지난 4월 양국은 어업협정 실무교섭 재개에 합의, 최근까지 6차례 협상이 진행됐고 23일께 일본에서 7차 협상이 열린다. 최대 쟁점은 공해의 성격을 갖는 양국간의 「중간수역」폭을 결정하는 문제로 특히 중간수역의 동쪽 한계선 확정문제가 현안이다. 동쪽 한계선으로 한국은 동경 136도를, 일본은 135도를 각각 주장하고 있다. 최근에는 양국외교라인 외에 의원들까지 나서 현안타결을 위한 측면교섭을 벌여 쟁점이 거의 좁혀진 상태다. 양국은 협정문안작업을 거의 마무리했으며 중간수역폭은 장관급 협상에서 매듭짓기로했다. 이에따라 김선길(金善吉)해양수산부장관이 가까운 시일내 방일, 최종 타결지을 것으로 알려졌다. /윤승용기자

韓日懸案事前政治「盛ん」
DJ訪日15日前

・過去史

天皇表現等の我々側の誠意に対して日本は「真摯で率直な謝罪」の姿勢を見せなくては

金大中大統領の日本国賓訪問（１０月７日）を２週間後に控え、韓日両国間で過去史処理、漁業協定改定日本文化の受け入れ開放等、各種懸案に対する政治的なつめの作業が行われている。この中で争点の中心となっている過去史問題と漁業協定問題の進度を点検してみよう。

△過去史問題　過去史処理問題は韓日首脳会談の度に繰り返されている難題中の難題であるが、今回は金大中政府の転向的な対日観によって解決の糸口が見えてきた状態である。両国は今回の首脳会談において「２１世紀に向けての新しいパートナーシップ」という共同宣言文を採択することで、２０世紀のすっきりしない関係を完全に生産する方針である。

我が国の政府は、去る４月に過去史処理問題の「熱いジャガイモ」（ママ）だった日本軍慰安婦被害者に３．１５０万ウォンずつ支援金を支給し、日本に政府レベルの賠償要求をしないと宣言することで、まず道を開いた。また、天皇に関する呼称を従来の「日王」から「天皇」という表現に変更することを公式発表、過去史問題に対する日本の相応な措置を促した。政府は日本側に「心からわき出た真摯で率直な謝罪」を公式的に要求するのみで、謝罪の内容と水準は日本に任せるという姿勢である。しかし、日本自民党は我々が求めている表現の水準には難色を示している。

△漁業協定・・以下略

（韓国日報　９月　２２日　４面）

日군대위안부 보도 美신문기사 첫발굴

한국여성4명등 실상폭로

2차대전 당시 서방의 종군기자가 일본군위안부들을 인터뷰한 신문기사가 발굴됐다. 한국정신대연구소(소장 정진성·鄭鎭星 서울대 사회학과 교수)는 23일 미군신문 「C.B.I.라운드업」 1944년 11월30일자에 실린 「일본군위안부들」이라는 기사를 공개했다. 이 기사는 방선주(方善柱) 한림대 객원교수가 미국 국가기록보존소에서 찾아내 한국정신대연구소에 보내옴으로써 알려졌다.

기사내용은 UPI통신의 월터 런돌이 미얀마의 살윈전선에서 중국군에 생포된 한국인위안부 4명과 일본인위안부 1명을 인터뷰한 것으로 서방언론의 위안부에 관한 보도중 가장 이르다. /김동선기자

日本の軍隊慰安婦報道をした米新聞記事を初発掘

韓国女性４名等　実相暴露

２次大戦当時、西洋の従軍記者が日本軍慰安婦にインタビューした新聞記事が発掘された。韓国挺身隊研究所（所長・鄭鎮星ソウル大社会学科教授）は２３日、１９４４年１１月３０日付の米軍新聞「Ｃ．Ｂ．Ｉ．ラウンドアップ」に載せられた「日本軍慰安婦たち」という記事を公開した。この記事は方善柱ハンリム大客員教授が米国国家記録保存所で探し出し、韓国挺身隊研究所に送ったことで明らかなものになった。

記事内容はＵＰＩ通信のウォルター・ランドルがミャンマーのサルウィン前線で、中国軍に生け捕りにされた韓国人慰安婦４名と日本人慰安婦１名にインタビューしたもので、西洋で報道された慰安婦に関するものとしてはもっとも早いものである。

（韓国日報　９月　２４日　２２面）

98.9.25、東京

『日韓関係の過去』

金大統領訪日時の合意文書

『村山談話』の枠内で

日韓両国政府は二十四日までに、十月七日からの金大中・韓国大統領訪日時に発表する「日韓関係の過去」に関する合意文書の表現について、「一九九五年の村山富市首相（当時）の談話の枠内とする」ことで基本合意した。日本側は同文書の中で、過去の朝鮮半島植民地支配に対し、「痛切な反省と心からのおわび」の気持ち」を明らかにする。

この問題について外務省首脳は二十四日、「村山談話はいわば全世界に向けたもの。今回は韓国の政府と国民への反省と謝罪であり、おのずから表現も変わってくる」と指摘した。

合意文書の表現をめぐり、韓国側は当初、村山談話を上回る表現を要求。これに対し、日本側は中国などとの釣り合いなどを理由に難色を示し、「合意文書の表現は村山談話の枠内」とするよう主張、韓国側もこれを受け入れた。

韓国側の柔軟姿勢には、合意文書の表現で両国の対立が表面化するのは得策でないとの金大統領の大局的判断があったものとみられる。

ただ、韓国人の元従軍慰安婦に韓国政府が支援金を支給、日本のアジア女性基金の償い金受け取りを拒否している問題は解決のめどが立っておらず、大統領訪日までに妥協が図られるかどうかは微妙な情勢だ。

日韓漁業協定 基本合意

訪日控え大統領意欲

関係悪化懸念し妥協も

解説

日本と韓国の間で行われていた国連海洋法条約批准に伴う新漁業協定交渉が二十四日、基本合意に達したことは、日韓間の政治関係全体に好影響を与えるものとみられる。十月七日から予定されている金大中・韓国大統領の訪日準備にも弾みをつけることになろう。

日本側は今年一月二十三日、現行の日韓漁業協定の終了（破棄）通告を一方的に行った。これで現行協定は一年後の来年一月二十二日には失効することが確定、それまでに新協定が締結できなければ、日韓漁業関係が無協定状態になるという異常事態も予想された。

日本側はいわば新協定交渉の期限を設定するという背水の陣を敷くことで、交渉打開を狙ったわけだ。この作戦は一時、韓国側の反発を買い、韓国漁船が自主規制措置を破って北海道周辺水域で操業を強行するなど裏目に出た。

しかし、韓国側が七月一日を期して自主規制措置を復活したことを境に情勢が好転、以後は交渉も軌道に乗った。

このように日韓間の交渉には珍しく、実利を伴う新漁業協定交渉が比較的円滑に進んだのは「韓国側に交渉をまとめようとする強い意欲がみられた」（日本外務省筋）ことが原因だ。韓国側では金大統領自身が推進役となり、「腹心」（在京韓国筋）の金瑾鎬・国会副議長を交渉の節目ごとに日本に派遣、自民党の佐藤孝行・国際漁業問題特別委員長と政治レベルで交渉促進を図った。

大統領としては実利にこだわるあまり、日韓関係全体を損なっては自らの訪日にも傷がつくと懸念、大局的判断から妥協を図ったものとみられる。

ただ日韓両国間には、元従軍慰安婦への韓国政府による支援金支給問題など、未解決の政治問題も残っている。新漁業協定交渉に表れた双方の妥協の精神が、日韓間の「過去の問題」の解決にも発揮されるかどうかが今後の焦点になりそうだ。

（編集委員・奈佐志彦）

98. 9. 27. J. T. (4面)

Kim visit fuels Korean redress quest

Activists rally for cause of war laborers, 'comfort women'

By AKEMI NAKAMURA
Staff writer

OSAKA — In anticipation of South Korean President Kim Dae Jung's visit to Japan next month, local activists here are organizing rallies and meetings to call on the Japanese government and people to give a heartfelt apology and provide compensation for the wartime Korean forced laborers and "comfort women."

"The war has not ended for me. Many Koreans who were forced to work for the Japanese military are dying every year. We want to see a solution to war compensation problems while we are alive, and the visit of President Kim is an important opportunity to make progress," said Kang Bu Jung, representative of the Japan-South Korea Joint Campaign Kansai Executive Committee.

The executive committee was recently formed by seven groups and individual activists to organize a rally and meeting calling for compensation for those forced into military service or sexual slavery for the Imperial Japanese Army. The rally will be held Oct. 7 at 6:30 p.m. at Nakanoshima Outdoor Music Hall in Kita Ward here. Similar events are scheduled in Tokyo and Seoul.

More than 80 people, including five such victims and their families from South Korea, attended an inaugural meeting in Osaka's Chuo Ward about a week ago to support the campaign.

KANG BU JUNG speaks at an Osaka news conference held by the Japan-South Korea Joint Campaign Kansai Executive Committee with activists and victims of the war from South Korea and Japanese supporters. AKEMI NAKAMURA PHOTO

Kang, 78, was forced to serve as a civilian worker for the Japanese military in 1942. When he was sent to the Solomon Islands the following year, he lost four fingers on his right hand and the sight in his right eye during an attack.

The Kosei, Shiga Prefecture, resident filed a lawsuit in 1993 against the central government, seeking war compensation. But the Otsu District Court rejected the case last November, saying the war pension law applies only to Japanese. Kan appealed to a higher court.

More than 40 lawsuits related to war compensation have been filed by foreign wartime victims, including the comfort women, since 1990.

Former Japanese soldiers, civilian workers and their families receive pensions. As for war compensation for foreigners who worked for the Japanese military, Japan says all war claims were settled by postwar treaties.

But Kim's visit next month gives South Korean war victims hope that a further solution to the problem will be reached.

The latest issue of the magazine Sekai quotes Kim as saying the biggest hurdle in settling the issue between South Korea and Japan depends on the Japanese people and government voluntarily repenting of their wartime activities and making reparations, and foreign victims accepting those actions.

Kim Yoon Ok, corepresentative of the Korean Council for Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan, said at the inaugural meeting that the group expects the president's visit to bring results for the former Korean comfort women.

From an international perspective, Japan should compensate foreign war victims, she said, pointing to a U.N. Commission on Human Rights report released last month that claims Japan is responsible for the wartime operation of the sex slavery system and should pay redress to its victims.

Historians say 100,000 to 200,000 women were sent from Asia — mostly the Korean Peninsula, which was under Japanese colonial rule — to frontline brothels for Japanese soldiers.

"Even if no progress can be made during the president's visit, we have to settle the problem. After all of the victims die, settling the matter will become their daughters' task," Kim said.

Kang and other members of the executive committee brought a letter to the Consulate General of South Korea in Osaka earlier this month to request a meeting with the president.

Mitsunobu Nakata, secretary of the executive committee, said war compensation is a problem for Japanese people, and he hopes the planned campaign will push for a better settlement for foreign victims.

98.9.27. 東京

日韓歴史資料の相互公開で一致
フォーラム初日

日韓両国の歴史研究を深め、相互理解と交流促進を目的とする「日韓歴史フォーラム」が二十六日から二日間の日程で、宮崎市のシーガイアで始まった。「歴史と文化」「歴史と相互認識」の両セッションでの討議を通じて、戦前を含めた歴史資料の相互公開に努力すべきだとの認識で一致した。

一九九五年十月の日韓首脳会談での合意に基づき、九七年七月に「日韓歴史研究促進に関する共同委員会」が発足後、初の本格的な全体会議。

98.9.28. 毎日

「史実に基づく研究重要」
宮崎 日韓歴史フォーラム開く

9.28 毎日

来月7日の金大中・韓国大統領の日本訪問を前に、日韓両国の有識者でつくる「日韓歴史研究促進に関する共同委員会」が26、27の両日、宮崎市内で「日韓歴史フォーラム」を開いた。過去の「不幸な歴史」の束縛から解放され、未来思考の日韓関係を築くためには、史実に基づく歴史研究を続けることが重要であることを確認し、教育体制の充実に向けた奨学金制度の拡充や学科の増設、資料センターの整備などが必要であることで意見が一致した。来年、韓国で2回目の会議を開き、両国政府への提言をまとめる。

初会合には日本側から須之部蔓三・杏林大学客員教授（元韓国大使）、韓国側からは池明観・梨花大学日本学研究所長らが出席した。

〈会合では、歴史の共同研究の前提として「資料の開放」と、歴史に真摯に向き合う「心の開放」が必要であるとの認識で一致。両国関係の現状について「双方の自国中心主義的な認識に影響され、誤解や不信を増幅された」としたうえで、「両国間の歴史で解明されずに残っている多くの課題について、より真摯な取り組みが不可欠である」ことが指摘された。

98.9.28. 日経

資料センターの実現に期待表明
日韓歴史フォーラム開幕

宮崎市で開かれていた初の「日韓歴史フォーラム」（日韓歴史研究促進に関する共同委員会主催）は二十七日、「日韓歴史研究促進に関する諸方策について」をテーマに須之部蔓三・元駐韓大使、池明観・梨花大日本学研究所長の両座長ら各界の有識者二十四人が討議して閉幕した。

二日間の討議を通じて、戦前の文書資料とりわけ日本側の公文書を速やかに公開するよう働き掛けることを確認。歴史資料の「総合所在目録」や利用案内の編さん・刊行とともに、日本政府が検討している「アジア歴史資料センター構想」実現への強い期待感が表明された。

"진심을 담아서 사과해달라"

韓-日 '과거史 매듭' 막후절충

지난 25일 한-일간 어업협정이 타결됐으나, 김대중(金大中) 대통령의 다음달 7일 국빈 방일(訪日) 앞에는 아직도 큰 산이 가로막고 있다. 바로 「과거사 문제」다.

양국은 정상회담후 발표할 예정인 「21세기를 향한 새로운 한일 파트너십을 위한 공동선언」에 일본은 과거사에 대한 반성을, 한국은 전후(戰後) 세계사에 기여한 일본의 역할을 긍정적으로 평가하는 방법으로 과거사를 정리하기로 합의했다. 그러나 「어떤 사과」를 할 것이냐에 대해서는 아직 결말이 나지 않았다.

한국 정부는 『진심을 담아서 사과해 달라』는 원칙만 일본에 던져준 상태다. 다만 김 대통령이 지난 19일 덴 히데오(田英夫) 일 사민당 홍보위원장과 만나 『95년 무라야마 담화를 높이 평가하며 일본 총리가 국민을 대표하는 형태로 한국민에게 밝히는 것이 좋겠다』는 뜻을 던져 두었을 뿐이다.

지난 95년 무라야마 당시 총리는 전후(戰後) 50주년 특별담화를 통해 『식민지 지배와 침략으로 아시아 제국(諸國)에 다대한 손해와 고통을 주었음. 통렬한 반성의 뜻을 표하며 진심으로 사죄를 표명한다』고 말한 바 있다.

결국 남은 문제는 어떻게 「진심」을 표현해내느냐다. 정부 관계자는 『위안부 문제의 정부차원 해결과 과거사의 교과서 기술 등을 생각할 수 있다』고 [illegible]했다. 일본 정부는 이에 대[illegible] 난색을 표명하고 있는 것으[illegible] 알려졌다.

양국은 추석 연휴가 시작되[illegible] 이번 주말까지는 이 문제를 [illegible]듭지을 방침이다. 이를 위해 [illegible] 교부 실무자가 일본 정부내[illegible] 과거사 논의 상황을 알아보[illegible] 위해 일본에 건너갔다.

<權大烈기자·dykwon@chosu[illegible]com>

「心を込めて謝って欲しい」

韓－日「過去史の区切り」舞台裏での歩み寄り

去る２５日に韓－日間漁業協定が妥結したが、金大中大統領の来月７日の国賓訪日の前にはまだ大きな山が立ちふさがっている。即ち「過去史問題」である。

両国は首脳会談後発表する予定である「２１世紀に向けた新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」に、日本は過去史についての反省を、韓国は戦後世界に寄与した日本の役割を肯定的に評価する方法で、過去史を整理することに合意した。しかし、「どのような謝罪」をするのかという点についてはまだ結着がついていない。

韓国政府は「心を込めて謝って欲しい」という原則のみを日本に投げた状態である。しかし、金大統領が去る１９日に田英夫社民党広報委員長と面談し、「９５年の村山談話を高く評価し、日本の首相が国民を代表する形で韓国国民に明らかにすることが望ましい。」という意思を伝えた。

去る９５年村山当時総理は戦後５０周年特別談話を通して「植民地支配と侵略でアジア諸国に多大な損害と苦痛を与えたことに、痛烈な反省と心からの謝罪を表明する」と語ったことがあった。

結局残った問題はどのように「真心」表現するかである。政府関係者は「慰安婦問題の政府レベルでの解決と、過去史の教科書への記述等が考えられる。」とした。日本政府はこれについて難色を示していると伝えられている。

両国は秋夕連休が始まる今週末まではこの問題に区切りをつける方針である。そのために外交部実務者が日本政府内における過去史論議の状況を把握しようと日本に渡った。

（朝鮮日報　９月２８日　４面）

韓日역사포럼 1차회의 근현대사공동연구 합의

한국과 일본 양국의 역사연구를 깊게하고 상호이해와 교류를 촉진하기위한「한·일 역사연구촉진 공동위원회」제1차 회의(한·일 역사포럼)가 26일부터 이틀간 일본 미야자키(宮崎)현에서 열렸다.

학자와 언론인 등으로 구성된 양국 대표들은 27일 ▲한·일 근현대사의 공동연구 추진 ▲연구실적 출판 및 인터넷 공개 ▲풀뿌리 교류확대 ▲전전(戰前) 문서자료 조속공개 ▲양국민을 위한 역사개설서 공동집필추진 등에 합의했다.

이번 회의에는 한국측에서 지명관(池明觀)한림대 일본학연구소장 등 13명이, 일본측에서 스노베 료조(須之部 量三) 전외무차관 등 13명이 참석했으며 내년회의는 한국에서 열린다. /윤승용기자

韓日歴史フォーラム1次会議　近現代史共同研究に合意

韓国と日本両国の歴史研究を深め、相互理解と交流を促進するための「韓・日歴史研究促進共同委員会」第１次会議（韓・日歴史フォーラム）が２６日から２日間日本の宮崎県で開かれた。

学者とマスコミ等で構成された両国の代表は２７日に▲韓・日近現代史の共同研究推進▲研究実績の出版及び、インターネット公開▲草の根交流の拡大▲戦前文書資料の即時公開▲両国民のための歴史概説書の共同執筆推進等に合意した。

今回の会議には韓国側から池明観ハルリム大日本学研究所長等１３名が、日本側から須之部量三全外務次官等１３名が参加し、来年の会議は韓国で開かれる。

（韓国日報　９月２８日　２面）

"日과거사과문에 한국 명기할것"

日관방장관 밝혀

【도쿄=연】 노나카 히로무(野中廣務) 일본 관방장관은 28일 김대중(金大中) 대통령의 방일때 발표할 공동선언에 들어갈 「과거 식민지 지배의 사과와 반성」 부분에 「한반도」 또는 「한국」을 명기하게 될 것이라고 밝혔다.

노나카 장관은 이날 기자회견에서 그동안 초점이 돼왔던 사과대상 국가의 명시 문제와 관련, 『95년 당시 무라야마 도미이치(村山富市) 총리의 사과발언을 기초로 하면서 한국 국민을 상기해 메시지를 보내게 될 것』이라고 말했다. 무라야마 전총리는 당시 『식민지 지배와 침략에 의해 많은 국가들, 특히 아시아 여러 나라 사람들에게 커다란 손해와 고통을 주었다』며 『통절(痛切)한 반성과 마음으로부터의 사과를 한다』고 표명했으나 대상국가 이름을 명시하지 않았다.

노나카 장관은 그러나 창씨개명(創氏改名)과 같이 일제의 한반도 강점기간중 발생한 구체적인 문제는 언급하지 않을 것이며 방일기간중 73년에 발생한 김대중 납치사건에 대한 논의도 없을 것이라고 밝혔다.

정부 "한국명기는 협상핵심 아니다"

洪외교 "교과서기술이 중요"

정부의 한 당국자는 28일 노나카 히로무(野中廣務)일본 관방장관의 기자회견과 관련, 『공동선언중 과거사 부분에 대한 한일 양국의 본격적인 협상은 아직 이루어지지 않았다』면서 『식민지 지배의 사과와 반성에 「한반도」나 「한국」을 명기하는 문제는 협상의 핵심적인 내용이라고 할 수 없다』고 말했다.

이 당국자는 『공동선언이 표현만 강하고 내용이 빈약한 문서가 돼서는 안된다는 게 정부의 변함 없는 입장』이라고 말해 일본측 발표가 우리측 요구수준에 미치지 못하고 있음을 시사했다.

이에 앞서 홍순영(洪淳瑛)외교통상장관은 이날 기자간담회를 갖고 『한일 과거사 정리는 결국 일본의 사과와 반성이 (일본) 교과서에 기술되느냐 하는 문제』라며 『과거사는 인위적으로 정리될 수 없으며, 결국은 후세 교육을 위해 점검하고 정리해야 할 사안』이라는 입장을 밝혔다.

/윤승용기자

日本　過去謝罪文に韓国を明記のはこび

日　官房長官が表明

野中広務官房長官は、２８日に金大中大統領の訪日時に発表する共同宣言に盛り込まれる「過去植民地支配への謝罪と反省」の部分に「韓半島（ママ）」または「韓国」を明記することを明らかにした。

野中長官はこの日の記者会見で、これまで焦点となっていた謝罪対象国家の明示問題に関連して、「９５年の村山富市（当時）総理の謝罪発言を基にしながら韓国国民を想起してメッセージを送る。」と語った。村山総理は当時「植民地支配と侵略によって多くの国家、特にアジア諸国の人々に多大な損害と苦痛を与えた。」とし、「痛切な反省と心からの謝罪をする。」と表明したが、対象国家名は明示しなかった。

しかし、野中長官は創氏改名のような日帝の韓半島占領期間中に発生した具体的な問題には言及しないとし、訪日期間中に７３年に発生した金大中拉致事件についての論議も起こさないと表明した。

政府「韓国明記は交渉の核心部分ではない」

洪外交「教科書記述が重要」

政府のある当局者は２８日の野中広務官房長官の記者会見に関連し、「共同宣言中、過去史部分についての韓日両国の本格的な協議はまだなされていない。」とし、「植民地支配の謝罪と反省に「韓半島（ママ）」もしくは「韓国」を明記する問題は協議の核心的な部分とはいえない。」と語った。

この当局者は「共同宣言が表現のみ強く内容が貧弱な文書となってはならないというのが政府の一貫した立場」であるとして、日本側の発表が我が国の要求水準に達していないことを示唆した。

これに先立って洪淳瑛外交通商部長官は同日に記者会見を持ち、「韓日過去史の整理は結局日本の謝罪と反省が（日本の）教科書に記述されるかどうかという問題」とし、「過去史は安易に整理されるべきものではなく、結局は後生の教育のために点検し整理しなければならない事案」であるという立場を表明した

（韓国日報　９月２９日　１面）

98.9.29. 日経

明確な形で韓国に謝罪へ

「共同文書」で官房長官

野中広務官房長官は二十八日夕の記者会見で、韓国の金大中大統領の来日時に取りまとめる共同文書について「九五年（戦後五十年）の村山首相談話を基礎として、韓国国民に日本のメッセージを送ることになる」と述べ、村山首相談話に沿った内容になるとの見通しを示した。これに関連して、柳井外務次官は同日の記者会見で、村山首相談話が先の大戦の関係国すべてを対象としたことに関して「今度は韓国を直接の対象とするものになる」と述べ、明確な形で韓国謝罪する内容とすることを明らかにした。

98.9.29. 毎日

小渕首相

韓国国民にメッセージ

金大統領訪日時に「植民地支配を反省」

野中広務官房長官は28日、金大中韓国大統領が10月7日から国賓として日本を訪問することに関連して、大統領訪日時に、小渕恵三首相が1995年の村山富市元首相の「謝罪と反省の談話」に基づき、韓国国民に向けてメッセージを送ることを明らかにした。

日韓両国は21世紀に向けて新たな関係を築きたいとしており、朝鮮半島の植民地支配に対して「反省の意」を表明する首相のメッセージを通じ、「過去の歴史」に区切りをつける方針だ。

金大統領は今月中旬、訪韓した田英夫社民党参院議員と会談し、自らの訪日に際しては、小渕首相が韓国国民にメッセージを送ることに期待感を表明するとともに、日本側の歴史認識について「村山首相談話」を高く評価したという。

「村山首相談話」は、第二次大戦がアジア諸国に対する「侵略」だったと明言し、謝罪と反省の意を表している。政府は今回の首相メッセージについて「どういう表現を盛り込むかは、現時点では言えない」（柳井俊二外務事務次官）としているが、日本が日本名を強要した創氏改名や、日本語の強制使用などに言及するものとみられる。

両国は何度か蒸し返されてきた「歴史認識」の問題に決着をつけたい考えだ。

98.9.29. 朝日

「過去の清算」

創氏改名には触れず

野中氏方針 「村山談話もとに」

野中広務官房長官は二十八日の記者会見で、十月初旬に予定されている金大中韓国大統領の訪日に合わせて韓国側が「過去の清算」を求めていることについて「村山談話を基礎にしながら、韓国国民におわびをし、日本の首相としてメッセージを送ることになるのではないか。創氏改名はじめ日本語の強制など、具体的に表現してくれという話は聞いていない」と述べた。一九九五年八月に村山富市首相（当時）が主にアジア諸国を対象に「反省とおわび」を表明した「談話」の趣旨を韓国向けに敷衍する方針であることを明らかにする一方、創氏改名や日本語の強制など具体的事例に言及しない方向で調整していることを示した。

また、外務省の柳井俊二事務次官は二十八日の記者会見で、「反省とおわび」を日本側が表明する場について「日韓首脳会談で発言することもあるだろうし、包括文書の中でも何らかの言及があると思う」と述べた。

金大中氏への「聴取控えた」

拉致事件で野中氏

野中広務官房長官は二十八日の記者会見で、韓国の金大中大統領が一九七三年に東京都内のホテルから拉致された事件に関連し、「（日本の）警察としては金大中氏から事情を聴くお願いを度々してきたが、私が国家公安委員長の時の金氏の来日では、嫌な思い出を思い起こしたくないとの気持ちを田英夫参院議員から伝えられ、警察は直接聞くことはしなかった。その後もそうなっていると思う」と述べた。野中長官が国家公安委員長を務めていた九五年四月の金氏の正式な来日以来、金氏の意向を尊重して、日本政府が事情聴取を控えていることを明らかにした発言だ。

98.9.29. 東京

『韓国』明記しおわび

日韓共同文書で官房長官

野中広務官房長官は二十八日午後の記者会見で、韓国の金大中大統領の訪日時に発表する共同文書で焦点となっている「過去の植民地支配へのおわびと反省」の表現について、「（一九九五年当時の）村山富市首相の発言を基礎に、韓国国民を想起してメッセージを送ることになる」と述べ、文書に「韓国」または「朝鮮半島」が明記されるとの見通しを示した。村山首相（当時）の談話は「植民地支配と侵略によって多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に多大の損害と苦痛を与えた」とし、「痛切な反省と心からのおわび」を表明したが、対象となる国名は盛り込まれなかった。

韓国側は、一九九三年に訪韓した細川護熙首相（当時）が、植民地支配への「反省とおわび」を表明したことを評価しているが、野中長官は「（共同文書に）具体的なものを入れてもらいたいという注文は聞いていない」と述べた。

お断り　「この人」は休みました。

98.9.29. 読売

日韓共同文書は「村山談話」基礎

官房長官表明

野中官房長官は二十八日の記者会見で、金大中大統領の来日時に発表する日韓共同文書について、「（一九九五年の）村山首相の八月十五日の発言を基礎にしながら、韓国国民に日本の首相としてメッセージを送ることになる」と述べた。これは、共同文書の歴史認識に関する記述は、アジア諸国に対して過去の植民地支配と侵略の「おわび」と「反省」を明言した「村山談話」を、韓国向けに書き換える方向で調整していることを明らかにしたもの

98. 9. 30. 朝日

社説

日韓に真の新時代を

金大統領来日

韓国の金大中大統領が、来月七日に国賓として初めて来日する。

日本をよく知る大統領の来日を歓迎するとともに、この訪問を、日韓間に真の新時代を切り開く契機としたい。

金大統領は来日の最大の目的を、日韓の歴史認識の落差を埋め、「二十一世紀に向けた日韓両国のパートナーシップ」を築くことに置いているという。

そのためにどうすべきか、大統領は雑誌『世界』とのインタビューで、おおむね次のように自らの考えを述べている。

「日本も韓国も歴史をはっきり、勇気を持って見つめるべきです。日本はアジアで犯した過ちがあったら、それをはっきり認めるべきです」

「逆に私たちも、ただ侵略された、悪い悪いとばかり言わないで、なぜ我々が侵略されるような弱い国になったかを反省しなければいけないと思う」

こうした認識は、歴代の韓国の指導者にはなかった冷静なものだ。この上に立って大統領は、日本の率直な謝罪と反省を込めた共同文書の作成を望んでいる。

外交当局間ではすでに、その文案づくりが進んでいる。強く望みたいのは、日本はこうした韓国側の変化を真剣に受け止めて、十分にこたえていかなければならない、ということだ。

植民地支配に対する謝罪と反省は、これまでも両国の首脳会談のたびに、日本側が繰り返し表明してきた。

一九九〇年に盧泰愚大統領が来日した際には、天皇が「痛惜の念」を表明した。九三年には細川護熙首相が、植民地支配による母国語教育の禁止や創氏改名、従軍慰安婦、徴用などに触れ、「加害者として心から反省し、深く陳謝したい」と述べた。

にもかかわらず、たびたび日韓の間が「歴史認識」をめぐって紛糾したのは、主として日本側に問題があったためだ。「日本はよいこともした」などと植民地支配を肯定するような閣僚の発言があとを絶たず、韓国の強い反発を招いた。

結局はその閣僚が発言を撤回し、表面的には決着することが多い。しかも、韓国では反日感情が高まり、その跳ね返りで日本国内にも「嫌韓」感情が増幅された。

この悪循環に、はっきりと終止符を打つことが真の新時代への道である。

その出発点はやはり、三十六年にわたる日本の植民地支配が、朝鮮半島の人々に大変な苦しみと悲しみをもたらしたことを、一人一人がしっかり認識することだ。

そこをきちんとせずに、「どこまで謝罪すればいいのか」と言いたてたり、国際的に通用しない歴史観をふりかざしたりすることは、日韓関係を損なうだけでなく、日本のためにもならない。

戦後五十年を機に発表された村山富市首相の談話は、「アジア諸国」を対象に、「歴史の事実を謙虚に受け止め、痛切な反省の意と心からのお詫びの気持ち」を表明した。この村山談話の精神を、より具体的に表明する必要があろう。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の「テポドン」発射で、朝鮮半島をめぐる状況は厳しさを増した。韓国の経済も危機的状態にある。こうした時こそ、日韓は緊密に手を携えていかなければならない。

文化交流や若い人々の往来の拡大で、相互理解を深めたい。そして、二〇〇二年のサッカーワールドカップ（W杯）の共催を成功させる基礎を築こう。

98.9.30.朝日

村山談話基に過去清算
政府の方針を
韓国側が評価

【ソウル29日＝樋村隆】韓国政府当局者は二十九日、日本の野中広務官房長官が前日の記者会見で金大中大統領が十月に訪日する際の「過去の清算」問題についての日本側の対応について、「村山談話を基礎にしながら、韓国国民におわびをし、日本の首相としてメッセージを送ることになるのではないか」と述べたことを肯定的に評価した。

この当局者は「大きく反対する理由はない。共同宣言に謝罪を盛り込むことが基本で、首脳会談でも日本側の立場が伝達されることになるだろう」と説明した。

外政審議室長を派遣
韓国側と調整へ

政府は二十九日、来月七日から予定されている金大中大統領の来日の際に日韓両国政府がとりまとめる「共同文書」の内容などを韓国側と調整するために登誠一郎・内閣外政審議室長を韓国に派遣した。

98.9.30、日経

「天皇」の呼称 6割が容認

韓国紙が対日世論調査

日本の天皇を「日王」や「日皇」と呼ぶことの多い韓国で、「天皇」と呼ぶことについて大割が「仕方ない」と考えていることが韓国の有力紙、中央日報の日韓関係に関する世論調査で明らかになった。韓国政府は十月七日の金大中大統領訪日を前に「天皇」の呼称を公式に使用することを決めたが、一定の支持があることを裏付けた形だ。

三十日付の同紙（早版）によると、調査は二十歳以上の男女千二人を対象に実施。天皇の望ましい呼称は「日王」四六・四%、「日皇」二〇%、「天皇」一九%の順だった。しかし、天皇と呼ぶことについては六〇・四%が「仕方ない」と答え、「望ましくない」は三六%だった。

学生は経済支援を期待

一方、大学生千人を対象にした調査では、今回の大統領訪日の懸案は何かとの質問に対し、五〇・六%が「日本の金融支援と投資拡大」と回答。「過去への謝罪」は一六・三%、「日本文化開放」は一一・七%にとどまり、韓国人の対日観が「名分より実利重視」（中央日報）に変わりつつあると分析している。

（ソウル＝伊集院敦）

98. 9. 30. J. T. (2面)

Korean-war pension revision urged by court

The Tokyo High Court on Tuesday urged the government to revise a 1951 law to allow public injury pension payments for South Korean permanent residents of Japan who worked for the Japanese military during World War II.

The request was made in a ruling that upheld a lower court decision dismissing demands for pensions for two South Korean residents — Sok Song Gi, 76, of Yokohama, and the late Chin Sok Il, who is now represented by his son and his son's wife.

Despite the dismissal, presiding Judge Yasuo Kakei urged the government to "revise the law" to help South Korean residents like Sok and Chin who "are currently left aside by both the Japanese and South Korean governments in terms of compensation."

Kakei attributed the dismissal of the pension claims to a 1951 law that limits recipients of wartime-injury pensions to those with "family registration" in Japan — which means Japanese citizens.

KOREAN RESIDENT Sok Song Gi and supporters enter the Tokyo District Court on Tuesday.

But he said the court "fully understands the feelings of Sok and others who are neither responsible nor to be blamed."

"There are not many people in the same position, and there are no financial reasons for refusing compensation," Kakei said.

In its earlier dismissal of the case, the lower court blamed the situation on "a lack of legislation that should have been there already."

The high court ruling and similar decisions in higher and lower courts in Tokyo in June and July are putting pressure on the Health and Welfare Ministry to revise the law.

訪日 7일前 '과거사' 매듭 막판진통

10월7일로 예정된 김대중대통령의 국빈방일을 앞두고 한일 양국사이에 과거사 문제를 매듭짓기 위한 절충이 숨가쁘게 벌어지고 있다. 양국은 「21세기를 향한 새로운 파트너십 공동선언」에서 과거사문제에 대해 우리측이 납득할만한 수준의 언급을 담아 이 문제에 대한 마침표를 찍을 예정이다. 그러나 과거사문제의 일본 교과서 수록 등을 놓고 양측 의견이 엇갈리는 등 막판 진통을 거듭하고 있다.

■ 우리측 입장

마음에서 우러나오는 반성 기대
교과서 문제는 집요요구 않을듯

우리측은 일단 일본이 먼저 마음에서 우러나오는 성의있는 입장을 표명해줄 것을 바라고 있다. 이와관련, 정부당국자는 29일 『노나카 히로무(野中廣務) 일본관방장관이 28일 양국정상회담 또는 「21세기를 향한 새로운 파트너십 공동선언」을 통해 한국국민과 일제시대를 명시해 과거사반성문제를 언급하기로 한 것을 긍정적으로 평가한다』고 밝혔다. 이 당국자는 『아직까지 일본이 이같은 방침을 우리정부에 공식 통보해오지는 않은 상태이지만 앞으로 협상에 속도가 붙을 것으로 본다』고 전망했다.

실제로 홍순영(洪淳瑛)외교통상장관은 28일 기자간담회에서 『과거사문제는 국민정서 등 여러문제가 결부된 것인 만큼 정부의 의지로만 매듭지어지는 것이 아니다』며 『일본이 과거사에 진심으로 반성하는 모습을 보여주려면 일본교과서에 과거사의 진실을 반영해야만 할 것』이라고 밝혔다. 또 다른 정부당국자도 『일본측이 한편으로는 반성하는 모습을 보이면서도 간헐적으로 이를 부인하는 망언이 계속되는 사태를 방지하기 위해서는 학생들에게 과거사에 대한 진실을 제대로 가르치는게 더욱 중요하다』고 강조했다. 하지만 그는 교과서수록 문제를 집요하게 요구하지는 않을 방침이라고 덧붙였다. /윤승용기자

■ 일본측 입장

95년의 무라야마 담화 기본틀로
공동선언에 직접 '한국' 명기할듯

일본 정부는 김대중(金大中) 대통령의 방일시 「21세기를 향한 새로운 파트너십」 공동선언에 「식민지 지배의 불행한 역사」를 언급하는 한편, 오부치 게이조(小渕惠三)총리가 직접 한국 국민을 겨냥, 「반성과 사죄」의 연설을 행하는 방향으로 조정하고 있다.

현재 일본이 검토중인 「수준」은 역대 사죄발언 중 가장 나은 것으로 평가받는 95년 「무라야마 담화」를 기본틀로 할 것으로 알려졌다. 95년 당시 무라야마 도미이치(村山富市) 총리는 담화를 통해 『식민지지배와 침략으로 많은 나라, 특히 아시아 각국민에게 커다란 손해와 고통을 주었다』면서 『통절한 반성과 마음으로부터의 사죄를 표한다』고 밝혔다. 당시 한국측으로부터 제대로 평가받지는 못했지만, 이 담화는 국민을 대표한 일본 총리가 가해행위를 명백히 했다는 점에서 진전된 내용이었다.

일본정부는 이 담화가 아시아 피해국 전체를 대상으로 한 것이므로 이번에는 한국만을 대상으로 가해·피해 관계를 분명히 밝히는 쪽으로 표현을 조정하고 있다. 또 「과거」가 너무 강조될 경우 미래지향적 성격이 퇴색한다는 점에서 공동선언에서는 「불행한 과거」에 대한 유감을 표하는 선에서 그치고 총리 연설을 통해 직접 한국민에 「깊은 사죄」를 행한다는 방침이다. /도쿄=황영식특파원

訪日7日前「過去史」区切りへの最終局面

１０月７日に予定されている金大中大統領の公式訪問を前に、韓日両国の間で過去史問題に区切りをつけるための折衝が、休む間もなく繰り広げられている。両国は「２１世紀に向けての新しいパートナーシップ共同宣言」にて、我が国側が納得しうる水準の言及を盛り込み、過去史問題に終止符を打つ予定である。しかし、この問題の日本の教科書への収録等の点で両国の意見が食い違い、最終局面において産みの苦しみを味わっている。

■我が国の立場

心から湧き出る反省を期待　教科書問題は重要要求ではない

我が国の側はまず日本が心からの誠意ある立場を表明してくれることを望んでいる。これと関連して政府当局者は２９日に「野中官房長官が２８日の会見で両国首脳会談、または「２１世紀に向けての新しいパートナーシップ共同宣言」の場にて韓国国民と日帝時代を明示して過去史問題に言及すると決定したことを肯定的に評価する。」とし、「まだ日本がこのような方針を我が国の政府に公式的に通報してきたわけではないが、これからの交渉上で道が開かれることと思う。」とも語った。

実際に洪淳瑛外交通商部長官は２８日の記者懇談会で「過去史問題は国民感情等の様々な問題が付帯しているので、政府の意志でのみ区切りをつけうるものではない。」とし、「日本が過去史について心から反省する姿を見せようというのならば、日本の教科書に過去史の真実を反映させなければならない。」と語った。また別の当局者は「日本側が一方では反省の姿を見せながらも、間欠的にこれを否認する妄言が繰り返される事態を防ぐためには学生に過去史の真実についてありのまま教えることがより重要である。」と強調した。しかし、彼は教科書収録問題を執拗に要求はしない方針であると付け加えた。

■日本側の立場

95年の村山談話を基本に共同宣言に直接「韓国」を明記

日本政府は金大中大統領の訪日時に「２１世紀に向けての新しいパートナーシップ共同宣言」共同宣言に「植民地支配の不幸な歴史」に言及する反面、小渕恵三総理が直接韓国国民にあてて「反省と謝罪」の演説を行う方向で調整をしている。

現在日本が検討している「水準」は歴代謝罪発言のうちでもっとも評価を受けている「村山談話」を基本としたのとしている。９５年村山当時首相は談話を通じて「植民地支配と侵略によって多くの国々、特にアジア各国の国民に多大な損害と苦痛を与えた」とし、「痛切な反省と心からの謝罪を表明する。」と語った。当時韓国側からは評価されなかったが、この談話は国民を代表する日本総理が加害行為についてを明白にしたという点で進展した内容であった。

日本政府はこの談話がアジアの被害国全体を対象にしたものであるので、今回は韓国だけを対象に加害・被害関係を明らかにする方向で表現を調整している。また、「過去」が強調されすぎると未来志向的な性格が色褪せるという点への配慮から、共同宣言では「不幸な過去」に対して遺憾を表明する線で終え、総理演説で直接韓国国民に「深い謝罪」を行うという方針である。

（韓国日報　９月３０日　４面）

98.10.1. 東京

『恨の日韓』解消へ意欲

金大統領 経済支援獲得も狙う

解説

韓国の金大中大統領は三十日、ソウル駐在の日本人記者団と懇談したが、十月七日からの訪日で、日本の植民地支配以来の「恨の日韓関係」解消に強い意欲と使命感を示した。

韓国の歴代大統領は就任に当たって、政権の正統性を強調し、初の日本訪問ではまず「歴史の清算」を要求する。金大統領の場合、「哲学者政治」（周辺）といわれるほどの知性と読書量を誇り、歴史に一家言を持っている。

しかも、民主化運動で軍事政権に弾圧された経験もあるだけに、自己の政権を「五十年ぶりの与野党政権交代で初めて実現した真の国民の政府」と位置付けている。過去の政権では歴史清算が不十分との意識が強く、今回の訪日ではまず、「過去の清算」を実現させようとの意気込みが強い。

それは「清算自体が目的ではなく、恨の歴史を脱して未来志向の関係を構築するため」（周辺）との思いがあるようだ。この懇談で天皇陛下の訪韓、日本大衆文化の開放などを明示したのも、このような前向きの政策を実現するためにこそ、過去の清算が必要との認識からとみられる。

ただ、「哲学者とリアリストが同居する人格」（周辺）

交渉例上、仕方がない」が六〇・四％に達するなど、現実的な対応も見せている。

先日妥結した日韓漁業交渉について「不満」が四〇・一％で、「満足」三七・八％を上回ったが、この妥結が「今後の韓国の利益になる」との回答が四八・二％を占めた。

韓国世論調査

対日感情は悪い56％

現実的な対応も

天皇の呼称容認60％

【ソウル30日武田安弘】韓国の有力紙「中央日報」は三十日、二十歳以上の一千二人を対象にした電話世論調査（二十六日実施）の結果を報道した。

「対日感情は悪い」との回答が五六・二％もある一方で、金大中大統領の訪日を機に天皇陛下の呼称を従来の「日王」から「天皇」に変えることに、「外

"日, 식민지배 사죄" 첫 문서화

韓日 공동선언 내용합의
자민당 일부선 신중론도

【도쿄=황영식특파원】 김대중(金大中)대통령 방일시 발표될 공동선언의 주요 내용이 합의됐다고 일본 요미우리(讀賣)신문이 30일 보도했다.

이 신문은 한일 양국이 「과거의 역사」와 「현재」를 정리, 「21세기를 향한 새로운 파트너십」을 구축할 결의를 표명하고 구체적인 협력분야로서 아시아 경제위기를 고려한 경제협력 강화, 양국간 대화통로 확대 등을 정했다고 밝혔다.

이 신문은 일본측이 「과거의 식민지 지배에 대해 통절한 반성과 마음으로부터의 사죄」를 공동선언에 담을 예정이라며 한일양국이 공동작성한 문서에 「식민지 지배 반성과 사죄」가 들어 가는 것은 처음이라고 덧붙였다.

그러나 자민당내에 「공동문서에 담지 말고 총리가 회담석상에서 표명해야 한다」는 신중론도 일고 있어 조정이 필요하다고 이 신문은 지적했다.

공동선언은 ▲정상회담의 성격 ▲과거의 역사 ▲현재의 양국관계 ▲양국이 보는 세계정세와 21세기를 향한 새로운 파트너십 ▲양국간 대화통로 확대 ▲국제사회의 평화와 안전을 위한 협력 ▲경제협력 강화 ▲지구문제에 대한 협력 강화 ▲국민 및 문화교류 ▲양국민에의 호소 등 10항목으로 구성된다.

「日、植民地支配謝罪」初めて文書化

韓日共同宣言の内容合意
自民党の一部には慎重論も

金大中大統領の訪日時に発表される共同宣言の主要内容が合意されたと読売新聞が３０日に報道した。

同紙は韓日両国が「過去の歴史」と「現在」を整理、「２１世紀に向けての新しいパートナーシップ」を構築する決議を表明し、具体的な協力分野としてアジアの経済危機を考慮した経済協力の強化、両国間対話通路の拡大等を決めたと報道した。

また、日本側が「過去の植民地支配について痛切な反省と心からの謝罪」を共同宣言に盛り込む予定であり、韓日両国が共同作成した文書に「植民地支配の反省と謝罪」が載せられるのは初めてであると付け加えた。しかし、自民党内で「共同文書には盛り込まずに総理が会談の席上で表明しなければならない」という慎重論が起きており、調整が必要であると指摘してもいる。

共同宣言は▲首脳会談の性格▲過去の歴史▲現在の両国関係▲両国の展望する世界情勢と２１世紀に向けての新しいパートナーシップ▲両国間対話通路の拡大▲国際社会の平和と安定のための協力▲経済協力の強化▲地球問題についての協力の強化▲国民及び文化の交流▲両国民への呼びかけ等１０項目で構成される。（韓国日報　１０月　１日　３面）

日언론인들과 오찬 김대중대통령이 30일 청와대에서 모리 치하루 요미우리신문 특파원(김대통령 왼쪽) 등 주한 일본특파원단과 오찬간담회를 갖고 한일양국 현안에 대한 견해를 밝히고 있다. /신상순기자

金대통령 "訪日 과거청산 계기 기대"

도쿄납치 공식언급 않을것

김대중(金大中)대통령은 30일 『이번 일본 방문이 한국과 일본 양국 사이에 더 이상 갈등이 없도록 과거를 청산하고 진정한 이해와 협력을 이루는 계기가 돼야 한다는 점을 마음 깊이 새기고 있다』고 말했다.

김대통령은 이날 청와대에서 주한 일본 특파원단과 오찬 간담회를 갖고 『나의 충정을 의회 연설을 통해서 솔직하고 성실하게 밝힐 예정』이라며 『오부치 게이조(小渕恵三)일본총리도 열의를 갖고있는 만큼 방일은 성공할 것으로 기대하고 있다』고 밝혔다.

한편 김대통령은 방일중 「도쿄(東京)납치 사건」에 대해 공식적인 언급을 하지 않을 것으로 알려졌다. 박지원(朴智元)청와대대변인은 이날 『김대통령은 이번 일본방문에서 자신이 당사자인 납치사건에 대해 구체적 언급을 하지 않을 것으로 안다』면서 『그러나 재발방지 차원에서 진상규명 노력은 필요하다는 김대통령의 입장에는 변함이 없다』고 강조했다. /유승우기자

（写真の説明）

日本の報道関係者と昼食会

金大中大統領が３０日に青瓦台 で森読売新聞特派員ら駐韓日本特派員団と昼食歓談会を持ち、韓日両国間の懸案についての見解を語っている。

金大統領「訪日が過去清算の契機となることを期待」

拉致事件について公式的な言及はしない見込み

金大中大統領は３０日「今回の日本訪問が韓国と日本両国間にこれ以上の摩擦が起きないよう、過去を清算し正しい理解と協力関係を作るための契機とならねばならぬという点を心に強く刻んでいる。」と語った。

金大統領はこの日青瓦台で駐韓日本特派員団と昼食歓談会を持ち、「私の真心を議会演説を通じて率直且つ誠実に表明する予定」とし、「小渕恵三総理も熱意を持って臨んでいてくれるので訪日は成功することと期待している。」と述べた。

一方で、金大統領は訪日中「東京拉致事件」について公式的な言及はしない見込みであると伝えられた。朴智元青瓦台スポークスマンはこの日「金大統領は今回の訪日で自身が当事者である拉致事件について具体的な言及はしないと聞いている。」としながら、「しかし、再発防止のレベルで真相究明の努力は必要であるという金大統領の立場には変わりない。」と強調した。 （韓国日報　１０月　１日　２面）

98. 10. 2

金大中大統領来日　元慰安婦問題曲がり角に

韓国の金大中（キム・デジュン）大統領の7日からの来日を前に、元慰安婦への償いと支援を目的とするアジア女性基金（原文兵衛理事長）の存在意義が問われている。韓国政府が元慰安婦への生活支援は韓国が行うとして今年5月から支援金の支給を始め、基金による一時金（償い金）支給が中断状態に陥っているからだ。基金側は国内における援助支援の実態調査など「女性尊厳事業」の推進に意欲を示すが、主目的が達成できない現状を踏まえて大幅見直し論も出ている。大統領来日を きっかけに日韓両国間でどのような協議が行われるのか。いずれにせよ、元慰安婦問題への対応は大きな曲がり角を迎えようとしている。

揺れる「女性基金」の意義

こうした揺り上げて日本政府に謝罪と補償を求める韓国人元慰安婦ら。日本国民の善意に支えられたアジア女性基金の「償い金」支給事業は、今年5月から韓国政府による生活支援金支給が始まったことで完全に宙に浮いた=平成10年4月、ソウルの日本大使館前（AP）

一時金支給中断状態　大幅見直し論も

■韓国の反発

韓国の反発は、女性基金が昨年一月に韓国人元慰安婦七人に「償い金」を支給したことを明らかにしたのをきっかけに急速に広がった。慰安婦問題は「基本的に日本人の高齢であることを思い、一刻も早くその気持ちにおこたえすべきだ」との厳しい批判を繰り返したという。また、金大中政権も今年五月に、元慰安婦と認定した約百五十人への支援金支給を始めた際、女性基金の一時金を受け取った七人を対象から除外、支援金支給の条件として、基金の一時金を受け取らないという書約書を書かせた。

このため、女性基金は「プライバシー保護が必要」と判断し、以後、支給件数や国籍を公表しておらず、窓口数や元慰安婦の数などを知ることができない状態になっている。

韓国政府は「償い金」支給が中断状態に陥ったことを受けて、基金の一時金を受け取らない人を対象とする生活支援金の支給を始めた。

韓国の元慰安婦の生活支援は、韓国が行うとして、日本側は「国家補償すべきだ」と主張、韓国外務省も国内世論を重視し、「償い金支給に対して『わが政府と大多数の被害者の要求を無視した』と遺憾の意を表明した。何より、一時金を受け取った人の活動実態を知ることができなくなっている。

■日韓基本条約

十年以上にわたる交渉の末、昭和四十年（一九六五年）に結ばれた日韓の請求権・経済協力協定。日本が韓国に当時の金額で二千八百億円（三億ドル）分の生産物・役務を無償供与、七百二十億円（二億ドル）を長期、「両国及び国民の財産、権利、利益、請求権に関する問題が、完全かつ最終的に解決された」ことを日韓間に確認した事由に基づくものに関しては、いかなる主張もすることができない」ことが確認された。

■大統領の思惑

今回の大統領来日にあたって、日韓両国には北朝鮮のミサイル発射問題への緊密な連携を確認するという雰囲気があり、韓国側には日本から経済支援を引き出したいという思惑もある。

国家間の賠償問題は昭和四十年の日韓基本条約で決着済みであることを韓国側も認めており、「意識金」などでは、慰安婦問題は韓国側も取り上げたくないようだ」（外務省幹部）という観測がある。

女性基金は韓国人元慰安婦への一時金支給が中断状態に陥ったあとの今年六月、韓国政府による支援金と女性基金による一時金の併存を求める要請書を金大統領あてに送った。しかし、返事がないばかりか、大統領は月刊誌『世界』十月号に掲載されたインタビューで、「そういうものをもらうべき、この本筋をすり替えることになる」と、基金の一時金受け取りに強く反対する考えを明らかにした。

こうした状況にあることについて、女性基金の伊勢崎代表事務局長は「償い金各自で拒否したものを、ほかに回すわけにもいかず、韓国の元慰安婦への一時金支給は終わったことにはできない。両国政府の話し合い調整を静かに待ちたい」と述べ、政府間交渉しか事態打開の方法がないことを強調している。

■女性基金の現状

アジア女性基金は元慰安婦への償い事業として、「お詫び」と「償い」の両面から成り立っている。

政府補償を求める元慰安婦による訴訟が相次ぎ、日韓基本条約で日本側に「法的な責任」は無いが、「道義的」におわびの気持ちを示す必要があると政治判断したためだ。

国民から寄せられた一時金の原資は約四億八千三百万円、政府も「事業経費」名目で年間約四億円を拠出している。一人あたり二百万円の一時金を受け取ったのは、韓国、フィリピン、台湾を合わせて八十五人。フィリピンでの一時金支給事業は順調で、インドネシア、オランダでは元慰安婦への個人補償を求めたために一時金支給を行っていないが、日本政府が元慰安婦の医療・福祉を支援する事業の推進し役を女性基金が務めている。同様は韓国と台湾で、「道義的」基金事業は、政府による補償を回避するための「ごまかし」と受け止められ、政府や民間の元慰安婦支援団体の強い反対で一時金支給が難航に陥りつけている。

■慰安婦問題の経緯

女性基金の資料調査に協力した横浜市立大教授は「一時金とは国家の支援金を韓国政府が出すのだから、元慰安婦への支援目的は達成されたと」として、韓国人慰安婦への一時金支給事業から撤退することを提案する。

また、韓国政府・支援組織による支援金の問題に、一時金を支給する方針についても、韓民は「金の二重、三重取りになっても支給したいと、なぜ韓国政府は一時金を受けたいという希望を聞いている」（外務省幹部）と反論するが、韓民は「国家主権を最も強く主張する韓国の状況を、女性基金がどこにかの支援目的は達成されたと」としてきるのか」とはねつける。

また、韓国政府・支援組織による支援金の問題に、一時金を支給する方針についても、韓民は「金の二重、三重取りになっても支給したいと、なぜ韓国政府は一時金を受けたいという希望を聞いている」（外務省幹部）と反論するが、韓民は「国家主権を最も強く主張する韓国の状況を、女性基金がどこにかの支援目的は達成されたと」としてきるのか」とはねつける。

また、韓国政府・支援組織による支援金の問題に、一時金を支給する方針についても、韓民は「金の二重、三重取りになっても支給したいと、なぜ韓国政府は一時金を受けたいという希望を聞いている」（外務省幹部）と反論するが、韓民は「国家主権を最も強く主張する韓国の状況を、女性基金がどこにかの支援目的は達成されたと」としてきるのか」とはねつける。

■歴史事実の解明を

一方、「現代コリア」編集長の東京外国語大助教授の西岡力氏は、女性基金に「一時金支給と同時に事実関係の解明を求める。

西岡氏は、文部省教授で「侵略」が「進出」と改められたと報道されたが、のちに誤報と分かった昭和五十七年の「教科書問題」事件」以降、歴史認識が韓国や中国の「対日外交カード」となった点を指摘、女性基金がそのようなかけ文で主張している「歴史の事実の解明」に取り組むことを強調する。

西岡氏は「金泳三（チョン・ドゥファン）政権は、『歴史認識を持ち出した』日本政府が反論しなかったため、やがて、慰安婦の政府命令による強制連行や強姦と従軍慰安婦の徴用など、事実でないことまで韓国の若い世代にとっては史実になった」と分析、「間違ったイメージに きちんと反論しない限り、無責任な言説が、ごまかしといわれる。女性基金はまず、韓国を挑く活動をすべきではないか」と問いかけている。

98.10.2. 読売

安保対話や首脳交流

10/2 '98 読売

日韓「行動計画」の全容判明

金大中・韓国大統領の七日からの来日にあわせて日韓両国が発表する「二十一世紀に向けた日韓パートナーシップ実施のための行動計画」の全容が一日、明らかになった。両国が未来志向の関係を築くための具体的取り組みとして、日韓安全保障対話や首相・大統領間の交流の緊密・定期化、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核兵器開発抑止のための協力など四十一項目を列挙している。両国の「過去の歴史」の総括などを盛り込んだ「日韓共同宣言」とともに、八日の日韓首脳会談で合意される運びだ。

行動計画は、共同宣言を肉付けする内容で、「両国の対話チャンネルの拡充」「国際社会の平和と安全のための協力」「経済面での協力関係強化」「地球規模問題に関する協力強化」「国民交流及び文化交流の増進」の五分野で構成される。

（行動計画の骨子4面）

一日明らかになった「二十一世紀に向けた日韓パートナーシップのための行動計画」の骨子は次の通り。

（本文記事1面）

【両国の対話チャンネルの拡充】▽首脳間の交流の緊密・定期化▽外相・その他の閣僚間の交流の緊密化▽閣僚級懇談会の開催▽議員交流（議連活動）▽若手外交官の相互派遣

【国際社会の平和と安全のための協力】▽国連での協力▽軍縮及び不拡散問題での協力▽日韓安全保障対話▽日韓防衛交流の増進▽日韓捜索救難共同訓練の実施▽多国間の地域安全保障対話における協力▽南北関係の改善及び朝鮮半島の平和と安定の維持のための協力▽朝鮮半島情勢に関する日韓政策協議の強化▽北朝鮮の核兵器開発抑止のための協力▽アジア・欧州対話での協力

日韓行動計画の骨子

【経済面での協力関係強化】▽自由で繁栄した世界経済実現のための協力▽両国間の経済面での協力関係の強化▽対韓国経済支援▽日韓投資交流▽日韓漁業協定▽日韓租税条約▽産業技術分野での協力▽科学技術分野での協力▽情報通信分野での協力▽知的所有権分野での協力▽電子商取引分野での協力▽産業分野での協力▽政労使交流の活性化▽社会保障分野での協力▽自然・人的災害の軽減のための協力▽両国経済人交流の拡大

【地球規模問題に関する協力強化】▽環境分野における協力▽救助分野における協力▽麻薬・犯罪捜査・刑事司法分野における協力

【国民交流及び文化交流の増進】▽サッカーの二〇〇二年ワールドカップ及びこれを契機とした国民交流事業▽日韓国民交流の促進▽青少年交流の拡大▽学術交流▽地方間交流▽文化交流

98.10.2. J.T. (2面)

Korean victim of A-bomb sues for aid resumption

OSAKA -- A South Korean man who suffered injuries in the 1945 atomic bombing of Hiroshima filed a lawsuit Thursday against the Japanese government and Osaka Prefecture, demanding they rescind their earlier decision to stop paying him medical allowances because he returned to his home country.

In the lawsuit filed with the Osaka District Court, Kwak Kwi Hun, 74, also demanded ¥2 million in damages from the government, which rejected the allowances, saying laws for atomic bomb victims apply only to those in Japan.

Kwak left Japan after the end of World War II, but returned in May to receive medical treatment in Matsubara, Osaka Prefecture, his supporters said.

He was recognized as a survivor of the August 1945 atomic bombing and was given treatment free of charge.

In June, the Osaka Prefectural Government decided to give Kwak ¥34,000 per month for five years in medical allowances, but stopped the payments in August after he returned to South Korea on July 5, they said.

When Kwak demanded the payments be continued, the prefecture explained that the Health and Welfare Ministry determined in 1974 that laws for atomic bomb victims do not apply to those living outside of Japan, the supporters said.

The prefectural government said the ministry's decision still stands although it was made before the current Atomic Bomb Victims Relief Law was established, they said.

The supporters said the current law stipulates that victims lose the right to receive the allowances only if the determined terms of payment expire or if the victims' illnesses are cured.

98.10.4. 日経

日韓、地球規模の問題協力

大統領7日来日「過去清算」に意欲

金大中韓国大統領が七日、就任後初めて来日する。八日の小渕恵三首相との会談では日韓両国が二十一世紀に向けて政治、経済、安全保障の面だけでなく、環境など地球規模の問題でも協力する「グローバル・パートナー」となることで合意し、共同で宣言する。両国の過去、現在、未来の課題にそれぞれ向き合いながら「日韓新時代の幕開け」をアピールできるかどうか。首脳会談のポイントと展望を探った。

□歴史認識

「日本との過去を明確に清算したい」。大統領は今回の訪日を前にこう繰り返してきた。日本から日韓併合などへの謝罪の言葉を引き出す一方で、韓国も映画や教科書で代表される日本の大衆文化を解禁、「国民レベルの真の和解」にとどめを刺すW杯サッカー・ワールドカップ

金大中大統領

共催や天皇陛下のご訪韓につなげる――。歴史認識問題で摩擦が続いてきた両国関係の発展にこんなシナリオを描いているようだ。

注目されるのは大統領が「一日も早く実現したい」とする天皇ご訪韓の問題。天皇ご訪韓は盧泰愚、金泳三の歴代大統領が直接招請しながらこれまで先送りされてきた日韓関係で最も難しいテーマの一つだ。逆に実現への道筋をつけられれば日韓関係の「歴史に名を残せる」（日韓関係筋）との気持ちが大統領を駆り立てているとみられる。

日本側も大統領の対日関係発展に向けた熱意を受け止め、両国関係の今後のあり方を示す共同宣言には、九五年の村山首相談話を踏襲する形で過去の「侵略」を認め、「痛切な反省と心からのおわびの気持ち」が盛り込まれる予定だ。従来なら韓国側は既存の文書の枠を出ない表現には反発していたが、今回はそうした声は影を潜めている。

□経済問題

韓国側が今のところ歴史認識問題で声高な主張をしない背景には、日本の最大の関心事である経済再建のために日本の協力を取り付けたいとの思惑もありそう。日本側も韓国側の事情をくんで、共同宣言の具体的な裏付けとしてまとめる「行動計画」には「対韓国経済支援」の目玉として日本輸出入銀行による三十億ドルの追加融資を含めた。

ただ日本側も金融システム不安の深刻化、株式市場の落ち込みなど不況は泥沼の様相を示している。小渕首相も韓国への支援表明よりも、アジア経済・金融危機への両国の共同対処に力点を置く公算が大きい。

□対北朝鮮政策

安全保障問題では北東アジアの平和と安全に向けた協調が課題となるが、具体的には朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）への対応が最大の焦点となる。十一月中下旬にクリントン米大統領をそれぞれ迎える両首脳のキーワードは「日米韓の緊密な連携」。二十一日からの米韓中朝の四カ国協議や進行中の米朝協議をにらんで、北朝鮮にQ南北対話推進のミサイル実験、開発、輸出中止といった目に見える措置――を日韓共同で呼び掛ける見通しだ。

大統領は南北間の対話と交流を目指す「太陽政策」が持論。北朝鮮を国際社会に引き込むためにも朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）の軽水炉事業の早期実施に理解を求める構え。一方、首相が北東アジア地域の信頼醸成のための「検討課題」として、四カ国協議に日ロ両国を加えた六カ国協議の開催を提起する可能性もある。

98.10.4. 毎日

「歴史認識」村山元首相に聞く

日本政府が表明する「歴史認識」は、村山富市元首相＝写真＝が1995年8月に表明した「談話」を踏襲することになる。村山元首相に聞いた。

――首相談話はどのような気持ちを込めて発表したのですか。

村山元首相　「足を踏んだ人間は忘れても、踏まれた人間は忘れない」という言葉がある。過去の歴史に「ほおかぶり」して通ることはできない。植民地支配など（日本が与えた）耐え難い苦痛に対して、政府としての認識を示しておわびすることが必要だった。

――当時は自社さの3党連立政権でした。抵抗も強かったのでは。

元首相　村山内閣の使命は、戦後の未解決の問題を解決することだった。

――金大中大統領の来日で、「過去の清算」は前進すると思いますか。

元首相　前進するんじゃないか。もやもやしたものが払しょくされ、スッキリと互いに理解し合う、21世紀に向けた新しい日韓関係を築いてほしい。

――村山内閣時代に作った「アジア女性基金」は、日韓関係をこじれさせる原因になっています。

元首相　戦後の賠償問題が（65年の日韓基本条約で）済んでいる中で、何ができるかを考えた。素直な気持ちで国民の意思として償いをしたいということだった。韓国、台湾でうまくいってないので、誤解を解いて決着をつけたいと思っている。

「政府としてのおわび必要だった」

98.10.4. 産経（2面）

主張

虚構の独り歩きをただせ

慰安婦新事実

慰安婦に関する新事実が秦郁彦日大教授の調査によって明らかになった。その総数は二万数千人と従来の「五―二十万」説を大きく下回り、内訳も大部分を占めるとされていた朝鮮人女性は二割程度で、日本内地の女性の方が多い―というものだ。教科書執筆者をはじめ、マスコミや政治家もこの調査結果を謙虚に受け止め、虚構をただす努力をしてほしいものだ。

今回、秦教授は政府が集めた三百数十点に及ぶ公式文書を調べ直すとともに、それ以外の外務省資料や警察統計などにもあたった。実証的なやり方であり、信頼度は高い。

これまで慰安婦問題は、謝罪や補償のあり方などをめぐる政治的な主張が先行し、事実の究明がなおざりにされてきた面がある。慰安婦の総数や内訳についても、一部の運動団体や韓国側の主張する数字がマスコミなどで独り歩きしてきた。

例えば、朝日新聞は「従軍慰安婦の総数は八―二十万人で、八割が朝鮮人女性」と繰り返し書いている。毎日新聞は「十―二十万人」、平凡社の大百科事典は「八―十万人」説だ。教科書は数字まで断定的に書いていないが、朝鮮人女性が大部分を占めることを前提にしている。

こうした記述をするなら根拠も示すべきだ。少なくとも誇大な数字を断定的に書くことは避けるべきだろう。

慰安婦問題をめぐる虚構には、このほか、戦時下で「銃後の守り」についた女子勤労挺身隊との混同や、日本の官憲が組織的に慰安婦を集めたとする〝強制連行〟説がある。

今回、来春から高校で使われる教科書を本紙で再点検したところ、女子挺身隊との混同記述が一冊、〝強制連行〟の記述が六冊から見つかった。前者は検定ミスとみられ、後者は、平成五年八月に元慰安婦からの聞き取り調査だけで「強制連行」を認めた河野洋平官房長官談話により検定意見をつけられないためだ。

慰安婦問題の論争が始まって六年余になるが、秦教授は「多数の関係者が血眼で探し回っても見つからないとなれば、『官憲による強制連行』はなかったと断定するのが常識的」と言う。教科書検定は政府見解に基づくのが建前だが、根拠のない政府見解にまで拘束される必要はないのではないか。

どんな問題でも、より正確な事実の把握が前提である。われわれは慰安婦問題にしても、南京事件にしても、あったことをなかったことにしようとしているのではない。あったことをできるだけ正確に、次代を担う子供たちに伝えたいのである。

98.10.4. 毎日

韓国世論、変化の兆し

「清算」より「未来」
心の溝、埋め難いが…

■『21世紀の日韓』
■金大中大統領を迎えて
▷上◁

これ以上、かつてのように無駄な時間を費やすべきか、と問いたくなる。5割近くが「関係改善」と答え、「過去の清算」という答えはわずか12%。韓国政府が「日」と呼んでいた天皇の呼称を「天皇」に改めたことについても、6割以上が「外交上、やむをえない」と割り切った。

韓国世論の変化は、国内の経済危機への支援を獲得したいという現実的な狙いが見え隠れする。

しかし、両国政府間の外交的駆け引きで当面の妥協が図られても、未解決の「心の歴史問題」（韓国外交筋）はいつか再燃する可能性が高い。

元従軍慰安婦への「償い金」支給を行う「女性のためのアジア平和国民基金」の問題もその一つだ。韓国政府は元慰安婦への年内支援を始めた。さらに、その支援金受け取りの条件として、基金からは受け取らない旨の誓約書まで書かせ、基金による事業が暗礁に乗り上げている。

両国政府は、事前の調整作業を通じ、大統領の来日までは、基金問題には触れないことを申し合わせた。「解決へのいい知恵がない」外務省筋）中で、知恵だけが出る結果になりかねないという判断からだ。「心の歴史問題」は、両国民の深層意識と政治的思惑が複雑に絡み合い、解決を一層、困難にさせている。

日韓首脳による共同宣言で焦点となる、過去の歴史に対する言及も、アジア各国に向けて出された1995年の「村山談話」から大きく外れることはなさそうだ。日韓双方とも「過去を乗り越えたい」思いを抱いていても、両国民の間の溝を完全に埋めるにはなお時間が必要だ。状況が変われば韓国側の「揺り戻し」も予想される。

「長きにわたる日韓の友好関係を築かなければならない。苦渋の決断だった」。小渕恵三首相は2日、新たな日韓漁業協定の合意内容に注文をつけるため、首相官邸を訪れた民間の経済関係者にこう説し、理解を求めた。韓国であるからこそ、日韓にはさまざまな課題がつきまとう。

だが、「過去の歴史」が「外交カード」に使われ、一方で首脳会談が外交の成果をアピールする舞台回しになっているだけでは、首相が目指す「友好関係」は生まれない。韓国外交筋は「大事なのは、首脳がたがいに、つて日帰りできる関係を築くことだ」と指摘する。そうした基盤をつくるのも、金大統領の来日の大きな課題の一つだ。

「理解と協力の新時代」を呼びかけ来日する金大中韓国大統領＝ロイター

98.10.4. 朝日

「金大中大統領来日」(上)

ふたつの過去 清算へ試される努力

来日を目前の新たな出発点にしたいという意気込みが、金大中大統領には強い。

九月十九日、日韓の調整役としてソウルを訪れた社民党の田英夫参院議員は、大統領と官邸で会った。

「日本の首相が、日本国民の総意として、韓国の国民に対して過去の植民地支配を謝罪してほしい」。大統領は強い口調で語った。

日本は植民地支配を繰り返し謝罪してきた。それでも、大統領が改めて求める「誠意」には、謝罪や有力政治家から謝罪を否定するような発言が後を絶たなかったという日本側の事情に加え、軍部に頼らず民主的な政権交代で誕生した「正統性のある大統領」として、二十世紀に終止符を打ちたいという思いがある。

深刻な経済危機の克服には日本の協力が必要という事情も、後押ししている。

「過去の問題に反省とおわびの意思をきちんと表明したい」と内々に大統領に伝えてもいる。

[redacted]

来日を目前の新たな出発点にしたいという意気込みが、金大中大統領には強い。

九月十九日、日韓の調整役としてソウルを訪れた社民党の田英夫参院議員は、大統領と官邸で会った。

「日本の首相が、日本国民の総意として、韓国の国民に対して過去の植民地支配を謝罪してほしい」。大統領は強い口調で語った。

日本は植民地支配を繰り返し謝罪してきた。それでも、大統領が改めて求める「誠意」には、謝罪や有力政治家から謝罪を否定するような発言が後を絶たなかったという日本側の事情に加え、軍部に頼らず民主的な政権交代で誕生した「正統性のある大統領」として、二十世紀に終止符を打ちたいという思いがある。

深刻な経済危機の克服には日本の協力が必要という事情も、後押ししている。

意気込みは、大統領が日本文化の開放、天皇訪韓の実現に取り組む姿勢に鮮明だ。「日風」などと呼んでいた天皇に対して、国内の抵抗を押し切って公式に「天皇」の呼称を使うようになったことからも伝わってくる。

小渕恵三首相は、そのメッセージに応じようとしている。大統領来日前の妥結が危ぶまれた日韓漁業協定の改定交渉を、首相が断するという場面をつくって「過去の問題に反省とおわびの意思をきちんと表明したい」と内々に大統領に伝えてもいる。

[redacted]

来日を目前の新たな出発点にしたいという意気込みが、金大中大統領には強い。

九月十九日、日韓の調整役としてソウルを訪れた社民党の田英夫参院議員は、大統領と官邸で会った。

「日本の首相が、日本国民の総意として、韓国の国民に対して過去の植民地支配を謝罪してほしい」。大統領は強い口調で語った。

日本は植民地支配を繰り返し謝罪してきた。それでも、大統領が改めて求める「誠意」には、謝罪や有力政治家から謝罪を否定するような発言が後を絶たなかったという日本側の事情に加え、軍部に頼らず民主的な政権交代で誕生した「正統性のある大統領」として、二十世紀に終止符を打ちたいという思いがある。

深刻な経済危機の克服には日本の協力が必要という事情も、後押ししている。

意気込みは、大統領が日本文化の開放、天皇訪韓の実現に取り組む姿勢に鮮明だ。「日風」などと呼んでいた天皇に対して、国内の抵抗を押し切って公式に「天皇」の呼称を使うようになったことからも伝わってくる。

小渕恵三首相は、そのメッセージに応じようとしている。大統領来日前の妥結が危ぶまれた日韓漁業協定の改定交渉を、首相が断するという場面をつくって植民地支配だけではない。戦後の日韓関係もまた、問い直しを迫られている。

東京で自宅に拉致され、軟禁、投獄、死刑宣告、そして亡命。金氏は韓国の民主化を目指すなかで死の恐怖と向き合ってきた。一方、戦後、韓国を「反共の砦」と位置づけてきた歴代の日本政府と自民党は、経済協力絡みで「癒着」がしばしば取りざたされ、韓国の民主化への支援に熱心とはいえなかった。歴代の大統領の来日と進む「蜜月」の一人は、殷立総会でそう語った。

[redacted]

九月にソウルで開かれた日韓・韓日議員連盟の合同総会。在日韓国人に地方の首長や議員を選ぶ地方参政権を認めることの「法制化に努力する」と、議連が発足して四半世紀にして初めて共同宣明に明記された。戦後の関係に風穴をあけようとする動きのひとつだ。

「一日も早い法律の成立に努力したい」。議連の「在日韓国人地位向上特別委員会」の日本側委員長を務める新党平和の冬柴鉄三幹事長は力を込める。新党平和は近く、衆院に法案を提出する。

在日韓国人の参政権を求める声は、大統領の来日を控えて高まり、金興泰駐日韓国大使は記者会見で「日本に定住するようになった特殊な背景がある」と訴えた。在日韓国人は、日本による植民地支配、強制連行という重い過去を背負っている。

今世紀の締めくくりと、新たな日韓関係の幕開けと。もとより線を引くように歴史が清算できるわけではない。ふたつの過去を生き抜いてきた大統領の来日から、過去を乗り越えていくための努力が真に試される。（政治部・福田 宏樹）

2面に関係記事
10・11面に座談会

98.10.4. 東京

日韓共同宣言

従軍慰安婦に言及しない

聯合通信

【ソウル3日山本勇二】聯合通信は三日、東京発で日本政府消息筋の話として、金大中・韓国大統領の訪日に合わせて発表される日韓共同宣言には、従軍慰安婦問題は言及されないと報じた。首脳会談の議題としても扱われない見通しだという。

韓国人の元慰安婦に対しては、日本の民間団体「女性のためのアジア平和基金」が見舞金を渡す計画を進め一部実施されたが、韓国政府自らが元慰安婦への支援金を支給すると決め、同時に平和基金側に見舞金をやめるよう求めていた。

98.10.4. J.T. (1面)

Seoul gets apology in joint draft

Japan and South Korea have drafted a joint statement with Tokyo expressing a "heartfelt apology" over its colonial rule to pave the way for the two nations to build a "new partnership toward the 21st century," Japanese officials said Saturday.

Prime Minister Keizo Obuchi and South Korean President Kim Dae Jung will issue the statement Thursday, the second day of Kim's four-day visit to Japan, his first as president, the officials said.

It will be Japan's first apology, in the form of a top bilateral statement, over the 1910-1945 rule. Past Prime Ministers Kiichi Miyazawa and Morihiro Hosokawa had expressed only "regret" when they visited South Korea.

In the joint statement, Japan will express "deep remorse and heartfelt apology" to the South Korean people for its colonization of the Korean Peninsula, the officials said.

It copies the expressions used in 1995 by then Prime Minister Tomiichi Murayama, who, in a statement to the people of Asia marking the 50th anniversary of the end of World War II, apologized for Japan's wartime acts and colonial rule.

The statement is in line with Kim's wish to resolve long-standing bilateral disputes over "historical perception gaps," the officials said.

The two leaders will hammer out a blueprint in the statement for cooperation in economic, environment and other wide-ranging areas.

金大統領の日本訪問時、慰安婦に言及はしないことに

韓日両国は、来る７日の金大統領訪日時に発表する共同宣言で、軍隊慰安婦問題について特定した言及はしないことにしたと日本政府の消息筋が３日に明らかにした。

この消息筋はこれによって両国は金大統領と小渕総理の首脳会談でも、慰安婦問題とアジア女性基金問題は議題として挙げられない見込みであると語った。

両国は過去史問題と関連して、共同宣言で去る９５年に村山当時首相の談話水準で「反省と謝罪」を表明することで合意したことで、慰安婦等特定の事案について具体的な言及はせず、一般的に扱うことになったと消息筋は伝えた。

（朝鮮日報　１０月　４日　２面）

金대통령 日本방문때 위안부 언급 않기로

【東京=聯】한-일 양국은 오는 7일 김대중(金大中) 대통령의 일본 국빈방문시 발표할 공동선언에서 군대위안부 문제에 대한 특정한 언급은 하지 않기로 했다고 일본 정부 소식통이 3일 밝혔다.

이 소식통은 이에 따라 양국은 김 대통령과 오부치 게이조(小淵惠三) 총리의 정상회담에서도 위안부 문제와 아시아여성기금 문제는 의제로 삼지 않을 것으로 보인다고 말했다.

양국은 과거사 문제와 관련, 공동선언에서 지난 95년 무라야마 도미이치(村山富市) 당시 총리의 담화 수준에서 「반성과 사과」를 표명하기로 합의함에 따라 위안부 등 특정 사안은 구체적인 언급을 하지 않고 일반적으로 다루기로 했다고 소식통은 전했다.

98.10.6. 毎日

日韓 21世紀への道

金大中大統領来日を前に

韓国の金大中大統領が十二日、日本を訪問する。金大統領は韓日関係の争点を解決し、二一世紀に向かう韓日友好の基礎を作るために日本を訪れる。

韓日両国はこれまで、隣国同士でお互いに助け合い友好であることを確認する場合が多かったが、韓日両国の歴史に対して冷静に対立してきたのは事実である。何よりも韓日両国には共いことをともに行いつつ、共通の利益を追求するという作業がなかったのである。

学者間の共同研究や企業間の協力は多ければ多いほどよい。特に韓日両国の共通の課題である環境問題がきわめて大きい。サッカーの二〇〇二年ワールドカップが成熟した韓日協力のモデルになるように、お互いに努力しなければならない。

そして米中二国へと偏重している東北アジアの国際秩序において、民主主義と市場経済の高い段階に達している韓日両国の協力は、この地域の力の均衡はもちろん民主政治の発展にも大きく貢献するだろう。

昨年、韓日両国の貿易額は四百三十億ドルで、一九六五年の国交正常化以来の二倍に上ぼり、約二百億ドルに達した。そして昨年、百六十五万人の日本人が韓国を訪問し、百十二万人の韓国人が日本を訪れた。この数字は莫大な人的、物的交流にもかかわらず、韓国人は日本人の歴史認識に大変不満を感じており、日本には「嫌韓」ないし「嫌韓」のムードがあり、韓国ナショナリズムの「日本サイレン事件」によって日本の対北警戒心が高まっており、大統領が変わるたびに過去の出来事にあまり触れないようにしている。

我々は「親日」と「嫌韓」を通じた理性的な対話を始めなければならない。

五年前の細川首相による歴史認識は、いまも韓国人に新鮮な記憶として残っている。彼の表現が他の日本の指導者と大きく異なることはなかったにもかかわらず、その率直さに多くの韓国人が共感した。韓国人が知りたいのは本人、とりわけ日本の指導層の真心である。

細川首相の訪韓後、韓日関係が高い冷え込んだのは、その後に飛び出した日本の指導者の妄言と、これに対する韓国人の反発が主な原因だった。韓国人は日本の政治家の発言が、日本人のホンネとして映った。公的責任のある指導者の妄言は、韓国人を怒らせるだけでなく、世界の指導国家としての日本のイメージにも大きな損失になるだろう。

この機会に日本国民に知ってほしいのは、金大中大統領の日本観である。彼は野党の指導者時代から大統領になった今に至るまで、現在と未来の望ましい韓日関係のために過去の歴史が障害になってはならないということを、機会あるごとに強調してきた。これは単なる修辞ではなく確固たる信念である。

確認された過去の史実を歴史に記録し、両国がともに反省と教訓にして、和解と協力を通じた新たなアジア太平洋時代の主役として相互協力しようということだ。

金大統領は軍事政権時代によって死刑宣告を受けた際、少なからぬ日本国民が彼の救命運動をしに事実を胸に刻みつけていることだろう。彼は過去の歴史に対する違ちは、その責任が当時の政府にあり国民はその被害者だったと理解している。韓国人の「反日」感情は、日本の政治家の「妄言」に対する反発が主な原因だった。韓国人は

98.10.6 朝日

女性基金問題 議題にはせず

日韓首脳・外相会談

高村正彦外相は六日の閣議後の記者会見で、女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）について「洪淳瑛・韓国外交通商相が訪日した時の会談で、この点については両国の高級事務レベル間で話し合おうとした経緯がある」と述べ、八日に予定されている小渕恵三首相と金大中大統領の首脳会談や日韓外相会談では議題にしないことを明らかにした。

8日に日韓外相会談

外務省は六日、高村正彦外相と韓国の洪淳瑛外交通商相が八日午前に会談すると発表した。

社説

98.10.6. 東京

首脳会談は『世界』を視野に

【韓日】

二十一世紀を目前に控えた日韓首脳会談は、両国が連携して東南アジアの新秩序づくりに臨む意向を内外に宣言する機会と位置づけたい。時代がそれを求めている。

「これまでの葛藤（かっとう）を清算して、本当の理解と協力の時代に入り、新しい二十一世紀をともに迎えることを心から願んでいる」

韓国の金大中大統領は、七日からの日本公式訪問を前に、日本人記者団に日韓首脳会談の意義を強調した。

日本とは因縁の深い大統領の意気込みは、小渕恵三首相の認識とも一致する。手を携えて新時代の幕を開く契機にしてほしい。

これまでも、首脳会談のたびに「日韓新時代」「未来志向の日韓関係」などのスローガンが掲げられた。それにもかかわらず、両国の間には、いまだにぎくしゃくが絶えない。

しかし、冷戦後の混乱と経済・金融危機の中で、日韓両国は時代の要求として、また自由や民主主義などの価値観を同じくする隣国として、従来以上の強い連携が求められている。

何よりも、この地域の最大の不安定要因である朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に対しては、米国も含めた三カ国の協調が欠かせない。

金大統領は、改革・開放を促すために、北風を吹きつけるのではなく、「太陽政策」をもって、対話と交流を求めているが、北朝鮮は「体制崩壊を狙う陰謀」と、拒否している。

半面、金正日時代が本格的に始まり、軍依存をますます強めている。世界史的に見て、体制硬直化は軍事的暴発や体制崩壊を招きやすい。

金大統領は一日の国軍記念日で対北対応策の一つとして「日本との協調の推進」を挙げた。日韓両国は安全保障、危機管理の観点から、意思疎通を細やかにして、協調対処を準備しておく必要がある。

さらに、アジアの経済危機は、日本と韓国にも押し寄せている。特に韓国の現状は深刻で、金大統領が嘆える「第二の破国」には、多くの障害が立ちはだかっている。「日本発の恐慌」という事態になれば、韓国への影響は計り知れない。

韓国内では、先に日本側が短期債務返済を猶予したこともあり、両国経済の結びつきの強さや日本経済の役割についての認識が強まっている。かつて日本が提案した「アジア通貨基金」を求める主張も出ている。

現実の要請が、両国の連携強化を実現しつつある。両首脳は、両国関係だけでなく、「世界、アジアの中の日韓関係」を念頭に置いてほしい。

金大統領は、「歴史の清算」を求めている。言葉による謝罪も必要だが、強い不信の中ではなかなか効果を持ちえない。現在と未来の課題に共同して取り組み、あらゆる分野での交流を深めることが必要だ。

どちらが前提ということではない。相互に信頼感を育てる中でこそ、本当の歴史の清算は可能だ。それが「二十一世紀に向けた新パートナーシップ」をつくる。

98.10.6. 統一日報

社説

「歴史」の鎖とき関係転換を

金大中韓国大統領が七日から三日間、日本を公式訪問し、小渕恵三日本首相との間で両国共同宣言を発表、「二十一世紀に向けた韓日パートナーシップ」構築への決意を表明し、行動計画を定める。

両国が互いの協力の必要性を今日ほど実感しあったことは、なかったのではないか。それを最も分かりやすく示すものが、韓国の「IMF危機」と、北朝鮮のテポドン・ミサイルによる人工衛星打ち上げだ。

IMF危機は韓国にとっての一大事態だが、むろん、それだけにとどまる問題ではない。それはアジア経済危機の一環であり、同時にロシアまで波及し、ニューヨークの株価までおかしくした、世界経済の行方につながる大きな問題の一部だ。

テポドンは、軍事政権化した金正日新体制の危なさを象徴的に示し、朝鮮半島情勢がゆゆしい状態にあることを改めて知らせた。

65年条約との決別を明確に

率直に言って日本国民全体が、少々の過剰反応もあったものの、安全への脅威を実感したことは、朝鮮半島と東北アジアの平和と安定への今後の努力にとって有益だと思う。以前から首都が北朝鮮の野砲の射程距離内にある韓国の緊張が、現実的に理解されただろうからだ。

とはいえ、両国が共通認識を高めることができたのは、これまで長い間の様々な交流があったからだ。

両国の年間の往来は三百万人に達し、貿易高も飛躍的に拡大し、文化の交流も増大して韓国における日本大衆文化への門戸開放を具体化できるところまで来た。二〇〇二年のサッカーW杯共催が決まり、IMF危機に際しての日本からの経済協力に韓国が謝意を表し、韓国政府は日本天皇に呼称を改めた。

それにもかかわらず、つい最近まで摩擦が続いたのは、根本的には歴史問題が未解決だったからだ。

今回の両国首脳会談では、改めて歴史清算を初の共同文書にうたい、これをもって二十世紀の問題に二十世紀中に区切りをつけたいとしていると聞く。これですべて解決するはずはないが、少なくとも歴史問題の扱い方が転換されてしかるべきだ。

それには、歴史問題が六五年の韓日基本条約と請協定における扱いとは、すでに変わっているという認識を明確にすべきだ。

六五年条約では、一九一〇年の韓日合併条約は「すでに無効」との表現で、評価をあいまいにした。韓国は不当な侵略だったことを認めたと解釈し、日本は歴史的に合併条約が存在したことの認知と解釈した。

残務解決併行し信頼固めへ

しかし本来は、当時の世界に多くの実例があったように、侵略を合法化する条約が存在したのは事実であり、同時に今日の立場では二度と繰り返してはならない侵略だったと認めるものでなければならなかった。植民地支配を当時の時代の現実を理由に正当化する日本の一部の見方も、当時にさかのぼって法的に無効と規定すべきだという韓国の一部の見方も、ともに適正ではなかった。

ただ、日本は評価をあいまいにすることで賠償を値切った。八〇年代からの日本の歴代首相の謝罪は、加害側としての評価の誤りを正すために行われた。今日もはや日本は六五年の解釈を破棄したのであり、今回の共同文書の謝罪はそれを確認するものというべきだろう。

これによって、両国は信頼をベースにして両国関係を築き直す新しい時代に入らなければならない。

ただし、それには今回の首脳会談では言及を避けるといわれる慰安婦問題など戦後補償、またこれまでのいびつな両国関係の生き証人である在日韓国人の待遇、侵略史の事実調査と歴史共同研究など具体的な問題について、併行して早急・着実に解決を進めていかなければならない。

98.10.6. 統一日報

韓日識者に聞く

歴史認識

事実確認で「差」狭める

高麗大アジア問題研究所
崔相龍所長

金大中大統領が韓日間の歴史問題解決を最優先課題として取り上げているのは、新しい韓日関係を構築したいという強い意志の表われだ。もはや韓日両国は互いの認識を見直さねばならない時期に来ている。

この間、韓日両国は歴史認識問題にこだわりすぎた末、妥協と譲歩の余地を狭めてしまった苦い経験がある。

韓国は、日本に対し、無条件で「謝罪」を求めるのではなく、大局的な立場から「抱擁」姿勢へと転換しなければならない。

政権が変わるたびに出された「謝罪要求」のため、日本国内では「いつまで謝罪すれば済むんだ」という「嫌韓」ムードが高まった。最近になってこの「嫌韓」情緒は、「避韓」感情にまで発展している。

歴史の清算は、もちろん必要だ。しかし、清算の確実な解決策が見つからないのが現状だ。

仮に韓日両政府間で歴史問題で妥協と和解が成立したとしても、一部の日本人による「妄言」は後を絶たないだろうし、韓国人の反発も継続するだろう。

今度、金大中大統領訪日中になされる日本側の反省表現が、九五年の村山首相（当時）談話水準に止まることについて、韓国国内では「儀礼的踏襲」という批判がある。だが、日本の政治的な現実と、この間の経緯からしてこれは、日本が提示可能な最善の水準かもしれない。

韓日両国の喜ましい過去は、民間学者間の活発な歴史交流活動を通じ、確認作業を積み重ねていくうちに自然に解かれていくだろう。歴史的事実に対する両国間の解釈に差はあろうが、まずは事実を確認し一つひとつ記録していくことがなによりも大事だ。こういった記録と伝承を通じ、両国間の歴史認識の差は自然に狭まっていくはずだ。

「壬辰倭乱」と「日帝植民地三十六年」を除けば、韓日両国は千五百年間という長い交流の歴史を持っている。不幸な歴史よりは善隣の交流が長かったということだ。大きく変わった日本の姿に韓国も気づくべきだし、日本もこういった視点に立って韓国を直視しなければならない。「近くて近い国」の関係はこのような深い信頼から生まれてくる。

98.10.6. J.T. (3面)

KIM'S VISIT TO ELICIT APOLOGY FROM JAPAN

'Sorry' may not be enough to bridge past

By TAKESHI SATO
Staff writer

When South Korean President Kim Dae Jung makes his official visit this week, Japan is expected to apologize and express remorse for its past conduct toward Koreans. But complete reconciliation between the people of the two nations may not be possible until they come to a better mutual understanding of their shared past.

A senior Foreign Ministry official said an apology from Japan is necessary to establish a framework for further cooperation between the two countries heading into the 21st century.

Kim Suk-Kyu, South Korea's ambassador to Japan, said last month that President Kim's visit is a good opportunity to resolve issues that took place during the 20th century, before the start of the next century.

President Kim is scheduled to visit Japan from Wednesday to Saturday to hold talks with Prime Minister Keizo Obuchi. It will be his first visit to Japan since he took office in February.

In a joint document to be issued at a Thursday meeting between Obuchi and Kim, Japan will express remorse and offer an apology to the Korean people for its 1910-1945 colonial rule of the Korean Peninsula, based on an Aug. 15, 1995 statement by then Prime Minister Tomiichi Murayama, Foreign Ministry officials said.

Murayama said in the statement, which was issued on the 50th anniversary of the end of World War II, "Japan . . . through its colonial rule and aggression, caused tremendous damage and suffering to the people of many countries, particularly to those of Asian nations."

Kim Dae Jung

The apology this time will be directed at South Korea, because the Murayama statement did not name specific countries, Vice Foreign Minister Shunji Yanai said.

The statement, however, is not expected to mention specific conduct by Japan, such as the forced change of Korean names to Japanese names during the colonial rule, and the "comfort women," Korean women who were made to provide sex for wartime Imperial army troops at front-line brothels.

Experts say an apology will not completely resolve the historical chasm between the two countries.

"Issues of history will not be completely resolved by simply issuing the joint document," Keio University Professor Masao Okonogi said.

Bilateral relations suffered strains after Murayama made his statement, when in November of that year then Management and Coordination Agency chief Takami Eto made off-the-record remarks boasting of the benefits of Japan's colonial rule of the Korean Peninsula.

Eto reportedly said Japan did some good things, such as building schools, railroads and ports, during its colonial rule.

Teruo Komaki, senior researcher at the Institute of Developing Economies, said that if similar remarks continue to be made in Japan, these issues will be raised again and again.

"Japan thinks that it has to repeat its apology for its past conduct every time South Korea has a new administration. But South Korea considers Japan's apology insincere as long as there are (negative) remarks in Japan," Komaki said.

> South Koreans are skeptical about the sincerity of Japan's apologies because of repeated negative remarks by some Japanese politicians

Ambassador Kim said he is aware of Japan's dissatisfaction with having to repeat its apology to each new leader, but noted South Koreans are skeptical about the sincerity of Tokyo's apologies because of repeated negative remarks by some Japanese politicians.

President Kim hopes to hear a sincere, courageous apology from Japan at the turn of the century, the ambassador said, adding that past incidents should not prevent the two countries from expanding future relations.

Professor Okonogi said Japan has not captured the Korean people's hearts through its repeated apologies, and it has a tendency to forget how terribly it treated Koreans.

Apart from an apology from the government, continuing efforts to enhance mutual understanding at various levels by discussing contentious issues are essential to achieving true reconciliation between the people of the two countries, a Foreign Ministry official said.

Strengthened economic ties are also high on President Kim's agenda, as South Korea has been hit hard by the economic crisis.

The leaders of the two countries are expected to establish ministerial and vice-ministerial forums to discuss a variety of economic issues, including the Asian financial crisis.

They are also expected to urge cooperation in such fields as telecommunications and electronic commerce.

Tokyo is expected to offer about $3 billion in loans from the Export-Import Bank of Japan to help South Korean companies cope with foreign currency shortages and to help them obtain import materials and components.

Obuchi and Kim are also to agree on strengthening dialogue between leaders of the two countries, promoting cooperation at the United Nations, expanding defense and security talks and deepening citizen exchanges, including youth exchanges.

A senior Foreign Ministry official expressed hope that bilateral cooperative relations will be further strengthened under Kim, who has a friendly attitude toward Japan, as shown by his intention to lift a ban on Japanese culture in South Korea.

Okonogi said Kim understands Japan, has realistic policies toward Japan and highly regards Japan's postwar achievements, including its economic development and pursuit of international peace.

Japan also hopes to create an atmosphere that will allow the Emperor to visit South Korea. Kim is expected to extend an invitation to this end, the ministry official said.

At the summit, Obuchi and Kim are expected to exchange views on their policies toward North Korea in light of its rocket launch over Japan on Aug. 31.

The two countries agree Northeast Asia security was shaken by the rocket launch, but they are taking different approaches toward Pyongyang. Seoul continues to promote reconciliation with North Korea, while Tokyo has taken a tougher stance toward the Stalinist state.

Japan has halted talks on normalizing ties with Pyongyang, frozen food aid and suspended payment for a project to build two light-water nuclear reactors in North Korea.

The ministry official said cooperation between Japan and South Korea is becoming increasingly important in dealing with North Korea, because its rocket launch proved it has the capability to develop missile technologies that could threaten Japan and South Korea.

98.9.7. 読売

「韓国国民におわび」明記

日韓共同宣言案の全文

高次元の関係構築

七日に国賓として来日する金大中・韓国大統領と小渕首相の首脳会談を受けて、日韓両国が発表する共同宣言案の全文が六日、明らかになった。それによると、両国は、友好協力関係を高い次元に発展させ、二十一世紀に向けた日韓パートナーシップを構築していくことを宣言する。歴史認識では、小渕首相が「韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、痛切な反省とともにおわび」を表明、韓国国民向けの謝罪の意を初めて文書に明記する。大統領もこれを「評価」し、両国が和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係の発展に努める必要性を強調する。（宣言案の内容10面、関連記事2・5面）

大統領きょう来日

共同宣言案は、「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」を前提として、十一項目からなっている。歴史認識に関する記述は、本文の冒頭に盛り込まれる。

この中で、両首脳は「両国国民、特に若い世代が歴史への認識を深めることが重要である」との見解を表明するとともに、そのために「多くの関心と努力が払われる必要がある」ことを確かめ合う。

また、首相は、韓国が「成熟した民主主義国家」に成長したことに「敬意」を表し、大統領も、戦後の日本の安全保障政策や世界経済・発展途上国に対する経済支援など「国際社会の平和と繁栄に対し日本が果たしてきた役割」を高く評価。さらに大統領は、安全保障理事会の機能強化などの国連改革に絡んで、「日本の貢献と役割が増大されていくことに対する期待」を表明し、日本の安保理常任理事国入りを支持する考えを示唆する。

対朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）政策については、首相が、和解・協力に力を入れる大統領の対北朝鮮政策に「支持」を表明。さらに両首脳は、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）を「北朝鮮の核開発を阻むための最も現実的かつ効果的なメカニズム」と位置付け、その維持の重要性を確認する。一方で、北朝鮮のミサイル発射に対しては、国連安保理議長が表明した「懸念及び遺憾の意を共有する」と明記するとともに、ミサイル開発が「日本、韓国及び北東アジア地域全体の平和と安全に影響を及ぼす」との認識で一致する。

また、大統領は、韓国内で日本文化を開放していく方針を伝え、首相はこれを歓迎する。

日韓共同宣言案の骨子は次の通り。

一、小渕首相は、わが国が過去の一時期、韓国国民に対し、植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、痛切な反省とともにおわびを表明。

一、金大統領は小渕首相の歴史認識の表明を評価すると同時に、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させていくことに対する期待を表明。

一、両首脳は来朝合意および KEDO を朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核計画推進を阻むメカニズムとして維持していく重要性を確認。

一、金大統領は韓国において日本文化を開放していく方針を伝達。

共同宣言案の骨子

2・5面

98.10.7. 読売

文書化で「過去」決着図る

日韓共同宣言案

安保、文化も協力

包括的に未来像示す

日韓首脳会談でまとめられる「共同宣言」案が六日明らかになったが、同案の最大のポイントは、これまで両国関係発展の大きな障害となっていた植民地支配をめぐる歴史認識の問題について、日本側の反省と謝罪を、初めて合意文書の形で表すことで、決着を図ろうとする点にある。同時に、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）政策や韓国の経済危機克服など、両国が直面している幅広い問題についても対応策が打ち出されている。宣言案は安全保障や文化交流まで含んだ幅広い両国間協力の具体的計画も明示しており、二十一世紀の日韓関係のあり方を包括的に示す基本文書となるものとみられる。

（本文記事一面）

歴史認識の問題では、日本側は、これまで歴代の大統領の訪日（九〇年）などの機会に、首相の発言などを通じて、繰り返し反省と謝罪の意を伝達してきた。にもかかわらず、今回の宣言に再び盛り込まれるのは、歴代の日本の首相の謝罪発言にもかかわらず、韓国のマスコミでは、その後、植民地支配を正当化するかのような閣僚の問題発言などが大きく取り上げられて、「韓国国民の感情には、日本が謝罪した事実が定着していない」（韓国外交通商部筋）という事情があるからだ。

文言に明記することによって「今後、日本の個々の政治家が問題発言をしても、日本政府の立場は明白となる」（同）という計算がある。

宣言案では、歴史認識に関する日本側の表明に続いて、韓国側が、戦後日本の「平和憲法に基づく安全保障政策」「開発途上国に対する経済支援」を高く評価することになっている。この点は、「韓国国民は戦後日本のよい点も認識すべきだ」という金大中大統領の基本姿勢を明確に反映するものといえる。

韓国政府は、韓国国民の根強い反日感情に配慮して、戦後日本が韓国に対して行ってきた経済協力に対する謝意を明確に表明することを控えてきたが、今回の宣言案では、「六五年の国交正常化以来の協力関係が相互の発展に寄与した」との認識を示し、日本の対韓国経済支援を評価。日韓関係のありのままの把握に基づいて、未来志向的関係を目指す姿勢を明確にしようとしている点が特徴だ。

北朝鮮政策については、ミサイル発射事件で北朝鮮に対する強硬な姿勢をとっている日本と、民間経済協力を中心に融和的な対北政策を進めている韓国では、政策のすり合わせが難しい状況だ。しかし、宣言案では、北朝鮮を「改革と開放」に導くという大目標を確認し、最低限の協力の枠組みを確保したい意向をにじませている。

一方で、長期的な両国関係発展のための方策としては、韓国側が、これまで制限してきた日本の映画、歌謡曲など「大衆文化」の解禁を明言するのに加えて、これまで政治、経済分野に比べて、日韓間で遅れていた安全保障分野での対話を強化することを打ち出す。しかし、日本側が当初、両国間の外務、防衛当局間の定期協議を提案していたのに対し、宣言案では、結局、すでに開始されている実務者レベルでの協議の継続を確認するのにとどめている。

また、日本政府は、韓国が日本の国連安保理常任理事国入りを明確に支持する」ことを強く望んでいるが、今回は、韓国が「日本の国連など国際社会における役割の増大」を期待するという抽象的な表現になっている。

金大統領は、今回の訪日で、日韓関係を大きく飛躍させたいとしているが、経済大国である日本が国際政治・安全保障面で大きな影響力を持つことに対して、韓国国民の間では、依然として抵抗感が強い。こうした国内事情を反映したものと見られる。

98.10.7. 読売

韓国大統領歓迎夕食会

共産委員長 出席の意向

共産党の不破委員長が八日夜に首相官邸で開かれる金大中・韓国大統領の歓迎夕食会に出席することが固まった。韓国大統領の公式歓迎行事に共産党関係者が出席するのは初めて。

共産党は、昨年春に機関紙「しんぶん赤旗」ソウル支局の開設を韓国側に申請するなど韓国との関係構築に意欲を示しており、不破氏の出席も党の姿勢の変化を韓国側に印象づける狙いがあると見られる。

共産党によると、韓国大統領と共産党首脳とが接触した例は、九〇年五月の盧泰愚大統領、九四年三月の金泳三大統領の来日時に、いずれも国会演説の後、各党代表との歓談の場に不破氏らが顔を出したことがあるだけだった。

（関連記事一面）

永住外国人に地方参政権付与

民主などが法案

民主党と平和・改革は六日、永住外国人に地方自治体の首長、議員選挙での選挙権を認める法律案を国会に提出した。法案では、永住外国人の申請に基づき、市町村選管が選挙人名簿に登録。二十歳以上で同一市町村に三カ月以上居住する場合に選挙権を認めるとしている。被選挙権については、さらに議論が必要として盛り込まれなかった。

98.10.7 朝日

金大中大統領きょう来日

「清算」へ進む相互理解

史料公開共同声明や「関係史研究会」発足

日韓首脳会談のたびに取りざたされてきた「歴史認識」の問題。韓国の金大中大統領は「過去の清算」に期する思いを繰り返し表明し、七日来日する。日韓共同の歴史研究はすでに始まり、日本に留学する韓国人研究者も増え、相互理解は着実に広がっている。一方で、補償問題にからむ歴史テーマが棚上げになっていることを危ぐする声もある。

韓国では、日本に留学した経験のある若手研究者を中心に韓日関係史研究会がつくられた。会員の田代和生・慶応大教授の話では「日本との友好関係が最も長く続いた江戸時代に視点を移して、対馬藩宗家を仲介にした外交・貿易がなぜうまく円滑にいっていたかを実証的に探ろうとしている」。

東大の吉田光男教授によると、十年、二十年前の韓国からの留学生は、多くが日韓関係史を研究していた。だが、最近では古代の天皇家や中世の守護大名をはじめ日本史そのものの研究が増えている。

日本国内の韓国研究も、李氏朝鮮時代の農民の生活や芸能の研究にまで範囲が広がっているうえ、漫画で描かれた韓国史も翻訳されるようになっている。

●フォーラム開催

訪日に先だち、日韓の歴史学者がそれぞれの立場で歴史資料の公開を求める共同声明を出した。「植民地支配を正当化する発言が繰り返されるのは、植民地時代の重要な歴史資料や文書が未公開になっているからだ」として、旧内務省文書などの公開を求めた。

九月末に開かれた宮崎市の「日韓歴史フォーラム」では、史料公開を進めるために「アジア歴史資料センター」構想の実現への強い期待が寄せられた。

同センターは、戦後五十年の目玉事業として当時の村山富市首相が提唱したが、実施計画も決まっていない。各省庁に残っている史料も次第に確かめられつつあるが、調査スタッフの一人は「歴史に向き合おうとする姿勢がみえてこない」と話す。

●国会決議へ提言

「共同研究で相互理解が進んでいる」と評価する声がある一方、「韓国併合条約」の違法性など政府見解が対立しているテーマについては、「立ち枯れ状態で進展がない」と海野福寿・明大教授は指摘する。

「清算」の言葉が使われることについて、作家の徐京植さんは「書物のページをめくるように、歴史の問題を過去へと追いやることはできない」と反対する。「植民地支配への反省」も、「市民から議論を積み上げた結果としての国会決議にすることが、日本の歴史認識を明らかにするうえで特に大事ではないか」と提言している。

98.10.7. 朝日

「太陽政策」貫く金大中大統領 きょう来日

対北朝鮮、日本も長期策を

七日からの金大中・韓国大統領の日本訪問では、韓国民主主義人民共和国（北朝鮮）への日韓共同対処が一つの焦点となる。「太陽政策」といわれる強硬とした対北政策を掲げる金大統領に対し、「テポドン発射」への対応でみられるように、日本のそれはいかにも場当たり的だ。北東アジアの平和と安定には、北朝鮮と共存しながら「軟着陸」へ導く以外に道はないという現実を踏まえ、日本もこの際、夢の覚めた朝鮮半島政策を確立すべきだ。

共存の合意 実現目指す

波佐場 清（総合研究センター主任研究員）

隣人の外交を脅かすのに北風と太陽が争った結果、太陽が勝った――金大統領の「太陽政策」はこんなイソップ物語にあるかったものだ。

今年六月、北朝鮮漂流家族の韓国亡命を発端とする一連の事件で、韓国政府内部にも「太陽政策」への批判が出たとき、大統領の対北政策のブレーン、林東源・外交安保首席秘書官は関係者に次のように説明して了解を求めた。

「太陽政策は、北が奢っている朝鮮統一論を崩壊させるという外奏、命令型の計画経済という外交、対南革命のための軍事的対決という外交を脱がせようとするものだ。時間は少しかかるが、北を変化させ、戦わずに勝つことができるようにしようというものだ」（七月九日、安保関係閣僚懇談会で）

7日、来日する金大中・韓国大統領＝9月30日、韓国大統領府提供

二回の就任式辞、金大統領の対北政策は揺れていない。

一言で言えば、一九九一年十二月の南北首相会談で採択された後、棚にげされてきた南北基本合意書を実行に移そう――ということ。

南北基本合意書は、「南北交流・協力に関する合意書」という正式名称が動員するように、南北の平和共存を前提に、相互の信頼不信用、経済をはじめあらゆる分野の交流と協力、自由往来などを盛り込んでいる。

大統領が「南北間の懸案の解決は対話で解決する」というのはその通りで、それを実際に動かしていこうというのだ。北朝鮮も、少なくとも表面のうえでは「基本合意書の実行」を主張している。

金大統領のこうした平和共存と交流協力論は、就任の金泳三政権の対北政策とは明らかに違う。

金泳三前大統領も九三年の就任直前は「南北対話は、いいには北朝鮮を一方的に飛行機」と例えて、いつどこに墜落するかわからないと警戒を呼びかけるなど、北朝鮮を刺激した。「崩壊」を前提にした対北政策だったといっていい。

自らの統一構想に信念

金大統領は、「南北基本合意書」の実行を主張する一方で、「南北連邦統一論」を提案し、南北の全面的な交流を主張した。大きな誤解を呼び、その後二十年、崩壊事故様からあらゆる非難を受けた。しかし民族的な感心からこの提起である。

金泳三政権下、日朝関係について、「南北関係との調和と並行」を求め、事実上、連邦にブレーキをかけてきた韓国政府の立場は、金大統領の言葉で様変わりし、いま、「テポドン」で日韓の立場は逆転した。

日本全土を射程におさめるテポドンの発射は北東アジアの「安保地図」を塗り変えた。日本の衝撃は計り知れない。しかしいくら驚いたとはいえ、日本政府の対応は軽すぎる。

朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）による軽水炉供給事業への協力見合わせは、こぶしを振り上げた途端に、下ろすタイミングに苦慮するありさまだ。KEDO事業のストップは、場合によっては北朝鮮制裁問題と連動した九四年春の状況に逆戻りしかねない。そもそも日本のKEDOへの協力は、ありていに言えば、カネで安保を買ったのではなかったのか。

日朝国交正常化交渉再開凍結の決定に対しては、北朝鮮も「絶対に国交を正常化しない」と断言っている。これが九〇年秋の「金丸訪朝」以前の状況への逆戻りにつながるのだとしたら、日本独自のだ捕事件や、船舶らが北朝鮮拉致された事件が繰り返されるのではないのか。米朝の関係に翻弄されるというのでは余りに情けない。

日韓はいま、初めて北朝鮮のミサイルの脅威、共存を取り合い、長期的な展望に立った朝鮮半島政策を打ち立てるべきだ。

韓国と連携必要

大統領は日本にどう語りかけてくるのか。

もともと大統領は「四四四大綱（米中日ロ）による南北のクロス承認は南北統合導入への促進要因」（宿舎の就任演説）、「米国が（対北朝鮮）制裁を解くなら協力する」と述べたのも、「南北間の交流協力」を前提に米朝、日朝の交流協力への支援を訴えた。六月の米韓首脳会談で「米国が（対北朝鮮）制裁を解くなら協力する」と述べたのも、この脈絡である。

金泳三政権下、日朝関係について、「南北関係との調和と並行」を求め、事実上、連邦にブレーキをかけてきた韓国政府の立場は、金大統領の言葉で様変わりし、いま、「テポドン」で日韓の立場は逆転した。

日本全土を射程におさめるテポドンの発射は北東アジアの「安保地図」を塗り変えた。日本の衝撃は計り知れない。しかしいくら驚いたとはいえ、日本政府の対応は軽すぎる。

朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）による軽水炉供給事業への協力見合わせは、こぶしを振り上げた途端に、下ろすタイミングに苦慮するありさまだ。KEDO事業のストップは、場合によっては北朝鮮制裁問題と連動した九四年春の状況に逆戻りしかねない。そもそも日本のKEDOへの協力は、ありていに言えば、カネで安保を買ったのではなかったのか。

日朝国交正常化交渉再開凍結の決定に対しては、北朝鮮も「絶対に国交を正常化しない」と断言っている。これが九〇年秋の「金丸訪朝」以前の状況への逆戻りにつながるのだとしたら、日本独自のだ捕事件や、船舶らが北朝鮮拉致された事件が繰り返されるのではないのか。米朝の関係に翻弄されるというのでは余りに情けない。

日韓はいま、初めて北朝鮮のミサイルの脅威、共存を取り合い、長期的な展望に立った朝鮮半島政策を打ち立てるべきだ。

■北朝鮮政策をめぐる金大中大統領の発言■

2月25日「南北問題解決の道はすでに開かれている。（中略）南北基本合意書を実践さえすれば、南北問題を成功裏に解決して統一への大路を開いていくことができる」「政経分離に立脚した経済交流の拡大を進む。南北間で交流協力が行われる場合、北朝鮮と米国、日本などわれわれの友邦国家や国際機構との交流協力を支援する用意がある」（大統領就任演説）

3月1日「南北相互の体制を尊重し、どのような不利益を与えることも慎まなければならない。平和共存、平和交流、そして将来の平和統一のためにあらゆる努力を尽くさなければならない」（「3・1独立運動」記念の詳）

6月9日「米国との強い安保同盟に基づいて北朝鮮に接し、暴発派を力づけるような形で開放を促す雰囲気作りをしたい。米国が（対北朝鮮）制裁を解除するなら協力する」（ワシントンでの米韓首脳会談後の共同記者会見）

8月15日「南北基本合意書の精神に立って北朝鮮の安定と発展を支援する用意がある。すでに構成されている分野別の南北共同委員会を一日も早く始動させなければならない。これに先立って長官か次官クラスの代表による常設の対話機構をつくることを提案する」（「光復節」慶祝詳）

10月1日「北朝鮮に新しい指導部が登場した。これを機に和解と協力の時代を共に開いていくことを望む。（中略）われわれは物ごいをしてまで対話を求めない。しかし対話の門はいつでも大きく開かれている」（「建軍の日」演説）

98.10.7. 朝日

韓国国民に植民地支配により多大の損害と苦痛を与えた

首相が「おわびと反省」

共同宣言固まる

八日に予定されている金大中韓国大統領と小渕恵三首相との首脳会談の際に署名される「二十一世紀の新しい日韓パートナーシップに関する共同宣言」の内容が、六日までの両国政府間の調整で固まった。焦点となっている日本側の「過去」への言及は、「小渕首相は韓国国民に対し、植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、痛切な反省と心からのお詫びを述べた」という表現で決着した。アジア諸国に対する侵略と植民地支配に対し、「痛切な反省」と「心からのお詫び」を表明した、一九九五年八月の村山談話を踏襲し、小渕首相が韓国国民に対して表明する形となった。

両首脳は「両国が過去を直視し相互理解と信頼に基づいた関係を発展させていくことが重要」との認識で一致。小渕首相の反省の表明に対し、金大統領はこれを評価するとともに「両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させるために、お互いに努力することが時代の要請だ」と述べ、今回の首脳会談を契機に過去の問題に区切りをつけ、両国関係を未来志向に転換することに強い意欲を表明する。

過去の日韓首脳会談で日本側がおわびと反省を表明してきた従軍慰安婦や創氏改名、日本語教育の強制など個別の課題については、共同宣言の案文には盛り込まれなかった。

NITTO DENKO
おかげさまで80周年
あたらしいもの、いつも
日東電工
80th ANNIVERSARY

"日사과 분명하게 문서로 담는다"

소매치기방지안의 때

과거문제 '공동선언'前文에 첫표명

유학생교류등 40여개 '행동계획'도

7일부터 시작되는 김대중(金大中)대통령의 일본 국빈 방문은 지금까지 소모적 측면이 많았던 한일 관계의 고리를 끊는 데 초점이 맞춰져 있다. 이번 방문이 미래지향적이고 심층적인 한일 협력관계 구축의 전기가 돼야 한다는 게 김대통령의 기대다.

김대통령은 이와 함께 과거사 정리를 계기로 막후에서 정치적 미봉으로 해결돼야 했던 양국 관계가 「양성화」해야 한다는 입장이다. 정상회담에서 채택될 「21세기를 향한 새로운 한일 파트너십을 위한 공동선언」이 「국민간 협력 시대」라는 표현을 사용하고 있는 것도 이 때문이다.

■ 과거사 정리 일본측은 과거사와 관련, 「공동선언」 전문(前文)에 우리나라에 대한 사과의 뜻을 담을 예정이다. 일본이 타국과의 과거사에 대한 인식과 사과를 공식 문서로 표명하는 것은 최초의 사례다. 우리 정부도 공동선언을 계기로 정상회담 때마다 현안이 됐던 일본측의 사과문제를 앞으로는 거급적 문제삼지 않겠다는 차제다. 청와대 관계자는 "다른 말이 더이상 나오지 않도록 일본의 입장을 역지에 넣어 걸어놓자는 것"이라고 취지를 설명했다. 이번 방일의 최대 현안으로 구체적인 문구에 대해서는 막바지 교섭이 진행중이다. 김대통령은 군대위안부 배상문제, 천황호칭 문제 등에 대해 결단을 내린 것처럼 공동선언 문구에 합의할 경우 전향적인 자세로 수용한다는 생각이다.

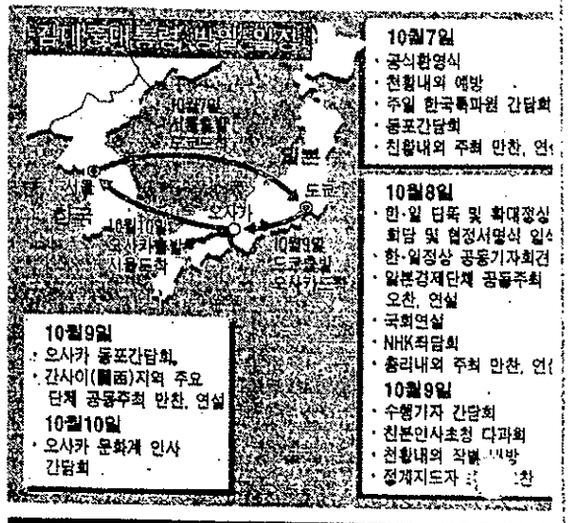
■ 경제·문화협력 각분야에 걸쳐 40여개의 행동계획(Action Plan)에 합의할 예정이다. 청소년층을 주대상으로 한일 「새인맥」만들기가 주안점이다. 「오부치 이니셔티브」로 지칭되는 것처럼, 일본측 희망이 반영돼 있다. 일본 공과대학 유학생 파견, 학생 취업사증 제도 실시 등의 교류방안이 이같은 맥락에서 나왔다. 일본 대중문화는 문화적 쇄국주의가 바람직하지 않다는 김대통령의 소신에 따라 단계적으로 개방하기로 합의된 상태다.

경제 분야에서는 일본수출입은행의 30억달러 금융지원을 「조건 없이 도입(No Tied Loan)」한다는 데 합의할 전망이며, 투자포럼을 통해 수십억달러 수준의 민간차원의 투자유치 계약 체결을 추진하고 있다.

■ 안보협력 양국은 그동안 금기시돼 온 안보협력 강화문제를 공개적으로 협의한다. 공동선언과 정상회담에서는 북한 미사일에 대한 공동된 우려를 표명하고, 안보정책협의회, 국방장관 상호방문, 북한 핵개발 억지를 위한 협력 등 「한일 안보대화」를 본격화하기로 의견을 모을 예정이다. 단 정부는 중국 등을 의식해 당초 일본이 요구했던 수준으로 협력을 강화하는 데는 조심스러운 입장이다.

또다른 현안은 북한의 인공위성 발사 파문이후 강경해진 일본을 대북(對北) 포용정책의 틀 속으로 복귀시키는 것. 김대통령은 동북아 평화를 위해 제네바합의 이행, 햇볕론을 통한 북한의 변화가 필요하다는 점을 거듭 역설할 계획이다. 일본 정부도 한반도에너지개발기구(KEDO) 분담금 협정의 지연등이 오래 계속될 정책은 아니라는 점을 대내적으로 설명하고 있으므로 어렵지 않게 의견을 모을 것으로 전망된다.

/유승우기자



日 "과거사등 어색한 분위기 사라질것"

DJ맞는 분위기 조성

영빈관·민단본부등에 경호경찰 16,000여명

김대중(金大中)대통령의 방일을 하루 앞둔 6일 일본 각계는 한일 양국의 새로운 협력관계에 큰 기대감을 나타냈다. 일본 정계는 김대통령이 수차례 언급한 것처럼 이번 방일을 계기로 과거사를 분명히 매듭짓고 한일 양국이 명실상부한 동반자 관계를 구축한다는 데 적극적으로 협력하겠다는 의사를 보였다.

○…여당인 자민당은 김대통령이 야당 지도자 시절 주로 일본 야당 인사들과 교분을 가졌으나 이제부터는 여당과 교류를 할 필요가 있으며 이번 방문으로 새로운 물꼬가 트일 것을 기대하고 있다. 일본 외무성의 한 관계자는 "과거사 문제와 관련해 어색한 분위기는 사라질 것"이라며 "양국간의 협력이 경제위기를 탈출하는 데도 도움이 될 것"이라고 강조했다.

○…일본 공안당국과 경찰은 지난주부터 경호대책에 온 힘을 쏟고 있다. 김대통령의 숙소인 아카사카(赤坂)영빈관과 황궁, 총리관저 주변 등은 물론 한국대사관, 민단 중앙본부 등에 1만6,000여명을 배치해 사전 검문검색을 펼치고 있다. 특히 일본경찰은 주일 한국공관, 재일동포 시설 등에 대한 우익단체의 테러나 시위가 발생할 가능성에 주의를 기울이는 것으로 알려졌다.

한국대사관 관계자는 "이번 경호 규모나 점검 항목은 96년 4월 클린턴 미 대통령의 방일 이래 최대"라고 말했다.

○…일본 재계는 한국이 단기간에 국제통화기금(IMF) 체제를 극복하기는 어려울 것으로 보이나 장기적으로 일본과의 협력을 통해 경제위기를 극복할 수 있을 것으로 보고 있다. 일본 재계의 한 관계자는 "아시아 경제위기에 대한 공동의 위기의식 아래 상호보완적인 기술협력이 중요하고 인적교류도 확대해야 한다"고 말했다. /도쿄=황영식특파원

「日本、謝罪を明らかに文書に盛り込む」

金大統領訪日の意味

過去問題「共同宣言」全文に初表明　　留学生交流等40余個の「行動計画」も

7日から始まる金大中大統領の日本国賓訪問は、今まで消耗的な側面ばかり見られた韓日関係にけりをつけるところに焦点が合わせられている。今回の訪問が未来志向的で実質的な韓日関係構築の転機とならねばならないというのが金大統領の期待である。

金大統領はこれとともに過去史の整理を契機として、舞台裏での政治的なとり繕いをもって解決しなければならなかった両国関係を「陽性化」させなければならないという立場である。首脳会談で採択される「21世紀に向けた新しい韓日パートナーシップのための共同宣言」が「国民間協力時代」という表現を使用しているのもこのためである。

■過去史の整理

日本側は過去史と関連して「共同宣言」前文に我が国に対する謝罪を込める予定である。日本が他国との過去史について認識と謝罪を公式文書に表明するのは初めての事例である。我が国の政府も共同宣言を契機に首脳会談の度に懸案となっていた日本側の謝罪問題を、これからは急を要する問題としては扱わないという姿勢である。青瓦台関係者は「余計な言葉がこれ以上出てこないように日本の立場を枠にはめ込んで掛けておこうということ」と趣旨を説明した。今回の訪日の最大懸案である具体的な文面については最終交渉が行われている。金大統領は軍隊慰安婦の賠償問題、天皇の呼称問題等について決断を下したように、共同宣言の文面に合意する場合も転向的な姿勢で受容するという考えである。

■経済・文化協力

（以下略）

日本「過去史等のぎこちない雰囲気が消えていくであろう」

DJ(金大中大統領)を迎える現地の表情

迎賓館・民団本部等に警護警察官16,000人

金大中大統領の訪日を一日後に控えた6日、日本の各界は韓日両国の新しい協力関係に大きな期待感を表した。日本の政界は、金大統領が何度も言及したように今回の訪日を契機に過去史に明らかなけじめを付け韓日両国が名実ともに同伴者関係を構築することに、積極的に協力するという意思をみせた。

○（中略）日本の外務省のある関係者は「過去史問題と関連したぎこちない雰囲気は消えていくであろう。」とし、「両国の協力が経済危機を脱出するのにも役立つであろう。」と強調した。（後略）

（韓国日報　10月　7日　5面）

98.10.7. 朝日

金大中大統領あす来日
歴史問題に区切り

韓国の金大中大統領が七日、李姫鎬夫人とともに国賓として来日する。小渕恵三首相との首脳会談や共同宣言の発表で、日本の植民地支配をめぐる歴史認識問題に区切りをつけると同時に、経済や文化など幅広い分野での協力・交流を促進する「二十一世紀に向けた日韓パートナーシップ」をうたう。大統領は九日に大阪を訪問し、十日に帰国する。（2面に関係記事）

首脳会談では、小渕首相が過去の植民地支配について「痛切な反省と心からのおわび」を表明。大統領もこれを評価するとみられ、両国間の歴史認識をめぐるあつれきを終わらせたい考えだ。両首脳の発言は共同宣言に盛り込まれ、二国間の公式文書として、一九九五年の「村山富市首相談話」やこれまでの首相発言以上の重みを持つことになる。

会談では六五年の国交正常化以降の日韓関係についても振り返る。首相は、大統領が深くかかわってきた韓国の民主化や、経済発展の過程を評価し、大統領も戦後の日本が途上国援助などで果たしてきた役割を評価する見通しだ。

また、大統領は日本文化受け入れや天皇の早期訪韓実現にも言及するとみられる。ただ、七三年に大統領が東京からソウルに連れ去られた拉致事件については双方とも触れない方向だ。

金大中大統領の来日日程

7日 午後	日本到着 天皇と会見 在日韓国人との懇談会 皇居での夕食会
8日 午前	日韓首脳会談 共同宣言に署名。共同記者会見
午後	経済団体首脳との昼食会 国会演説 小渕首相夫妻主催夕食会
9日 午後	首相経験者、各党党首との昼食会 大阪へ移動。在日韓国人との懇談会 関西諸団体主催の夕食会
10日 午前	文化人との懇談会 離日

クレジットからリースまで
――トータルサポート
松下クレジット株式会社
National Panasonic

98.10.7.(水曜日)(一面)

金大中大統領が来日

首脳会談あす 未来志向前面に

行動計画策定へ

韓国の金大中(キムデジュン)大統領は特別機で羽田空港に到着した。韓国大統領の国賓としての来日は1994年3月の金泳三(キムヨンサム)氏以来4人目。日韓両首脳は今回の会談で、過去の歴史認識問題を総括し、65年の日韓基本条約締結以降、両国が国際社会で果たした役割を評価し合ったうえで、未来志向のパートナーシップ構築に向けた行動計画を決めることにしている。金大中氏にとっては東京から拉致(らち)されて25年を経たうえの来日となった。(社会面に関連記事)

過去の歴史認識問題については、村山富市首相(当時)が95年8月に出した「痛切な反省と心からのおわび」をするとの談話を踏襲した表現で、韓国に対する植民地支配への謝罪が共同文書に盛り込まれる方向だ。

大統領は7日午後、天皇陛下と会見、同夜には宮中晩さん会が催されるが、これらの席で大統領が希望してきた天皇陛下の早期訪韓を招請するとみられる。

大統領は10日まで日本に滞在。8日には小渕恵三首相との首脳会談、共同記者会見と、国会演説が予定されており、9日午後には大阪に入り、在日韓国人や関西財界人らと懇談する。

【上野 央絵】

これまでで最も意味ある訪日だ

金大統領

【ソウル7日大澤文護】金大中大統領は7日午前、日本訪問を前にソウル近郊のソウル空港(京畿道城南市)で「韓国国民へのあいさつ」を発表し、その中で「今回の訪日は過去のどの大統領の訪日の時より重要な意味があると考えている。その重要性にかんがみ、必ず成功を収めるよう努力する」と、今回の訪日の意義を強調した。

あいさつの中で、金大中大統領は、まず「日本は過去の誤りを明確に認識して謝罪しなければならない。しかし戦後の日本の肯定的な面を評価し、日本とともに21世紀の同伴者として両国の国益と、アジアと世界のために努力しなければならない」と述べた。

98.10.7. 毎日（1面）

金大中大統領 きょう来日

あす日韓首脳会談

韓国の金大中（ムデジョン）大統領が7日、李姫鎬（イヒホ）夫人とともに国賓として来日する。韓国の大統領が国賓として日本を訪れるのは1994年3月の金泳三（キムヨンサム）大統領以来で、史上4人目。8日の小渕恵三首相との首脳会談では、日本の植民地支配などをめぐる歴史認識問題に区切りをつけ、政治、経済、文化など幅広い分野にわたって日韓両国政府の相互協力の決意をうたった「21世紀の新たな日韓パートナーシップ」（共同文書）を発表する。大統領は9日には大阪を訪問、10日に帰国する。

（3面に関連記事）

金大中大統領は長く野党指導者として活躍した。73年には東京で拉致事件に遭い、投獄、死刑宣告を体験しながらも、大統領選挙に4度出馬、昨年12月に政権の座を獲得した。就任直後から日本文化の受け入れに積極姿勢を示し、日本の天皇の韓国内での呼称を「日王」から「天皇」に改める声明を出すなど日韓関係改善に強い意欲を見せている。

8日の首脳会談や、その直後に署名される共同文書では、小渕首相が過去の歴史認識問題について、95年8月の「村山首相談話」に基づき、韓国の国民に「痛切な反省と心からのおわび」を表明、大統領もこれを評価する見通しだ。

経済面では、金大統領が金融支援や投資拡大を要請するのに対し、小渕首相は日本輸出入銀行による30億ドルの融資や、官民による日韓投資ラウンドテーブル（円卓会議）の設置などを提案するとみられる。

また、両首脳は朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による「ミサイル」発射事件に憂慮を表明、朝鮮半島の平和と安定に向けて両国が緊密に協力する必要性を強調する。

不破委員長も 歓迎宴に出席

共産党との関係改善へ

共産党の不破哲三委員長が、韓国の金大中大統領の来日に伴い、首相官邸で開かれる小渕恵三首相夫妻主催の夕食会（8日）に出席することが6日、明らかになった。韓国大統領来日に合わせて開かれる歓迎宴に共産党委員長が出席するのは初めて。同党は、機関紙「しんぶん赤旗」のソウル支局開設など「韓国との関係改善の一歩になる」と期待している。

韓国大統領の訪日は過去3回あり、その度に首相官邸で歓迎宴が開かれ、外務省が人選したゲストが招かれた。政府関係者によると、いずれの政党の党首も招かなかった1994年の金泳三前大統領のケースを除き、84年の全斗煥、90年の盧泰愚両元大統領のケースでは、共産党を含む主要政党の党首がリストアップされたが、「官邸サイドの判断で、共産党には招待状は出さなかった」という。

共産党は、今年6月の中国共産党との関係正常化に続き、韓国との関係構築を急いでいる。昨年4月、松本善明衆院議員が同党幹部として初めて訪韓した。

【塩谷 英明】

98.10.7. 毎日

共同文書に「反省」盛り込まぬよう要望

自由党有志、外相に

自由党の所属議員有志は6日、韓国の金大中大統領来日時に発表する日韓共同文書に、日本側の「過去の歴史認識に対する反省」を盛り込まないことを求める要請書を高村正彦外相に提出した。①共同文書が踏襲する1995年8月の村山富市首相の「談話」は、国民の共通の歴史認識ではない②政府に国民の歴史認識を拘束する権限はない――と主張している。

98. 10. 7. 毎日

もっと知りたい韓国

金大中韓国大統領が7日、国賓として訪日し、10日まで3泊4日の日程で東京と大阪に滞在する。25年前、東京からソウルに連れ去られた事件で有名になった野党政治家が、今回は大統領として天皇陛下の歓迎を受け、国会で演説し、小渕恵三首相と首脳会談を行う。歴史的な意味は言うまでもないが、訪日の狙いは要するに「日韓友好」であり、重要なのは両国民が互いを知り合うことだ。その意味で、大統領の横顔や韓国社会、観光交流の現況などを紹介する。

●「苦難」と「不屈」――試練の政治家

3回連続で落選

拉致、軟禁、投獄、死刑判決

「奇跡」の大統領

「苦難」と「不屈」。金大中韓国大統領を語るとき、決して欠かせないのが、この三つの言葉だ。政治家としての力量も、私人としての人間味も、すべてこのキーワードに彩られる。

日本による植民地時代、金鍾泌前首相に浮かぶ島の貧しい農家に生まれた。解放後、郵船会社や新聞社を経営し、さらに政治を志したが、国会議員選挙で最初の3回は連続落選。大統領選でも3回落選した。

この間に、東京からの拉致事件、自宅軟禁、投獄、死刑判決、米国への一時亡命など、世にもまれな試練を経験した。金鍾泌出身者が政治の中枢から疎外されてきた1000年余りの歴史を背景に、大統領当選を「奇跡に近い」という見方さえあった。

比較のため紹介すれば、「民主化運動の闘士」として同列視されたこともある金泳三前大統領は、やはり島に生まれたが、そこは慶尚道であり、実家は裕福な網元だった。20歳代半ばで史上最年少の国会議員に当選した。長く苦しい野党生活を送ったとはいえ、軍人出身大統領たちと同じ慶尚道出身だったため、与党への合流と政権獲得は比較的スムーズだった。

異常な苦闘を経験した現大統領は、折にふれて孤児や障害者など社会的弱者への深い同情を示す。富裕層より貧困層、大企業より中小企業に心を寄せているフシがある。また、今は国会議員である長男の政界進出について「政治家の世襲は疑問」と批判されたとき、「親のせいで幼いころから苦労させた。もう50歳になろうという息子の希望をつぶすのは、親としてしのびない」と、正義追求だけでない「情の人」である側面を見せた。

かつての交通事故や獄中生活で足や耳を痛め、70歳を超えた年齢のために不眠不休というわけにもいかないが、今も旺盛な食欲を示す。極めて聡明な頭脳の持ち主で、もともと堪能な日本語に加え独学で英会話をマスターした知識吸収力はかねて有名だ。現在も、報告をすばやく理解し問題点を突く鋭さで、政府高官を驚嘆させるという。

ようやく政権を獲得した政権は深刻な経済危機の真っただ中。またしても不運な巡り合わせだが、「不屈」のリーダーシップに期待が集まる。

9月28日、青瓦台で経済政策の特別記者会見をする金大統領＝朝鮮日報提供

経済も復活の兆し

韓国の金大中大統領は先月28日、青瓦台（大統領官邸）で経済政策特別会見を行い「来年中盤には経済活性化が実現できる」と言言した。昨年末の国際通貨基金（IMF）との支援融資契約から10カ月。韓国経済は労使関係の正常化などの問題を残しながら、再成長への道を歩み始めている。

70年代以来、急成長を続けてきた韓国の経済危機発覚は突然だった。大手自動車メーカー・起亜自動車の経営難をきっかけに、通貨ウォンの為替レートの下落、金融機関の資金難と事態は進み、昨年末の政府保有外貨高は国家破産寸前の30億ドルに落ち込んだ。

金大中大統領は「苦痛分担」をスローガンに、労働組合、経済界（使用者）、政府の3者代表で構成する「労・使・政」委員会を発足。「整理解雇制」の法制化、企業経営の合理化、金融機関の構造調整を柱に「朝鮮戦争（1950～53年）以来の国難」と言われた危機克服に乗り出した。28日の特別会見で金大中大統領は、外貨保有高が史上最高の430億ドルに回復▽対外債務の44・3％を占めていた短期外債の割合が25・8％に低下▽外為市場と物価の安定――を挙げ、韓国経済が安定軌道に乗り始めていることを強調。

今後、財政支出拡大、低金利政策などの積極経済政策で、来年中盤までに経済を活性化させる展望を示した。

韓国政府は、海外からの投資誘致策として①国内企業の株式所有限度拡大②公社債市場の開放③企業の合併・買収（M&A）の容認④土地取引の自由化⑤公営企業の海外資本への売却――を決定している。

金大中大統領は訪日に関連して「日韓両国がアジア経済再建のために新たなパートナーシップを築く必要がある」と経済協力関係強化への期待を高めている。

98.10.7. 毎日

もっと行きたい韓国

韓国の日本人観光客誘致熱は並大抵ではない。外務省が留学しいのはもちろんだが、金銭的に節約なマナーへの好感や、隣国との相互理解深めたいという期待があるのも事実だ。日本人向けをターゲットにしたツアーもある。これらを含めて、最近の新しい観光スポットを紹介しよう。

マツタケ　キムチ　あかすり
結婚式　第3トンネル　スキー

人気の観光スポットは

●●秋

韓国でも秋には祭りが多い。おなじみの伝統的祝祭に加え、今年の新しい目玉は、文化遺産の宝庫として知られる古都・慶州で11月10日まで開催中の「世界文化エキスポ」だ。

48カ国が参加して古代文明の遺物や伝統芸能にからむ催しを展示し、歌も踊りの公演も盛りだくさん。古都観光とセットで楽しめる新祭がうけて、9月の開幕以来、すでに100万人が観覧し、外国人客の大半は日本人だという。

このほか10月後半の大規模な行事は、釜山の有名な水産市場・チャガルチでの「キムチ祭り」など。

一方、9月に江原道麟蹄郡の高地で催された「マツタケ祭り」では、日本人向けに輸入したマツタケ狩りが人気を集めた。遠地に行かなくても、ソウルの「京東市場」なら安くて高質なマツタケを入手しやすい。

今年は閉鎖のため韓国民は不作で、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）のマツタケを中国経由で大量に仕入れているという。

●●女性

かつては男性主体だった韓国観光が、いまや婦人の海外旅行は生きがいの一つである。日本からの入国者のうち、昨年実績で36%が女性だ。観光客に限ればもっと高率だろう。特に20代の女性の伸びが目立つ。

従って、新しい観光商品も若い女性向けのものが多い。すっかり定着になった「あかすり」を核とするエステティック観光も、足のマッサージなど新手のメニューが次々に登場。「気持ちよくてクセになる」と、何度も訪れるリピーターが増えた。

この「何度も」というのは、大事なポイントだ。グルメの面でも焼き肉や鍋料理は出来なくなり、様変わりの韓国料理を楽しみながらそろそろ街角を歩き回る。

ショッピングにもこの傾向が表れ、免税店は贅沢品の一つにすぎなくなった。ソウル市内各所のしゃれた衣料品店には、日本女性が押し寄せている。日本で売っているのと同じ商品をずいぶんと安く買おうという、バーゲンセール感覚だ。女性たちが自ら開拓した観光スポットともいえる。

一方、韓国側が意識的にPRしている新分野は、ウエディング関連観光だ。ソウル麻浦区のドレス街では、日本の半値以下でオーダーメードが出来る。また、「結婚式そのものを済州島などの高級ホテルで」という売り込み作戦も始まっている。「海外結婚式」に親せきや知人を招いても、日本に比べれば格安に出来るという発想だ。

●●安保

韓国と北朝鮮の南北分断は不幸だが、軍事的緊張を観光客に見せることには教育的意味もあり推奨してもよいのではないか。そう考えた韓国観光公社は最近、「安保観光」のスポット開発に乗出した。

最も新しいのは、北朝鮮が非武装地帯の地下を南に向けて掘ったトンネルのうち韓国側が3番目に発見した「第3トンネル」と、北朝鮮側施設が見える展望台などを組み合わせた見学コース。これまで接近が制限されていたが、11月から簡単な手続きで団体、個別の訪問が可能になる。

「安保観光」の代表格は板門店だが、人数制限などで見学格別がかなわないこともある。また江原道の南4トンネルと展望台の見学コースは、ソウルから遠く、外国人の格別観光に向きだった。新コースは、「手軽」という点に最大のメリットがある。

●●スキー

ここ数年、特に九州など西日本地区を中心に人気が高まっているのが、韓国へのスキーツアー。日本国内の本格ゲレンデに行くよりはるかに安く、スキーを楽しめるからだ。

韓国には10カ所余りのスキー場があり、このうち4カ所ではスノーボードも出来る。江原道の雪平リゾート（ドラゴンバレー）や現代量産、フェニックス・パークなどはスロープの数も多く、実際に訪れた日本人スキーヤーによると「満足出来る水準」だという。昨年は日本からチャーター機で江原道に舞い下り、スキーさんまいを楽しんだ日本人たちもいた。

多彩なキムチに会える光州キムチ祭りの昨年のにぎわい。今年も盛況確実だ

98.10.7. 毎日(夕)

金大中大統領　拉致事件から25年

捜査に〝外交の壁〟

警察当局　解明への糸口つかめず

同警として7日、来日した韓国の金大中大統領は1973年夏、東京都内のホテルから連れ去られソウルで解放された拉致事件の被害者。事件には韓国中央情報部（KCIA）の組織的関与が疑われているが、両国政府間で政治決着が図られたこともあり、真相は未解明のまま。警察当局は引き続き捜査を継続する」（関口祐弘警察庁長官の1日の記者会見）というが、警視庁の捜査本部はすでになく、新たな展開は望めない状況となっている。

拉致事件は同年8月8日午後1時、東京都千代田区のホテルで起きた。金氏の証言によると、6人の男に無理やり自動車に乗せられ関西地方で二時、監禁された。その後、モーターボートから船に乗り換えて出国し、同月13日夜、ソウルの自宅近くで解放された。

警視庁はホテルの部屋から指紋が検出された在日韓国大使館の金東喜1等書記官（当時）を実行グループの1人と断定、拉致に使われた車は在横浜領事館の副領事が所有する車両と特定した。同年9月、日本側は韓国側に同書記官の任意出頭を求めたが、外交慣例を理由に拒否された。

75年7月、韓国側から①金東喜書記官についての捜査を続行したが、確証を得ることができず不起訴処分とした②同書記官は解職した――などとする口上書が届き、政府もこれを受け入れ、両国の外交関係上、問題としないことで政治決着が図られた。

事件をめぐっては77年、拉致を行ったメンバーについて、米国に亡命していた元KCIA部長が議会で証言し11人のリストを提出。今年2月、韓国紙「東亜日報」が報道した拉致事件に関するKCIAの極秘文書でも、事件に関与したとしてKCIA要員25人などの名が挙げられ、KCIAが組織的に関与したという見方が固まっている。

一方、警察当局は容疑者が国外に逃亡している間は時効が停止するため、金氏や韓国内の関係者への事情聴取を行いたいという立場を堅持。事件後、6回にわたり来日した金氏に外交ルートを通じて5回、事情聴取を申し入れしたが、実現したのは1回だけだった。

金氏は大統領就任直前に「拉致事件の責任を追及するつもりはない」「両国政府が困らない範囲で真相解明を進めなくてはならない」などと語っている。

金大中大統領来日に際して羽田空港付近の植え込みを調べる警察官＝東京都大田区で7日午前9時25分、西村剛写す

98.10.7. 東京(9)

胸を開いて

訪日・金大中大統領

■3

人材育成コンサルタント　辛淑玉さん

日韓双方の無知が横行

——金大中大統領の来日をきっかけに、日韓両国が取り組まなければならない課題は何でしょう。

在日コリアンの人権や地位の根本的な見直しと改善です。日韓条約に基づく現在の措置ではあまりに不十分。公務員への採用、国籍選択の自由化、地方参政権など、これまで両国が「互いの主権にかかわる」と触れてこなかった問題について踏み込んで話し合い、共通のプログラムとしてまとめてほしいですね。

日本もそうですが、実は韓国も在日のことをよく分かっていません。韓国政府の在日に対する処遇について不満を口にすると、韓国人は「日本人になればいいじゃないか」と言います。日本が、私たちに国籍を簡単に与える国ではないことを知らないんです。日韓双方に無知が横行していて、在日の問題が、日韓関係に突き刺さっている最大の"トゲ"だという認識がどちらにもないんです。在日の置かれた状況を、両国の主権を越えた人権の問題としてとらえなければ。日韓両政府は今まで、その人権をじゅうりんし続けてきた在日に謝罪すべきだと思います。

——日本の過去の歴史に対する「謝罪」や「戦後補償」についての考えを聞かせてください。

戦後五十三年たった現在でも、日本政府が植民地政策の肝心な資料を公開していないという点に不満を持っています。そして、個別の事実を徹底的に公にし、解明していく作業が重要だと考えます。

例えば、従軍慰安婦の問題では「拉致（らち）監禁・強制売春の罪」というように罪名を明確にし、罪を犯した一人一人を捜し出して償わせるべきでした。しかし、それができませんでした。過去の歴史を清算できないでいるという点で現在を生きる若者にも責任があるとは思います。でも、少なくとも私の周りの韓国人には「日本の若者に謝ってほしい」と言っている人はいないし、私も謝る必要はないと思います。もともと「謝罪」なんて、謝れと言われて謝るものではありません。

——政府間の交渉とは別に、両国の民間レベルでの交流や友好は活発になっています。

日韓に横たわる問題を具体的に解決していくような意識的な民間交流なら、両国の危機回避にとても役立つと思う。日本もだいぶ変わってきました。私自身、大学や自治体などの講師を頼まれたり、審議会の委員になってほしいという依頼が増えています。十年前の在日コリアンには考えられなかったことです。日本社会には、マイノリティー（少数派）を尊重する社会へ変わっていける可能性があります。抑圧されてきたマイノリティーがもっと社会に参加すれば、本当の多様性が生まれ、世の中を変える力になると思います。

——日韓の「共生」は可能ですか。

隣国同士の仲が悪いのは国際関係の常ですが、日韓の関係は、ドイツとフランスの関係とも違います。それは戦後処理の姿勢に大きく関係しています。ドイツは戦後補償と教育に努力し、欧州諸国もそれを評価して受け入れる努力をしました。日韓はこの努力をせずに、戦後五十三年を過ごしてしまい、現状で真の「共生」を求めるには、あまりにも「前提」が欠落していると言うほかありません。国と国との関係よりむしろ、日本の民間で芽生えている在日外国人との共生を目指す社会づくりにこそ、新しい日韓関係の可能性があるのではないかと期待しています。

辛淑玉さん　東京生まれの在日コリアン三世。1985年、人材育成会社「香料舎」を設立。教材開発、インストラクターの養成などを請け負う。96年には人材育成技術研究所を開設し、「女性」や「人権」をテーマとした公開講座を開いている。辛口の語り口で各種メディアでも活躍。本紙の連載コラム「言いたい放談」を執筆中。39歳。

98.10.7. 日経（2面）

韓国大統領きょう来日

「歴史」決着で包括的協力へ

金大中大統領

韓国の金大中大統領が七日昼、就任後初めて来日する。同日午後に天皇陛下と会見、八日午前に小渕恵三首相との初の首脳会談に臨む。会談後、両首脳は日韓関係の過去、現在を総括し、未来における両国の協力内容を包括的に示す「二十一世紀に向けた日韓新パートナーシップ」と題した共同宣言と行動計画に署名、発表する。金大中大統領の外国公式訪問は六月の訪米に次いで二回目。

野中広務官房長官は六日夕の記者会見で、大統領の来日について「小渕政権になってから初めての国賓で、心から歓迎する」と表明するとともに、「両首脳が両国間の過去の歴史を直視し、これに区切りをつけたうえで、未来に向けたグランドデザインを示す」と述べた。

首脳会談では首相が過去の植民地支配に触れ「適切な反省と心からのおわびの気持ち」を伝え、こうした認識を共同宣言に明記する。「過去の清算」を求めてきた大統領もこれを評価するとみられ、両首脳は歴史認識問題に一つの決着をつけたい考えだ。

日本文化の開放

両国で協議機構

金大中大統領表明

【ソウル6日＝橋本隆祐】韓国の金大中大統領は六日、現地紙と会見し、日本の大衆文化の開放について「両国の文化専門家が協議機構をつくって、段階的に開放する考えだ」と述べた。歴史認識問題では「日本の指導者は相当はっきりと謝罪の態度を示そうとしている」と語った。

98.10.7. 読売(夕)

感無量 金少年の「快闘」

韓国大統領来日 恩師が思い出

不幸な過去の清算、韓国での日本文化解禁――きょう七日の金大中・韓国大統領の来日で、日韓の長年のわだかまりが大きく解消に向かう期待が高まっている。こうした中で今回の訪日をだれよりも喜び、感慨深く受け止めているのが、駐ウルグアイ大使などを務めた元外交官、横本伊三郎さん(79)だ。戦前、韓国南部にあった旧制の木浦公立商業学校で三年間教壇に立ち、担任したクラスに金少年がいた。六十五年前の拉致事件、十八年前の死刑宣告と、幾度も危機を乗り越えた金大統領に、かつて「人生は闘いの連続だ」と説いたのが横本さんだった。(本文記事一面)

「彼なら日韓の難問を解決できる」と期待を語る、金大統領の恩師、横本伊三郎さん(横浜市内の自宅で)

「リーダーの風格あった」

「私が担任の間はずっと級長だった。体格もよく、すでにリーダーの風格があったね」

そう言って、横本さんは、木浦商業の「卒業写真帳」を懐かしそうに開いた。

横本さんが、木浦商業の教員となったのは一九三九年。長崎高商(現・長崎大)を卒業したばかりの二十一歳だった。同じ年に金大統領も小学校を出て五年制の木浦商業に入学。一年から三年まで横本さんが担任だった。

一学年は約百六十人で、日本人と朝鮮人がほぼ半数ずつ。地域の秀才が集まっていた。その中で金少年の成績は常に一番だった。

当時はまだ完全な戦時体制ではなかったが、朝鮮人生徒がさいなことから不敬罪で逮捕されたり、日本姓を強制する創氏改名も始まっていた。金少年も学校での名前は、豊田、だった。

次第に厳しさが強まる時代に、若い横本先生は生徒たちに向かって、「その中から苦学してきた自分の経験談を語り、最後にはいつもこう言った。

「人生が闘いの連続であるならば快く闘おう。『快闘』の後には何かが残る」

日本や韓国で当時の生徒たちが集まると、横本さんの「快闘」という通語の思い出話に花が咲くという。金大統領も野党指導者だったころから、「横本先生は朝鮮人と日本人を差別しない人で、励ましてもらった」と語っている。

政治家としての資質に目覚めたのも木浦商業時代。同校では月に一度、時局講演会が開かれていた。軍事教官がアジア情勢を講演すると、金少年は鋭い質問や論駁を挑み、同級生や教員をうならせていた。

「彼の演説は説得力があってね。だから私は『商業学校を出て商売人になるより、代議士の方が向いているぞ』って、言ったことがありますよ」

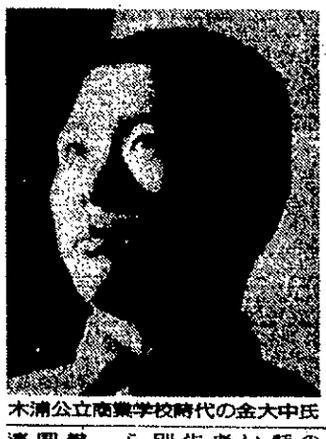
金大統領も自宅の中で、こうした体験が政治の道を歩む きっかけになったかもしれない、と記している。

横本さんは戦後に外務省に入り、各地の在外公館を転勤した。東京で「金大中拉致事件」が起きた時は、トルコ公使だった。ニュースを聞いてがく然としたが、環境外交官ゆえに感情を見守るしかなかった。

「彼の無事が確認された後、何も役に立てなかったことをわびる手紙を韓国の自宅に出したが、当時の政権下では届かなかった」

その後も金氏は内乱陰謀罪などに問われて死刑判決を受け、復権後も何度となく挫折を味わっている。それを乗り越え、今また経済危機などの困難に向かう金大統領の姿に、横本さんは「快闘」の文字を重ねる。

「金大統領ならば、日韓の間に残る難問を解決できる。かつての教師として外交官として、期待しています」



木浦公立商業学校時代の金大中氏

近くて近い日韓関係築いて

フランスW杯の韓日共同応援団で事務局長を務めた在日韓国人の[illegible]さんの話「金大統領は市民レベルまで幅広く日本の人脈を持っており、二〇〇二年のW杯共催に向けて、『近くて近い』日韓関係を築いてくれるはず。サッカーなどを通じて若者たちの日常的な交流が始まっているし、日本語の音楽なども現実には韓国内で完全に浸透している。来日中に、こうした動きを後押しする発言が必ずあると期待しています」

「ソウルの達人」などの著書がある俳優、黒田福美さんの話「日韓の間ではこれまで、政治的なわだかまりをまず解決しなければ何も始められない雰囲気だったが、順序を替えて、スポーツ交流や文化開放から始めることの方が近道。金大統領は、そうした形で日韓関係を築いてくれる心強い大統領だと思う。韓国での日本文化の解禁は、両国関係をいやすリハビリのようなもの。きっと相互いを豊かにしてくれるはずです」

98.10.7. 読売 (9)

羽田空港に到着した金大中大統領夫妻（午後0時13分羽田空港で、小西太郎撮影）

韓国大統領が来日

あす小渕首相と会談

9/7 9

韓国の金大中大統領は七日昼、李姫鎬夫人とともに羽田着の特別機で来日した。国家元首である韓国大統領が国賓として日本を訪れるのは九四年三月の金泳三大統領（当時）以来、四度目となる。

金大中大統領は午後、迎賓館での歓迎行事に出席した後、皇居で天皇陛下と会見する。さらに、都内のホテルで在日韓国人との懇談会を開き、夜には宮中晩さん会に臨む。同晩さん会では、天皇陛下が日韓両国の過去の歴史にも触れる「お言葉」を述べられ、大統領も両国の協力関係の進展をうたうスピーチを行う。また、小渕首相と金大統領は八日午前、初の首脳会談に臨み、両国間の「過去の歴史」に区切りをつけたうえで、「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築を目指すことを確認する。（関連記事19面）

98.10.7. 毎日

「日本文化開放」着々と

マンガは定着 映画も人気

韓国政府は、不特定多数を対象にした日本の歌謡曲、演劇、映画など「大衆文化」の公演、上映を禁止してきた。

金大中大統領は「日本の文化だけを規制するのは、国際化された現代社会の中では不自然」と主張し、今年2月の就任以来、「日韓文化交流」の一環としての「日本文化開放」の具体的な枠組を関係省庁に指示してきた。

しかし、韓国社会の中に日本文化の代表として、若者向けのマンガ雑誌やゲーム、キャラクターグッズとして「日本マンガ」が定着して久しい。

韓国政府の韓国機関・韓日文化交流政策諮問委員会が最近開催した「韓日文化シンポジウム」では韓国側参加者から「日本マンガが世界を席巻したエネルギーの原動力は、究極に維持された『表現の自由』にほかならない」という最大級の賛辞の声が上がり、日本マンガが「低俗文化の代表」として批判を受け、昨年、追放運動まで起きた経緯を知っている韓国の人々を、[illegible]

まして、上映が禁止されているはずの映画も、すでに韓国の人々の高い関心を集めている。先月24日から1日まで開催された韓国最大の映画祭「第3回釜山国際映画祭」の模様を韓国の有力紙・朝鮮日報は「釜山の『日本映画祭』」の見出しで報じた。

同映画祭で上映された19編のうち6編が日本映画で、日本映画の入場券は開幕前日までに、ほとんど売り切れた。昨年、「スワロウテイル」で注目を浴びた日本の若手監督、岩井俊二氏と映画ファンの対談会場では、「私の映画を見たことがある人は」との岩井氏の問い掛けに会場を埋めた若者のほとんどが手を挙げ、「日本映画を見ることは韓国では禁止されているはずなのに」と岩井氏を驚かせた。

営業目的での不特定多数相手の上映は出来ないものの、大学祭などでの日本映画の上映会は当たり前になっている。

韓国の新聞は黒澤明監督の死去を1面で報じた。これも韓国の人々がさまざまな形で、日本映画に親しんでいることを証明していたと言えよう。

日本の観光客、昨年比14%増

「反日」だ「嫌韓」だと重苦しい論議が時に火花を散らす一方で、日韓の一般国民レベルの関係は大きく変わりつつあるのではないか。以前とは比べものにならないほど増えた観光客の往来が、相互理解のすそ野を広げている。

今年、日本人の韓国訪問の増加は目覚ましい。韓国観光公社によると、8月末までに126万人という数字は史上最高で、昨年比14%もの急増。他国への旅行者が軒並み減ったのと比べ、全く対照的だ。

原因としては、①日本の景気低迷で近隣国を選択②ウォン安で円の使いでがある③治安に問題がない④番港の魅力減少――といった事情が指摘されている。

旅行スタイルの変化もそれを実証している。「焼き肉、免税店」だけの団体ツアーは、もはや主流ではない。2、3人連れの日本女性が、安くて質のいい衣料品市場などに、驚くほど増えた。観光客の要求は多彩に広がり深まって、国内旅行の感覚に近づいている。

一方、韓国からの日本旅行は7月までに45万人。深刻な経済危機のため昨年より32%も減ってしまった。しかし全体の減少率41%に比べれば、かなりましだ。経済事情が好転すれば、真っ先に増えるだろう。

団体旅行から家族連れや友達連れの旅へ、観光地巡りから個々の関心に従った探訪へ、という変化の流れは、日本発韓国行きの場合と全く同じ。将来は、国境の意味が薄れるような時代が来るかもしれない。

98.10.7. 毎日 (1面)

外国人登録法

指紋押なつ全廃へ

法務省 通常国会に改正案

法務省は7日までに、在日外国人の指紋押なつ制度全廃を含む外国人登録法改正案を、次期通常国会に提出する方針を決めた。中村正三郎法相が6日、法改正検討を明らかにしたのを受けたもの。

在日外国人に対して1955年から義務づけられてきた指紋押なつ制度は、人権面から問題視され、反対運動が起こっていた。87年には外国人登録法を改正、5年ごとの登録証明書更新などのたびに課していた押なつを、最初の申請の際の1回に限った。さらに93年からの改正法で、在日韓国・朝鮮人や永住者への押なつは廃止、写真や書類などで本人と確認することとした。

しかし、非永住者で1年以上日本に滞在する16歳以上の外国人は登録証への押なつが義務付けられたままだった。

現行法へ改正した92年の審議の際には、衆参の法務委員会が、改正法施行から5年後に素早い見直しを行うよう付帯決議をしていた。法務省は5年が経過したことから、見直し作業を進めていた。ただ、指紋押なつ制度全廃については、治安上の理由から警察庁などに反対意見もあり、調整していく方針だった。

一方、登録証明書の常時携帯義務の廃止については、今後の検討課題とされており、今回の改正法に盛り込むかどうか明確ではない。【小林 華志】

98.10.7. 毎日

永住外国人の地方参政権法案を提出

民主と平和・改革

民主党と平和・改革は6日、永住外国人に地方自治体の首長や議員選挙への参政権を認める法案を衆院に提出した。永住外国人選挙人名簿に登録された満20歳以上で、3カ月以上その市町村に住む外国人を対象に地方参政権を認める内容だ。

押なつ廃止、通常国会に

中村正三郎法相は6日の衆院法務委員会で、外国人登録法に定められた指紋押なつ制度を見直す同法改正案を、来年の通常国会に提出するよう事務当局に指示したことを明らかにした。法務省は現在、指紋押なつの廃止を含め、検討を進めている。

現状では、非永住者で1年以上日本に滞在する16歳以上の外国人は登録原票などに指紋を押なつしなければならない。1992年の同法改正で、永住者や在日韓国人・朝鮮人、台湾出身者については署名などで指紋押なつに代える仕組みに改められている。

日사과 明文化로 '과거사 매듭'

金대통령 訪日 일상회담

5개분야 협력 「행동계획」 채택

NHK좌담 출연등 日국민과 직접 대화도

7일 취임후 처음 일본을 방문하는 김대중 대통령은 8일 김 대통령과 오부치 게이조(小渕恵三) 일본총리의 정상회담에서 양국 관계는 근본 단계 발표할 21세기의 양국 관계를 「21세기의 한일 파트너십」이라고 천명하고 양국에 20세기가 잘못과 협력이 후세대 시기였다면, 21세기에는 절충의 요소를 벗어버리고 진정한 우호협력관계로 발전시켜야 한다는 것이다. 또한 김 대통령은 이번 방일을 그 절충점인 전기로 삼으려고 하고 있다.

갈등의 요소를 제거하는데 가장 중요한 부분은 과거사 정리다. 과거 정부들은 매번 이 문제를 매듭지어 미래로 나가고자 했고, 일본 지도자들 역시 과거 식민지 지배에 대해 사과와 반성을 해왔다. 그러나 그때에도 일본 각료들의 망언(妄言)이 여러번 국내 여론도 나빠져 원점으로 회귀하는 악순환이 계속되었다.

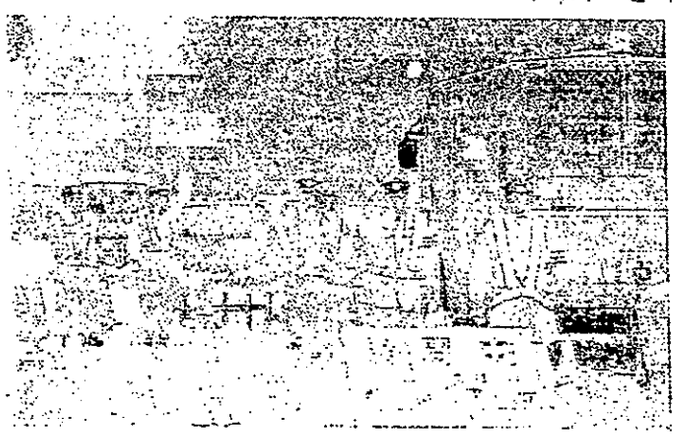
양국 정부는 이번에는 이런 악순환의 고리를 끊기 위해 과거사 문제를 문서로 정리하기로 했다. 양국 정상은 과거사 때 비로소 진정한 우호의 뜻을 밝히나간도록 관계로 발전할 수 있다 협력키로 할 것으로 알려졌다.

두 정상은 고위 정치인 각료들의 교류 확충, 방문증, 일본의 대중문화 개방할 단계적으로 개방할 일본 수출입은행의 30억 달러를 밝히고, 20 일본 수출입은행의 30억 달러를 밝힌 것이다. 그래서 일본 정치, 외교, 안보, 경제, 국민과 문화 교류 등 5개 분야별 협력 방안을 다짐하고 양국의 협력을 다짐하고 새로운 한일 파트너십 선언을 발표할 것이다.

김 대통령은 이번 방일 기간 중 일본 국회연설에서는 일본 국민들에게 과거를 직시하고 반성하는 용기의 필요성을 강조하면서 동시에 전후 일본의 긍정적 측면들을 평가하고 양국관계 개선을 강조할 예정이다. 그날 저녁 NHK와의 좌담에서도 솔직한 의견을 개진할 계획이라고 한다. 두차례 경제인들과의 만남에서도 아시아의 경제위기 해결을 위한 일본의 보다 적극적인 역할을 당부할 예정이다.

〈洪進鎬기자·jinhong@chosun.com〉

<그래픽: 김정한기자 wolla@chosun.com>



◇日경찰 경비강화 김대중 대통령 의 국빈 방문을 하루 앞둔 6일 일본 경찰이 아키사카 영빈관 앞에 임시 검문소를 설치, 차량들을 검문하고 있다. 【東京=연합】

日本、謝罪の明文化で「過去史にけじめ」
5分野で協力「行動計画」採択
NHK座談出演等、日本国民との直接対話も

７日、就任後初めて日本を訪問する金大中大統領は、２０世紀の韓日関係と２１世紀の両国関係は根本的に変わらなければならないという考えであると、青瓦台の参謀は語った。両国にとって２０世紀が葛藤と協力の混在した時期であったのならば、２１世紀は葛藤の要素を捨て去り真の友好関係でもって発展させなければならないということである。もちろん金大統領は今回の訪日をその決定的な契機にしようとしている。

葛藤の要素を取り除くのに最も重要な部分は過去史の整理である。過去の政府も毎回この問題にけりをつけ未来に進もうとし、日本の指導者もやはり過去の植民地支配について謝罪と反省をしてきた。しかし、その後にも日本の閣僚の妄言が相次ぎ、国内世論も悪くなって原点に戻る悪循環が続いてきた。

両国政府は今回にはこのような悪循環の輪を断ち切るために過去史問題を文書化して整理することとして既に合意した。８日、金大統領と小渕首相の首脳会談の後に発表される「２１世紀の新しい韓日パートナーシップ」にその内容を含めることにしたことである。日本はこの宣言の前文で過去の韓国植民地支配についての反省と謝罪を具体的且つ明確な表現で行い、金大統領はこれを評価する予定であることが明らかになっている。

両国の首脳は過去史問題の「終結」を土台に政治、外交安保、経済、具体的争点、国民と文化交流等５分野別の両国の協力を確約し、これを具体的に実現する行動計画（Ａｃｔｉｏｎ　Ｐｌａｎ）も付属文書として採択する予定である。

金大統領はこのような過去史の整理と政府間協力と同じくらい「国民間の交流と協力」が重要であると語ってきた。両国の国民が心の扉を開くとき初めて真の友好関係でもって発展できるということである。その点をふまえて日本訪問中日本の大衆文化を段階的に解放する方針であることを表明し、２００２年のワールドカップ以前に明仁日王（ママ）の訪韓が実現されるべく、ともにその雰囲気を作り上げていこうと提案することも明らかになっている。日本側も工科系の学生の受け入れ等の青少年交流に努力し、両国の国民が幼い頃から相互理解の幅を広げていくように協力していくことを確認した。

両首脳は高位政治家・閣僚の交流拡充、日本輸出入銀行の３０億ドル追加融資等多様な経済協力法案等も論議する。また、「太陽政策」を根幹にした我が国の対北政策に対する共助法案も主議題中の一つである。

金大統領は「友好協力」に向けての新しい出発を日本人に直接呼びかける日程も組んでいる。８日の日本国会での演説では日本国民の過去を直視し反省する勇気の重要性を強調しながら、同時に戦後日本の肯定的な側面を評価し両国関係の改善を強調する予定である。同日の夕刻にもたれるＮＨＫとの座談でも率直な意見を表明する予定とのことである。２度の経済界関係者との会見でも、アジア経済危機解決のための日本のより積極的な役割を呼びかける予定である。

（朝鮮日報　１０月　７日　３面）

98.10.7 日経

指紋押なつ制全廃

法相方針 外国人登録法改正急ぐ

中村正三郎法相は六日午後の衆院法務委員会で、外国人登録に伴う指紋押なつ制度を全廃する方針を初めて明確に表明した。自民党の八代英太氏が「廃止すべきだ」とただしたのに対し、「全く同じ考えだ」と答え、指紋押なつ制度廃止のため、外国人登録法の改正作業を急ぐ方針を明らかにした。衆参両院の法務委は全廃を念頭に制度見直しを求める付帯決議を行っており、法相は「決議の趣旨にのっとりたい」と強調した。

法相は「次期通常国会に改正案を出せるよう事務当局に指示している」と述べ、

制度全廃の動きに対しては、警察庁が犯罪対策や治安維持の観点から強く反対してきた経緯があるため、今後の両省庁の調整が焦点となる。警察庁が抵抗することも予想される。

現在、指紋押なつ義務のある外国人は、在日韓国・朝鮮人ら永住者・特別永住者を除き、一年以上、日本に在留する十六歳以上が対象。本年度で約六十万人と推定される。

指紋押なつ制度は、在日韓国・朝鮮人らが「差別の象徴」として長年にわたり廃止を要求してきた。一九九二年には永住・特別永住外国人の指紋押なつを廃止する改正が成立。その際、衆参両院の法務委は制度全廃を含みに「五年後の制度見直し」を付帯決議した。

98.10.7. H.T. (7面)

Korea Wants a Clear Japanese Apology

President, in Tokyo, Will Ask That Colonial Past Be Acknowledged

By Don Kirk
International Herald Tribune

SEOUL — When President Kim Dae Jung lands in Tokyo on Wednesday, he will be carrying a long list of trade and political issues for discussion. But his primary concern will be "the apology."

Mr. Kim and Prime Minister Keizo Obuchi are to sign a joint statement that officials of both governments say will include Japan's first apology specifically to Koreans for Japan's 35-year colonial occupation of Korea, which ended with the Japanese surrender in August 1945.

For South Koreans, wresting from Japan what the government calls an apology specific to what happened in Korea is vital to opening a wide range of relations with a country still viewed with the deepest suspicion, if not hatred.

The Koreans have made it clear that they are not satisfied with the kinds of regrets that they have elicited from Japan so far, including most recently a statement in 1995 by Prime Minister Tomiichi Murayama in which he expressed "deep remorse and a heartfelt apology for colonial rule and aggression" — but did not link the remarks directly to Korea.

In the absence of a Korea-specific apology, Japanese cars are still banned here, and theaters and television and radio stations cannot present Japanese plays or films or play Japanese songs.

"Of course, the Japanese have to make the apology first," said Shin Hyung Sook, a librarian in Seoul. "We still will not trust them, and we are not sure if it's a good thing ever to let them bring in their culture."

Times, however, are changing, and President Kim has been telling both Japanese and Korean journalists that relations between the two countries have been excellent for 1,500 years except for the Japanese invasion in the 16th century and the Japanese colonial era in the first half of this century.

Both President Kim and Prime Minister Obuchi are eager, say aides, to improve relations as they contemplate what they see as an increased threat from North Korea. Mr. Kim, pursuing his "sunshine policy" toward the North, will try to persuade Japan to fulfill its commitment of $1 billion toward construction of light-water nuclear reactors in North Korea, even though the Japanese government is still furious over the firing of a missile from North Korea over Japan on Aug. 31.

Mr. Obuchi, for his part, may suggest that South Korea has not been tough enough in its reaction. "The United States has demanded that we lift sanctions," said a Japanese spokesman, "but I doubt if they will be lifted for the moment. Many people are still very negative about what North Korea did."

The North Korean missile issue is likely to stand in the way of efforts to draw the Japanese into peace-making on the Korean Peninsula, divided between North and South since the end of the Japanese occupation.

"That is a stumbling block to Japan's participation in any conference," said a Japanese government spokesman. But during Mr. Kim's four days in Tokyo, he and Mr. Obuchi may still agree in principle to a six-party conference, including the two Koreas and Japan plus China, Russia and the United States.

South Korea and Japan may be more interested, however, in coordinating defense strategy rather than diplomacy vis-à-vis the North. The South Korean defense minister, Chun Yong Taek, has said Japan and South Korea may conduct military exercises together, and Mr. Kim and Mr. Obuchi are expected to talk about military preparedness.

More than anything else, however, South Korean officials see this week's summit as a landmark almost as important as the opening of diplomatic relations between South Korea and Japan in 1965. A sign of the success of the summit will be whether Emperor Akihito and Empress Michiko subsequently visit Korea. If they do, it will be the first imperial visit to the Korean Peninsula in all those 1,500 years of shared history.

An important sign will be the words in which the Emperor's own formal expression of regret is couched.

For the moment, most Koreans are reserving judgment.

"Apart from all the animosity against the Japanese, I don't think there would be any problem if Japanese culture were allowed here," said Baek Nam Ki, running a small book store, "but we have to filter out the bad aspects of Japanese culture."

Choi Dong Ok, a chemist, did not quite agree. "Absolutely, it is possible they will try to dominate Korea in the end," he said. "At first it won't be significant, but if Japanese culture is allowed here, eventually this market will be totally Japanese."

98.10.7. H.T. (8面)

A Chance for Japan and South Korea

By Ralph A. Cossa

SEOUL — The summit meeting starting in Tokyo this Thursday between South Korean President Kim Dae Jung and Japanese Prime Minister Keizo Obuchi can make a major contribution toward future stability in Northeast Asia — provided Japan is willing to meet Mr. Kim halfway in his attempt to move relations beyond the acrimonious past.

Mr. Kim, showing political courage, has consistently waved olive branches in Tokyo's direction. His predecessor, Kim Young Sam, frequently played to domestic anti-Japanese sentiment to shore up his weak political support.

Kim Dae Jung cites improved relations as vital to South Korea's long-term security and prosperity. He has refused to see Korean-Japanese and Korean-Chinese relations in zero-sum terms and has even encouraged better relations between Japan and North Korea.

His presidency thus provides Tokyo with a golden opportunity to ensure that a future reunified Korea looks upon Japan not as an enemy but as a close friend and partner.

For the summit meeting to pave the way for genuine reconciliation and cooperation, Japan must issue an unequivocal apology for past atrocities during its extended occupation of Korea in the first half of this century. There may have been a strategic rationale for the occupation, but there is no question but that Japanese tactics aimed at destroying Korean culture and dignity were inexcusable. A "sincere apology" with "deep expressions of regret" is the least Tokyo can offer.

Previous politically cautious statements of "sorrow over past actions" have fallen short and thus continue to feed very real anti-Japanese sentiment among the Korean people. Mr. Obuchi now seems ready to remedy this, by issuing a joint statement with Mr. Kim that reportedly will include Japan's "wholehearted apology."

If so, the Korean people and media should reciprocate by accepting Japan's apologies and recognizing, as Mr. Kim does, that genuine reconciliation and cordial, cooperative relations are absolutely essential, not only for Korea but for long-term regional stability.

Koreans should also better distinguish between official Japanese policies and the mutterings of a few unrepentant Japanese who will inevitably try to reinterpret history.

The mood in Seoul about the summit meeting is cautiously optimistic. But newspapers are filled with demands for tougher government stands on the lingering issue of "comfort women" who were forced to become prostitutes for the Japanese army, and many Koreans remain dissatisfied that the recent compromise over fishing rights did not include recognition of South Korean sovereignty over the island of Tokdo (in Japanese, Takeshima).

Yet most newspapers see the logic of improved Seoul-Tokyo ties, even if emotions frequently get in the way.

The stakes are high, not just for South Korea and Japan but also for the United States. This is especially true if historic animosities between Korea and Japan are used to form the basis of Chinese-Korean relations, either today or after reunification.

Likewise, if future ties between South and North Korea are built on this factor — one of the few things that the people of North and South have in common is a mutual distrust of Japan — this would put Korea on a collision course with the United States, whose national security strategy rests on the foundation of close U.S.-Japanese relations and greater Japanese involvement in regional security affairs, within the framework of the U.S.-Japan Mutual Security Treaty and Japan's Peace Constitution.

In recent years there has been an unprecedented level of official cooperation between Seoul and Tokyo, including their joint leadership, along with Washington, of the Korean Peninsula Energy Development Organization. The recent North Korean missile launch through Japanese airspace has prompted Tokyo and Seoul to call for even closer defense cooperation, to include their first-ever joint naval exercise.

Two things are still required: a heartfelt Japanese apology, and Korean willingness to treat Japan like the important, good neighbor it has become.

The writer is executive director of the Pacific Forum CSIS in Honolulu, a nonprofit, foreign policy research institute affiliated with the Center for Strategic and International Studies in Washington. He contributed this comment to the International Herald Tribune.

98.10.8. 読売

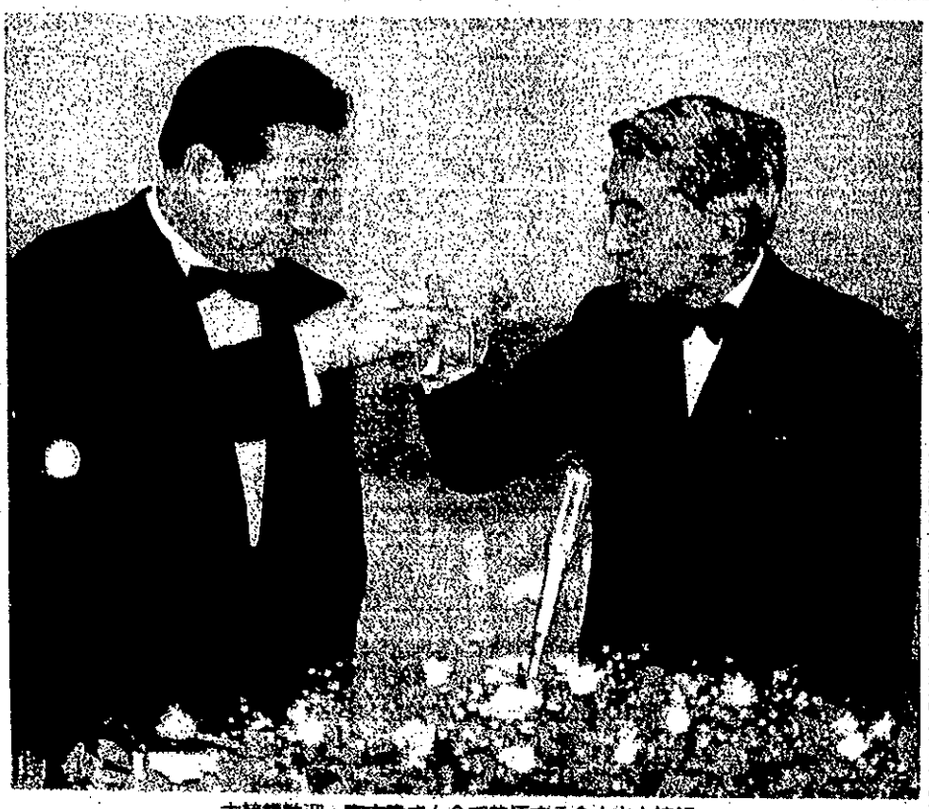
「過去」に区切り、未来志向

深い悲しみ私の記憶に 誇るに足る関係確立を

天皇陸下 韓国大統領 宮中晩さん会

9/10 1面

国賓として来日した韓国の金大中大統領を歓迎する宮中晩さん会が七日夜、皇居で開かれ、天皇陸下は日韓両国間の「過去」について、「二度と、我が国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました。そのことに対する深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております」とのお言葉を述べられた。これを受け、金大統領は答辞で「緊密で真心のこもった相互協力を通じて、誇るに足りる韓国関係を確立するよう共に努力し合いたい」と述べ、「過去」に区切りをつけ、新たな日韓関係の構築を目指す考えを表明した。また、晩さん会に先立って皇居で行われた天皇陸下と大統領夫妻との会見の席上、大統領は両陸下の韓国ご訪問を招請した。八日は小渕首相と会談する。（天皇陸下のお言葉と金大統領の答辞要旨3面、関連記事2・3・34面）



大統領歓迎：宮中晩さん会で乾杯する金大中大統領（左）と天皇陸下（7日午後8時20分、代表撮影）

陸下の訪韓招請

晩さん会は、午後七時半から開かれ、小渕首相、伊藤衆院議長、斎藤参院議長らも同席した。

天皇陸下が述べられた「過去」についてのお言葉は、九四年の金泳三・前大統領の公式来日の際に述べられたお言葉を踏襲されたものだ。今回のお言葉ではさらに、「両国の歴史を、常に真実を求めて理解することに努めるとともに、相に向かって育てていかなければならないと思います」として、未来志向の日韓関係への期待を表明された。

これに対し、大統領は、日韓関係の歴史的な背景について、「両国は近い隣国同士として、長く厚い交流の歴史を有しており、互いの発展に貢献してきた豊富な経験を共有しています」と指摘。歴代の韓国大統領の来日時のスピーチとしては初めて、日本の植民地支配に関する「過去」の問題について言及しなかった。その上で「韓国政府と国民は誠々と開かれた心で韓国と交流し、協力できる機会を整えたと述べるとともに、「日本は著くほどの経済発展を成し遂げ、韓国民主主義と平和主義に基づいて国際社会に寄与してきたと、を強調し、日韓関係が新たな段階に入ったとの認識を明確にした。

天皇陸下との会見では、大統領は、今回の来日を二十一世紀の両国間の友好親善を促進させるためにやってきたと表明された上で、「そのためには両陸下に韓国を訪問願いたい」と述べた。ただ、具体的な訪韓時期については明言しなかった。これに対し、陸下は「どうもありがとう。政府間で話し合ってもらいたい」と返答された。

また、二〇〇二年の日韓共催のサッカーワールドカップについて、陸下は「ぜひ成功させたい」と述べられ、大統領も「両国が一つになって成功させたい」と強い意欲を表明した。

98.10.8. 読売

金大統領

「歴史」言及せず

文化交流にも積極姿勢

金大中・韓国大統領を迎えた宮中晩さん会で、日韓間の過去の歴史について「深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております」と表明された天皇陛下のお言葉は、九四年の金泳三大統領来日時のお言葉を基本的に踏襲したものだ。金大統領も答辞で「両国の指導者たちが歴史的使命を自覚し、両国間の真のパートナー関係をリードしていくことを強調する」と述べるなど、日韓両国が金大統領来日を機に目指している「過去の問題への区切り」を印象づけた。

韓じょう兵の捧げ銃を受ける金大中大統領（7日午後3時10分、迎賓館で）

日韓両国政府は、今回の金大中大統領来日でまとめる「共同文書」などで、これまで、関係閣僚を担当していた植民地支配をめぐる歴史認識の問題を決着させるとともに、経済、安全保障、文化など幅広い協力関係を打ち出す予定だ。

天皇陛下のお言葉に関しては、九〇年五月の盧泰愚大統領来日の際、韓国側が「昭和天皇のお言葉では、だれが不幸を与えたのか不明確で、『遺憾』ではだれがそう思うのか、よくわからない」などと明確な謝罪を要求。両国間で大きな問題になった末、「わが国によってもたらされたこの不幸な時期」「私は痛恨の念を禁じえません」との表現で決着した経緯がある。

その時も、韓国側からは「痛恨の念は謝罪ではない」との意見も出たが、「（国事行為以外に）国政に関する権能を有しない」という「象徴天皇」の憲法上の制約を考えると、ギリギリの線との見方が強かった。このため、九四年の金泳三大統領来日時には、天皇陛下が九〇年の発言を引いたうえで、「今も変わらぬ気持ちで」と表明。今回の金大中大統領来日では、韓国側からほとんど注文がつかず、日本側は「正常な状態になった」（外務省幹部）と受け止めている。

また、天皇陛下のお言葉の中には「両国の歴史を、常に真実を求めて直視する勇気の必要」などとして、「過去に目をとじて、未来を開いていくことはできません」と、これまで以上に未来の関係を重視したフレーズも織り込まれた。

一方、金大中大統領も今回の訪日を通じて、植民地支配をめぐる歴史認識の問題でけじめをつけ、韓国としての正常な韓日関係を発展させたい意向を強く持っている。天皇陛下との会見で、大統領は「ひじょうに短い期間、友好的でない時代が続いたが、これからは、ともに手をとりあって前向きに進んでいかなければならない」と、これまで以上に過去の歴史認識の問題には言及せず、「お言葉問題」は決着済みとの立場をうかがわせた。

今回の金大統領来日では、依然、懸案となっている慰安婦問題や、金大中大統領が野党指導者時代に巻き込まれた「拉致事件」などは取り上げられない見通しだ。また、天皇陛下の

晩さん会、主な出席者

小渕首相夫妻、伊藤宗一郎衆院議長夫妻、斎藤十朗参院議長夫妻、山口鶴男最高裁長官夫妻、青島幸男都知事夫妻、竹下登日韓議連顧問会長夫妻、二階俊博日韓親善協会中央会会長、関谷三喜男東京大名誉教授夫妻、

韓国マスコミも「天皇」の呼称

【ソウル＝日＝伊藤俊祐】金大中大統領の訪日と関連し、韓国各紙は八日付（電版）で、同大統領と天皇陛下の会見を一面で扱うなど大きな関心を払っている。

有力紙「東亜日報」

社告を掲載 理解求める

が、有力紙「東亜日報」、「韓国日報」など一部新聞が、これまで「日王」「日皇」などとして来た記事上の天皇の呼称を「天皇」に改める動きを見せた。

「東亜日報」はわざわざ社告を載せて呼称変更を告知。「新世紀の韓日関係は過去と異ならねばならないとの意味でこのように決定した」と説明した。

韓国政府は先月中旬、政府として、天皇の呼称は、外交慣例に合わせ「天皇」を用いることを公式宣言したが、植民地時代の経験を背景に、韓国ではこれに根強い反発があるのも実情。有力紙の中でも、朝鮮日報は、「日王」を従来通り用

[illegible]

[illegible]

る努力が活発になりつつあります」と述べた。逆に、

[illegible]

民交流および文化交流の増進」など五分野で構成し、日韓首脳会談の定期化、両

[illegible]

晩さん会には、在日韓国人約六百人が参加した。

78.10.8. 読売（2面）

「お言葉問題」決着にじます

金大統領

「歴史」言及せず

文化交流にも積極姿勢

金大中・韓国大統領を迎えた宮中晩さん会で、日韓間の過去の歴史について「深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております」と表明された天皇陛下のお言葉は、九四年の金泳三大統領来日時のお言葉を基本的に踏襲したものだ。金大統領も答辞で「両国の指導者たちが歴史的使命を自覚し、両国間の真のパートナー関係をリードしていくことを期待する」と述べるなど、日韓両国が金大統領来日を機に目指している「過去の問題への区切り」を印象づけた。

儀じょう兵の歓迎礼を受ける金大中大統領（7日午後3時10分、迎賓館で）

日韓両国政府は、今回の金大中大統領来日でまとめる「共同文書」などで、これまで関係発展を阻害していた植民地支配をめぐる歴史認識の問題を決着させるとともに、経済、安全保障、文化など幅広い協力関係を打ち出す予定だ。

天皇陛下のお言葉に関しては、九〇年五月の盧泰愚大統領来日の際、韓国側が「昭和天皇のお言葉では、だれが不幸を与えたのか不明確で、『過去』ではだれがそう思うのか、よくわからない」などと明確なお詫びを要求。両国間で大きな問題になった末、「わが国によってもたらされたこの不幸な時期」「私は痛恨の念を感じえません」との表現で決着した経緯がある。

その時も、韓国側からは「痛恨の念は謝罪ではない」との意見も出たが、「（国際行為以外に）国政に関する権能を有しない」という「象徴天皇」の憲法上の制約を考えると、ギリギリの線との見方が強かった。このため、九四年の金泳三大統領来日時には、天皇陛下が九〇年の発言を引いながらも、「今も衰わらぬ気持ちと」と表明。今回の金大中大統領来日では、韓国側からほとんど注文がつかず、日本側は「正常な状態になったと」（外務省首脳）と受け止めている。

また、天皇陛下のお言葉の中には、「両国の歴史を、世に真実を求めて理解する」ことに努めるとともに、「両国の人々の努力によって芽生えつつある相互の理解と敬愛の念を、未来に向かって育てていかなければならない」と、これまでの以上に未来の関係を強調したフレーズも盛り込まれた。

一方、金大中大統領も今回の訪日を通じて、植民地支配をめぐる歴史認識の問題ではけじめをつけ、韓国としての正常な相互関係を築き上げたい意向を強く持っている。天皇陛下との会見で、大統領は「ひじょうに短い期間、友好的でない時代がありましたが、そのために長い友好関係を損なうことは損失や子孫に申し訳ない。近くて近い国に発展させるべきだと思います」などと、瞳を紅潮させながら熱弁を振るった。

具体的には、日本の大衆文化解禁がその第一歩となると見られ、金大統領は天皇陛下への答辞でも、「両国の国民の中には、おびただしい文化の持つ長所を高く評価して受け入れ、自国の文化をより豊かにしようとする努力が始発になりつつあります」と述べた。また、過去の歴史認識の問題は決着済みとの立場をうかがわせた。

今回の金大統領来日では、依然、懸案となっている従軍慰安婦問題や、金大中大統領が野党指導者時代に巻き込まれた「拉致事件」なども取り上げられない見通しだ。また、天皇陛下の訪韓もまだ十分に環境が整っていないとの見方が多い。日韓両首脳の交流でうたい上げる予定の「未来志向」を、いかに車の横レールにまで引き上げるか。今回の大統領来日は、まさに「未来」への出発になりそうだ。

きょう首脳会談

小渕首相は八日午前、東京・元赤坂の迎賓館で、来日中の金大中・韓国大統領と会談する。会談では、「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築を目指すことを確認し、こうした内容を盛り込んだ「共同宣言」と、それを具体化するための「行動計画」に署名する。

行動計画は、「両国の対話チャンネルの拡充」「経済面での協力関係強化」「国民交流および文化交流の増進」など五分野で構成し、日韓首脳会談の定期化、両国の政策協議の強化などを盛り込む。

在日韓国人と懇談会

来日中の金大中・韓国大統領は七日夕、都内のホテルで開かれた在日韓国人との懇談会であいさつし、日韓両国の「過去の歴史」に触れて、「五十年間の不幸な時のため、（日韓間の）千五百年の交流の歴史を台無しにすることはできない。過去を清算し、現在を見つめることで未来へのパートナーシップを築いていきたい」と述べ、未来志向の日韓関係を構築していく考えを強調した。

また、「日本の指導者に対しては、過去を正しく見つめ、眼を高める勇気をもってもらいたい」と言ってきた。

懇談会には、在日韓国人約六百人が参加した。

お言葉を評価

韓国大統領

金大中・韓国大統領は七日夜、大統領府スポークスマンを通じて、宮中晩さん会での天皇陛下のお言葉について、「過去を限定し、不幸を反省しながら、若者と一緒に希望を持って二十一世紀を迎えようという面だったと」評価した。また、「日本が過去、われわれの文化の発展を受けなどを歴史的に認めたことは意義がある」と語った。

韓国マスコミも「天皇」の呼称

有力紙「東亜日報」

社告を掲載 理解求める

【ワシントン＝伊藤俊洋】金大中大統領の訪日と関連し、韓国主紙は八日付（早版）で、同大統領と天皇陛下の会見を一面で扱うなど大きな関心を払っている。有力紙「東亜日報」、「韓国日報」など一部新聞が、これまで「日王」「日皇」などとして表記上、政府として、天皇の呼称は、の天皇の呼称を「天皇」に、改める動きを見せた。

「東亜日報」はわざわざ社告を掲載し読者に告知。「新世紀の韓日関係は過去と異ならねばならないとの意味でこのように決定した」と説明を加えた。

韓国政府は先月中旬、政外交慣例に合わせ「天皇」を用いることを公式宣言したが、植民地時代の経験を背景に、韓国ではこれに根強い反発があるのも事情。有力紙の中でも、「朝鮮日報」は、「日王」を従前通り用いた記事を掲載した。

98.10.8. 読売（3面）

「天皇訪韓」どう環境整備

金大中大統領 来日

W杯出席も視野

両国内になお反発 国民間の信頼重要

（金大中・韓国大統領が七日、天皇陛下に慰謝、韓国への訪問を招請した背景には、植民地支配という不幸な「過去の歴史」を清算し、日韓両国民が「天皇訪韓」を好意を持って受け止められるような新たな両国関係の構築を目指す強い意欲がうかがえる。ただ、両国内にはなお、天皇訪韓への反発もあり、両国の国民感情を融和する声が少なくない。両国政府はまず、国民レベルの信頼関係の拡大を進めることで、天皇訪韓の環境整備を優先していく方針だ。（本文記事一面）

迎賓館での歓迎式典で、出迎えの子供たちに手を振って応える金大中韓国大統領（左）と笑顔の天皇陛下（7日午後3時20分）

金大統領は七日の天皇陛下との会談で、天皇訪韓の時期は明示しなかったものの、「後期、正式な招待を出したい」と実現に強い意欲を示した。

韓国大統領が天皇陛下に慰謝、訪韓を招請したのは、九〇年の盧泰愚大統領（当時）、九四年の金泳三大統領（同）に続いて三度目となる。天皇陛下は皇太子時代の八六年に韓国訪問が検討されていたが、皇太子妃の心臓病で延期、実現されなかった経緯もある。ただ、金大中大統領は今年二月の就任直後からしばしば天皇訪韓の実現に強い意欲を表明してきており、懸案だった面が少なくなかった過去の大統領の招請とはやや性格を異にしているといえる。

宮中晩さん会での天皇陛下のお言葉と金大中韓国大統領の答辞の要旨は次の通り。

天皇陛下のお言葉（要旨）

衣帯水の地にある貴国とわが国の人々との間には古くから交流があり、貴国の多くの人々がわが国の文化の向上に尽くした貢献は極めて大きなものであったと思います。

このような悠長な交流の歴史のある反面、一時期、わが国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました。そのことに対する深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております。

二〇〇二年の日韓共催サッカーワールドカップの開会式には韓国で行われ、開会式には国家元首が臨席するのが慣例となっている。このため、金大統領の訪韓招請はワールドカップ自体をにらんだ招請という見方がある一方で、韓国政府内には「開会式出席では公式訪問にならない。ワールドカップ前に公式訪問してもらいたい」との声も強い。

日本側にも、首相官邸サイドの一部には、こうした大統領の意向にある程度前向きに応じるべきとの空気もでている。しかし、政府・自民党内にはなお「まだ時期尚早だ」「天皇陛下が韓国で歓迎されるおそれがある」などと訪韓に否定的な意見が少なくない。

さらに、外務省内ならでは「陛下が韓国で歓迎されないようでは訪問の意味がなく、現段階では歓迎される環境が整っていない」（幹部）との声が有力だ。

中国については、九一年に天皇陛下の訪問が実現しているが、「交戦国だった両国間の関係は、様々な苦難の歴史がありますが、共通の自民としてよりよい民主国家としてのあり方を求め、互いに心を開いて、あるべき今後の関係を築いていくことを切に念願しています。

近年、幸いなことに、両国の人々の熱意と努力によって生まれつつある相互の理解と敬愛の念を、未来に向かって育てていかなければならないと思います。日韓両国が、共通の目標に向かって様々な分野で交流が進み、相互理解と友好関係がさらに活発になりつつあります。

金大統領の答辞（要旨）

両国は隣国同士として、長く続（あつ）い交流の歴史を育ててきており、お互いの発展に貢献してきた豊富な経験を共有しています。

われわれ両国の国民の間には、互いの文化の持つ長所を高く評価して受け入れ、豊かな文化をより豊かにしようとする努力がさらに活発になりつつあります。

韓国には、真の民主主義と市場経済の実現を追求する新政府が誕生しました。日本は、速やかに経済発展を導け、韓国民主主義と平和主義をもとに、先頭に立って国際社会に寄与していく国民間の協力が極めて重要な役割を果たすものと考えております。日韓が、アジアの経済回復のための機関車となるよう心より期待し、その過程における韓日間の積極的な協力を望んでおります。

両国の国民が和合と協力により、二〇〇二年ワールドカップ大会を成功的に開催できるものと確信しております。

誠心で真心のこもった相互協力を通じて、夢と希望に満ちた隣国関係を確立して後世に残せるよう、共に努力し合おうではありませんか。二十一世紀の世界化時代を前に、古い友邦同士が親密な友好を固めて世界の舞台に進出するならば、われわれは歴史を正しく継承する両国となることでしょう。

過去の問題を巡る 天皇陛下のお言葉

1984年9月 昭和天皇「今世紀の一時期において、両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾であり、再び繰り返されてはならない」（全斗煥大統領来日時の宮中晩さん会で）

1990年5月 天皇陛下「わが国によってもたらされたこの不幸な時期に、貴国の人々が味わわれた苦しみを思い、私は痛惜の念を禁じえません」（盧泰愚大統領来日時の宮中晩さん会で）

1994年3月 天皇陛下「わが国が朝鮮半島の人々に多大の苦難を与えた一時期がありました。私は先年、私の深い悲しみの気持ちを表明いたしましたが、今も変わらぬ気持ちを抱いております」（金泳三大統領来日時の宮中晩さん会で）

98.10.8. 東京

天皇訪韓

「近くて近い国」めざす

両国に根強い反対論も

天皇陛下の韓国訪問問題が、両国間の政治課題として浮上した。金大中大統領が七日の天皇、皇后両陛下との会談で訪韓を招請、小渕恵三首相が八日の日韓首脳会談で、これまでより踏み込んだ表現で実現に努力する考えを表明する流れとなったからだ。ただ、天皇訪韓には「環境整備」（外務省筋）が先決。時期的なめどは立っておらず、実現までには曲折がありそうだ。

（編集委員・奈良岡豊治）

外務省筋によると、大統領は羽田から東京・元赤坂の迎賓館に向かう車中、高村正彦外相に「韓日両国は（これまでは）『近くて遠い国』だった。これを『近くて近い国』にしたい」と語ったという。「近くて近い国」にする最善の方法が天皇訪韓の実現だろう。

天皇訪韓を最初に招請したのは、一九九〇年に訪日した盧泰愚大統領（当時）だったが、両国とも機が熟さず、実現しなかった。

在任中（二〇〇三年二月まで）の天皇訪韓実現における金大統領の意欲は、並々ならぬものが感じられる。韓国政府が天皇の呼称を、「日王」から「天皇」にあらためたのもその一つと考える。

七日の宮中晩さん会で、天皇陛下は過去の朝鮮半島植民地支配に触れられ「そのことに対する深い悲しみは、常に私の記憶にとどめられております」とのお言葉を述べられた。大統領は答礼の言葉で「戦後日本の成功」をたたえ、過去に触れることを避けた。

これも天皇訪韓実現に向け、大統領が示した対日配慮の一つとみられる。ある意味では、今回の大統領の訪日自体が、天皇訪韓実現への環境整備の第一歩と言えなくもない。

だが、天皇訪韓実現は簡単ではない。外務省首脳は「韓国国民、日本国民の大多数が（天皇訪韓に）賛成し、それが実現する時期がくることを期待する」と述べたが、両国内には依然、根強い反対論があり、環境整備には、ある程度の時間が必要だ。

政府筋によれば、日本政府部内には天皇訪韓時期について、日韓両国が共催する二〇〇二年のサッカー・ワールドカップ（W杯）の前にするか後にするか、二つの考え方があるという。

「W杯前」論はW杯に向けて日韓友好ムードが高まるのを利用して訪韓を実現する考え方、「W杯後」論はW杯で高まった友好ムードに乗る形で訪韓を実現する考え方だ。

さらに韓国で行われるW杯の開会式に天皇陛下が出席する形で、訪韓を実現することも考えられている。いずれにせよ、W杯をめぐる両国の国内世論と調整させながら、時期が絞り込まれることになりそうだ。

陛下「お言葉」関心薄く

ワウルケ自民田村宏弘）訪日中の韓国の金大中大統領を迎えた七日の宮中晩さん会での天皇陛下の「お言葉」に対し、韓国マスコミの反応は比較的地味。主要各紙の八日付朝刊は、いずれも大統領訪日を二面トップ記事にしているが、ほとんどが八日に予定されている小渕恵三首相との首脳会談と、その後に発表される共同宣言の内容に力点が置かれている。

韓国マスコミ

「天皇陛下の「お言葉」はサイド見出しにしている程度。記事にも「お言葉」が淡々と出てくるだけで、位置付けはない。「東亜日報」だけは「一九九四年三月、当時の金泳三大統領の訪日時の晩さん会での内容と同じ。天皇の過去史（植民地支配）謝罪は、今回が四回目」と報じた程度。公共放送KBSは、昭和天皇以来の「遺憾」を比較して流した。

一部で『天皇』呼称

一方で、韓国政府が天皇の呼称を従来の「日皇」、「日王」から「天皇」に変えたことを反映し韓国マスコミの一部も「天皇」に変えた。東亜日報は社告で変更を表明。韓国日報、朝鮮日報、中央日報、京郷新聞などは「日王」のまま。マスコミ関係者、国民間には「天皇」呼称に抵抗感が残っており、各メディアの金大中政権との距離、対日感など各種の要因が作用した結果とみられる。

韓国が「お言葉」評価

訪日中の金大中韓国大統領は七日夜、朴智元・大統領府スポークスマンを通じ、「天皇陛下の晩さん会でのお言葉について、（日本が過去、韓国に）被害を与えたことを悲しみと表現されたことを歓迎し、未来のある者者が、ともに二十一世紀を迎えようという感慨が含まれているようだった」と評価する談話を発表した。

98.10.8. 東京 (8面)

過去の謝罪より経済支援を

韓国マスコミが世論調査

韓国の金大中大統領が七日、来日した。これまで繰り返されてきた日本の植民地支配に対する謝罪問題をめぐり、小渕恵三首相はあらためて「おわび」を表明する予定で、国内からは「またか」との声も聞こえてきそうだ。その一方で、韓国マスコミがこのほど行った世論調査では「歴史の処理より関係改善が重要」との回答が半数近くに達し、大学生ともなれば「過去の謝罪」より「経済支援を」が圧倒的だ。世論調査に表れた、若者を中心に変わりつつある対日観は――。

日韓に長く横たわる歴史認識の問題。これまで日本の政府首脳らは、韓国に新政権が誕生するたびに、謝罪を繰り返してきた。そのつど韓国側から一定の評価を得ながら、日本の関係が植民地支配を正当化するような発言をし、問題を再燃させる〝悪循環〟にあった。

金大中大統領も今回の訪日で心からの謝罪を要求している。日本側は首脳会談にあわせて発表する共同宣言に、再び反省と謝罪を盛り込む方針だ。

こうした状況が「韓国は日本に何回、謝らせたら済むのか」という〝嫌韓〟感情を増幅させてきた面もある。しかし、韓国の日本を見る目が少しずつ少しずつ変わってきているのも事実だ。

韓国の有力紙・中央日報は先月末、金大統領の訪日に先立って、韓国人の対日関係についての世論調査結果を報じた。

二十歳以上の男女千人を対象にした調査結果では「過去の整理と二十一世紀に向けた関係改善のどちらに重きを置くべきか」という質問に対し、全体の四九%が「関係改善がより重要」と答え、「過去」と答えた一九%を大きく上回った。

なかでも大学生は、日韓関係を現実的にとらえている。同紙は同時にソウル大、延世大、高麗大など六大学の学生千人を対象とした調査を実施した。その結果として「最も重要な懸案」は、「日本の金融支援と投資拡大」が五割を超え、「過去に対する謝罪」（一六%）をはるかにしのいだ。「経済的な実利を得られるなら、過去の問題などで譲歩は可能」とする意見も四八%あった。

歓迎行事に臨む韓国の金大中大統領（中央）と天皇陛下、左端は皇后陛下＝東京・元赤坂の迎賓館で

hideの死に涙の追悼集会

若者中心に変わる対日観

韓国で禁じられてきた日本の歌謡曲や映画など「大衆文化」の導入は、金大統領の訪日を機会に解禁へ向けて動きだす方向だが、大学生の九八%はこれを「賛成」としている。

実際、韓国の若者による日本文化の吸収は、両国政府の対応よりもはるかに進んでいる。

街頭では日本の歌謡曲の海賊版テープが売られ、若者が集うコーヒーショップで頻繁に流れている。ことし五月に人気バンド「X JAPAN」の元ギタリスト、hide（ヒデ）さんが亡くなったときには、ソウル市内で追悼集会が開かれ、集まった若者が泣いた、というエピソードまであるほどだ。

静岡県立大学国際関係学部の助手で、現代韓国社会論を教える小針進氏は対日観の変化について「まず、韓国の経済環境の悪化があります」と指摘し、「特に大学生には就職難があり、過去にこだわるより、経済環境の改善が先決との立場で対日関係をとらえる側面が強くなっています」と話す。

小針氏は「若い世代の対日観には二面性がある」とも指摘する。「一つは、日本の文化がすでに国内にあふれており、『良いものは良い』と受け入れる素地を持っていること。その一方で〝過去〟については実体験がなく、教科書やマスコミ報道による原則論しか知らないわけです」と説明する。

そのうえで「韓国政府がこれまで戦後の日本による韓国への貢献について、あえて語らなかったのも問題でした。しかし、金大中大統領は『日本が戦後に変わったことを認めねばならない』と言っている。歴代政権とは違って、国内での日本に対するイメージ転換を図ろうとしている。若い世代に日本を評価する声が今後、さらに広がっていくものと期待できる」との見通しを示している。

98.10.8. 毎日（1面）

天皇陛下の訪韓招請

金大中大統領

「不幸な歴史」触れず

宮中晩さん会 経済支援に感謝

韓国の金大中大統領は7日、来韓歓迎の晩さん会に出席し、歓迎挨拶で天皇陛下との会見、宮中晩さん会に臨んだ。歴史の天皇陛下との会見では、両国の過去の歴史の中で不幸な一時期があったことに触れる一方、新たな日韓関係を構築する決意を述べ、天皇陛下を招請した。四度の宮中晩さん会では、天皇陛下が1984年の金大中大統領来日時の「深い悲しみ」の気持ちを表明したが、大統領は不幸な歴史には一切触れず、両国が共催する2002年のサッカー・ワールドカップ（W杯）などを引き合いにしながら「互いに競い合いにしながら、相手に心を開く」ことが重要と強調。21世紀に向けた日韓のパートナーシップ構築に強い意欲を示しました。（2、3面、社会面に関連記事）

日本側の発表によると、天皇陛下との会見で、大統領はまず「21世紀の両国間の友好、繁栄のためにやって参りました」と述べた。続けて「非常に短い期間、友好的でない期間がありましたが、この短い期間のために、長い日韓の友好関係を損なうことは、我々の担当に対しても、子孫に対しても申し訳ないと考えます」と結びかけ、両国を「近くて近い国」に発展させることの大切さを強調しました。

そのうえで、天皇、皇后両陛下の韓国訪問を招請、今後、日本政府に正式な招請をする意向を伝えた。

これに対し、天皇陛下も「この問題は政府間で検討する問題であるので、政府間で話し合ってもらいたいと考えます」と答えた。

過去に「深い悲しみ」 天皇陛下

続いて行われた宮中晩さん会では、天皇が「一時期、わが国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました」と発言。これに対し金大統領は答礼の中で、日本の植民地支配などへの言及を避ける一方で、経済危機に見舞われた韓国への日本の支援について「日本が示してくれた積極的で誠意ある支援に対して改めて感謝の意を表したい」と述べた。また「パートナーシップ」という言葉を4度使い、21世紀に向けて両国が豊かな友好関係を築くことを強調。「歴史を正しく認識した両国ということになる」と語った。

これまでの大統領来日では、晩さん会での天皇の発言に関心が集まり、韓国側も不幸な歴史を強調するのが常だった。今回、大統領は、極めて未来志向の強いメッセージを日本国民に送ったといえ、大統領が目指す新たな日韓関係を象徴するものとなった。

お言葉を大統領側に事前通告

金大中韓国大統領に随行している青瓦台（大統領官邸）スポークスマンは7日夜、宮中晩さん会での天皇陛下のお言葉について、金大統領の発言を明らかにした。金大統領は「日本が過去、わが国の文化の発展を手助けしたことを天皇が歴史的に認めたことは意義がある。被害を与えたことを悔しみ、未来の若者を通じて新しい21世紀を迎えようという意思が含まれていると思う」と語ったという。

植民地支配により多大の損害と苦痛

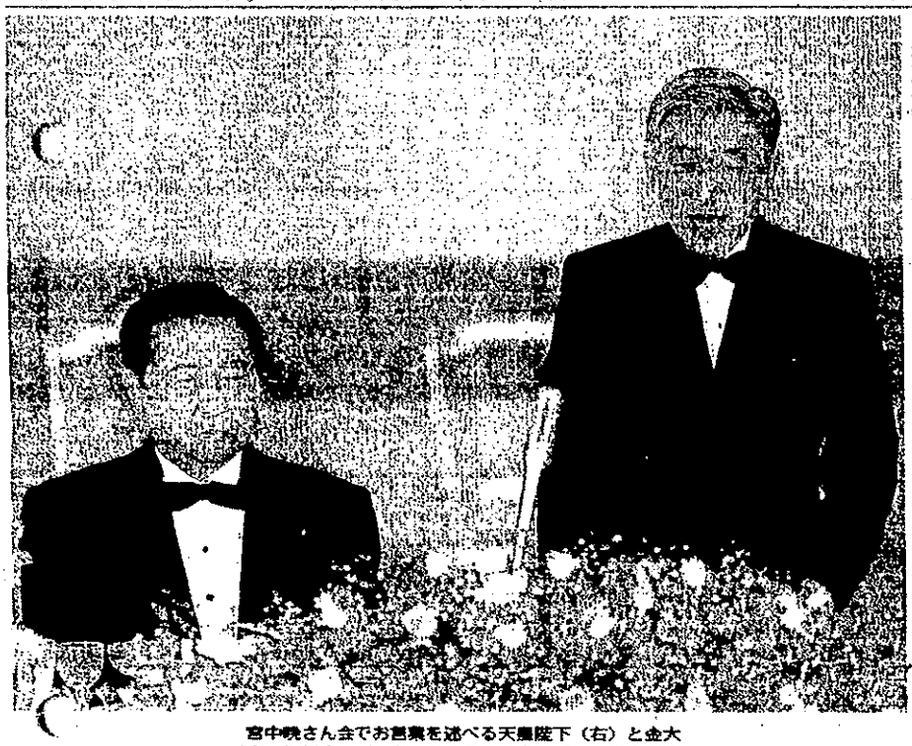
宮中晩さん会 宮沢首相

8日の日韓首脳会談後に発表される日韓「共同宣言」「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の骨格案が7日、明らかになった。歴史の認識問題については、小渕恵三首相が「わが国が過去の一時期、韓国国民に対し、植民地支配により、多大の損害と苦痛を与えた」との歴史的認識を改めてみえ、「謙虚な反省とともに、心からのおわび」を表明、金大統領がこれを「真摯に受け止め、評価する」としている。

首相の「おわび」は、1995年8月の村山富市首相の戦後50周年談話を踏襲した。これを共同宣言に盛り込むことで歴史の「過去」を清算し、21世紀に向けた日韓関係を前進させる狙いがある。

また、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による「ミサイル」発射事件を受け、日本が資金提供している朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）については、「北朝鮮の核計画の推進を阻止するための厳しい現実的な効果的メカニズム」と評価し、今後も事業を継続していく必要性を強調している。

一方、共同宣言は、文化の「行動計画」は、両国の対話チャンネルの拡充▽経済関係の協力関係強化――など6分野で、計43項目のプロジェクトを列挙。総額30億円の日本輸出入銀行による対韓経済支援や、官民合同の投資促進協議会の設置などが盛り込まれている。



宮中晩さん会でお言葉を述べる天皇陛下（右）と金大中・韓国大統領＝皇居で7日午後8時15分、代表撮影

98.10.8.毎日

未来に向けなごやかに

宮中晩さん会 新しい日韓関係象徴

教育問題で会話弾む

「苦生きつつある相手の評価と敬意の姿勢、未来に向って育てていかなければならない」と天皇陛下。金大中大統領は「サッカー・ワールドカップ大会を成功裏に開催できると確信している」と応じた。7日夜、韓国の金大統領夫妻を迎えて開かれた天皇、皇后両陛下主催の宮中晩さん会は歴史と政財関係者、各界代表者ら過去最高の167人（別席10人を含む）が出席する中で、和やかに進んだ。天皇陛下の「お言葉」や大統領の答辞は、明治以来の形式を踏襲して初めて冒頭に行われ、新しい両国関係を象徴する宴になった。

【原山 哲史】

南国・高麗の宴開幕。民族衣装のチマ・チョゴリを着た女性の姿も見える。午後8時過ぎ、両陛下と大統領夫妻が、韓国歌謡「故郷の春」の曲に乗って入場した。天皇陛下が「心から歓迎の意を表します」とお言葉を始めた。これまで、お

W杯日韓一体で 金大統領

韓国の金大中大統領夫妻と皇后・高殿の竹の間で7日午後行われた天皇、皇后両陛下との会見は、44分に及び、予定より10分も延びた。

両国は2002年に日韓共催のワールドカップにも及んだ。陛下から「ぜひ成功させたいと思います」と呼びかけると、大統領は「日韓両国がひとつになってこれを成功させるようにしたい」と応じた。

贈り物の交換では、大統領夫人から雅子さまにコウモリをかたどったネックレスが贈られた。大統領が「コウモリは韓国では長寿の印。皇后さまが、皇室費用のモデルになっているので」と洋服を着れると、雅子さまが少しやわらかくなるようにしました」と答え、笑いが起きたという。

宮中晩さんで乾杯する（左から）皇后陛下、金大中大統領、天皇陛下、李姫鎬夫人＝皇居で7日午後8時半、代表撮影

懇談は、食後のデザートが出される間が慣例だったが、「後席」での宮内庁楽部による雅楽演奏を挿入し、1時間ほど延長した。

スピーチの後、天皇陛下と大統領は友好を確かめるように固く握手した。その後、フランス料理の食事を取りながら和やかに歓談した。飾りやメニューには菊やクリを使って日本の秋を演出、知日派の大統領に配慮した。

宮内庁によると食事の際には、天皇陛下と大統領の間で、これからの友好関係は若い人たちの果たす役割が大きいという話から、教育の重要性について話がはずんだ。大統領は米国に滞在した経験を引き合いに出し、韓国でも受験戦争が激化していることをなげき、「教育改革が大事」ということを強調したという。

中傷された過去 異色の学者出席

大阪外語大・塚本教授

天皇、皇后両陛下主催の晩さん会に、これまでの日韓関係では出席は考えられない異色の学者、大阪外語大教授の塚本勲さん(64)＝大阪府吹田市＝が招待された。「過去、韓国とはうまくいっていなかった私にどうして……」と驚いたというが、21世紀に向けた新しい日韓関係を築くようにとの人選となった。

夫人とともに出席した塚本さんは「朝鮮語大辞典」全3巻の編さん者。韓国でも海賊版が出版されるほどで、朝鮮語研究の第一人者として知られている。だが、朴政権時代は、軍事政権に抵抗した詩人・金芝河氏の詩を日本に紹介していた。このため、韓国へ行くと24時間、警察の監視がついたほど。韓国からは「北（朝鮮民主主義人民共和国）の手先」、北朝鮮サイドからも「南（韓国）に買収されている」などの誹謗、中傷を数多く受けた。

塚本さんは、両陛下にわたった金大統領の屋主化を求める戦いを評価。「今回の招待は、名誉が回復したのかなと思って、喜んでいます」と語っていた。

「やっと一区切り」

大統領との懇談後、祝い酒 幼なじみと元秘書しみじみ

金大統領の思い出を語る金龍忠さん（左）と趙活俊さん

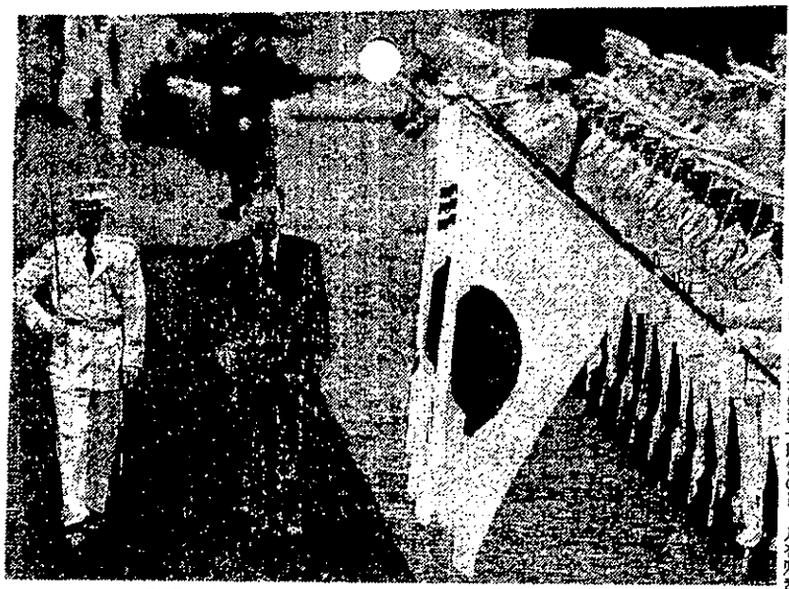
東京都内のホテルで金大中大統領と「在日同胞」との懇談会が開かれた7日夜、金大統領の幼なじみの金龍忠さん(76)と、拉致事件当時の日本の韓国総領事だった趙活俊さん(68)は、しみじみと祝いの酒を酌み交わした。

「まさか大統領になって日本に来るとはねえ」と趙さんがつぶやくと、「本人も感慨無量だと言ってたよ」と金さんが相づちを打つ。2人とも私生活を犠牲にして、金氏の救援活動に奔走した。その苦労がようやく一区切りつい

98.10.8.毎日(2面)

同宣言 行動計画で具体化

小渕恵三首相と金大中韓国大統領は8日午前の首脳会談と共同宣言の署名で、新たな日韓関係を内外にアピールする。7日の宮中晩さん会で、大統領が植民地支配にかかわる発言をあえて避けたのは、「過去の清算」を盛り込んだ共同宣言に重みを持たせ、自らのリーダーシップで新たな日韓関係のレールを敷きたいとの意欲の表れといえる。



歓迎式典で挨拶を受ける金大中・韓国大統領＝東京・元赤坂の迎賓館で7日午後3時すぎ、塩入正夫写す

日本政府は共同宣言を「21世紀に向けた日韓関係のグランドデザイン」（外務省筋）と位置づけ、「現在、過去、未来にバランスよく光を当てる」（同）方針で最終調整している。過去に対しては「植民地支配により、多大の損害と苦痛を与えた」と明記。日本の歴史認識を明確にし、金大統領がこれを「評価する」ことで決着させたい考えだ。

現在については、1965年の国交正常化以来、各分野で緊密な友好協力関係を発展させたことが「相互の発展に寄与した」と指摘、日本が戦後果たしてきた安全保障政策や開発途上国支援を評価する見通しだ。

過去と現在の総括を踏まえて発表されるのが、宣言を具体化させた行動計画。首脳会談の最低年1回の実施や2002年W杯を最機とした国民交流事業など広範な分野で具体的な項目を列挙。政府は「スローガンにとどまらず、建設的なもの」と強調しており、今後も定期的にレビューし、拡大強化していく方針だ。

宮中晩さん会での金大統領の答辞全文

7日夜、宮殿で行われた宮中晩さん会での金大中韓国大統領のスピーチ全文は次の通り。

天皇、皇后両陛下と閣僚のみなさま。

そして総理大臣閣下ご夫妻と、同席された貴賓のみなさま。

私たち夫妻と一行を温かく迎えて下さり、このように盛大な晩さんを催して下さったことに感謝いたします。

私は今、陛下が韓国と日本両国間の交流と協力関係の増進について、深い関心を表明して下さったのを、感銘深く傾聴しました。

私たち両国は近い隣国同士として、深く、長い交流の歴史を持っており、互いの発展を助け合った貴重な経験を共有しています。

特に両国の歴史は、はるか昔から両国の善隣友好関係を顕視した多くの先賢者たちがいたことを記録しています。私は、韓国はもちろん日本にも、韓国との良い関係を結ぶために努力してきた方々がたくさんおられることを承知しています。

15世紀中葉に朝鮮通信使の一員として日本を訪ねた申叔舟（シン・スクチュ）という政府高官は、「海東諸国記」に「隣国に対するにはれが基本であり、その次に誠意を尽くさねばならない」と記しました。500年後の私たち双方に伝える意味が、とても大きいと考えましょう。

今日、私たち両国民の間では、お互いの文化が持つ長所を高く評価して受け入れ、自らの文化をより豊かにしようという努力が、ますます活発化しています。

事実、両国の緊密な協力が重要だというのは、単に新しい世紀が私たちの目前に迫ってきたからだけではありません。現在、韓日両国を取り巻く環境は、両国間の緊密なパートナーシップを切実に要請しています。

韓国には真の民主主義と市場経済の実現を追求する新政府が誕生しました。これは、韓国民が過去50年間にわたる不屈の努力により、逆境を乗り越えて立ち上がった結果と言わざるを得ません。今や韓国政府と国民は、より堂々と開かれた心で、隣国と交流し協力できる態勢を整えました。

また、その間に日本は国民の献身的な努力によって輝くべき経済発展を達成し、模範民主主義と平和主義を基礎にし、先頃に立っての国際社会に寄与してきました。私はこのような戦後日本の成功が、私たち両国が新たな世紀のパートナーシップを形成していくにおいて貴重な資産になると信じます。冷戦終結後の新秩序を模索しているアジアの中で、韓・日両国の積極的な役割を期待しています。私は東アジアの平和と安定を強固にし繁栄をもたらすために、民主主義と市場経済を共通の価値として実行するようになった両国間の協力が、極めて重要な役割を果たすだろうと考えます。

併せて、アジア地域に押し寄せた経済危機も、私たち両国の密接な協力を要求しています。今や日本は、世界経済での役割にふさわしく、アジアと困難をともにし、またともに危機を打開しようという積極的な努力を求められています。

これと関連して私は、韓国が昨年末、通貨危機に陥ったとき、日本がしてくれた積極的で誠意ある支援に対して、改めて感謝の意を表したいと思います。

私は、日本がアジアの経済回復のためのけん引車になることを、心から期待してやみません。そして、その過程で、韓日間の積極的な協力を望んでおります。私たち両国の経済協力は、危機に直面したアジアの諸国に希望の道を示すことができると確信しているからです。

また、私は韓日両国民が和合と協力によって、2002年のサッカー・ワールドカップ大会を成功裏に開催できると確信しています。ワールドカップ大会は21世紀に向けた私たち両国のパートナーシップを世界に誇示し、このような両国の友誼（ゆうぎ）を世界のすべての人々が祝福してくれる、良い契機になるものと思います。

私は、両国間の多様な協力が良い成果を収めるためには、何よりも私たち両国が互いに尊重し、互いに開かれた心を抱くことが重要だと考えます。

韓日両国の指導者が、そのように誠意を尽くす態度で私たちの前にある歴史的使命を認識し、両国間の真のパートナーシップをリードしていくことを、私はこの席で提唱するものです。

緊密で真心のこもった相互協力を通じて、隣る足りる近隣関係を結んで後世に伝えられるよう、ともに努力していきましょう。韓日両国は互いに遠い長い交流の歴史を分かち合う隣国です。21世紀の世界化時代を控えて、真からの友邦同士がまず強固な友好を固め、世界の舞台に一緒に出て行けば、私たちは歴史を正しく継承した両国ということになるでしょう。

同席された貴賓のみなさま。

天皇、皇后両陛下のご健康と日本国の変わらぬ発展、そして韓日友好・協力関係の持続的な増進を祈願しつつ、みなさまご一緒に祝杯をあげて下さるようお願いします。

ありがとうございました。

98.10.8. 毎日(2面)

天皇陛下訪韓招請

カギは「過去の清算」に

環境作りも着々

日本文化解禁やW杯共催

金大中大統領は7日の天皇陛下との会見で、天皇の韓国訪問を招請し、今後、日本政府に正式に要請する意向を明らかにした。具体的な時期には言及しなかったものの、既に非公式な形で「2001年訪韓」の希望を表明しており、今回の招請は単なる儀礼を超えた重い意味を持つ。両国政府は、8日の首脳会談で「過去の歴史問題」に区切りをつけるとしており、その結果としての天皇訪韓が今後、検討課題に上ることは確実だ。

大統領は来日前、日本人記者団に対し「天皇の韓国訪問が一日も早く実現することを望んでいる。韓国国民の温かい歓迎の中で訪韓が成功することを望んでいる」と語った。さらに、先月韓国を訪れた国会議員団に対し「天皇訪韓に道を開く状態を創出したい。2001年には実現できるようにしたい」との思いを伝え、今回の招請に向けた地ならしをした。

大統領が早期訪韓を実現させようとするのは、天皇の訪韓が「過去の清算」の象徴的な意味を持つからにほかならない。それは、歴代大統領も目指してきたが、金大統領が異なるのは、自らその環境づくりに積極的に取り組んでいる点だ。

その一つとして大統領が踏み切ったのが、韓国政府が「日韓」と表現していた天皇の呼称の「天皇」への変更だった。さらに、日本の大衆文化の解禁を現実のものとさせつつあり、今回の来日では「豊の連鎖」を断ち切って、日韓協力の時代を築く具体的な作業に取り組む姿勢を両国民に示している。これらを通じ大統領は、早い時期に天皇を迎えても「温かい歓迎」ができる、との自信を深めているのではないか。

大統領の天皇の訪韓招請について、日本政府は、天皇の政治利用を回避する立場から「もし時期を明示されれば『検討します』と言わざるを得ないが、まだその時期ではない。日本としては困ることになる」（外務省幹部）と神経をとがらせていた。韓国側も「今大切なのは雰囲気づくり。時期を言うことに意味はない。事務方として（招請を）節」と言っており、今回は大統領もその線に沿った発言をしたようだ。

「判断する）資料は大統領に上げていない」（韓国外交

ただ、今の天皇が、中国を含め既に7回の外国公式訪問をしている中で、国家元首が国賓として4回来日した国に答礼の訪問をしないのは、外交上、自然とはいえない。これまでは、訪問国で接待を受けるような事態になれば、日韓関係を取り返しがつかないほど悪化させるとの配慮があったが、大統領のリーダーシップで、その障害も取り除かれようとしている。その流れをより確かなものにし、早期実現に結びつけるためには、両国首脳が確認する「過去の清算」を実質的なものにすること以外にないだろう。【三浦 昭博】

98.10.8 毎日（3面）

21世紀へ日韓新時代

天皇陛下お言葉

過去より未来強調

若者交流の実例など挙げ

韓国の金大中（ふぇーじゅん）大統領を迎えて開かれた宮中晩さん会で、天皇陛下のお言葉と大統領の答辞が注目された。

植民地支配に関する「深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております」との、両国の歴史に触れた天皇陛下のお言葉は、前回94年の金泳三（ようさん）大統領、翌99年の盧泰愚（ろたえぐ）大統領の来日の際に述べたことを踏襲している。韓国大統領の来日がすでに4回目となることを十分に斟酌したもので、「政治的意図は有しない」と厳格に規定された天皇の立場でも、お言葉のうえで、この問題は決着していると言える。

一方、天皇陛下のお言葉のパターンは、両国間の歴史を振り返り、現状、そして未来へと結っていくものだ。しかし、今回は過去の歴史よりも、日本・韓国青年親善交流事業に触れるなど、現在の両国の交流の実例をこれまでになく多く織り込み、特に若い世代の交流を強調しているのが特徴となっている。

一方、金大統領は答辞の中で、植民地支配の歴史についてまったく触れなかったが、過去の大統領来日の際にはなかったことだ。

両国の過去の歴史はお互いの前面から強い印象では今回のお言葉と答辞は、両国関係が21世紀に向け、名実ともに新しい時代に入ったことを象徴している。

【照山 哲史】

韓国側関心は天皇陛下訪韓に

【ソウル7日大隅文雄】宮中晩さん会での天皇陛下の「お言葉」について、韓国政府は7日夜現在、公式反応を示していない。韓国のマスコミも、要求がなかったにもかかわらず過去の問題に言及したとして「評価できる」との肯定的な反応を示す一方、内容は「これまでと変わっていない」として「お言葉」の内容をそのまま受け入れるなど、冷静な報道姿勢が目立った。

一方、聯合通信は金大中大統領の訪日を機会に天皇の訪韓が実現するかどうか注目されると報じ、関心が「お言葉」の内容から天皇訪韓の可能性に移っていることを示唆した。

聯合通信によると、韓国政府関係者は「これまでも天皇訪韓を招請しているが、果たして韓国国民の温かな歓迎の中で訪韓が実現するかどうかが問題だった。今回の金大統領の訪日後、両国の世論を踏まえながら時期を見計らうことができるだろう」と発言したと報道。韓国政府が2002年の日韓共催サッカーワールドカップ以前に天皇訪韓が実現することを期待しているとの見方を紹介した。

在日韓国人との懇談会を終え、会場を後にする金大中大統領＝都内のホテルで7日午後6時20分、代表撮影

在日韓国人と懇談

韓国の金大中大統領は7日夕、都内のホテルで開かれた在日韓国人との懇談会に出席し、約800人の出席者を前に「在日の歴史は私たちの国の受難の歴史。私たちの不幸の解消と参加の歴史でもある」などとあいさつした。

金大統領は「苦難の日々を乗り越えて、大統領としてここへ来た」と、1973年の拉致事件をはじめ過酷の連続だった自らの政治活動を振り返った。

また、在日韓国人の地方参政権獲得に向けて日本政府に働きかける意向を表明した。

W杯競技場建設で円借款1億ドル要請

金大中大統領と小渕恵三首相との会談を前に、韓国政府が日本政府に対して、2002年のワールドカップ（W杯）サッカー用競技場建設資金として1億ドルの円借款を求めてきたことが7日明らかになった。

要請は今月初め、金融担当相から小渕首相あての親書の形で届いた。ソウルに近い京畿道・水原のサッカースタジアム建設費のほぼ全額に相当する1億ドルの円借款を求めている。経済危機の影響で財政が悪化し、国内10カ所で開催予定のW杯サッカーの競技場建設資金が調達できないためだ。

政府内には「一人当たり国民総生産（GNP）円借款本来の趣旨を考えると、円借款の運用は難しい」という見方が主流。しかし、サッカー関係者や外交関係の専門家からは、「日韓友好を考えるのなら、日本政府が財政に支援するという姿勢を示すべきだ。たとえ円借款でなくとも、『しっかりやってください』という言葉も期待する。」

【日野行介】

「過去の歴史」に関する天皇陛下のお言葉（敬称略）

	韓国大統領	内容
84年9月6日	全斗煥	今世紀の一時期において、両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾であり、再び繰り返されてはならないと思います。（昭和天皇）
90年5月24日	盧泰愚	我が国によってもたらされたこの不幸な時期に、貴国の人々が味わわれた苦しみを思い、痛惜の念を禁じえません。
94年3月24日	金泳三	我が国が朝鮮半島の人々に多大の苦難を与えた一時期がありました。私は先年、このことにつき私の深い悲しみの気持ちを表明いたしましたが、今も変わらぬ気持ちを抱いております。
98年10月7日	金大中	密接な交流の歴史のある反面、一時期、我が国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました。そのことに対する深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております。

天皇陛下のお言葉全文

7日夜、皇居で行われた宮中晩さん会での天皇陛下のお言葉全文は次の通り。

この度、大韓民国大統領金大中閣下が令夫人と共に、国賓として我が国を御訪問になりましたことに対し、心から歓迎の意を表します。ここに、今夕を共に過ごしますことを誠に喜ばしく思います。

一衣帯水の地にある貴国と我が国の人々の間には古くから交流があり、貴国の文化は我が国に大きな影響を与えてまいりました。八世紀にわが国で書かれた歴史書、日本書紀からは様々な交流の跡がうかがえます。その中には、百済の阿花王（あかおう）、我が国の応神天皇の時、百済から、経典に詳しい王仁（わに）が来日し、応神天皇の太子、菟道稚郎子（うじのわきいらつこ）に教え、太子は経典を深く通じるようになったことが記されています。この絆には、当時の国際社会の国と国との関係とは別に、個人と個人との絆（きずな）が固く結ばれている様が感じられます。後には百済から五経博士、医博士、暦博士などが交替で来日するようになり、また、仏教も伝来しました。貴国の多くの人々が我が国の文化の向上に尽くした貢献は極めて大きなものであったと思います。

このような密接な交流の歴史のある反面、一時期、我が国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました。そのことに対する深い悲しみは、常に、私の記憶にとどめられております。

両国の間には、様々な問題を持つ長い歴史があります。私たちは、このような関係にある両国の歴史を、常に真摯を求めて理解することに努めるとともに、両国の人々の努力によって芽生えつつある相互の理解と敬愛の念を、未来に向かって育てていかなければならないと思います。日韓両国が、共通の目的としてよりよい民主国家としての在り方を求め、互いに心して在るべき今後の関係を築いていくことを切に願いたします。

近年、幸いなことに、両国の人々の熱意と努力によって様々な分野で交流が進み、相互理解と友好関係が増進してきていることは喜ばしいことであります。特に若い世代の人々の交流が盛んになって来ていることは、今後の両国関係の発展に大きな期待をもたせるものであります。先日も政府の主催する日本・韓国青年親善交流事業の一つとして貴国を訪問した青年韓国派遣団に会いましたが、団員が貴国の人々の心に触れ、貴国への理解と親しみを深めてきたことをうれしく感じました。また、昨年五月、大阪において開催された「日韓青少年交流ネットワークフォーラム」は、様々な分野で国際交流に携わる日韓の青少年が一堂に会し、自らの手で今後の交流の在り方を議論し、友誼を開いていく上で大変に意義深い試みでありました。今後とも、両国民が共に親るがぬ信頼と友好をはぐくみ、豊かな友好協力の関係を築いていくことを切に願ってやみません。

大統領閣下が、このたび我が国を御訪問になったことは、両国関係の将来にとって極めて大きな意義を持つものであります。翻って、多忙な御所在ではありますが、我が国各界の人々と広くお接しになるとともに、深まりゆく我が国の秋の風物をお楽しみいただきたく思います。この度の御訪日が、秋の爽やかのごとく、大統領閣下並びに令夫人にとって実り多く快適なものとなりますよう希望いたします。

ここに大統領閣下並びに令夫人のご健勝と大韓民国国民の幸せを祈って、杯を挙げたく思います。

98.10.8. 毎日（3面）

従軍慰安婦問題で3者女性会議開催へ

【ソウル7日大澤文護】韓国の「挺身隊問題対策協議会」は7日、今月9日から11日まで北京で「慰安婦問題解決のための南・北・日3者女性会議」を開催すると明らかにした。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）から「従軍慰安婦および太平洋戦争被害者補償対策委員会」など関係団体幹部と「慰安婦被害者」らが参加する。

98.10.8. 日経

天皇訪韓2001年視野に

「儀礼」から一歩前進

両国民の環境醸成が課題

韓国の金大中大統領が七日の天皇陸下との会見で韓国と訪問を招請したことで、長年の懸案の具体化にいよいよ腰を上げて取り組むのかどうか、両国の意思が問われることになった。今回の大統領来日で日韓両首脳は過去の問題に一定の区切りをつけ、二十一世紀に向けた新たな協力関係構築を内外に宣言する意向だ。その文脈で「天皇訪韓」は「過去の清算」に象徴的な意味を持つ。ハードルは依然として高いが、両国政府は二十一世紀の最初の年である二〇〇一年の実現を視野に入れ、可能性を探ることになりそうだ。（一面参照）

「韓国の大多数の国民が心から歓迎し、日本国民もそれを喜ぶような環境が早くできればいい」。外務省高官は、この問題の難しさがにじみ出ている。天皇陸下のご訪韓は九〇年に来日した盧泰愚大統領（当時）が招請して以来の八年間の懸案。両国は戦後五十年の九五年の終戦の日に合わせ、訪韓を検討したが、両国民の複雑な感情もあり実現しなかった。

背景にはこれまでの訪韓招請が「儀礼」の域を出ず、日本政府も国内の様々な反応を考慮して、実現に向けて本気で取り組んだとは言い切れないという事情がある。日本側はやはり過去の問題を抱える中国への訪問を優先して九二年に実現し、その際、韓国側もこれを容認する姿勢を示した。

しかし今年二月に就任した金大中大統領は日本との過去を清算して未来志向の関係構築や、天皇と訪韓の早期実現に強い意欲を表明。九月には、天皇の呼称について韓国内で使用されていた「日王」との表現を改め、「天皇」を公式に使うことを決めるなど、様々な改革を打ち出している。

こうした大統領の姿勢に呼応するように日本側も「今回の首脳会談で二十世紀の日韓関係を総括し、二十一世紀へのグランドデザインを両国民に示したい」（外務省筋）との強い意気込みで臨んだ。こうした全体状況の中での「訪韓招請」だけに、意味合いは単なる「儀礼」とはおのずから異なり、段階が一歩前に進んだともいえる。

ご訪韓の時期などはまだ霧の中ではあるものの、両国内では日韓がサッカーのワールドカップを共催する二〇〇二年を一つの区切りとして、その前の二〇〇一年に静かな環境の中で実現を目指すという案も取りざたされている。

ただ、ご訪問が実現した中韓との間でも日本は歴史認識をめぐるあつれきを繰り返しているのが現実だ。今回の首脳会談の成果をどう国民レベルの環境醸成にまで結びつけていけるかが焦点となりそうだ。

天皇陸下・金大統領の会見要旨

七日の天皇陸下と金大中韓国大統領の懇談での会見の主なやりとりは次の通り。

金大中大統領　訪日は十一回目ですが、今回は二十一世紀の両国間の友好親善のために来ました。日本と韓国の長い歴史の中で、非常に短い期間、友好的でない時期がありましたが、この残い期間のために長い友好関係を損なうことは我々の先祖に対しても子孫に対しても申し訳ないと考えます。日本と韓国の関係は「近くて近い国」として発展させるべきで、韓国民も大半が同様に考えています。日本が戦後五十年、平和や経済発展への貢献をされたことを評価します。

天皇陸下　近く（日韓共催によるサッカーの）ワールドカップが行われますが、これをぜひ成功させたいと思います。

大統領　両国の友好のためぜひとも日韓が一つになってこれを成功させたい。これから日本との間で段階的に文化交流を図っていきたいと考えており、韓国も歓迎すると思います。最近、日本から韓国への観光客は（年間）二百万人、韓国から日本へは百万人と増えています。

陸下　結構なことだと思います。特に若い人たちの交流が盛んになっていることが喜ばれます。

大統領　天皇、皇后両陸下にもぜひ、韓国を訪問して頂きたいと考えています。もちろん政府間で検討する問題ですが、後刻、正式に招請します。

陸下　どうもありがとう。政府間で話し合ってもらいたいと考えます。

天皇陸下お言葉要旨

一衣帯水の地にある両国とわが国の人々の間には古くから交流があり、貴国の文化はわが国に大きな影響を与えてきました。八世紀に書かれた日本書紀からは、密接な交流の跡がうかがえます。

このような歴史のある半面、一時期、わが国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代があり、そのことに対する深い反省の念を、私は常に忘れてはならないと思います。

両国の間には、さまざまな面をもつ長い歴史があります。私たちは両国の人々の努力で乗り越えつつある相互の理解と敬愛の念を、未来に向かって育てていかなければならないと思います。両国が共通の目的としてよりよい隣国関係としてのあり方を求め、互いに心を開いていくことを切に願います。

近年、さまざまな分野で交流が進み、相互理解と友好関係が増進していることは、誠にうれしいことです。特に若い世代の交流が盛んになってきていることは、今後の両国関係の発展に大きな期待をもたせます。

今後とも両国民が共に協力が信頼と友好をはぐくみ、豊かな友好協力の関係を築いていくことを切に願ってやみません。

金大統領の答辞要旨

私は、天皇陸下が韓国と日本両国間の交流と協力関係の増進について、深いご関心を表明してくださいましたのを、感銘深く拝聴しました。

両国を取り巻く環境は、両国間の緊密なパートナー関係を切実に要求しています。私は、日本がアジアの経済回復のための機関車となるよう、心より期待してやみません。そして、その進捗における韓国の積極的な協力を頼んでおります。

また、両国の国民が和合と協力により、二〇〇二年のワールドカップ大会を成功的に開催できるよう、一致協力していきます。二十一世紀に向けた両国のパートナー関係を世界と共有し、両国の友誼（ゆうぎ）を世界のすべての人々が祝福してくれるよう努力することになるものと思います。

両国の指導者たちが、誠意を尽くす姿勢のもとに、歴史的使命を感じ、両国間の真のパートナー関係をリードしていくことを、私はこの席で提唱します。

われわれ皆が率直で真心のこもった相互協力を通じて、時を見る隣国関係を確立して後世に残せるよう、共に努力し合おうではありませんか。

ほぼ先例を踏襲

解説　天皇陸下お言葉

天皇陸下が七日、金大中大統領に述べられたお言葉は先例をほぼ踏襲するものとなった。九四年に来日した金泳三大統領には、日本が朝鮮半島の人々に「多大な苦痛を与えた時期」があったと述べられた。今回は「大きな苦しみをもたらした時代」という表現で「深い悔しみ」を表明されたのは前回と同じだ。

九〇年に来日した盧泰愚大統領は来日を前に陸下の「謝罪」を求め、陸下が「貴国の人々が味わわれた苦しみを思い、私は痛惜の念を禁じ得ません」と発言された経緯がある。今回は韓国側からのこうした要求は一切なく、外務省筋は「これが正常な状態だと思う」と感想を漏らしている。

昭和天皇は八四年、金斗煥大統領を迎えた宮中晩さん会で「今世紀中の一時期において、両国の間に不幸な過去が存在したことは誠に遺憾であり、再び繰り返されてはならないと思います」と述べられている。

お言葉「意味ある」

金大統領

来日中の金大中韓国大統領は天皇陸下のお言葉について「日本が我々の文化の恩恵を受けたことを歴史的に認めたことは意味がある」との感謝を示した。随行スポークスマンが八日未明、明らかにした。

在日韓国人の地方参政権実現に協力

金大統領が表明

金大中韓国大統領は七日夕、都内のホテルで開いた在日韓国人との懇談会に出席し、在日韓国人の日本の自治体選挙への参政権実現に韓国政府として協力を惜しまない意向を表明した。

98.10.8. 日経

日韓共同宣言案の要旨

日韓共同宣言の最終案の要旨はつぎの通り。

1、両首脳は、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築するとの共通の決意を宣言した。

2、首相は今世紀の日韓両国関係を回顧し、わが国が過去の一時期韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、これに対し痛切な反省と心からのおわびを述べた。

大統領はこの首相の歴史認識の表明を真摯（しんし）に受け止め、評価すると同時に、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させるためにお互いに努力することが時代の要請である旨表明した。

3、＝略

4、両首脳は両国のパートナーシップを単に二国間の次元にとどまらず、アジア太平洋地域、さらには国際社会全体の平和と繁栄のために、前進させていくことが極めて重要であることで意見の一致をみた。今後、両国の外相を総責者として定期的に日韓パートナーシップに基づく協力の進ちょく状況を確認し必要に応じてさらに強化していく。

5、両首脳は両国の閣僚による懇談会をできる限り早期に開催し、関係閣僚による自由な意見交換の場を設ける。

6、両首脳は両国それぞれが米国との安全保障体制を堅持することとともに、アジア太平洋地域の平和と安定のための多国間の対話努力を一層強化していくことの重要性で意見の一致をみた。大統領は国連をはじめ国際社会における日本の貢献と役割を評価し、今後、日本のどのような貢献と役割が増大されていくことに対して期待を表明した。

7、首相は憲法とした安保体制を堅持しつつ和解・協力を積極的に進めるとの大統領の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に対する政策に支持を表明した。両首脳は朝鮮半島エネルギー開発機構を北朝鮮の核開発の推進を阻むための最も現実的かつ効果的なメカニズムとして維持していくことの重要性を確認した。両首脳は北朝鮮による先般のミサイル発射に国連安全保障理事会議長が表明した懸念と遺憾の意を共有し、北朝鮮のミサイル開発の放置は、日本、韓国及び北東アジア地域全体の平和と安全に悪影響を及ぼすことで意見の一致をみた。

8、大統領は日本の金融、投資、技術移転等の多岐にわたる対韓国経済支援を評価するとともに、韓国の抱える経済的諸問題の解決に向けた努力を説明した。首相はアジア経済の困難の克服のために日本が行っている経済支援を説明し、韓国による経済困難の克服に向けた努力を引き続き支持するとの意向を表明した。両首脳は両国間の大きな懸案であった日韓漁業協定交渉が基本合意に達したことを心から歓迎した。

9、＝略

10、両首脳は二〇〇二年サッカー・ワールドカップの成功に向けた両国国民の協力を支援し、これを契機に文化及びスポーツ交流を一層活発に進めていくことにした。

11、＝略

98.10.8. 日経（8面）

韓国のマスコミ
一部「天皇」と呼称

「お言葉」淡々と報道

韓国の主要新聞は八日付早版で、宮中晩さん会での天皇の「お言葉」を淡々と伝えた。東亜日報は「九〇年、九四年の発言と大きく変わった部分はない」と論評した。同紙はまた「これからは日本国王を相手国の呼称に従って天皇と表記することにした」との社告を掲載、聯合通信やKBSテレビも「天皇」の呼称を使ったが、朝鮮日報、中央日報は従来どおり「日王」と表記した。（1面参照）

各紙は八日の首脳会談で打ち出される予定の「謝罪」についても触れ、「言葉だけではなく文書にすることに大きな意味がある」（朝鮮日報）などと一定の評価をした。

一方で東亜日報は「従軍慰安婦問題などの懸案が残っており、過去の清算ではなく縫合だ」という批判も無視できない」と指摘。

朝鮮日報も元従軍慰安婦が七日、日本政府に補償を求めてソウル市内でデモを行ったと写真入りで紹介した。

（ソウル＝橋本陸裕）

98.10.8.日経

日韓共同宣言案

アジア安定へ 多国間で対話

小渕恵三首相と金大中韓国大統領が八日の首脳会談後に署名する共同宣言の最終案が七日、明らかになった。アジア太平洋地域の平和と安定のために両国がそれぞれ米国との安全保障体制を堅持するとともに、信頼醸成に向けた多国間対話の強化に努力していくと表明し、同地域全体を視野に入れた「新たな日韓パートナーシップ」の構築をうたっている。

（宣言要旨2面に）

過去の植民地支配によって損害と苦痛を与えたことに「痛切な反省と心からのおわび」を明記、北東アジアの不安定要因になっている朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）への対応を巡っては両国の政策協議を強化する姿勢を明確に打ち出している。

共同宣言案は十一項目からなり、焦点の歴史認識をはじめとして政治、外交、経済、文化などの各分野を包括する内容。歴史問題に関連して韓国国民に向けた謝罪を二国間の文書に明記するのは初めて。

98.10.8.日経

天皇陛下「朝鮮半島の人々に大きな苦しみ」

訪韓を招請 韓国大統領

宮中晩さん会で乾杯する天皇陛下㊨と金大中大統領（7日、皇居・宮殿）＝代表撮影

国賓として七日来日した韓国の金大中大統領夫妻は同日夜、皇居・宮殿で天皇、皇后両陛下主催の宮中晩さん会に臨んだ。天皇陛下は「お言葉」で、両国の過去の歴史について「一時期、我が国が朝鮮半島の人々に大きな苦しみをもたらした時代がありました。そのことに対する深い悲しみは常に私の記憶にとどめられています」などと述べられた。晩さん会に先立ち陛下と会見した大統領は、訪韓を招請した。（関連記事2面、社会面に）

「お言葉」は、植民地支配の責任を明確に示し、おわびの心情を表現した九四年の金泳三大統領（当時）来日時のスピーチを踏襲した形。そのうえで、陛下は「両国の歴史を常に真実を求めて理解するとともに、人々の努力によって芽生えつつある相互の評価と敬愛の念を育てていかなければならないと思います」と心情を吐露された。大統領は「過去」には直接言及せずに「誇るに足りる両国関係を確立して後世に残せるよう共に努力し合いましょう」と未来志向の友好関係を明確に打ち出した。

98.10.8. 朝日(9面)

大統領 力量に疑問符

比エストラダ政権、発足から100日

【マニラ7日＝奥田明久】フィリピンのエストラダ政権が発足して七日で百日を迎えた。この間、アジア経済危機対策の取り組みなど、一定の成果を収めた。しかし、政権内の派閥抗争や旧マルコス派の復権が顕在化し、たび重なる大統領の失言で、指導力に疑問符がつき始めている。

失言や抗争目立つ

貧困地区を巡回し、握手攻めにあうエストラダ大統領（左）。大衆人気は健在だが……／写真家リン・リリヨン氏撮影＝9月16日、マニラ市のトンド地区で

金利引き下げ 物価は沈静化 経済では成果も

執務は5時間

エストラダ大統領の執務ぶりは、ラモス前大統領とよく比較される。ラモス氏が朝四時半から深夜まで、年中無休で働いたのに対し、エストラダ氏は週休二日。午後にならないと大統領府に来ないことも多く、執務は正味五時間の優雅さだ。ラモス氏が毎週開いていた閣議は、まだ二度しか招集されず、毎週の定例会見も廃止した。

就任直前にマルコス元大統領の遺体をマニラの英雄墓地に埋葬することを認める発言をして批判を浴びた反省から、マスコミ対策に大統領専属の報道官ポストを新設。大統領府報道官との二人態勢をとる。

しかし、九月下旬、マレーシアのアンワル副首相逮捕に関連して「彼は私の友人。十一月にマレーシアで開かれるアジア太平洋経済協力会議には出席しない」と発言し、外務省が否定に躍起になった。また、フィリピン航空の売春問題では「全国的なストライキの一時禁止を検討する」と語って労働団体から猛反発を受けた。こうした数々の失言に「大統領の場当たり的な発言は、国際的信用を失いかねない」などと、懸念の声が広がっている。

進む「派閥化」

一方、政権内で派閥化の動きが目立ってきた。サモラ官房長官の一大派閥のほか、アベンタハド首席補佐官派、エスピリトゥ蔵相派の三大派閥ができた。蔵相派で保健相だったエストレリャ氏が、官房長官派のメルカド次官と対立して辞任。首席補佐官派のモラレス土地改革相とサモラ官房長官の対立も表面化した。ある下院議員は「大統領は派閥をまとめる能力がない」と語る。

一方、旧マルコス派の大物実業家、エドワルド・コファンコ氏が政権誕生直後に、大手ビール会社サン・ミゲル社の会長に復帰した。大統領が選挙の資金協力の見返りに、復帰に尽力したとみられている。

イメルダ・マルコス元大統領夫人が最高裁で一転、無罪判決を受けたのも大統領の意向があるとされ、「旧マルコス派の復権で取り巻き政治の復活が懸念される」との識者らの声が大きくなっている。

新政権で一定評価されている点は経済政策だ。緊縮財政政策や金利引き下げ政策を敢行、物価上昇が沈静化した。今年度の実質経済成長率は一％と見込まれ、東南アジアの他の国々に比べると経済危機の打撃を軽度に抑えこんだ。

貧困対策遅れ

しかし、今年年中に四百億ペソ（一ペソ＝約三・一円）に達するとみられる財政赤字が足かせとなり、看板の貧困対策や農業改革の早期実施は困難な状況だ。

四割もの高得票率を獲得して大統領になったエストラダ氏だが、大衆人気がいつまで続くのか、前途多難の情勢だ。

98. 10. 8. J.T.

Emperor expresses 'sorrow'

Kim Dae Jung offers Emperor invitation to South Korea

Speech texts — Page 3

The Emperor expressed his deep sorrow on Wednesday over the suffering of Koreans during Japan's colonial rule of the Korean Peninsula from 1910 to 1945, and stressed the importance of strengthening friendly relations and cooperation between the two countries for the future.

There was "one period when Japan brought great suffering on the people of the Korean Peninsula," the Emperor said in an address made at a state banquet for the visiting South Korean president, Kim Dae Jung.

"[illegible] deep sorrow which I fe[illegible]r this never leaves my memory," the Emperor added.

The Emperor expressed similar feelings to the Korean people when President Kim Young Sam made a state visit to Japan in March 1994.

Kim meanwhile officially conveyed an invitation for the Emperor to visit South Korea during his audience with the Emperor and Empress at the Imperial Palace, an Imperial Household Agency official told reporters. If realized, it would be the first such visit by an emperor of Japan.

Kim, who arrived in Tokyo on Wednesday, is making his first visit to Japan since becoming president in February. During the four-day visit, Kim is seeking to establish a new partnership with Japan for the 21st century.

SOUTH KOREAN PRESIDENT Kim Dae Jung (left) proposes a toast to the Emperor Wednesday evening during a banquet held at the Imperial Palace in Tokyo's Chiyoda Ward.

The Emperor stressed in his address the importance of establishing future-orientated ties between Japan and South Korea by looking at the true history of the two countries.

"Constantly pursuing the truth in order to understand this history which we share, I believe that we must look to the future as we nurture the mutual warm feeling, appreciation and respect which have already begun to burgeon, thanks to the efforts of both of our peoples," the Emperor said.

Japan and South Korea are seeking to establish a new partnership for the 21st century by addressing historically sensitive issues from their war-torn past.

In a meeting today between Prime Minister Keizo Obuchi and Kim, Obuchi is expected to express Japan's "deep remorse and heartfelt apology" in a joint document to be issued after the summit.

The Emperor said that he welcomes efforts by the people of the two countries to develop exchanges in various fields in recent years, and the progress made in building mutual understanding and friendly relations.

"The increasingly vigorous exchange between our young people in particular bears great promise for the future development of our relationship," the Emperor said.

"It is my fervent desire that our peoples will foster between them an unshakable trust and friendship into the future, building a rich relationship of friendly cooperation."

The Emperor said that Kim's visit is "extremely significant in terms of the future of the relationship between our countries."

Kim said in his speech that he is impressed with the Emperor's deep interest in promoting exchanges and cooperation between the two countries.

"Today, there is a growing tendency for more and more people in both our countries to respect the other's culture and accept it to enrich their own," Kim said.

Earlier in the day, Kim and his wife Lee Hee Ho were greeted at the Government Guesthouse at Akasaka by the Imperial Couple at the onset of the 15-minute, open-air ceremony. Japanese and South Korean elementary school students also greeted them in front of the main gate with flags of the two countries.

The welcoming ceremony was also attended by Japanese Imperial Family mem-

CONTINUED ON PAGE 2

Emperor says Korea, Japan should look to future

CONTINUED FROM PAGE 1

bers and Cabinet ministers.

Security was tight in and around the Government Guesthouse, with some 16,000 regular and riot police mobilized.

The state banquet at the Imperial Palace was one of the largest ever held for a foreign dignitary, with more than 160 people attending.

In today's meeting between Obuchi and Kim, they are expected to agree on strengthening dialogue between leaders of the two countries, promoting cooperation at the United Nations, expanding defense and security talks and deepening citizens exchanges, including youth exchanges.

In his speech at the state banquet, Kim also said that the 2002 World Cup soccer tournament, which the two countries will jointly host, will be an occasion to demonstrate the two countries' forward-looking partnership.

"If our two nations are to succeed in cooperative efforts, we must first respect each other and open our hearts. I am taking this occasion to propose that the leaders of Korea and Japan recognize our historic missions and fulfill them in the spirit of true partnership," Kim said.

Kim said that he highly regards Japan's postwar achievements of economic development and contributions for international peace.

"Such achievements of the postwar period should serve as a precious asset in forming a partnership with us in the coming century," Kim said.

Kim said that Japan and South Korea together can play important roles in bringing peace, stability and prosperity to East Asia.

As for the Asian financial crisis, Kim expressed hope that Japan will play a leading role in resolving it, adding that positive bilateral cooperation can also be helpful for economic recovery in Asia.

Obuchi vows efforts

Prime Minister Keizo Obuchi was to promise during his summit meeting with South Korean President Kim Dae Jung today to try to realize a visit to South Korea by the Emperor, a Japanese government source said Wednesday.

Obuchi will specify no dates, but will express Japan's commitment to realizing the first Imperial visit to South Korea, the source said.

The source noted that South Korea has unofficially expressed its wish for the visit to take place around 2002 when the two nations cohost the World Cup soccer finals.

Kim, who arrived earlier in the day for a four-day tour, officially conveyed the invitation during his audience with the Emperor and Empress at the Imperial Palace, an Imperial Household Agency official told reporters.

98.10.8. 読売(夕)

日韓共同宣言（全文）

日韓共同宣言（21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ）は次の通り。

1、金大中大統領と小渕総理大臣は、日本国国賓として一九九八年十月七日から十日まで日本を公式訪問した。金大中大統領は、滞在中、小渕総理と日本国内閣総理大臣との間で会談を行った。両首脳は過去の両国の関係を総括し、現在の友好協力関係を再確認するとともに未来のあるべき両国関係について意見を交換した。

この会談の結果、両首脳は一九六五年の国交正常化以来築かれてきた両国間の緊密な友好協力関係をより高い次元に発展させ、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築することの共通の決意を宣言した。

2、両首脳は、今世紀の日韓両国関係を回顧し、我が国が過去の一時期両国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を厳虚に受けとめ、これに対し、痛切な反省とおわびを述べた。

金大中大統領は、かかる小渕総理大臣の歴史認識の表明を真摯に受けとめ、これを評価するとともに、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させるために互いに努力することが時代の要請である旨表明した。

また、両首脳は、両国国民、特に若い世代が歴史への認識を深めることが重要であることについて見解を共有し、そのために多くの関心と努力が払われる必要がある旨強調した。

3、両首脳は過去の長い歴史を通じて交流と協力を維持してきた日韓両国が、一九六五年の国交正常化以来、各分野で具体的な友好協力関係を発展させてきたことにつき意見の一致をみた。

4、両首脳は、両国間の関係を、政治、安全保障、経済及び人的・文化交流の幅広い分野において均衡のとれたより高次元の協力関係に発展させていく必要があることにつき意見の一致をみた。また、両首脳は、両国のパートナーシップを、単に二国間の次元にとどまらず、アジア太平洋地域更には国際社会全体の平和と繁栄のために、また、個人の人権が尊重される豊かな活力とはみ出い地球環境を目指す様々な試みにおいて、前進させていくことが極めて重要であることについて意見の一致をみた。

このため、両首脳は、二十世紀の日韓関係を締めくくり、真の相互理解と協力に基づく二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを共通の目標として構築し、発展させていくことにつき、以下のとおり意見の一致をみるとともに、この関係を、政治、安全保障、経済及び人的・文化交流の幅広い分野において均衡のとれたより高次元の協力関係に発展させていくことの重要性について意見の一致をみた。両首脳は、二十一世紀の挑戦と課題に対し効果的に対処していくためには、国連の役割が強化されるべきであり、これは、安保理の機能強化、国連の事務局機構の効率化、安定的な財政基盤の確保、国連平和維持活動の強化、途上国の経済・社会開発への協力等を通じて実現できるものであることにつき意見の一致をみた。

5、両首脳は、現在の日韓関係をより高い次元に発展させていくために、両国間の協議と対話をより一層促進していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、かかる意点から、首脳間のこれまでの緊密な相互訪問・書簡を維持・強化し、定期化していくとともに、外務大臣を始めとする各分野の閣僚級協議を更に強化していくことを決定した。また、両首脳は、両国それぞれが米国との安全保障体制を堅持するとともに、アジア太平洋地域の平和と安定のための多国間の対話努力を一層強化していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、両国間の安保対話及び防衛交流を歓迎し、これを一層強化していくことを決定した。また、両首脳は、両国の国防当局による意見交換を含む取り早期に開催し、政策実務の責任を持つ関係閣僚による自由な意見交換の場を設けることとした。更に、両首脳は、これまでの日韓双方の閣僚間の交流実績を評価し、日韓・韓日議連における今後の活動拡充の方針を歓迎するとともに、二十一世紀を担う次世代の青年議員間の交流を強化していくこととした。

6、両首脳は、冷戦後の世界において、より平和で安全な国際社会秩序を構築するための国際的努力に対し、日韓両国が互いに協力しつつ積極的に参画していくことの重要性につき意見の一致をみた。両首脳は、二十一世紀の挑戦と課題に対し効果的に対処していくためには、国連の役割が強化されるべきであり、これは、安保理の機能強化、国連の事務局機構の効率化、安定的な財政基盤の確保、国連平和維持活動の強化、途上国の経済・社会開発への協力等を通じて実現できるものであることにつき意見の一致をみた。

7、両首脳は、朝鮮半島の平和と安定のためには、北朝鮮が改革と開放を指向するとともに、対話を通じたより積極的な姿勢をとることが極めて重要であることの認識を共有した。小渕総理大臣は、連続として安保体制を堅持つつ和解・協力を積極的に進めるとの金大中大統領の対北朝鮮政策に対し支持を表明した。これに関連し、両首脳は、一九九二年二月に発効した南北間の和解と不可侵及び交流・協力に関する合意書の履行及び四者会合の順調な進展が望ましいことにつき意見の一致をみた。また、両首脳は、一九九四年十月に米国と北朝鮮との間で署名された「合意された枠組み」及び朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）を、北朝鮮の核計画の推進を阻むための最も現実的かつ効果的なメカニズムとして維持していくことの重要性を確認した。この関連で、両首脳は、北朝鮮による先般のミサイル発射に対して国連安全保障理事会議長が安保理を代表して表明した懸念及び遺憾の意を共有するとともに、北朝鮮のミサイル開発が放置されれば、日本、韓国及び北東アジア地域全体の立和と安全に重大影響を及ぼすことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、両国が北朝鮮に関する政策を進めていく上で相互に緊密に連携していくことの重要性を再確認し、種々のレベルにおける政策協議を強化することで意見の一致をみた。

8、両首脳は、自由で開かれた国際経済体制を維持・発展させ、また構造問題に直面するアジア経済の再生を実現していく上で、日韓両国が、各々抱える経済上の課題を克服しながら、経済分野における均衡のとれた相互協力関係をより一層強化していくことの重要性につき意見の一致をみた。

9、両首脳は、国際社会の安全と繁栄に対する新たな脅威となりつつある国境を越える地球的規模の問題の解決に向けて、両国政府が緊密に協力していくことにつき意見の一致をみた。両首脳は、地球環境問題に関し、とりわけ温室効果ガス排出抑制、森林問題への対応における協力を強化するために、日韓環境政策対話を進めることとした。また、開発途上国への支援を強化するため、援助分野における両国間の協議を更に発展させていくことにつき意見の一致をみた。また、両首脳は、日韓通貨当局人引渡条約の締結のための話し合いを開始することとも に、麻薬・覚せい剤対策を始めとする国際組織犯罪対策の分野での協力を一層強化することにつき意見の一致をみた。

10、両首脳は、以上の諸分野における両国間の協力を効果的に進めていくことの重要性、政府間交流とともならない両国民の深い相互理解と多様な交流があるとの認識の下で、両国間の文化・人的交流を拡充していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、二〇〇二年サッカー・ワールドカップの成功に向けた両国国民の協力を支援し、二〇〇二年サッカー・ワールドカップの開催を発展として、文化及びスポーツ交流を一層活発に進めていくこととした。

両首脳は、研究者、教員、ジャーナリスト、市民サークル等の多様な国民を幅広く及び地域間の交流の進展を促進することとした。

両首脳は、こうした交流・相互理解促進の土台を形作る指標として、従来より進めてきた査証制度の簡素化を引き続き進めることとした。

また、両首脳は、日韓間の交流の拡大と相互理解の増進に資するために、中高生の交流事業の新設を始め政府間の留学生や青少年の交流プログラムの発展を図るとともに、両国の青少年を対象としてワーキング・ホリデー制度を一九九九年四月から導入することにつき合意した。また、両首脳は、在日韓国人が、日韓両国民の相互交流・相互理解のための駆け橋としての役割を担い得るとの認識に立ち、その地位の向上のため、引き続き両国間の協議を継続していくことで意見の一致をみた。

両首脳は、日韓フォーラムや歴史共同研究の促進に関する日韓共同委員会等、関係者による日韓間の知的交流の意義を高く評価するとともに、こうした努力を引き続き支持していくことにつき意見の一致をみた。

金大中大統領は、韓国において日本文化を解放していくとの方針を伝達し、小渕総理大臣より、かかる方針を日韓両国の真の相互理解につながるものとして歓迎した。

11、小渕総理大臣と金大中大統領は、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップは、両国国民の幅広い参加と不断の努力により、さらに高次元のものに発展させることができるとの共通の信念を表明するとともに、両国国民に対し、この共同宣言の精神をかみちぎい、新たな日韓パートナーシップの構築・発展に向けた共同の作業に参加するよう呼びかけた。

98.10.8. 読売(夕)

行動計画

（全文）

二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップのための行動計画の全文は次の通り。

1、両国の対話チャンネルの拡充

▽首脳間の交流の緊密・定期化

日本国総理大臣と大韓民国大統領は、首脳会談を少なくとも年一回実施し、首脳間の意見交換を促進する。

▽外相及びその他の閣僚間の交流の緊密化

外相会談を始め、両国の閣僚間の接触を一層緊密にし、両国間の政策調整と信頼醸成を図る。

▽議員間交流

両国は、日韓両国の議員の接触が一堂に会し、自由な意見交換をもつ上での日韓議員懇談会を定期的に開催し、議会と国民の理解と信頼を深める。

▽議員交流（議連活動を含む）

両国は、日韓・韓日議連のメンバーの拡充及び両国交流の拡大を歓迎する。特に、一九九八年度の日韓・韓日議連合同総会において、国会議員交流のための特別委員会を設置しようとの意見が表明されたことを歓迎する。

両国は、また、日韓若手議員間の自発的な交流の一層の拡大を期待し、これを支援していく。

▽若手外交官の相互派遣

両国は、両国関係の発展に寄与する専門家養成のため、まず若手外交官の相互派遣による研修・交流を実施する。

2、国際社会の平和と安全のための協力

▽国連における協力

両国は、国連改革の実現に向けて、相互に協力して積極的に取り組んでいく。

この観点で、韓国は、国連を始め国際社会における日本の貢献と役割を評価し、今後、日本のこのような貢献と役割が増大されていくことを期待する。

また、両国は、両国の国連常駐代表部間の緊密な協力を継続し、国連における両国の政策調整力を強化する。

両国は、二〇〇〇年の国連総会を二〇〇〇年記念総会として開催しようという国連事務総長の提案を支持する。

▽軍縮及び不拡散問題における協力

両国は、北東アジア地域における大量破壊兵器及びミサイルの拡散が国際社会の平和と安定にとって深刻な懸念であるとの共通認識の下で、その解消のための努力を強化していく。

両国は、北朝鮮の核不拡散条約（NPT）、IAEA保障措置協定等の義務の履行を引き続き促すとともに、北朝鮮が包括的核実験禁止条約（CTBT）及び化学兵器禁止条約（CWC）を締結するよう促していく。

両国は国際及び不拡散問題に関し、ワッセナー・アレンジメント、原子力供給国会合等両国が参加する各種の国際的枠組み強化に、北朝鮮が積極的に貢献するよう、北朝鮮の参加を含めて、北東アジア地域における信頼醸成を図るとともに、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）への協力を継続していくことを確認する。

▽日韓防衛交流

両国は、防衛・防衛当局間による防衛交流の拡大・強化を図る。このため、両国の防衛・国防相当大臣の相互訪問を始めとする各レベルの人的交流の拡大、日韓防衛実務者対話を始めとする各種対話チャンネルの拡充、海洋生物資源の保護交流の推進等を図る。

また、両国は、海域の相互防衛を通じた安全の維持のための協力を図る。

▽多国間の地域安全保障対話における協力

両国は、信頼醸成及び予防外交を促進し、また、紛争解決への取り組みの具体化を目指すアセアン地域フォーラム（ARF）の一層の発展・強化に積極的に協力する。両国は、北東アジアの安全保障と協力に関する多国間の政府レベル対話の場を設置するための協力を進めていく。

▽南北朝鮮の改善及び朝鮮半島の平和と安定の維持のための協力

両国は、朝鮮半島の緊張緩和と信頼の醸成を強調し、また、四者会合を通じる新たな平和体制構築の重要性についての認識を共にする。

▽対北朝鮮政策に関する日韓政策協議の強化

両国は、日韓米三国間で行われているこれまでの政策協議を継続するとともに、両国の緊密レベルでの協議を含め、両国間での政策調整を一層強化する。このような協議には、両国の対北朝鮮政策、北朝鮮の家族離散問題、ミサイルの開発、配備及び輸出並びにその関連物質及び技術の移転問題と北朝鮮に対する援助問題のあり方が含まれる。

▽北朝鮮の核兵器開発阻止のための協力

両国は、北朝鮮の核兵器開発阻止のための協力を強化していく。

両国は、北朝鮮の核不拡散条約（NPT）、IAEA保障措置協定等の義務の履行を引き続き促すとともに、北朝鮮が包括的核実験禁止条約（CTBT）及び化学兵器禁止条約（CWC）を締結するよう促していく。

両国は国際及び不拡散問題に関し、ワッセナー・アレンジメント、原子力供給国会合等両国が参加する各種の国際的枠組み強化に、北朝鮮が積極的に貢献するよう、北朝鮮の参加を含めて、北東アジア地域における信頼醸成を図るとともに、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）への協力を継続していくことを確認する。

▽アジア・欧州会合（ASEM）における協力

両国は、アジア・欧州間の関係をさらなる飛躍へ向けて強化していくためのASEM活動を支持し、アジア国家間の活発な交流と協力を促進していく。また、両国は、二〇〇二年に韓国で開催予定されている第三回ASEM閣僚会合の成功のために協力する。

3、経済面での協力強化

▽自由で開放した世界経済体制の維持

両国は、WTO、OECD、APEC等、国際機関や地域的な経済枠組みにおいて、世界経済の安定的発展、多角的自由貿易体制の強化及びアジア太平洋地域の安定と発展のために積極的に協力する。この相互訪問の機会を利用して、アジア国家間の活発な交流と協力を推進していく。また、両国は、二〇〇二年に韓国で開催予定されている第三回ASEM閣僚会合の成功のために協力する。

▽経済面での協力強化

両国は、日韓産業技術協力財団を通じ実施している産業技術分野での一層有効な協力等を通じて、日韓貿易の拡大均衡を追求していく。特に、産業技術人材育成事業への協力、韓国産業の生産性向上への協力及び産業技術の交流の各分野における事業を充実する。

▽産業交流の推進

両国は、繊維・電子、情報通信、自動車、鉄鋼、造船、石油化学、環境、農業、水産、中小企業、観光、文化産業、人的資源開発、科学技術、知的所有権、金融、物流、エネルギー、資源

98. 10. 8. 東京 (1/2)

(第3種郵便物認可)

日韓共同宣言の全文

「日韓共同宣言―二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の全文は次の通り。

一、金大中大韓民国大統領夫妻は、日本国国賓として一九九八年十月七日から十日まで日本を公式訪問した。金大中大統領は、滞在中、小渕恵三日本国内閣総理大臣との間で会談を行った。両首脳は、過去の両国の関係を総括し、現在の友好協力関係を再確認するとともに、未来のあるべき両国関係について意見を交換した。

この会談の結果、両首脳は、一九六五年の国交正常化以来築かれてきた両国間の緊密な友好協力関係をより高い次元に発展させ、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築するとの共通の決意を宣言した。

二、両首脳は、日韓両国が二十一世紀の確固たる善隣友好協力関係を構築していくためには、両国が過去を直視し相互理解と信頼に基づいた関係を発展させていくことが重要であることにつき意見の一致をみた。

小渕総理大臣は、今世紀の日韓両国関係を回顧し、わが国が過去の一時期韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、これに対し、満悦な反省と心からのおわびを述べた。

金大中大統領は、かかる小渕総理大臣の歴史認識の表明を真摯（しんし）に受け止め、これを評価すると同時に、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係を発展させるためにお互いに協力することが時代の要請である旨表明した。

また、両首脳は、両国国民、特に若い世代が歴史への認識を深めることが重要であることについて見解を共有し、そのために多くの関心と努力が払われる必要がある旨強調した。

三、両首脳は、過去の長い歴史を通じて交流と協力を維持してきた日韓両国が、一九六五年の国交正常化以来、各分野で緊密な友好協力関係を発展させてきており、このような協力関係が相互の発展に寄与したことにつき認識を共にした。小渕総理大臣は、韓国がその国民のたゆまざる努力により、飛躍的な発展と民主化を達成し、繁栄し成熟した民主主義国家に成長したことに敬意を表した。

金大中大統領は、戦後の日本の平和憲法の下での堅守、防衛および非核三原則をはじめとする安全保障政策ならびに世界経済および開発途上国に対する経済支援等、国際社会の平和と繁栄に対し日本が果たしてきた役割を高く評価した。両首脳は、日韓両国が自由・民主主義、市場経済という普遍的理念に立脚した協力関係を、両国国民間の広範な交流と相互理解に基づいて今後さらに発展させていくとの決意を表明した。

四、両首脳は、両国間の関係を、政治、安全保障、経済および人的・文化交流の幅広い分野において均衡のとれたより高次元の協力関係に発展させていく必要があることにつき意見の一致をみた。また、両首脳は、両国のパートナーシップを、単に二国間の次元にとどまらず、アジア太平洋地域さらには国際社会全体の平和と繁栄のために、また、個人の人権が尊重される豊かな生活と住み良い地球環境を目指すさまざまな試みにおいて、前進させていくことが極めて重要であることにつき意見の一致をみた。

このため、両首脳は、二十世紀の日韓関係を締めくくり、真の相互理解と協力に基づく二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを共通の目標として構築し、発展させていくことにつき、以下の通り意見の一致をみるとともに、このようなパートナーシップを具体的に実施していくためにこの共同宣言に付属する行動計画を作成した。

両首脳は、両国政府が、今後、両国の外務大臣を総覧者として、定期的に、この日韓パートナーシップに基づく協力の進ちょく状況を確認し、必要に応じ、これをさらに強化していくこととした。

五、両首脳は、現在の日韓関係をより高い次元に発展させていくために、両国間の協議と対話をより一層促進していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、かかる観点から、首脳間のこれまでの緊密な相互訪問・協議を維持・強化し、定期化していくとともに、外務大臣をはじめとする各分野の閣僚級協議をさらに強化していくこととした。また、両首脳は、両国の閣僚による懇談会をできる限り早期に開催し、政策実施の責任を持つ関係閣僚による自由な意見交換の場を設けることとした。さらに、両首脳は、これまでの日韓双方の議員間の交流実績を評価し、日韓・韓日議員連盟における今後の活動拡充の方針を歓迎するとともに、二十一世紀を担う次世代の若手議員間の交流を奨励（しょうよ）していくこととした。

六、両首脳は、冷戦後の世界において、より平和で安全な国際社会秩序を構築するための国際的努力に対し、日韓両国が互いに協力しつつ積極的に参画していくことの重要性につき意見の一致をみた。両首脳は、二十一世紀の挑戦と課題に、より効果的に対処していくためには、国連の役割が強化されるべきであり、これは、安全保障理事会の機能強化、国連の事務局組織の効率化、安定的な財政基盤の確保、国連平和維持活動の強化、途上国の経済・社会開発への協力等を通じて実現できることにつき意見を共にした。

かかる点を念頭に置いて、金大中大統領は、国連をはじめ国際社会における日本の貢献と役割を評価し、今後、日本のこのような貢献と役割が増大されていくことに対する期待を表明した。

また、両首脳は、軍縮および不拡散の重要性、とりわけ、いかなる種類の大量破壊兵器であれ、その拡散が国際社会の平和と安全に対する脅威であることを強調するとともに、この分野における両国間の協力を一層強化することとした。

両首脳は、両国間の安保対話および種々のレベルにおける防衛交流を歓迎し、これを一層強化していくこととした。また、両首脳は、両国それぞれが米国との安全保障体制を堅持するとともに、アジア太平洋地域の平和と安定のための多国間の対話努力を一層強化していくことの重要性につき意見の一致をみた。

七、両首脳は、朝鮮半島の平和と安定のためには、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が改革と開放を指向するとともに、対話を通じたより建設的な姿勢をとることが極めて重要であるとの認識を共有した。小渕総理大臣は、確固とした安保体制を敷きつつ和解・協力を積極的に進めるとの金大中大統領の対北朝鮮政策に対し支持を表明した。

これに関連し、両首脳は、一九九二年二月に発効した南北間の和解と不可侵および交流・協力に関する合意書の履行および四者会談の順調な進展が望ましいことにつき意見の一致をみた。また両首脳は、一九九四年十月に米国と北朝鮮との間で署名された「合意された枠組み」および朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）を、北朝鮮の核計画の推進を阻むための最も現実的かつ効果的なメカニズムとして維持していくことの重要性を確認した。

この関連で、両首脳は、北朝鮮による先般のミサイル発射に対して、国連安保理議長が安保理を代表して表明した懸念および遺憾の意を共有するとともに、北朝鮮のミサイル開発が放置されれば、日本、韓国および北東アジア地域全体の平和と安全に悪影響を及ぼすことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、両国が北朝鮮に関する政策を進めていくに当たり相互に緊密に連携していくことの重要性を再確認し、種々のレベルにおける政策協議を強化することで意見の一致をみた。

八、両首脳は、自由で開かれた国際経済体制を維持・発展させ、また構造問題に直面するアジア経済の再生を実現していく上で、日韓両国がおのおの抱える経済上の課題を克服しながら、経済分野における均衡のとれた相互協力関係をより一層強化していくことの重要性につき合意した。このため、両首脳は、二国間での経済政策協議をより強化するとともに、世界貿易機関（WTO）、経済協力開発機構（OECD）、アジア太平洋経済協力会議（APEC）等多国間の場での両国の政策協調を一層進めていくことにつき意見の一致をみた。

金大中大統領は、日本によるこれまでの金融、投資、技術移転等の多岐にわ

98.10.8. 東京 (2/2)

たる対韓国経済支援を評価するとともに、韓国の抱える経済的諸問題の解決に向けた努力を説明した。小渕総理大臣は、日本経済再生のための諸政策およびアジア経済の困難の克服のために日本が行っている経済支援につき説明を行うとともに、韓国による経済困難の克服に向けた努力を引き続き支持するとの意向を表明した。両首脳は、財政投融資を適切に活用した韓国に対する日本輸出入銀行による融資について基本的合意に達したことを歓迎した。

両首脳は、両国間の大きな懸案であった日韓漁業協定交渉が基本合意に達したことを心から歓迎するとともに、国連海洋法条約を基礎とした新たな漁業秩序の下で、漁業分野における両国の関係が円滑に進展することへの期待を表明した。

また、両首脳は、今般、新たな日韓租税条約が署名の運びとなったことを歓迎した。さらに、両首脳は、貿易・投資、産業技術、科学技術、情報通信、政労使交流等の各分野での協力・交流をさらに発展させていくことで意見の一致をみるとともに、日韓社会保障協定を積極的に入れて、将来の適当な時期に相互の社会保障制度についての情報、意見交換を行うこととした。

九、両首脳は、国際社会の安全と福祉に対する新たな脅威となりつつある国境を越える地球的規模の諸問題の解決に向けて、両国政府が、緊密に協力していくことにつき意見の一致をみた。両首脳は、地球環境問題に関し、とりわけ温室効果ガス排出抑制、酸性雨対策をはじめとする諸問題への対応における協力を強化するために、日韓環境政策対話を進めることとした。

また、開発途上国への支援を強化するため、援助分野における両国間の協調をさらに発展させていくことにつき意見の一致をみた。また、両首脳は、日韓逃亡犯罪人引き渡し条約の締結のための話し合いを開始するとともに、麻薬・覚せい剤対策をはじめとする国際組織犯罪対策の分野での協力を一層強化することにつき意見の一致をみた。

十、両首脳は、以上の諸分野における両国間の協力を効果的に進めていく上での基礎は、政府間交流にとどまらない両国国民の深い相互理解と多様な交流にあるとの認識の下で、両国間の文化・人的交流を拡充していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、二〇〇二年サッカー・ワールドカップの成功に向けた両国国民の協力を支援し、二〇〇二年サッカー・ワールドカップの開催を契機として、文化およびスポーツ交流を一層活発に進めていくこととした。

両首脳は、研究者、教員、ジャーナリスト、市民サークル等の多様な国民各層間および地域間の交流進展を促進することとした。

両首脳は、こうした交流・相互理解促進の土台を形作る措置として、従来より進めてきた査証制度の簡素化を引き続き進めることとした。

また、両首脳は、日韓間の交流の拡大と相互理解の増進に資するために、中高生の交流事業の新設をはじめ政府間の留学生や青少年の交流プログラムの充実を図るとともに、両国の青少年を対象としてワーキング・ホリデー制度を一九九九年四月から導入することにつき合意した。また、両首脳は、在日韓国人が、日韓両国国民の相互交流・相互理解のための懸け橋として役割を担い得るとの認識に立ち、その地位の向上のため、引き続き両国間の協議を継続していくことで意見の一致をみた。

両首脳は、日韓フォーラムや歴史共同研究の促進に関する日韓共同委員会等、関係者による日韓間の知的交流の意義を高く評価するとともに、こうした努力を引き続き支持していくことにつき意見の一致をみた。

金大中大統領は、韓国において日本文化を開放していくとの方針を伝達し、小渕総理大臣より、かかる方針を日韓両国の真の相互理解につながるものとして歓迎した。

十一、小渕総理大臣と金大中大統領は、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップは、両国国民の幅広い参加と不断の努力により、さらに高次元のものに発展させることができるとの共通の信念を表明するとともに、両国国民に対し、この共同宣言の精神を十分かち合い、新たな日韓パートナーシップの構築・発展に向けた共同の作業に参加するよう呼び掛けた。

日本国内閣総理大臣　小渕恵三

大韓民国大統領　金大中

一九九八年十月八日、東京

日韓行動計画の要旨

八日の日韓首脳会談後に発表した「行動計画」要旨は次の通り。

【両国の対話チャンネルの拡充】

首脳間の交流の緊密・定期化＝首脳会談を少なくとも年一回実施▽外相・その他の閣僚間の交流の緊密化▽閣僚懇談会＝機微の閣僚による日韓閣僚懇談会をできる限り早い機会に実施▽議員交流（議連活動を含む）▽若手外交官の相互派遣

【国際社会の平和と安全のための協力】

国連での協力▽軍縮、不拡散問題＝大量破壊兵器、運搬手段のミサイルの拡散が北東アジア地域の平和と安定に憂慮すべきものとの共通認識の下、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核拡散防止条約（NPT）などの義務履行、包括的核実験禁止条約（CTBT）締結を促す

▽日韓安全保障対話＝少なくとも年一回継続実施▽日韓防衛交流▽多国間の地域安全保障対話▽南北関係の改善・朝鮮半島の平和と安定の維持＝南北対話、四者会談を通じる平和体制樹立の重要性の認識を共にする▽対北朝鮮政策に関する日韓政策協議の強化＝日米韓三国、両国間の政策協議を強化▽北朝鮮の核兵器開発抑止＝米朝間で合意された「合意された枠組み」維持の重要性を確認、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）へのコミットメントを表明▽アジア欧州会議（ASEM）での協力

【経済面での協力関係強化】

自由で繁栄した世界経済実現▽両国間の経済面での協力関係の強化▽対韓国経済支援＝総額三千億ドル相当の日本輸出入銀行融資を実現▽日韓投資交流＝官民合同投資促進協議会を開催▽日韓漁業協定＝締結交渉が基本合意に達したことを評価、国内手続きを経てできる限り早期に新協定を発効させる▽日韓租税条約▽貿易拡大・産業技術分野▽産業交流の推進▽科学技術分野▽情報通信分野▽コンピューター西暦二〇〇〇年問題▽知的所有権分野▽電子商取引分野▽農業分野▽政労使交流の活性化▽社会保障分野▽自然・人的災害の軽減▽両国経済人交流の拡大

【地球規模問題に関する協力強化】

環境分野▽援助分野での協調▽原子力の平和利用増進▽逃亡犯罪人引き渡し条約の締結交渉の開始▽国際組織犯罪対策の協力強化

【国民交流・文化交流の増進】

二〇〇二年ワールドカップ（W杯）を契機とした国民交流事業＝W杯サッカー成功に向けて協力、日韓スポーツ交流を推進▽日韓国民交流の促進▽青少年交流の拡大▽学術交流▽地域間交流▽文化交流の充実＝韓国は国内で日本文化を開放していく方針を日本側に伝達し、民間、地方レベルも含め多様な文化交流を推進

78.10.8、読売(夕)

日韓「過去の問題」に終止符

大統領、首脳会談で明言

小渕首相と金大中・韓国大統領は八日午前、東京・元赤坂の迎賓館で首脳会談を行った。首相は、歴史認識に関し、韓国国民に対して過去の植民地支配への「反省」と「おわび」を表明。大統領はこれを評価したうえで、「韓国政府は今後、過去の問題を出さないようにしたい」と対応を持つと表明し、歴史認識に関する問題に終止符を打たれたとの考えを示した。両首脳は会談後、首相の「反省」と「おわび」を明記した「日韓共同宣言」と、日韓首脳会談の定例化などを盛り込んだ「行動計画」に署名した。公式文書に韓国への植民地支配の表現が明記されるのは初めてで、首脳会談での大統領の発言とあわせ、韓国政府は「過去の歴史」に関する問題に区切りをつけることを評価した。（共同宣言の要旨2面、共同宣言・行動計画の全文3面、関連記事2・19面）

「植民地支配おわび」 小渕首相

共同宣言を交換、握手する小渕首相(右)と金大中大統領(午前11時、東京・元赤坂の迎賓館で、代表撮影)

首脳会談は午前九時から始まり、前半は両首脳だけで、その後、高村外相や韓国外務部長官ら外相らが同席して行われた。

日韓間の懸案として歴史認識が取り上げられ、首相は、我が国が過去の一時期、韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止める。

が繰り返されて過去の歴史認識問題について、首相は、我が国が過去の一時期、韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止める。

で、「痛切な反省と心からのおわび」を表明した。アジア諸国への「侵略」に反省とおわびを示した九五年八月の村山

首相（当時）談話を踏襲したもので、共同宣言に盛り込むことによって初めて韓国国民に対する首相の意思を文書化した。

大統領は、これを評価するとの同時に、「二十一世紀のことは二十世紀のうちに解決

共同宣言の骨子は次の通り。

日韓共同宣言の骨子は次の通り。

一、首相は、わが国が過去の一時期、韓国国民に対し植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実を謙虚に受け止め、痛切な反省と心からのおわびを述べた。

一、大統領は、首相の歴史認識の表明を評価し、両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて和解と善隣友好協力に基づいた未来志向的な関係発展に共に努力することが時代の要請である旨表明しをつけ、二十一世紀に向けて前進していきたいとし、この問題を韓国政府側から持ち出すことはしない考えを示した。

また、共同宣言では、一九六五年の日韓国交正常化以来の友好協力関係をより高い次元に発展させ、二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップを構築することを強調した。

さらに、両首脳は、日韓関係をより高い次元に発展させるために、歴史問題の相互理解・協調を維持・強化し、定例化していくことで一致。両国間での国民レベルでの交流の拡大を図るとともに、両国の文化・スポーツ交流を活発化させることで合意した。さらに大統領は、韓国において日本文化を解放していく方針を伝え、首相も「日韓両国の真の相互理解につながるものだ」としてこれを歓迎した。

一、米朝合意をうけ朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）を構築的かつ効果的なメカニズムとして維持することを確認。

一、北朝鮮のミサイル開発が日韓をはじめ北東アジア全体の平和と安定に重大影響を及ぼすとの認識で一致。

一、二〇〇二年サッカー・ワールドカップ成功に向けた両国国民の協力を支援。

一、大統領は韓国での日本文化の開放方針を伝達。

日韓共同宣言の骨子は次の通り

98.10.8. 読売

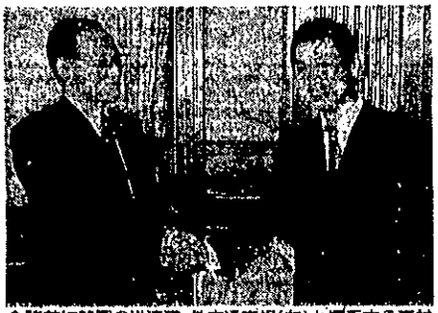
日韓関係新たな一歩

首脳会談

大統領 改善、強い決意示す

経済、安保なども幅広く

金大中大統領八日の小渕首相との議論参加で、首相の過去の植民地支配に対する反省とおわびを評価し、今後、過去の問題を両国政府間で持ち出さないと表明したことは、日韓関係の厳しい現実に純化するとの強い決意の表れと見え、六五年の国交正常化以来の日韓関係に、新たな一ページが開かれることを強く印象づけた。新しい両国関係を具体化するための「行動計画」は経済、文化、安全保障など幅広い分野での協力を盛り込んだことが特徴で、今後、両国が今回の首脳会談の意味を踏まえ、未来志向の関係構築に向け具体的努力を続けていくことが求められている。（本文関連一面）



会談前に韓国の洪淳瑛・外交通商相（左）と握手する高村外相＝午前9時、東京・元赤坂の迎賓館で（代表撮影）

過去の総括

金大中大統領は、当選直後から、歴史認識の問題を解決して、日韓関係を真の友好関係に引き上げることを、政権の最優先課題として掲げていた。

そのために、日本に明確な歴史認識の表明を求めるなど、強い姿勢を示した。

そのためにとられる措置は、進んでやるという手法をとった。従来、韓国政府が独自の一方的な支払ったことを、難しくする「謝罪」を含む「謝罪」は共同宣言に盛り込まれた。

韓国側は、今回の首脳会談で、日本側の「謝罪」を含む「謝罪」の方がより強く響く。

韓国大統領周行秘によると、日本側は当初「謝」を含む「謝罪」は共同宣言に盛り込まれた。

「おわび」韓国語訳は「謝罪」

共同宣言では、小渕首相が、日本の植民地支配について「おわび」を表明したが、韓国政府では、謝罪（サジェ）「謝罪」の方がより強く響く。

韓国大統領周行秘によると、日本側は当初「謝」を含む「謝罪」は共同宣言に盛り込まれた。

「謝過」より強く

韓国大統領周行秘によると、日本側は当初「謝」を含む「謝罪」は共同宣言に盛り込まれた。

歴史認識問題 決着図る意向

韓国では、まず「謝罪」を用いていた日韓の大統領の協議で、韓国側の主張通って「謝罪」に落ち着いたという。

日本版の「心からのお詫び」という意識強い、植民地支配の道義的責任を認めた村山首相の九五年八月十五日の談話からひいたものだが、韓国側があえて「謝罪」にこだわったのは、歴史認識問題に触して、「謝罪」に言及することによって、韓国国民を納得させ、決着をつけたいという意図が働いたといえる。

「韓国語訳は「謝罪」

日本版の「心からのお詫び」という意識強い、植民地支配の道義的責任を認めた村山首相の九五年八月十五日の談話からひいたものだが、韓国側があえて「謝罪」にこだわったのは、歴史認識問題に触して、「謝罪」に言及することによって、韓国国民を納得させ、決着をつけたいという意図が働いたといえる。

日韓首脳 主なやり取り

大統領　韓国政府は今後、過去の問題を出さないようにしたい。自分が責任を持つ。

【北朝鮮問題】

大統領　ミサイルか人工衛星か分からない以前、（朝鮮民主主義人民共和国の発射実験に）非常に大きな意味を感じている。日本の意図は理解できる。日韓米の三国がアジア地域の平和と安定のために共同で対処していくことが重要だ。

首相　今回のミサイル発射は残念に思っている。だが、動機が明らかにされたようなものであれば、日韓の間で過去が乗られてきた。過去を乗り越えて新しい日韓関係を築きたい。

首相　これまでのように関係が緊張を生じることがないようにしたい。

大統領　韓国政府は今後、過去の問題を出さないようにしたい。自分が責任をもってやる。

首相　これまでのように関係が緊張を生じることがないようにしたい。

大統領　朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）について日本の積極的な貢献をお願いしたい。

首相　KEDOの重要性は認識している。だが、動きにくい現実もあり、さらに協議に努めていきたい。

大統領　北東アジア六カ国会議構想では、首相がイニシアチブを取るなら、自分としても協力したい。

首相　一緒の努力をしよう。

【天皇の訪韓】

大統領　正式に天皇陛下のご訪韓を招請する。双方で実現に向け努力したい。

首相　招請を感謝する。大統領、感謝を事柄なのでよく検討したい。日韓関係の一層の発展に対する歴史的一歩は、自分も一緒だ。

朝鮮半島情勢

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の体制が軍事色を強め、国際的に緊張が強まっていることから、共同宣言では、北朝鮮を改革・開放へと導くという目標を鮮明。さらに、金大中政権がとっている北朝鮮との交流・協力を推進する政策に支持を表明した。金体としてはっきりしていう、日米韓三カ国が推進してきた基本戦略を再確認している。

特に、米朝枠組み合意に基づく朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）の事業については、今後は、韓国政府を動員する「現実的な手段」などと強く評価している。これは、八月末のミサイル発射事件を受けた「KEDOの軽水炉事業への費用支出の凍結」議論の解除のタイミングを探っている日本政府の姿勢を示したものと見える。日本政府は、今月二十一日から予定されている南北朝鮮、米国、中国による南北閣僚級三回目の会談など、北朝鮮をめぐる動きを見ながら、支出表明を決定していくことになりそうだ。

一方で、宣言は、北朝鮮のミサイル開発が北東アジア全体に悪影響を及ぼす恐れを明記することによって、ミサイル発射に対する日本側の強い反応に、韓国政府が理解を示した形だ。

文化交流

金大中大統領は、共同宣言で、韓国が日本の映画、歌謡曲など「大衆文化」の流入を禁止している問題で、解放していく方針を表明した。

韓国が日本大衆文化を制限してきたのは、第二次大戦終了後、植民地支配からの解放感から、日本の文化が国民の感情を傷つけることが耐えがたいと感じているからだ。文化交流のため、文化交流協議会をつくることが望ましいと提案し、韓国側も受け入れた。

首相　過去の問題に関する政府の立場が変わることは明確にしておきたい。歴史認識問題は確認となる。

大統領　（金大中）今度の事件では、両国政府にいかなる面倒問題も求めていない。ただし、人権問題なので真相は通り方法を通じて明らかにならねばならないとの考えは変わらない。

日韓首脳共同記者会見要旨

小渕首相と金大中韓国大統領との共同記者会見の要旨は次の通り。

小渕首相　日韓関係の重要性と同盟性を強調し、両国の絆は次の通り。

金大中大統領　二十一世紀に向けて、新しいパートナーシップを作りたいと思っている。文化交流協議会は大変有益なもので、その結果に調印。共同宣言の発表により、新しい時代の韓日友好協力のページを開いたことは、大変意義深い。

首相　（過去の歴史認識については）共同宣言という形で明確にしてきた。

大統領　（歴史認識の）このたびの日本政府の表明は、これまでと異なるものだ。宣言で正式発表し、韓国を配慮を払い、二度とおわびを表明したことは、その形式と語で過去と異なるものだ。過去の問題は再び繰り返してはならない。

首相　（大統領から）今世紀は、天皇訪韓については、時にいながらいまだに行われていないのは未曾有だ。難かしい歴史の中で訪韓するきっかけが出なければならないと感じている。文化交流のため、文化交流協議会をつくることが望ましいと提案し、韓国側も受け入れた。

首相　過去の問題に関する政府の立場が変わることは明確にしておきたい。歴史認識問題は確認となる。

大統領　（金大中）今度の事件では、両国政府にいかなる面倒問題も求めていない。ただし、人権問題なので真相は通り方法を通じて明らかにならねばならないとの考えは変わらない。

しかし、韓国国内では、日本のアニメなどの暴力・セックスシーンなどが大量に流入して、青少年に影響を与えることへの懸念が高まっている。また、韓国内の映画、音楽産業が、日本の資本によって席巻されるという不安も強い。

このため、金大中大統領は、国民の感情を考慮しながら、段階的に開放していく方針。日韓首脳会談では、専門家による協議機関を作って開放に伴う問題を話し合うことが望ましいと提案しており、日本側も協力を求められそうだ。

初期的にも協力して、国民文化を確立するために、日本からの影響を防ぐための手段だった。いわば、国民感情の異の対抗だったわけで、金大統領が解禁を日本に正式に伝えたことは、新時代の日韓関係が始まることを象徴する決断といえる。

98.10.8.読売

対韓投資企業に促す

行動計画 経済分野 輸銀が30億ドル融資

八日の日韓首脳会談で合意された日韓行動計画は、経済分野として韓国に対する三十億ドルに上る日本輸出入銀行の融資のほか、官民合同による投資促進協議会の新設や、経済関係閣僚、次官級による協議の緊密化などが盛り込まれ、日本側は経済危機に陥っている韓国への支援姿勢を色濃く打ち出した。

昨年夏以来のアジア通貨・金融危機の影響を受けた韓国は、九八年一月に国際通貨基金（IMF）を中心とする国際金融機関などから約五百八十億ドルの支援を得て、金融制度改革や産業構造の調整に取り組んでいる。しかし、その後も失業者や企業倒産が増加するなど、苦境が続いている。輸銀融資などの施策は、短期的な資金不足に対する支援に加えて、日本企業の投資促進によって韓国経済を活性化させようという狙いだ。

日本の支援について、金大統領は記者会見で、「日本が自国の状況が厳しい中で支援をしてくれる意思に感謝する」と謝意を表し、小渕首相も「日本は韓国とともに、アジア経済全体に責任を負っている」と強調した。

ロシアの経済危機が中南米に飛び火して日米欧で同時株安を引き起こしたように、市場経済の国境を越えた広がりにより、一国の経済危機は、その国だけの問題ではなくなっている。日韓首脳が合意した経済協力には、韓国の経済危機が進行すれば、世界恐慌にもつながりかねないとの危機感が背景にある。

しかし、輸銀融資以外は、具体的な内容の検討はこれからだ。また、韓国の政府機関が大統領の訪日に合わせて投資誘致の説明会を開いているが、説明会に参加した日本企業は「韓国での労使紛争に懸念があるうえ、今は本社の業績も良くない」（自動車部品メーカー）など、及び腰の姿勢が目立った。

日韓首脳による共同宣言がうたう「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の経済面での構築には、乗り越えなくてはならない課題も多く残されている。（経済部　新井　康夫）

日韓租税条約を改定 30年ぶり

日本と韓国の法人や個人の所得に対する二重課税の回避や脱税の防止を目的とした日韓租税条約が全面的に改定され、八日、迎賓館で小渕首相と金大中大統領の立ち会いの下、高村外相と洪淳瑛外交通商相が新条約に署名した。

韓国が日本の輸出企業に対する課税権を縮小するほか、両国が滞在する相手国の学生や芸能人の所得にかかる免税範囲を広げる。両国の国会での承認手続きを経て、二〇〇〇年一月から実施する。日韓租税条約の改定は、現行条約を締結した七〇年以来、三十年ぶりだ。

現行条約は、締結時の韓国の経済状況を反映し、韓国を途上国とした内容になっていた。日本企業が韓国に支店を置いていなくても、現地代理店を通じて輸出、販売して得た所得に対し、韓国が課税している。

改定により、韓国の課税権は支店を設置している場合にだけ認め、代理店を通じた分は日本の課税権の範囲とする。

対北朝鮮で緊密に連携

両外相が一致

高村外相は八日早朝、韓国の洪淳瑛外交通商相と迎賓館で会談し、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）政策などについて協議した。この中で洪外交通商相が、朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）が北朝鮮に供与する軽水炉の費用分担を取り決めた文書への早期署名の重要性を指摘したのに対し、外相は「韓国側の気持ちは理解している」と述べ、日本が凍結したKEDOへの協力を再開する意向を改めて表明した。

ただその時期については、外相は国内世論の動向などをにらみつつ判断したい考えを示した。両外相はまた、対北朝鮮政策で日韓が共同歩調をとることの重要性を確認し、両国の連携を一層緊密化させることで一致した。

98.10.8. 読売(夕)

日韓交流 夜明けのうた

日本語演奏解禁

「待ち望んでました」

在日の歌手 田月仙さん ソウルで披露へ

来日中の金大中・韓国大統領は、八日午前に署名された日韓共同宣言で、日本語の映画や音楽を韓国内で解禁していく方針を明らかにした。これを受け、在日韓国人のオペラ歌手・田月仙さんが今月二十五日、ソウル市内で開かれる公式イベントで「夜明けのうた」を日本語で歌う。芥川賞作家・柳美里さんの小説を映画化した「家族シネマ」の撮影も終わり、韓国で日本語映画が初めて一般上映される日も近づいている。戦後半世紀もの間、原則禁止の状態が続いてきた日本語の文化・芸能。日本語での公演や上映を準備する動きに拍車がかかりそうだ。（本文記事一面）

「夜明けのうた」の練習に熱がこもる田月仙さん＝東京・渋谷区内のスタジオで

「家族シネマ」も年内公開か

田さんは今月二十五日、東京都とソウル市の友好都市提携十周年事業としてソウルで開かれる「地球村まつり」で、「夜明けのうた」「赤とんぼ」など数曲を日本語で披露する。日本の歌をプログラムに盛り込むことについて、東京都の交流推進室がソウル市側に打診したところ、ほとんど問題なくOKが出たという。

韓国では、戦前の日本統治下に日本語を強要されるなど民族の文化を侵害されたため、日本語の映画、ビデオ、CDなどの上映や販売はもとより、コンサートなどで日本語で歌うことも原則禁止とされてきた。

これまでは、演歌歌手の天童よしみさんが韓国内のコンサートで日本語歌謡で歌うなど、いくつか前例はあるものの、許可は厳しかった。今回、首都間士の公式イベントですんなりと日本語の歌が認められたことは、金大統領の文化開放姿勢が影響していると、関係者は見ている。

ソウルで歌う田さんは在日韓国人二世。北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の音楽祭に招かれて歌ったこともある。共同宣言に日本文化の解禁方針が盛り込まれ、田さんは「長く待ち望んでいました」と手放しで喜ぶ。「日本と韓国の両方に気持ちが通じる私たちが文化交流のかけ橋になりたい」と話し、ソウルで披露する歌の仕上げに入った。田さんは日本語と韓国語双方の歌詞で吹き込んだCDも制作中で、韓国内で初の一般発売をめざしている。

また、日本を舞台に家族のあり方を描く「家族シネマ」は、韓国の朴哲洙監督による韓国映画だが、セリフは日本語で、ハングルの字幕を入れる。これまで日本語の映画は釜山国際映画祭などで限定的に上映されただけで、広く一般公開されればこれも初のケースとなる。

「家族シネマ」はすでに撮影を終え、フィルム編集も今月六日に完了。録音作業を残すのみとなっており、年内にも韓国内で公開される可能性が強い。

出演者やスタッフ間の通訳も務めた助監督の鄭然元さんも「柳さんの原作より面白い映画ができた。韓国での日本語上映の第一号になればすばらしい。韓国と日本で大勢の人に見てほしい」と話している。

①

마음으로부터 韓國民에 사죄"

日총리, 오늘 공동선언문서 과거사 언급

【東京=李濟기자】김대중(金大中) 대통령과 오부치(小淵惠三) 일본 총리는 8일 정상회담후 공동선언문을 통해 『양국이 우호협력 관계를 높은 차원으로 발전시켜 21세기를 향한 한일 파트너십을 구축해 나갈 것을 다짐할 것이라고 요미우리(讀賣)신문이 7일 보도했다.

또 공동선언문의 첫항에 과거사 문제를 언급, 오부치 총리는 『한국 국민에 대해 식민지 지배에 의해 많은 손해와 고통을 주었다는 역사적 사실을 겸허하게 받아들여 통절(痛切)한 반성과 마음으로부터의 사죄를 표명하고, 한국 국민에 대한 사죄의 뜻을 밝힌 것이라고 요미우리는 전했다. 김 대통령은 오부치 총리의 사죄 발언을 평가하고, 양국이 화해와 신뢰우호협력에 바탕을 둔 미래지향적인 관계로 발전해나가기 위한 노력의 필요성을 강조할 것으로 알려졌다. 두 정상은 이같은 합의를 치음으로 문서로 명기해 서명할 것이라고 신문은 말했다. <jumee@chosun.com>

②

日 자민당 일부 보수파 의원 "과거사 반성 불필요"

55개 우익단체 "金대통령 訪日 반대"

【東京=朴正薰기자】일본 집권 자민당의 일부 보수파 의원들은 7일 총무회에서 『오부치 총리의 과거사 반성은 일본의 자존심에 먹칠을 훼손시키는 것이라며 사죄 철회를 요구했다.

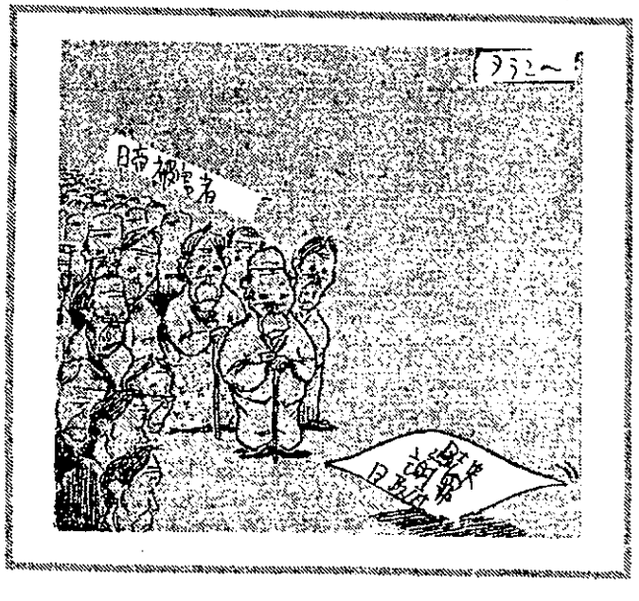
과거사 망언(妄言)으로 유명한 에토 다카미(江藤隆美) 전 총무청장관은 『(일본의) 식민통치란 없었다. 일본 총리가 바뀌고 한국 대통령이 바뀔 때마다 이 문제를 제기하는 것은 이상하다며 과거사 반성은 불필요하다고 주장했다. 사토 신지(佐藤信二) 전 통상상은 『문제는 사죄소송이 95년 무라야마(村山富市) 총리 담화의 수준을 넘느냐 하는 것이라며 『지나친 사죄에 반대한다는 입장을 표명했다.

이날 도쿄 안에서는 55개 우익단체가 기두선전 사랑을 동원, 일본정부의 과거사 반성을 비난하는 기두방송을 하루 종일 계속했다.

일본 경찰청에 따르면 총 1백10대의 선전차량이 동원됐으며, 3백40명이 전철역 등에서 「시죄반대와 김 대통령 방일반대」 등의 내용이 담긴 전단을 배포하는 등의 활동을 벌였다.

朝鮮漫評

kmshin@chosun.com 申景武



①

心から韓国民に謝罪

日総理、今日共同宣言文書で過去史に言及

金大中大統領と小渕日本総理が８日の首脳会談後共同宣言文を通じて「両国が友好協力関係を高いレベルまで発展させ、２１世紀に向けた韓日パートナーシップを構築していく」ことを確認すると読売新聞が７日報道した。

また、共同宣言文の初項で過去史問題に言及、小渕総理は「韓国国民に対して植民地支配による大きな損害と苦痛を与えた歴史的事実を謙虚に受け入れ、痛切な反省と心からの謝罪」を表明するとした。これは韓国国民に対して謝罪の意を明らかにしたものであると読売は伝えた。金大統領は小渕総理の謝罪発言を評価し、両国が和解と善隣友好協力を基にした未来志向的な関係で発展していくための努力の必要性を強調するとのことである。両首脳はこのような合意を初めて文書に明記し署名すると新聞は報道した。

（朝鮮日報　１０月　８日　１面）

②

日　自民党の一部保守派議員

「過去史の反省、不必要」

５５右翼団体「金大統領訪日反対」

日本の政権党である自民党の一部保守派議員は、７日の総務会で「小渕総理の過去史反省は日本の自尊心と名誉を毀損させるもの」とし、謝罪撤回要求した。

過去史の妄言で有名な江藤隆美元総務庁長官は「（日本の）植民統治などなかった。日本の総理が代わり韓国の大統領が代わるたびにこの問題が提起されるのは異常である。」とし、過去史の反省は不必要であると主張した。佐藤信二元通産相も「問題は謝罪水準が９５年の村山談話を越えるかどうかということ。」としながら「過度の謝罪」に反対するという立場を表明した。

この日東京都内では５５右翼団体が街宣車を動員、日本政府の過去史反省を非難する街頭宣伝を一日中流した。

警察庁によると総１１０台の宣伝車両が動員され、３４０名が駅頭等で「謝罪反対と金大統領の訪日反対」等の内容が書かれたビラを配るなどの活動を繰り広げた。

（朝鮮日報　１０月　８日　２面）

상 '아시아'서 '한국'으로

「말」아닌 공식文書化에 의미

교과서·기술등 실질적 조치는 미흡

사죄를 표명한다는 밝힐 것으로 알려졌다. 이는 지난 95년 무라야마 당시 총리의 「전후(戰後) 50주년 담화」 내용에서 「아시아 제국」을 「한국 국민」으로 바꾼 것이다.

한국 정부가 『사과문안은 무라야마 수준이면 된다』는 입장이었으므로 형식면에서 소기의 성과는 거둔 셈이다. 더욱이 「말」이 아닌 「문서」로 사과했다는 점이 의미가 크다는 정부 설명이다.

외교부 고위관계자는 『21세기를 눈앞에 두고도 「과거사」가 걸림돌이 되는 것은 바람직하지 못하다는 게 정부 입장』이라면서 『미래를 향한 진전이라는 점에서 이번 선언의 의미는 크다』고 자평(自評)했다.

또 아키히토 일왕이 말해왔다.

그러나 이번 공동선언문과 행동계획, 일왕 사과에는 이에 대한 언급이 전혀 없다. 전전(戰前) 일본 정부문서 공개 문제도 해결되지 않은 것으로 전해졌다.

또 정부 요구수준은 맞췄지만 사과문안도 별로 나아진 것이 없다.

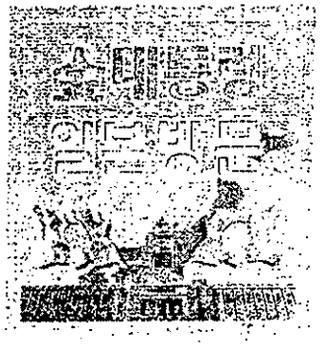
정부는 김대중(金大中) 대통령 방일에 맞춘 일본측 과거사 반성에 대해 『긍정적으로 받아들이며 과거사를 정리하는 계기가 될 것이라고 평가하고 있다. 한일 관계가 과거를 넘어 새로운 미래로 넘어가는 데 적 사실을 겸허히 인정하고 이에 대해 통절한 반성과 마음으로부터의 사죄를 표명한다는 말만 반복했다는 점에서 평가할 만한 사과를 통해 『우리 나라가 한반도 여러분께 크나큰 고통을 안겨준 시대가 있었며, 그에 대한 깊은 슬픔은 항상 간직하고 있다』고 사과한 것도 「요구하지 않은 것을 했다」는 점에서 평가하고 있다. 그러나 한국측이 기대했던 「진실을 담은 조치는 찾기 어렵다」는 평이다.

김 대통령은 『과거사 문제 해결은 역사교육과 교과서에 직결된다』고 일왕의 사과는 노태우(盧泰愚·90년)-김영삼(金泳三·94년) 대통령 방일시와 달라진 것이 없다. 오부치 총리 사과도 과거 몇몇 총리들이 위안부 문제와 참씨개명 등을 언급했던 것에 비교하면 구체성이 떨어진다.

이런 이유 때문인지 정부는 「과거사 문제를 청산한다는 말을 하지 않고 있다. 한 고위당국자는 『과거사 문제를 문서에 명기했다는 이유로 해결됐다고 할 수 없으며 자식들에게 자신의 잘못을 올바로 가르칠 때 비로소 해결될 것이라면서 『일본은 앞으로도 실질적 차원의 과거사 정리를 계속해야 한다』고 말했다.

<權大熙기자·dykwon@chosun.com>

'日사죄 문서화' 큰숙제 풀었다



오부치 발언 의미

가해·피해자 첫 명시… 金대통령 수용
교과서문제등 실질적 조치 뒤따라야

김대중(金大中)대통령의 방일로 오랫동안 양국 관계를 구속한 「과거사」 문제가 일단 큰 매듭을 지을 전망이다.

8일의 공동선언에서 오부치 게이조(小渕惠三)총리가 밝힐 「반성과 사죄」발언의 수위와 강도는 물론, 이에 대한 김대통령의 평가가 크게 흠잡을 데 없다는 점도 그렇지만 이같은 양국 정상의 인식이 공식화한 문서로 남는다는 점에서도 의미가 있다.

일본의 일부 강경보수파 자민당 의원들은 「문서화는 바로 사죄의 공식화를 의미하고 앞으로 국민의 역사인식을 구속한다」며 끝까지 반대했었다. 그러나 오부치총리가 일본 국민을 대표해 「반성과 사죄」를 공식적으로 밝힘에 따라 앞으로 궤를 달리하는 어떤 역사 인식도 그 의미가 떨어질 수밖에 없다.

물론 이같은 구속력은 한국에 대해서도 마찬가지다. 김대통령이 오부치총리의 역사 인식을 평가하는 이상 의례화하다시피 한 양국간의 「사죄 외교」는 이제 외교무대에서 사라질 것으로 보인다.

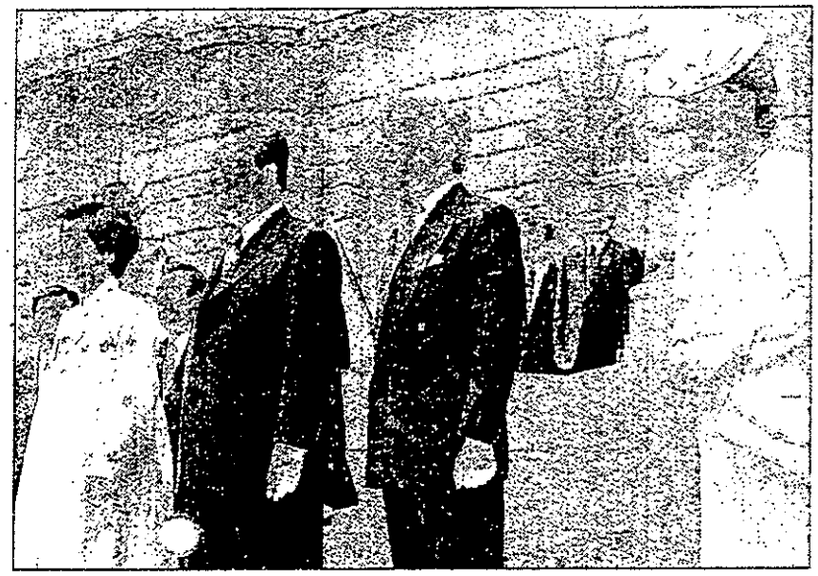
오부치총리가 밝힐 「통절(痛切)한 반성과 마음으로부터의 사죄」는 주목할 만한 언급이다. 그는 「우리나라」와 「한국 국민」이라고 가해·피해자를 처음으로 분명히 밝힘으로써 그동안 가장 나았다는 평가를 얻은 「가이후 발언」과 「호소카와 발언」보다 진전된 것이라 할 수 있다. 또 「통절한 반성」은 「무라야마 담화」를 이은 것으로 반성의 정도가 「겸허한 반성」 「마음으로부터의 반성」 등에 비해 강하다. 「마음으로부터의 사죄」도 「무라야마 담화」의 「사죄의 기분」이나 「하시모토 발언」의 「사죄의 말」에서 한 걸음 더 나아간 표현이라는 평가를 받고 있다.

그러나 「과거사」 문제와 관련, 일본측이 진전된 언급을 하고 이를 공식문서화했다 해서 양국의 진정한 우호 선린 관계가 하루 아침에 수립될 수는 없다는 지적도 많다. 양국간 과거사 문제의 인식의 차이는 여전히 크다. 역사를 왜곡하는 교과서 문제 등만 해도 그렇다. 진심을 반영하는 실질적 조치 등이 뒤를 이어야만 과거사 문제가 해결될 것이라는 게 일본내 지한파 인사들의 지적이다.

/도쿄=황영식특파원

일본 전현 총리의 과거사 발언 비교

일시 및 발언자	내 용
1983년 1월 나카소네 야스히로(中曾根康弘) 총리 방한시 전두환(全斗煥)대통령 주최 만찬	양국간에는 유감스럽게도 과거에 불행한 역사가 있었던 것은 사실이고 이를 엄숙하게 받아들이지 않으면 안된다. 과거의 반성 위에 서서 우리나라의 선배들은 새로운 한일관계의 초석을 쌓아 왔다
1984년 9월 히로히토(裕仁)천황 전두환대통령 방일시 궁중만찬	금세기의 한 시기에 양국 사이에 불행한 과거가 있었던 점은 참으로 유감이며 다시 거듭돼서는 안된다
1990년 5월 아키히토(明仁)천황 노태우(盧泰愚)대통령 방일시 궁중만찬	우리나라에 의해 초래된 이 불행한 시기에 귀국의 사람들이 맛보아야 했던 고통을 생각하며 몹시 애석한 마음(痛惜之念)을 금할 수 없다
1990년 5월 가이후 도시키(海部俊樹)총리 노태우대통령 방일시 정상회담	과거의 한 시기 한반도의 여러분이 우리나라의 행위에 의해 견디기 어려운 고통과 슬픔을 체험해야 했던 데 대해 겸허하게 반성하고 솔직하게 사죄의 기분을 밝히고 싶다
1993년 11월 호소카와 모리히로(細川護熙)총리 방한시 김영삼(金泳三)대통령과의 정상회담	우리나라의 식민지 지배에 의해 한반도 사람들이 모국어 교육의 기회를 빼앗기고, 이름을 일본식으로 고치도록 강요받고, 군대위안부·징용 등으로 견디기 어려운 고통과 슬픔을 경험해야 했던 점에 가해자로서 마음으로부터 반성하고 진사(陳謝)하[illegible]다
1996년 6월 참의개명 [illegible]	얼마나 많은 한국분들의 마음에 상처를 주었는지는 상상[illegible]



③

謝過（ママ）対象「アジア」から「韓国」に

金大統領日本訪問・日　過去史言及

「言葉」でなく公式文書化に意味

過去史・記述等、実質的な措置は不十分

政府は金大中大統領訪日に合わせた日本側の過去史反省について「肯定的に受け入れ、過去史を整理する契機となるであろう」と評価している。韓日関係が過去を乗り越えて新しい未来に向かっていくのに必要な、日本側の最小限の措置にはなりうるとの考えである。

小渕総理は８日に発表する共同宣言前文で「わが国が過去の一定期間韓国国民に対し、植民地支配を通して多大な損害と苦痛をもたらしたという歴史的事実を謙虚に認め、これに対して痛切な反省と心からの謝罪を表明する。」と明らかにするものと伝えられた。これは去る９５年の村山元首相の「戦後５０周年談話」での「アジア諸国」を「韓国国民」に変えたものである。

韓国政府が「謝罪文案は村山談話水準であればいい。」という立場であったので、形式面で所期の成果は達成されたといえる。何よりも「言葉」ではなく「文書」で謝ったという点で意味が多いというのが政府の説明である。

外交部高位関係者は「２１世紀を目前に控えても「過去史」がつまずきとなることは望ましくないというのが政府の立場。」としながら「未来に向けた進展という点で今回の宣言の意味は大きい。」と自ら評した。

また、明仁日王（ママ）が晩餐会の場を通して「わが国が韓半島の皆様に極めて大きな苦痛をもたらした時代があり、それに関して深い悲しみを常に抱いている。」と謝ったことも「要求していないことをした」という点で評価している。しかし韓国側が期待していた「真心のこもった措置」は見出しがたいという評価である。

金大統領は「過去史問題の解決は歴史教育と教科書に集結される。」と語ってきた。

しかし今回の共同宣言文と行動計画、日王（ママ）の謝過にはこれについての言及が全くない。戦前の日本政府公文書の公開問題も解決されていない

ものと伝えられている。

また政府の要求水準は満たしたものの謝過文案も特に改善されてはいない。日王の謝過はノ・テウ、キム・ヨンサム大統領の訪日時と違いはない。小渕総理の謝過も過去の総理たちが慰安婦問題と創氏改名等に言及したことに比べれば具体性に欠ける。

このような理由のためか政府は「過去史問題を清算する」とは言わないでいる。ある高位当局者は「過去史問題を文書に明記したということで解決されたとは言えず、子どもたちに自分達の過ちを正しく教えるときに初めて解決されるもの。」としながら「日本はこれからも実質的なレベルでの過去史整理を続けなければならない。」と語った。

（朝鮮日報　１０月　８日　３面）

「日本謝罪文書化」宿題から解放

加害・被害者を初めて明示…金大統領受容

教科書問題等実質的な措置が伴わなければ

金大中大統領の訪日で長い間両国関係を縛り付けてきた「過去史」問題に、一旦大きなけじめが付けられる展望である。

８日の共同宣言で小渕恵三総理が表明した「反省と謝罪」発言の水準と強度はもちろん、これに対する金大統領の評価に大きなあらが見あたらないという点もそうであるが、このような両国首脳の認識が公式化された文書として残るという点でも意味がある。

日本の一部強行保守派自民党議員らは「文書化は即ち謝罪の公式化を意味し、これからの国民の歴史認識を拘束すると。」として最後まで反対した。しかし、小渕総理が日本国民を代表して「反省と謝罪」を公式的に明らかにすることによって、これからは異なる歴史認識もその意味がなくなるほかない。

もちろんこのような拘束力は韓国に対しても同じである。金大統領が小渕総理の歴史認識を評価する以上、儀礼化しているかのような両国間の「謝罪外交」は外交舞台から消え去るものと思われる。

小渕総理が表明した「痛切な反省と心からの謝罪」は注目に値する言及である。彼が「わが国」と「韓国国民」と加害・被害者を初めて明らかにすしたことで、これまで最も評価を得ている「海部発言」と「細川発言」より進

展したものといえよう。また「痛切な反省」は「村山談話」を引き継いだものとして反省の程度が「謙虚な反省」「心からの反省」等に比べて強い。「心からの謝罪」も「村山談話」の「謝罪の気分」や「橋本発言」の「謝罪の言葉」から一歩踏み出した表現であると評価を受けている。

しかし「過去史問題」と関連して日本側が進展した言及をし、これを公文書化したからといって両国の本当の意味での友好善隣関係が直ちに築かれるものではないという指摘も多い。両国間の過去史問題の認識差は未だに大きい。歴史を歪曲する教科書問題だけを見てもそう言える。真心を反映させる実質的な措置等が伴ってこそ、過去史問題が解決されるというのが日本国内の知韓派の人々の指摘である。

（韓国日報　１０月　８日　３面）

98.10.8. J.T. (3面)

Kim's banquet speech

The following is the complete text of a speech made Wednesday by South Korean President Kim Dae Jung at a state dinner hosted by the Emperor and Empress.

Your Majesties the Emperor and Empress, esteemed members of the Imperial Family, Your Excellencies Prime Minister and Mrs. Obuchi, distinguished ladies and gentlemen:

I am most grateful for the warm reception which you have given me, my wife and the Korean delegation and for the sumptuous dinner you have prepared for us.

I was very impressed with Your Majesty's remarks and your deep interest in promoting exchanges and cooperation between Korea and Japan.

Our two neighboring countries share a long history of profound interaction, as well as the invaluable common experience of helping each other for mutual development.

Our history validates the words of the wise prophets who foresaw the importance of maintaining friendly relations between the two countries. There have been many Japanese, as well as Koreans, who have striven to establish a good bilateral relationship.

In mid-15th century Korea, there was a high government official named Shin Suk Chu who traveled to Japan as an envoy of the Chosn court. In his book titled "Haedong chegukki" ("About the Countries East of the Sea"), he said, "The fundamental principle in approaching a neighboring country is to approach it with courtesy and treat it with heart." This statement was made some 500 years ago, but the message is as valid today as ever.

Today, there is a growing tendency for more and more people in both our countries to respect the other's culture and accept it to enrich their own.

The two countries agree that closer cooperation is important not only because a new century is approaching but also because the situation surrounding the two countries demands a closer partnership.

Now there is a new Administration in Korea that seeks to pursue genuine democracy and a market economy. This is a remarkable achievement for the Koreans who rose from adversity with 50 years of unflinching determination. The Korean people and my Administration are willing, open-minded and fully prepared to exchange and cooperate with our neighbor.

Japan, on its part, has accomplished tremendous economic development in the recent past through the diligence and devotion of its people. Japan has made great contributions to the international community by developing parliamentary democracy and pacifist policies. Such achievements of the postwar period should serve as a precious asset in forming a partnership with us in the coming century.

While the Cold War has ended elsewhere in the world, Northeast Asia is still seeking a new order and expects Korea and Japan to take an active role. In bringing peace, stability and prosperity to East Asia, the two countries will be able to play important roles together since we share democracy and a market economy.

The economic malaise sweeping Asia also requires the two countries to cooperate closely. As a world economic power, Japan is urged to share the pain with the rest of Asia and take an active role in tackling the crisis.

Once again, I would like to express my gratitude for the positive and faithful support Japan rendered Korea when we faced a foreign exchange crisis at the end of last year.

It is my earnest hope that Japan will be able to act as the lead engine in pulling Asia out of its economic quagmire. In the process, positive bilateral cooperation could be demonstrated, giving hope of recovery to other countries in the region experiencing economic difficulties.

Success of the 2002 World Cup, which our two countries are cohosting, will hinge on bilateral cooperation and harmony. The World Cup will be an occasion for us to demonstrate our forward-looking partnership and win praise for our friendship from the world.

If our two nations are to succeed in cooperative efforts, we must first respect each other and open our hearts. I am taking this occasion to propose that the leaders of Korea and Japan recognize our historic missions and fulfill them in the spirit of true partnership.

Let us forge a neighborly relationship based on truthfulness and a cooperative spirit so that that will live on as a tradition for our posterity. The history of Korea-Japan ties is one of the longest in the world. If we cement our friendship at the threshold of the 21st century and continue to work together in the global village, then both Korea and Japan will have carried on their historical legacies rightly.

Distinguished ladies and gentlemen,

Please join me in a toast to the good health of Their Majesties, the continuing prosperity of Japan, and the friendly and cooperative partnership between Korea and Japan.

Thank you very much.

Address by the Emperor

The following is the complete text of an address made Wednesday by the Emperor at a state banquet held in honor of visiting South Korean President Kim Dae Jung and the South Korean first lady.

I wish to express my heartfelt welcome to Your Excellency the President of the Republic of Korea and Mrs. Kim Dae Jung on your visit to Japan as State Guests. It is my great pleasure to be able to spend this evening here with you.

Separated only by a narrow body of water, the peoples of Japan and Korea have a long history of exchange, and Korean culture has had a very great influence on Japan. Nihon Shoki (the Chronicles of Japan), a history of Japan written in the eighth century, records a variety of exchanges. It notes, for example, that during the time of King Aka (Ahwa) of Kudara (Paekche) and Emperor Ojin of Japan, the scholar Wani (Wangin), a specialist in Chinese writings, came to Japan to teach Crown Prince Uji-no-Waki-Iratsuko, imparting to the Crown Prince a deep knowledge of various works. Strong ties therefore seem to have been formed between individuals, apart from contacts between our countries within the international community of that time. Successive later visitors to Japan from Kudara (Paekche) included scholars of the Five Confucian Classics, and masters of medicine, calendar making and so on. Buddhism was also transmitted to Japan. An enormous contribution, I believe, was thereby made to the advancement of Japanese culture by great numbers of Koreans.

This history of close exchange had a reverse side at one period when Japan brought great suffering on the people of the Korean Peninsula. The deep sorrow which I feel over this never leaves my memory.

Between our two countries we have together gone through varied phases of a long history. Constantly pursuing the truth in order to understand this history which we share, I believe that we must look to the future as we nurture the mutual warm feeling, appreciation and respect which have already begun to burgeon thanks to the efforts of both of our peoples. It is my fervent desire that Japan and the Republic of Korea will continue to make it their common purpose to seek how best to be democratic states, and that, with due regard for each other, we will seek the way to build the best relations between us.

Happily, the enthusiasm and efforts of our peoples have developed exchange between our countries in various fields in recent years, and I am delighted at the progress made in building mutual understanding and friendly relations. The increasingly vigorous exchange between our young people in particular bears great promise for the further development of our relationship. I recently met with the Japan youth mission which visited your country as part of the government-sponsored Japan-Korean Youth Goodwill Exchange Program, and was pleased that the members of this mission had had direct heart-to-heart contact with people in Korea and deepened their understanding of, and intimacy with your country. In addition, the Japan-Korea Youth Exchange Network Forum held in Osaka in May last year proved to be an extremely significant experiment in gathering together Japanese and Korean young people who are involved in international exchanges in a variety of fields, to discuss future exchange between our countries and open a path to the future. It is my fervent desire that our peoples will foster between them an unshakable trust and friendship into the future, building a rich relationship of friendly cooperation.

The current visit to Japan of Your Excellency the President is extremely significant in terms of the future of the relationship between our countries. While your stay will be a brief and busy one, I hope you will be able to meet with a wide range of Japanese people in various circles and, at the same time, enjoy the scenery of our deepening autumn. Like the autumn harvest, I hope your visit will be a fruitful and satisfying one.

I would now like to propose a toast to the good health and happiness of His Excellency the President and Mrs. Kim Dae Jung, as well as to the happiness of the people of the Republic of Korea.

（第3種郵便物認可）　毎日新聞　（夕刊）
98.10.9

98.10.9.夕日.

アジア女性基金

分かれる各国対応

受領は計85人　元慰安婦の不満消えず

財団法人「女性のためのアジア平和国民基金」（原文兵衛理事長）が支給する「償い金」（1人200万円相当）を受け取った元従軍慰安婦は、韓国、フィリピン、台湾を合わせ85人に上る。しかし、公式謝罪と国家賠償を求める元慰安婦の反発は依然として強い。

85人の国・地域別内訳はプライバシーを理由に公表されていないが、フィリピンでは支援グループ「リラ・ピリピーナ」所属の33人が償い金を受け取った。基金事務局によると、被害国の政府、または政府公認の支援団体が認定した被害者は、韓国で約150人、台湾で45人、フィリピンでは申請者も含め約100人に上る。

被害者は「誠意ある謝罪と補償を」と訴え続けてきた。これに対し、日本政府は補償について「1965年の日韓条約で、個人補償も含めて賠償問題は解決済み」との立場を崩していない。戦後50年の95年夏、村山富市内閣の時に発足した基金が民間募金であることや、公式謝罪がないことから、名誉回復を望む元慰安婦らの不満は解消されていない。

基金に対する各国の対応はさまざまだ。フィリピンでは司法省が被害認定をしている。インドネシアやオランダ政府は、個人への支給を認めておらず、基金が日本政府の拠出金を基に医療・福祉事業の資金を提供している。中国や朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は白紙の状態だ。

一方、韓国の金大中（キムデジュン）政権は「日本政府の補償措置は当然」との見解を示し、今年5月、償い金を受け取らないことを条件に百十数人の被害者に1人当たり3150万ウォン（当時のレートで3～2万円）の生活支援金を支給した。このため現在、韓国での支給は見合わせており、募金総額4億3800万円となった基金は停滞状態が続いている。

◆主な戦後補償訴訟の判決◆「　」内は判決の言及内容

訴訟名	請求内容	原告	裁判所（年・月）	結果
台湾人元軍人	補償	台湾人13人	東京高裁（1985・8）	棄却
元軍属年金給付	障害年金給付	韓国人男性	大阪地裁（95・10）	棄却
朝鮮人強制徴用	損害賠償	韓国人ら24人	東京地裁（96・11）	棄却
元従軍慰安婦	損害賠償	韓国人女性10人	山口地裁支部（98・4）	3人に各30万円
負傷軍属恩給給付	損害賠償	韓国人男性	東京地裁（98・6）	棄却
元BC級戦犯	損害賠償	韓国・朝鮮人8人	東京高裁（98・7）	棄却
元軍属年金給付	障害年金給付	在日韓国人2人	東京高裁（98・9）	棄却

「同様の境遇の日本人と比較して著しい不利益を受けている。早急にこの不利益を払しょくし、国際貢献を高めるよう尽力することが国政関与者に対する期待である」

「国籍条項や戸籍条項で戦傷病者戦没者遺族等援護法の適用対象外として何ら補償給付を行わず、重大な差別を生じさせる取り扱いは憲法に違反する疑いがある」

「国が救済の立法、行政措置をとらなくても違法と言えない」

「国は憲法制定後も被害を回復する義務を怠り、女性らを放置して苦しみを倍加させた。特別の賠償立法をなすべき憲法上の義務を違法に怠った」

「恩給が支給されると信じ、重度の戦傷を受けたにもかかわらず、補償を受けられないという事態は不可解」

「違法な国家権力の行使によって犠牲や被害を被った者に、国家の責任で一定の補償をすることが世界の主要国の共通認識として次第に高まりつつある」

「援護法を改廃して道を開く立法をするか、これに相当する行政上の特別措置を取ることが望まれる」

98.10.9. 朝日

慰安婦問題

世界が納得できる解決を

金大統領「犠牲者浮かばれぬ」

来日中の金大中・韓国大統領は九日午前、「日本の友人たち」を東京・元赤坂の迎賓館に招いた。関係者によると、「金氏自身が一介の政治家時代から最も恩義を感じている人たち」。慰安婦問題について「世界が納得する形で解決されなくてはならない」と述べるなど、前日の国会演説などでは触れなかった本音もにじませた。

招待されたのは、一九七三年八月に起きた拉致事件の真相究明を求めたり、金氏が軍政下で死刑判決を受けた時に救援活動をした和田春樹・東大名誉教授や伊藤成彦・中央大教授、作家の小田実さん夫妻ら約八十人。田英夫・参院議員や河野洋平代議士ら、与野党の政治家も招かれた。

出席者によると、金大統領は懇談会の席上、慰安婦問題について、「(日本側が)真相を究明しないと、犠牲になった人たちの魂が浮かばれない」と語った。さらに「国際的理解が得られるような解決をすべきで、過去の歴史を直視できるような勇気を持つべきだ」とも話した。

98.10.9. 読売

金大統領 国会演説

未来志向と広く好感

与野党議員「過去」解決には異論も

韓国の金大中大統領が八日、国会で日韓間の歴史問題に区切りをつける演説を行ったことは、「極めて格調高い演説で感銘を受けた」（小渕首相）と好感をもって受け止められた。日韓間ではなお従軍慰安婦の問題があるほか、今後、閣僚の発言などで雰囲気も変わるかもしれないが、大統領の演説は、「未来志向」の日韓関係の重要性を改めて日本の国会議員にアピールしたようだ。演説後にそれぞれ感想を聞いた。（本文記事一面）

8日、参院本会議場で演説する金大中韓国大統領。後方は李姫鎬夫人

ベテラン議員は「過去への決別」と受け止めた。

自民党の中曽根元首相は「大統領は韓国の偉さんの言いたいことを全部言った。互いにすっきりした。古い過去と決別して未来を築く基礎になる」と指摘。竹下元首相も「苦労人であることがにじみ出た立派な演説だった。日韓両国のこれまでにけじめをつけた。我々の仕事はここまで。若い人たちが未来志向で日韓関係を作ってほしい」と述べた。

社民党の村山元首相は配偶者会見で、大統領が演説の中で日韓双方の未来志向のあり方に言及した点について、「偉いもんじゃのう」と絶賛。九五年の村山首相談話を盛り込んだ共同宣言については「韓国が出したのは総理の談話だ。今度は両首脳が調印した。重み、意味が違う」と強調した。

大統領が指摘した歴史認識に関する発言は、おおむね「しっかり受け止める必要がある」（神崎平和・改革代表）と受け止められた。大統領とは一九七二年以来のつきあいという田英夫社民党参院議員は「演説は大統領の考えの結晶、集大成だ。一部国会議員の発言は外野の雑音。日韓間に水をしみなど生じない」と強調。

しかし、これですべて歴史問題が解決というわけでもない。民主党の横路孝弘総務会長は「過去を忘れるのではなく、忘れないでやってほしいということ。そうでない国会議員もいるから、国会議員に向かって言ったことに意味がある。過去を重視できない人がいる」とコメントした。

八八年に自中戦争をめぐる発言で中十岸長官を辞任した自民党の奥野誠亮衆院議員は「筋の通った演説だが、本当にそう思っているのかなとも思った。大統領が発言しても韓国の全国民が同じ気持ちというわけではないし、政治家の問題発言で悲しみが生じる可能性がないわけではない」と受け止めている。共同宣言の首相のおわびについては「とんでもないこと。謝ってばかりいるのではなく、大人の気持ちで韓国に接することができないといけない」と述べた。

一方、「今更、謝罪を共同宣言に盛り込む必要はない」と主張する自由党の西村眞悟衆院議員は議場に入らず、テレビで演説を聞いた。西村氏は（おわびを）踏まえての国会演説で未来志向を表明しているのだから、それはそれでいい。これは評価せざるを得ない。過去のことを言わなければならないのは残念で選ばれた政治家として仕方ないのだろう」と語っている。

金迷三前大統領が来日した際は共産党は招待されなかった。不破氏は、配者団に「これまで日本政府が私たちと韓国との接触を歓迎しなかった。今日、政党として紹介するという感にやっとなった」と語った。

金大統領 与野党代表らと懇談

金大中・韓国大統領は八日の国会での演説後、国会内で衆参両院議長主催の懇談会に出席し、与野党各会派の代表、幹部らと懇談し、「今世紀に始まった不幸は今世紀中にけじめをつけ、二十一世紀には二十一世紀のことを念頭に考えていきたい」と呼びかけた。

韓国との関係構築に積極的な共産党の不破委員長は、この席で、「苦難の時代を乗り越えての訪日、心から歓迎する。戦前からの歴史を日本が反省することが二十一世紀の礎になるとの考えは（私と）完全に一致する」と語りかけた。金大統領は「今後も協力してやりましょう」と述べたという。

自民党の森幹事長は懇談後、記者団に「われわれの時代にはわれわれの痛みがあり、若者にはまた別の考えがある。新しい時代をどう作り、協力していくのかだ」と強調した。民主党の菅代表は「朝鮮半島の問題を平和的に解決するため、日韓関係の安定が重要だ。これからも関係を深めて努力していきたい」と述べた。

政府の歓迎夕食会に共産委員長が初出席

共産党の不破委員長は八日夜、首相官邸で催された小渕首相主催の歓迎夕食会に共産党関係者として初めて出席した。九四年三月に

98.10.9. 読売

「天皇訪韓2002年までに」

韓国大統領 初めて時期明示

韓国の金大中大統領は八日夜のNHK報道番組で、天皇陛下の韓国訪問時期について、「できれば二〇〇二年のサッカー・ワールドカップ以前に実現できることを願っている。今から雰囲気作りに努力していく」と述べた。韓国大統領が時期を明示して天皇訪韓に期待を表明したのは、これが初めて。

二〇〇二年に日本と韓国が共催するワールドカップの開会式の会場は韓国と決まっており、開会式には主催国の元首が出席するのが慣例。韓国政府内には「ワールドカップのために訪韓するのでは公式訪問にならないので、その前に公式訪問をしてほしい」と求める声があるほか、二〇〇三年に任期切れを迎える大統領の在任中の天皇訪韓をにらんだものとの見方もある。（関連記事2・3・4・19・39面）

日韓交流拡大 大統領が強調

国会で演説

国賓として来日中の金大中・韓国大統領は八日午後、参院本会議場で、衆参両院議員を前に演説した。この中で、金大統領は、両国政府が発表した「日韓共同宣言」を「両国政府間の過去の歴史認識問題に一段落をつけ、平和と繁栄を目指す共同の未来を開拓するための礎」と位置付けたうえで、「（過去の）韓日交流の歴史に劣らぬほど、幅広く活発な協力の歴史を作っていくべきだ」と訴え、未来に向けた幅広い交流拡大の重要性を強調した。具体策としては日本の大衆文化の韓国進出の段階的開放などを挙げた。（演説要旨6面）

98.10.9. 読売

韓国政界「宣言」を歓迎

「新局面」「新次元」に注目

【ソウル8日＝伊藤彰浩】韓国の与野党、マスコミは、日韓首脳が八日、署名した共同宣言に関し、これが「過去の歴史」を抜けだし、日韓の新時代を開くものだとしておおむね肯定的な評価を示している。

韓国内政党は、まず与党・国民会議スポークスマンが共同宣言に関し、「過去の歴史を文書化し、整理する意味がある」と位置づけ、前向きな評価を表明。同スポークスマンはさらに、今回の「日本の謝罪と反省」を「きっかけ」に「韓日両国は二十一世紀の地平を開いていかなければならない」とし、宣言が「二十一世紀の両国関係の〝青写真〟になることは疑いがない」との考えを明らかにした。

また、野党ハンナラ党スポークスマンも「共同宣言が未来志向的な韓日の友好協力関係構築の礎石になることを期待する」と述べ、宣言をいちおう歓迎する立場を示した。ただ、同スポークスマンは、宣言が従軍慰安婦問題や竹島領有権問題などを「未解決のまま残した」ことに関しては、遺憾の意を表明した。

言論界も成果を評価

一方、マスコミは、九日付（早版）の全国紙八紙全紙が共同宣言に関する社説を掲載するなど高い関心をみせた。

各紙の題目は「韓日は過去をぬけだすべき」（韓国日報）、「韓日関係の新局面」（東亜日報）、「新次元の韓日関係」（中央日報）など、宣言の未来志向的な側面に光を当てたものが目立ち、言論界が首脳会談の成果を積極的に評価していることを示した。

8日の日韓首脳会談を一面トップでいっせいに報じた韓国の全国紙（9日付早版）

輸銀30億ドル融資 覚書に韓国調印

日本輸出入銀行と韓国政府は八日、同行からの三十億ドル相当の対韓融資の覚書に調印した。

この融資は同日午前、小渕首相が金大中・韓国大統領との首脳会談で表明したもの。融資の詳細は決まっていないが、①中小企業の設備投資や、電力、ガスなどエネルギー分野への設備投資を対象としたアンタイドローン（資機材の調達先を限定しない融資）②民間企業の対韓投資支援融資――などに適用される見込みだ。

「日本、主導的役割を」

アジア経済再建 韓国大統領、財界に要請

韓国の金大中・大統領は八日昼、都内のホテルで開かれた経団連など経済団体共催の歓迎昼食会であいさつし、「今は、日本がアジア経済の再建に主導的役割を果たすべき時点だ。アジア経済が再起するためには、日本の市場開放と内需拡大、それにアジア各国への技術移転と資本協力が極めて重要である」と述べ、アジア諸国が経済危機から脱出するために日本が中心的な役割を果たすべきだと強調した。また、「両国の自動車、半導体、鉄鋼、造船などのメーカーは競争関係にある製品の価格競争をやめ、技術提携、共同開発の戦略的協力関係を模索する段階だ」と述べた。

これに対し、経済同友会の牛尾治朗代表幹事が経済界を代表してあいさつし、「われわれ経済界としても積極的に（経済協力に）参加していきたい」と表明した。

98.10.9. 読売

社説

「過去」を乗り越えた協力関係を

今度こそ日韓両国に真の未来志向の協力関係が生まれるかもしれない、という期待を強く抱かせる日韓首脳会談だった。

二十一世紀に向けて、内外の情勢が今日ほど緊密な協力関係の構築を日韓両国に迫っている時はない。

東西冷戦終了後、急速な世界のボーダーレス化、日米中ロを軸としたアジア新秩序作りへの活発な動きが進んでいる。その一方、アジア経済危機に見舞われる中で、日韓両国とも経済的な苦境にある。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による中距離ミサイル開発が北東アジア地域の平和と安全に対する重大な脅威となっている。

長い歴史を分かち合う、一衣帯水の隣国である双方の協力なしに、両国ともこうした課題に対処することはできない。

しかし、日韓両国首脳の公式訪問による過去七回の首脳会談は、その都度、「日韓新時代」「未来志向の日韓協力関係」をうたいあげながら、お題目の繰り返しに終わってきた。

朝鮮半島に対する日本の植民地支配に関する認識をめぐって、日韓双方のわだかまりが解けなかったためだ。

会談で、小渕首相は韓国国民に対し、「痛切な反省と心からのお詫び」をし、金大中大統領は、「韓国政府として、再び過去の歴史の問題を出さない」と明言した。

両首脳の歴史認識をめぐる発言が政府間の公式文書に初めて明記されたのは、過去の歴史の問題に終止符を打つ決意の表れということだろう。今後、政府レベルで過去の歴史をめぐる問題が両国の協力関係の障害になることはないと期待したい。

とはいえ、国民感情として、過去の歴史が簡単にぬぐいされるものではない。共同宣言が単なるお題目に終わらないよう、両国国民が過去の歴史についての認識を共有するための努力が求められる。

半島情勢を考えた場合、日韓両国にとって安全保障面での協力の重要性は言うまでもない。

北朝鮮のミサイル開発をめぐって、日本が朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）の資金拠出を留保しているのに対し、米韓両国が早期拠出を求めるなど、日米韓三国間に微妙な温度差があるのは事実だ。

列島を越えてミサイルが発射されたことが日本にとって重大な脅威であるとの認識に、大統領も理解を示すとともに、日米韓三国が共同で半島情勢に対処することを再確認した。北朝鮮にスキを見せないという点でも重要なポイントだ。

経済面での対韓協力は、アジアの経済危機克服に果たす日本の役割という点でも当然だ。韓国の経済再生は半島情勢の安定にも不可欠だろう。

共同宣言を具体化するための行動計画には、政府レベルだけでなく、二〇〇二年のワールドカップ共同開催を中心としたスポーツ交流をはじめ、文化、青少年、学術など様々なレベルの交流が盛り込まれた。

これらを着実かつ早急に実行に移し、日韓協力関係を草の根から揺るぎないものにしなければならない。

98.10.9. 読売

韓国大統領国会演説（要旨）

金大中・韓国大統領が八日、参議本会議場で行った国会演説の要旨は次の通り。（本文約七千字）

二十五年前の悪夢が蘇る。

（略）

二十五年前の悪夢が蘇る。

（略）

二十五年前の悪夢が蘇る。

（略

98.10.9. 読売

新時代構築へ努力不可欠

日韓首脳会談

韓国の金大中大統領は八日の小渕首相との首脳会談で、日本側の植民地支配に対する謝罪を評価したうえで、今後、韓国政府が歴史認識で譲歩を持ち出さないようにするとの意向を表明した。日韓関係は、過去の問題で決着をつけ、新しい局面に入った。だが、この転機が両国関係の持続的な安定につながるかどうかは、日本側が歴史認識問題でどう対応するか、政治、経済、安全保障、文化など多方面にわたる協力を軌道に乗せられるかにかかっている。（東京で、ソウル支局・森千尋、本文記事一面）

歴史認識

摩擦回避、宿題に

韓国 日本の"順守"を注視

首相夫妻主催の夕食会で乾杯する金大中大統領（左）と小渕首相（8日午後7時24分、首相官邸で＝代表撮影）

韓国側は歴史問題に対し、首脳会談での金大統領の発言で、歴史への認識を改める努力を日本側に期待するとの意向を明記した共同宣言の成立を受け、歴史問題に関する問題発言で、政府間に摩擦を起こさないよう自制し、両国関係を安定化する発言をした場合は、今後も韓国政府は非難するというのが関係者の間の一致した見方だ。小渕首相が共同記者会見で、「責任ある立場」の閣僚は、共同宣言を尊重すると述べただけに、もし問題発言があれば、共同宣言の成果は色あせかねない。

日本外務省幹部は八日、「少なくとも政府とは言えない役職につく人からは軽率な発言を出さないようにしなければならない」と述べた。

大統領の発言を通じて浮かび上がるのは、日本大衆文化の開放を突破口に、天皇陛下の訪韓、二〇〇三年のサッカー・ワールドカップ（W杯）の共催と、前例のない日本との協力関係をこなすことで、二〇〇三年の大統領任期末までに、日韓関係を普遍の隣国同士の友好関係までに引き上げるという意取り図だ。

金大統領は、訪日準備にあたって、「過去を反省する勇気が必要だと思いたい。どんな表現がいいかと相談した。」

韓国政府関係者によると、こうして謝罪談話を練り上げる中で、大統領は日本に「ドイツなみの謝罪」を求めることは、むしろ反発を招くと理解し、村山富市首相と面談、大統領は日本に対して、歴史認識をめぐる日本国内の状況について聞いた。九月十九日に旧知の仲の田英夫参院議員と面談した際は、「国会議員で、日本は過去を反省する勇気が必要だと思いたい。どんな表現がいいかと相談した。」

韓国政府関係者によると、こうして謝罪談話を練り上げる中で、大統領は日本に「ドイツなみの謝罪」を求めることは、むしろ反発を招くと理解し、村山富市首相と面談、大統領は日本に対して、歴史認識をめぐる日本国内の状況について聞いた。九月十九日に旧知の仲の田英夫参院議員と面談した際は、「国会議員で、日本は過去を反省する勇気が必要だと思いたい。どんな表現がいいかと相談した。」

韓国政府関係者によると、こうして謝罪談話を練り上げる中で、大統領は日本に「ドイツなみの謝罪」を求めることは、むしろ反発を招くと理解し、村山富市首相と面談、大統領は日本に対して、歴史認識をめぐる日本国内の状況について聞いた。九月十九日に旧知の仲

行動計画

未来志向を肉付け

日韓両国が八日にまとめた二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップのための行動計画には、未来志向の関係を築くための具体策として、「両国合同投資促進協議会」の新設や内分泌かく乱化学物質（いわゆる環境ホルモンについての共同研究）など、これまでにない協力の枠組みが盛り込まれた。両国の関係省庁は今後、計画の具体化に向けた国内調整を進め、両国の協力関係の早期肉付けを図る方針だ。

行動計画のとりまとめは、①これまでも繰り返されてきた「未来志向」のスローガンを具体的に肉付けする過去の歴史問題などマイナス面に蓋をせずにありがちだった両国関係がようやくにあることを強調する―などの狙いを込め、日本側から提案した。

行動計画に盛り込まれた項目には、既存の枠組みの発展化や拡充、新規の事業が混在しており、実現時期にもばらつきが見られる。

青少年交流の一環として盛り込まれた、アルバイトしながらの韓国語研修を通じて、実務者の間の協力関係を強めるワーキングホリデーについては、八日に協定が署名され、来年四月からの実施が決まった。一方、韓国の留学生を日本の大学に受け入れる新規は、二〇〇〇年四月からの実施を目指しているが、学費の負担や受け入れ留学生の選定、奨学金の運用などは未定で、具体化のためには、今後一年間かけて両国でさらに調整する必要がある。

経済分野の協力では、経済関係の閣僚懇談会を十一月までに日本で開催する方向だ。また、新設が決まった官民合同投資促進協議会は第一回会合が十一月にソウルで開かれることになっており、両国政府間でメンバーについての協議を急ぐ。

首脳会談の年一回以上の実施も、次の首脳会談は、今のところ未定（外務省筋）で、実務者の協議の継続が必要となる課題は少なくない。（政治部・高木雅信）

夕食会場に首相の座右の銘―

「歴史家人」を意気投合

小渕首相は八日夜、首相官邸で金大中・韓国大統領夫妻を歓迎する夕食会を開いた。首相は外相時代に訪韓し、首相就任後初めて迎える国賓をもてなした。

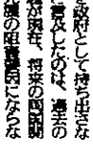
首相は、外相時代に訪韓した際に金大統領から贈られ、座右の銘としている「敬天愛人」の書をわざわざ会場に飾り、「この書の日韓関係における意味は、互いに隣人として愛し合い、天を敬って二十一世紀に向けて歩む」と挨拶した。

「『敬天愛人』は私が好んで使う。国民一人一人の心が互いに通じ合っていることを大変うれしく思った」と答え、意の合ったところを見せた。

さらに首相は、あいさつで、「『日本の校長先生』のような人物と言われたが、厳しい」と語り、「『敬天愛人』も税法上の問題にしていると聞き、二人の心が互いに通じ合っていることを大変うれしく思った」と答え、意の合ったところを見せた。

さらに首相は、あいさつで、「『日本の校長先生』のような人物と言われたが、厳しい」と語り、「『敬天愛人』も税法上の問題にしていると聞き、二人の心が互いに通

首脳間の合意に重み



伊豆見 元
静岡県立大教授

今回の共同宣言と行動計画の発表は、日韓両国の歴史に新しい一ページを開いたという点で大変意味がある。しかし、「ページ」、三ページ目をめくることが重要で、共同宣言で作った枠組みを実行するための日韓両国の努力が要求される。

過去の問題は文書化され、政府間関係で蒸し返されることで一応の決着がついた。しかし、これは「過去」が清算されたのだから、政府間で結ばれたのだから、政府間で結ばれたのだから、政府間で結ばれ

98.10.9 朝日

国家超え、市民が連携を

ソウル支局長 小菅 幸一

金大中大統領来日の意味は、数奇な運命をたどった、日本で最もよく知られた隣国の政治家が来た、というだけにとどまらない。

「日本という国のありようを肌で知り、日本語にも通じた、たぶん最後の大統領であろう」と、大統領の政策ブレーンのひとり池明観・翰林大教授はみる。

金大中氏は、民主主義や人権、アジアや世界について、どうあるべきかの哲学を堪能する。歴代の韓国大統領の比ではない。東アジアの安定した新しい秩序ができないことには、朝鮮半島の問題も解決しない。「そのきっかけをつくり、アジアのなかで立派な仕事をしたいという野心」（池教授）がある。

「政権の正統性」に対する強い自信が加わり、対日政策に限っても、世論の動向をそう気にするふうでもなく、こちらがハラハラするほど矢継ぎ早に打ち出した。日本の大衆文化開放し「領」を生かさない手はない。

小渕恵三首相は八日の首脳会談などで、区切りをつけるための心情を吐露した。すでに戦後五十年の「村山首相談話」が路線を用意していた。大統領はそれだろう。

「（この歴史認識を）多くの日本国民が共有していると信じている」（小渕首相）。「両国の指導者と国民が誠意を持って努力しなければならない」（金大統領）。両首脳の発言は、日本側の表明を「真摯に受けとめて評価」した。韓国元首が首相の歴史認識を、公式文書と会見で認めた意義は大きい。入念な準備と計算があったとはいえ、大統領の抑制された発言は、日本側に好感を持って受け入れられた。

「六五年体制から、二〇〇二年体制へ転換させよう」。いま、韓国の識者らの間でよくこう言われる。

日韓は一九六五年に国交を正常化させた。両国内に強い反対がありながら、厳しい冷戦下、米国などの要請で急いだ結果でもある。それは、日本の自民党長期政権と韓国の軍事独裁政権の癒着を呼び、市民の声を反映しない関係だった。

しかし、冷戦は終わった。韓国で民主化が急激に進み、そして日韓ともに市民社会が成熟しつつある。政権同士の癒着も見えない。現実の変化に「六五年体制」はもう合わなくなっているのだ。

「新しい体にふさわしい新しい服装が必要だ。それが市民社会のネットワークづくりであり、まさしく『二〇〇二年体制』ではないか」と、慶北大の金泳鎬教授は強調する。二〇〇二年サッカー・ワールドカップ（W杯）の日韓共催は、両国が共同の目標を持って世界的な行事にともに取り組む初めての例である。成功させるには、市民同士の交流と協力が欠かせない。それが日韓関係の新たな、次元の高い発展をも導く。

高校生が修学旅行で韓国に触れたり、非政府組織（NGO）の交流が多くなったり、若い人たちの相互訪問が増えたりと、民間の行き来が活発になっていることに注目したい。国家の枠を超える市民の連携に期待したい。それはまた、歴史を互いに理解して未来を考える機会にもなる。

「村山談話」役割果たす

自社さの「遺産」新関係の基礎に

植民地支配への反省と謝罪を表明した首相の見解は、村山富市首相時代の「戦後五十年に当たっての首相談話」を、ほぼそのまま引き写した内容で、拘束力の強い閣議決定だったことから公式文書にも入れやすくなった。三年前の村山首相談話が、今回の首脳会談で新たな関係構築を打ち出すうえで大きな役割を果たしたのは間違いない。

村山政権は五十回目の終戦記念日にあたって「植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジアの諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えた」などという見解をまとめた。自民、社会、さきがけの連立政権だったことが、自民党内などからの反発を抑え込むことを可能にした。韓国やインドネシアなどは、この村山談話を発表当時から高く評価。金大統領も今回の訪日にあたり、村山談話を評価したうえで「首相が国民を代表する形で、韓国国民に謝ってもらいたい」と述べ、それ以上の踏み込んだ表現は求めなかったという。

大統領の演説を聞いた村山元首相は「談話はアジア全体を対象にしたものだったが、日韓関係のうえでも非常に意味があった」と感慨深げ。さらに「過去をまともに見据えることが大事だ。新しい日韓の時代が開かれる道筋は立ったが、国民同士の理解はこれから。本当の意味で理解しあうことが重要だ」と述べた。

98.10.9. 朝日

当事者の闘い
「今後も続く」

元慰安婦らが会見

日韓共同宣言と金大中大統領の国会演説を受け、来日中の韓国、フィリピン、台湾の元慰安婦や支援者が八日夕、参院議員会館で記者会見した。韓国の元慰安婦、李容珠さん(七〇)は金大統領が一貫して慰安婦問題に触れなかったことについて「大統領は取引で慰安婦問題を引っ込めたのではない。自らは言わないつもりだったのだ。日本は美辞麗句を並べるのではなく、謝罪した限りは賠償すべきだ。当事者の私たちは闘い続ける」と語った。

同席した韓国挺身隊問題対策協議会の金信実福祉委員長も「慰安婦問題に一言の言及もなかったことはまことに遺憾」との立場を表明しながらも、「人権についてだれよりも認識している大統領が人権と経済援助を取引するはずはない」と強調。在日の元慰安婦、宋神道さん(七七)は「金大統領が何を言おうと、ばかな戦争を始めて日本人も朝鮮人もひどい目にあわせたのは日本なのだから、日本が責任を取るべきだ」と話した。

98.10.9. 東京

元従軍慰安婦

『過去に終止符』の陰で…『償い金』解決先送り

東京 10/9

八日の日韓首脳会談で、日韓両国間の「過去」に終止符が打たれたとされる中で、韓国人の元従軍慰安婦に対する日本の「女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）」からの「償い金」支給問題は、宙に浮いたまま解決を今後に持ち越した。

同基金は民間からの寄付金をもとに、一部の韓国人を含めて償い金の支給を始めたが、現在は韓国人について支給を停止している。

この問題が暗礁に乗り上げたきっかけは、今年五月に韓国政府が元従軍慰安婦に行った「支援金」の支給。韓国政府はこれに先立って、アジア女性基金から償い金を受け取った元従軍慰安婦については、支援金支給を見合わせている。

日本側の説明によれば、八日の首脳会談、外相会談では、双方ともこの問題を取り上げなかった。あえて難問を持ち出すことで、友好ムードを壊したくないとの気持ちが双方に働いたためとの見方が強い。

金大中大統領は訪日に先立って行った日本の月刊誌「世界」との会見で、「慰安婦問題は日本の政府の責任であって、日本の国民の責任ではない。国民からお金をもらう筋合いはない」と、民間の寄付金を原資とするアジア女性基金からの償い金は受け取れないとの見解を明らかにしている。

日本外務省筋はこの問題についてお手上げ状態であることを認めており、今後も日韓間の"トゲ"として尾を引く見通しだ。

98.10.9. 東京

『戦前』に謙虚な反省を
『戦後』はアジアに希望

尊敬する斎藤十朗参議院議長閣下、伊藤宗一郎衆議院議長閣下、並びに衆参両院の議員諸賢。

本日、日本の民主主義の本山であり、由緒深い歴史の現場である、この国会議事堂の壇上に立つことができましたのを、この上ない光栄に存じます。

二十五年前の東京拉致（らち）事件と、一九八〇年の死刑宣告をはじめとする民主化闘争の過程で、生命を失いかけた私が、今、大韓民国の大統領としてこの席に臨んでみますと、感慨無量な心情を禁じえません。

私は、私の生命と安全を守ってくださるため、長い期間にわたって努力を惜しまれなかった日本国民と議員諸賢、そして日本政府のご厚意を、決して忘れることができません。

本日このように、日本国民を代表される議員諸賢に、感謝の意を表する機会を得まして、私は長年の宿願をかなえたようで、この上ない喜びに浸っております。

日本は、明治維新で独自的な近代化に成功し、西欧の文物を受容して大きな発展を遂げました。しかしながら、当時の日本は帝国主義と戦争の道を選択することにより、日本国民はもとより、韓国を含むアジア諸国の国民に、大きな犠牲と苦痛を与えました。

しかし、第二次世界大戦後、日本は変わりました。日本国民は汗と涙を流して、奇跡は、奇跡的に訪れるものではありません。

韓国の民主化、特に韓国憲政史上初の平和的政権交代は、韓国国民の血と汗によって実現した奇跡であります。わが国民と私は、このようにして手に入れた尊い民主主義を、揺るぎなく守り抜くはずであります。

尊敬する衆議院議長、並びに議員諸賢。

日本は国土壊滅の近代史を経て、今や世界の中心国家として、毅然（きぜん）たる位置を占めています。

日本は、明治維新で独自的な近代化に成功し、西欧の文物を受容して大きな発展を遂げました。しかしながら、当時の日本は帝国主義と戦争の道を選択することにより、日本国民はもとより、韓国を含むアジア諸国の国民に、大きな犠牲と苦痛を与えました。

しかし、第二次世界大戦後、日本は変わりました。日本国民は汗と涙を流して（さげて）、韓国民主主義の発展と共に、世界が驚く経済成長を遂げました。そしてついに世界第二位の経済大国となった日本は、アジア各国の国民に、無限の可能性と希望の源泉を示したのであります。

今の日本は、発展途上国に対する世界最大の経済援助国として、自国の経済力にふさわしい国際的役割を、忠実に履行しています。また、人類史上初めて原爆の被害を体験した日本国民は、常に平和憲法を守り、非核平和主義の原則を固守してこられました。

かくのごとく、戦前の日本と戦後の日本は実に鮮明な対照をなしています。私は、戦後の日本の国民と指導者たちが注いだ、血のにじむような努力に深い敬意を表するものであります。

しかしながら、わが韓国を含むアジア各国には、今も日本に対する疑懐（ぎかい）と憂慮を捨て切れない人々が大勢います。その理由は、日本が自ら過去を正しく認識し、謙虚に反省する決断が足りないと考えているからであります。

十七万人の日本国民が韓国を訪れ、百十二万人の韓国人が日本を訪れました。また、われわれ両国は、安保上の利害も共有しています。

以上のように、両国間を行き来した膨大な人的、物的交流は、だれも止めることができず、逆らうこともできない、滔々（とうとう）たる時代の流れであり、これからも続いていくべき、両国の絶つに絶たれない因縁なのであります。

今、韓日両国は過去を直視しながら、未来志向的な関係を築いていくべき時を迎えました。過去を直視するということは、歴史的事実をありのままに直視することであり、未来を志向するということは、疎隔した歴史から教訓を得て、よりよい明日を構築するという意味であります。

日本には、過去を直視し歴史を忘れる、真の勇気が必要であり、韓国は、日本の変化した姿を正しく評価しながら、未来の可能性に対する希望を見いだす必要があります。

尊敬する議員諸賢。

私は考えます、小渕総理大臣との首脳会談を通して、「二十一世紀の新しい韓日パートナーシップ」宣言を共同発表しました。

日本は、この共同宣言を通じて過去に対する深い反省とおわびを表明し、私は、それを両国民間の和解と、今後の親隣友好を指向する日本政府と国民の心の表現として、真摯（しんし）に受け止めました。私は、この宣言が韓日両国政府間の過去史認識問題に一段落をつけ、平和と繁栄を目指す共同の未来を開拓するための礎となるものと、確信する次第であります。

私はまず、新時代の韓日友好関係をさらに増進させるため、日本の大衆文化の韓国進出を段階的に開放するつもりであります。

文化は相互交流を通じて発展するというのが、私の所信であり、国交正常化後三十年余を経過し二十一世紀を目前に控えた時点で、日本の大衆文化開放の第一歩を踏み出すのは、未来志向的な韓日関係のために、その象徴的意味がはなはだ大きいと考えております。

さらに、青少年交流を含むすべての分野において、両国国民間の交流を活発に進めるのは、真に必要なことであると思います。

われわれ両国間では、既に学者たちの歴史に関する共同研究をはじめ、芸術家と市民団体、それに地方自治体間の交流が盛んに行われています。私は、人々が会えば、お互いを理解するようになり、また、理解すればお互いに信じ、協力するようになるものと、固く信じております。

二〇〇二年のワールドカップ大会は、両国国民間の団結した力と友好を世界に誇示できる、絶好のチャンスであります。お互いに心と力を合わせて大会を成功的に開催すれば、二十一世紀のわれわれ西国国民間の友好と親善は、さらに強固なものとなることでしょう。私はこの大会が、一億七千万人の韓日両国国民皆が協力し合う、友情の祭典となるよう、心より期待するものであります。

私はまた、七十万在日韓国人の未来を考えないわけにはまいりません。彼らが今後、日本社会により多く貢献できる立派な構成員となりうるよう、制度的条件と社会的雰囲気がさらに改善されることを、心より願ってやみません。

特に、地方参政権の実現が早期に実現できれば、在日韓国人だけでなく、韓国国民も大いに喜び、世界もまた、日本のそのような開かれた政策を、積極的に歓迎してやまないでしょう。

98.10.9. 東京
(3面)

中国も『おわび』を希望

江主席訪日時、共同文書で

【北京8日迫田勝敏】中国外務省の朱邦造・報道局長は八日の会見で、日韓共同宣言で小渕恵三首相が過去の歴史についておわびを表明したことに関連して「日本軍国主義が侵略戦争の期間、中国を含むアジア諸国に対して多くの戦争犯罪を犯したことは否定できない歴史事実だ」とし、「日本が歴史の事実を正視し、誠心誠意、深い反省をし、おわびすることを希望する」と述べ、中国に対しても同様の表明を求めていることを示唆した。

日中間では年内に予定される江沢民・国家主席の訪日に合わせて、日中共同声明、日中平和友好条約に次ぐ二十一世紀の日中関係を想定する第三の共同文書づくりが進んでいる。この中でも歴史問題が一つの焦点となっているだけに、中国も今回の日韓共同宣言で日本がどんな形でおわびを表明するか注目していた。

一方、同日の中国青年報は「金大中訪日は歴史の清算」と題する評論を掲げ、共同宣言は九五年八月の村山談話を踏襲したもので何の新味もないが「その意義は日本政府が初めて共同宣言という文書の形式で明確に韓国国民に謝罪の意を表明したことにある」と指摘。同時に「日本の政治家が本当に痛切な反省と心からのおわびができるかどうかが極めて重要である」と今後、宣言を順守する必要を強調した。

『過去清算』具体化を

韓国マスコミ

【ソウル8日武田安弘】韓国の金大中大統領が八日、小渕恵三首相との首脳会談、共同宣言、国会演説など訪日主要日程を終えたが、韓国マスコミは「新たな次元に達した韓日関係」（中央日報）などと前向きに評価する一方で、植民地支配の日本教科書への掲載など「過去清算」の具体化も要求している。

九日付の韓国紙早版は、いずれも一面トップで日韓首脳の握手写真を載せ、数ページにわたって金大統領の訪日を特集。社説で総括した。「朝鮮日報」は、共同宣言、行動計画を文書化し、さらに環境、麻薬、国際平和など世界的な課題まで協力の対象を拡大した点を指摘。日韓関係が「これまでとは違う方向に向かった」としている。「中央日報」も「韓日関係はこれまでになく望ましい成熟した段階に発展できる」と見通した。

しかし、共同宣言などに元従軍慰安婦問題などが盛り込まれなかった点について「加害事実についての具体的言及がなかったのは惜しい」（東亜日報）などと批判。「われわれの関心は、このような宣言や行動計画を、どれだけ具体的に実践するかということだ」（朝鮮日報）と、実行を迫っている。

「おわび」は「謝罪」に

共同宣言の韓国語訳

八日発表された日韓共同宣言の中で、小渕恵三首相が過去の植民地支配について「心からのおわびを述べた」ことについて、韓国側の文書は「おわび」を「謝罪」と表現した。

韓国政府筋によると、日本語の「おわび」を韓国語のサジェ（謝罪）かサケァ（謝過）に訳すかで意見調整に手間取ったが、植民地支配は「誤まり」よりさらに意味が重い「罪」だったという韓国の主張が通り、「謝罪」と翻訳された。

一方、金大統領は国会演説で両国の歴史問題に区切りをつけたことを強調したが、韓国側が配布した日本語訳の演説文には「区切り」は「一段落」と表記されている。「一段落」は「区切り」に比べて「決着」というニュアンスが弱いという指摘もあり、翻訳に何らかの意図があるのか、憶測を呼んでいる。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）のミサイル発射問題について、八日午前に発表された「日韓共同宣言」は「先般のミサイル発射」という表記になった。ところが同日午後の金大統領の国会演説は「人工衛星発射実験」とし、「中長距離ミサイルを開発する能力があることを誇示」と分析した。

共同宣言も国会演説も、ミサイル開発能力が、北東アジア全体の平和と安定を脅かすことでは一致しているものの、日韓両国のミサイル問題での分析・対応の違いが表現の違いにつながった格好だ。

「人工衛星」に

金大統領の国会演説

98.10.9. 東京

社説

『未来志向』の跳躍台はできた

【日韓関係】

二十一世紀に向かう日韓関係の青写真が描かれた。問題は実行である。アジアの安定と発展に役立つ未来志向の関係を築くには、粘り強い努力が不可欠だ。

「日韓関係に歴史的な新しい一ページを開くことができた」

首脳会談を終えて、記者会見した金大中大統領と小渕恵三首相は、会談の成果について同じ表現をした。

会談内容は「日韓共同宣言―二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」にまとめられ、政治、安全保障、経済、文化などに関する「行動計画」も発表された。

日韓国交正常化から既に三十三年が経過するが、過去に足を引っ張られて、ぎくしゃくした関係から抜け出せなかった。共同宣言は「過去の清算」に区切りをつけ、将来の友好協力関係の確立に力点が置かれた。

まさに日韓新時代が来るという期待が膨らむ。共同宣言は両国関係の歴史的分岐点だったと評価できるよう、双方の努力が必要だ。

今回の会談が成功した第一の要因は、両首脳の「率直さ」にある。小渕首相は植民地支配について「痛切な反省と心からのおわび」をし、韓国の民主化の達成に敬意を表した。

金大統領も会談や国会演説で、戦後の日本の国際的貢献を評価し、金融危機に対する日本側の支援に感謝の言葉を繰り返した。

過去を直視し、お互いを評価することでわだかまりが解け、両国関係の重要性や相互依存の強さを、真正面からとらえることができたのである。

会談が成功した第二の要因は、両首脳の危機意識である。冷戦後のアジアは混とんとしている。朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は、軍事独裁を強め、不安定要因であり続けている。経済・金融危機に対しては、抜本的な改革など早急な対応を迫られている。

いずれも、日韓両国の協力が必要であり、協力することでより有効な対処が可能になる課題である。

「民主主義と市場経済」という価値観を共有する両国が、二十一世紀に生き残り、安定した地域をつくるには、より一層の連携が不可欠だ。それが両国と国民の利益につながる。また、国際的な役割を果たす基礎になる。

今回の会談で、関係強化の意味づけと筋道はかされた。

共同宣言とともに発表された行動計画には、さまざまな協力作業や交流の具体策が盛り込まれている。金大統領は、会談などで日本の大衆文化の開放を約束し、天皇訪韓を招請した。

こうした目に見える形の関係強化、連携の積み重ねが、両国間の信頼を増し、「新時代」をつくる。

これまでもさまざまな連携強化策が打ち出されたが、多くはスローガンに終わり、あるいは歴史問題に足を取られて挫折し、不毛の対立、反発を生んだ。失敗を繰り返してはならない。両国の国益を損なうだけだ。

金大統領が呼び掛けた「隣るに足りる隣国関係の確立」への歩みは、いま始まった。

油断と無関心が招く国民病

【結核増える】

結核はいまなおわが国最大の感染症であり、過去の病気ではない。新規患者数が増える兆しを見せ始めたことに対して、国民全体が警戒心を新たにすることが必要だ。

結核はかつて「国民病」と呼ばれ、死に至る病として恐れられてきた。

それが、一九四四年のストレプトマイシンの開発以来、次々と抗結核薬が開発され、今ではほとんどの結核を外科療法ではなく、これらの抗結核薬による化学療法で治すことができるようになった。

これにより、わが国の患者数は五〇年代以降、急速に減り始めたが、八〇年代に入って減少率が鈍り始めた。

厚生省によると、九七年の新規患者は四万二千七百十五人と前年より二百四十三人増え、人口十万人当たりの年間発生患者数である罹患（りかん）率も三三・九と〇・二増えた。新規患者数が増加に転じたのは三十八年ぶり、罹患率は四十三年ぶりである。

由々しき事態であり、早急に対策を立て直さなければならない。何よりも結核に対する警戒心を呼び起こすことが必要である。

その場合、新規患者が以前と違い、高齢者と若年者に二極化している点に注意しなければならない。

結核が「国民病」の時代には、ほとんどの人が知らないうちに結核菌に自然感染し、免疫ができて、発病せずに過ごしてきた。今の高齢発症者の多くは、加齢により免疫力が低下し、それまで潜んでいた結核菌が活動を再開した結果である。

一方の若年発症者は、ほとんど免疫がなく、発症した高齢者などの近くにいて感染したとみられる。

最近、老人ホームや病院、学校などで集団感染が多発している背景には、こうした事情がある。

高齢化が進むにつれ、今後、高齢者の発症がさらに増えることが予想される。高齢化対策の中で、結核の発症予防には従来以上に力を入れなければならない。

厚生省の公衆衛生審議会の結核予防部会は、病気がちの高齢者への抗結核薬の予防投与や、病院内感染の防止、全国レベルでの結核情報の交換などの緊急対策を提言しているが、これらを速やかに実行してもらいたい。

結核への警戒心の薄れは一般国民だけではなく、医療従事者の間でも見られ、エックス線写真の読影技術や結核菌の検査技術などの低下が以前から指摘されている。医療従事者自身の集団感染さえ起きている。

医療従事者は、結核の予防意識を率先して高めるとともに、最新の診断技術を修得し、早期発見に努めてもらいたい。医学部の教育の中でも軽視してはならない。他の病原体と同様に、結核についても薬が効かない耐性菌が増えている中で、なおさらである。

在日外国人の罹患率は日本人の二―五倍ともいわれる。今のところ、こうした患者は新規患者の一％程度だが、国際化が進む中で、さらに増えるとみられる。今からこうした人たちへの対策にも取り組む必要がある。

98.10.9. 韓（3面）

「過去に区切り」課題実践へ

転機迎えた日韓関係

国民レベルの交流拡大

八日の日韓首脳会談は、小渕恵三首相が過去の日本の朝鮮半島植民地支配に対し、韓国国民に対象を絞って「反省とおわび」を表明したことを日韓共同宣言に明記。両国は歴史認識問題に区切りをつけ、日韓関係は転換点を迎えた。しかし、両国が真に新時代を迎えることができるかどうかは、これからの両国民間の理解と協調の増進にかかっている。首脳会談の成果と今後の課題を日韓双方の立場から探ってみた。

日本

共同宣言に署名する小渕恵三首相（右）と金大中・韓国大統領＝8日、東京・迎賓館で（代表撮影）

全大中大統領は、八日の首脳会談終了後の小渕恵三首相との共同記者会見で、過去の歴史認識問題について「今後、日本側で韓国国民の感情を生むような発言が行われないことを希望する」と、日本側に注文をつけたうえで「蒸返しは今後問題を提起しない。私が責任を持つ」と言い切った。力強い発言で、極めて新鮮に映った。

大統領は日本の植民地支配時代、創氏改名を強いられ、「金田」と名乗っていた。植民地支配を体験している大統領だけに、その発言には重みがある。共同宣言で「両国間の友好協力関係をより高い次元に発展させる」ことを申し合わせた小渕首相の責務は大きい。

日本側からみた場合、金大統領訪日後に残された課題は三つある。第一は政府間の「過去の清算」を両国国民間に広げ、日韓新時代のすそ野を広げ、厚みを増すことだ。

それには二〇〇二年に行われるサッカー・ワールドカップ（W杯）が、格好の機会になりそうだ。W杯を単にスポーツの国際大会とせず、これにちなんだ人的交流、文化交流を積み重ね、両国国民レベルの相互理解をさらに深める機会としたいものだ。

日本側の文化外交担当者にとられば、これまでのどころ韓国側は「文化行事の開放問題」には、必ずしも積極的でないという。大統領の訪日を機会に、韓国側の協調と協力を望みたいところだ。

第二の課題は、大統領の訪日で現実のものとなった天皇陛下の訪韓準備だ。天皇訪韓が実現すれば、日韓関係史上初めてとなり、名実ともに日韓新時代の到来となる。天皇訪韓実現には韓国世論の成熟が必要だが、それ、よりも重要な条件は日本の国内世論の形成だ。

日本国内では、天皇訪韓は時期尚早との意見もなお根強い。失敗すれば日韓関係を根本から損なうだけに、日本政府としても慎重には踏み切れないだろう。だが、何時に天皇訪韓はいつかは実現しなければならない。「知日派」の金大統領の在任中（二〇〇三年二月まで）にぜひ実現するためにも、日本政府は「環境整備」（小渕首相）に早急に着手すべきだ。

第三の課題は、在日韓国人の法的地位・待遇の改善。特に大統領が具体的に言及した地方参政権付与は、在日韓国人をめぐる歴史的経過を踏まえ、日本政府として真剣に検討すべきだ。首相は首脳会談で「検討」を約束したが、会談後、記者団には「いま取り上げる考えはない」と言っている。

韓国大統領と日本人記者団との、発言を使い分けるのはいただけない。日韓首脳会談のフォローアップには、誠心誠意の積み上げが必要だ。

（編集局長・奈佐忠彦）

韓国

全大中大統領は、首脳会談後の記者会見で「過去の歴史をめぐる日韓の不和から脱却できたか」と質問されると、歴史問題を初めて共同宣言にまとめた成果を強調し、過去史に区切りをつけたい考えをにじませた。

首脳会談や国会演説では歴代政権と同じように歴史問題の重要性を訴えたが、戦時中の韓国人労働者の徴用や元従軍慰安婦など、これまで言及されてきた問題を取り上げなかった。

大統領に同行した林東源・外交安保担当補佐官（植民地支配）は「二十世紀に起きたことは二十世紀に区切りをつけたい。これは韓国側から切り出したこと。共同宣言はこれからの両国関係のテキストにしたい」と説明した。

共同宣言は、過去よりも現実、さらには新しいパートナーシップを強調した。この背景には、韓国の深刻な経済危機がある。

韓国は、巨額の対外債務を抱え、国際通貨基金（IMF）のプログラムに従って改革を進めているが、失業者は百五十万人を超えた。日本が韓国の債務の繰り延べに応じたことは「苦しいときの友人が真の友人」（金大統領の国会演説）だったわけだ。

首脳会談で、日本側はさらに韓国へ総額三千億円の融資を行うことを伝えた。近く日韓両国で投資促進の協議も始まる。

韓国にとっては、歴史問題での日本批判のトーンを弱めて経済支援を引き出し、「なによりも実」を取る格好になった。

最大の懸案だった新潟産業協定が、事前に合意したことについても、韓国マスコミは「全体的な努力関係を築くために譲歩で歩歩した」と分析している。

日本の大衆文化の「段階的開放」も、日本の経済協力を引き出すカードの一つだったことは間違いない。

ただ韓国世論が「歴史の問題で前進した」と感じた場合、対日不信がいつか噴き出す可能性は残る。それを未然に防ぐ、大統領は、国民レベル、特に青少年の交流のほか、北東アジア全体の安全保障、環境問題などグローバルな協力体制も共同宣言に盛り込んだ。

確かに、二〇〇二年のサッカー・ワールドカップ（W杯）共催を契機に理解と交流が深まるう。だが、韓国経済の回復が遅れたり、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）への対応をめぐり日韓両国の姿勢の隔が大きくなったとき、「理想と現実を折衷する」老練な政治家である金大統領が過去の歴史問題を蒸った形で提起する可能性はある。

大統領は天皇陛下の韓国訪問を招請したが、それを実現するには、両国が今回の共同宣言を守り、実践していく努力が必要だ。

（大阪編集局長・山本真一）

経済危機で『名より実』

核心

98.10.9. 東京（3面）

日韓新時代 識者の見方

日韓両首脳は八日、新たな理解、協力の時代を構築し、経済危機の克服、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に対する政策での連携などを盛り込んだ共同宣言に署名した。今回の首脳会談の成果と今後の課題について、深川由起子・青山学院大助教授（韓国経済論）と韓国の孔魯明・東国大日本学研究所長（元駐日大使、元外相）に聞いた。

深川由起子・青山学院大学助教授

人的交流で多角的な関係に

今回ほど韓国側が日本側の話を冷静に聞いたことはなかった。経済協力についても、これまでの韓国なら「日本の協力は当然」といった姿勢だったが、今回は違った。金大中大統領は「今までの政権とは違う」という姿勢を示している。過去問題も〝トップダウン〟で清算した。今後は、今回の金大統領の訪日を機会に、現在の日韓関係を「歴史は歴史、経済は経済」とするクールで、合理的なものにしていけるかが問われることになる。

日本側は、これまでのように政治家が「植民地支配はいいこともあった」など暴言を繰り返すようなことをやめ、今の雰囲気を大切に保たなくてはならない。

一方、韓国側で言えば、政権交代が起こるたびに、前政権の実績が否定され、新政権が日本側に謝罪を求めてきた。今後も同じことを繰り返さないことが必要だ。

日韓合弁企業の多くが失敗に終わったように、経済協力の面でも過去の問題を持ち出し、ヒステリックな対応をすることはやめなければならないだろう。

その点で注目しているのが、日韓共同宣言で触れられた「人的交流」だ。これまでも「青少年の交流」が繰り返し強調されてきたが、今回は研究者や市民サークル、ジャーナリストなど幅広い交流の実施が盛り込まれた。環境問題の解決に対する協力も約束している。

日米関係も決して順調ではない。大げんかもする。しかし決定的な破局に至らないのは、両国が多角的に結びついているため、別れようにもコストが大きくて不可能なのだ。

日韓の間を人材が行き来し、マーケットがつながっていけば、ゆっくりではあっても日米のような関係になれるはずだし、国際化の中では、対立ではなく共存の道を選ぶしかない。

（外報部・五味洋治）

孔魯明・元韓国外相

謝罪と暴言、今回で終止符を

韓日両国は広範な協力の時代に入ろうとしている。過去の歴史は二十世紀のうちに区切りをつけ、二十一世紀を迎えたいという、両首脳の意欲が強く感じられた。

これまで韓国は過去の植民地支配の反省と謝罪を求め、日本政府が応じても、すぐに日本の閣僚や国会議員が反省を否定する発言をした。こういう謝罪と暴言の繰り返しは、今回で終止符を打つべきだ。

日本の政治家は共同宣言の重みを十分受け止めてもらいたい。韓国側は過去のことばかり持ち出さず、現実の韓日関係を見据えるバランス感覚を身につけないと。

金大中大統領が強調したのは、アジア経済における日本の役割だった。日本には構造改革の役割を望むが、韓国も国内の金融、企業、労使関係を果敢に改革していく。首脳会談が過去より未来に重点を置く姿勢をにじませたのは、両国に経済危機の克服という課題があったからだ。

懸案だった日本の大衆文化開放も、段階的に進む。両国はこれから環境や異常気象への対応、漁業資源保護など共通の改題に取り組むべきだ。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）問題は両首脳が一番苦心した部分だろう。朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）を維持し、日本が韓国の対北融和政策への支持を表明したが、北朝鮮はミサイル発射実験をするなど、対応は非常に難しい。これからも韓日両国は緊密に協議していくしかない。

韓日関係は政治家の不用意な発言や、マスコミの報道、国民レベルの誤解などさまざまな要素によって左右される。韓日間で問題が起きたとき、指導者が大衆におもねる政策をとれば、関係は一遍に壊れるなる。過去そういう例を何度か見てきた。両首脳とも共同宣言を実践し、理解と協力の時代を開くため、強い意志を持ち続けてほしい。

（大阪編集局行＝山本勇二）

産経新聞

対日外交、画期的に転換

金大統領「新たな協力関係」重視

金大中大統領訪日による日韓首脳会談が終わり、異例の「共同宣言」まで発表された。一見したところ今到来の「過去」からみの「反省と謝罪」問題に終始した印象だが、大統領としては当初から「謝罪を取る」ということよりも、日韓外交でいつもひっかかりになっている過去にケリを付け、日本との新しい協力関係を築くことに狙いがあった。

「過去」がひっかかっている限り日本側にヤル気は出ないし、韓国に対する日本の国民感情もよくならない。知日派の金大中大統領は日本でのいわゆる「嫌韓感情」が韓国側の過去へのこだわりに由来することもよく知っている。

韓国が「過去離れ」しない限り日本の対韓感情はよくならない。日本の協力が得られない限り、韓国は反省と謝罪問題は段落した。政府レベルで今後、過去に触れることはない」（大統領側近筋）となった。

したがって過去の植民地支配に対する「痛切な反省と心からのおわび」を文書にしたことで、日本は補償問題などで新たな負担を強いられないかという一部の懸念は、大統領のホンネが「過去離れ」にあるだけにあたらないだろう。

それにしても金大中大統領は今回、韓国の対日外交を画期的に転換させた。「過去」を水に日本を非難し、ただ、苛立、日本国民を不快にさせながら日本から支援や協力を引き出すといういわゆる「反日的外交」から脱皮し、日本に感謝し、日本を前向き持ち上げ、日本国民の気分をよくしてさらなる支援、協力を期待するというわけだ。

日本といえば、冬眠と非難、不満さえかつていればそれだけでナショナリスト（愛国者）に思られるような社会的風土の中で、大統領が率先して喜々と日本に感謝し日本を肯定的に評価した意味は大きい。

金泳三・元大統領も一九八〇年代初めに「日本に学ぶ」を言ったことはあるが、一九六五年の日韓国交正常化以降の日韓協力の意義を強調したのは金大中大統領が初めて。「協力拡大のためには非難指摘を忘れ」というのは平凡なことだが、対日外交として明らかに発想の転換がうかがえる。

それに「過去」を背景に日本の支援は当然だというような「恩着せがましい」的な態度が全くなかった。合同記者会見の席、金大中大統領は日本の経済支援に触れ、「日本も厳しい時なのにありがたい」と感謝し「日本の技術が実のあるものになるよう経済回復に努力したい」と述べている。

韓国側からこうした「感謝と励ましの努力」の表明を出すといういわゆる「反日的外交」から脱皮し、日本に感謝し、日本を前向き持ち上げ、日本国民の気分をよくしてさらなる支援、協力を期待するというわけだ。

日本といえば、冬眠と非難、不満さえかつていればそれだけでナショナリスト（愛国者）に思られるような社会的風土の中で、大統領が率先して喜々と日本に感謝し日本を肯定的に評価した意味は大きい。

金泳三・元大統領も一九八〇年代初めに「日本に学ぶ」を言ったことはあるが、一九六五年の日韓国交正常化以降の日韓協力の意義を強調したのは金大中大統領が初めて。「協力拡大のためには非難指摘を忘れ」というのは平凡なことだが、対日外交として明らかに発想の転換がうかがえる。

それに「過去」を背景に日本の支援は当然だというような「恩着せがましい」的な態度が全くなかった。合同記者会見の席、金大中大統領は日本の経済支援に触れ、「日本も厳しい時なのにありがたい」と感謝し「日本の技術が実のあるものになるよう経済回復に努力したい」と述べている。

韓国側からこうした「感謝と励ましの努力」の表明を出すといういわゆる「反日的外交」から脱皮し、日本に感謝し、日本を前向き持ち上げ、日本国民の気分をよくしてさらなる支援、協力を期待するというわけだ。

今回の韓国側の対日姿勢の大転換は、金大中・知日派大統領の指導力とともに、IMF（国際通貨基金）管理体制下の「国難」克服には思い切った政策転換が必要という、状況に迫られた結果と見ることもできる。マスコミをはじめ世論も各分野にこだわってはおれないという実利追求の姿勢が強い。

金大中政権は現在、政権運営とその指導力を強く発揮できる、国内状況も官民挙げての「国難キャンペーン」で国論は比較的統一している。

こうした好条件を背景に対日外交の転換を図ったわけだが、今後、政権が不安定になるなど条件が変化した場合、揺り戻しもありうる。その意味でも両国は「共同宣言」「行動計画」の着実な実行で「過去離れ」を図る必要がある。

ソウル支局長　岡田勝弘

「両国関係の転機」

韓国マスコミ 肯定的な評価目立つ

【ソウル8日＝喜多由浩】八日の韓日首脳会談で署名された共同宣言は、「新世紀の両国関係の転機になるものとして、韓国国内でも評価する声があがっている。

韓国政界やマスコミは、歴史認識で「韓国国民への心からのおわび」を初めて文書化したことを取り上げ、「過去半世紀の足かせとなっていた過去の問題を整理した意味をもつ」（与党・国民会議）と評価を繰り返したこれまでの両国関係の転換になるものとして、韓国国内でも評価する声があがっている。

【歴史認識】

小渕首相　日韓両国が基本的価値観を共有するパートナーであることを確認し、双方が過去を克服し未来に向けて一層の良好な関係を構築していく基本的方向を確かなものとしたい。

金大統領　過去に終止符をつけ、未来を切り開いていこうとする首相の気持ちを真摯（しんし）に受け止めている。共同宣言で、過去についての認識を表明したことは初めてであり、非常に意味のあることであると認識している。

首相　日本も韓国も言論の自由があり、いろんな議論があるのは当然だが、お互いに相手に悪い印象を与える発言は避けるべきだ。両国民にわれわれの気持ち、認識を理解してもらえるよう努めたい。

大統領　非常によい対話をさらかった。両国が新しいパートナーとして出発することを確認したい。韓国政府としては両国の過去の歴史（過去の歴史）について、問題は出さないようにしたい。

【北朝鮮対応】

大統領　（北朝鮮のミサイル発射に）非常に大きな怒りを感じている。日本も強い怒りを感じていることはよく理解できる。北朝鮮は、北朝鮮のミサイルが飛び越えたことで、動きにくくなったことは事実である。韓国、米国との協力体制を確固たるものとしながら、北朝鮮には きちんと対応する必要がある。

大統領　KEDO（朝鮮半島エネルギー開発機構）についても日本の積極的貢献を期待したい。

首相　KEDOの重要性は十分に認識している。ただ、北朝鮮のミサイルが飛んでいるという現実もある。韓国、米国との協力体制を維持しながら、太陽政策を貫いてゆきたい。さらに、日本やロシアも加わって地域の政治経済問題について議論をしてゆくことが極めて重要だ。

大統領　六カ国協議は、小渕首相が主導権をとってくれれば、われわれも賛成を目指したい。

【天然痘（ポックス）対策】

大統領　韓国政府を代表して正式に天然痘対策を招請したい。両国は新しいパートナーとして時代を開いていく。私の生命と安全を守るため、長期間努力を傾ける。日本政府の、誠意を決して忘れることはできない。

【日本の評価】

明治維新で独自的な近代化に成功したが、帝国主義に反省する決断が足りないからだ。こうした態度と不信の存在は日本のためにもアジア各国のためにも高たく不幸なことだ。半面、過去を正しく認識、反省する運動は、日本国民はもとより韓国を含むアジア諸国の国民に大きな感銘と苦痛を与えた。第二次世界大戦後、日本国民は汗と涙をさそって経済復興、民主主義の発展とともに世界が驚く経済成長を遂げ、世界第二位の経済大国となった。アジア各国の国民に開放の可能性と希望の実例を示した。人類史上初めて「原爆」を体験した日本国民は、非核平和主義の原則を国守、憲法を守り、平和主義の原則を国守、前に日本が韓国を侵略した七年間と今世紀初めの植民地支配三十五年間だ。わずかな謝罪を受け入れる国を未来

朝鮮日報は「韓日関係新しい枠組み」とした、九日付の朝刊（早版）社説で「近いけど遠い国」といわれた韓日両国関係が、新しい転機を迎えることを強調した。

日韓首脳会談 要旨

は、市場経済で競争と経済交流をやってゆく以外に方途はない。緊張した安保体制を維持しながら、太陽政策をやってゆき（北朝鮮に）変化をもたらしたい。そのためにも、日米との協力、連帯が不可欠だ。

首相　日本にとって唯一国交がないのが北朝鮮であり、何とか国交正常化にもってゆきたいと念願している。危機支援もやってきた。大変残念に思っている。韓国政府としては、北朝鮮にはきちんと対応する必要がある。

大統領　KEDO（朝鮮半島エネルギー開発機構）についても日本の積極的貢献を期待したい。

首相　KEDOの重要性は十分に認識している。ただ、北朝鮮のミサイルが飛んでいるという現実もある。韓国、米国との協力体制を維持しながら、太陽政策を貫いてゆきたい。さらに、日本やロシアも加わって地域の政治経済問題について議論をしてゆくことが極めて重要だ。

大統領　六カ国協議は、小渕首相が主導権をとってくれれば、われわれも賛成を目指したい。

【天然痘（ポックス）対策】

大統領　韓国政府を代表して正式に天然痘対策を招請したい。両国は新しいパートナーとして時代を開いていく。私の生命と安全を守るため、長期間努力を傾ける。日本政府の、誠意を決して忘れることはできない。

【日本の評価】

明治維新で独自的な近代化に成功したが、帝国主義に反省する決断が足りないからだ。こうした態度と不信の存在は日本のためにもアジア各国のためにも高たく不幸なことだ。半面、過去を正しく認識、反省する運動は、日本国民はもとより韓国を含むアジア諸国の国民に大きな感銘と苦痛を与えた。第二次世界大戦後、日本国民は汗と涙をさそって経済復興、民主主義の発展とともに世界が驚く経済成長を遂げ、世界第二位の経済大国となった。アジア各国の国民に開放の可能性と希望の実例を示した。人類史上初めて「原爆」を体験した日本国民は、非核平和主義の原則を国守、憲法を守り、平和主義の原則を国守、前に日本が韓国を侵略した七年間と今世紀初めの植民地支配三十五年間だ。わず

金大統領 国会演説 抜粋

国は千五百年以上の交流の歴史を持っており、両国が歴史を誤ったのは、約四百年しか経たない日本が韓国を侵略した七年間と、今世紀初めの植民地支配三十五年間だ。わずかな五十年に満たない不幸な歴史のために、千五百年にわたる交流と協力の歴史全体を無意味なものとするのは実に悲しかなことだ。

【アジア】

アジアにも民族に劣らない人権尊重と民主主義の思想があった。孟子は「国を統べる者は天の子即ち天子である。天子は天の意思に従って民意に適応を挙げたり、ジョン・ロックより一千年も前に主張した。新羅は「天下平定」を代表する人間の尊厳性を強調した。こうした人権と国民主権の思想にとどまらず、それを実行する多くの制度もあった。韓国は民主主義と市場経済という最高の価値を確立しつつ、政治・経済的にアジア・太平洋の時代を牽引する主役になりつつある。韓国は、アジアの地域の人権と民主主義の神話の環境、麻薬、貧困など世界的な課題についても協力してゆくべきだ。

「過去離れ」しない限り日本の対韓感情はよくならない。日本の協力が得られない限り、韓国は反省と謝罪問題は段落した。政府レベルで今後、過去に触れることはない」（大統領側近筋）となった。

したがって過去の植民地支配に対する「痛切な反省と心からのおわび」を文書にしたことで、日本は補償問題などで新たな負担を強いられないかという一部の懸念は、大統領のホンネが「過去離れ」にあるだけにあたらないだろう。

それにしても金大中大統領は今回、韓国の対日外交を画期的に転換させた。「過去」を水に日本を非難し、ただ、苛立、日本国民を不快にさせながら日本から支援や協力を引き出すといういわゆる「反日的外交」から脱皮し、日本に感謝し、日本を前向き持ち上げ、日本国民の気分をよくしてさらなる支援、協力を期待するというわけだ。

日本といえば、冬眠と非難、不満さえかつていればそれだけでナショナリスト（愛国者）に思られるような社会的風土の中で、大統領が率先して喜々と日本に感謝し日本を肯定的に評価した意味は大きい。

金泳三・元大統領も一九八〇年代初めに「日本に学ぶ」を言ったことはあるが、一九六五年の日韓国交正常化以降の日韓協力の意義を強調したのは金大中大統領が初めて。「協力拡大のためには非難指摘を忘れ」というのは平凡なことだが、対日外交として明らかに発想の転換がうかがえる。

それに「過去」を背景に日本の支援は当然だというような「恩着せがましい」的な態度が全くなかった。合同記者会見の席、金大中大

1019198
産経新聞
3面

「過去との決別」相互努力

日韓首脳会談

小渕恵三首相が八日に行われた日韓首脳会談で「過去の植民地支配」に関する「謝罪」を表明、共同宣言にもその内容が盛り込まれたことについて、日本政府は日韓請求権の歴史認識問題が「最終のもの」（野中広務官房長官）になったと受け止めている。だが、歴史問題と密接に絡む慰安婦問題は、両国外務省による「調査」にまかされたまま。真の問題解決には、この日の記者会見で金大統領が述べたような「両国の指導者と国民の誠実ある努力」が必要になる。

「慰安婦」では隔たり

女性基金事業見直し 議題にのぼらず

金大中韓国大統領は国会演説で、未来志向の日韓関係を築く歴史性を強調した。後方左は李姫鎬大統領夫人、同右は伊藤茂一郎衆院議長＝8日、参議院本会議場

歴史問題をめぐって、金大統領は首脳会談で「韓国」について問題はないとした。政府としては両国の過去に「決別したい」と明言した。この発言について、外務省は「国際、与党の責任ある方は歴史認識はないといいうことではない」と説明。野中長官もこの日午後の記者会見で「お互いに神経をいらだたすようなことがないようにしていきたい。小渕政権において、いらざる波紋を呼んだり、歴史の問題を逆に国民の共通認識でも、「国民の共通認識」に、韓国が政治的な対応を続けているためだ。金大統領自身も来日前の月刊誌のインタビューで「そういうものをもらえば、ことの始末をすり替えることになる」と述べている。

野中官房長官はこの日の会見で、今後の慰霊顕彰事業への対応について「お互いに、この問題をいやしていくための努力をやっていかなければならない」と述べる時、金支給事業の見直しについても「今回の議論によって、女性基金による「償い金」支給問題の解決四十年に締結された日韓基本条約で決着済みで、両政府ともこれを認めている。日本側が「道義的対応」としてスタートさせたアジア女性基金（旧女性基金）による元慰安婦への一時金（償い金）

産経新聞
平成10年(1998年) 10月9日 金曜日 15版 2

主張

日韓首脳会談

「過去」との決別願うのみ

日韓首脳会談の共同宣言で最大の焦点とされた歴史認識への言及は、平成七年の「村山富市首相談話」が基調となった。われわれは「村山談話」に対して、当時の「自社さ」政権によって誕生した社会党（現社民党）首相による〝私的見解〟にすぎず、国民的な総意を踏まえたものではないと指摘してきた。にもかかわらず、外交的に一段と重みのある共同宣言の核心部分をこれに依拠したのは、きわめて遺憾といわなくてはならない。

「謝罪外交の繰り返しはもうたくさんだ」というのが、大方の国民の率直な心境であり、嫌韓感情の源にもなっている。歴史認識に触れるのなら、「村山談話」に先立つ「国会決議」を踏襲することで十分だったはずである。国会決議は社会党の要求を自民党がなんとか退けて、ぎりぎりまで抑制された表現になっているからだ。

共同宣言では「植民地支配により多大な損害と苦痛を与えた」とし、「痛切な反省と心からのおわび」を表明するなど、「村山談話」の表現をほぼそのまま引用した。そうした共同宣言が打ち出されてしまった以上、これを謝罪外交の〝打ち止め〟とするのなら、はじめて意味が備わってくるといわなくてはなるまい。

共同宣言では、小渕恵三首相のこうした歴史認識表明に対して、金大中大統領が「真摯（しんし）に受け止め、これを評価する」「両国が過去の不幸な歴史を乗り越えて…未来志向的な関係発展のためにお互いに努力することが時代の要請である」などと述べたとしている。共同宣言は「二十一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」を副題とし、外相をはじめとする各分野の閣僚級協議の強化、閣僚レベルの懇談会の開催なども提起した。こうした点を素直に受け取れば、日韓関係は「過去」と決別し、新たな段階に入ったと評価することも可能だろうし、そうなることを願うばかりである。

共同宣言では経済分野での相互協力関係の強化、安保対話の促進なども盛り込まれ、金大統領は日本の国連安保理常任理事国入りへの支援を示唆、日本文化の開放にも前向きの姿勢を示した。さまざまなレベルでの交流を進め、互いの〝反日感情〟〝嫌韓意識〟の解消を望みたい。

なによりも重要なのは、不穏な朝鮮半島情勢に対して、日米韓がいかに連携を保っていくかということだ。対北朝鮮政策では、三カ国間に微妙なズレがある。これを克服していくのが今後の外交努力の主軸でなくてはならず、ひいては日韓関係の真の改善に結び付くはずである。

天皇ご訪韓問題

慎重のうえにも慎重期せ

金大中大統領は天皇陛下のご訪韓を招請した。日韓両国が真の隣国関係を築くうえで、ご訪韓は避けられない課題という認識は、日韓のハイレベルの政治当局者が共有するものである。

だが、もっとも重要な点を見忘れてはならない。天皇陛下はじめ皇室ご一族の外遊は、それ自体に象徴的な友好関係の確認というメッセージが込められていても、本来、政治的な性格を持たないことが原則だ。今回の金大統領の招請が、日韓新時代の幕開けという使命感に基づくものであることを決して疑うわけではないが、現段階では政治的な側面が強すぎる。

そうした懸念を持たざるを得ないのは、やはり韓国国民の日本を見る目が厳しすぎることである。天皇陛下のご訪問となれば、不測の事態にも警戒を怠れない。成熟した両国関係というには程遠い環境なのだ。

この時期の天皇招請にしぼって、韓国の期待を推測するならば、国内の経済危機の先行きに対する不安から、日韓関係の新たな構築によって、日本の一層の経済支援を望んでいることは確かだ。日本とて例外ではないが、アジアを襲った金融危機は、もちろん韓国にも大きな打撃を与えている。日韓双方には北朝鮮の脅威にも真剣に共同対処するという課題もある。

また、今回の招請の背景として、二〇〇二年のサッカーW杯の共同開催が一部で指摘されている。韓国国民の関心がW杯に向いているから、根強い反日感情が拡散するという高度な計算も働いているかもしれない。もちろん、二十一世紀に向けての両国のパートナーシップの象徴としての意味付けを韓国側が強く意識しているであろうことは否定しない。

こうしたことを背景に、天皇ご訪韓招請が行われたとみられ、それに連動するように韓国側にも微妙な変化が見られる。天皇のことを「日王」と呼び習わしていた新聞のいくつかが「天皇」と正式に表記した。むろん、これだけで天皇ご訪韓の環境が整いつつあるとはいえないが、参考になるのは平成四年の天皇ご訪中であろう。

当時、政治的意味合いを持つことなどへの懸念は国民の一部にあったが、中国政府は天皇に新たな謝罪を求めないことなどを綿密な準備段階で約束し、ご訪中が実現した。政治体制の違う国でも実現したのだから、民主主義など価値観を同じくする韓国ご訪問も、やがては実現しよう。

しかし、天皇ご訪韓問題は極めてデリケートな側面が強いだけに慎重のうえにも慎重を期して、日韓両国政府は環境整備に努めるべきである。

"日은 과거직시 용기 필요 한국은 日 올바른 평가를"

金대통령 日국회 연설

일본 국빈 방문 이틀째인 김대중 대통령은 8일 국회 연설에서 "일본에는 과거를 직시하고 역사를 두렵게 여기는 진정한 용기가 필요하며, 한국은 일본의 변화된 모습을 올바르게 평가해야 미래의 가능성에 대한 희망을 찾을 수 있다"고 강조했다.

金대통령은 일본 중·참의원 의원들이 참석한 가운데 행한 연설에서 "양국이 좋은 이웃, 좋은 친구로서 함께 손잡고 21세기를 개척해 나가는데 극복하지 못할 장애는 없을 것"이라며 "오직 두나라 정부와 국민의 강력한 실천 의지가 요청될 뿐"이라고 역설했다.

金대통령은 "2002년 월드컵 대회는 양 국민의 단합된 힘과 우호를 세계에 과시할 수 있는 절호의 기회"라고 지적하고 "1억7천만 한·일 양국 국민이 협력하는 축제가 돼야 한다"고 말했다.

도쿄=오영환 특파원
<oyh99@red.an.egg.or.jp>

'사죄' 냐 '사과' 냐 '오와비' 번역 신경전 우리측 '사죄' 관철

한·일 정상회담에 앞서 양국 실무진은 단어 하나하나를 놓고 미묘한 신경전을 벌였다.

오부치총리가 정상회담 공동선언문에서 밝힌 '오와비(おわび)'의 번역을 놓고 한국은 보다 강도 높은 '사죄(謝罪)'로 표현하자고 주장한 반면 일본은 '사과'로 통일하자고 요구했다. 한국어로 두 가지 모두에 해당하는 '오와비'의 번역을 놓고 씨름하다 결국 일본이 양보, 한국측은 金대통령의 국회연설 원고에 들어가 있던 '반성과 사과'라는 표현도 '반성과 사죄'로 수정해 7일 밤늦게 배포했다.

한편 일본언론들은 金대통령의 국회 연설원고 중 '과거사 인식 문제를 매듭짓고'라는 표현을 일본어로 번역하느라 고민했다. 한국정부가 배포한 자료에는 '…일단락을 짓고'라고 표현했으나 마땅한 일본어 표현을 찾지 못한 것. 일본의 주요신문들은 기사에는 '과거문제를 구획짓다(區切る)'라고 표현한 뒤 제목은 '과거를 총괄(아사히신문)' '과거문제에 종지부(요미우리)' 등으로 각각 다르게 달았다.

도쿄=이철호 특파원
<leechulh@red.an.egg.or.jp>

日本には過去を直視する勇気が必要
韓国は日本に対する正しい評価を

金大統領日本国会で演説

日本を公式訪問して２日目の金大中大統領は、８日の国会での演説で「日本には歴史を直視し、歴史を怖ろしい物と考える勇気が必要であり、韓国は日本の変化した姿を正しく評価してこそ、未来の可能性について希望を持つことができる。」と強調した。

金大統領は日本の衆・参両院議員の参席する中で行われた演説で「両国がよき隣人、よき友人としてともに手を取り合い２１世紀をきり拓いて行けば克服できないことはない。」とし、「ただひたすらに両国政府と国民の強力な実践意志が必要なだけである。」と力説した。

金大統領は「２００２年ワールドカップ大会は両国民の団結した力と友好を世界にデモンストレーションする絶好の機会。」であると指摘し、「１億７０００万韓日両国国民が協力し合って行われる祝祭としなければならない。」と語った。

（中央日報　１０月　９日　１面）

「謝罪」か…「謝過」か…
「お詫び」翻訳の神経戦
我が国側は「謝罪」貫徹

韓日首脳会談に先立ち、両国実務陣は単語一つ一つに微妙な神経戦を繰り広げた。

小渕総理が共同宣言文書で表明した「おわび」の翻訳について、韓国はより強度の強い「謝罪」と表現しようと主張した反面、日本は「謝過」に統一しようと要求した。韓国語で両方の意味を包含するお詫びの翻訳を巡ってひとしきり議論が続いた後結局日本側が譲歩、韓国側は大統領の国会演説原稿に入れていた「反省と謝過」という表現も「反省と謝罪」に修正し７日の夜遅く配布した。

一方で日本のマスメディアは金大統領の国会演説原稿の中で「過去史の認識問題に区切りをつけて」という表現を日本語に翻訳しようとして苦労した。韓国政府が配付した資料では「…一段落をつけて」と表現したが、適当な日本語表現が見あたらないとのこと。日本の主要紙は、記事では「過去問題に区切りをつけた（区切る）」と表現し、題目では「過去を総括（朝日新聞）」「過去問題に終止符（読売）」など、各々で異なる表現を用いた。

（中央日報　１０月９日　３面）

98.10.9. J.T. (1面)

Kim looks to future in Diet speech

Japan and South Korea must establish "future-oriented relations" while working to resolve differences in interpretation over Japan's 1910-1945 colonization of the Korean Peninsula, South Korean President Kim Dae Jung said Thursday in a speech to the Diet.

"The time has come for the two countries to look squarely at our past and establish future-oriented relations," Kim said in the 30-minute speech.

"Japan needs true courage to squarely face the past . . . and the Republic of Korea needs to correctly evaluate Japan's changing attitude and find hope in future possibilities," he said.

A joint declaration signed Thursday by Kim and Prime Minister Keizo Obuchi is a milestone in efforts to overcome the differences, the South Korean president said.

"I firmly believe that this declaration will settle the issue of recognizing the past history between the governments of our countries and will become the foundation for joint endeavors for future peace and prosperity," Kim said in the speech.

Kim said in his speech that Japan has changed since the end of World War II, adding that the Japanese people have realized the development of parliamentary democracy and a remarkable economic growth.

Kim, however, said that some Asian people are still suspicious about Japan's perspective of history.

"There are many people in Asia, including Korea, who still cannot discard their suspicions of Japan and their concerns. This is because they believe Japan has not done enough on its own to understand correctly and reflect humbly upon its past," Kim said.

"It must be said that the fact that such doubts and mistrust still exist is very unfortunate not only for Japan but also for all the countries in Asia," he said.

Kim made the harsh remarks on history apparently because the South Korean people are dissatisfied with occasional remarks by some politicians to justify Japan's colonial rule over the Korean Peninsula.

Several senior members of the Liberal Democratic Party expressed opposition Wednesday to Obuchi's apologizing for colonial rule in the joint document.

"Japan needs true courage to look at the past squarely and respect the judgment of history. South Korea should also rightly evaluate Japan, in all its changed aspects, and search with hope for future possibilities," Kim said.

To enhance partnership between Japan and South Korea, Kim said that the 2002 soccer World Cup, which the two countries will cohost, will be an excellent opportunity.

Kim, meanwhile, said that he hopes the social environment of the 600,000 Korean residents in Japan will be further improved so that they will be able to become true members of Japanese society.

Statement highlights

The following are highlights of the joint declaration announced Thursday by Prime Minister Keizo Obuchi and South Korean President Kim Dae Jung:

- Obuchi and Kim expressed their shared determination to build a new partnership toward the 21st century.
- Obuchi expressed keen remorse and apologized for the historical fact that Japan, through its past colonial rule of the Korean Peninsula, imposed great damage and pain on the South Korean people. Appreciating the prime minister's apology, Kim stressed the importance of mutual efforts to build future-oriented relations by overcoming their unfortunate shared history.
- The two leaders agreed to further reinforce bilateral relations by holding bilateral summit meetings regularly and enhancing ministerial talks on foreign affairs and other fields.
- The two called for further strengthening the role of the United Nations in creating a safer and more peaceful world. Kim expressed expectations for a greater contribution by Japan to U.N. activities and other international efforts in this regard.
- The two leaders acknowledged the importance of promoting the construction of light-water reactors in North Korea under the auspices of the Korean Peninsula Energy Development Organization, which they regard as the most effective and realistic mechanism to prevent Pyongyang from proceeding in its nuclear development, which is suspected of having a military nature.
- The two leaders welcomed the recent basic agreement concerning a bilateral fisheries pact and called for the smooth development of bilateral relations in the field.
- The two agreed to make joint efforts toward the success of the World Cup soccer tournament in 2002.

98.10.9. J.T. (3面)

Obuchi, Kim pledge cooperation

The following is an unofficial translation of a Joint Declaration on the new South Korea-Japan partnership for the 21st Century.

1. The President of the Republic of Korea and Mrs. Kim Dae Jung paid an official visit to Japan as state guests from Oct. 7 to 10, 1998. President Kim Dae Jung held a summit meeting with Prime Minister Keizo Obuchi. The two leaders reflected on the past relationship of the two countries, reconfirmed the current friendly and cooperative ties and exchanged views on the desirable relations of the two countries in the future.

As a result of the meeting, the two leaders jointly declared a resolution on building a new partnership between Korea and Japan for the 21st century by bringing to a higher level the ties of friendship and cooperation that have been cultivated since the normalization of diplomatic relations between the two countries in 1965.

2. The two leaders concurred that it is important for the nations of both countries to face the past squarely and develop a new relationship based on mutual understanding and trust to build firmly founded, friendly and cooperative relations between the two countries for the 21st century.

Obuchi, looking back on the relations between Korea and Japan in this century, humbly accepted the historical fact that the Japanese colonial rule inflicted unbearable pain and damage on the Korean people, and he expressed remorseful repentance and a heartfelt apology for the ordeal.

Kim sincerely recognized and appreciated the prime minister's perception of history and mentioned that it is time for Korea and Japan to overcome the unfortunate past and build a future-oriented relationship based on the spirit of reconciliation and friendship through concerted efforts from both sides.

The two leaders agreed that it is important that both nations, particularly the young generation of both countries, deepen their understanding of history, and they also agreed that both sides need to pay more attention and make more efforts toward that purpose.

3. The two leaders shared the understanding that Korea and Japan, which had maintained exchange and cooperation throughout their long history, have been developing close cooperation in various areas since the normalization of diplomatic relations in 1965, and those cooperative ties have been mutually beneficial.

Obuchi praised Korea for its remarkable economic development and democratization through continued efforts and its growth into a prosperous and mature democracy. Kim said he highly appreciated the role that Japan has played in promoting peace and prosperity in the world through its postwar security policy under its Peace Constitution, citing the exclusively defense-oriented military policy and non-nuclear policy, and through its contribution to the world economy and its assistance to developing countries.

The two leaders jointly expressed their resolution to further develop bilateral friendship and cooperation based on the universal value of democracy and a free-market economy through broad exchanges and mutual understanding.

4. The two leaders agreed to promote more balanced and enhanced cooperation between the two countries in broad areas such as political, security, economic and cultural exchanges.

Both leaders agreed as well that it is of utmost importance to extend the partnership beyond the bilateral level to regional and even global levels to contribute to the peace and prosperity of the world by joining international efforts for human rights and the global environment.

For that purpose, concluding the 20th century's relations between Korea and Japan, the two leaders agreed as follows to pursue the new partnership for the 21st century based on mutual understanding and sincere cooperation between Korea and Japan as the common goal, and they also agreed on the action plans attached to this Joint Declaration as measures for its concrete implementation.

The two leaders agreed to assign the foreign ministers of both countries the responsibility of regularly checking the progress of cooperation based on the new partnership and agreed to further strengthen their efforts in this matter.

5. The two leaders agreed to further promote consultations and dialogue between the two countries in order to lift the current Korea-Japan relations to a higher stage.

In this context, both leaders decided to maintain and strengthen their consultations through mutual visits on a regular basis and they also decided to further strengthen ministerial-level consultations in various areas, including foreign ministers' meetings. The two leaders also agreed to hold ministerial meetings as soon as possible in which the ministers concerned, who are responsible for the execution of policy, will freely exchange their views and opinions.

The two leaders also valued the interchange between the members of both parliaments, welcomed the decision to expand the scope of actions of the Korea-Japan/Japan-Korea Parliamentary Union, and decided to encourage the interchange of younger-generation assembly members who will shoulder the 21st century.

6. Both leaders agreed that it is important for Korea and Japan to cooperate and actively participate in the efforts of the international community to build a peaceful and secure post-Cold War world order. The two leaders agreed that the role of the United Nations should be strengthened to effectively cope with the challenges and tasks of the 21st century. They agreed that it can be accomplished by strengthening the function of the Security Council, efficient restructuring of the U.N. Secretariat, ensuring stable budgetary bases, strengthening peacekeeping activities and cooperating for the socio-economic development of developing countries.

Keeping these in mind, Kim appreciated Japan's contribution and its role in the international community, including the U.N., and expressed his expectation that these kinds of contributions and the role of Japan will increase in the future.

The two leaders also stressed the importance of arms reduction and nonproliferation, emphasizing the fact that the spread of any kind of weapons of mass destruction poses a threat to world peace and security, and they agreeing to strengthen bilateral cooperation in these areas.

The two leaders welcomed and agreed to further strengthen bilateral Consultation on Security Policy and exchange in the field of defense on various levels. The two leaders also agreed that it is important for Korea and Japan to firmly maintain the respective security arrangements with the U.S. and to further intensify their efforts for multilateral dialogues in order to guarantee peace and security in the Asia-Pacific region.

7. The two leaders shared the opinion that it is important that North Korea pursue reform and openness and take a more constructive posture through dialogues for the peace and stability on the Korean peninsula. Obuchi supported Kim's North Korean policy to pursue active reconciliation and cooperation while maintaining a firm national defense posture. Both leaders agreed that the implementation of the "Agreement on reconciliation, non-aggression, exchange and cooperation between South and North Korea," concluded in February 1992, and the smooth progress of Four Party Talks are desirable.

Both leaders also confirmed that it is important to maintain the Geneva Agreement signed in October 1994 between the U.S., North Korea and KEDO as the most feasible and effective mechanism to stop North Korea's nuclear weapons program.

Both leaders shared the concerns and regrets of the chairman of the Security Council on North Korea's launch of a missile, which were expressed on behalf of the Security Council, and agreed that North Korea's missile development program will have an adverse impact on peace and security of Northeast Asia including Korea and Japan if it isn't stopped.

The two leaders reaffirmed the importance of working closely together in pursuing policies toward North Korea and agreed to strengthen policy consultations at various levels.

8. The two leaders agreed that to maintain and develop a free and open international economic system and to recover from the structural problems of the Asian economy, both countries have to overcome the current economic difficulties and consolidate balanced cooperative economic relations.

Both leaders agreed that the two countries will further strengthen bilateral economic policy consultations and promote policy coordination in international bodies such as WTO, OECD and APEC.

Kim appreciated Japan's economic assistance in various areas, such as finance, investment, and technology transfer, and explained Korea's efforts to solve the current economic problems. Obuchi explained the policy measures to revive the Japanese economy and economic assistance that Japan provided to tide over Asian countries during the crisis. He expressed his intention to continue to support Korea's efforts to overcome the economic crisis. The two leaders welcomed the conclusion of the basic agreement on the extension of a loan of the Export-Import Bank of Japan to Korea to properly utilize treasury loans and investments.

The two leaders, from the bottoms of their hearts, welcomed that the two countries have come to a basic agreement in the establishment of a new Korea-Japan Fisheries Agreement, which had remained a major stumbling block between the two countries. Simultaneously, they expressed their expectations for the harmonious development of bilateral relations in the field of fisheries under the new maritime order based on the United Nations Convention on the Law of the Sea (UNCLOS).

The two leaders conveyed their congratulations that the two countries, on this occasion, concluded a new Treaty on Avoidance of Double Taxation between Korea and Japan. They also reached an agreement in further developing the cooperation and exchange in such fields as trade and investment, industrial technology, science and technology informational communication, reciprocal communication among labor, management and government and exchange of information and opinions on their own social security system, taking into account the probable Agreement on Social Security between Korea and Japan in the near future.

9. The two leaders came to an agreement that the two governments will closely cooperate in coping with various global issues that have emerged as new threats to the security and well-being of the international community.

The two leaders also agreed to open Korea-Japan Dialogue on Environmental Policy to extend mutual cooperation in tackling global environmental issues including the limitation on production of carbon dioxide gases and policies on acid rain.

Moreover, the two leaders have decided to further collaborate in providing assistance to developing countries. Concurrently, they reached an agreement that the two governments will start negotiations on the Treaty of Extradition while continuously reinforcing existing cooperation on countermeasures against internationally organized crime such as the smuggling of narcotics and stimulants.

10. The two leaders consented to the strengthening of cultural and personal exchanges between the two countries, recognizing that the basis of effective implementation of the above-mentioned bilateral cooperation lies in deep mutual understanding and exchanges of people in the private as well as the public sector.

The two leaders agreed to support private-level cooperation for the successful organization of the 2002 World Cup and actively promote exchanges in cultural and sporting events on the occasion of the 2002 World Cup.

The two leaders consented to expedite exchanges of people in various professions, such as researchers, teachers, journalists and members of civil organizations on national as well as regional levels.

The two leaders came to an agreement to continue simplification of visa procedures as a measure to establish the basis for promotion of those exchanges and mutual understanding.

In addition, the two leaders agreed to introduce working holiday programs for youth of the two countries in April 1999 to insure the substantiality of government-level exchange projects for students and youth.

In addition, the two leaders reached an agreement on keeping bilateral consultation for promotion of the status of Korean residents in Japan, based on the recognition that Korean residents in Japan can play a bridging role in promoting mutual exchange and understanding between the two nations.

The two leaders expressed their high appreciation of the significance of intellectual exchanges including the intellectuals related to the Korea-Japan Forum and Korea-Japan Joint Committee on the Promotion of Joint Historical Research. Simultaneously, they consented to keep supporting these endeavors.

Kim conveyed the position that the Korean government will gradually lift its ban on Japanese culture. Obuchi welcomed this policy as bringing about truthful understanding of each other.

11. Kim and Obuchi, expressing strong conviction that the New Partnership of Korea and Japan for the 21st century can be developed into a higher level through far-flung participation and ceaseless efforts by the people of the two countries, urged both nations to share the spirit of this Joint Declaration and to participate in concerted efforts to establish and develop the new Korea-Japan Partnership.

8. 10. 9. J.T. (1面) 1/2

Obuchi, Kim look ahead

Leaders put past behind, vow cooperative ties

Action plan signed — Page 4
Kim urges recovery — Page 11

Prime Minister Keizo Obuchi and visiting South Korean President Kim Dae Jung put the past behind them Thursday, with Japan apologizing for its past colonial rule of the Korean Peninsula and both pledging to establish a new partnership in a variety of fields for the 21st century.

Obuchi said at a joint news conference after his meeting with Kim that he apologized and expressed remorse for Japan's 1910-1945 colonization of the Korean Peninsula and that Kim appreciated Obuchi's remarks.

For his part, Kim said his country will accelerate efforts to open up to Japanese culture by easing bans on importing such items as videos.

According to a joint document issued and signed by the two leaders after the meeting, "Obuchi, looking back on the relations between Korea and Japan in this century, humbly accepted the historical fact that the Japanese colonial rule inflicted unbearable damage and pain on Korean people and expressed remorseful repentance and heartfelt apology for the ordeal."

In response, "Kim sincerely recognized and appreciated the prime minister's perception on the history, and mentioned that the times require that Korea and Japan overcome the unfortunate history of the past and build a future-oriented relationship based on the spirit of reconciliation and friendship through concerted efforts by both sides," the joint statement says.

Later in the evening, Obuchi told Kim and other guests at a banquet at the Prime Minister's Official Residence, "What a long period we needed to state common resolutions that our two countries will develop new future-oriented relations based on reconciliation and friendship, after putting a stop to bad feelings about that unfortunate period in the past.

"We must realize this resolution . . . in actions, not in words," he continued. "We, the leaders, have a heavy responsibility."

It is the first time that Japan expressed remorse and apologized directly to the Korean people in a document.

The apology and remorse expressed was based on a 1995 statement by Prime Minister Tomiichi Murayama who said that "Japan . . . through its colonial rule and aggression, caused tremendous damage and suffering to the people of many countries, particularly to those of Asian nations." The statement was issued Aug. 15 that year, the 50th anniversary of the end of World War II.

The recent apology "is dif-

CONTINUED ON PAGE 3

SOUTH KOREAN PRESIDENT Kim Dae Jung (left) and Prime Minister Keizo Obuchi celebrate Thursday at the Government Guesthouse at Akasaka after signing a joint declaration feted as opening the door to a new bilateral relationship.

98.10.9. J.T. (3面) 2/2

Leaders focus on future ties

CONTINUED FROM PAGE 1

ferent from past ones because the two countries announced it in a document" signed by the leaders of the two countries, Kim told the press conference.

"The apology and remorse (expressed) is directed to South Korea — therefore, their significance is different from past ones," Kim said.

The bilateral relationship occasionally suffered strains on issues of history between the two countries because of negative remarks by some Japanese politicians despite apologies and regrets expressed by Japan's prime ministers.

In November 1995, Takami Eto, then Management and Coordination Agency chief, angered the South Korean people by making off-the-record remarks boasting of the benefits of Japan's colonial rule of the Korean Peninsula.

At a meeting of party executives Wednesday, several senior members of the Liberal Democratic Party reportedly expressed opposition to Obuchi apologizing for colonial rule in the joint document.

Eto was quoted as saying at the meeting that "there was no (Japanese) colonial rule" over the Korean Peninsula.

Obuchi stressed that the apology and remorse expressed in the joint document are "Japan's unshakable position" and that he is sure that those who hold responsible positions in Japan will respect such a stance.

Obuchi said the joint document is important because the two leaders agreed on establishing a partnership for the 21st century based on common values and friendship by overcoming past incidents and achieving reconciliation.

The leaders also gave high marks to each country's achievements and bilateral cooperation since 1965, when the two countries normalized ties.

Reflecting Kim's realistic policies toward Japan, the South Korean side praised Japan's postwar achievements, such as its pacifist security and defense policies, as well as economic contributions to developing countries.

South Korea also acknowledged Japan's contributions for South Korea's economic development in such fields as finance, investment and technology transfer.

South Korea had avoided expressing appreciation for Japan's economic cooperation because of strong anti-Japanese feelings at home.

"The two leaders concurred that it is important for both countries to face the past squarely and develop a new relationship based on mutual understanding and trust to build firmly founded friendly and cooperative relations between the two countries for the 21st century," according to the joint document.

Obuchi said that public support for the spirit of the joint document is important for a new start of the bilateral relationship.

Kim said it is meaningful that the two countries opened a new page for the future, adding that partnership between Japan and South Korea will contribute to peace and stability in the Asia-Pacific region as well as the entire world.

For the new partnership, Obuchi and Kim agreed to hold a summit at least once a year and to strengthen consultations on the ministerial level in various areas.

The two leaders also agreed to strengthen their security and defense dialogue.

Kim said South Korea's lifting of its ban on importing Japanese cultural products such as movies, videotapes, compact discs and television broadcasts will take place very quickly.

Imports of cultural products from Japan have been banned because of lingering resentment from the colonial period.

Kim also said he proposed the establishment of a consultation body to deepen cultural exchanges between the two countries, and Obuchi responded positively to the idea.

Before the start of the press conference, Foreign Minister Masahiko Komura and his counterpart, Hong Soon Young, signed bilateral agreements including one for a "working holiday" program to help younger generations from both countries further their understanding of each other's customs. The program will take effect April 1.

The two leaders also exchanged views on the Emperor's visit to South Korea.

During a meeting Wednesday with the Emperor and Empress, Kim invited the Emperor to pay a state visit to South Korea.

Obuchi said he hopes to create an atmosphere that will allow the Emperor to visit South Korea.

Tokyo intends to watch how bilateral ties improve following Kim's visit to determine the timing of the Imperial visit. South Korea informally has suggested that the Emperor visit the country in 2002 when the two nations cohost the World Cup soccer finals.

Japan has been reluctant to proceed with such a visit because of fears of anti-Japanese sentiment in South Korea.

The leaders also adopted an action plan of detailed cooperation programs covering a variety of issues — from security, politics, economics and cultural exchanges to global cooperation.

Concerning the North Korean missile issue, Kim expressed understanding of Japan's anger over Pyongyang's missile launch Aug. 31, noting that his nation shares the concern.

At the same time, however, he stressed the importance of maintaining an appeasing approach toward Pyongyang, calling for Japan's cooperation to the planned construction of light-water reactors in North Korea — a $4.6 billion project under the auspices of the Korean Peninsula Energy Development Organization.

In July, Japan pledged to provide some $1 billion for the project. However, following Pyongyang's missile launch over Japan into the Pacific Ocean, Japan suspended its promised financial assistance as part of its sanctions against North Korea.

During Thursday's talks with Kim, Obuchi acknowledged the importance of the KEDO project as a means to prevent nuclear development in North Korea.

The prime minister, however, fell short of giving a specific schedule for resuming financial support for the project, simply stating that Japan is "cautiously" considering such a possibility.

"We understand the importance of promoting the KEDO project," Obuchi was quoted as telling Kim. "At the same time, however, it is very difficult for us to proceed (on the project) because of the missile issue."

Kidnap not discussed

Prime Minister Keizo Obuchi and South Korean President Kim Dae Jung sidestepped Kim's 1973 Tokyo abduction during their two-hour summit Thursday, but Kim later called for an inquiry into the truth of the case.

"I have said I would not raise the issue in any form to the governments of both countries," Kim said, answering a reporter's question on the matter at a joint postsummit press conference.

Kim reiterated his 1980 statement that he will not seek punishment for those involved in the abduction, but he said, "The truth of the incident must be inquired into because it is an issue concerning human rights."

Obuchi declined to comment directly on the abduction, but he praised Kim for having faced death many times to protect liberty and democracy in his country.

Korean media serious

SEOUL (Kyodo) South Korean media outlets carried extensive coverage Thursday of the Tokyo summit meeting between South Korean President Kim Dae Jung and Prime Minister Keizo Obuchi.

Local television networks, including the state-run Korean Broadcasting System, televised live a joint press conference held at the end of the summit, in addition to covering the summit's highlights.

Japan's statement of its "deep remorse" and "heartfelt apology" received a positive assessment from Seoul's major dailies, with the Chosun Ilbo calling the apology a "significant event," and the Joong-ang Ilbo noting the South Korea-focused statement's "special meaning."

98.10.9. H.T. (1·6面)

In a First, Japan Leaders Apologize to Kim for Occupation of Korea

By Kevin Sullivan
Washington Post Service

TOKYO — Emperor Akihito and Prime Minister Keizo Obuchi have offered frank and unambiguous apologies to President Kim Dae Jung of South Korea for suffering Japan caused during its 1910-45 occupation of the Korean Peninsula.

In a joint statement issued by the leaders Thursday during Mr. Kim's state visit to Japan, Mr. Obuchi expressed "deep remorse and a heartfelt apology to the people of South Korea, having humbly accepted the historical fact that Japan inflicted heavy damage and pain on the people of South Korea through its colonial rule."

It was the first written apology issued to an individual country by Japan for its actions before and during World War II.

In a speech to the Japanese Parliament, Mr. Kim forgave Japan for its behavior during the occupation and emphasized a future of partnership between the Asian neighbors. He also talked of the common threat of North Korea, underlined by its recent launch of what Japan says was a ballistic missile, and called for a united front.

But the main theme of his address to both houses of Parliament was reconciliation.

"It is truly infantile to regard 1,500 years of exchanges and cooperation as insignificant because of unfortunate periods that totaled fewer than 50 years," Mr. Kim said.

"Isn't it something we should be ashamed of and something we should be reproached for by our ancestors, who forged such a history, and by our descendants?" he said.

He received a standing ovation at the end of the speech.

In the past, Japanese leaders have expressed "regret" for any suffering Japan may have caused this century, but never offered an outright apology or specifically mentioned Korea.

In August 1995, for example, Prime Minister Tomiichi Murayama made a verbal statement to the people of Asia on wartime behavior, but no specific countries were mentioned.

The issue of apologies for actions committed more than 50 years ago re-

See APOLOGY, Page 6

APOLOGY:
Japanese Gesture

Continued from Page 1

mains highly volatile in South Korea and Japan. As the two largest economies in Asia struggle with debilitating financial problems, pressing security concerns over North Korea and other issues, the apology question was still the top agenda item during Mr. Kim's visit.

Mr. Obuchi also pledged a $3 billion loan package for South Korea, as part of Japan's $30 billion aid program for Asian nations hit hardest by the financial crisis. But that was overshadowed by the historical questions.

Many conservatives in Japan continue to defend the occupation, saying it was legal under international law and no different from the actions of Western colonial powers of the era. On Thursday, several senior lawmakers from the governing Liberal Democratic Party protested the idea of Japan's issuing any kind of apology to Mr. Kim.

Throughout Asia, the perception that Japan has never really accepted and acknowledged its role before and during World War II has resulted in lingering anti-Japanese sentiment.

In South Korea, where people were forced to take Japanese names, speak Japanese, attend Japanese schools and obey Emperor Hirohito, memories of the occupation are still fresh. Many South Koreans regard Japan with outright hatred, and imports of many Japanese products and virtually all Japanese popular culture are banned, a ban Mr. Kim has pledged to lift. In Seoul, all major South Korean newspapers on Thursday hailed the apologies as an important first step toward repairing relations.

Perhaps most symbolic were the words of Akihito, whose father, Hirohito, oversaw the occupation of Korea. At a welcoming banquet for Mr. Kim on Wednesday night, Akihito expressed "deep sorrow" for the "period when Japan brought great suffering on the people of the Korean Peninsula." He said, "The sorrow that I feel over this never leaves my memory."

In return, Mr. Kim invited Akihito and Empress Michiko to visit South Korea.

■ 'Comfort Women' Unhappy

In Seoul, a civic group representing South Korean women forced into sexual slavery by the Japanese military during World War II said it was disappointed "because the joint announcement does not even mention the issue of comfort women," the Japanese euphemism for the sex slaves, The Associated Press reported. The Korean Council for the Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan reiterated in a statement its insistence that the Japanese government pay compensation to the women.

■ Accord on Working Vacations

In an another symbol of improved relations, young Japanese and South Koreans will from April 1999 enjoy the benefits of a working-vacation system, involving free, one-year visas to travelers aged 18-25, Reuters reported. Such visa holders will be allowed to work during their stay.

98.10.10. J.T.

ASIAN SECURITY ISSUES

Kim proposes seven-nation forum

South Korean President Kim Dae Jung called for seven nations to discuss Northeast Asian security issues together when he met Friday with Japanese political leaders over lunch.

Kim called for consultation between China, Japan, Mongolia, North and South Korea, Russia and the United States, participants said.

Prime Minister Keizo Obuchi had proposed a six-party format, without Mongolia, during summit talks Thursday.

"A dialogue framework of the six nations, and if necessary including Mongolia, is needed for peace and stability of the region," Kim was quoted as saying.

The luncheon was held at the Government Guesthouse in Akasaka, where Kim was staying since his arrival Wednesday for a four-day state visit.

Kim told those present at the luncheon that the ongoing visit is a "success," and called Obuchi "my partner," describing as "epoch-making" the confidence-building effort between the two nations toward the next century.

In a joint declaration issued Thursday after their summit, the two leaders agreed to build a "new partnership toward the 21st century" on the heels of Obuchi's "deep remorse and heartfelt apology" for the "great pains and damage" Japan inflicted on the Korean people during its 1910-1945 colonial rule.

The luncheon was attended by former prime ministers, such as Yasuhiro Nakasone and Noboru Takeshita, and opposition party leaders, including Naoto Kan of the Democratic Party of Japan and Takako Doi of the Social Democratic Party.

During an interview with South Korean reporters before his departure to Osaka, Kim called the first three days of his four-day state visit to Japan a "success."

Kim termed the apology included in a joint declaration for Japan's 1910-1945 colonial rule a "landmark" achievement, according to Japanese and Korean officials said.

The apology, the first ever to be written in a joint declaration, signals the beginning of a new bilateral era of partnership, they said.

But Kim stressed the importance of focusing on the prevention of problem comments by politicians and government officials.

Kim and Prime Minister Keizo Obuchi issued the declaration Thursday, agreeing to build a "new partnership toward the 21st century" on the heels of Obuchi's "deep remorse and heartfelt apology" to the South Korean people for the "great pains and damage" inflicted during Japan's colonial rule.

The Emperor and Empress bade farewell Friday morning to Kim and his wife Lee Hee Ho at the Akasaka State Guesthouse where the South Korean couple have been staying since their arrival Wednesday.

Kim expressed deep appreciation to the Imperial Couple for being welcomed in Japan, and told them that he had extended a formal invitation for them to visit South Korea through Obuchi the previous day, an Imperial Household Agency official said.

The Emperor thanked Kim as the president vowed to work with Japan to "create an environment" that paves the way for such a state visit, the official said.

While explaining the declaration, Kim told the Emperor that "efforts by both nations to become truly close . . . will contribute to world peace and prosperity," the official said.

The Emperor indicated his understanding by "nodding" to Kim's comments, he added.

During the interview with South Korean reporters, Kim was quoted as saying, "It is unnatural that an (Imperial) visit has not materialized yet, after 33 years of normalized diplomatic relations."

SOUTH KOREAN PRESIDENT Kim Dae Jung (center) — along with former Prime Ministers Ryutaro Hashimoto (left), Noboru Takeshita (second from left), Toshiki Kaifu (second from right) and Democratic Party Leader Naoto Kan (right) — claps after a speech by former Prime Minister Yasuhiro Nakasone during a luncheon Friday at the Government Guesthouse in Akasaka. AP PHOTO

OSAKA — South Korean President Kim Dae Jung (right) sips champagne as Osaka Gov. "Knock" Yokoyama proposes a toast Friday. KAMO IDA PHOTO

Kim on Kansai leg

After arriving in Osaka from Tokyo on Friday afternoon, South Korean President Kim Dae Jung and his wife, Lee Hee Ho, met Korean residents of the Kansai region at an Osaka hotel.

In front of more than 700 participants, Kim thanked Korean residents for the help they offered when the country was hard hit by the financial crisis, heavy rains and flood.

Kim told the participants that he was treated in the best manner by the Emperor, the government and Japanese people during his visit to Tokyo, stressing that the visit, which was made in a new era for the two countries, was fruitful.

"It was the first time that words of apology were written in the joint declaration. That is significant," he said.

Following the meeting, Kim attended a banquet jointly sponsored by major organizations in Kansai with about 100 guests including Osaka Gov. "Knock" Yokoyama.

Yokoyama said that the Kansai region including Osaka has a strong tie with South Korea as many Korean residents live in the area and hoped that the relation will be further fostered by Kim's visit.

According to the Korean Residents Union in Japan, out of 670,000 Korean residents in Japan, about 320,000 live in the Kansai region, 180,000 of whom live in Osaka Prefecture.

After Yokoyama's speech, Kim encouraged businesses in the region to make investments in South Korea.

Kim and his wife will return to South Korea this afternoon.

Pre-World Cup visit

South Korean President Kim Dae Jung expressed hope that the Emperor will visit South Korea before the 2002 World Cup soccer finals to be cohosted by the two countries.

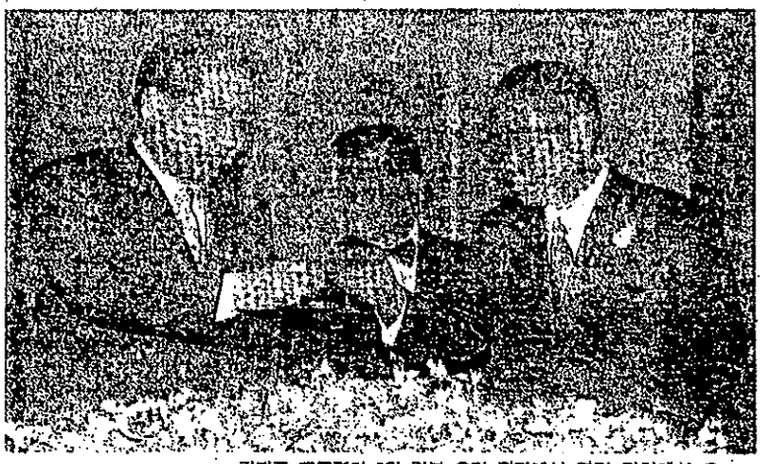
"I hope (the visit) will be realized before 2002," Kim said in an interview with NHK Thursday evening.

朝鮮日報 10月9日 1面

조 선 일 보 西紀 1998年 10月 9日 金曜日

韓-日 정상회담 매년 개최

양국頂上 '21세기 파트너십' 선언



◇만찬 건배 김대중 대통령이 8일 일본 총리 관저에서 열린 만찬에서 오부치 총리와 건배하고 있다.

<東京=金枝昊기자·khkim@chosun.com>

"日문화 빨리 개방" 金대통령

6者회담 제의-과거사 깊이 사죄 오부치총리

[도쿄=金枝昊기자] 김대중(金大中) 대통령은 8일 일본 방문 이틀째인 8일 오전 도쿄 영빈관에서 오부치 게이조(小渕恵三) 일본총리와 단독회담 및 확대정상회담을 가진 뒤 공동 기자회견을 통해 과거사(過去史) 인식을 포함한 「21세기의 새로운 한일 파트너십 공동선언」을 발표했다.

▼관련기사 2·3·4면

김 대통령과 오부치 총리는 공동선언에서 과거 식민지 지배와 관련, 「통절한 반성과 마음 깊은 사죄를 했다」고 밝혔다. 김 대통령은 「이를 위해 한국 국민에게 대한 손해와 고통을 안겨줬다는 역사적 사실을 진솔하게 인정하고 이에 대해 통렬(痛烈)한 반성과 마음 깊은 사죄를 했다」고 밝혔다. 김 대통령은 「이를 진지하게 받아들이고 용서한다는 뜻」이라고 밝혔다. 김 대통령은 「나는 이미 몇 차례 일본 정상회담에서 오부치 총리의 조기 방한도 진심으로 초청했다」고 말했다.

김 대통령은 또 「일본과 북한 간 국교정상화 회담 진행의 개최 촉구」 등 5개 분야 43개 항목의 「행동계획(Action Plan)을 채택했다」고 밝혔다.

오부치 총리는 공동선언에서 「일본이 과거 한때 식민지 지배로 인해 한국 국민에게 다대한 손해와 고통을 안겨줬다는 역사적 사실을 겸허히 받아들이면서 이에 대해 통렬(痛烈)한 반성과 마음 깊은 사죄를 했다고 밝혔다」고 말했다. 오부치 총리는 「이를 진지하게 받아들이고 용서한다는 뜻」이라고 밝혔다. 김 대통령은 「나는 이미 몇 차례 일본 정상회담에서 오부치 총리의 조기 방한도 진심으로 초청했다」고 말했다.

이어 김 대통령은 「나는 이미 몇 차례 일본 정상회담에서 오부치 총리의 조기 방한도 진심으로 초청했다」고 말했다.

김 대통령은 또 「일본과 북한 간 국교정상화 회담 진행의 개최 촉구」 등 5개 분야 43개 항목의 「행동계획(Action Plan)을 채택했다」고 밝혔다.

오부치 총리는 공동선언에서 「일본이 과거 한때 식민지 지배로 인해 한국 국민에게 다대한 손해와 고통을 안겨줬다는 역사적 사실을 겸허히 받아들이면서 이에 대해 통렬(痛烈)한 반성과 마음 깊은 사죄를 했다」고 밝혔다. 김 대통령은 「이를 진지하게 받아들이고 용서한다는 뜻」이라고 밝혔다.

朝鮮日報夕刊 10月9日 2面

"한국에 투자를" 세일즈外交 바빠

衆·參議員600명 앞 연설…NHK 생중계

"日내중문화 개방" 대목서
가장 큰 박수받아…
오부치 총리관저의 만찬참석

〈東京=金鍾鎬기자, jongkim@chosun.com〉

金大統領
日本訪問
("2日目スケッチ")

"韓国に投資を" セールス外交に忙しく

衆·参議員600名の前で演説… NHK生中継

"日本大衆文化開放" 山場に

最も大きな拍手受け…

小渕 総理官邸で夕食会参席

The Chosun Ilbo 朝鮮日報 西紀 1998年 10月 9日 金曜日 3面

"과거는 접고 미래로 나가자"

김대중 日本방문

월드컵 공동개최를 협력 계기로

日, 햇볕정책 지지…KEDO 필요성 인정

◇日의원들 기립박수 김대중 대통령이 8일 오후 일본 참의원 본회의장에서 연설을 마친 후 의원들의 기립박수를 받고 있다. <東京=金性民기자·jinokim@chosun.com>

【東京=決定取材】김 대중(金大中) 대통령과 신동(辛東)인사를 일국 정 오부치 게이조(小渕恵三) 일본 총리는 전상회 포함시켜 공동성명에서 이 문제 를 적어도 절부 차원에 선 협력을 다짐하고 구 선언 "협력기틀 뿐다, 체전인 협력계획까지 마 오부치 총리는 양국도 일본내 일부 인사들의 불쾌감을 유발한 발언으로 국민 감정을 건드리는 일이 없도록 해달라는 김 대 통령의 요청에 대해 분 서로 해결했다니 그런 일이 반복되지 않을 것 이라고 답변했다. 오부 치 총리는 기자회견에서 도 "(일본의) 해외진출 보들이 절부 일부를 존 중할 것이다"고 말하 께 말했다.

양국 정상은 이런 과 기자 배를 통해 전 북아에 걸 북진정책의 개최, 공 동 대응 등 모두 10개항에 합의했고 아시 아 경제위기 극복을 위 아키히로 일왕(明仁)이 방한할 수 있을 것이라는 데도 의견을 모았다.

양국 정상은 특히 2002년 월드컵 공동개 최키 "국민적 협력관계 로 했다. 동북아 평화와 안정, 번영을 위해 남북 한 주변 4강이 참여하 는 6자 회의체가 필 요하다는 데 의견을 같 이 했다.

김 대통령은 일본문화 개방 방침이 권이 있는 듯했으나 오 의 단계적 개방 방침이 부치 총리는 일본 국민 이런 분위기를 만드는 데 기여할 것으로 기대 했고, 기대대로 분위기 가 호전되면 원만한 공 동개최 이전에 아키히로 일왕(明仁)이 방한할 수 있을 것이라는 데도 의견을 모았다고 양국 정상은 외교안보 분야에서도 힘을 모으기 로 했다.

양국 정상은 외교안보 최키 "국민적 협력관계 로 했다. 동북아 평화와 안정, 번영을 위해 남북 한 주변 4강이 참여하 는 6자 회의체가 필 요하다는 데 의견을 같 이 했다.

김 대통령은 일본문화 개방 방침이 권이 있는 듯했으나 오 의 단계적 개방 방침이 부치 총리는 일본 국민 이런 분위기를 만드는 데 기여할 것으로 기대 했고, 기대대로 분위기 를 전환면선도 기폐의

도 김 대통령의 대북포용 정책에 대한 지지를 표명했고, 한반도 에너지개발기구(KEDO)사업의 필요성을 인정했다. 김 대통령은 대신 유연에서의 일본의 역할을 지지했다.

양국 정상은 "과거 지향적인 관계가 정상으로 미래지향적으로 나가기 위해서는 양국 국민이 서로 마음의 문을 열어야 한다"는 점에서 양국 국민의 용 기를 요청했다. 결국 가장 가깝지만 멀었던 두 나라를 가장 가까운 관계로 발전시키겠다는 의욕적으로 내보였고 오부치 총리도 이를 받아들인 것이었다.

<hhong@chosun.com>

"過去は折り畳み 未来へ進もう"

—金大統領日本訪問 首脳会談の意味—

ワールドカップ共同開催を協力の契機に

日本、太陽政策支持…KEDOの必要性認める。

◇写真：日本の議員ら起立拍手

金大中大統領が8日午後、日本参議院本会議場で演説を終えた後、議員たちの拍手を受けている。

- 「近くて遠い国」の両国を最も近い関係に発展させる、という意志を金大統領が意欲的に示し、小渕総理もこれを受け入れた会談であった。

朝鮮日報 10月9日 3面

공동기자회견 일문일답

【東京=洪準浩기자】 —아키히로(明仁) 일왕의 방한 초청을 했는데.

▲김 대통령=기본조약 체결한뒤 공동기자회견을 가졌다.

—과거 일본의 사과성 발언이 있었으나 번번이 이를 왜곡하는 발언이 나와 별 성과를 거두지 못했다.

▲오부치 총리=일본 정부는 공동선언을 통해 일본이 과거 한국에 다대한 손해를 끼치고 고통을 안겼던 역사적 사실을 겸허히 인정했으며 김 대통령은 이를 진지하게 받아들였다. 이번에는 양국 정상이 문서를 통해 서명했다는데 의미가 크다. 일본 정부의 책임있는 사람들이 서명했기 때문에 앞으로 이를 왜곡하는 발언은 하지 않을 것이며 정부의 입장이 명확히 천명됐기 때문에 일본 국민들도 이를 존중할 것으로 본다.

▲김 대통령=모든 여건이 과거와 다르고, 또 앞으로 달라져야 한다. 일본 정부의 과거사 표명은 문서화됐다는게 지금까지와는 대단히 다른 것이다. 한국을 직접 지칭하고 우리에게 가한 피해를 반성 사죄하는 뜻을 표했기 때문에 그 무게가 과거와는 다르다. 그러나 아무리 선언의 내용이 좋아도 양국 지도자와 국민의 성의있는 뒷받침이 있어야 유종의 미를 거둘 수 있으므로 노력을 해야 한다.

金대통령

납치사건 진상규명 필요
내의견도 장차 밝히겠다

—일본 대중문화 교류의 의미는.

▲김 대통령=대중문화를 단계적으로 개방하겠다고 해왔는데 상당한 속도를 갖고 개방할 수 있기를 바란다. 문화교류를 순조롭게 하기 위해 한-일 문화교류협의회를 만들자고 제안했고 오부치 총리가 이를 수락했다.

—25년전 도쿄납치사건에 대해 방일중 한마디도 하지 않았는데.

▲김 대통령=지난 80년 5·17 군사쿠데타 전에 본인의 납치문제에 대한 생각을 밝힌 바 있다. 납치사건과 관련해 양국 정부에 어떤 문제도 제기하지 않고 관련자의 처벌도 요구치 않겠다는 것이었다. 다만 인권문제이기 때문에 사건의 진상이 밝혀져야 한다는 주장이었다. 지금도 그런 입장에 변화가 없다. 진상을 밝힐 수 있는 적절한 방법이 있을 수 있다는 생각이며 장래 필요한 경우 의견을 밝힐 수 있을 것이다.

—정상회담의 경제적 의미는.

▲김 대통령=경제는 경제이니만큼 일본 투자가들이 한국에서 이익을 볼 수 있도록 하고 무역도 상호이익의 원칙하에서 추진하겠다. 일본에 불리했던 수입다변화 정책도 기한을 앞당겨 폐지하는 것을 추진하고 있다.

오부치총리

역사적 사실 겸허히 인정
앞으로 왜곡발언 없을것

이 체결된지 33년이 지났는데도 천황의 방한이 이루지지 못한 것은 부자연스런 일이다. 2002년 월드컵 공동주최라는 공동목표도 있고 있으며 그 사이에 일본 대중문화가 단계적으로 한국에 개방되면, 그런 가운데 천황의 영접이 따뜻하게 이뤄질 수 있도록 분위기를 조성하는데 노력할 것이다.

—일본 대중문화교류의 의미는.

▲김 대통령=대중문화를 단계적으로 개방하겠다고 해왔는데 상당한 속도를 갖고 개방할 수 있기를 바란다. 문화교류를 순조롭게 하기 위해 한-일 문화교류협의회를 만들자고 제안했고 오부치 총리가 이를 수락했다.

—25년전 도쿄납치사건에 대해 방일중 한마디도 하지 않았는데.

▲김 대통령=지난 80년 5·17 군사쿠데타 전에 본인의 납치문제에 대한 생각을 밝힌 바 있다. 납치사건과 관련해 양국 정부에 어떤 문제도 제기하지 않고 관련자의 처벌도 요구치 않겠다는 것이었다. 다만 인권문제이기 때문에 사건의 진상이 밝혀져야 한다는 주장이었다. 지금도 그런 입장에 변화가 없다. 진상을 밝힐 수 있는 적절한 방법이 있을 수 있다는 생각이며 장래 필요한 경우 의견을 밝힐 수 있을 것이다.

—정상회담의 경제적 의미는.

▲김 대통령=경제는 경제이니만큼 일본 투자가들이 한국에서 이익을 볼 수 있도록 하고 무역도 상호이익의 원칙하에서 추진하겠다. 일본에 불리했던 수입다변화 정책도 기한을 앞당겨 폐지하는 것을 추진하고 있다.

共同記者会見 一問一答

〔小渕首相〕

歴史的事実 謙虚に認める
これからは歪曲発言 ないだろう

〔金大統領〕

拉致事件 真相究明 必要
私の意見も 今後 明らかにするつもり

朝鮮日報　10月9日　3面

＜過去史謝罪、専門家の意見＞
「巧妙な修辞…真のおわび(謝過)回避の印象」
「歴史教育など共感をひろげる努力必要」

●[illegible]・ソウル大学社会科学大学長＝今回のおわび(謝過)(ママ)(以下、同様)は、過去と比べて全く進展していない。日本の国家元首である日王(ママ)は、巧妙な修辞で意図的におわびを避けた。総理のおわびを文書に記したのも意味がない。議員の妄言が一言でもなされたら、元の通りだ。最小の議員決議でもあるべきであろう。慰安婦被害者や徴用勤労者に対する国家賠償、在日同胞の法的地位改善、貿易赤字累増の解決等を解決しようという行動が始まるとき、はじめて過去史の整理が始まると言える。日本の過去史の歪曲された歴史を正すことこそ、何よりも重要な過去史の整理なのである。

●[illegible]・外交安保研究院研究部長＝今回の共同宣言は、過去の清算の契機を整えたというところに意味がある。これを一つの契機とし、実質的なことを行っていくことが重要だ。今後、歴史教育等、相互の共感を拡大していくこと努力が必要だ。一回の共同声明で、「しこり」はなくなりはしないだろう。ただし、慰安婦の問題等に対しては、日本側の実質的な処置が要求されよう。

＜首脳会談、日本の報道の反応＞
「過去史問題一段落…韓日関係転換点」

＜日本、常任理事国支持するのか＞
「日本、事実上支持表明…政府ノーコメント」

朝鮮日報 10月9日3面

"교묘한 修辭… 진전된 사과 회피 인상"

"역사교육등 공감대 넓히는 노력 필요"

과거사 사절 전문가 의견

◆신용하(愼鏞廈) 서울대 사회과학대학장=이번 사과는 과거와 비교할 때 전혀 진전된 것이 아니다. 일본의 국가원수인 일왕은 『과거에 이미 슬픔을 표명한 바 있다. 아직도 이 생각을 가지고 있다』는 교묘한 수사로 의도적으로 진전된 사과를 회피한 인상을 준다.

총리의 사과를 문서에 담았다는 것은 의미가 있다. 의원이 망언 한마디 하면 원상회복이다. 최소한 의회 결의라도 있었어야 의미가 있다. 정부가 만약 이를 끝으로 과거사 문제를 덮는다면 국민여론을 등지는 것이다.

진정한 과거사 청산을 위해서는 물론, 일본의 실제적 행동이 필요하지만 액션 플랜에도 전혀 반영이 안됐다. 위안부 피해자와 징용 근로자들에 대한 국가배상, 재일동포 법적 지위개선, 무역적자 누증 해결 등을 해결하려는 행동이 시작될 때 비로소 과거사 정리가 시작되는 것이다. 일본 교과서에 들라 있는 왜곡된 역사를 바로 고쳐놓는 것이야말로 무엇보다 중요한 과거사 정리다.

◆윤여민(尹餘敏) 외교안보연구원 연구부장=이번 공동선언은 과거 청산 계기를 마련한다는 데 의미가 있다. 하나의 계기로 삼아 실질적인 일들을 해 나가는 것이 중요하다. 앞으로는 역사교육 등 상호 공감대를 넓히는 노력이 필요하다. 이번의 공동성명으로 그동안의 응어리가 풀리지는 않을 것이다. 과거사 사과를 계속 요구하는 것은 양국 관계를 악화시켜 일본내 불만만 쌓이게 된다. 이미 친한(親韓) 인사조차 사과문제에 대해서는 혐오감을 갖는 수준이 됐다. 다만 위안부 문제 등에 대한 일본측의 실질적인 조치를 요구한다.

정부 입장에서는 2002년 월드컵 공동개최와 경제문제 해결 등을 위해 이번 방문이 일종의 신뢰구축을 위한 데드라인일 수도 있었다. 이번 사과로 정부 차원의 인급은 앞으로 어려워지겠지만 일본이 말도 안되는 행동을 할 경우 공동선언에 위반된다는 이유로 다시 문제를 제기할 수는 있을 것이다.

"과거사문제 일단락… 韓日관계 전환점"

"정상회담 日언론 반응"

【東京=李淸기자】 일본 언론들은 8일 한일 정상이 발표한 공동선언에 대해 21세기의 미래지향적 한일관계로 나아가는 전환점을 마련했다고 높이 평가했다.

특히 역사인식 문제와 관련, 양국 정상이 공동선언이란 외교문서의 형태로 해결 의지를 직접 명기했다는 점을 들어 「과거사 문제를 일단락 지었다」는 반응을 보였다.

공동 기자회견을 생중계한 일본 공영방송 NHK는 김대중(金大中) 대통령의 발언 내용 가운데 『20세기는 민족주의와 국가 중심의 시대였다면 21세기는 세계가 하나가 되는 시대로, 금세기의 불행을 금세기 안에 매듭지어야한다』고 말한 대목을 소개하면서 「정상간 결단에 의한 과거 청산」에 대해 긍정적인 평가를 나타냈다.

언론들은 정상회담이후 향후 과제에 대해 한국의 경제위기 극복, 북한 미사일 발사 문제 공동 대응, 일왕 방한(訪韓) 등을 최대 현안으로 꼽았다. 또 김대통령이 동포 간담회 등을 통해 촉구한 재일교포의 지방참정권 문제도 양국 정부가 앞으로 해결해나가야할 주요 과제로 지적했다. 마이니치(毎日) 신문은 「정상회담의 실질적인 성패는 이들 문제에서 한일 양국이 얼마나 상호협력 체제를 구축해나갈 수 있느냐에 달려있다」고 말했다.

일 정부의 한 관계자는 『정상간 만남 한 번으로 한일 관계가 당장 이렇게 바뀐다기보다는 변화의 전기가 마련된 것일뿐』이라고 냉정히 평가하기도 했다. 특히 일본측의 가장 민감한 관심사인 일왕 방한 문제가 실현되는 데는 많은 노력과 시간이 걸릴 것이라는 반응을 보였다.

이와 관련, 일 정부는 일왕 방한을 「적극 검토한다」는 원칙하에 월드컵이 열리는 2002년을 축으로 시기를 조정한다는 방침인 것으로 알려졌다.

<junlee@chosun.com>

日 "사실상 지지 표명"… 정부 "노코멘트"

"일본 상임이사국 지지 표명"

「김대중 대통령은 국제연합을 비롯한 국제사회에 대한 일본의 기여와 역할이 증대되는 데 대한 기대를 표명했다.」 8일 발표된 한일 양국의 공동선언문 내용 중 이 부분 해석을 놓고 양국이 미묘한 신경전을 벌이고 있다.

일본 언론은 이를 근거로 「일본의 상임이사국 진출 지지 시사」라고 해석하고 있고 일본 정부 관계자들도 자국 언론에 『이는 사실상 지지를 표명한 것』이라고 설명하고 있는 것으로 전해졌다.

이에 대한 정부 공식 입장은 『노 코멘트』다. 『대꾸할 필요가 없기 때문에 말하지 않는 것』이라는 게 외교부 당국자의 부연 설명이다. 이 당국자는 『일본은 당초 협상과정에서 「안보리 진출 지지」를 요구했었다』며 『지지한다는 인상을 주지 않으면서 일본 요구를 반영하는 듯한 문구를 절충해서 넣은 것』이라고 설명했다.

또 『문맥 흐름에 따른 유추해석도 불쾌하기 위해 유엔의 5가지 역할강화 방안을 「기대표명」 앞부분에 먼저 넣었다』고 말했다.

결국 한국정부 뜻은 일본이 유엔 재정에 더 많이 기여하고 평화유지 활동에도 참여하며, 개발도상국 경제개발에 역할을 다하라는 의미에서 이 문장을 넣은 것이지 「다른 뜻」으로 해석하는 것은 비약이라는 것이다.

<權大烈기자·dykwon@chosun.com>

朝鮮日報　10月9日　5面

＜社説＞

見出し：韓―日関係の「新しい枠」

要旨　：「近くて遠い国」という言葉に象徴される韓国と日本の長い歳月にわたる不幸だった過去が、昨日の両国の首脳会談を契機に新しい転機を迎えることを願う。「過去史」の整理については相変わらず不十分だという意見もあることはあるが、共同宣言文及び行動計画の内容を見る時、それでも両国の関係がこれまでとは違った方向に向き始めたというのが我々の判断である。今回の首脳会談に関し我々が評価することは、韓日両国がもうこれ以上過去史にのみこだわらず、未来志向的にあらゆる問題を解決していくことを誓ったという点である。

もちろん、同伴者関係と相互協力の確約は、これまでも首脳会談がある度にくりかえされてきたことで特別新しいものではない。だが、今回は具体的な行動計画までつくって宣言文に盛り込んでいるので、一応、今後の韓日関係の発展に小さくはない期待を持たせてくれている。両国の指導者が経済協力と韓国半島緊張緩和に比重を傾けつつ、これらを行動計画に具体化したことは一歩進んだものと言えよう。

しかし、重要なことは「宣言」や「計画」ではない。このような宣言文や行動計画をどのくらい実践するかということだ。日本政府は今までも幾度も約束し宣言してきたが、実際に生じた結果は失望するものだった。

今回の首脳会談では、ある面では日本よりも我々政府がより包容性をもって臨んだのではないかと思われる。過去史の教科書記述と慰安婦問題など、韓国人の感情にかかわる部分は日本側に一任したまま切り抜けたことなどからみてもそう言えよう。もちろん、「過去史の整理」に日本政府が以前よりはより正直且つ具体的な態度を示し、また、これを文書化した点は認めなければならないであろう。韓日関係の未来のために、とりあえず態勢は整えられた。あとは、この実践のための両国の意志である。（了）

朝鮮日報 10月9日 5面

社 說

韓-日 관계의 「새 틀」

「가깝고도 먼 나라」라는 말로 상징되는 한국과 일본의 오랜 세월에 걸친 불편했던 관계가 어제의 양국 정상회담을 계기로 새로운 전기(轉機)를 맞게 되기를 바란다. 「과거사」 정리와 관련해선 여전히 미흡하다는 의견이 있긴 하지만, 공동 선언문 내용과 그 행동계획 내용을 볼때 그런대로 두나라 관계가 이제까지와는 다른 방향으로 풀어섰다는 것이 우리의 판단이다.

이번 정상회담과 관련해 우리가 평가하는 것은 한-일 양국이 더는 과거사에만 매달리지 말고 미래지향적으로 모든 문제를 풀어가기로 다짐했다는 점이다. 김대중 대통령과 오부치 일본총리는 그같은 미래지향의 정신으로 한-일 두나라가 『20세기의 불편했던 관계를 매듭짓고 21세기를 향해 새로운 동반자 관계를 구축하자』고 선언했다. 물론 동반자 관계와 상호협력 다짐은 지난날에도 정상회담이 있을 때마다 되풀이한 것이어서 크게 새로운 것은 아니다. 그러나 이번엔 구체적인 행동계획까지 만들어 선언문에 함께 집어넣고 있어 일단은 앞으로의 한-일 관계 발전에 적지 않은 기대를 갖게 해주고 있다.

특히 주목되는 것은 선언문을 구체적으로 실천하기 위한 행동계획 내용이다. 행동계획에는 양국간 현안에 관련한 것들 뿐만 아니라 국제평화, 환경문제, 마약, 범죄문제 등 범세계적 관심사들에 관한 협력도 함께 담겨있다. 양국 지도자들이 경제협력과 한반도 긴장완화 문제를 비중있게 다루면서 이를 행동계획으로 구체화한 것은 진일보한 일이다.

그러나 중요한 것은 「선언」이나 「계획」이 아니다. 우리의 관심사는 이같은 선언문과 행동계획들을 얼마나 구체적으로 실천하느냐 하는 것이다. 과거의 경험으로 보아 낙관할 수만 없다는 것이 우리의 솔직한 생각이다. 일본 정부는 지난날에도 비슷한 내용으로 여러차례 약속하고 선언도 했지만 실제로 나타난 결과는 실망스러운 것이었다.

이번 정상회담은 어떤 점에선 일본보다는 우리 정부가 더 포용적으로 임하지 않았나 생각한다. 과거사의 교과서 기술과 위안부 문제 등 한국인들의 정서와 관련된 부분을 일본측에 일임하고 그대로 넘긴 것이 그런 것들이다. 물론 「과거사 정리」에서 일본 정부가 종전보다는 더 솔직하고 구체적인 태도를 보이고, 또 이를 문서화 했다는 점은 인정해야 할 것이다. 한-일 관계의 장래를 위해 일단 커다란 틀은 잡혔다. 남은 것은 이의 실천을 위한 양국의 의지다.

韓国日報 10月10日 1面

작별인사 김대중대통령 내외가 9일 오전 숙소인 영빈관으로 작별인사를 위해 예방한 아키히토 일본천황 내외를 맞아 반갑게 악수하고 있다. /도쿄AP=연합

別れのあいさつ
金大中大統領夫妻 9日午前、宿所の迎賓館で別れのあいさつに訪れた明仁天皇(ママ)夫妻を迎え、うれしそうに握手している。

"위안부문제 해결돼야"

도쿄납치사건 진상도 반드시 규명"

金대통령 오늘 귀국

김대중(金大中)대통령은 9일 『본인에 대한 도쿄(東京)납치사건의 진상은 반드시 밝혀져야 하며 군대위안부 문제도 세계의 양심이 승복하도록 해결돼야 한다고 생각한다』고 말했다.

김대통령은 이날 도쿄 방문 일정을 마치고 오사카(大阪)로 떠나기에 앞서 일본내 친분인사 60여명을 초청해 마련한 다과회에서 이같이 밝혔다. 김대통령은 『납치사건과 군대위안부 문제뿐 아니라 국내에서 많은 의문사로 억울하게 희생된 사건의 진상도 가려져야 하며, 그렇지 않으면 민주정부의 의미가 없다』면서 『이 문제를 시간을 두고 해결해 나갈 것』이라고 강조했다. ★관련기사 3·4면

김대통령은 이어 전직 일본 총리등 일 정계지도자들과의 오찬에서 『아시아의 평화와 안전을 위해 남북한과 미국, 중국 등의 4자회담과는 별도로 일본과 러시아가 참여해 대화와 협력하는 것도 필요하다』며 『6자회담 회의체』의 필요성을 제기했다. 김대통령은 이에 앞서 수행기자들과의 간담회에서 『상대가 나름의 성의를 표시할 경우 금도를 갖고 대하는 게 바람직한 태도』라며 우리 국민들도 일본의 반성과 사죄를 수용해 줄 것을 당부했다.

김대통령은 이날 오후 오사카에 도착, 재일동포 간담회와 간사이(關西)지역 주요단체 대표들과의 만찬을 잇달아 가졌으며 10일 오후 3박4일간의 방일일정을 모두 마치고 전용기편으로 귀국한다. /오사카=유승우기자

「慰安婦問題解決すべき、東京拉致事件の真相も必ず究明」
金大統領、今日帰国

金大統領は9日、「拉致事件の真相は必ず明らかにされねばならず、軍隊慰安婦問題も世界の良心が納得できるように解決されるべきと思う」と語った。

金大統領は、この日大阪へ発つ前に日本の親しい人60名を招き、「拉致事件や慰安婦問題だけでなく、国内で懸念となっている、やむなく犠牲が生じた事件の真相も明らかにすべきで、そうでなければ民主政府の意味がない」、「この問題は時間をおいて解決していくつもり」と語った。

"拉致事件 — '慰安婦'問題
必ず 真相 明らかに"
訪日 金大統領

朝鮮日報 10月10日 1面

"납치사건·「위안부」문제 반드시 진상 밝혀져야"

訪日 金대통령

【오사카(大阪)=洪準浩 기자】 김대중(金大中) 대통령은 일본 국빈 방문 사흘째인 9일 "한·일간의 새로운 협력시대는 상호간에 신뢰를 쌓을 수 있는 행동으로 뒷받침되어야 한다"며, 전날 한·일 양국이 공동 발표한 「21세기의 새로운 한·일 파트너십 공동선언」의 충실한 이행을 다짐했다. ▶관련기사 3면

김 대통령은 이날 오사카 임페리얼호텔에서 간사이(關西) 지역 주요 단체들이 공동 주최한 만찬에 참석, "이번 나의 일본 방문이 (양국간) 국민적 협력의 신시대를 열었다고 믿는다"며 이같이 말했다.

김 대통령은 이에 앞서 이날 오전 구니히로 마사오(國弘正雄) 전 일본 참의원 등 60여명의 일본내 지인(知人)들을 초청한 자리에서 "김대중 납치사건의 진상은 반드시 밝혀져야 하며, 정신대 문제도 세계의 양심이 승복할 수 있도록 해결돼야 하고, 이밖에도 많은 의문사로 억울하게 희생된 사건의 진상도 가려야 한다"고 말했다.

김 대통령은 "그간 은 시건들의 진상이 밝혀지지 않은 민 민주정부의 의미가 없다"면서 "나는 이 문제들을 시간을 두고 해결해나갈 것이라고 말했다.

<jhong@chosun.com>

◇日 前총리들과 김대중 대통령이 9일 일본 도쿄의 아카사카 영빈관에서 나카소네 전(前) 총리의 오찬 연설이 끝나자 박수를 치고 있다. 왼쪽부터 하시모토 전총리, 다케시타 전 총리, 김대중 대통령, 가이후 전 총리, 간 나오토 민주당대표. 【東京=AP聯】

◇日本 前総理らと

朝鮮日報 10月10日 3面

"사죄 文書化…日각료등에 구속력"

대통령 日本방문

"日보방한, 우리 국익에 도움"

「공동선언」은 성의있게 실천에 옮겨야"

◇"건배합시다" 김대중대통령이 9일 일본 간사이(關西)지역 주요 단체들이 공동 주최한 만찬에서 건배를 제의하고 있다. <大阪=金桂昊기자·jjhokim@chosun.com>

[東京=洪淳鴻기자] 김대중(金大中)대통령은 「가깝고도 가까운 나라」로 발전시키는 계기가 될 것이라 기대를 표시했다. 3박4일간의 일본 방문을 마치고 9일 오전 수행기자들과 간담회를 갖고 방일 결과에 관한 만족을 표시했다.

특히 한·일 양국이 「21세기의 새롭고 한·일 파트너십 공동선언」과 「일본개발협력 제한 조치 앞으로 가져오는 것이 양국관계를 발전시키는 것이라고 믿는다」고 말했다.

김 대통령은 또 과거 사 인식 문제를 공동선언에 포함, 시비의 여지가 없도록 사죄의 표현을 명확히 하였다고 강조했다. 이번 방일을 통해 한·일 양국이 21세기 미래지향적 협력관계를 구축해나가겠다는 의지를 보였다.

김 대통령은 이번 방일에서 「합국에 몇 번 사과해야 하느냐. 또 그 정부 차원에서는 과거 시비를 뚫어버리고 미래지향적인 협력관계를 구축해나가겠다는 의지를 보였다.

—과거사 문제와 양국이 다시 문제를 제기하는 것이 아니냐는 의견이 있는데, 과거의 사과가 분명치 않았고 충분치 않았다는 것이 문제가 되는 것이다.

—아키히토 일왕에 대한 사과 표현에 불만이 있는데, 일왕은 국민의 상징이고 일왕에 대한 사과는 일본 국민에 대한 사과이기 때문에 사과는 일왕이 하는 것이 맞다고 생각한다.

—일본이 북한에 식량지원 문제는 어떻게 되는 것을 봐가며 결정하겠다.

—한·일 정상회담 결과 비가 오는 것을 봐가며 개최 등 전체적인 득과 실을 계산하겠다.

—한·일 양국이 과거 과 화해에 불리스가 될 것이다. 앞으로 국민간 문제 해결 방안은 어떻게 해야 하나.

—일본 정부는 과거 전과 협력하여 반성사죄한 내용을 문서화한 것은 국민들의 감정을 누그러뜨릴 수 있는 계기가 될 것이다. 앞으로 양국 국민들이 서로 이해하고 아끼는 바탕이 되기 바란다. 이것이 가장 중요하다고 생각한다.

—일본 천황은 과거 전과 협력하여 반성사죄한 것은 국민들의 감정을 누그러뜨릴 수 있는 계기가 될 것이다. 앞으로 양국 국민들이 서로 이해하고 아끼는 바탕이 되기 바란다. 이것이 가장 중요하다고 생각한다.

—양국이 공동선언과 행동계획 등 합의된 것을 성의있게 잘 하나하나 실천해가는 것이 중요하다. 국민들도 그런 방향으로 협력해야 한다. 일본 일본도 대대적으로 국민운동을 하고 있다. 정계에서도 여야 모든 분들, 야당까지도 협력하고 있다. 이런 일본 분위기를 평가해 우리 자신도 잘 이해해 나가야겠다.

<hongg@chosun.com>

김대중대통령이 9일 오전 수행기자들과 간담회를 갖고 방일 결과에 관한 만족을 표시했다.

사흘째 스케치

[大阪=洪淳鴻·東京=李鎬哲기자] 김대중(金大中)대통령은 9일 도쿄(東京)에서 오사카로 이동, 국빈 방문 3일째 일정을 계속했다.

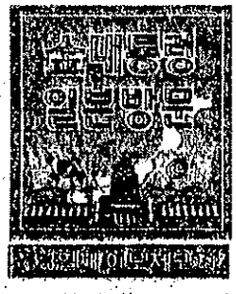
○…김 대통령은 도쿄 초등학교 학생대표와 간담회 등에서 간사이(關西)지역 주요단체 초청 간담회에 참석, 「일본 정계가 여야를 초월해 환영해준데 감사한다」고 말했다.

김 대통령은 이날 오사카 임페리얼 호텔에서 간사이(關西)지역 경제인연합회 등 지역 주요단체 초청 리셉션에서 「이번 방일이 고국 방문이라고 생각하고, 앞으로 그럼 일이 없어야 다」고 말했다. 특히 기관지 「아키히토 서울지국 개설을 희망하는 공방있다면서 「일본도 세산업의 후와 매쓰조(不破哲三) 위원장도 참석, 한 분은 시대를 맞아 한국과 함께 기꺼이 협력해 나갈 것이라고 말했다.

○…김 대통령은 이날 오사카 임페리얼 호텔에서 간사이(關西)지역 오사카 경제인연합회 등 지역 주요단체 초청 리셉션에서 「이번 방일이 고국 방문이라고 생각하고, 앞으로 그럼 일이 없어야 다」고 말했다. 특히 기관지 「아키히토 서울지국 개설을 희망하는 공방있다면서 「일본도 세산업의 후와 매쓰조(不破哲三) 위원장도 참석, 한 분은 시대를 맞아 한국과 함께 기꺼이 협력해 나갈 것이라고 말했다.

○…김 대통령은 이날 오사카 임페리얼 호텔에서 간사이(關西)지역

DJ, 日지인과 어울려 "우린 친구"



• 친분인사 초청다과

日참석자들 "납치 진상규명 계속"

• 정계 지도자 오찬

野당수 5명·前총리 7명 초청 환담

• 오사카 동포 간담

"고국위기때 외화송금 감사" 연설

김대중(金大中)대통령은 국빈방일 사흘째인 9일 아키히토(明仁)천황의 예방을 받고 작별인사를 하는 것으로 도쿄에서의 공식일정을 마친후 전용기편으로 오사카(大阪)에 도착했다. 김대통령은 도쿄를 떠나기 앞서 과거 민주화투쟁시절 도움을 준 일본의 학계·정계·언론계 지인 60여명을 초청, 다과회를 가진데 이어 정계 지도자들과도 오찬을 함께 하며 한일 공동선언의 성공적 실천을 위한 협력을 당부했다.

■ 친분인사 초청 다과회 김대통령은 숙소인 영빈관에서 한승헌(韓勝憲)감사원장, 최상룡(崔相龍)고려대 교수 등과 함께 일본의 오랜 지인들을 만나 과거 지지와 성원을 보내준데 대한 감사의 뜻을 전했다. 김대통령은 이 자리에서 『그토록 걱정해주어 내가 죽지 않고 살아 대통령으로 찾아뵙게 됐다』면서 『한국의 대통령으로서, 인간 김대중으로서 기대에 어긋나지 않고, 나를 친구로 삼은 것을 자랑스럽게 느낄 수 있도록 하겠다』고 약속했다. 김대통령은 이들 친분인사들에게 그동안 양국 외교관계를 감안해 자제해왔던 『일본군 위안부문제』 『김대중 납치사건 진상규명』등 미묘한 문제에 대한 소신도 가감없이 털어놓았다. 참석자대표인 무사코지 킨히데(武者小路 公秀)쎄리스 여대교수는 『여기 모인 사람들은 일본 정부가 피해가고, 김대통령이 관용으로 넘어가려는 문제에 대해 결코 그냥 넘어가지 않을 것』이라며 납치사건 등에 대한 진상규명 운동을 계속 펼쳐나갈 것임을 강조했다.

김대통령은 다과회에서 테이블 마이크 대신 사회자용 스탠드 마이크를 사용하는등 시종 꺽뜻한 자세를 취했으며, 특히 즉석 연설을 통해 참석자들의 호칭을 『친구』라고 표현하는 등 친밀감을 표시하기도 했다.

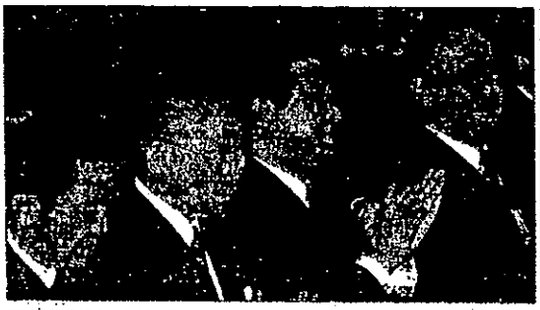
■ 전직총리 등과의 오찬 김대통령은 이어 일본의 야당 당수 5명과 전직총리 7명을 오찬에 초청, 일본 정계가 공동선언의 차질 없는 실천을 위해 협력해 줄 것을 당부했다. 오찬에는 나카소네 야스히로(中曾根康弘), 다케시타 노보루(竹下登)씨 등 전직총리와 칸 나오토(菅直人)민주당 대표, 오자와 이치로(小澤一郞)자유당당수, 도이 다카코(土井多賀子) 사민당당수 등이 참석했다. 김대통령은 인사말에서 『일본의 여야가 저의 방일을 환영하고, 한·일관계에서 20세기 초에 시작된 일을 20세기 안에 마무리하자는 외견을 지지해 준 것은 획기적인 일』이라며 감사의 뜻을 전했다.

김대통령은 특히 『오부치총리는 정성과 노력을 다해 이번 방일이 성공하도록 도와줬다』면서 『그는 어제 만찬이후 오늘 새벽까지 어업협정의 미진한 부분을 마무리할 수 있도록 돕워주기도 했다』며 오부치총리에게 각별한 고마움을 표시했다.

■ 동포 간담회 김대통령은 이날 오후 간사이(關西)신공항에 도착, 숙소인 데이코쿠(帝國)호텔로 향하는 도중 태극기와 일장기를 흔드는 재일동포 시민, 학생들의 열렬한 환영을 받았다. 뜻밖의 환영인파를 만난 김대통령은 일본 경호측의 만류를 물리치고 차에서 내려 10여분간 악수를 나누기도 했다. 600여명이 참석한 동포간담회에서도 김대통령은 직설적인 표현과 유머를 섞어가며 즉석 연설을 해 시종 훈훈한 분위기가 계속됐다. 김대통령은 『동포 여러분은 일제에 핍박한 고통을 방하면서도, 기반을 잡고 자식을 당당하게 키웠다』면서 『외환위기 때 3억달러가 넘는 돈을 송금해주는 등 잊을 수 없는 고국 사랑을 보내준데 대해 충심으로 감사한다』고 말했다.

김대통령은 『민단은 과거 여당을 지지해야 했지만, 이제는 공항에서 야당을 지지한다고 성명을 내도 아무일 없을 것이라며 『하지만 나를 지지해주면 더 좋다』고 조크를 던졌다. 김대통령은 『오부치총리에게 동포들이 꼭 지방참정권을 행사할 수 있게 해달라고 요청했다』며 『여러분이 지방공무원이 되는 날까지 계속 노력할 것』이라고 다짐해 큰 박수를 받았다.

김대통령은 동포간담회에 이어 일본 간사이지역 주요 단체들이 공동 주최한 만찬에 참석, 『외국인 투자환경이 획기적으로 개선된 한국은 간사이지역 경제계의 매력적인 투자대상』이라며 『역사적으로 한·일간 경제 및 문화 교류의 중심지였던 간사이 지역 경제계가 양국의 경제협력에 앞장서 달라고 당부했다. /오사카=유승우기자



김대중대통령이 9일 낮 정계지도자들을 초청해 가진 오찬간담회에서 나카소네 전총리의 인사말이 끝난 뒤 다른 참석자들과 함께 박수를 치고 있다. /도쿄=연합

김대중대통령부인 이희호여사가 9일 오전 작별인사차 예방한 아키히토 천황부인 미치코 여사를 맞아 환담하고 있다. /도쿄=연합

韓国日報 10月10日　　4面

DJ, 日本の知人と交わり"私たちは友人だ"

金大統領 日本訪問 "3日間 あれこれ"

• 親しい友人 招き 懇談会

日本の参席者たち "拉致 真相究明 続けて"

• 政界指導者 昼食会

野党首 5名・前総理 7名 招き 会談

• 大阪 在日同胞と懇談

"故国の危機に 外貨送金 感謝" 演説

韓国日報 10月10日 4面

양국 협력 이젠 상호 불신 없애야

日주요신문 "공동선언 의의 평가"

요미우리 "선언에 그치지 말아야"

마이니치 "정상들 자주 만나길"

요미우리(讀賣)·아사히(朝日) 등 일본 주요 신문들은 9일 한일 정상회담을 일제히 사설로 다루고 「과거를 묻어 버린 새로운 협력의 정신을 확고히 다져나가야 한다고 강조했다.

요미우리는 「과거를 극복한 협력」이 단순한 제목으로 끝나지 않도록 양국 국민이 역사 인식을 공유하기 위한 노력이 요구된다면서 「영웅적인 제스처」에 불과한 다양한 교류를 조속히 실행, 협력관계를 튼튼히 해야 한다고 주장했다.

아사히신문은 「강고한 우호를 다져 세계에 향해 나서라」 역사를 올바로 계승한 양국 관계가 동북아는 물론 (金大中)대통령의 말에 한일 양국이 협력해 상호 배워가야 할 것이라고 촉구했다. 도쿄(東京)신문도 「21세기를 향한 양국관계의 청사진을 그려갔다면 「문제는 실행이며 끈질긴 노력이 필요하다고 밝혔다.

산케이(産經)신문은 「과거와의 결별을 비롯 한 일련의 지극적인 제목의 사설에서 「양국 관계가 우리 나라의 역사 인식 문제 등 여러 문제를 해결하고 미래를 향해 나아

98.10.10. 毎日

日韓協調の基礎築いた金大中大統領来日

ミサイル危機が転機 武見氏
初めて価値観を共有 重村氏
KEDOが試金石に 姜氏

重村智計・論説委員

姜尚中・東大教授

武見敬三・外務政務次官

来日中の金大中韓国大統領は3日午後大阪入りし、19日には4日間の日程を終え帰国する。大統領は来日第一日の4日、韓国国会演説で「過去の歴史に引きずられることなく、未来に向かって進もう」とのメッセージを送った。このわかち合いの精神こそ、両国が21世紀に向かう共通のグランドデザインともいえるものだ。注目される。金大統領来日の意義などについて、武見敬三・外務政務次官、重村智計・毎日新聞論説委員、姜尚中・東大教授に聞いてもらった。

【聞き手・論説委員・政治部長】

---まず、金大統領来日の評価からお願いします。

武見氏　非常に大きな成果のある来日だった。ようやく日韓が自然な関係に戻ってきたという感じです。

重村氏　日本の政治家をかなりの数、韓国に招いたことは、韓国の国民感情を和らげる効果があったと思います。

姜氏　（韓国国民の）感情的な緊張を入り口にすぎないとは思います。そのために共同声明という形を取った。これがあるため、国内的に批判があっても、抑えられる。相手に対しても同様だ。

---歴史認識問題では、これまで閣僚の不用意な発言などで何度もつまずきがありました。

姜氏　それ（発言）を繰り返すと大変なことになる。ジャーナリズムでいろんな発言が出るのは当然だが、閣僚級のだがそういう発言はないようにしてほしい。

重村委員　日本は相当な国民感情部の感覚をすごい緊張を外に出さないようにしてもらいたい。韓国側は不用意な発言に敏感に反応するが、閣僚を始めとした政治家がそれぞれの言葉を言うのは自由なんだというふうな言葉を聞いてもらわないと困る。それが民主主義だ。

---金大中氏が大統領になり、対日姿勢がすいぶん変わっていると思いますが。

姜氏　韓国国民で一番へソ曲がりとされたのは日本だ。そういった感情が国際関係基金（KEDO）の設立に繋がる。しかし、日韓の中で過去を未来に繋がる。

重村委員　日本は相当な

武見氏　韓国は、さきほど指摘の認識が多くの政治家によって語られていることは歴史的だ。韓国はいろいろな問題、政府の公の立場で言われた時に、国民のなかに浸透するようなメッセージを送ることが大事だ。

姜氏　（歴史認識の）最終的な解決を入り口にすぎないとは思います。そのために共同声明という形を取った。これがあるため、国内的に批判があっても、抑えられる。相手に対しても同様だ。

---歴史認識問題では、これまで閣僚の不用意な発言などで何度もつまずきがありました。

姜氏　それ（発言）を繰り返すと大変なことになる。ジャーナリズムでいろんな発言が出るのは当然だが、閣僚級のだがそういう発言はないようにしてほしい。

重村委員　日本は相当な

武見氏　冷戦後、韓国は日本の経済協力を期待してきた。日本は韓国に対して、1965年、過去の問題を解決するということでできた体制だが、それでもずっと過去に引きずられてきた。それに終わりを告げ、日韓の国際戦略時代に入ってきた。歴史の問題でいえば、小渕恵三首相が、韓国国民に謝るという形で

重村智計・論説委員

姜尚中・東大教授

武見敬三・外務政務次官

日韓協調の基礎築いた金大中大統領来日

来日中の金大中韓国大統領は3日午後大阪入りし、19日には4日間の日程を終え帰国する。大統領は来日第一日の4日、韓国国会演説で「過去の歴史に引きずられることなく、未来に向かって進もう」とのメッセージを送った。このわかち合いの精神こそ、両国が21世紀に向かう共通のグランドデザインともいえるものだ。注目される。金大統領来日の意義などについて、武見敬三・外務政務次官、重村智計・毎日新聞論説委員、姜尚中・東大教授に聞いてもらった。

【聞き手・論説委員・政治部長】

---まず、金大統領来日の評価からお願いします。

武見氏　非常に大きな成果のある来日だった。ようやく日韓が自然な関係に戻ってきたという感じです。

重村氏　日本の政治家をかなりの数、韓国に招いたことは、韓国の国民感情を和らげる効果があったと思います。

姜氏　（歴史認識の）最終的な解決を入り口にすぎないとは思います。そのために共同声明という形を取った。これがあるため、国内的に批判があっても、抑えられる。相手に対しても同様だ。

---歴史認識問題では、これまで閣僚の不用意な発言などで何度もつまずきがありました。

姜氏　それ（発言）を繰り返すと大変なことになる。ジャーナリズムでいろんな発言が出るのは当然だが、閣僚級のだがそういう発言はないようにしてほしい。

重村委員　日本は相当な

武見氏　冷戦後、韓国は日本の経済協力を期待してきた。日本は韓国に対して、1965年、過去の問題を解決するということでできた体制だが、それでもずっと過去に引きずられてきた。それに終わりを告げ、日韓の国際戦略時代に入ってきた。歴史の問題でいえば、小渕恵三首相が、韓国国民に謝るという形で

---日韓協調の基礎築いた金大中大統領来日

---ミサイル危機が転機 武見氏

---初めて価値観を共有 重村氏

---KEDOが試金石に 姜氏

座談会　3氏の略歴

■武見敬三（たけみ・けいぞう）外務政務次官。1951年東京都生まれ。慶応大大学院法学研究科博士課程修了。台湾国立政治大、米ハーバード大留学。衆議院議員を経て同大平和戦略国際研究所教授。専攻は国際関係論。テレビのニュースキャスターも務めた。95年参院選比例代表で自民党から出馬し、初当選。

■姜尚中（かん・さんじゅん）東京大社会情報研究所教授。政治学専攻。1950年熊本県生まれ。早稲田大大学院政治学研究科博士課程修了。西独ニュルンベルク大留学。聖学院大大学教授などを経て98年から現職。著書に「在日の現在と未来」「ふたつの戦後と日本」「マックス・ウェーバーと近代」など。

■重村智計（しげむら・としみつ）毎日新聞論説委員。1945年中国・丹東生まれ。早稲田大法学部卒。71年4月毎日新聞社に入社し、ソウル、ワシントン特派員などを経て94年から現職。

98.10.10. 毎日

関西とも交流を促進

大阪入りの金大統領強調

国賓として来日中の韓国の金大中大統領は9日午後、奉仕活動家人とともに大阪入りし、在日韓国人らとの懇談会や地元産品の晩さん会に臨んだ。韓国の大統領が関西を訪れるのは4度目だが、国賓では初めて。

金大統領は、懇談会のスピーチなどで訪日について「国際的協力の新時代を開いた」「大きな成果があった」と述べ、日韓のパートナーシップを改めて強調した。また、在日韓国・朝鮮人の半数にあたる約30万人が住む関西との文化交流や経済協力の必要性を訴えた。大統領夫妻は10日に日本の文化人との懇談会に出席、4日間の訪日日程をすべて終え、帰国する。

午後3時10分過ぎ、関西国際空港に到着、金大統領は、大阪市内のホテルで西日本の在日韓国人ら約700人との懇談会に出席した。

この後、大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済同友会合全産の晩さん会があった。金大統領は「関西は『商都』という日本の伝統的価値が具現化された地域であり、在日韓国人社会との和やかにまく成し遂げられた所」と述べた。さらに、関西の経済界に韓国への経済協力をリードするよう要望した。【神崎 和也】

首相経験者らと昼食会で懇談

金大中・韓国大統領は9日、東京・元赤坂の迎賓館で首相経験者や野党党首との昼食会に出席した。大統領は、8日の日韓首脳会談で小渕恵三首相が韓国、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、米国、中国の「4者協議」に日本、ロシアを加えた「6者協議」構想を提唱したことについて、4者協議とは別途の枠組みとして協議し日韓両国が主導的役割を果たすべきだ、と強調。さらに「必要があればモンゴルを含めた国々で対話する機構をつくることが必要だ」と述べ、場合によっては「7者協議」とすることも考えるべきだと指摘した。

関西主要団体共催晩さん会で横山大阪府知事（左）と談笑する金大中・韓国大統領＝9日午後7時36分、尾崎裕芳撮

金大中大統領 発言からみた成果と課題

国賓として来日中の金大中・韓国大統領は9日、主要な公式日程を終えた。日韓両首脳は8日の共同宣言で「（両国を）高い次元の関係にしていく第一歩を踏み出した」（小渕恵三首相）、「友好協力の新時代を開いた」（金大統領）と、その成果を強調したが、その真価はこれから問われる。大統領の主な発言と、今後の課題をまとめた。

過去の歴史

「20世紀に起きた不幸は20世紀中に区切りをつけ、21世紀に向けて問題を清算しておきたい。韓国から過去の歴史を持ち出すことはないようにしたい」（首脳会談）

「歴史の清算」は、日韓両国民にとって、〝オオカミ少年〟のような意味だった。金大統領は、懇談会のスピーチなどで訪日について「国際的協力の新時代を開いた」「大きな成果があった」と述べ、日韓のパートナーシップを改めて強調した。また、在日韓国・朝鮮人の半数にあたる約30万人が住む関西との文化交流や経済協力の必要性を訴えた。大統領夫妻は10日に日本の文化人との懇談会に出席、4日間の訪日日程をすべて終え、帰国する。

午後3時10分過ぎ、関西国際空港に到着、金大統領は、大阪市内のホテルで西日本の在日韓国人ら約700人との懇談会に出席した。

この後、大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済同友会合全産の晩さん会があった。金大統領は「関西は『商都』という日本の伝統的価値が具現化された地域であり、在日韓国人社会との和やかにまく成し遂げられた所」と述べた。さらに、関西の経済界に韓国への経済協力をリードするよう要望した。【神崎 和也】

戦後の日韓関係

「戦後の日本の平和憲法下での安全保障政策と国際経済、開発途上国に対する経済支援など国際社会の平和と繁栄に日本が果たしてきた役割を高く評価する」

戦前、戦後という二つの日韓関係をトータルに言及した。

21世紀の日韓関係

「日本がアジアの経済回復のためのけん引車になることを願ってやまない。その過程で、韓日間の積極的な協力を望んでいる。韓国に直面したアジアの隣国に希望の光を示すことができると信じるからだ」（倉中晩さん会）

今回、最も多く言及した言葉の一つが「パートナーシップ」。経済面では日本を「アジアの機関車」と位置づけ、構造改革を求め、安保政策では朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の「ルビ問題」を念頭に「対北朝鮮調整体制」の維持を唱える。金大統領は、被害者としての過去を切り離し、各分野での対等な関係を強調することにより、現実味ある21世紀の日韓関係を描いてみせた。

政治信条

「（政治家として一番大切にしていることは）国民を夫と仰ぐことだ。国民を裏切るよりは自分の命を捨てる覚悟で生きてきた。原則を放棄し、現実に妥協して成功したとしても、歴史の中では結局敗者だ」（NHK報道番組のインタビュー）

金氏といえば、1973年の拉致事件。国会演説の冒頭で「拉致事件など、民主化運動の過程で生命を失いかけた私が、大統領としてこの席に座んでみると、感慨無量な心情を禁じえない」と述懐した。長年にわたる投獄、亡命生活の末に、自ら「韓国憲政史上初の平和的政権交代」を勝ち取った。「最も尊敬すべきは国民であり、最も愛すべきも国民だ」。何げない言葉にも重みがある。ただ、大統領の任期が切れる2003年2月まで韓国は山積している。

経済協力

「多くの東・西洋の識者たちが『アジア的価値』という言葉を口にしながら、アジアには西欧式民主主義は通じないとか、特別尚早という主張をし、その主張は権威主義的統治と管理経済の合理化に利用された。しかし、そのような主張は明白な誤謬だ」（国会演説）

行動計画に日本輸出入銀行融資の総額30億ドルや投資拡大の対韓経済協力が盛り込まれたことについて金大統領は、謝意とともに、自国経済の構造改革を遂行する強い決意を表明した。だが、韓国経済再生は容易でなく、国民の不満が爆発すれば、「外に救を求める」形で歴史問題での対日批判が再燃しない保証はない。その意味で、日本は「経済的に金大統領を支える」という課題を負った。

韓国国内 「歴史問題」と「経済協力」 訪日成果を評価

【ソウル9日大厚文】今回の金大中大統領の訪日について、韓国国内では「朝日関係の『新たな枠組み』」（9日付朝鮮日報社説）が生まれ「歴史問題の清算」と「経済協力」の両面で相当の成果を上げたと評価されている。歴史問題に関する日本側の「妥協」再発への警戒心など、懸念が残るとの見方は根強いものの、経済危機、不透明な朝鮮情勢など、韓国国内に横ったいた課題の相当部分が改善されたと感じる国民が多いのは事実だ。

金大統領の訪日中、最も目立ったのは韓国政府の強硬な対応ぶりだった。同行の韓国人記者団の記事によると、天皇陛下の「お言葉」があった7日の晩さん会直後に、青瓦台（大統領官邸）の朴智元スポークスマンが、わざわざ韓国人記者団の部屋を訪れ「お言葉」について「意味のある内容だった」と評価している」と述べた。

9日の韓国人記者団との懇談でも、大統領が歴史問題で（日本は）韓国に対して加害者として責任を明示し、謝罪を表明したと最大限に評価する発言を行った。

韓国人記者団の中には、「おわび」を「積極的な反省」の内容は「従来の水準を超えていない」とする見方もあったが、大統領と青瓦台が〝先手〟を打ったことで「歴史問題」は無難に処理された。

韓国マスコミも「天皇」を使用

また、訪日中、韓国マスコミの報道内容にも目に見える変化があった。

天皇の呼称を、従来の日本の王を意味する「日王」から「天皇」と変えた新聞、テレビが相次いだ。韓国紙・東亜日報は8日付朝刊に掲載した「社説」で「隣国の国家元首に対する呼称は、その国で呼ぶ通りに使うのが外交的慣例」と説明して、「天皇」表記を使うことを公式に宣言した。公共KBS放送も7日午後9時のメーンニュースの時間に、東亜日報と同様の理由で、「天皇」呼称を使うことを視聴者に説明した。これも9月に、青瓦台が国内向けの呼称を従来の「日皇」から「天皇」に変える決定をしたのを受けた動きだったことは明らかだ。

韓国国内で歓迎ムードを盛り上げたうえで、日韓経済交流、経済支援などの「実利」を強調して、韓国国民に友好進展への協力を呼びかけたあたりに、金大統領の老練な政治手腕が発揮されたと言えよう。

98.10.10. 朝日

「秀吉」避け、国会演説 何度も推敲

金大中大統領訪日の舞台裏語る

特別随行員 崔相龍教授

金大中韓国大統領の日韓関係に関するブレーンで、特別随行員として来日中の崔相龍高麗大政治学科教授は八日夜、東京都内で朝日新聞記者のインタビューに応じ、大統領が今回の訪日で国会演説を最も重視し、自ら推敲を重ねた様子などの舞台裏を語った。

大統領が今回の訪日で一番神経を使ったのは国会演説だ。何度も練り直して手を入れた。日本国民へのメッセージとして、日本の国民感情を傷つけないよう、ぎりぎりの努力をした。

「四百年前に日本が韓国を侵略した七年間」という個所があるが、「豊臣秀吉」という名前はあえて出さなかった。韓国人にとっては侵略者でも、日本人にとっては英雄だから。

「苦しい時の友人が真の友人」という表現で、昨年末の外貨危機の際の日本の支援に率直な感謝を表明した。平均的な韓国民は来日には感謝しても、日本にはあまり感謝していない。大統領は「自分が国民を代表して言う」と言い、国会演説、皇居と首相官邸での晩さん会の三つのスピーチ全部に、経済支援へのお礼を盛り込んだ。

大統領が過去の問題を盛り込んだ共同宣言をつくろうとしたのは、決して日本を責めるつもりではなく、韓国民を説得するためだ。未来志向の訪日にしたいという大統領の強い信念を理解して欲しい。「天皇」という呼称の使用と日本の大衆文化の解禁も大統領の決断だ。日本人にとっては突然のようなものかもしれないが、韓国では大変勇気のいる決断だ。例えはよくないが、票が減るのだから、次にまた大統領選挙に出ようという人にはできなかったかもしれない。

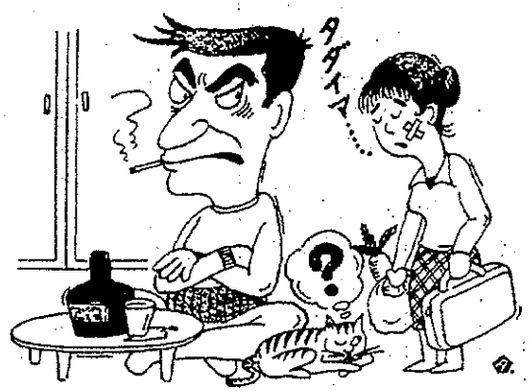
皇居での晩さん会では過去に全く触れなかった。天皇は象徴であり、短いスピーチでわざわざ過去に触れるのは非礼だと判断した。

一連の会談を通じ、従軍慰安婦問題に触れることも避けた。国連人権委員会の特別小委員会は人道に反する犯罪という意見だ。大統領もこの意見を支持するだろうが、これは制裁であり、強制すべきではない。また、この問題は日本人自身の問題だからだ。ただし、国民の力で押しつぶされた大統領としては、国民感情と日本への配慮のジレンマで、内面的な悩みもあったと思う。（談）

もっと知って

夫の暴力 心の被害

『価値ない人間』と自信喪失 時間かけカウンセリングを



え サトウ・タモン

'98エイボン教育賞受賞
小西 聖子さん

一九九八年エイボン教育賞は、犯罪被害者のカウンセリングに取り組む、精神科医で東京医科歯科大学難治疾患研究所・被害行動学研究部門の小西聖（さとか）子助教授（ぎょ）＝写真＝に決まった。性暴力犯罪など女性の被害者に向けられる偏見を取り除き、心のケアを行う研究が評価された。（国保昌江）

「性暴力などの被害者と接して、暴力がいかに支配の道具として強力かをあらためて感じました。『殺される』という恐怖から、女性は抵抗できなくなるのです」と小西さんはいう。

社会問題になってきている夫婦間の「夫の暴力」も、暴力による支配の一つだ。

「夫から暴力を受けた妻は、価値のない人間だと自己評価を下げ、夫以外に自分に〝関心をもつ〟人はいないと思ったり、人とどうやって対等の関係をつくるか、分からない人が多い。そのため、夫から逃れて一時保護施設（シェルター）に入っても、再び暴力亭主の元に戻ったり、他の男性と一緒になっても、暴力で支配される関係に陥る場合があります」と小西さん。

暴力をふるう夫は学歴や年齢、貧富の差などに関係ない。恋人の暴力から逃れられない人もいる。

「おまえみたいな女がいるから迷惑なんだ」と男が怒鳴り、その後ろを女性がおどおどしながら追う。でも、駅で二人のキップを買ったのは女性の方。そんな現場を目撃した小西さんはいう。「こうした女性は、自分だけこの男しかいないと思い込み、過剰にサービスしてしまう。一度暴力で女性を支配すると、男性の暴力はますます過激になるんですよ」

共働きでも、夫は自分の給料を全部飲んでしまい、妻が夫の暴力に耐えながら働きながら一家を支えているケースもあるという。

東京都の「『女性に対する暴力』調査報告」（九八年）によると、およそ五人に一人が「夫から平手打ちを受けたことがある」と答えている。

小西さんは以前、女性による殺人事件の多くが家族を対象にしている点に注目した。加害者を調べると、夫の暴力の被害者であったり、子どもと心中を図って自分は死に切れず、子どもだけを死なしたり「弱者の殺人」が多かった。「女性の加害者は、被害者と紙一重では」――これが女性の犯罪被害者に関心を向けさせるきっかけだった。

「夫の暴力は、ときにはレイプより心に深い傷を残す」と小西さん。そのため健全で対等な人間関係をつくるためのカウンセリングには時間がかかるという。夫の暴力で外出できなかった人が「買い物をしたい」と心を外に向けたり、夫に対する「愚痴」が「怒り」の表現に変わったり……表れ方はさまざまだが、回復の兆しが表れるまでには月二回程度のカウンセリングで半年かかることもある。

「暴力亭主は共通して人間として未熟です。でも外では仏のような人も多いんです」

小西さんは九三年に開設された東京医科歯科大「犯罪被害者相談室」の初代室長。ここに相談を寄せてくるのは主に「性暴力の被害者」「殺人事件の遺族」「夫の暴力や医療事故の被害者」などで、暴力の被害者は圧倒的に女性だ。

小西さんがいま一番の課題にするのは、暴力が家庭内にあることを社会の常識にしていくことだ。

「夫の暴力で相談をする人は、まだごく一部です。自分が暴力を受けていても、大半の人はそれを被害と気がついていない。家庭に暴力があることが広まれば、相談する側も、される側もやりやすくなりますから」

◆このほか一九九八年「エイボン女性年度賞」は次の通り。「エイボン女性大賞」は作家の田辺聖子さん（ぎょ）、同「功績賞」は作家の瀬戸内寂聴さん（ぎょ）、同「芸術賞」は映画美術監督の部谷京子さん（ぎょ）、同「スポーツ賞」は国際ラリーレーサーの横堀博子さん（ぎょ）。表彰式は十月二十九日、東京・永田町のキャピトル東急ホテルで。

98.10.11. 朝日

慰安婦問題

被害者の心を原点に

日本政府はすでに、旧日本軍の関与の下で女性たちの名誉と尊厳を深く傷つけたことを認めている。私たちはかねて、政府として責任を明確にし、国費で補償するのが本来の道だと主張してきた。

今回の共同宣言で、小渕恵三首相は植民地支配について「痛切な反省と心からのおわび」を述べた。「反省とおわび」は言葉だけでなく、目の前にある問題について具体化されていかなければならない。

その努力を急ぐとともに、当面は政府主導でつくられたアジア女性基金を活用するのが現実的だろう。高齢化する被害者たちのために、いますぐ手を伸ばせることといえば、この基金があるだけだ。

基金は韓国だけでなく、フィリピン、台湾、インドネシア、オランダへ活動を広げている。民間から募った寄付金は「償い金」として八十五人に渡された。それらは無意味ではなかったはずである。

韓国では政府がこの春、基金を違う形で元慰安婦の人たちに支援金を支給した。その際、基金の償い金を受けないと約束させ、すでに償い金を受け取っている人たちを支給の対象から除いた。

この経緯を見ると、基金が韓国で活動して償い金を渡すのは不可能だろう。少なくとも当面は活動を停止せざるをえまい。

一方で、償い金を受けるかどうかは本来、元慰安婦の人たち一人ひとりにゆだねられてよいように思う。

償い金は国家補償に比べ「国の責任」に欠ける。重要な点で不十分だが、せめて国民の謝罪と償いの気持ちを贈ろうという趣旨である。韓国政府の支援金と併せ、受けたいという人がいるならば、その道は残しておきたい。

政府間では、償い金に代わって慰霊塔や医療施設を建設する案が浮かんでいる。だが、これらが真に元慰安婦の人たちの希望に沿うものかどうか、慎重に考えたい。

日本政府は償い金とは別に、基金を通じて「医療福祉支援事業」を実施している。事業とはいうものの、事実上、現金が元慰安婦の手元に届く。韓国の場合、二百万円の償い金を上回る三百万円になる。

国庫支出という点で、実質的にはすでに国家補償に近付いている。にもかかわらず、そうではないという政府の逃げの姿勢が、事態をさらに複雑にしてはいないか。

フィリピンの元慰安婦の人たちの訴えが東京地裁で棄却された。慰安婦だった人たちは長い間、日本からも自国の政府からも放置されてきた。一人ひとりの心にこたえるには何をすべきか。原点から考えていく必要がある。

旧日本軍の慰安婦問題について、韓国の金大中大統領は来日中、親しい日本人らとの懇談会で「世界が納得する形で解決されなくてはならない」と語ったという。

大統領の言葉には、日本政府が元慰安婦の人たちに直接、国家補償をするよう促す気持ちがにじみ出ている。

首脳会談や国会演説であえて取り上げなかったのは、日本政府との対立を避けたいとの判断が働いたのだろう。

来日に先立つ雑誌『世界』とのインタビューでは、もっとはっきりと「『慰安婦』問題は日本の政府の責任であって、日本の国民の責任ではない」と語り、一九六五年の日韓条約ですべて解決ずみとする日本政府の姿勢に対し、「法律の解釈だけで終わるものではない」と述べている。

98.10.11. 毎日

金韓国大統領が帰国

歴史清算 国民に理解呼び掛け

【ソウル10日大塚文隆】3泊4日の訪日を終えた韓国の金大中大統領夫妻は10日午後、特別機でソウル空港に帰国した。金大中大統領は帰国会見で、歴史問題清算と経済協力を2大成果として挙げ「日本が心を開き、良い友になろうと合意した以上、我々も戦後の日本の肯定的な面を認めながら、良い隣人となるよう交流、協力していかねばならない」と、国民に呼び掛けた。

大統領は訪日で歴史問題を一段落させるとの強い意思を明らかにしたうえで、「今後、日本政府の責任ある人物や共同宣言と行動計画にかかわる人物がそれと食い違う声をあげれば、容認することはできない」とクギを刺した。

また総額30億ドル相当の日本輸出入銀行による融資を訪日の成果として挙げ「この30億ドルは、アジアに対する300億ドルの支援を表明した宮沢プラン（宮沢喜一蔵相が表明した「新宮沢構想」）には含まれず、日本からの追加支援が可能」として、韓国の経済危機克服に日本のさらなる協力が期待できると説明した。

さらに大統領は、天皇陛下の訪韓時期について「可能なら（2002年の）サッカーワールドカップ（W杯）大会の前後に訪韓するのが、大会成功に役立つのではないか。しかし世論の動きを見ながら、扱う問題である」と述べた。

日本の歴史問題での謝罪は韓国の勝利

北京放送報道

【RSP10日共同】中国の北京放送は10日夜、韓国の金大中大統領訪日の際の日韓共同宣言について解説し、日本が歴史問題で韓国に謝罪したことを「金大統領の外交上の重大な勝利であり、大統領の国内での地位を高めるのに役立った」と強調した。

「日本が韓国に正式にわびたと認した解説は、共同宣言によって不正常な日韓関係に終止符が打たれたと評価。「今回の訪日で韓日関係はこれまでよりも密接になると思われる」とする一方、「植民統治時代に韓国国民の心に刻まれた傷は容易には消えないし、『竹島』の紛争は解決されていない」と指摘。「韓日間のパートナーシップがどんなものになるか引き続き見守る必要がある」と述べた。

北京で3カ国慰安婦フォーラム始まる

日本・韓国・北朝鮮

【北京10日飯田和郎】日本と韓国、北朝鮮3カ国の女性たちが従軍慰安婦問題について話し合うフォーラムが10日、北京市内で始まった。元慰安婦のクァク・クムニョさんら北朝鮮からも8人が出席。慰安婦問題の国際的な取り組みや、日本政府による謝罪、賠償などについて2日間、意見交換し決議文を採択する。

98.10.11. 東京

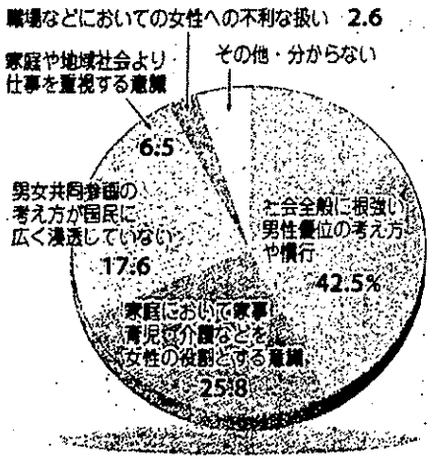
「育児は女性の仕事」固い頭が平等阻む

「男女共同参画」有識者アンケート

男社会ニッポン 遅れる意識改革

有識者の過半数が、日本は国際的に見て男女が対等に社会参加できる「男女共同参画社会」実現に向けた歩みが遅いと考えていることが、総理府が十日発表した有識者アンケートで明らかになった。

男女共同参画社会の実現の阻害要因



その理由として男性優位の考え方や慣行を挙げる人が多く、政府の掛け声とは裏腹に、職場や家庭での意識改革が進んでいない実態が浮き彫りになった。調査は八月から九月にかけて学識者、企業経営者、自治体首長など有識者三千人を対象に郵送方式で実施、有効回答率は七八・四%。

政府の男女共同参画社会への取り組みを知っていたのは七〇・七%に達したが、「内容を含め詳しく知っている」と回答したのは五・九%。

『歩み遅い』が過半数

実現を阻む要因では「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強い」が四二・五%と最も多く、次いで「家事・育児・介護を女性の役割とする意識がある」（二五・八%）、「男女共同参画の考え方が国民に広く浸透していない」（一七・六%）が続いた。

98.10.11. 日経

「過去の歴史清算 経済協力で成果」

金大統領、帰国後に会見

【ソウル10日＝横本隆祐】国賓としての日本訪問を終えた韓国の金大中大統領は十日午後、関西国際空港発の特別機で帰国した。大統領は到着後記者会見し、今回の訪日について「過去の歴史清算や経済協力の面で相当な成果があった」と述べた。特に日本側が植民地支配への謝罪を文面化したことに対し「韓国では当然だが日本としては画期的」と評価した。

金大統領はまた「日本政府の責任ある人が共同宣言に反する発言をした場合は容認できない」としたうえで、「それ以外の発言に敏感に反応する必要はない」と述べた。

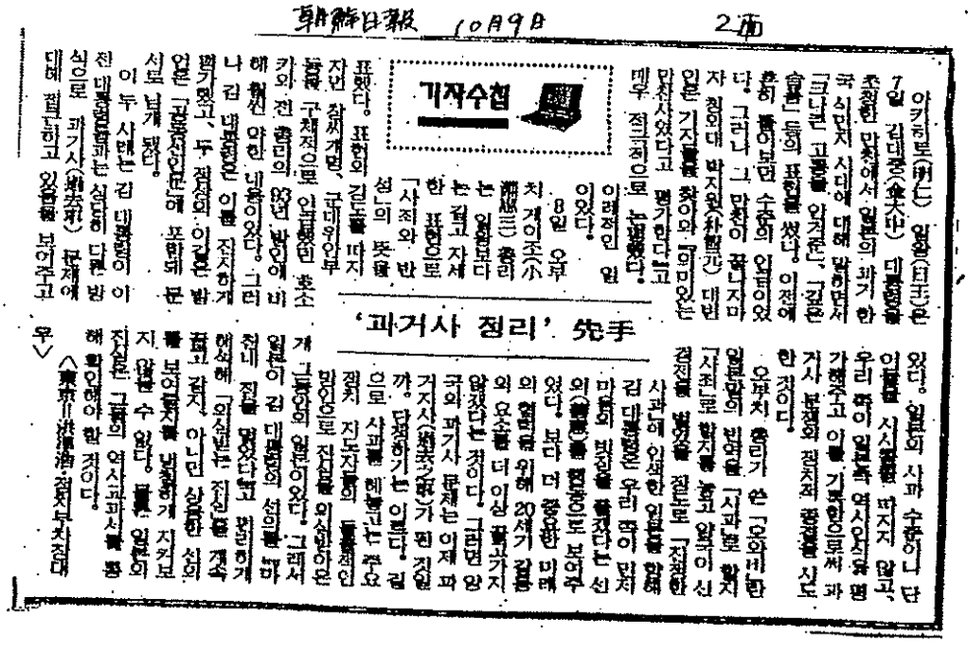
天皇の韓国訪問については「できれば（日韓が共催する二〇〇二年の）サッカー・ワールドカップ（W杯）が迫った時期に訪問すれば、W杯の成功につながると思う」と述べながらも、韓国国内世論もにらみ今後慎重に対応する考えを明らかにした。

朝鮮日報　10月9日　2面　＜記者手帳＞

見出し:「過去史整理」に先手

要　旨:明仁日王(ママ)は、7日、金大統領を招いた晩餐会で日本の過去の植民地時代についてのお言葉で「大きな苦しみをもたらした」「深い悲しみ」などの表現を使った。これまでもよく聞いてきた水準の言及だった。だが、この晩餐が終わるやいなや、青瓦台の朴智元スポークスマンは記者団の部屋を訪れ、「意味ある晩餐の辞だった」と大変積極的に論評した。また、8日、小渕総理は「謝罪と反省」を表したが、これは細川前総理の93年の発言に比べてはるかに弱い内容だった。しかし、金大統領はこれを真摯に評価し、両国首脳のこれらの発言は共同宣言文に含まれ、文書として残されることになった。

この二つの例は、金大統領が以前の大統領とはかなり異なったやり方で過去事(ママ)問題について接していることを示している。「謝過」か「謝罪」かの翻訳をめぐって両国の神経戦がくりひろげられるほど、「真のおわび(謝過)(ママ)」にケチな日本に向けて、金大統領は、我々が先に心の鍵を開けようという善意を行動で示した。重要なのは未来の協力のために、20世紀の葛藤の要素をもうこれ以上引きずらないことというわけだ。それならば、両国の過去史の問題は、もはや過去之事になるというのだろうか。断定するには早い。日本は、金大統領の誠意を「あたかも荷を減らした」かのように便利に解釈し、「疑いを受けた誠意」を引きずっていくのか、さもなければそれ相応の善意を見せてくれるか、見守らざるをえない。もちろん日本の真意は、彼らの歴史教科書などを通じて確認するつもりだ。(東京＝洪準浩・政治部次長待遇)



朝鮮日報　10月9日　2面

기자수첩

'과거사 정리' 先手

아키히토(明仁) 일왕(日王)은 7일 김대중(金大中) 대통령을 초청한 만찬에서 일본의 과거 한국식민지 시대에 대해 말하면서 「크나큰 고통을 안겨준」, 「깊은 슬픔」 등의 표현을 썼다. 이전에 흔히 들어보던 수준의 언급이었다. 그러나 그 만찬이 끝나자마자 청와대 박지원(朴智元) 대변인은 기자들을 찾아와 「의미있는 말씀」이었다고 평가한다는 뜻을 매우 적극적으로 논평했다.

이래저래 일왕의 사과 수준이니 단어를 시시콜콜 따지지 말고, 우리 쪽이 일본측 역사인식을 명백하게 고치고 이를 기록함으로써 과거사 문제의 정치적 종결을 서도 한 것이다.

오부치 총리가 쓴 「오와비」란 일본말의 번역을 「사과」로 할지 「사죄」로 할지를 놓고 일주일이 넘도록 결전을 벌였을 정도로 「지성한 사과에 인색한 일본을 알게 된 김 대통령은 우리 쪽이 먼저 마음의 빗장을 풀겠다는 선의(善意)를 현명으로 보여주었다. 보다 더 중요한 미래의 열매를 위해 20세기 갈등의 요소를 더 이상 끌고가지 않겠다는 것이다. 그러면 양국의 과거사 문제는 이제 과거지사(過去之事)가 된 것일까. 단정하기는 이르다. 일으로 사과를 헤벌리는 주요 정치 지도자들의 돌출적인 망언으로 진실을 외면하려는 개 그들의 일본이었다. 그래서 일이 김 대통령의 선의를 배반하고 진실을 명백하게 밝힐 때에 「의원은 진실을 계속 감추고, 아니면 상대한 선의를 보여줬자 냉정하게 지키고 말을 수 없다. 불쌍한 일본의 진실은 그들의 역사교과서를 통해 확인해야 할 것이다.

(東京＝洪準浩 정치부차장대우)

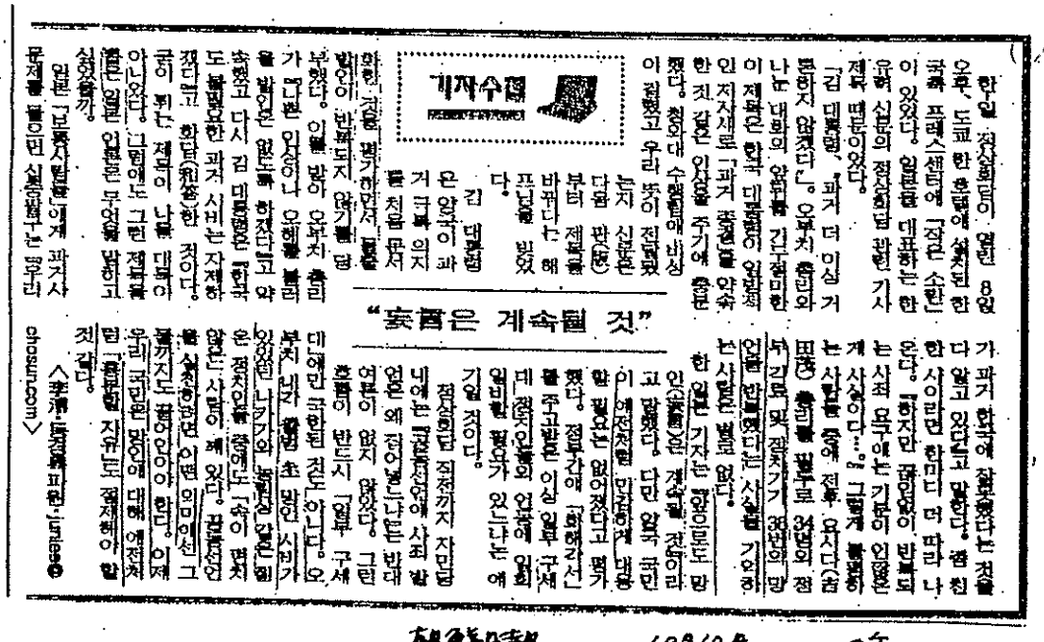
朝鮮日報　10月10日　2面　＜記者手帳＞

見出し:「妄言は続くだろう」

要　旨:韓日首脳会談が開かれた8日、東京のあるホテルに設置された韓国側プレスセンターに「小さな騒ぎ」が起こった。日本を代表するある有力新聞の首脳会談関連記事の見出しのためである。「金大統領、過去これ以上取り上げない」という枝葉末節を省いたこの見出しは、韓国の大統領が一方的な低姿勢で「過去の終結」を約束したような印象を与えるのに十分だった。青瓦台の同行団が我々の意を伝えたのか、その新聞の次の版から、見出しが変わるというハプニングが引き起こされたのだった。

このような見出しを選んだ日本は何を言いたいのか。「我々が過去、韓国に誤ったことをしたことはわかっている。」「だが、絶えず繰り返される謝罪の要求には、うっとうしい気分になるのが事実だ」。このような日本人の中で、戦後、吉田総理からはじまって34名の政府閣僚及び政治家が38回の妄言を繰り返したという事実を記憶する者はさほどいない。

ある日本の記者は、「今後も妄言は続くだろう。ただし、両国民がこれまでのように敏感に対応する必要はなくなった」と評価した。政府間に「和解覚書」が交わされた以上、一部の政治家たちの言動に一喜一憂する必要があるのかというわけだ。いまや、我々国民は妄言に対し、これまでのように「興奮する自由」も節制しなければならないようだ。(李濱・東京特派員)



朝鮮日報　10月10日　2面

朝鮮日報　10月11日　2面

「謝罪明文化―経協など成果大きい」
金大統領帰国会見
日本の閣僚、二重的態度見せるなら容認できず
ワールドカップ直前に日王（ママ）訪韓するとよい

金大統領は、10日、ソウル空港での訪日帰国報告記者会見で、「今回、文書で明確に謝罪を受けたのは、我々としては当然だが、日本にとっても画期的」と評価した。また、過去史については、「日本政府や責任ある人物が共同宣言の意を害する行為を行えば、容認することはできない。だが、一部の者たちからあがる声には、我々も敏感に反応しないように」と語った。

さらに日本の歴史認識及び教科書記述問題について、「今回の訪問で慰安婦問題のような具体的問題まで全て整理したわけではない。国連人権委員でも扱われているし、本人も忘れてはいない。既に結成されている歴史共同研究の集まりを、今回を契機に積極的に稼働させるつもりだ」と答えた。

朝鮮日報
西紀 1998年 10月 11日 日曜日 2面

◇귀국 "환영" 열렬 국민들에게 마지고 10일 귀국한 김대중 대통령이 청와대 앞 거리에서 환영나온 시민들의 손을 잡으며 밝은 표정을 짓고 있다. <鄭漢相기자·hsjung@chosun.com>

"사죄 明文化-經協등 성과 많아"

金대통령 귀국회견

"日각료 이중적 태도 보이면 용납못해 월드컵 직전에 日王방한하면 좋을것"

김대중(金大中) 대통령은 10일 성남 서울공항에서 가진 귀국보고 기자회견에서 『이번 방문에서 다소간 성과를 올린 것은 지난해 이룩해낸 여야 정권교체가 가장 큰 힘이 됐다』고 국민들에 감사했다.

김 대통령은 『여-야를 막론한 일본 전국민들의 열렬한 환영을 느낄 수 있었다』면서 『이번에 문서로 명확한 사죄를 받은 것은 우리로선 당연하지만 일본으로서는 획기적인 일』이라고 평가했다.

이날 공항에는 박준규(朴浚圭) 국회의장과 김종필(金鍾泌) 국무총리를 비롯한 3부요인, 여당 관계자 등 1천여명이 나와 김 대통령을 환영했다. 다음은 일문일답.

—이번 방일에서 가장 큰 성과를 꼽는다면.

『일본이 과거사 문제에 대해 문서로써 명백하게 사과했다. 과거 (일제에) 희생된 조상들도 이로써 편히 눈감으셨으면 좋겠다는 생각이다. 경제협력에서도 30억달러 차관, 어업문제타결, 국민상호교류, 무역투자확대 등 거의 모든 분야에서 성과가 있었다. 한-일관계가 양자관계를 넘어 아시아-세계로 확대된 것도 의미라고 할 수 있다.』

—과거사에 대한 일본내부의 이중적 태도에 대한 생각은.

『오부치 총리에 대해서도 그 문제를 강조했다. 정부나 책임있는 인사들이 공동선언의 뜻을 해치는 행위를 한다면 용납할 수 없다. 그러나 다른 일부에서 나오는 말들은 우리도 예민하게 반응하지 않았으면 한다.』

—일본이 6자회담을 요청했는데.

『나도 과거 3단계 통일에서 같은 제의를 한 적이 있다. 그러나 4자회담은 남북 평화체제 구축을 위한 것이므로 남북이 전제를 논의하는 6자회담과는 성격이 다르다.』

—재일교포 참정권 문제에 대해 일본은 소극적인 것 같다.

『문서에도 명기하고 국회 등에서도 얘기했다. 일본 관방장관도 긍정 검토하겠다고 했다. 적극적으로 이 문제를 다뤄서 해결하겠다.』

—일본의 역사인식과 교과서 기술문제에 대한 생각은.

『이번 방문에서 위안부 문제 같은 구체적 문제까지 다 정리한 것은 아니다. 유엔인권위에서도 다루고 있으며 본인도 이를 잊지 않고 있다. 이미 결성된 역사공동연구 모임이 이번을 계기로 적극 가동되도록 하겠다.』

—한일자유무역지대 성사 가능성은.

『제안한 진위와 득실을 따져봐야 하므로 여기서 뭐라 답할 성질이 아니다. 주요멤버로 중국도 포함돼야 하므로 간단한 문제가 아니다.』

—일왕 호칭에 대한 생각은.

『모든 나라가 천황으로 부르고 있다. 정부는 그렇게 부르는 것이 옳다고 생각한다. 그러나 국민들에게 어떻게 요청할 수는 없다.』

—일왕의 방한 시기는.

『국민들이 환영할 수 있는 분위기가 무르익어야 한다. 개인적으로는 가능하면 월드컵 직전이 좋다는 생각이다.』

—문화개방과 그 시기에 대한 계획은.

『어떤 문화든 받아들여 우리 것으로 만들어야 한다. 과거 불교와 유교도 받아들여 우리 것으로 만들었는데 일본문화 정도는 받아들일 수 있다고 생각하며 이에대해 나도 두려움이 없다. 시기는 이미 만들어진 관련 협의기구를 통해 해결해 나갈 것이다.』

<權大熙기자·dykwon@chosun.com>

朝鮮日報 10月9日

2面

「사죄」와 「사과」

日語 「오와비」 번역 심각한 오해

"字句 얽매이지 말자" 日왕보

[東京=李鍾元기자] 한일 한국은 이번 정상회담 공동선언을 가운데 과거 식민지 지배에 대한 표현 수위를 놓고 「사죄」와 「사과」 사이에서 마지막까지 줄다리기를 계속한 것으로 알려졌다. 일본어로 「오와비(お わび)」라는 표현을 「사죄(謝罪)」로 번역하느냐, 「사과(謝過)」로 번역하느냐의 문제. 「오와비」는 검색에 따라 한국 뉴스 해설이 가능하다. 하지만 국립국어연구원의 표준국어대사전에서 보면 「사죄(謝罪)」로 "죄를 용서해 달라고 빎"이라고 설명되어 있는 데 반해 「사과(謝過)」보다는 훨씬 적극적인 사과만 뜻한다고 할 수 있다. 이 때문에 공동선언 실무 협상과정에서 일본측은 「오와비」를 「사과」로, 한국측은 「사죄」로 번역해야 한다고 팽팽히 맞섰다.

역대 일본의 과거 반성 발언을 보면 90년 호소카와(細川護熙) 담화에선 「진사(陳謝)」라는 극진한 표현을 썼고, 95년 무라야마(村山富市) 담화 때와 98년 하시모토(橋本龍太郎) 총리는 「마음으로부터의 오와비」 「오와비와 반성」이란 표현을 썼다. 공동선언도 이를 답습한 것. 결국 일본 정부내에서 마련해 「과거사를 인정한다는 이번 정상회담의 의미를 살려 지구에 매달리지 말자」는 의견이 대세였고 한국도 요구대로 「사죄」로 낙착한 것으로 알려졌다.

<kjlee@chosun.com>

4面

遺憾과 反省

李圭泰 교수

일본국 수뇌들이 한국과의 과거사를 둔 언급들이 어제까지 도합 열차례에 이른다. 그 열차례의 발언 가운데 80년대 이전에는 핵심이 「유감(遺憾)」으로 일관되고 그 이후 어제 있었던 오부치 총리 발언에 이르기까지 「반성(反省)」이 핵심 문구로 일관됐다는 점에 주의하게 된다.

국제간에 빈도높게 쓰이는 유감이란 말의 어원은 마음속에 다하지 못하고 남아 있는 원한이나 불만이다. 그렇다면 상대방이 한 일이 못마땅하다는 뜻이다. 영어로 유감은 ①상대편에 사죄를 요구하는 regret ②사죄까지는 바라지 않지만 항의에 가까운 express concern ③관심을 갖지않을 수 없다든지 예의주시한다는 not indifference로 3단계 표현을 하는 것이 상식이다.

이처럼 상대방 잘못을 공격할때 쓰는 말인데도 동양문화권에서는 스스로의 잘못을 인정하되 그 잘못을 흐릴 필요가 있을때 선호하는 교활한 외교용어로 정착돼내린 것이다. 국교정상화 당시 시이나 일본 외상이 유감 표현을 했고 84년 전두환 대통령 방일시 히로히토 전 왕과 나가소네 전 총리가 유감 표현을 했다. 그만큼 과거사 인정에 인색했던 일본이다.

유감 표현으로는 자격지심이 생겼던지 90년대 들어서야 「반성」이 등장한다. 반성이란 나를 돌아보고 행위 심술의 선악을 스스로에게 묻는다는 뜻으로 잘못을 인정하는 전단계요 사과용어로는 역시 미흡하고 인색하다. 그래서 깊은 반성이니 겸허한 반성이니 통절한 반성이니, 하는 수식어를 썼고 잘못을 빈다는 말을 덧붙였다. 빈다는 말에도 비는 농도에 따라 사죄(謝罪)와 사과(謝過) 진사(陳謝)가 있다.

사죄나 사과보다도 농도가 약한 진사라는 말과 「오와비」라는 말을 썼을 뿐이다. 오와비란 일본말에는 잘못을 빈다는 뜻도 있으나 사죄나 사과에 비해 어감상 약한 잘못이다. 그래서 「통절한 반성과 마음으로부터 오와비」를 표한다는 오부치 총리의 발언은 새로울 것도 없는 상투적이고 계산된 문투의 나열임을 알 수 있다.

<kyoutaelee@chosun.com>

'謝罪'가 '謝過'가 — 遺憾と反省

日本語 「おわび」 翻訳 神経戦

'字句 縛りつけるな' 日本 譲歩

朝鮮日報 10月9日 2面

金대통령 이번엔 한국 몰까

盧-金 前대통령때는 인사치레로 끝나

DJ, 강한 의지…"韓國民 정서가 열쇠"

김대중(金大中) 대통령은 7일 아키히로 [illegible] 일왕과의 만찬에 이 [illegible]이 소극적인 데도 [illegible]어, 8일 오부치 총리를 보여 성사되지 않았다.

그러나 김 대통령의 의지는 남다른 것으로 여겨진다. 외교부 당국자들은 "일본 전부는 환영이 환영받을 수 있는 분위기라면 입제든 마다할 이유가 없다는 입장이라며 [illegible] 한국내 분위기가 관건이라고 말했다.

국민들이 진심으로 한일관계가 새로운 차원으로 발전했다고 믿고, 과거사도 문제신지 않을 만한 분위기가 돼야 가능하다는 것이다.

이렇게 볼 때 2002년 월드컵 개최식 참석이 가장 자연스런 방한 계기가 될 가능성이 높다고 말했다는 전했다.

〈權大祐기자·dyk@chosun.com〉

을 초청했으나 한국내 분위기를 잘 아는 일본이 소극적인 데도 불구하고 회답 후에도 일왕 방한(訪韓)을 공식 초청했다.

노태우(盧泰愚), 김영삼(金泳三) 대통령도 일본 방문시 일왕

「日玉(ママ), 今度は韓国に来るか」

盧-金 前大統領の時は あいさつに終わったが

DJ, 強い意志 … "韓国民の感情が 鍵"

朝鮮日報 10月10日 3面

日本의 'DJ인맥' 한자리에

구명운동펼쳤던 인사 70여명초청 다과회

金대통령, 「친구」라 부르며 친밀감 표시

【東京=朴正鎬기자】 김대중(金大中) 대통령은 바쁜 일정 중에서도 시간을 쪼개 과거 핍박받던 시절 자신을 도와준 일본측 인사들을 초청, 자리를 함께 하는 「의리」를 보였다.

방일 3일째인 9일 오전 영빈관에서 열린 일본 친분인사 초청다과회엔 납치사건이나 투옥때 김 대통령 구명운동을 펼쳤던 일본의 정계·학계·언론계 인사와 재일교포 70여명이 초청됐다. 다과회에서 김 대통령은 참석자들을 「친구」라고 표현하는 등 친밀감을 과시했으며, 「납치사건(73년)의 진상은 반드시 밝혀져야 한다」고 강조했다. 이날 참석자들은 김 대통령이 박해를 받을 때마다 국경을 초월해 「정의의 손길」을 보내준 인사들이라고 다과회를 준비했던 한승헌(韓勝憲) 감사원장은 설명했다.

무사코지(武者小路公秀) 핵리스여대 교수는 「여기 모인 사람들은 일본정부가 피하고 김 대통령이 관용으로 넘어가려는 문제에 대해 결코 그냥 넘어갈 수 없다며 납치사건 진상규명 운동을 계속 펼쳐나갈 것임을 강조했다. 정계에선 도이 다카코 사민당 당수와 시라키와(白川勝彦·자민), 하토야마(鳩山由紀夫·민주) 중의원 의원 등 20여명의 전현직 의원이 참석했는데, 옛 사회당 계열의 야당 정치인이 다수를 이뤘다.

학계에선 와다(和田春樹) 도쿄대 명예교수 등이, 언론계에선 오구리(小栗敬太郎) 아사히신문 도쿄본사 사장 등이, 시민운동가 그룹에선 쇼지(東海林勤) 목사 등 일본내의 「김대중 인맥」이 한자리에 모였다. 또 재일교포 중에선 김 대통령의 초등학교 동창인 김종룡(金鍾龍)씨와 납치사건 당시 비서였던 조활은(趙活恩) 아라카와<포츠센터 대표 등이 참석했다. 〈박 … k@chosun.com〉

日本の 'DJ人脈'

救命運動 援助した人物 700名 招請 茶菓会

金大統領, 「友人」と呼び 親密感 示す

'문화의 물결' 오면 對日시각 바뀐다

韓·日 21세기

〈中〉

8일 발표된 「21세기 새로운 한일 파트너십 공동선언」에도 명구하고 양국 국민의 의식이 획기적으로 달라질 것으로 기대하는 이들은 드물다. 산적한 과거사와 독도 영유권문제등은 여전히 현안으로 남아 있다. 그럼에도 선언의 알짜배기인 일본 대중문화 개방과 국민교류를 계기로 양국관계는 크게 변모할 가능성이 크다.

영화·음반·만화등 젊은층 파고들듯

일방적 문화수입 부작용 커질수도

우선 일본문화가 유입되면 대일감정의 해리다임(틀)도 달라지게 된다. 일본에 체류중인 일본문화전문가 이규형(李圭炯·41)씨는 『일본문화가 개방되면 젊은이들이 일본을 판단하는 기준도 「좋다, 싫다」에서 「재미있다, 재미없다」로 달라질 것」이라고 말한다. 식민지배자가 아닌 문화생산자로 일본과 만나는 신세대에게 시장개방은 더 편리하게 일본을 만나는 기회를 제공한다. 일본문화가 개방되면 시장점유율이 영화 7~10%, 음반 5~10%, 애니메이션 30~35%(2002년 기준, 삼성경제연구소 추산)가 될 것이라는 전망은 결코 과장이 아니다.

그러나 문화개방은 단순 수치 이상의 의미를 가진다. 일본 만화책과 음반, 비디오 대여점이 동네마다 돌아서면 소수 마니아문화였던 일본 즐기기는 대중취미로 확산된다. 이렇게 되면 청소년 뿐 아니라 중·장년층까지 유인하는 다양한 일본대중문화가 전세대에 파고 들게 된다. 개방과 국민교류는 바로 일본문화의 「대량 유통-대량 소비」이다.

또 청소년에 대한 「워킹 홀리데이」비자 허용은 호스티스등 주로 접객업 중심으로 이뤄졌던 일본취업의 새로운 형태를 제시하고 있다. 그래서 섣부른 「저팬 드림」을 우려하는 시각도 있다. 더 큰 문제는 젊은 세대의 일본문화 대량소비 양상이 세대간 단절의 골을 더욱 깊게 할 수도 있다는 점. 아직도 한국의 구세대에게 일본은 한국을 수탈했고, 문화를 침탈했던 나라이다. 「강요된 수용」은 수용키 어렵다.

한일문화교류정책자문위원장 지명관(池明觀·74)씨는 『우리가 일본대중문화신업의 또 다른 시장이 된다는 개념이 아니라 양국간 문화교류가 이제 진정으로 시작했다는 분위기를 조성해야 한다』고 지적했다. 유럽에서 프랑스 이탈리아등 여러국가가 합작으로 영화를 만들어 미국시장을 겨냥하듯, 한국과 일본도 중국을 포함한 아시아시장에서의 「문화 이니셔티브」를 도모하는 동반자로 생각해야 한다는 것이다.

그러나 상호·호혜의 원칙을 기대하기에 아직 두 나라는 멀다. 이규형씨는 『한국젊은이 99%가 일본문화에 관심이 있다면 일본 젊은이 99%는 한국에 관심이 없다』고 현지 분위기를 전했다. 몇몇 트로트가수를 빼고 일본젊은이가 기억하는 한국 팝가수, 영화, 영화감독, 만화는 하나도 없다는 것이다. 때문에 일본 문화개방은 결국 문화 수입(水準)이 높은 일본에서 한국으로 일방적으로 흐르는 현상이 가속될 것이라는 우려가 적지 않다.

/박은주기자

오사카 롱포 환영 김대중대통령이 9일 오후 일본 오사카에 도착, 숙소로 가는 도중 차에서 내려 환영나온 롱포류과 악수를 하고 있다. /오사카=신상순기자

"새韓日관계 국민협조 절실

「日사죄 진일보… 전향 방한 양국에 플러스될것」

金대통령 訪日현안 기자간담

김대중(金大中)대통령은 일본 국빈방문 사흘째인 9일 도쿄(東京)에서 오사카(大阪)로 출발하기 앞서 방일 성과를 결산하는 기자간담회를 가졌다. 김대통령은 이번 방일을 성공적이라고 자평하면서 한일간 새로운 동반자 관계의 형성을 위한 양국 지도자와 국민의 적극적인 협조를 강조했다. 다음은 김대통령 모두발언과 일문일답 요지.

모두발언=이번 방일은 모든 정황을 보건대 과거 아시아유럽정상회의(ASEM)참석이나 미국방문에 못지 않게 성공적이라고 생각한다. 공동선언과 행동계획에서 일본은 과거사에 대해 전례 없이 분명히 한국에 대한 가해자로서 책임을 명시하고 분명한 사죄를 표명했다. 진일보하고 적극적인 표시라고 본다. 구체적인 협력면에서도 경제협력, 한반도 평화와 안보, 문화적 인적 교류 등 많은 분야에서 합의가 이뤄졌다. 양국 정상간 회담의 정례화도 중요한 진전이라고 봐야 한다.

이번 방일은 단순히 과거사 문제를 넘어 미래지향적인 면에서 대단히 큰 성과를 거뒀다. 또 한일 양국간 문제에 국한하지 않고 아시아의 평화와 번영, 세계 인류의 공동관심사인 인권 환경 범죄 마약 빈곤 등에 공동대처하고 21세기 세계화시대의 선두에 서서 인류의 안전과 복지에 같이 공헌하자는 큰 테두리에 합의한 것도 중요한 의미가 있다. 양국 국민은 이번 합의의 충실한 이행을 위한 공동노력을 통해 양국을 가깝고도 가까운 어울관계로 변화시켜 미래와 세대에 물려주는 게 바람직하다. 50년만에 민주정부를 세운 우리 국민의 위대한 업적에 대한 일본의 높은 평가와 존경, 협력이 이번 방일 성과를 가져온 것으로 생각한다. 방일 성과와 공과 영광은 모두 국민에게 돌아가야 한다.

-이번 방일에서 과거사 문제 해결과 경제협력중 어디에 더 비중을 뒀는가.

「두 문제는 성격이 다르다. 양쪽 다 같은 비중을 뒀다. 둘 다 상당히 잘 된 것으로 생각한다」

-일본에서 다시 독도영유권 문제 등 망언이 나오면 어떻게 대처할 것인가.

「이 문제는 정상회담에서 오부치총리에게도 말했다. 일본에서 한국이 자꾸 사과문제를 제기하는데 대해 말이 있는데, 이는 첫째 일본이 과거 사죄 대도가 분명치 않고, 가해자와 피해자 인식이 애매했기 때문이라고 지적했다. 또 총리가 사죄했는데도 곧바로 정부여당 중진이 어물 뒤앞는 말을 해 결국 사과·반성이 형식에 그치고 말뿐이는 안 바뀌지 않았느냐는 오해가 생긴 것이라고 지적하고 앞으로 그런 일이 없어야 한다고 말했다. 오부치총리는 그 점에 특별히 유의하겠다고 했다」

-아키히토(明仁)천황을 만나본 인상은.

「대단히 겸손하고 상식있는 분이며 여러가지 많은 것을 알고 있다는 느낌을 받았다. 한국 삼국시대, 특히 가야문화에 상당한 관심을 갖고 연구를 해 그 문제에 관해서도 많은 얘기를 나눴다. 황후는 잡사랑(이희호여사)이 쓴 「나의 사랑 나의 조국」이라는 책도 읽었다고 했다」

-아키히토천황이 방한할 적절한 시점을 언제로 생각하는가.

「일본천황은 과거 전쟁 상대국인 중국과 영국을 모두 방문했는데 이웃나라인 한국과 국교재개 33년이 되도록 방문하지 않은 것은 부자연스러운 일이다. 이런 상황은 양국 국민의 화목과 융화에도 문제가 있다. 천황의 방한은 양국의 21세기 동반자 관계와 월드컵 대회의 성공적인 공동개최 등 전체적인 목적과 흐름에 플러스가 될 것이다. 양국 국민간 준비가 되는 것을 봐가며 실현시킬 문제다」

-국민의 대일감정은 문서로 해소되기 어려운데 어떻게 설득, 감정의 응어리를 풀 계획인가.

「일본이 문서로 가해자와 피해자를 분명히 하고 철저한 반성위에서 사죄한 것은 국민의 대일 비판 감정을 누그러뜨리는 계기가 될 것이다. 상대가 나름대로 성의를 표시할 경우 금도를 갖고 대하는 게 국민의 바람직한 태도다」

-공동선언을 이행하기 위한 후속 구상은.

「나는 지나친 낙관은 절대 하지 않으나 합의문은 잘 이행되리라 기대하고 있다. 적어도 양국 지도층에선 큰 문제 없이 잘 해나갈 것이다」 /도쿄=유승우기자

韓·日 新世紀

植民支配者から文化生産者へ
新しい出会い

「文化の波」来れば
対日 視角が変わる

映画・音盤・漫画等
若者層に食い込む

一方的 文化輸入
不作用 広がることも

"新しい韓日関係 国民協調切実"

日本 謝罪 一歩進む… 天皇(ママ)訪韓, 両国にプラス

朝鮮日報 10月2日 5面

朝鮮日報를 읽고

日 진정한 참회 아직 없어

7일자 독자의견 「對日 사과요구 그만」을 읽고 도저히 공감할 수 없어 이 글을 쓴다.

인간사에 있어서 피해자가 가해자에게 사과를 요구하고, 가해자가 피해자에게 사과를 하는 것은 온당한 이치 아닌가. 국가간에도 이것은 마찬가지여서 과거 1, 2차 세계대전을 일으킨 독일은 패전 후 막대한 전쟁배상금과 피해배상금을 물어야 했다. 이처럼 이해할 수 있는 사과와 배상이 있어야 양자의 진정한 화해가 이루어지며 건설적인 미래가 보장되는 것이다. 그러나 일본은 지금까지 한번도 진실된 사과를 한 적이 없고 과거사 왜곡을 더욱 심화시킬 뿐이었다. 그런데 이제 일본이 진실된 사과를 할 의사가 없으므로 사과요구를 그만 두자는 것이 정당한 일인가. 진실된 반성이 없으면 역사는 되풀이된다. 지금 우리가 해야 할 일은 사과요구 포기가 아니라 수백년이 걸리더라도 그들이 진실된 사과를 할 때까지 그들의 잘못을 일깨워주고, 과거사를 끊임없이 왜곡시키며 재무장을 주장하는 우익세력의 준동을 감시하고 정당한 사과와 배상을 받아내는 것이다.

일본은 진정한 참회를 해야만 우리의 미래 동반자로 인정될 수 있다. 독일이 2차대전 후 진정한 참회와 배상을 통해 유럽의 한 가족으로 받아들여졌듯이….

<김남섭·46·회사원·서울 양천구>

朝鮮日報を読んで

日本 真の懺悔 未だない

韓國日報 10月10日 8面

"망언 동조 일본인은 극소수 불과"

『김대중대통령의 일본방문은 일본 총리의 과거사 사죄를 「공동선언문」으로 문서화해 이 문제가 일단락됐다는 점이 역대 한국대통령의 방일과 차별성이 있습니다』

전 주한일본문화원장 마치다 미쓰구(町田貢·63) 세종대 초빙교수는 『일천황의 한국방문까지 성사된다면 한일 관계가 비로소 정상화할 것』이라고 기대를 표시했다. 마치다씨는 『그러나 선언문은 단지 「다리」일뿐 과거사의 앙금을 없애려면 양국 국민들의 왕래와 노력이 필요하다』고 강조한다.

마치다씨는 일본 텐리(天理)대 조선어과를 졸업하고 57년 외무성에 들어간뒤 미국주재 4년을 뺀 37년간을 한반도 문제에 매달려온 「공인된」한국통. 부산총영사 제주영사등을 역임하며 한국생활만도 24년째인 마치다씨는 지난 6월 은퇴를 하자 아예 한국에 영주키로 했다. 지루한 일본보다 「일상의 생기가 살아있는」한국이 좋고 한국친구가 많아 내린 결정이다. 두 딸도 모두 한국에서 학교를 다녔고 장녀는 재일동포와 결혼, 호남대 일문과 교수로 한국에서 살고있다.

그는 9년전 아키히토(明仁)천황 즉위후 「가장 피해받은 한국을 제일 먼저 방문해야한다」며 천황 한국방문을 추진했으나 「국민정서에 반한다」는 한국측의 반대로 무산된 적이 있어 김대중대통령의 천황방한 초청에 남다른 감회를 표시했다.

『과거사 사죄후 망언을 거듭한 전례때문에 일본을 믿을 수 없다고 생각하는 한국인들이 많지만 1억2,000만명 일본인중 「망언」에 동조하는 사람은 극소수입니다. 아예 무시했으면 합니다』

일본문화원장을 지내 일본문화 개방을 특히 환영하는 마치다씨는 『개방해도 한국인의 의식수준이 선진적이므로 큰 문제가 없을 것』이라고 말했다.

전 주한일본문화원장 마치다 미쓰구

마치다씨는 『아시아의 위기를 극복하기 위해서는 한국과 일본이 협력하지 않으면 안된다』며 『한국을 잘 아는 일본인으로서 한일관계의 발전에 조금이나마 도움이 되었으면 한다』고 말했다.

/노향란기자

"妄言 同調する日本人は ごく少数にすぎない"

前 駐韓日本文化院 町田 貢

朝鮮日報 10月11日

1面

金대통령 "與野대화 시작"

내일 청와대 訪日설명회 李총재 참석

◇김대중 대통령이 3박4일간의 일본 방문을 마치고 10일 오후 서울 공항에 도착, 부인 이희호 여사와 함께 비행기에서 내리면서 환영객들에게 손을 들어 인사하고 있다. <鄭漢植기자·hschung@chosun.com>

김대중(金大中) 대통령은 오는 12일 낮 박준규(朴浚圭) 국회의장, 윤관(尹琯) 대법원장, 김용준(金容俊) 헌법재판소장, 이용훈(李容勳) 중앙선관위원장과 한나라당 이회장(李會昌) 총재, 국민회의 조세형(趙世衡) 총재대행, 자민련 박태준(朴泰俊) 총재를 초청, 오찬을 함께 하며 방일성과를 설명한다.▼관련기사 6면

김 대통령과 한나라당 이 총재의 청와대 회동은 지난 8월31일 한나라당 전당대회에서 총재로 선출된 뒤 1개월여만에 처음으로, 특히 핀둔점 충격요청설 사건, 국세청 불법도청 사건 및 정치인 사정 등으로 인한 여야대치 국면에서 이루어지는 것이다.

이와 관련, 김 대통령은 10일 오후 일본 방문 일정을 마치고 서울공항에서 가진 기자회견에서 『정치에서 여야간 대화가 없을 수 없다며 『이제 야당이 국회에 들어온 만큼 대화가 시작되고 서로 협력하게 될 것이라고 말해 사정 정국을 풀 여야간의 대화 가능성을 시사했다.

그러나 여권 관계자들은 『국가원수의 외국방문 이후 정당대표를 초청해 설명하는 관례에 따른 것으로 정치적 의미는 없다면서, 설명회가 김 대통령과 이 총재간 여야 총재회담으로 이어지는 않을 것이라고 밝혔다. 이 총재측도 『정국현안에 대한 이야기는 별로 하지 않을 것이라며 『설명회를 정부 한 여야 총재회담으로 갖지 않을 것이라고 말했다.

<金民培기자·baibai@chosun.com>

金대통령 어제 귀국

김대중(金大中) 대통령은 10일 오후 3박 4일간의 일본 국빈 방문 일정을 마치고 귀국했다. ▼관련기사 2면

김 대통령은 서울공항에서 가진 귀국회견에서 『이번 방문은 과거사 사과라는 명분 뿐 아니라 경제협력 등 실제 문제에서도 많은 성과를 거뒀다』고 자평(自評)하고 『일본이 마음을 열고 시죄에 합의한 이상, 우리 국민들도 일본을 좋은 이웃으로 생각하고 교류·협력해 나가야 할 것이라고 말했다.

<洪準浩·jehong@chosun.com/權大烈기자·dykwon@chosun.com>

金大統領、昨日 帰国

金大統領 "与野対話 開始"

明日、青瓦台 訪日説明会

李総裁 参席

朝鮮日報 10月11日 2面

"日本、韓国に売る映画1, 50年分 蓄え"

"日、韓國에 팔 영화 50년치 비축"

LA타임스 보도

[로스엔젤레스=聯] 김대중 (金大中) 대통령의 일본 방문 일정을 계기로 한국이 지금까지 금지했던 일본 문화에 대해 개방 반침을 점차에 따라 양국 영화 게와 가요계가 기대에 부풀어 있다고 로스엔젤레스 타임스가 9일 보도했다. 이 신문은 한국에는 이미 구로사와 아키라 감독의 영화가 유통되는 지하시장이 형성돼 있으며 2차대전의 기억도 없고 일본 위성TV를 통해 일본의 음악비디오에 열광하는 청소년 세대에게 일본 전문가인 양진석씨의 말을 인용, 일단 금지조치가 해제되면 일본 가요가 한국 대중음악의 10~15%를 차지하게 될 것이라고 전망했다. 일본영화 해외진흥협회의 구로다 도요지씨는 "한국시장 개방소식에 일본 영화계가 침을 흘리고 있다"고 표현하면서 "일본은 50년간 팔 수 있는 분량을 갖고 있다"고 강조했다.

金大統領訪日 最終日スケッチ

文化人と懇談会 …時間を惜しんで日本語で

ホテル側 "トリプル10"の吉日結婚式予約取り消し

朝鮮日報 10月11日 2面

金대통령 訪日 최종일 스케치

문화계인사 간담회… 시간 아끼려 日語로

호텔측, '트리플 10' 吉日결혼식 예약 취소

3박4일간의 일본 방문을 마치고 10일 귀국한 김대중(金大中) 대통령은 귀국에 앞서 이날 오전 마지막 행사로 일본 문화계 인사들과 간담회를 가졌다. 오사카 임패리얼호텔에서 40분간 열린 간담회에는 일본 다도(茶道) 전문가인 센 소우시츠(千宗室), 패션 디자이너 모리 하나에(林英恵), 작가 소노 아야코(曽野綾子)씨 등 30여명이 참석했다. 시간 관계상 일본어로 대화를 나눈 김 대통령은 먼저 문화 쇄국주의가 민족 발전에 역마나 저해되는가는 역사가 증명하고 있다며 일본 대중문화 개방 방침을 재천명했다.

김 대통령은 특히 "21세기는 문화의 시대라며 영화 「쥬라기공원」과 세계를 휩쓰는 일본 만화 동호사례로 들어 문화산업의 위력을 설명했다.

이에 센 소우시츠씨는 "일본 대중문화 개방을 결정한데 경의를 표한다며 음악교류에 대한 기대를 표시했고, 모리 하나에씨는 "21세기는 문화의 시대란 대통령의 말씀에 감명을 받았다고 화답했다. 서울에서 도자기 전람회를 가졌던 조선 도공 후예 심수관(沈壽官)씨는 서울 전람회에 대한 보답을 피력했다.

○…김 대통령은 이에 앞서 감온 호텔에서 수행인사들과 조찬을 함께 들며 이번 방일 결과에 만족을 표시했다.

김 대통령은 오부치 게이조(小淵恵三) 일본 총리와의 정상회담 내용을 설명하면서 "오부치 총리는 (과거사 망언 되풀이가 가능성에 대해) 정부 여당은 조심하겠으나 일부 야당이나 국민들이 그럴 경우 마음대로 되지는 않을 것이라면서도 "우리 두 사람과 양국국민이 협력, 발목되지 않도록 하자고 말했다고 소개했다. 김 대통령은 방일 성과를 「50년만에 정권교체를 이뤄준 국민의 공헌」으로 돌리기도 했다.

한편 10일은 일본에서 「해이세이(平成) 10년 10월 10일」로 10이 3개 겹치는 「트리플 텐」으로 길일(吉日)이라 임패리얼호텔에는 결혼식 예약이 많았으나 호텔측이 김 대통령 경호를 위해 경제적 손해를 무릅쓰고 대부분 취소시켰다고 침와미 관계자는 전했다.

〈洪準浩기자·jhong@chosun.com〉

韓国日報 10月12日 1面

"日本の大衆文化 輸入開放
段階別 はやい速度となるもの"
洪外交通商長官 明かす.

"日대중문화 수입개방 단계별 빠른속도될것"

洪외교 밝혀

홍순영(洪淳瑛)외교통상장관은 11일 일본 대중문화 수입개방과 관련, 『단계적으로 하되 점진적이기보다는 빠른 속도로 해야 할 것』이라고 말했다.

홍장관은 이날 오전 KBS 「정책진단」에 출연, 김대중(金大中)대통령이 방일기간중 밝힌 일본 대중문화 수입개방문제에 대해 이같이 말하고 『한일 양국 정부간 구성될 문화교류협력위에서 개방 프로그램을 만들어 단계별 예고제로 개방할 것』이라고 밝혔다.

이와 관련, 정부의 한 관계자는 『첫 단계로 이른 시일내에 한일 합작영화나 국제영화제에서 수상한 일본 영화의 수입이 허용될 것』이라고 말했다.

홍장관은 또 일본의 유엔안보리 상임이사국 진출 문제와 관련, 『한일 양국이 동반자 관계를 맺기로 한 만큼 「열린 마음」으로 좀더 미래지향적으로 대응해야 한다』고 말해 전향적인 입장을 밝혔다.

홍장관은 김대통령이 제기한 동북아지역 6자회담 회의체와 관련, 『4자회담이 끝난 후 반드시 6자회담을 열어야 한다는 게 아니라 양자를 병행할 수도 있으며, 지역 평화와 안정을 위해 주변국이 동의하면 6자회담에 참석한다는 입장』이라고 덧붙였다.

/윤승용기자

1面

오늘 청와대 訪日설명회

今日, 青瓦台 訪日説明会

김대중(金大中)대통령은 12일 박준규(朴浚圭)국회의장 윤관(尹錤)대법원장, 김종필(金鍾泌)총리 등 3부요인과 김용준(金容俊)헌법재판소장, 국민회의 조세형(趙世衡)총재권한대행, 자민련 박태준(朴泰俊)총재, 한나라당 이회창(李會昌)총재를 청와대로 초청, 오찬을 함께 하며 방일결과를 설명한다.

★관련기사 5면

김대통령과 이총재의 대면은 이총재가 8월31일 전당대회에서 한나라당 총재로 선출된 이후 처음이다.

그러나 청와대 관계자는 『이번 오찬은 일본 방문의 성과를 설명하고, 한일공동선언 등 합의사항을 실천하기 위한 정부와 정치권의 협조를 당부하기 위한 것』이라며 『설명회후 정당 대표들과 별도의 면담은 없을 것』이라고 말했다.

98.10.12.朝日(夕)

10.12.98 朝日

慰安婦問題で討論会

【北京12日＝中村史郎】日本、韓国、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の女性が集まって従軍慰安婦問題について話し合う会議が十一日まで三日間、北京市内のホテルで開かれた。北朝鮮の元慰安婦も参加して慰安婦にされた当時の状況を証言。会議は日本政府に対して被害者への公式の謝罪と補償をするよう申し入れることを決めた。

「朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会」代表の清水澄子参院議員らが中心になって呼びかけ、韓国の「挺身（ていしん）隊問題対策協議会」、北朝鮮の「アジア女性と連帯する朝鮮女性協会」などの女性団体代表ら計二十人が参加した。

98.9.5. 東京（9）

フェミニズム思想の成熟を目指す

大越　愛子さん

土曜訪問

五十三回目の終戦記念日を迎え「全国戦没者追悼式」が日本で開かれていたころ、近畿大学助教授の大越愛子さんは、中国・南京にいた。今なお残る生々しい傷跡、犠牲者の呻吟な叫び、近代日本の負の遺産――。単に祈りをささげるだけでは済まない現実を、構造的かつ思想的にとらえ直す視点は、やはりフェミニズムしかない。そう再認識したという。

「従軍慰安婦問題が重要なのは、彼女たちの存在を棚上げしたままでは、国民国家の歴史的かつ制度的な矛盾や、近代戦争の本質を問うことができない、ということがより明らかになったから。補償うんぬんを論じるのでは済まない問題があると思うからです」

懇談して間もなく訪ねた大学の研究室で、大越さんの話に力がこもった。

「フェミニズムとは思想変革である」と常々強調する大越さんは、慰安婦問題は、日本のフェミニズムが今後、思想として成熟するかどうかの大きな試金石と位置付ける。昨年一月に発足した、犠牲者であると同時に加害者となることも強いられた女性の視点から、近代国家と戦争を考える「『女性・戦争・人権』学会」の発起人に名を連ねたのも、幅広い議論の場を設けることで、将来の展望に弾みをつける狙いから。ことし五月には学会誌が創刊された。

一九四〇―五〇年代の参政権獲得や男女雇用差別撤廃運動から、ウーマンリブに代表される六〇―七〇年代。ジェンダー（社会的に決定される性）へ着目して役割分業を論じる八〇年代という流れを受けて、世紀末の今「二十世紀最大の思想になる可能性をフェミニズムは持っている」と大越さんは見る。

「八〇年代以降は、この三つの流れが重層的な状態で推移していると思います。思想変革としての側面はまだ弱いですが、六〇―七〇年代の女性たちの『何かおかしい』というもやもやした気持ちを説明するキーワードが、八〇年代の『女性学』によってつくり出された。九〇年代からはそのキーワードを組み上げて、広がりのある思想として構築しようとする段階にきたということでしょう」

―ワードの典型例として「家父長制」を挙げる。家長である男性が、与えられた権力に基づいてその家の構成員を統率、支配していくという形態を、ね」

男社会の在り方にも"一石"

一九四六年東京市生まれ。京大文学部卒。著書に「闘争するフェミニズム入門」「近代日本のジェンダー」などがある。

「団塊の世代の一番上の全共闘世代」という「あの時は性別役割分業があって、男が前で頑張って、私たちはおにぎりなんか作ったりしてました」。同じころ、ある雑誌の企画で、大学の時計台前で「全共闘と女ード」と題した撮影会があったそうだ。「裸の女性を男子がにやにや笑って眺めていて、今思えば、あれも『もやもや』の一つだった」と笑う。

この十年で、フェミニズムはかなりの市民権を得た、との感覚がある。「あれは女たちの勘違いであって、男には関係がない。低い地位にいるからやってるんだろうというのが十年前の男方といっていいでしょう。当時は、男社会の在り方を問い直すような感覚は、ほとんど考えられなかった。それが慰安婦問題を真摯に、日本の戦争犯罪の問題を考えていた人たちなども、かかわらざるを得なくなってきたんです」

二十世紀は、それまで盤石とされてきた男の在り方を支える感覚が、激動する歴史の前ではかすしも有効ではないということを見せつけた。ソビエト連邦の崩壊、旧ユーゴスラビアの分裂、統一ドイツの誕生――。地殻変動が始まったフェミニズムは、次の世紀に向け、新たな世界観をどのように示すのだろうか。

（久岡木　豊）

文化

村上　保・画

98. 9. 6. J.T.

EDITORIAL SAMPLER

War memories can serve future generations

Aug. 15, 1998 was the 53rd anniversary of Japan's surrender in World War II. Some dailies stressed the importance of handing down memories of the war to future generations. Some others said Japan, the only nation to suffer atomic bombings, should step up efforts for world peace.

Nihon Keizai Shimbun

"The majority of Japanese have no firsthand knowledge of the war and Japan's defeat in it. The waning public interest in this historic date, Aug. 15, is probably unavoidable. But it is as important as ever to remember that the war killed over 3 million Japanese and caused untold sufferings to neighboring countries in the Asia-Pacific region. We should not forget, either, that Japan owes its present prosperity to the war dead."

Kochi Shimbun

"All efforts to establish Japan's true identity will come to nothing if the anniversary is forgotten in the name of nationalistic 'self-esteem.' "

Kanagawa Shimbun

"We hope that Japan's younger generation that has learned the value of peace and the tragedies of war will in the next century join hands with younger generations around the globe to build world peace."

Asahi Shimbun

"The Japanese military that caused suffering in neighboring countries also caused suffering for the majority of the Japanese people. But in a strange twist of logic, some Japanese defend the military, saying that they did some good things."

Hokkoku Shimbun

"Some believe that admitting Japan's sole war responsibility fosters 'antiwar thought' and helps promote world peace. They are a bit too naive."

Sankei Shimbun

"How long do we have to suffer this hangover from our war defeat? . . . Only conservatives with a sound sense of nationhood can prevent the new generation from following the dangerous path."

Hokkaido Shimbun

"Serious efforts should be made to clear up any misunderstandings about the Nanking Massacre and the 'comfort women' issue. This requires cooperation among the governments and interested private groups of Japan and other countries concerned, such as South Korea, North Korea and China."

Shinano Mainichi Shimbun

"(Commenting on the course Japan should take) First, we should be proud of our pacifist Constitution, particularly of our antiwar and nonnuclear policy. In that spirit we should conduct an independent foreign policy to promote peace in Asia and in the rest of the world."

Sanyo Shimbun

"Conflicts (around the world) stem partly from poverty and human-rights violations. Japan should make positive contributions in nonmilitary areas, such as science and technology, education and welfare."

Yomiuri Shimbun

"We should marshal our national resources in the same way that we worked together to rebuild the country from the ashes of war. While seeking coprosperity with the international community, Japan must put its economic house in order as soon as possible and prevent a homegrown slump from spreading to other parts of the world."

Nishi Nihon Shimbun

"A fundamental change in postwar Japan is the disintegration of the traditional community that held a tight grip on personal freedom. Our challenge is to build a freer and more diverse community and one in which individuals bear responsibility."

Ryukyu Shimpo

"More than half a century after the war's end, Okinawa remains the only place in Japan where war weighs down on residents as a real possibility."

Chunichi-Tokyo-Hokuriku Chunichi

"(Commenting on the nuclear tests conducted by India and Pakistan) In the autumn general assembly of the United Nations the prime minister should remind the world anew of the evil of nuclear armament and make it clear that Japan will not remain u[illegible]r the U.S. nuclear umbrell[illegible]e should also propose specific steps toward nuclear disarmament."

Saga Shimbun

"It is time for Japan to explore ways of ensuring its security without relying on the U.S. nuclear umbrella."

Tooh Nippo

"As memories of the war fade, our collective will to maintain world peace may weaken. Our duty is to hand down our knowledge and experience of the war to future generations."

Mainichi Shimbun

"It is hoped that Japan's war defeat and its experience of atomic bombings will crystallize into universal peace and total abolition of nuclear weapons. For that, we must take an honest look at his[illegible] and tell the younger generation about what war is all about."

This is a translation of a "Survey of Editorials" (Shimen Tenbo) from Shinbun Kyokaiho, a weekly publication of the Newspaper Publishers and Editors Association of Japan.

9/6 '98 JT.

98.9.7 朝日

女子学生の就職手帳に幕

18年 均等法できた ネットも広がった

十八年間にわたり、就職活動での男女差別や会社の実態を女子学生が手弁当で取材し、発表してきた「私たちの就職手帖」が、今年で発行に幕を閉じることになった。歴代編集に携わってきた女性たちは、転職、リストラ、出産などさまざまな転機を経て、新たに「自分らしい働き方」を探ろうと、九月から都内で連続講座を開く。「男女を問わず、仕事の仕方を考えたい人に参加してほしい」と呼びかけている。

「手帖」は一九七八年に早稲田大学政経学部の女子学生アンケートから始まった。学生たちは、当時ほとんど情報がなかった四年制大卒女性の就職活動を知りたがっていた。試行錯誤の末、創刊号を出せたのは八〇年だった。

その後、男女雇用機会均等法が制定され、「女子」を理由に門戸を閉ざす企業は激減した。「就職活動の成否は個人の能力次第という見方が広がり、差別に対する社会的な怒りを学生が持ちにくくなった」と、初代編集長でジャーナリストの福沢恵子さん(四〇)は分析する。

今度は働き方講座

今回の発行休止は、インターネットを使う学生たちの情報交換の場もでき、冊子を半年がかりでまとめる必要性が低くなったこともあるという。

編集に携わったのは、これまで約三百人。就職はしたものの働きすぎで体を壊したり、リストラにあったり、家族の介護や育児を抱えたりして、「働き方」を見直さざるをえない人も多かった。約一割が起業・独立を体験している。

約二十人のOGが、新たな講座の準備にかかわることになった。

講座はいずれも東京ウィメンズプラザ（渋谷区）

で、十一日夜には全米一位のスポーツ・コラムニストとして評されるミッチ・アルボム氏(四〇)が「走り抜ける人生からバランスの取れた人生へ」と題して話す。

二十日午後には「独立・起業シンポジウム」として、女性の再就職を支援してきた調査会社の代表らが起業の失敗例や必要な準備などについて話す。

事前申し込みが必要で、問OG会（〇三―三四七九―〇五一一、平日午前十時から午後六時まで）へ。十一日が千円、二十日が千五百円、両日参加は二千円。

いろんな人の知恵を交換する講座にしたい、と準備するOG会の女性たち＝東京都港区南青山2丁目で

98. 9. 7. H. T. (6面)

Rape in Genocide

The guilty verdict that the war crimes tribunal for Rwanda pronounced on Jean-Paul Akayesu last week was the first judgment for the crime of genocide under international law. In making rape part of Akayesu's genocide conviction, the decision also advances the world's legal treatment of rape and sexual violence.

Akayesu, who is due to be sentenced later this month, was not accused of carrying out rapes or killings himself. The court found that as mayor of the city of Taba in 1994 he ordered Hutu to kill their Tutsi neighbors, including children. He also encouraged and ordered the rape and murder of Tutsi women in a cultural center he controlled.

While Akayesu's conviction completed the first full trial for genocide, a former Rwandan prime minister, Jean Kambanda, pleaded guilty to genocide on May 1. On Friday he was sentenced to life in prison, the maximum punishment at the tribunal.

The greater impact of the court's Akayesu decision will likely be seen in the area of rape and sexual violence. The court declared that rape may constitute genocide if committed with intent to destroy a particular group. In this case, Tutsi women were raped to increase their suffering before they were killed.

The court also issued the first definition of rape under international law. It called rape "a physical invasion of a sexual nature, committed on a person under circumstances which are coercive." Coercive circumstances need not include physical force, the court said. Threats and intimidation would qualify. The definition is concise and broad enough to be a good guide, enabling courts to prosecute rape more easily in the future.

When charges were first brought against Akayesu, rape was not among them. Despite extensive media reports of rapes, the tribunal's investigators, at the time virtually all men, could not find evidence to support an indictment. But during the trial a witness brought up rape in the cultural center. Questioned by Navanethem Pillay, a South African who is the tribunal's only female judge, the witness gave details. Other witnesses followed. Largely due to pressure from women's groups, the investigators went back to ask about rape, and those charges were added. Without female judges and investigators, this cruel aspect of the Rwandan genocide might never have been addressed.

—*THE NEW YORK TIMES.*

98.9.8. 東京

若者ら朝鮮人虐殺の足跡たどる

都内の若者らでつくるグループ「『孫の世代の戦争責任って……』実行委員会」（通称・マゴセン）が十三日、関東大震災で起きた朝鮮人虐殺の問題を知ろうと、当時の現場を歩く試みを行う。日本の戦争責任を考えるため専門家や戦争体験者による講座を開いてきたが、今回は初めて屋外に飛び出し、首都・東京に残る「加害」の歴史の跡を自分の足でたどる。

震災直後の東京・浅草。廃墟となった町でデマによる朝鮮人虐殺が行われた

街に残る歴史の影、見つめよう

都内のグループ 13日に実施、参加者を募集

「マゴセン」は、反戦運動や沖縄の基地問題、従軍慰安婦の問題などに取り組む二十代から三十代の若者ら十数人で結成した。きっかけは一九九六（平成八）年、アジア各国の元日本軍従軍慰安婦への補償問題を訴えるロックコンサートを開いたことだ。

日本に公的補償を求める元慰安婦らに、民間基金の設立で応じようとする政府の方針に「それで償えるのか」と異議を唱える立場からだった。

コンサートは成功したが、戦争責任の問題などに積極的に発言している漫画家から予期せぬ批判を浴びた。このためメンバーらは「それでは」この問題をもっと深く追及しよう」とかえって結束したという。

その一人で団体職員の小川里津子さん(三)は「私たちが知らない、あるいは教えられていない戦争の問題があるなら、まず知ることから始めようと話し合った」と語る。

会では今年七月までに、ジャーナリストや戦争体験者を招いた講座を五回開いた。日本がなぜ戦争を始め、アジア各国にどんな被害を与えたかを学ぶとともに、「祖父たちの世代の戦争責任に、戦争を知らない世代の自分たちがどう向き合うかを考え続けてきた」（小川さん）。

六回目の今回は「東京に残る加害の証拠を見つめよう」と、屋外視察を企画。時期が九月とあって、関東大震災で行われた朝鮮人虐殺の問題を取り上げた。虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し、追悼する会の横田民子（シン・ミンジャ）さんの案内で、震災犠牲者の遺骨を納めた都慰霊堂のある横網公園や、虐殺された朝鮮人の遺体が埋められたという荒川河川敷などを歩くとともに、虐殺が行われた背景の説明を聞く。

関東大震災は、防災の重視から地震被害がクローズアップされる半面、多くの朝鮮人が殺された歴史は振り返られることが少ない。

同会では「なぜ日本に朝鮮人が多く連行されていたのか、なぜ虐殺されたのかをもう一度考える試みにしたい」といい、参加者を募集中だ。

参加費は五百円（交通費や食費などは実費負担）。希望者は十日までに、氏名や連絡先などをファクシミリで小川さん方＝電（5343）6037＝へ。

関東大震災での朝鮮人虐殺 震災の起きた一九二三（大正十二）年九月一日、東京や横浜で「社会主義者や朝鮮人が放火している」「朝鮮人が暴動を起こしている」などのデマが広がった。その一部は警察や軍が流し、住民は各地で「自警団」を組織。官憲と一緒になって、多くの朝鮮人や中国人を殺した。被害者は、六千人とも推定されている。

Lithuania establishes war crimes commission

98.
9.
9.
J.T.
(8面)

VILNIUS (Reuters) Lithuanian President Valdas Adamkus Monday officially established an international commission to look into war crimes committed during the nation's Nazi and Soviet occupations this century.

"Its main function is to investigate the World War II period and the immediate aftermath in order to come up with answers to various questions concerning Jewish and Lithuanian genocide," said presidential adviser Julius Shmulkshtis.

The panel will be headed by Jewish legislator Emanuelis Zingeris and will include the president's adviser on Jewish affairs, as well as U.S. officials from the Jewish organization B'Nai B'rith and the American Jewish Committee.

Lithuania and its Baltic neighbors, Estonia and Latvia, were occupied by the Soviet Army in 1939 and incorporated into the Soviet Union in 1940, when tens of thousands of Lithuanians were exiled to Siberia.

The Russians were ousted by Nazi forces in 1941, and the Germans subsequently murdered over 90 percent of Lithuania's prewar Jewish community.

But the Soviet Army swept to power again in 1944, deporting hundreds of thousands of Lithuanians over the following years.

Shmulkshtis also said the commission would investigate local Lithuanian involvement in the Holocaust, a sensitive topic in the Baltic state.

On Wednesday, Lithuania will open the trial of Aleksandras Lileikis, accused of handing over Jews to Nazi murder squads.

にゅうす らうんじ

戦後処理 凍結した日本
市民の手で歴史像作れ

語る kataru

姜尚中の世界

日本が歴史的に深いかかわりのある朝鮮半島。敗戦五十三年を経て、国交のない北から「ミサイル」が飛んできた。隣とは経済の様はつながった。国民の相互理解は進まない。朝鮮半島は、南北分断は半世紀にもなる。一次和水の関係、真の和解はどうすれば可能なのか。

■日韓経済は「合併症」とか？

日韓とも同じようなタイミングでバンドウの波が開き、経済不安をもたらした構造的な問題が一気に噴き出した。日本の敗後経済を支えたのは官僚的一体の構造だが、韓国の軍事独裁政権はとのシステムを輸入し、高度成長をなし遂げた。だから、合併症というべきです。ただ、日本が全身麻酔状態だとすれば、韓国はある意味で背骨の単純骨折というか、問題ははっきり見えている。

■で、処方せんは書けますか。

日本はアジアに対して膨大なODA（政府の途上国援助）を出し、韓国、東南アジアの国々から円を流動資産としていくための積極的な支援がなかった。アジア諸国には、日本に対する「過去のしこり」が残っているからでもある。アジア通貨危機の原因だと、こうした問題があることに日本は気づかなければならない。

一方、韓国では改革への求心力が出てきている。「ここで踏ばないと、あとがない。国がたちにその能力はある」と、再生への決意が感じられる。

■日韓の新しいきずなをつくることはできますか。

歴史にかかわる問題の根は深いが、韓国側も自分たちの内部で問題点を絞さらいして、やるべきことは徹底的にやることだ。それが、日本側がすべきことを刺激するだろう。そうしたなかで「反日」と「親韓」の中間が少しずつなくなっていくのでないか。楽観的すぎるかもしれないが、そもないと韓国社会の再生もありえないと思う。韓国ではいま、日本は大切なパートナーだと、はっきりと認識する人たちが現実にふえている。

■「負の遺産」は絶えられるか？

個人的体験だが、幼いときに聞いた戦争体験者たちが「日韓戦争で中国人を殺した」というのを聞いたことがある。韓国では聞いてはならないことだ。しかし、そうした記憶が敗戦五十年余り、日本社会で息折して流れてきたのでないか。

八二年に侵略記述などをめぐる歴史教科書問題（注1）が起きたが、そのさなかに韓国では戦中の植民地の経験を調査する声が強められた。これは特殊な例ではなく、歴史問題の根っこにある現実だ。こうした問題と本音の「ねじれ」をどう整えられるのか。市民が自由に自らの体験を語り、そこからあるべき歴史像を作りだしていくことが求められている。車の両レベルで、長い作業が必要だろう。

■歴史が深いですね。

日本人の歴史認識には、多分に日本社会の特殊性が反映されている。いわゆる自虐史観（注2）を例にとれば、これは清算戦争が曖昧にされた。敗後日本を支えた三位一体のシステム、つまり平和憲法と日米安保は、それにニューディール型の福祉国家建設のうち、前二つが朝鮮戦争で整立って問題となった。冷戦構造とも重なって、最後の大きな争点が残りだした。しかし、改憲派も護憲派も新たな現実を生み出す上で、有効に対応できなかった。そのため、いわば敗後日本のマインドコントロールを巻き、新たな組織を立ち上げなければならない、という危機感が自由主義史観を生んだ。冷静な主張ではない。

■敗後処理をどうして、旧西独留学で学んだことは？

旧西ドイツでは六〇年代の終わりごろから、反体制派の強いカウンター・カルチャーや新しい社会運動が生んだ。ナチの過去を問いただすことになった。その過程で、戦争の歴史ときっちりと向き合う国民的合意が生まれ、敗後補償への本格的な取り組みができた。分断国家として生き残るためにも、隣国への配慮は死活的な意味を持っていた。

日本の場合は敗後、アジアから切り離され、米国の傘の下に入ることで敗後復興の足場かりをつかみ、敗後処理を事実上放棄しても生き残ることができた。でも冷戦が終わって国際環境は一変しつつある。そのギャップを埋める作業が、いま問われている。

■具体的に、従軍慰安婦問題の解決策は？

現も重要なのは真実の解明だ。日韓の歴史家も関係者たちを集めて、証言の聞き取りをする委員会を開くべきだ。元慰安婦のハルモニたちに対する名誉回復とケアは、韓国政府がすることだ。すでに韓国政府は、国内法に従って生存者への生活支援を始めた。日本政府も国内法の範囲で何ができるのか、そうした相互の対応が問題解決への最小線の土台になる。

■朝鮮半島情勢が緊を引いています。

日本と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の国交正常化交渉で「拉致疑惑」の問題が浮上したが、日朝の歴史認識の違いが、

98. 9. 10. J. T. (2面)

Forum on women's issues in Asia opens in Tokyo

Government experts on women's issues from Japan, Southeast Asia, China, South Korea and Mongolia started a two-day meeting in Tokyo on Wednesday to exchange views on each country's efforts to improve the social status of women.

"I hope you will take advantage of this conference to share information and strengthen ties so that the power of women creates an opportunity for the renewed growth of Asian nations," Chief Cabinet Secretary Hiromu Nonaka said at a luncheon for the delegates.

Seven Southeast Asian nations — Indonesia, Laos, Malaysia, Myanmar, the Philippines, Thailand and Vietnam — were represented at the conference, along with the U.N. Economic and Social Commission for Asia and the Pacific.

9/10 98 J.T. P.2

98.9.10. 朝日(夕)

大 なぜ妻を殴るのか

大きく深い溝もある

思わず妻や恋人に暴力をふるってしまう。やめようと思っていながら、つい手を振り上げている。そんな男たちが語り合い、自分を変えようという集いが十二日、東京で開かれる。「内輪のもめごと」とされてきた日常の暴力について、加害者側の男性たちの動きはこれまでほとんどなかった。まず自助グループづくりを目指し、癒の長い活動の出発点にしたいという。

主催するのは、「男らしさ」を問い直そうという男性たちの会「メンズリブ東京」と、カウンセラーの草柳和之さん(四三)。

男性の身近な女性への暴力を会の仲間が意識したのは三年ほど前。会を始めてすぐだった。

車座になって本音を話し合うなかで「腹が立つと頭が真っ白になって妻を殴ってしまう」「恋人に手を上げ、後で自分がつくづくいやになる」と声がとぼれた。

被害者の女性の話を聞き、話し合いを重ねるうち、草柳さんが昨年末から専門相談を始めたことを知った。

そんな自分が情けない

男性たちは、子どもの心が不安定になったり、妻から離縁を求められたりして初めて「自分が悪かった」と気づき、相談室に通い始める場合が多いという。

草柳さんによると、米国の研究結果では、父が母に手を上げるのを見たり、自分もたたかれたりして育ち、怒りをためやすく、うまく意思の疎通ができない人が多い。日本も同じだ、と草柳さんは見る。

「暴力から一人で抜け出すことは難しい」と草柳さん。米国では男性の自助グループが生まれている。日本でも同じ立場の人の話を聞き、自分と比べることで問題に立ち向かう機会が必要だ、と集いを開くことになった。

参加者は男性だけ。女性に実際に手を上げる人だけでなく、いつ暴力をふるうかわからないと考える人や、言葉で傷つけてしまい悩んでいる人にも来てほしいという。

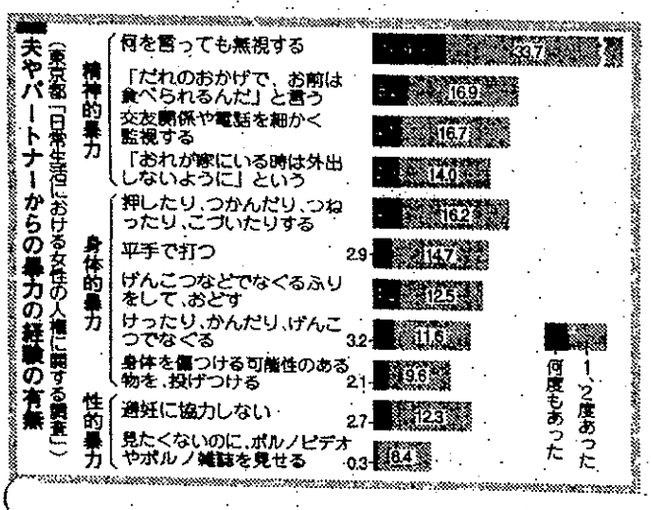
「暴力をやめられないという傷をなめ合うのではない。克服するために率直に語り合う会にしたい」と「メンズリブ東京」代表の豊田正義さん(三二)は話している。

◇

集いは「メンズフェスティバル'98―in東京」の分科会「妻(恋人)への暴力を止められない男性のための会」として開かれる。

十二日午後二時―五時、足立区女性総合センター。フェスティバル入場料千五百円と分科会参加費五百円の計二千円が必要。問い合わせは草柳さんの「メンタルサービスセンター」(03・3393・6147)。

克服へ本音語る集い 12日 東京で



公的な取り組み遅れる日本

男性の妻や恋人への暴力は欧米ではドメスティックバイオレンスと呼ばれ、一九七〇年代に取り組みが始まった。米国では女性たちが避難所(シェルター)を開き、八〇年代には夫の暴力に対応しない警察を相手取り、妻が訴訟を起こす例が相次いだ。法整備も進み、民間シェルターに予算がついている。加害者にカウンセリングなどのプログラム参加を課す自治体も多い。

日本でも、妻から離婚を申し立てる理由の二位に「夫の暴力」があがっているが、公的な取り組みは遅れ、全国規模の実態調査はまだない。

東京都が九七年に都内の男女四千五百人を対象にした「日常生活における女性の人権に関する調査」によると、夫などのパートナーを持つ女性千百八十三人の回答では「押したり、つかんだり、つねったり、こづいたりする」が二割以上で、「平手で打つ」も二割近い。言葉の暴力だと、五人に一人が「だれのおかげで食べられるんだ」と言われている。

98.9.11. 朝日 （37面）

慰安婦の資料を出版

「女性のためのアジア平和国民基金」（アジア女性基金）は十日、これまで日本政府が調査し公表してきた「慰安婦」関係資料を、全五巻に編さんして出版したと発表した。

収録されたのは、旧日本軍の関与を認め元「慰安婦」たちへのおわびと反省を示した一九九三年八月の河野官房長官談話や、政府調査の結果として九二年と九三年に公表された資料など、約三百点。遺族の了解が得られなかった回想記、数点が除かれている。

「政府調査『従軍慰安婦』関係資料集成」全五巻セットで十万円。アジア女性基金・編、龍渓（りゅうけい）書舎（電話03・3554・8045）刊。

「植民地資料」公開を

朝鮮への侵略や植民地支配を否認したり、正当化したりする発言が繰り返されるのは植民地時代の重要な歴史資料・文書の多くが未公開になっているからであるとして、日本の日朝関係史研究者ら六十一人が十日、日本政府が保有する史料の全面公開を要求する声明を出した。歴史問題の懸案が話し合われる金大中大統領の訪日を機会に公開を求めている。

一方、韓国のハンギョレ新聞によると、韓国内でも先月末、大学教授ら百人が韓日の歴史資料の即時公開などを求める「政策提案」を大統領官邸に提出した。

98.9.17 朝日（4面）

論壇

主張・解説

インドネシア華人の人権と日本

ウォン・ピンファ

インドネシアの「五月暴動」は春雷のように、三十二年にわたるスハルト独裁政権を打ち倒した。しかし、スハルトがつくった「新秩序」体制は、彼の失脚によって直ちに終わったわけではない。重要なことは、インドネシアの少数民族、とりわけ華人が権力闘争のスケープゴートにされ、華人の女性が組織的な暴行を受けたことである。これによって、「華人の経済支配」「縁故主義体制」といった国内問題は、一夜にして国際的で普遍的な人道、人権問題になってしまった。

五月暴動は、東南アジアの金融危機に対するインドネシア版の反応であり、権力による巻き返しの一撃か、クーデターの疑いもあるものだった。いまのところ、多くの現象からスハルトの女婿で、陸軍戦略予備軍司令官だったプラボウォ中将が指揮を執った可能性が大きい。

世界の人権団体が一カ月余りの調査で明らかにしたことは、五月暴動は群衆の不満を抑えきれずに起きた暴動や伝統的な「華人排斥事件」などではなく、「国家テロリズムによる陰謀」の一部だったことである。

五十時間ほどで、ジャカルタの二十七の地区で暴動が起き、千百九十八人が犠牲になり、百五十人がレイプされた。四千軒の商店が焼かれ、多数の車や民家に火がつけられた。女性運動家のアリエル・ヘルヤントさんは、七月十五日のジャカルタ・ポスト紙で「これだけの規模の暴力事件を起こすことができるのは、国家機関以外にはないことはだれもが知っている」と指摘している。

大衆の不満を利用した華人排斥事件の悲劇は、インドネシアではたびたび起こされ、東南アジアの一部でも繰り返されてきた。しかし、今回のように略奪、破壊、放火、殺人のほかに、集団で公然と華人女性をレイプするようなやり方は、髪の毛が逆立つほどの野蛮なもので、インドネシア人さえも恥じているという。東南アジアをはじめ、世界中の華人たちが真相の究明と犯罪者の処罰を求め、北京と台北の当局者も強い関心を寄せた。

一体どれほどの罪のない華人の女性たちが陵辱されたのだろうか。七月に公表された政府機関の調査では四百六十八人と、さらに人数が増えている。被害者は九歳から五十五歳まで、九歳の少女を含む二十人が亡くなった。だが、人権団体の推計は被害女性を千人以上としている。

インドネシアの華人は、元々不公平な立場に置かれ、非人道的な扱いを受けてきた。メディアの決まり文句は、人口の三・五十四%を占める華人がインドネシア経済の七〇%を〝独占〟しているというものだった。こうした論調は、人種主義の観点でインドネシアを見る傾向をさらに助長した。確かにこうした数字は、貧富の格差など現実の問題の一面を説明している。しかし、だからといって自分をごまかすようなやり方で、すべての責任を華人になすりつけることはできないはずだ。

私が住むシンガポールでは、八月にマレー人青年団体が声明を出し、イスラム教徒の立場から「暴行された女性たちには思いやりだけでなく、正義を回復しなければならない。二度と同じようなことは起こさせない。我々が沈黙を守ることは、こうした残虐な行為を許すことを意味する」と、犯罪行為を責めた。

ところが、日本社会はこの悲劇についてほとんど関心を示さないようだ。政治家や民間団体が抗議したというのも聞かない。アジア人としての共通感情に欠けるために、地域の出来事に関心がないのだろうか。女性の基本的人権に対する認識が異なっているために、性的被害を重要とみなさないのだろうか。「反日」と「排華」は別のものだとして、対岸の火事とみているのだろうか。

だが、こうしたひとごとの態度は、日本とアジアの距離をさらに広げてしまう。性的被害を人権侵害とみなさない対応は、日本がこれまで「慰安婦」問題から逃げてごまかしてきたのと同じではないだろうか。

シンガポールのイスラム青年たちの訴えは、明快で力強いものだ。被害に遭った女性たちへの思いやりと暴力を否定する決意。アジアの一員として、日本が近隣での非人道的な行為に沈黙を守ることは、日本人の人権感覚に対する国際社会の疑念を招くことになろう。

（コラムニスト＝投稿）

98.9.18. 朝日（4面）

論壇

小池 政行（こいけ まさゆき）

国際人道法に理解と関心高めよう

私は、かねてから戦争や紛争における戦争犯罪の禁止、犠牲者の保護などを規定した「国際人道法」と呼ばれる、一九四九年採択のジュネーブ四条約と、七七年採択の二つの追加議定書の重要性を指摘し、特に採択から二十年以上たっていながら、わが国が批准していない追加議定書批准の必要性を訴えてきた。

しかし、この一年を見ても、日本政府が国際人道法の普及に力を入れ始めた、ないしは追加議定書の批准に向けて積極的な検討を開始したということは聞いていない。

ジュネーブ四条約の締約国は、現在では国連加盟国より多い百八十八カ国となり、来年は本条約採択五十周年にもあたることから、赤十字国際委員会（ICRC）は世界的な規模で国際人道法の重要性を訴えていくことを計画している。

わが国は、ジュネーブ四条約には五三年に加入したが、同条約に規定されている「条約内容を広く人々に普及すること」に関しては努力不足で、条約の存在さえ一般の人々には知られていないのが実情である。

一方で、国際人道法を巡る国際社会の情勢は大きく変化した。

二つの追加議定書については、この一年で批准国が増え、「国際的武力紛争の犠牲者の保護」を規定した第一追加議定書の締約国が百五十カ国に、「非国際的武力紛争の犠牲者の保護」を規定した第二追加議定書の締約国は百四十二カ国になった。

今年一月には、英国が「人道を重視する政権の姿勢を示し、ほかの未批准国も批准することを訴えたい」として、両追加議定書を批准した。これによって、主要国で両議定書とも未批准の国は米国と日本のみとなってしまった。

さらに、国際人道法を巡る大きな動きとして、この七月に国際刑事裁判所（ICC）を設立する条約が採択されたことがある。ICCは、ジェノサイド罪、人道に対する罪、戦争犯罪、侵略の罪を犯した個人を裁く恒久的な国際裁判所として画期的なものである。裁判所規定は、多くをジェノサイド条約、国際人道法の追加議定書から採り入れている。

しかし、わが国はこれらを批准していない。ICC条約会議に参加し、条約採択に向けて積極的な働きをした日本代表団の中には、ジェノサイド条約と追加議定書の批准に向けて、わが国も真剣に動かなければならないとの空気があったと報じられている。

一つの条約や議定書を批准するには、大変な事務作業を必要とする。国家の最終的な態度の決定は、それだけ大変なことであり、慎重な検討を要するものと理解したい。しかし、二十一年間は余りにも長い。何が批准に際して問題であり、現在、いかなる検討状況にあるのか。政府は明確な説明を行う必要がある。

今回採択されたICCの規定の中には「人道的援助活動または平和維持活動の要員、施設、車両などへの故意の攻撃は重大な戦争犯罪となる」とある。こうした活動に参加する日本人は年々増えているが、七月にタジキスタンで殺害された、秋野豊政務官の悲劇はすでに起こってしまった。国際社会の現実は予知しうる範囲を超えており、わが国や日本人だけが無関係ではあり得ない。

こうした現実を理解せず、われわれはまだどう思っているのかもしれない。「収容所、虐殺、ホロコーストなど第二次世界大戦の悲劇は、この平和な日本とのかかわりにおいて、二度と起こるはずがない」

しかし、ペルーの日本大使館人質事件や、秋野氏の悲劇に普及するまでもなく、国際社会の現実を直視しなければならない。カンボジア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルワンダ……。人間の悪の能力は際限がなく、われわれが無関心ではいられない厳しい現実を突き付けている。

戦争や紛争の惨禍から傷病者や一般市民を守る、国際人道法についての関心を高めるため、日本赤十字社は、この三月に外務省、防衛大学校などと「国際人道法に関する情報交換会」を設け、会合を重ねてきた。これを、国際人道法の普及と研究のための関係機関からなる「国内委員会」につなげていきたい。

政府が、ICC条約採択を機会に、二つの追加議定書の批准に向けて、積極的な行動に出ることを強く期待する。

（日本赤十字社国際部参事＝投稿）

主張・解説

98.9.18. 東京

ニュースバザール

●アジア女性の労働で討論

アジア・太平洋地域の労働組合幹部が、女性の労働問題について話し合う「国際女性シンポジウム」（主催・連合、国際自由労連など）が十七日、東京都内で開かれた。

基調報告で国際自由労連平等局のエルザ・ラモスさんは、経済のグローバル化が女性の雇用に与える影響について「多国籍企業の活動で女性の雇用は増えたが、雇用の質は良くなっておらず、パート労働や低賃金を余儀なくされている。アジア地域では金融危機で状況は悪化している」と指摘。「労働組合の努力で、働くルールを女性に有利に変えることが必要」と、労働運動への女性の参加の必要性を訴えた。

パネルディスカッションで、同労連アジア太平洋地域組織の和泉事書記長は「アジアの経済通貨危機に対応するため、社会保障制度など社会的なセーフティーネット整備のキャンペーンを進めている」と、同組織の活動を紹介した。

ニュージーランド労働組合評議会のスーザン・メアリー・ショーンさんは、規制緩和で労働組合の組織率が大幅に低下した状況などを報告した。

98. 9. 19. 東京

なぜ罰せられない夫の暴力

夫の暴力は個人的な問題でも、〝我慢が足りない〟妻だけの問題でもない。社会問題である。暴力を減らすには「夫の暴力は犯罪」であることを認識させるべきだ。

離婚相談には程度の差はあるものの、夫の暴力がからんでいることが多い。妻が申し立てる離婚原因の二位に挙がっているのが夫の暴力だ。

「夫の暴力は夫婦げんか」と片づけられがちだが、夫の暴力は社会的、経済的、肉体的に優位に立つ夫が、弱い立場の妻を力で支配するもので、単なる「けんか」とは違う。

隣の奥さんを殴れば「犯罪」になるのに、家で夫に殴られた妻が警察に訴えても「法は家庭に入らず」の建前から、問題にされないことが多い。結果的に、夫による妻の人権侵害が許されている。

東京都の「女性に対する暴力調査報告」（一九九八年）によると、夫やパートナーのいる人の七割が「精神的」「身体的」「性的」のいずれかの暴力を受けている。中には夫が「包丁などの刃物でおどす」（一・〇％）「首をしめようとする」（二・二％）ケースもある。

「一％」「二・二％」とは少ないようだが、都民の結婚している女性人口に換算すると、例えば一％でも二万人に当たるだけに、無視できない。

横浜の女性団体「みずら」は、夫の暴力を受けた妻の一時保護のため、「シェルター」を設置している。ここを利用する女性は年間五十人から六十人。こうしたシェルターは全国にまだ二十カ所しかないが、七〇年代から「夫の暴力」に取り組んでいる米国には、千二百カ所あるという。

「女性への暴力」が世界的に注目されるようになったのは、国連総会で採択された「女性に対する暴力撤廃宣言」（九三年）だ。日本では、北京の第四回世界女性会議（九五年）で「女性と暴力」が課題になってから、急速に関心が高まった。総理府の男女共同参画社会審議会「女性に対する暴力」部会も、昨年から調査を始めた。

「夫の暴力」は社会の構造と深くかかわっている。女性が外で働こうとしても賃金は男性のおよそ六割、女性が一人で家を持とうとしても、さまざまな制約があるのが現実だ。それだけに、根本的な解決は簡単ではない。

女性グループから、女性を保護する「シェルター」の設置や、「暴力防止法」の制定を求める声が高まっているが、福祉・医療機関や警察などへ、暴力の実態を知らせ理解を求めることも重要である。最近、一部男性の間で「なぜ妻を殴るのか」を話し合ったり、「暴力ではなく、言葉で表現しよう」というセミナーも開かれている。こうした動きに期待する。

世界人権宣言五十周年の今年、日弁連人権擁護大会は十七日、「家族と暴力」分科会で「夫からの暴力」問題を取り上げた。夫の暴力をなくすためには、「妻は夫の従属物」といった考えを転換させ、「夫の暴力は犯罪だ」という共通認識を、社会全体に広げていくことが課題である。

98.9.24. 読売(夕)

新漁業協定

日韓が大筋合意

暫定水域など最終調整

日韓新漁業協定の締結問題が二十四日中にも、決着する見通しになった。同日午前の自民党の佐藤孝行・国際漁業問題特別委員長と韓国の金鍾鎬・国会副議長らの政治折衝で大筋合意したもので、①竹島（韓国名・独島）周辺の暫定水域の東側境界線は「東経一三五度三〇分」とする②暫定水域にかかる好漁場の「大和堆」での漁獲量は魚種別に規制する③両国水域内での漁獲割当量は三―五年かけて同量とする――という内容で最終調整している。

同日夕に中川農相と韓国の金海吉海洋水産相が会談し、さらに一部を調整したうえで、基本合意に至る見通しだ。

最終調整の過程では、さらに、違反操業に対しては①一回目の摘発で三か月間の操業停止②二回目の摘発で操業権のはく奪――の行政処分を課すことも盛り込む予定。暫定水域の性質に関しては、韓国側が公海と同様の扱いを求めていたが、事実上の「共同管理水域」とすることで決着を目指すことにしている。

竹島周辺の暫定水域の設定は、領土問題と漁業問題を切り離すため、昨年十月に両国が合意した。しかし、その範囲をめぐっては、韓国漁船の操業範囲を狭めたい日本が「東経一三五度以西と沿岸から三十五㌔」を主張したのに対し、韓国側は「大和堆」を含めるために「東経一三六度以西と沿岸から三十四㌔」を求め、平行線が続いていた。

98.9.24. 日経

日韓の新漁業協定交渉

「あすにも実質合意」

訪日控え韓国水産相

【ソウル23日＝伊藤院敏】韓国の金善吉海洋水産相は二十三日、二十四日からの訪日を前にソウル市内で記者会見し、日韓の新たな漁業協定締結交渉について「日本の農相らと会って残っている問題を解消し、二十五日午後には大まかな内容を発表できるだろう」と述べ、二十四日からの東京での中川昭一農相との閣僚折衝での実質合意に自信を示した。

同相は「小さな問題はほとんど決着がついており、あとは政治的な妥協が必要だ」と指摘。最大の焦点である日本海の暫定水域の東側の線引きについて「日本は東経一三五度、韓国は一三六度を主張しているが、中間程度の常識的な線で解決するだろう」と述べ、東経一三五度五〇分程度で妥協する可能性を示唆した。

98.9.24.(9) 日経

日韓 新漁業協定 決着へ

日韓両国の新たな漁業協定締結をめぐる交渉は二十四日、実質合意する見通しとなった。焦点となっていた竹島（韓国名・独島）周辺の暫定水域東側の線引きについて、双方の主張の中間をとり東経一三五度三〇分とする線で最終調整している。交渉は今年一月に日本側が現行協定の終了（破棄）を通告するなどもつれていたが、十月七日からの金大中大統領の来日を前に政治決着が図られる形だ。

自民党の佐藤孝行国際漁業問題特別委員長は二十四日午前、都内のホテルで事実上の韓国大統領特使として来日中の金瑛鎬国会副議長と会談し、大詰めの調整を続けた。同日午後には中川昭一農相と韓国の金善吉海洋水産相の閣僚折衝が開かれ、両国は大筋で合意にこぎつけたい考えだ。

交渉は日韓双方が領有権を主張している竹島の問題で難航。領有権は棚上げし、竹島周辺に暫定水域を設けることで歩み寄ったが、その東側の線引きについて日本側は東経一三五度、韓国側は一三六度を主張していた。

98.9.24. 朝日

ネット無法化阻止に一石

児童ポルノ組織、世界同時摘発

米コネティカット州ニューブリテンで8日、ワンダーランド・クラブのメンバーとみられる男性の遺体を自宅から運び出す検視官ら＝AP。男性は一斉摘発で逮捕、告発された後、自宅で死体で見つかった。自殺の可能性がもたれている

容疑者特定に業界協力

■12カ国連携

端緒は昨年六月、米カリフォルニア州で十歳の少女が友人の父親に性的暴行されたと母親に訴えたことだった。まず同州サンノゼに拠点を置く小規模な児童ポルノ組織が摘発された。さらに逮捕者の供述から複数の英国人が組織に加わっていることがわかった。

米国からの通報で、英国南部のメンバー宅を地元サセックス警察が捜索。押収したコンピューターの記憶装置を解析したところ、別の大がかりな国際組織の存在が浮かび上がった。

一斉捜査を前に、六月にはワシントン、七月にはフランス・リヨンで欧米とオーストラリアの関係十二カ国の捜査幹部による会議が開かれた。捜査状況が電子メールで他のメンバーに伝わるのを防ぐべく、強制捜査の着手時間もほぼ同一時間帯に設定された。

■60人を逮捕

ワンダーランド・クラブでは米国内のコンピューターをサーバーに、約二百人がポルノ画像のやりとりなどをしていた。暗号化された特殊なパスワードでアクセスする仕組みだった。

今回の逮捕者は米国を中心に約六十人だが、「各メンバーが児童を虐待して画像作成に携わるなど、児童ポルノの世界では中心的な存在だっただけに、与えた打撃は大きい」とサセックス警察のデビッド・ウッド主任捜査官はいう。現在は画像に登場させられた子供の身元確認が進められているが、わが子を「出演」させていた母親もいたという。

大がかりな国際合同捜査が成功した理由をウッド氏は、「児童ポルノが深刻な社会問題だという共通認識があり、違法だとする共通の法規制があったこと」という。クラブには四十カ国以上からのアクセスがあった。

■現行法使い

パスワード解明には難航したが、いったんアクセスに成功すると捜査は進展した。メンバーは仮名を使っていたが、プロバイダーの協力で容疑者特定は容易だった。

事件後、米国のインターネット業界には「有害ネット対策は現行法でも可能なことが証明された」という安堵感が広がった。児童ポルノが問題になるたびに持ち上がるネットへの法規制導入の動きを「表現の自由」の侵害として警戒する欧米の業界は、有害データ排除などの自主規制や、警察への通報、捜査協力に力を入れ始めている。

英国でも一九九六年にプロバイダーや検索ソフト業者などが独自のネット監視団体「インターネット・ウオッチ」を設立。「ネットは決して犯罪者の安全地帯ではない」とデビッド・カー事務局長はいう。

■日本発急増

しかし、国境を越えて流入してくる有害情報に一国だけで対処するのは不可能だ。インターネット・ウオッチが九六―九七年に確認した児童ポルノなど有害情報の発信源は、米国（六三％）に続き日本（一九％）が二位で、英国（六％）を上回った。「この二年、日本発の児童ポルノが増えている。インターネットの未来を守るために、日本も児童ポルノへの法規制や監視体制を整備してほしい」とカー氏は訴える。

[illegible]初の[illegible]で実施したインターネットを使った児童ポルノの秘密組織「ワンダーランド・クラブ」（米国で結成）の摘発は、これまで児童ポルノの製作者や所持者は取り締まれても、国境を越えて情報をやりとりする組織の解明は難しいとされていただけに、「ネット上が無法地帯ではないことを示す絶好のメッセージ」（英国のインターネット監視団体）と評価は高い。各国警察の連携もさることながら、法規制を恐れるインターネット業界の捜査協力と、「児童ポルノは重大な反社会行為」とする社会の共通認識が成功のかぎといえそうだ。

（ロンドン＝沢村亙）

98.9.24. 朝日

偏見をえぐり出すのか、あおるのか。論争の的になっているポスターの1枚

人種差別広告

「抗議せぬあなたもひどい」

英国の人権団体「挑発」へ掲示

「偏見、逆に助長」の声

【ロンドン23日＝沢村亙】乗客二人のバスで黒人男性に不安そうな視線を向ける白人女性。シュートする黒人バスケットボール選手の横で、チンパンジーが枝に飛びつく。人種偏見むきだしの写真を使ったポスターが英国各地に登場した。実はロンドンの人権団体が作った。後日、「この広告と、これに抗議しなかったあなたとどっちがひどい？」と書いた第二弾のポスターに張り替え、「人々の心に潜む偏見をえぐり出すショック戦略」という。しかし、広告表現を審査する団体が「品位に欠ける」とクレームをつけたほか、別の人権団体が「偏見を助長する」と批判。ちょっとした論争になっている。

問題のポスターは十六日から大都市のバス停など百五十カ所に掲示された。冒頭のバスの側面はレイプ防止スプレー、バスケットはスポーツ靴の宣伝広告になっている。が、これらの商品は実在せず、ポスターにある番号に電話すると人権団体「人種平等委員会」（CRE）につながり、広告の趣旨が説明される仕組み。ほかに、はしごの上で白人男性が黒人男性の手をふみつける写真に「人種のトップに立て」というコピーがついた「人材採用会社」のポスターもある。

CREは差別被害者の救済や人種交流を目的に二十二年前に設立された人権団体。ポスターのねらいをハーマン・ウスリー代表は「自分は差別主義者ではないと思っていても、抗議を実行する人はごく一部のはず。差別を見のがす寛容に偏見の根があることを訴えたかった」という。

ところが、ポスター掲示の直後から広告内容を審査する自主規制団体ASAに苦情が殺到。ASAは品位基準を逸脱していないか調査を始めるとともに、CREに撤去を求めた。別の人権団体は「最初のポスターを見た人が第二弾を見るとは限らず、逆にこの程度の差別なら許されるとの風潮につながる」と異議を唱える。

反発の大きさにCREは二十一日、急きょ記者会見を開き、第二弾ポスター掲示を予定を早めて始めたことを発表。批判についてウスリー代表は「白人と黒人が笑顔で握手しあうポスターが、人々の関心を呼ぶだろうか」と反論した。

CREによると、掲示開始から五日間にかかった抗議電話は五十三件。商品を本物と思いこんだ問い合わせが三件だった。

英国では一九七六年に人種差別を禁じる法律が成立したが、その後も黒人青年が白人グループに暴行を受けて死亡したり、マイノリティー（人種的少数者）が誤認逮捕されたりする事件が相次ぐ。

九月には、英国に住むマイノリティーの八割が「人種関係は悪化している」と考えているとする報告が研究機関から発表されたばかり。人種摩擦がなかなか解消されないことへの社会のいらだちが、論議に火をつけたようだ。

98.9.25.朝日(夕)

戦争加害の調査求める

真鶴町議会が意見書可決

旧日本軍によるアジア諸国への加害の実態調査を、政府の責任で早急に進めるよう求める意見書が二十四日午後、神奈川県真鶴町議会で全会一致で可決された。従軍慰安婦問題をはじめとする加害責任、戦後補償問題をめぐり、市民団体が全国各地の自治体議会に同様の働きかけをしているが、実際に意見書になったのは珍しいという。

意見書は「旧日本軍がアジア・太平洋地域に与えた人的、物的被害の実態はいまだに明らかにされておらず、国際社会とりわけ近隣諸国との友好関係にも暗い影を落としている」としたうえで、「新しい世紀を目前に、私たちの子や孫が正しい歴史認識のもとに諸国民と真の信頼関係を築けるよう、政府の責任において戦争加害を調査し、国民の前に公表する」ことを求めている。

「神奈川・戦後補償実現のための意見交換会」「戦後補償を考える湘南市民の会」など四つの市民団体が今年四月、同県内の市町村議会に陳情していた。

十三人の出席議員のうち、議長を務めた副議長を除き、自民党籍のある保守系議員から民主、公明、共産まで出席者全員が賛成した。

98. 9. 25. 朝日

歴史共同研究

あすから日韓フォーラム

日韓両国の歴史共同研究に向けた、民間有識者による「共同委員会」は二十四日、初めての「日韓歴史フォーラム」を二十六、二十七の両日、宮崎市で開催すると発表した。「過去の清算」が焦点となっている十月初めの金大中韓国大統領の訪日を控え、フォーラムでは、具体的な共同研究の促進策について論議が交わされる。

98.9.25. 朝日

ひと

町田貢さん

韓国に永住する元外交官

「日本に帰っても、退屈するだけ。韓国は、いつも刺激があっておもしろい」

韓国・朝鮮専門の外交官として四十年間。今年六月、ソウルの日本大使館の公報文化院長を最後に定年退官した後、そのまま永住することを決めた。今月の新学期から、ソウルの世宗大学の教授として教壇に立っている。

新潟県の天理教会の家に生まれ、天理大学で朝鮮の研究を志して、朝鮮語を学んだ。外務省入省後は、韓国・朝鮮一筋。韓国での勤務は、ソウル、釜山、済州島と延べ二十二年余に及び、「外務省にこの人あり」と知られた。

大学では、日本の文化、歴史、最新事情などを教える。公報文化院長時代から始めた講演は四十回を超えた。日本国内から講演の依頼があれば、今度は、韓国事情を話す。日韓を結ぶ「語り部」である。

長い韓国勤務の中でも、本領を発揮したのは、大使館の政治担当時代の情報収集活動だ。独裁と民主化をめぐる騒いだった国内の政治情勢や日韓関係など、節目節目での判断の的確さには定評があった。それを支えたのは、政治家、ジャーナリスト、情報機関などの幅広い人脈だった。

「いつでも連絡が取れる人が約二百人はいた。一日平均七、八人、多いときは十六人に会った」と振り返る。「自分の足で稼げ」がモットー。持ち前の穏やかな性格と、誠実な姿勢が信頼をかちえた。

外交官生活の最後の一年半、仁川市内の貧しい子供に奨学金を送り続けた。講演の謝礼を、両親のいない小学四年の女の子にあげたところ、その子からの手紙で貧しい生活ぶりを知ったのがきっかけだ。この「足長おじさん」の運動を日本国中に広げたいと思っている。

「この奨学金を、日本人と韓国人の心を結ぶ懸け橋にしたい」。両国の相互理解に残りの人生を燃やす元外交官の気概がのぞく。

文・写真　田中　良和

「韓国人は根はひとがいい。日本人がネクラなら、韓国人はネアカ」。63歳。

98.9.26. 毎日

未明の決着、首相が仲介

新しい日韓漁業協定をめぐる交渉が25日未明、妥結したが、首相官邸で小渕恵三首相＝似顔絵＝が仲介するという異例の政治決着となった。最終局面で首相は、韓国の金鍾泌（キムジョンピル）国務総理と、担当の中川昭一農相の

父の故一郎元農相が日韓関係に尽力した功績を引き合いに出し、「命懸けで今、農相として苦渋の選択を迫られている。漁獲量のあり方について非常に厳しい状況を理解してほしい」と、譲歩を求めた。

同日午前の閣議では、野中広務官房長官が「両国が困難な問題を解決する能力を示した。小渕首相はこの協定に対する熱い思いを吐露した」と紹介、日ごろカゲが薄いと揶揄される首相が発揮したリーダーシップぶりを強調していた。

責任果たしホッ

首相自身も外相当時に協定交渉に携わっており、記者団の質問に「あれは僕が外相の時に（協定の）終了通告をしたんだから。責任は僕にあって、一日も早く決着させることを願っていた。双方が歩み寄ったことは友好にとって大変喜ばしいし、（金大中）大統領訪日前に基本合意したのは大変うれしい」と、ようやく責任を果たし、ホッとした表情だった。

【徳増 信哉】

代時通告
相了
外終

「政府に不信感」反対運動展開へ

全漁連会長

日韓両政府が基本合意した新漁業協定をめぐり、全国漁業協同組合連合会（50万人）の梅村正治会長は25日記者会見し、「政府に対して強く不信感を抱く。絶対反対だ」と批判、撤回に向けて反対運動を展開する考えを明らかにした。来月2日に全国から幹部を集めて会合を開き、運動内容を協議する。

98.9.26.朝日

ベルギーで連日抗議デモ 内相が辞表提出

ナイジェリア女性 強制送還中に死亡

【ブリュッセル26日＝山本敎子】ベルギーから強制送還されそうになったナイジェリア人女性が二十二日、警官にクッションで顔を押さえられ死亡。ベルギーでは連日、抗議デモが繰り広げられ、トパック内相が二十四日に辞表を提出、政府は強制送還の一時停止に追い込まれた。

この女性はアダム・セミラさん(30)。今年三月にベルギーに入国、妻のいる六十五歳の男性と強制的に結婚させられそうになったとして、難民申請を行った。だが、ベルギー内務省は「生命の危険は認められない」と却下した。

セミラさんは強制送還されそうになる度に、抵抗、送還を免れてきた。六回目にあたる二十二日午前、空港で飛行機に乗せられたが、激しく暴れたため、警官の一人が小さなクッションを口にあてたところ、意識がなくなり、同日夜、脳内出血で亡くなった。警官二人が過失致死の疑いで取り調べを受けている。トパック内相は「責任は私にあるが、難民に抵抗を指示する支援団体も悪い」と述べていた。

98.9.27. 朝日

「髪切るぞ」「刺されるよ」暴力被害多発

朝鮮学校生から聞き取り

弁護士らが調査委発足

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による「テポドン」発射報道をきっかけに朝鮮学校への脅迫電話や民族服で通学する女子生徒への暴力などが相次いでいる問題で、土屋公献・元日弁連会長をはじめ弁護士や学者、ジャーナリストらが調査委員会を発足させ、被害者の聞き取り調査を始めた。メンバーらは「北朝鮮への批判はあったとしても、子どもへの人権侵害が許されてはならない」との立場から、「日本社会に警鐘を鳴らしたい」としている。

発足したのは「朝鮮人学生に対する人権侵害調査委員会」。日弁連人権擁護委員の床井茂弁護士、ジャーナリストの西野瑠美子さん、佐々木光明・三重短大助教授（刑法・少年法）らと、在日本朝鮮人人権協会の韓鎬復・会長や在日朝鮮人弁護士の星正秀さんら、日本人、朝鮮人双方から二十人が集まり、土屋弁護士を代表に選んだ。

報道されているチマ・チョゴリの女子生徒への暴力や暴言などを、実際に被害者に会って聞き取り調査する。その結果を記者会見して発表するとともに、国連の人権委員会など内外の公的機関に意見書や勧告を出すことを検討している。

西野さんは「こうした行動を起こすと、北朝鮮の擁護だとか朝鮮総連の広報活動だ、などという低次元の中傷が流される。私にも北朝鮮には言いたいことは山ほどある。でも、これは日本社会が子どもの人権を守ることができるかどうかの問題」とし、「子どもの権利条約に基づいた提案をしていきたい」と話している。

すでに聞き取りを始めている西野さんの調査では、十四日夕、愛知県内の朝鮮学校に通う女子生徒（一〇）が電車内で、中年男性から「朝鮮人、こっちを見ろ」などと声をかけられ、ハサミを見せられて「髪を切るぞ」と脅された。女子生徒は「脅されたことより、まわりの人たちが黙っていたことの方がショックだった。やっぱり私が朝鮮人だから声をかけてくれなかったのでしょうか」と訴えた。

このほか同じ路線や通学路で十人以上の女子生徒が足をけられるなどの暴行や暴言の被害にあったという。また星弁護士らは二十五日、通学途上で中年男性から「今日、刺されるよ」などと脅迫を受けた東京朝鮮中高級学校の女子生徒（一八）からも事情を聴いた。

98.9.27. J.T. (2面)

Japan-Korea confab opens

Forum to highlight history, promote understanding

MIYAZAKI (Kyodo) A two-day Japan-South Korean forum began here Saturday to foster research on the two country's mutual history and to promote bilateral understanding.

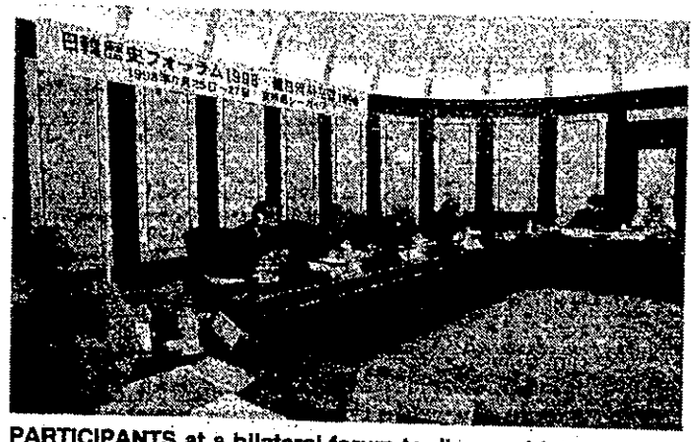
The forum is the first of its kind since a joint panel to promote joint research on the history of the two countries' relations was set up in July 1997 based on a bilateral agreement in 1995, organizers said.

Thirteen experts from each side took part in the gathering.

The Japanese team is headed by former Ambassador to South Korea Ryozo Sunobe, now an adviser to the Foreign Ministry, while the South Korean mission is led by Chi Myong Kwan, director of Hallym University's Institute of Japanese Studies.

During Saturday's session, the two sides agreed that further efforts were needed by both nations to disclose historical documents, including those prior to World War II.

Some South Korean participants expressed concern that comments by some Japanese politicians and scholars still reject that Korean women were forced into sexual slavery were a sign that Japan "was trying to justify" its past actions.



PARTICIPANTS at a bilateral forum to discuss history issues between Japan and South Korea begin two days of opinion exchange Saturday in Miyazaki in an effort to spur mutual understanding. KYODO PHOTO

Relations between the two neighboring countries have been marred since Japan's 1910-1945 colonial rule on the Korean Peninsula and its wartime deeds there.

In his opening remarks to the meeting, Chi pointed out that it was important for the peace and stability of the northeastern Asian region for nations to go beyond national borders when viewing history.

"When we look toward the 21st century, it is pivotal for us to have the courage and modesty to prove the facts and truths of history," especially those involving Japan and Korea, he said.

Meanwhile Sunobe noted that South Korean President Kim Dae Jung would be visiting Japan from Oct. 7 and expressed his desire to see mutual understanding between the two nations deepen.

98.9.27. J.T. (12面)

HEALING PERSONA

The lucid travels of a psychic

By ANGELA JEFFS

Azzah (her given name, which means "birth-death and re-birth") was 12 when, hanging out with a group of kids, one friend wanted to say something but went blank. "When I reminded her what it was, they all ran away, scared. I finally decided to do something about this gift — take it seriously — about a year later. An Olympic champion is no more developed or evolved than you or I. We are simply born with different doors open. I just happen to have been born a psychic."

Her Russian-Jewish mother and Azerbaijan-Sufi father had fled Europe after the war, for a refugee camp near Sydney, Australia. When she was 8, the family moved to an all-Russian community. The racism she experienced in these early years had a profound effect. She never went to school, remaining illiterate until she was in her late teens. There was also the no small matter of her powers.

"I wasn't like my mother. I had nothing in common with my four brothers and sisters. I was so different, such a misfit, that I longed to change my name and dizappear. Only my father understood what I was going through. Being Sufi, everything he said resonated deeply within me, awakening my soul . . ."

This empowerment was not frightening. The only thing that scared her was living in a society in which she did not fit. Gradually she removed herself from the local community, spending more time with the Aboriginal people living roundabout. Hanging out with their kids, she found herself accepted.

"They made me welcome, they understood me," she said. "I wasn't very verbal, but culturally neither are they; we communicated on an intuitive level. Only after I started working in the Western tradition did I realize just how much knowledge they'd implanted deep within me through their shamanistic ways and respect for the land. Often I think, Wow, how did I know that? Where did I learn that? They understood my pain; I understood their own — we were all rejects, outcasts, totally misunderstood. If it hadn't been for them, I don't know who'd I be now."

At age 18, she left Australia and began a near nomadic existence wandering through Asia. Describing herself as "a Third World hustler," she survived any way she could. "Surviving is not a problem. But my eyes were opening wider and wider, my soul forever seeking. I'm not religious but I love the spiritual quest for truth."

This search led to San Francisco, the Gestalt Institute, and a study of western rationalism. She studied here on and off for eight years, then made her way to New York, which is now a base of sorts for Azzah. Then journeyed on — to India (where she apprenticed herself to Buddhist priests), Africa (shamans), China (Taoists), and the Philippines (natural healers).

By this time she was helping others, working one-to-one, and developing intensive therapeutic workshops in self-awareness.

She was last in Japan, which she has visited regularly over 15 years, in July. This week she returns again, after working in New York, the U.K. and Ireland. A Japanese friend organizes her weekend workshops here, which takes place in either the Okikubo Yoga Center in Shinjuku, or (as this time) at the Juichi-ya Center in Niharumura, Gunma. "The experience can be a one-off, or a long-term learning process. The longer the better really."

In Japan, her clients are mainly non-Japanese. But back in May, 8 Japanese women made the trip to Gunma to express their intense desire not to re-enact their mothers' lives. Aged between 30-50, they wanted more out of life than the classic roles of victim (dutiful daughter, dutiful daughter-in-law)-martyr (dutiful wife, dutiful mother).

"They all wanted to feel safe enough to fall apart," she explained. "The way they supported one another was incredible. We worked toward helping them find new ways forward as warrior-magicians, determining their own lives with new insights and sensitivities."

With men, the younger ones tend to be desperate to escape what she terms "the bantam rooster complex." At which point she flexed her arms and aggressively thrust her pelvis forward. "You know, all the usual macho crap. I tell them that the 'heart chakra' of American Indian men are as open as their 'throat chakra,' yet their vital maleness is never in doubt."

The first part of any spiritual journey with Azzah involves getting comfortable. Everyone has a "big bag of shadow side" to deal with, and it is important not to feel ashamed of that personal hell, with all accompanying pain and shortcomings. "No one is any different. We're all struggling in the same direction, wanting to surrender stuff that has nothing to do with who we really are. It takes a lot of trust simply to be human."

Asked to whom she surrenders her own superfluous baggage, she laughed — a deep-throated raucus chuckle: Charlotte De Tells, it appears, a Gestalt therapist back in San Francisco who while "no spring chicken" has the most astutely piercing "little electric blue eyes." Whereas Azzah describes her own approach as gentle and kind, De Tells is laser-sharp in homing in on the deepest pain. "I see her once a year but we talk over the phone once a week. I love her because she always tells me the deep truth."

Believing that the patriarchal model of reality is not working, Azzah seeks to help people change their lives. Her plans include spending time in South Africa, working with black and white teenagers. Making a video of her workshops and showing it around the world. And helping drug addicts and alcoholics, who are often, she says, sensory psychics; unable to digest the false values of contemporary life, they turn off, de-sensitizing themselves with dope and drink.

Most Japanese, she adds, may appear to fit the expected social mold, but often there are contradictory conversations going on inside. "They live in a world where women are judged by their age, size of tits and length of legs, and men by their 'meishi, car and bank balance. I tell you, it's all cruel.' " And here she banged the table for emphasis: "Cruel!"

She believes that we can only be rescued by changing our perception of reality. But first we must make friends with anger; conjure up extremes of thunder and lightening, and then allow the magic of rainfall to cleanse and rejuvenate. In Australia recently, visiting her mother who has Alzheimer's disease, Azzah performed a completion ritual to move their painful relationship onto another astral plane.

She found a place by the river under a tree which echoed her mother's ancestral home in Russia. ("I had a photo in my pocket of us together on a picnic; imagine my feelings when I recognized it had been taken under the same tree years before.) Through the night, she created enough thunder and lightening to purge her resentments, forgive her mother and let her go. Burning a small pillow containing some of her mother's hair, she watched as it twisted into the shape of a human figure, and was borne away downstream into the darkness.

"When I went to the hospital at sunrise, I laughed when found her asleep, hand clenched around the bed rail. That's my mother, I could say at last without anger; Mother always wanting to be in tight control. It's funny, but as early as age ten, I knew I wouldn't have kids of my own. I knew I had a different journey."

For details of personal consultations and Azzah's two workshops, scheduled for October 10-1, and 24-25, ring Saiko Fukuoka on 03-3988-3126, or fax 03-3988-3127.

AZZAH, the outsider whose long voyage of self-discovery has enabled her to help others through therapeutic workshops.
ANGELA JEFFS PHOTO

98.9.28. 毎日

韓国・映画監督 朴哲洙氏

聞く 語る

文化的共感持てば「問題」断ち切れる

金大中大統領訪日

韓国の金大中大統領が10月7日から国賓として訪日する。日韓の間には、なおさまざまな問題が横たわっているが、大統領の訪日をきっかけに、21世紀に向けて新たな関係を模索する動きも出ている。真の友好関係を築くには何が必要なのか。

聞き手・七井 辰男
写 真・松田 嘉博

——韓国ではまだ日本の大衆文化の移入が解放されていません。芥川賞作品の「家族シネマ」の映画化に取り組んでいますが、なぜ日本語で映画をつくるんですか。

◇在日韓国人が日本語で書いた作品なので、韓国語に置き換えれば、情緒の根底が崩れてしまう。窓口的に敵対と対立しようとしているわけではないが、日本の情緒、在日の情緒が損なわれないようにしようと考えた。そうすることは監督の権利です。政治や歴史的背景のために権利を侵されることは我慢できません。

——撮影は成功しましたか。

◇今回の撮影は、私の良い映画人生の中で一番楽しい体験だった。周りからは、韓国の映画監督が日本の俳優を使って日本で撮影するのは困難だと言われたが、何の困難もなかった。

——韓国で上映できますか。

◇現実的には無理でしょう。法律で禁じられているわけではないのに、なぜためなのか理解できないが……。しかし、まったく上映できずに終わるという悲劇にはならないと思う。金大中氏の大統領就任で、（日本の大衆文化に対する）マインドがオープンになってきており、最終的には上映できると楽観している。

——韓国で日本語の映画の上映が許可されないことについてどう思いますか。

◇映画について言えば、どこの国の映画はダメだというのは、まったく話にならない。韓国の若い人たちは私の考えに近いと思う。政治家や知識人も、日本の大衆文化との交流は避けられないと感じている人が多いが、日本の三流映画が韓国市場を占拠するんじゃないかと憂慮している人もいる。

——日本政府は過去の「歴史」に対する「謝罪」を何度もしてきました。謝罪の繰り返しに国民の一部からいらだちが出ています。

◇韓国の政治家にも問題はあるが、日本の政治家がもう少し自制しなければ、だいぶ変わるのではないか。時折、韓国の国民感情を逆なですることを言うから、良くなろうとしていたものが再び離れてしまう。

——どうすれば「真の関係」を断ち切れますか。

◇韓日の間の話をすると、よく「何々の問題」という言葉が出てくる。この（過去を引きずる）「問題」という言葉を捨てなければならない。そのためには、文化的共感を持つことが非常に役立つのではないかと思う。

——映画の役割は大きい？

◇大きいと思う。日本の映画が韓国に入り、同時に韓国の映画が日本に入るというように、互いに市場を提供し合うことが重要だ。その意味で、「家族シネマ」は重要な映画になるような気がする。日本のマスコミは強い関心を持ってくれ、好意的に扱ってくれている。日本の配給元は、あまり関心を持っていないが。（笑い）

——金大統領訪日に何を期待しますか。

◇政治的に解決しなければならないことは解決してほしい。同時に、韓国、日本、中国が一緒にやっていける時代の契機になることを願っている。

大衆文化の交流は不可避

韓国と日本は兄弟のようなもの。けんかもするが、理解し、互いを思いやって暮らしていくことができるはずだ。いい隣人になれば、両国の力はもっと強くなると思う。

——監督は日本にどんな思いを抱いていますか。

◇私は1965年の韓日基本条約反対のデモに参加し、投獄された経験がある。当時は日本が嫌いだった。それは韓国の教育のせいだと思う。その後、なぜ私たちの父の世代が、私たちにそのような教育をしなければならなかったかを理解し、政治的、歴史的背景も理解するようになった。

その一方で、今年5月、サッカーの加茂周（元日本代表）監督と、「ワールドカップで韓国が他のチームと対戦する時、日本はどちらを応援するか」という話をした。「韓国が対戦する時は、日本が韓国を応援し、日本が対戦する時は韓国が日本を応援するだろう」ということになったが、実際に、私の周りはみんな日本を応援していた。50年代、60年代だったら、たぶんなかったことだ。

——日本を理解するようになったきっかけは。

◇特別のきっかけはないが、80年代にプロデューサーとしてテレビ局で働いていたころ、国と国との関係も、人間と人間との関係に似ていると思うようになった。お互いに理解し合い、楽しみ合うことの方がはるかにいい。人間関係もそうだけど、国家と国家もそうだと思うようになった。特捕が成長したんでしょうね。

パク・チョルス　1948年生まれ。76年に映画界入り。80年に韓国のMBCテレビのドラマプロデューサーになったあと、88年、映画監督に復帰した。作品は「野良犬」「母」「鯨の柱」など。今回は、在日3世、柳美里さんの芥川賞受賞作品「家族シネマ」を映画化するため、8月上旬に来日。大阪市や奈良県御所市などで撮影した。上映日程などは未定。来年2月のベルリン国際映画祭に招待されている。

Vietnam war museum opens in U.S.

98.9.28. J.T.
(9面)

HOLMDEL, N.J. (AP) The United States' first museum dedicated to the Vietnam War opened Sunday after a three-year struggle over radically different views held by veterans and historians.

The $3.8 million center, primarily financed by a 1995 donation from Atlantic City casinos, sits a few hundred meters from a 2-year-old veterans memorial bearing the names of 1,553 state residents killed or missing in action in Vietnam.

A committee organizing the Vietnam Era Educational Center spent most of the last year rewriting every word of the museum's text panels, and arguing about the role of the media, the legitimacy of the antiwar movement and whether the war could have been won.

"We found ourselves between the two extremes, between those who believe that the war was profoundly immoral . . . and those who believe that the failure to pursue the war to military victory was evidence of moral failure, that the peace movement sold the nation down the drain," said committee member Michael Shafer, a Rutgers University professor.

Last year, the committee rejected text that was criticized as too unfavorable to veterans, with too much antiwar footage and emphasis of soldiers' drug use.

Just before the museum's opening, text on prisoners of war was rewritten to eliminate language that Shafer said suggested a government conspiracy to hide evidence of prisoners of war and those missing in action.

98.9.28. 朝日

在日韓国人元軍属
障害年金請求訴訟

国に補償措置促す

東京高裁 原告の控訴は棄却

第二次世界大戦で負傷を負った元日本軍属の在日韓国人と遺族の計三人が、厚生大臣を相手に戦傷病者戦没者遺族等援護法に基づく障害年金の支給を求めた訴訟の控訴審判決が二十九日、東京高裁であった。篠原生裁判長は、請求を退けた一審判決を支持し「朝鮮半島出身者に援護法の適用がないとしてもそれは立法府の裁量の問題であり、憲法の平等原則には違反しない」と述べて、原告の控訴を棄却した。しかし判決は、日韓両国から補償を受けられない原告らの立場に理解を示し、「外交交渉を通じて適切な対応を図る努力をするとともに、援護法の国籍条項や付則を破棄して在日韓国人に国法の適用の道を開いたり、行政上の特別措置を取ったりすることが強く望まれる」と政府や国会に対応を促した。

（18面に所見要旨など）

篠原裁判長は所見として、「何の落ち度も責任もない原告らが補償を受けられずに放置され、補償の見込みが立っていないことを考えると提訴に至った気持ちは理解できる」と言及。国連の規約人権委員会が、原告のような立場にある人々が補償を受けられずに差別されていると指摘したことなどを踏まえ、「速やかな対応を図ることがわが国に課せられた政治的、行政的責務である」と述べた。

朝鮮半島出身者の元日本軍軍人・軍属が戦傷者の補償を求めた訴訟では、請求自体は退けながらも、補償立法措置を促す判決が相次いで出されてきた。この日の高裁判決は、これまで以上に強い表現で補償措置を迫るものとなった。

援護法は付則で「戸籍法の適用を受けない者については、当分の間、この法律を適用しない」と定めており、在日韓国人を補償対象者から除外している。この付則が法の下の平等を定めた憲法に違反しないのかが、最大の争点だった。

この点について高裁判決は、戦争犠牲の持つ特殊性やサンフランシスコ講和条約で日韓両国の戦後処理が両国の交渉にゆだねられた経緯などを踏まえ、憲法には違反しないとした。

訴えていたのは一審判決前の一九九四年五月に七十五歳で死亡した陳石一さんの遺族二人と石成基さん（さ）。二人は九一年に援護法に基づき障害年金の請求をしたが、厚生省が請求を却下したため、その取り消しを求めて提訴していた。

98.
9.
29.
朝日

韓国世論、穏やかな反応

日韓漁業交渉決着「竹島」に火種残るが

【ソウル25日中島哲夫】日韓新漁業協定の締結交渉が難航の末に到達した基本合意について、韓国世論の大勢は「外交摩擦の火種を残し、韓国漁民にも大きな痛手になる内容」との反応を示している。しかし、政治決着の必要性は理解されており、当面、激しい反発はなさそうだ。

一連の交渉で表面化しなかったものの、韓国が決して譲れない原則としたのは、竹島（韓国名・独島）が自国の領土だという主張だった。このため昨年の交渉で、竹島周辺の暫定水域設定に応じたこと自体「大きな譲歩」と酷評された。

また、同水域の東端を東経136度とすることに固執したのは、大和堆という好漁場を放棄したくない実利的判断と同時に、この線引きなら竹島を基点にする200ヵイリ（排他的経済水域の原則的範囲）が「日本の独占水域にはならない」という大義名分のためだった。

日本による現行協定の終了通告後に再開された交渉でも、韓国側の原則には変化がなかったが、政治的状況が変わった。10月7日から予定される金大中大統領の訪日を控え、交渉決裂は許されなかったからだ。

韓国側の視点で合意内容をみると、東側境界線での妥協で竹島基点の「200ヵイリ」という大義名分が傷つき、領有権論争の火種も残った。しかもこのラインの北部が西に折れ込み、好漁場・大和堆での操業可能範囲が半分程度に減ってしまった。また、その他の日本近海での操業実績も期待ほどには維持されず、韓国漁業は量的・質的に大幅な転換を余儀なくされる。

こうした点が不満とされているが、25日現在、「独島領有権」の明示を求めてきた一部団体などを除き、強い抗議の声はない。当面は比較的穏やかな推移が予想される。

98.9.29. J.T. (3面)

BOMB 'SAVED MILLIONS'

Enola Gay pilot honored

By ROBERT MACY

LAS VEGAS (AP) A magazine known for its strident military views has honored the pilot who dropped the atomic bomb on Hiroshima, saying the action saved millions of lives.

Robert K. Brown, publisher of Soldier of Fortune magazine, said the humanitarian award "may seem radically inappropriate to some, especially those who are politically correct."

But the award to retired Air Force Gen. Paul Tibbets Jr. "makes perfect sense" for anyone with "much understanding of World War II," Brown said Thursday.

"I never had any feeling other than I did what should have been done," Tibbets said after receiving a plaque bearing a military boot. "I never lost a night's sleep."

Tibbets was the pilot of the Enola Gay when it dropped an atomic bomb on Hiroshima on Aug. 6, 1945, ushering in the nuclear age.

About 140,000 people were killed by the bombing of Hiroshima and the ensuing radiation. Three days after the Hiroshima attack, the United States dropped a second nuclear bomb on Nagasaki, killing 70,000 people. Japan surrendered unconditionally on Aug. 15, 1945.

Brown recalled that the U.S. had just wrapped up the bloody battle to take Okinawa and was faced with attacking the Japanese mainland to end the war.

Military estimates indicated 1 million Americans would die in such an invasion, with Japanese casualties double that figure, Brown said.

"Had President Truman not ordered the bombing, and instead sent a million Americans to their deaths, he would have been rightfully impeached and hanged for treason," Brown said.

"If I hadn't dropped it, how many more (lives) would have been lost?" Tibbets asked. "We were losing 1,000 people a day."

He said the Japanese would have fought "to the last man, woman and child."

Those who criticize the bombing of Hiroshima fail to realize that 500,000 Japanese previously died in Allied bombings of Tokyo.

Tibbets said he had been briefed extensively on the bomb, and meticulous planning made the mission the most boring he ever flew — until the bomb exploded.

"It was amazing when I felt that thing kick us in the fanny, saw that cloud flying up," Tibbets recounted. "I don't see how any nation could stand up to that bomb. It had to be the convincer."

The Enola Gay was 16.8 km from the blast when the bomb detonated 450 meters above the city, yet the force created 2.5 Gs of pressure on the crew, he said.

Tibbets, 83, of Columbus, Ohio, was to autograph his book, "Flight of the Enola Gay," at the annual Soldier of Fortune convention, which ran until Sunday.

9/29/98 JT p.3

98.9.29. 朝日

戦争真相究明、立法へ

超党派で議員連盟設立

国会の手で歴史の真相究明を――。韓国の金大中大統領来日を来月七日に控え、国内の史料を収集・公開し、戦争の真相を究明したうえでアジアと正面から向き合おうという議員立法の動きが本格化してきた。三十日に超党派による議員連盟が設立され、「真相究明法」の提出へ向けて検討を始める。後押しする弁護士や市民グループの輪も広がりつつある。

「国連人権委員会や金大中大統領をはじめとする関係諸国も、日本の真摯な真相究明の姿勢を求めています。……国会に立法府としての責任が大きく問われています」

こんな文面の議員連盟入会案内に、すでに約八十五人の議員が入会を申し込んだ。呼びかけ人は鯨岡兵輔（自民）、鳩山由紀夫（民主）、浜四津敏子（公明）、土井たか子（社民）、武村正義（さきがけ）の五氏。各党の「顔」が並んだ。共産、自由党議員も参加する。

賛同者集めの中心になったのは田中甲代議士（民主）。四十一歳。戦争は知らない。

「謝罪を繰り返せば、いつも自虐的という声が一部に出てくる。なぜ何も解決しないのか考えた。元をただせば、アジア各国から真相を究明する日本の姿が見えないことに原因があるのではないか、と」

原案では、国立国会図書館内に「恒久平和調査局」（仮称）を設置し、館長の権限で大戦の原因、慰安婦問題の実態などに関する史料を集め、国会に報告する構想だ。

土屋公献・元日弁連会長を中心にできた「戦後処理の立法を求める法律家・有識者の会」は、約五百人の賛同者を集めた。「賠償問題も視野に働くが、まず第一段階として真相究明で足並みをそろえたい」と事務局長の丸山輝久弁護士。

「戦争被害調査会法を実現する市民会議」とともに、百万人を目指す署名活動をしたり、議員一人ひとりに会って理解を求めたりしている。大手商社を三年前に退職して「会議」事務局長に専念する三原正武さん（五三）は、「単なる賛名集めでなく、どんな理由で賛成か反対か、議員や市民と意見を交わしながら国会を変えたい」と話す。

金大統領の元にも、「真相究明法制定の動きに、ぜひ理解と支援をお願いします」との手紙を送った。

中身良くても敗訴では

在日韓国人元軍属訴訟 弁護団、悔しさにじむ

戦争で右腕を失い、脳血栓で左半身がまひした石成基さん（七七）。故陳石一さんの遺影を抱えた妻子。四年前の一審判決の再現のような暗い光景だった。「ただ、日本人と平等に扱って欲しいだけ」という半世紀に及ぶ訴えは、また国籍の壁に阻まれた。判決の中で「同情を禁じ得ない」と立法措置を強く促した「所見」だけが救いだった。

「控訴を棄却する」。一言で終わった判決に、車いすの石さんは、目を見開いたまま無言だった。横浜市の介護施設で暮らす石さんは、体が弱り、判決を傍聴できる状態ではなかったが、周囲の反対を押し切って駆けつけた。

記者会見で、「火の玉だ、滅私奉公せよと戦争に駆り出しておいて、戦後は何もしないなんて」とかすれ声を絞り出し、「野蛮国家」と二度繰り返した。

原告弁護団の金敬得弁護士らは、日韓協定の解釈問題や援護法の付則改廃に言及した内容について「出色のもの」と評価したが、「中身が良くても敗訴では意味がない。裁判所にもう一歩、勇気が足りなかった。日本の司法の限界だ」と悔しさをにじませた。

東京高裁の所見要旨

今次の戦争において、戦争犠牲または戦争損害を受けた軍人・軍属またはその遺族のうち、日本国籍を有する者は戦傷病者戦没者遺族等援護法により、在日韓国人以外の韓国人は韓国の国内法により、いずれもその補償を受けている。それに対し、原告ら在日韓国人は、日韓両国のいずれからも何らの補償を受けられないまま、いわば放置された状態になっている。

このような事態に至っていることについて、サンフランシスコ平和条約の発効に伴い国籍選択の道を与えられないまま、いわば一方的に日本国籍を喪失させられた在日韓国人側において何らの落ち度も責任もない上、在日韓国人の側からは補償を受けるために採るべきすべは何も与えられていないことを考えると、原告が無為の思いで本訴を提起するに至った心情については、十分に理解でき、同情を禁じ得ない。

人道的な見地からしても、また、国連の規約人権委員会から関心懸題（懸念事項）として指摘されていることに照らしても、速やかに適切な対応を図ることが、我が国に課せられた政治的、行政的責務でもあるというべきである。

在日韓国人は、日本国籍を有し、日本の軍人・軍属として戦争に従事したもので、援護法の適用開始時においては日本国籍を有していたと解されるから、その立場は日本国籍を有する者に近いものであったというべきである。在日韓国人の右のような立場及び現に日本において居住していることを考慮すると、日韓両国の外交交渉を通じて、日韓請求権協定の解釈の相違を解消し、適切な対応を図る努力をするとともに、援護法の国籍条項及び本件付則を改廃して、在日韓国人にも同法適用の道を開くなどの立法をすること、または在日韓国人の戦傷病者についてこれに相応する行政上の特別措置を採ることが、強く望まれる。

在日の高齢・障害者 無年金の救済求める

現行の国民年金制度で無年金状態になっている在日韓国・朝鮮人の高齢者と障害者の代表が二十八日、厚生省に対して、年金制度の改正の谷間に置かれて無年金になったとして、救済措置をとるよう申し入れた。

申し入れたのは「年金制度の国籍条項を完全撤廃させる全国連絡会」。

国民年金制度の国籍条項が一九八二年に撤廃され、韓国籍・朝鮮籍の人でも年金に加入できるようになった。だが、当時二十歳以上だった障害者は給付の対象外とされた。また、八六年の改正で保険期間が緩和されたが、当時六十歳以上の高齢者は加入が間に合わず、無年金になっている。

98.9.29. 東京

在日韓国人元軍属の障害年金

『法の改正を望む』

東京高裁、控訴は棄却

戦地で負傷して障害を負った在日韓国人元軍属二人が「日本国籍がないことを理由に障害年金を支給されないのは違法」として、厚生大臣を相手取り、戦傷病者戦没者遺族等援護法（援護法）の年金請求に対する却下処分の取り消しを求めた訴訟の控訴審判決が二十九日、東京高裁であった。篠原生裁判長は「援護法を適用しないことには十分合理的な根拠がある」として一審・東京地裁の判決を支持し、控訴を棄却する判決を言い渡した。

篠原判長は援護法の対象を日本国民に限定する国籍、戸籍条項の合理性を認めながらも「日韓交渉を通じて適切な努力をし、国籍条項の改廃など在日韓国人にも適用の道を開くなどの立法をすることが強く望まれる」と述べ、補償問題の解決に向けて立法府の努力を強く促した。さらに、「人道的な見地や国連の規約人権委員会から懸念事項と指摘されていることに照らしても、速やかな対応が国に課せられた政治的、行政的責務」とも述べた。

訴えていたのは、横浜市の石成基（ソク・ソンギ）さん(七七)と、埼玉県東松山市の陳石一（チン・ソギル）さん＝一九九四（平成六）年に死亡、当時(七七)＝の遺族。

石さんらは、日本人と同じ補償を求め障害年金計二億五千万円の支給を申請したが、却下され、九二年八月に東京地裁に提訴した。同地裁は「自国民のみを援護の対象とした国籍条項は合理性がある」などとして請求を棄却していた。

98.9.30.朝日

「優遇」の裏側

女性と年金改正

《上》

離婚と共に消える権利

「厚生」「遺族」受け取れず

「夫婦で別々に」提言も

来年の年金制度改正へ向けて、年金審議会（厚相の諮問機関）が来月初めにも意見書を提出する。今回は、動め人世帯の配偶者（年収百三十万円未満）が保険料を負担せずに基礎年金を受給できる第三号被保険者制度など「女性と年金」が論点の一つになった。所得税の配偶者控除と並び、「専業主婦優遇策」といわれる年金制度。だが、離婚すると基礎年金しか受け取れない、など問題点も多い。この制度は、本当に女性を守ってくれるのだろうか。

「生活保護が必要となるかも……」。東京・新宿の一住宅にある喫茶店で、女性(六〇)は涙ぐんだ。

国家公務員だった夫と昨年離婚。調停で、共済年金から月十万円を送ってくれることになった。だが、夫が連の女性と暮らし始め、送金は途絶えた。家裁に相談すると「年金は強制的な取り立てができない」と言われた。受け取れるのは六十五歳からの月一、二万円の基礎年金だけだ。

夫は、若いころから暴力を振るった。殴られて歯が三本折れたこともある。

離婚を決意し、社会保険事務所を訪ねた。職員は一喝さん、箸を抜いたらだめだよ。共済年金も遺族年金ももらえなくなるから」と止めた。離婚すると、夫につく年金はもらえない、と初めて知った。

それでも暴力を我慢するよりは、と離婚に踏み切った。

「ずっと我慢して、家事と子育て、パートに打ち込んできた。惹けていたわけじゃない」。一定収入を得ると、夫の扶養家族に認定されなくなり、自分で年金保険料を負担しなければならない。夫も配偶者控除を受けられず、税負担が増える。「それを気にしてパートを押えてきたのが裏目に出た。もっと働いていれば上積みされたはずの私本人の年金は、スズメの涙になってしまったんですから」

●受給手続き大変

一九八五年、負担なしで年金に加入できる第三号被保険者の制度ができた。とはいえ、自身が払い込まずに基礎年金の満額である月約六万五千円を受給するには、夫が制度に四十年間加入し、その夫と連れ添い続けねばならない。夫の収入に応じて基礎年金に上乗せされる厚生・共済年金は夫の名義。妻に権利はない。

東京都の女性(六三)は、夫が多額の借金をし、何度も離婚を考えた。だが「年金がなくなる」と周囲に説得され、あきらめた。「離婚の門出もないのでしょうか」

そのわずかな基礎年金を受け取るためにも、手続きが大変だ。福岡市の女性(六〇)は、受給手続きに結婚期間の証明が必要になり、八年前に離婚してすでにこなっている元夫の戸籍謄本を要求された。市役所に問い合わせると、「元夫の謄本が取れず、年金を受け取っていない女性も多いんですよ」といわれた。

●年金分割も議論

離婚件数の増加率は九四年から毎年倍増、昨年は二十二万組を超えた。しかし、主婦を中心とした政治団体「東京・生活者ネットワーク」（約千人）の調査では、第三号被保険者の二人に一人が、離婚すると基礎年金しか受け取れないことを知らなかった。

女性の財産に詳しい東京大学社会科学研究所長の広渡清吾教授は、「専業主婦になるなら、結婚前に夫と年金分割などの契約を結ぶくらいの用意が必要」と指摘する。

ドイツでは、離婚時に婚姻期間中の年金を折半する制度がある。厚生省も離婚時の年金分割案を年金審にはかった。だが「民法が夫婦別産制である限り難しい」との意見が出て、結論は出ず、民法学者も交えた「女性と年金」検討会で議論する方向だ。

「根本は、夫婦の経済的な依存関係。長期的には各国が自分の年金を持つ方がいい」と、広渡教授は説く。

（杉原里美が担当します）

連合主催の「女性と年金」討論会。厚生省に対し、参加者から質問や意見が相次いだ＝26日、東京都渋谷区の全労済会館で

98.9.30 朝日

オーストラリアで服役

邦人無実訴え 国連に通報書

人権侵害を受けた個人が直接、国連の自由権規約（人権）委員会に訴えることができる国際条約に基づき、オーストラリアの刑務所で無実を訴えながら服役中の日本人四人が再審などを求める内容の「個人通報書」を、日本人として初めて送った。

通報者は、豪ビクトリア州の刑務所に服役している四十二歳から六十六歳までの、男性三人と女性一人。

書面や弁護士らによると、一九九二年六月十七日、七人の日本人観光客グループがメルボルン空港で入国しようとして、そのうち四人のスーツケースから約十三キロ（末端価格約二十三億円）のヘロインが発見され、麻薬密輸の疑いで現行犯逮捕された。

しかし、四人は逮捕の二日前、マレーシア・クアラルンプールで、スーツケースを盗まれていたという。翌日、現地のガイドから新しいスーツケースをそれぞれ渡された。

それを持って入国しようとしたところ、二重底になっていた各自のスーツケースからヘロインが発見され、逮捕されたという。

四人は九七年六月に最高裁への上告が棄却され、懲役十五年の刑が確定した。

支援活動をしているキリスト教関係者の菅野和憲さん（五二）＝東京都武蔵村山市＝は「冤罪を晴らし、晴れて日本に帰りたい、と言っている人もいる。今回の通報で、その道がつくれれば」と話している。

98.9.30.朝日

中絶から避難主張（大

難民と認定されず

「密航は中国の一人っ子政策による強制中絶からの緊急避難」と主張し、松江地裁で七月、刑を免除する判決を受けた中国人女性（三五）が法務省に申請していた難民認定申請が認められなかった。広島入国管理局が三十日までに通知した。

この女性は二月、第二子を妊娠中に島根県隠岐島町に集団密航。判決後に仮放免が認められ、八月三十一日、松江市内の病院で女児を出産した。

女性の弁護人は難民不認定に対し、異議申し立てをする方針。

98.9.30.朝日

ウガンダ内戦地帯 ゲリラが誘拐

少年は兵士に 少女は「結婚」

「仲間をみんなで殴り殺したんだ」。少年は重い口を開いた。東アフリカ・ウガンダ北部の内戦地帯で、反政府ゲリラに誘拐され、訓練を受け、兵士にされた。内戦や飢餓に苦しむ子供たちの救援を続けるユニセフ（国連児童基金）親善大使の公俊、黒柳徹子さんに同行し、ゲリラのもとから命からがら逃げ帰った子供たちと会った。ゲリラの影におびえながら、暴力をふるい、ふるわれた悪夢を忘れるためにもがいていた。ユニセフによると、この地域ではいまも、一日に二人の割合で子供が誘拐されている。（グル〈ウガンダ北部〉＝安東 穂）

●心身に傷跡

「六人かな、覚えていないだけで、殺したのは。ぼくと同じくらいの年の子たちだった」「みんなで棒でつついたり、石で殴ったり。そしたら動かなくなった。やるしかなかった。嫌だと言ったら殺されるから」

デビッド君（一三）は、ぽつりぽつりとつぶやいた。

首都カンパラから北へ約三百キロ、グルに近い村の自宅から、反政府ゲリラ「神の抵抗軍」（LRA）に三度も連れ去られた。国境を越えたスーダン側の拠点で、銃を持たされ、射撃訓練を受けた。ウガンダ側の集落を襲い、食料などを強奪した。六月、ウガンダ政府軍と交戦して負傷し保護された。左腕には弾の破片がいまも残る。

ケティさん（一三）。「友の子はみな、大人の兵士と結婚させられるの。私の相手は二十四歳だった。嫌だったけど、いつもレイプされた。妊娠して子どもを産んだ子もたくさんいる」

仲間を15人殺した 嫌だと言えば殺された

ゲリラから逃れた少女は、左腕を失い腹部に傷を負ったままグルで、安東穂撮

●行方知れず

グルの町はずれにある地元の民間団体「GUSCO」の小さな施設で、ゲリラの手から逃れた子どもたち約二百人がカウンセリングなどを受け、社会復帰を目指している。ユニセフの調べでは、一九八六年以来活発になったゲリラ活動で約八千人の子どもが誘拐され、まだ半分の行方が分からない。GUSCOは設立からの五年間で、約千二百人を保護してきた。

子どもを誘拐するのは、洗脳して訓練すれば従順に殺人や略奪を行うからだという。故郷の集落を襲わせ、家族や親戚を殺させた例もある。

グルから南東へ約百キロの小さな町アボケ。ここにあるセントメリー・カレッジの寮がゲリラに襲われたのは、二年前の十月十日夜だった。

●寮から拉致

日本の中学、高校にあたる全寮制のキリスト教系女子校。ゲリラは約三時間かけて厳重な塀を越し、中にいた女生徒百三十九人を連れ去った。修道女が追いかけ交渉したが、三十人は連れ帰ることができなかった。九人はその後、逃げ帰った。二十一人はいまも行方不明のままだ。

誘拐された女生徒の親たちは、スーダンまで探しに行ったが見つからなかった。

娘のシャルロットさんを連れ去られたままの母アンジェリーナ・アティアムさん（四〇）は、脱走してきた別の子どもから、シャルロットさんが六月に出産したと聞いた。「娘はいま十七歳。子を持つには幼い。生きていてほしいが、あまりにつらすぎる」と泣いた。

出会った子供たちの目には一様にうつろな影があった。故郷に帰っても、再び誘拐されない保証はない。一度脱走した子供とわかると、手くびをみせしめに殺されてしまう。かつて自分たちがやったように、である。GUSCOから自宅に帰ったのに、ゲリラの襲撃を恐れ草むらに穴を掘り寝泊まりする子供もいる。悪夢はまだ続くと子供たちは知っている。

98.9.30、東京(夕)

緒方弁務官の再任を承認

国連総会

【ニューヨーク29日永井重己】国連総会は二十九日、緒方貞子・国連難民高等弁務官(UNHCR)の再任を全会一致で承認した。任期は本来は五年だが、緒方さんの希望で二年。

緒方さんはことし十二月末で二期目の任期を終え、再任に意欲を示していた。一方で七十一歳という年齢と弁務官の激務を考慮し、二年だけの再任を希望。アナン事務総長はこれに応じ、今期総会に任期を限定した再任を勧告していた。

緒方さんは東京生まれで、もともとは国際政治学者。上智大教授や国連日本代表部公使などを経て一九九一年一月に同弁務官に就任し、九四年一月から二期目に入った。国連関係機関では現在、ただ一人の日本人トップ。

緒方貞子弁務官

東京新聞　第3種郵便物認可

東日 10.1.98

「限度額」が招く低賃金

「優遇」の裏側

女性と年金改正

《下》

財源確保へ引き下げ提案

就労控え進むと懸念も

仕出し弁当を作る「ワーカーズ・コレクティブ」。8人中6人が第三号被保険者だ＝東京都世田谷区で

東京都世田谷区の住宅地の一角。午前十時、三畳ほどの台所で、八人が作業していた。おかずを作る人、詰める人、包む人。一日約百五十食を作り、自転車で配達する。主婦が出資し合い、新しい働き方を目指す「ワーカーズ・コレクティブ」の仕出し弁当屋だ。

この組織には、悩みがある。夫の扶養家族として認められる範囲内に、収入を抑える主婦が多く、発注が増えても事業拡大ができないのだ。

現在、就労を調整していないのは、八人中二人だけ。たくさん働きたい二人の時給を上げたくても、残る六人の賃金まで上がってしまうためできない、というジレンマを抱えている。

就労調整は、年収が①夫が所得税の配偶者控除を受けられる限度額の百三万円②国民年金保険料免除（第三号被保険者）と健康保険の被扶養者に認定される限度額の百三十万円――の範囲内に収まるように行われてきた。

注文が増え、昨年まで、百三万円未満に年収を抑えていた女性(35)は、今年から百三十万円未満にまで仕事を増やすことにした。それでも、追い付かず、結果的に「ただ働き」が続いている。

年金の改正論議で連合は、財源の確保のため、百三十万円の限度額を九十万円に引き下げ、負担層を増やすことを提案。年金書では、改正の一歩として評価する声もある。

百三十万円未満に収まるよう仕事を増やした主婦は「もし限度額が九十万円に下がるなら、ただ働きしている分まで報酬をもらう」という。

しかし、別の主婦(30)は「九十万円に下がるなら、さらに働く時間を減らすかも」と話す。扶養を外れることへの夫の抵抗もあり、昨年も二カ月、仕事を休んだ。

メーカーのパートとして働く江戸川区の女性(29)も、「昨年は百二十万円ほど働いたが、改正されたら九十万円に下げたい」という。

長女に加え、次女も来年から私大に通う。教育費が増える中、これ以上就労調整すると家計は苦しいが、「医療保険の被扶養者になれないのは痛い」からだ。

東京・生活者ネットワークが第三号の百九人に尋ねたところ、九十万円への限度額引き下げ案について、「就労制限をする人が増え、保険料を負担する人は増えない」が六十一人、「就労制限せずに働く人が増える」は二十人だった。

パート労働者が加入する労働組合東京ユニオン副委員長の酒井和子さんは「九十万円への引き下げは女性の就労調整を増やし、パートの低賃金化を進める。時給を上げたくない企業に都合がいいだけ。思い切って三十万円程度に下げ、同時にパートの厚生年金を保障すべきだ」と話す。

●働く人全員から

年金評論家の村上清さんは、「ライフスタイルで基礎年金の制度に区別を設けている国は珍しい」という。「多くの先進国と同様に基礎年金部分は一律にして税金でまかない、報酬比例部分の保険料は、勤務時間や日数の制限なしで、パートも含めたすべての働いた人から徴収するのが合理的だ」

「女性をめぐる税制・社会保障制度に関する意見書」をまとめている日弁連の斉藤誠弁護士は「配偶者控除と年金制度が、女性の貧困化を招いている」と厳しい。既婚女性の約六割は働いているが、うち約五四%は年収百五十万円未満だ。こうした人々の多くは就労調整で個人の収入が減るうえ、働いているのに、自分名義の厚生年金を持てないことになるからだ。

●仕組み理解して

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合（約五百三十人）の調べでは、第三号被保険者の約八割が「夫は年金保険料を妻の分まで含め倍額払っている」と思っていることがわかった。第三号被保険者で同組合の理事長大沢靖子さんはいう。「三号の人に仕組みを知らせる勉強会を開いた後では、ほとんどが『保険料を負担すべきだ』との意見に変わった。もっと制度を知らなければ」

年金制度改正の政府案は、年内に決まる。

（この連載は杉原里美が担当しました）

私の妹は長らくフランスに住んでいる。母にとって、娘が異国で永住するか

98.10.1. 東京(9)

●アジアの激動にもまれ30年

倉沢 愛子さん（慶応大学教授）

『女が学者になるとき』▶

くらさわ・あいこ　慶応義塾大学経済学部教授。インドネシア現代史専攻。1946年生まれ。著書に『日本占領下のジャワ農村の変容』（サントリー学芸賞受賞）、『二十年目のインドネシア』など多数。

この本は、一九六〇年代後半、大学でインドネシア研究の魅力に取りつかれてから、何とか一人前の研究者へと成長してゆくまでの「私」を描いている。その間、恋愛、結婚、離婚、再婚、相次ぐ出産とあわただしい人生の波を体験したながら、アメリカ留学、ベトナムでの生活、インドネシアでの聞き取り調査、オランダでの資料調査と各地を駆けずり回って、二十数年かけて何とか博士論文を完成させた。

この本を読んだ何人かの方から、「東大闘争、文化大革命、サイゴン陥落、そしてインドネシアの反日運動と、貴女は他に激動の中にいたんですね。事件の証人を何となく吸寄せつける人なんですか」と驚きの混じった投げかけをされた。

確かにひとさまから見ると波乱万丈の人生かもしれない。しかしよく考えてみると別に私が「波乱よぶ女」だったわけでもなんでもなく、この本に描いた私の青春から熟年にかけての三十年間は、アジアにとってそういう激動の時代だったということだと思う。アジアが、大国の都合で、農きなれない乾を張かされたような形で戦後の運をスタートさせられてから、自分自身の生き方をみつけるための苦しい自己発見に耐えていた時代だったのだろう。

私がこの本を書き終えた頃、三十二年間つづいたインドネシアのスハルト政権が崩壊した。それは「アジアの奇跡」などといわれもてはやされた開発の時代の呆気ない終焉を意味していた。スハルトの登場とほぼ同じ頃にインドネシアという国に出会い、魅せられていった私の軌跡を、この国の革命に重ね合わせてみると感慨深かった。

最初は、日本の占領とあったインドネシアの農村の歴史を綴り起こす調査旅行の記録を書くつもりで筆をとったのだが、途中で編集者の方から「一人の人間としてのさまざまな生きざまをトータルに描いて欲しい、特に苦い女性たちのために」と勧められた時、困ったことになったと思った。

自分を隠さず、自分の弱い方を文字にするということは、自分のプライバシーを不特定の人の前でさらけ出すことになり、これは有名人でもなんでもない、平凡な一人の人間にとっては実にむずかしいことだ。

しかも家族や多くの友人達が登場してきて、将来本に書かれることを前提としてはいなかった彼らの言動がそこに紹介されてしまう。その彼らがいずれこれを読むであろう時のことが頭に浮かんできて、気おくれしてしまった。そして半分以上書き進めた原稿を寄と、十年ちかくも放置しておくことになってしまったのだ。

そんな私が再びペンを持つ気になったのは何だったのだろうか。それは意外と最近ひょこっと出てきた。

高二の娘が出現、私のことをしばしば「おばさん」と呼ぶ。「おばさんにゃ、分からないよ」とか、「おばさんというしょにしないでよね!」というような調子で私がいかに「やさす」かを強調する。そんな中で「おばさんだって昔はね……」という気持ちがひとつの爆発力になって、やっぱりこの「自伝」を書こうかなという気になったような気がする。

あまりカッコは良くないかもしれないけれど、それなりの言葉があったことを娘が教えたくて、ひょっとすると、他人さまではなく、わが娘にそが実存的読者だったのかもしれない。

（慶応出版・二〇〇〇円）

家庭

10/2'98

「買春にNO」男たちが訴え

電話カードやシンポで問題提起

広がる少女売春、はんらん買春などをテーマに「アジアへの性侵略」に反対する運動にも取り組んでいる。買春とは男が加害者になることで、男性自身の心をむしばむ」と訴えできた。

「性を考える男たちのプロジェクト98」が、このほど発足した。買春に反対するテレホンカードをつくり、二十一日にはシンポジウムも開く。買春に反対し、豊かな性を模索する出発点にしたいという。

中心になったのは「男の子育てを考える会」のメンバーたち。二十年前に発足し、男性のための育児書出版や公開講座などの活動をしてきた。十年前からは従軍慰安婦や銅像問題などに取り組んでいる。

「セックスワーカーの人権問題に捉われて買春の善悪が判断停止に陥っている」「売る側も買う側も根が低くなっている」と話し合い、改めて買春の問題性を訴える行動を取ろうと決めた。

同会のメンバーらが雑誌で対談したことがきっかけだった。

中心メンバーで事務局を務める星純男さんは「『がまんしろ』という否定的な見方ではなく、豊かな性を模索する出発点にしたい」と話す。

「買春が当たり前という風潮について考え直すきっかけに」と手始めに作ったテレホンカードは「NO買春！YES♡！」と書かれた図柄で五十度数。千円で販売する。

配念シンポジウム「男たちよ、考えよう！　買春しない、性暴力の加害者とならない生き方」は二十一日午後七時から、東京都千代田区西神田のカンダパンセで。

家族の問題を取材してきたジャーナリストの斎藤茂男さん、性教育に取り組む小学校教諭の塩塚秀美さんらが、男の立場からみた買春の意味などについて問題提起をする。参加費千円（資料代を含む）。

問い合わせは星さん（〇三―五三九五―五八八一）へ。

❺「男の性について問いかけ続けたい」と語る星純男さん＝東京都文京区で❻「NO買春！YES♡！」のテレホンカード

政治に女性の声を

3団体に「奨励賞」

連帯基金

日米の女性による交流団体「女性連帯基金」（中西珠子代表）が、政策決定の場に女性の声を届ける活動を支援しようと募集していた「エンパワーメント奨励賞」に、秋田市の「秋田県女性問題研究会」など三団体が決まった。三日に贈呈式と記念のシンポジウムが行われる。

受賞するのは、ほかに鹿児島県加世田市の「鹿児島県下の女性議員を百人にする会」と、大阪市の「女性と政治情報センター・関西」。秋田県と鹿児島県はともに女性議員の比率が二％以下で、全国で最も進出度が低い地域。その中で、公開セミナーや議員養成講座を開くなどの活動が評価された。大阪の団体は、女性のバックアップスクール運動の草分け的存在。全国へ波及する原動力になった。

贈呈式と記念シンポジウムは、三日午後一時半から東京都渋谷区の東京ウィメンズプラザで。田嶋陽子・法政大教授の講演「女性／政治への影響力と日本の未来」と、日本婦人有権者同盟、全国フェミニスト議員連盟、北京JACなど女性団体の代表らによる討論会「女の連帯は力強く輝を開く！」がある。参加費は一般二千円。問い合わせは、同基金（〇三―五八〇五―〇〇三一）へ。

朝日 10.1.98

9 国際 14版

セクハラ被害 中国で訴訟

【北京30日＝中村史郎】電話を使ったセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）に対する中国で初の訴訟が、陝西省で起こされた。中国でもセクハラ被害は次第に深刻化し、全国人民代表大会（全人代、国会に相当）でセクハラ防止法の制定が論議されるほどだが、裁判などの形で表面化することは珍しい。

英字紙チャイナ・デイリーによると、陝西省大荔県に住む女性ビジネスマン（四三）が、かつての上司だった同県農業局の男性幹部を人民法院（裁判所）に告訴した。訴えによると、今年八月、女性宅の電話が二十日間にわたって毎夜のように鳴り、「あなたを抱きたい」「あなたの体はどんなだろう」など、みだらな言葉を聞かされた。電話を切るとすぐまたかかり、毎夜二時間以上も付き合わされたという。

元上司、連夜の電話20日間

女性は夫からも誤解を受け、ついに別居する羽目になった。九月になって、女性は電話局に発信元の調査を依頼。かつての上司の携帯電話と自宅電話であることが判明した。女性が農業局勤務中、仕事の問題で衝突し、女性が同局を離れてビジネスで成功したことからねたんでいたという。

98.10.2. 東京

日韓相互理解へ 私も救援登板

中日・宣投手が体験講演へ

24日から金大中大統領の地元で『日本週間』

七日に来日する金大中・韓国大統領の地元・光州市と全羅南道で、今月二十四日から十一月二日まで、在韓日本大使館主催の「光州日本週間」が行われる。

期間中に同市出身で、現在は中日ドラゴンズのリリーフエース、宣銅烈投手＝写真＝が「日本での野球生活」と題して講演、両国民の相互理解に一役買う。

また、在韓三十年の日本人ビジネスマン、百瀬格・韓国トーメン会長の投資誘致、外貨獲得のノウハウを伝授する講演も予定され、経済的側面にも力点を置いている。

開催地に光州市と全羅南道を選んだのは、金大統領の地元という事情のほか、優れた伝統芸能が継承されており、文化水準が高いこと、経済的に他地域と格差があり、外国からの投資や外貨獲得への関心が強いこと、などによる。

韓国から10年で1000人 理工系学生受け入れ

首脳会談で 首相表明へ

政府は一日までに、韓国の理工系大学生千人を今後十年間に国費留学生として受け入れることを決めた。八日の日韓首脳会談で、小渕恵三首相から金大中大統領に伝えるとともに、会談後に発表される「二十一世紀に向けた日韓新パートナーシップ」の行動計画に盛り込む。

政府はこれまでも韓国の大学生を国費留学生として受け入れて来たが、多くは日本語、日本研究などを専攻する文科系学生だった。

これに対し、韓国政府は外交ルートによる大統領の訪日準備の過程で、日本の協力で優秀な理工系学生を育成、韓国経済再建に役立つ人材にしたい意向を表明、当初は数千人規模の国費留学生受け入れを日本側に求めた。

日本側は韓国の要請を基本的に受け入れたものの、予算の関係から数千人規模には難色を示し、結果的に「今後十年間に千人」にすることで折り合った。

行動計画にはほかに、日韓両国が共催する二〇〇二年のサッカー・ワールドカップ（W杯）の成功に向け協力すること、W杯を機会に両国国民の友好協力を促進するための広報・文化行事を両国で開催すること、などを明記することが決まった。

98.10.2. J.T. (3面)

Part-time seen as bane, not boon, for women

By GINNY PARKER
Staff writer

For a woman trying to balance work and family, a part-time job seems the ideal solution.

Or does it?

"It's actually a double hell," Irene Natividad, who chairs the U.S. National Commission of Working Women, said in an interview in Tokyo last week.

With low pay, few benefits and little opportunity for career advancement, part-time and temporary work often raise family tension rather than relieve it, the activist said.

Heading a group of female leaders from the U.S., Japan and the Philippines in a two-day forum on women and the workplace, Natividad voiced concern about the growing number of women in the United States and Asia trapped in short-term, part-time employment, defined by the International Labor Organization as "contingent work."

The problem, Natividad said, stems from a common attitude toward women that makes it difficult for them to balance work and family.

In all three countries "there's a lack of social supports for women working outside the home. Women have to cobble their own solutions," she said.

Often, this includes holding one or more part-time jobs. And with companies around the world turning increasingly to part-time and contractual workers, alternatives to part-time and temporary work are becoming scarce, she said.

In Japan, for instance, a record-high 20 percent of the total workforce is now part-time, and more than 60 percent of part-timers are women, a Labor Ministry official said.

Irene Natividad

The number of companies using temporary workers has climbed to 221,885, with women making up about 70 percent of the nation's available temp staff.

> 'There's no sense of emergency, no crisis. It's an invisible issue'

"There are consequences that come with having such a large segment of workers who literally have instability built into their work lives," Natividad said.

"There may be short-term benefits in terms of a revived economy because (companies) become lean and mean, but it could be a long-term disaster in the lack of training that could have moved the Japanese economy to another level."

In addition to hiring contingent workers in their own countries, many Japanese and U.S. firms are employing cheap, part-time labor in developing countries such as the Philippines, Natividad said.

"There's nothing wrong with contingent work if there are protections to insure that abuse does not take place," said Natividad, crediting Japan for its laws protecting part-time and temporary workers — laws the U.S. has yet to make.

Convincing the public that contingent workers face problems is difficult, Natividad said, as general opinion holds that part-time or temporary work is better than no work at all, especially in countries with an oversupply of labor, such as the Philippines.

"Contingent workers work," she said. Therefore, "There's no sense of emergency, no crisis. It's an invisible issue."

The Tokyo forum was part of a three-year project on women in the workplace sponsored by the U.S.-based Philippine American Foundation, the U.S.-Japan Foundation and the Japan Foundation Center for Global Partnership.

The group will convene again in December in Washington to devise a set of policy recommendations for each country.

Natividad, who as PAF's executive director started the trilateral project, said, "In a global economy, you can't look to any one country for the solutions to workplace problems that really translate across borders."

98.10.2. 東京

夫の暴力に救いの手

一時保護施設に年50余人

『相談する勇気を』

市が援助、食材・衣類も用意

個人的な問題と片付けられがちな「夫（恋人）の暴力」が、社会問題になっている。「かながわ・女のスペース〝みずら〟」（福原啓子代表、会員五百人）が運営する一時保護施設の「シェルター」には、毎年、五十人から六十人が夫の暴力を逃れてやってくるという。（国保奥江）

福原啓子
「みずら」代表

「みずら相談室」は京浜急行・神奈川駅前のビルにある。持ち込まれる相談は、電話や面接を含めて年間千件から千百件。相談の大半は日常的な悩みや離婚、男女問題、外国人の問題が多いが、「夫の暴力」がらみはおよそ二百五十件。そのうち五―六十人がシェルターを利用している。

このシェルターはみずらが「相談室」を始めた翌年の一九九一年に、外国人女性を緊急一時保護するためにつくられた。当初は超過滞在の外国人女性が中心だったが、九四年ごろからは夫の暴力から逃れてきた人が圧倒的。現在も二十代の母子と五十代女性二人が避難しており、今後の生活を考えている。「家を出ては一人で生活できない専業主婦が多いですね」と福原さん。

シェルターは会員の会費や横浜市の援助などで行っており、利用は一日千五百円で、最長一カ月間利用できる。食事は自炊だが、食材は用意してあり、衣服、洗面具などもそろっており、着のみ着のままでもその日から利用できる。

東京都がこの春出した「女性に対する暴力」調査報告によると、夫やパートナーのいる女性の七割が精神的、身体的、性的いずれかの暴力を受けている。

「夫の暴力」は夫婦げんかと思われがちだが、弁護士の角田由紀子さんによると「げんかは対等な関係で成り立つもの。社会的、経済的に優位に立つ夫が、弱い妻を力で支配するのは暴力。夫の暴力は個人的な問題ではない。社会構造の問題なんです」という。

九四年にこのシェルターに入所した女性は、夫の暴力については口にせず、たびたび抜け出して夫の元に通っていた。二度シェルターを出入りしたが、三度目に「シェルターに入りたい」と言ってきたときには、空きがなくて入れなかった。その二カ月後の九六年十月に、夫の暴力による外傷性ショックでその女性は死亡したという。

「ほかにシェルターがあったら、あんなことにはならなかった」と福原さんはいまでも心にかけている。しかし、みずらのようなシェルターは全国に二十カ所。まだまだ少ないのが現実だ。

夫の暴力をなくすには女性の意識を変えることも重要だ。「殴るけるの暴力を繰り返す夫の中には、後で土下座したり、花束をプレゼントして謝る人がいる。謝られると妻は夫を許してしまう。妻も夫の暴力を明らかにし、専門機関で相談する勇気が必要なんですよ」（福原さん）

もっとも、シェルターは夫の暴力を逃れる人の支援の一つであって、問題解決の場所ではない。「シェルターは問題解決のための出発点です。職業訓練をしたり、もう少しきちんと長く将来を考えることのできる『ステップハウス』のようなものが必要ですね」。多くの被害者に会っている福原さんの実感だ。

「みずら相談室」の問い合わせは＝電045・451・0740。ただし月曜から土曜は午後2時―5時、夜間は月曜から金曜日、午後7時―9時。

女性の駆け込み寺「みずら」

電話相談を受ける「みずら」の相談員たち＝横浜市で

一年ほど前、目の周りやほおにあざをつくり、痛々しい姿でみずらの相談所を訪れたのは六十代のAさんだった。二十年間、夫の暴力に我慢してきたAさんはアルコール中毒の夫に殴られ、ついに耐えきれず、福祉事務所の紹介で、シェルターを訪ねてきたという。

談話室
TEL.03-3471-7235
月・水・金の
午前10時～午後1時
FAX.03-3471-2179
24時間受け付け

98.10.5. 毎日

第2部 戦争と革命

20世紀精神史

太平洋戦争

太平洋戦争　第2次世界大戦のうち1941年12月8日の日本によるハワイ真珠湾攻撃で始まり、45年9月2日の降伏文書調印に終わる日本・連合国間の戦争。初期は日本側が優勢だったが、42年半ばごろから連合軍が反攻に転じ、本土空襲、原子爆弾投下、ソ連参戦を受け日本は45年8月14日ポツダム宣言を受諾、無条件降伏した。満州事変、日中戦争とともに十五年戦争と総称され、日本では戦時中、大東亜戦争と呼ばれた。

ハル・ノート　開戦直前の日米交渉における米側の提案。41年11月20日日本側が提出した対米交渉要領乙案に対する回答として、同26日ハル国務長官が提示した。中国とインドシナからの日本の軍隊と警察力の全面撤退などが内容で、日本はこれを最後通牒とみなし12月1日の御前会議で同8日開戦を正式決定した。

欠けた「戦場への想像力」

秦 郁彦

ほとんどの戦争は、終わったあと「無意味だった」「必要のない戦争だった」と苦い教訓の思いで語られる。ではパーバラ・タクマン女史が割り切ったように、太平洋戦争もトロイ戦争からベトナム戦争までくり返された「人類の愚行」の一つにすぎないのだろうか。

終戦から半世紀を経て、「あの戦争」の意味づけが問い直されようとしているが、論議は堂々巡りない。あまりにも自由な思考を妨げるバリアーが多いからだ。

加害者と被害者の位置づけ、随伴する戦争責任の所在、賠償と補償問題など論点が錯綜して前へ進まない。加藤典洋氏の『敗戦後論』が批判されたように、死者の追悼さえ、加害者と被害者のどちらを優先するかで収拾がつかなくなっている。

そのうえ、論争の当事者は戦中派ではなく異なる価値観に立つ次の世代に移っている。エリー・アレヴィが指摘するように「ある世代の責任が次の世代の責任と混同するとは限らない」のにである。

●消された？痕跡

本来ならこの種の混乱を整理し、方向を示すのは歴史家の任務なのだろうが、この課題もまた百家争鳴、何しろ第一次大戦の戦因論さえ決着がついていないくらいだ。

第二次大戦となると、ヒトラーとナチ・ドイツの「野心」を軸に、すっきり説明できそうだと思われたが、イギリスの長老歴史家A・J・P・テイラーが、ヒトラーは「計画的というより事件を利用しただけ」と唱えるに至って、戦因論は振り出しに戻った感がある。

ヒトラーがそうだとすれば、戦争の「百年目の時効」だった」という言い分も、一理ありそうな気がしてくるではないか。

太平洋戦争をふくめた第二次大戦の総括転結を求めるのに絶命的な資料は、第一次大戦とちがい主要参戦国のトップ指導者がチャーチルを除き回想録や相当する記録を残さなかったことだろう。ヒトラー、ムッソリーニ、スターリン、ルーズベルト、東条英機……彼らは生涯の重要決断を決定的に不可避としたハルノートがなぜ出たのか。前夜までは日米交渉の妥結を期待していたのだが、大統領は最にその理由を語っていない。メモにも残っていないし、どうやら電話をただした形跡や残下もいなかったらしい。

それいらい歴史家たちは、前後の断片的資料や関連文書からさまざまな推理を試みるが、所詮は「群盲が象をなでる」域にとどまる。

●メカニズムの戦争

同じことは、上下の反対を押し切って真珠湾攻撃に賛成し、後にへもちこんだ山本連合艦隊司令官の「真意」についても言える。反対を唱えたのだが、大統領は最にその理由を語っていない。メモにも残っていないし、どうやら電話をただした形跡や残下もいなかったらしい。

それいらい歴史家たちは、前後の断片的資料や関連文書からさまざまな推理を試みるが、所詮は「群盲が象をなでる」域にとどまる。

日本軍の真珠湾攻撃で爆撃を受け炎上・沈没する米戦艦アリゾナ＝1941年12月8日

同じことは、上下の反対を押し切って真珠湾攻撃に賛成し、後にへもちこんだ山本連合艦隊司令官の「真意」についても言える。反対を唱えるあまりに山本は「私が愚者であるかぎりやる。以後は反対論を禁じる」と申し渡しているが、やはり理由は説明していない。

その山本も、戦因の理解は誤っていない。座談会のソファで敗手・かなたの海軍官僚から聞いた「トットトラ」（われ奇襲に成功せり）の電文を見ながら奇襲のシーンを想像するだけだった。爆撃力が真珠湾の米兵死傷者の数を数えたとは思えない。それから四年近くあと、トルーマン大統領はもとより国務長官、「エノラ・ゲイ」号のティベッツ機長に告げ、原子爆の下でうごめく広島市民の姿は見えなかったはずだ。

ナポレオンや武田信玄の時代には将軍は戦う兵隊兵士の動きまで、視野に収めていた。その意味では彼らは大将軍というよりベトナム戦争時のプラトーン・リーダー（分隊長）だったが、二〇世紀の戦争では未端の兵の姿は、トップの想像力からはみ出し、まさに血の通わぬ「メカニズムの戦争」（エンゾー説）と化してしまう。

私は、二百万を超える太平洋戦争の戦死者のうち七割は広義の「餓死者」と推定している。洋の東西、新旧を問わず、こんな戦争は他になかったはずだ。しかし敗戦から半年前の四五年二月、昭和天皇から奏見を求められた近衛首相の「要条件は、金銭戦争は『成功不成功相半ばず』と述べ「陛下の赤子な和一人の戦死者ありなるを聞かず」と答えている。

演技ではなく、本心だったようだが、先祖伝来、四つの小島でチマチマとやってきたのが、地球の三分の一に拡大した戦場の実相がつかめないのは、当然かもしれない。東京裁判の代わりに日本人自身が戦争責任を問いたとしたら、この視の「犯意なき犯罪」のたくさんにぶつかり、立ち往生したかもしれない。

●複合的な「本質」

「あの戦争」の本質については、さまざまな見方が乱立している。主なる相手はどこだったかについても、中国、アメリカ、イギリスと分かれる。イギリス説はC・ソーンのように、アジアにおける日英の対立問題に米が加担したのが本質だとする解釈を指す。

「帝国主義戦争だった」「日本の侵略戦争」「解放地解放戦争だった」のように二刀両断風の見方もある。私はどれかがまちがっているというより、七色の虹のようにいくつもの要素が複合していたと考える。したがって単純要のコンセンサスを待ようとすれば、「まちがった戦争ではないとは言えない」とか、「侵略戦争でなかったとは言えない」とでも表現するしかないのかもしれない。

こんな問題提起では反発と無関心の嵐を覚悟しなければならないが、この嵐も出そうだが、沈黙して歴史への疑問を閉めることこそ、今もっとも必要だと私は考えている。

（はた・いくひこ＝日本大学教授・現代政治外交史専攻）

米軍爆撃機に捕獲

98.10.5. 東京

胸を開いて

訪日・金大中大統領

■1■

韓国の金大中大統領が七日、国賓として訪日する。戦後半世紀余を経て、なお両国間に横たわる「過去」を清算するため「胸襟を開いて語り合いたい」と大統領は言う。訪日を、日韓が真の友好を築く礎石にするためには何が必要なのか。両国の実情に詳しい在日の人々に聞いた。

オペラ歌手 田月仙（タミン・ウォルソン）さん

過去のこと 若い人も知って

——今月二十五日にソウル市で開かれる東京都とソウル市の友好都市提携十周年を記念する行事で、田さんが「夜明けのうた」を日本語で歌うことが決まりました。日本の歌謡曲が韓国で公式に解禁されるのは初めてで、日本文化の受け入れに対する韓国の人々の意識の変化を感じます。

変わってきたんだな、という実感はあります。文化は最も心が通いやすいものだから、何とか交流のムードづくりをしたい。在日コリアンの私に、このような役割を与えてくれたことに感謝しています。

でも、韓国は複雑な心境だと思うんです。今では韓国の人たちも日本の歌手の大ファンだったりするのですが、やはりいまだに植民地時代の跡が残っていますから。そのとき日本に自分たちの文化を抹殺されそうになった。例えば創氏改名。朝鮮とか韓国の文化をなくして、日本のものにしなくてはいけないという時代があったわけです。

戦後五十年たっても、その記憶は風化していない。特に当事者、生き証人たちは。日本文化の開放はうれしいけど、全部開放したらまた文化的に占領されるんじゃないかと思う気持ちは分かりますよね。

——そのような過去の歴史を受け止め、乗り越えようとしている若者も日本には数多くいます。

私は戦後生まれの二世ですから具体的な痛みは知らないし、両親の世代のようなひどい差別も受けませんでした。好きなオペラ歌手の道を歩きながら、日本の友人たちに助けられたことも多かった。一人ひとりの付き合いというのは、不幸な歴史をかなりの部分で超えたと思います。でも国と国、政治家と政治家のレベルになると、失言して謝ることばかり繰り返している。

だから韓国は信頼感をなくすし、日本は日本で「なぜ大統領が代わるたびに謝罪するのか」と反発する。「遺憾」なんてあいまいな言葉ではなく、びしっと決着をつければ、その後までごちゃごちゃ言う民族ではないんですけど。

——「過去の清算」には何が必要でしょうか。

それはなかなか難しい。人の心の問題ですから。植民地時代に日本が野蛮なことをしたと、今さら責めてもしようがない。でも、過去に何があったのかぐらい日本の若い人に知ってもらいたいと思う。

もちろん日本人だって愛国心を持たなければならないし、日本を大切にしてほしいと思いますよ。自国の歴史に自虐的な若者ばかりでは困るでしょ。でも朝鮮半島に対しては侵略の歴史があって、その事実の上に今の分断国家があるということを、街を歩いている若い子まである程度は知っているというレベルまでいかないと「過去の清算」は難しい。それはもう、植民地支配の責任ではないんです。事実関係ですね、認識の問題……。

逆に韓国は、確かにつらい思いをしたのだけれど「離れ」ばかりではいけない。韓国の中にも韓国の歴史教育を見直そうとする人も出てきました。それはいいことだと思います。日本の悪いところばかり見るのではなく、良いところも見ないと。

——「負の歴史」は越えられますか。

できると思います。時間はかかるけど。「時がたてば」というところに落ち着いてはいけないのですが、「在日」を含めて、今はまだ人々の痛みはいえていませんから。日本人と韓国人が本当の友人になれなかった一番の理由は無知と誤解。感情論から抜け切れていないんですよ、お互い。でもそれは、人間だから当たり前。客観的に歴史を見て、冷静に話し合える時がくれば真の友好も可能でしょう。

田月仙さん 東京生まれの在日コリアン二世。オペラ歌手。二期会会員。1985年にデビューし、「蝶々夫人」「サロメ」などの主役を演じる。その後、朝鮮半島の南と北で公演を実現し、〝38度線を越えた歌姫〟と呼ばれた。ロサンゼルス公演では、祖国統一への思いを託した「高麗山河わが愛」を歌った。

98.10.6. 東京

胸を開いて

訪日 金大中大統領

■2■

ミュージシャン 朴保（パク・ボウ）さん

歴史さかのぼればもっと楽に

――今年五月のソウルでの公演で、韓国では禁じられている日本語で歌ってしまったそうですね。

韓国のベテランバンドとのジョイント公演だったんですが、曲の中に客に呼び掛ける部分があって、そこで僕が勢いづいて「だれが!」と日本語で歌ってしまった。すると客さんが日本語で「だれが!」と返してくれたんです。その後はもう、客席は総立ちになって盛り上がった。

日本のバンドということで、石を投げられてもおかしくないと緊張していたんです。（日本語が出たときは）ああ、やったなって。バンドのメンバーの一人は「会場の盛り上がりを見て、涙が出てきた」と言っていた。主催者もびっくりして「明日からもやっちゃってください」って。音楽だからほぐせたのかなという感じですね。

――韓国側に変化の兆しは見られますか。

二年前にも別のミュージシャンとのジョイントをしていますが、そのときは頭から「日本語はだめ」と言われました。OKが出ていたはずの韓国語訳の曲も演奏禁止になった。硬かったですね。南北統一の歌なんだけど、偏っていなければ向こうではOKなんです。禁止になったのは日本で作られた歌だからということ以外に考えられない。

実は一九八〇（昭和五十五）年にも小さなクラブで歌ったことがある。そのときは窓のカーテンを閉め、店を暗くして絶対に外から分からないようにした。それで二、三曲。それに比べれば、公の場所で、堂々と日本語で歌えたことはうれしかったですよ。歴史の一ページと思ってます。

金大中大統領になって日本文化が開放される動きが出るのを見越して、五月にジョイントしたバンドとソウルで合作のCD制作を進めているんです。CDのタイトルは二年前に演奏禁止になった「もう止めにしておくれ」。年内にはリリースしたいけれど、韓国が経済危機で資金難になっちゃって。何とかならないですかね。

――韓国の若い世代にも反日感情を感じますか。

彼らはストレートに日本の過去について言わないが、そういう教育をされているから、揺れるものがあると思う。だけど、若い人たちはむしろ日本となんとか仲よくしたいと考えていると思いますよ。日本は経済的には韓国の上をいっているという意識があるし、徴兵もなく自由に見える。少しは「あこがれ」もあると思いますね。

――どうすれば、これからの世代が仲良くなれるでしょうか。

やっぱり歴史（教育）だと思う。歴史をちゃんとひもとけば、もう少しお互いに楽になれると思うんですよ。百済、新羅や奈良・飛鳥の時代から、日本と朝鮮半島は仲よく交流していた時代の方がずっと長い。ナラが朝鮮語で「国」の意味だということ一つでも、教えることで随分違ってくるのでは。日本は朝鮮半島から伝わった文化を洗練させてきたし、お互いに尊敬できることを探していけば、一番早いんじゃないか。

民族主義だけを追求していくと、憎しみだけしか残らないですよね。ただ、日本の方からもっと過去に対する謝罪の意思をはっきり見せていかないと。どうもそのへんが弱いですよね。

朴保さん　1955年、在日コリアンの父と日本人の母の間に生まれ、日本国籍を取得。79年、日本名でデビューしたが、80年の韓国訪問を機に芸名を「朴保」に改めた。「朴保Band」でライブ活動中。ロックと韓国民謡、レゲエ、ソウルをミックスさせた音と、メッセージ性の強い歌詞が特色。11日に東京・上野公園で開かれる「ワンコリアフェスティバル東京」で、喜納昌吉さん、白竜さんらと共演する。43歳。

98.10.7. 東京

戦後補償受けられる法改正を

言いたい放談

大島　渚

まだしても同じ文句を聞かされた。「それは立法府の裁量の問題であり」一部の人間にとって不利であるとしても、「憲法の平等原則には違反しない」というのである。そして原告の控訴は棄却された。

私は、第二次世界大戦で負傷した元日本軍属の在日韓国人と遺族が障害年金の支給を求めた控訴審の判決のことを言っているのである。

私にとっては、これは一九六三年にテレビで取り上げた「忘れられた皇軍」の今日の姿なのであった。日本軍の軍属として日本のために戦い、負傷しながら、戦後は韓国人になってしまったということで、補償を受けられない人々の置かれた立場はあまりにも不合理であるとして、私は戦後十九年目の日本の社会に一石を投じたのであった。

そのとき傷痍（い）軍人会の会長として最も元気だった石成基（ソク・ソンギ）さんは、今、車いすの身である。横浜市の介護施設で暮らすソクさんは、判決を傍聴できる状態ではなかったが、周囲の反対を押し切って車で駆けつけた。

横浜ベイスターズの三十八年とまではいかないが、私が「忘れられた皇軍」をつくってからでも三十五年、ソクさんはいつまで元気で、この裁判を続けられるのであろうか。

裁判所は最終的には「立法府の裁量」として訴えを退けながら、この不合理・不平等の立場におかれた原告に同情を示し続けてきた。これは、この「忘れられた皇軍」の場合にとどまらず、あらゆる戦後補償を求める裁判での共通の態度となっている。

私は、今まで、いつも中身が良くても敗訴では意味がないと言い続けてきた。

私はこの際、「立法府の裁量の問題」と言われていることを逆手にとって、国家に対して投げ返してはどうかと思うのだ。「立法府の問題」というのは、つまりそういう法律があるから、あるいはないから駄目ということだろう。それならば、法律を変えればいいではないか。

ほとんどすべての戦後補償を求める裁判において裁判所はいつも原告に不利な判決を言い渡しながら、現行法ではしようがないという。これは、司法に携わる人々の立法府に対する、はっきりした意思表示ではないのか。

彼らは法律を変えろと言っているのだ。これに対して法律を変えるべく立ち上がる立法府、すなわち国会の有志はいないのか。

（映画監督）

98.10.7. 東京

第2回赤松良子賞

元参議院議員の久保田真苗さん

第二回赤松良子賞が元国連女性の地位向上部長で元参議院議員の久保田真苗さん＝写真＝に決まった。

赤松良子賞は、国際女性の地位協会（事務局・埼玉県入間郡大井町の文京女子大内）が女性差別撤廃条約の研究と普及に努めた人に贈る賞。久保田さんは一九七八年に国連女性の地位向上部長になり、女性差別撤廃条約の準備事務を担当し、八〇年には第二回世界女性会議の条約署名式を演出した。

表彰式は三十一日、東京・渋谷の東京ウィメンズプラザで開かれる「国際女性の地位協会98シンポジウム」で行われる。表彰式のあと「国連・人権・女性――世界人権宣言50周年と女性差別撤廃条約」をテーマにシンポジウムが行われ、中村道子さん（第一回赤松良子賞受賞者）らとともに、久保田さんもパネリストとして参加する。参加費千円。

問い合わせは文京女子大学山下泰子研究室にファクスで＝03・5905・0365。

98.10.7.朝日

論壇

ピルの選択は女性の権利

加藤シヅエ

私は約八十年前、バース・コントロール運動の指導者サンガー夫人（米）に出会い深い感銘を受けた。以来、産む産まないの選択は女性解放のかぎ、という信念に基づき家族計画をライフワークとしてきた。その立場からピル（経口避妊薬）認可に否定的な井上栄氏の意見（九月二十一日の論壇）に反論したい。

第一に、井上氏の主張は男性中心の論理であり、妊娠する体をもつ女性の立場がまったく尊重されていない。エイズを理由にピルを禁止した国はどこにもないように、ピルは望まない妊娠の予防薬で、エイズ予防とは本来関係がない。

日本ではいかに避妊が不十分かを示す数字がある。望んだ出産三六%、予定外の出産三六%、望まない出産三%、中絶二五%。フランス、アメリカに比べ予定外の妊娠・出産は二～三倍も多い。（「希望と現実」一九九五年、米アランゲットマッカー研究所）。その一因は、日本では避妊法の選択肢が少ないことにある。そのため、避妊をしている既婚者のうち七七・八%がコンドームに頼っており、未婚者では九割以上にのぼるという。（毎日新聞の全国家族計画世論調査、九八年）

コンドームの利点と普及率の高さは十分評価するが、これには男性まかせという問題がある。また、一般には妊娠の危険期だけ使われるためエイズ予防の手段としても不確実であり、そのことは、エイズその他の性感染症の増加が証明している。男性に依存せず高い避妊効果が望めるピルは、女性にとって重要な避妊法の一つである。推定では日本でもすでに約二十万人がピルを使っているが、避妊用に改良された低用量ピルが認可されていないため、治療薬の中・高用量ピルを転用している。これらはホルモン量が多い分、副作用もあり、女性の健康にとって問題である。避妊を選ぶ自由を個人の基本的権利として保障すべきことは、リプロダクティブ・ライツ／ヘルス（性と生殖に関する権利／健康）として国際的に推進されている。女性が使える避妊法の一つとしてピルの早期認可を求めたい。

第二に、井上氏の主張には、社会防衛を優先させ、国が無知な国民を監視するという姿勢が感じられる。しかし、性はきわめて私的な領域であり、個人の選択と自己決定権の尊重が優先されるべきだと考える。大切なのは情報公開と教育を徹底させ、性行動や避妊について個人が判断し決定する力を育てることだ。長期的にはそれこそが有効な予防策になると信じる。ピル認可→コンドーム使用減少→エイズ拡大という図式はあまりにも短絡的で、人々に誤解と恐怖心を与える。エイズはピルに責任転嫁して済む問題ではない。

第三に、日本はエイズに関して「幸運な国」「奇跡の国」という井上氏の主張には、排除の論理が潜んでいる。エイズを不幸な恐るべき病気として特別視することは、感染者や患者への偏見や差別を助長する危険がある。それは実態を一層見えにくくし、予防を困難にするという悪循環を生む。若者の性行動の活発化や買売春の広がりなどをみると、エイズその他の性感染症は今後も増加すると考えるのが現実的だろう。重要なのは排除ではなく、エイズをもつ人と共に生きる姿勢であり、社会の支援体制である。また、エイズ・性感染症対策にはグローバルな視点も不可欠だ。感染症に国境はなく、日本だけが「幸運な国」として済まされる問題ではない。

ピル認可問題は、最初の動き以来すでに三十余年がたつ。その間「女の性道徳の乱れ」や「エイズ拡大のおそれ」がいわれ、今年三月にはピルと内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）との関係調査が新たな理由として浮上した。その結果、国の審査は振り出しに戻ってしまった。これらの理由には、あまり合理性が感じられず不透明さがつきまとう。女性の意思で妊娠を調節するピルに対し、よほど強い抵抗や嫌悪が背後に働いているのだろうか。出生率低下も関係しているのだろうか。

いずれにせよ、今後は審議内容の徹底した情報公開と一日も早い認可を望みたい。ただ、ピルは万能薬ではない。認可後は男性の避妊責任、ピルとコンドームの併用などの教育、副作用のモニタリングなどの継続的取り組みが必要と考える。

（日本家族計画連盟会長＝投稿）

98.10.7. 朝日

市民の自立がNPO法の精神

加藤 哲夫 仙台市
（NPOセンター代表理事）

いよいよ十二月一日から特定非営利活動促進法（NPO法）が施行される。それに向けて各都道府県は施行条例の整備に取り組んでいる。宮城県でも条例づくりが行われ、私たちもNPO法制度の研究会を組織して市民の意見をまとめ、提言した。県議会もNPOの促進条例を議員立法でつくると明言しているので、こちらにも意見やアイデアを届けていこうと考えている。

この数カ月、県と県議会が主催する「みやぎのNPOなんでもフォーラム」のコーディネーターとして県内を巡回し、地域でさまざまな市民活動やボランティア活動をしている人たち、市町村職員の人たちとの懇談の機会を得た。そして、まだまだこのNPO法制定の精神が伝わっていないことを実感した。かなりの方々が、法律によって市民活動団体が行政の管理下におかれ、自由な活動が束縛されることを恐れている。これまでの行政と市民の関係を見ればもっともな危惧だが、このNPO法は逆に、市民活動の自立と自律を促すものである。行政の恣意的な関与なしに自由に法人を設立して、社会的責任のとれる公益的な活動を民間で行うための法的権利を明記したにすぎない。

そもそも法は市民をコントロールするためのものではなく、市民の権利を守り、権力（行政）を市民のコントロール下に置くためのものである。そのことが、市民も行政職員も実感できないほど、この国の「公＝行政」という意識は根が深い。「公共とは私たちのことなり」をベースにした新しい市民社会づくりの第一歩が始まったばかりだ。多くの地道な、そして価値のある活動を展開してきた団体がNPO法人の本流になって欲しいものだ。

98. 10. 7. J.T. (20 ⑦)

Humanitarian hero or war criminal?

So the pilot of the Enola Gay was given a "humanitarian award" ("Enola Gay pilot honored," Sept. 29). That news alone I could have lived with. But then the article reporting this event goes on to offer several points in defense of the bombing. I feel compelled to speak out against it.

First, the overline at the top of the articles states, "Bomb 'saved millions.' " This belief is based on estimates given by the U.S. government in the event an invasion of the Japanese mainland occurred. Sheer propaganda! The estimate was made by taking the area of Okinawa and the area of the mainland to get a ratio. Next they multiplied the number of casualties in the Battle of Okinawa by that factor. Does that sound like a sensible way to estimate casualties? Of course not! Yet this stupidly generated number is always cited. Can't anyone come up with a more realistic estimate, taking into account the fact that the Japanese fought a last-ditch battle in Okinawa and were so close to running out of everything necessary to fight a war that they were reduced to using pine-tree roots to make airplane fuel?

Who says an invasion was necessary anyway? A blockade could have forced a surrender without such a loss of civilian life. And that is just what makes the bombings so wrong: the loss of civilian life. Yes, lots of people were killed during the bombings of Tokyo. However, the targets were fairly specific: factories, munitions dumps, military bases, etc. I don't feel particularly sorry for someone who died because they lived next to a munitions dump during wartime. But Hiroshima, particularly the city center that was targeted, was far from being a military target. Most of those who died were neither soldiers nor munitions workers. It makes me ill to think of all the innocent men, women, children and babies who died instantly or suffered radiation burns and other horrors because of this heinous action. I feel shame when my countrymen defend this slip in morality.

The Allies won the war, so the pilot, retired Gen. Paul Tibbets Jr., is called a hero.

If they had lost he would have been called a war criminal.

JAMES ANTHONY

Suwa, Nagano

Sexual harassment is a crime

I am a 26-year-old American woman who has been living in Japan for six months. I came here to challenge my cultural perceptions and to expand my understanding of life in general. As a resident foreigner, I have been observing and learning about Japanese culture. Perhaps suspension of judgment is essential when attempting to acclimate to a foreign environment. As a citizen of the United States, I would usually keep my mouth shut and my eyes averted from behavior that would be considered unacceptable in my country. But I think it is necessary to speak out against sexual harassment in Japan.

A Japanese friend of mine is being sexually harassed by a coworker. Any action on her behalf jeopardizes her job, and in today's economic climate she cannot afford to take that risk. Every day that she goes to work she is subjected to the groping of her fellow employee, which occurs under the artfully unobservant eye of their boss, who considers it a nonissue.

This woman has no available resources. I made several phone calls in an attempt to refer her to someone who could offer guidance. Tokyo has a publication titled "The Women's Yellow Pages," with various references for women in the Tokyo area, but outside of Tokyo women are left to fend for themselves. The most concrete advice I received was to send her to a lawyer, an option she cannot afford.

To be subjected to molestation is demeaning and has an adverse effect on the victim's morale. In many cases, the victim is treated like the culprit. It creates a dangerous psychological atmosphere to be entrapped in a situation where you have no personal power and are repeatedly punished for it. A boss who regards sexual harassment as a nonissue should consider that the woman's mental well-being and her productivity at work are significantly reduced by the trauma of sexual abuse. This undermines the overall stability of the company. And to relegate women to the status of second-class citizens with no means of self-protection undermines the overall stability of a country.

Sexual harassment must be recognized as a crime, and dealt with as such. Preventive measures need to be taken, resources should be made available to women and men, and offenders should be punished. In this period of worldwide economic and political instability, it is imperative that healthy and empowered individuals work together to weather the change. A creative and adaptive climate cannot exist where sexual harassment is condoned.

NATALIE NELSON

Sendai, Miyagi

Item missing from wartime museum

Many, perhaps most, Japan Times readers will know about the newly finished Hellfire Pass Memorial Museum on the Thai-Burma Railway. The museum stands next to the Hellfire Pass railway cutting itself, in the forested Konya-Hintok area where over 700 Allied prisoners of war and an unknown but probably larger number of Asian conscripted laborers ("romusha") died building 5 km of track.

Exhibits are labeled in English and Thai, but not yet, unfortunately, in Korean or Japanese or in the languages spoken by the conscripted Asian workers, such as Malay, Thai, Chinese and Tamil. Perhaps multilingual readers could visit the museum and make their services available.

The museum is finished and the exhibits are now substantially complete — with one conspicuous omission.

It is known that a number of intrepid and ingenious POWs literally risked death to make radio receivers that fitted into water bottles of the kind most POWs possessed. If any reader has one of these, or knows of the whereabouts of one or more of these, he or she might care to get in touch with the Memorial Museum directly: The Australia-Thailand Memorial Project, 10 Soi 13 Sang Choo To Road, Kanchanaburi, Thailand, tel. 66-34-514220, fax 66-34-622975.

WILLIAM CORR

Sakai, Osaka

98.10.8. J.T. (6面)

U.N. marks 50th anniversary of peacekeeping

UNITED NATIONS (Reuters) The United Nations commemorated 50 years of peacekeeping operations on Tuesday and said the missions must continue despite a mixed record of successes and failures.

"Often, the expectations placed in peacekeepers have outstripped the resources given to them," Secretary General Kofi Annan told a special meeting of the General Assembly.

"Often the demands of them have cruelly ignored the realities on the ground."

Annan cited operations in Namibia, Mozambique and El Salvador as "unmistakable successes" while referring to missions in Cyprus and the Middle East as among those "maintaining calm in some seemingly intractable stalemates."

"And in some places — Rwanda and the former Yugoslavia — we have found ourselves standing by, in impotent horror, while the most appalling crimes were committed," he said, referring to the 1994 genocide in the African nation and the protracted Balkan conflict marked by "ethnic cleansing" and other horrors.

"We cannot claim that peacekeeping has been the answer to every conflict; still less, alas, that it has prevented the recurrence of genocide," said Annan, who headed peacekeeping operations from 1993 until he became secretary general in 1997.

"What we can and do claim proudly is that, in the first half-century of their existence, United Nations 'blue helmets' have saved tens of thousands of lives," Annan said.

"The mission of U.N. peacekeeping must continue. Too much remains to be done, too many innocents are dying as we speak, for us to think of leaving the field now," he said.

A total of 49 U.N. peacekeeping operations have been launched over the past 50 years — including 36 since 1988 — and more than 1,500 peacekeepers have died.

The first mission — still in existence — was the Jerusalem-based U.N. Truce Supervision Organization, established in 1948 to monitor truces and armistices between Israel and its Arab neighbors. It now has a strength of about 150 military observers.

The most recent operation was deployed in July this year — the U.N. Observation Mission in Sierra Leone, with a strength of about 55.

Well over 750,000 military personnel and civilian police, supported by thousands of other civilians, have served in trouble spots from Cambodia to Angola and from Tajikistan to Haiti. They have come from 118 countries.

A total of 17 peacekeeping missions are still in existence, though several number only a few dozen personnel.

The largest is the 4,455-strong U.N. Interim Force in Lebanon, established in 1978. The smallest is the 28-member U.N. Mission of Observers in Prevlaka, a sensitive Adriatic peninsula controlled by Croatia that borders Yugoslavia's republic of Montenegro.

To mark the anniversary, Annan presented the first Dag Hammarskjold medals to relatives of three of the peacekeepers who died. The medal is named after the second U.N. secretary general, a Swede killed when a plane taking him on an African peace mission crashed in what is now Zambia in 1961.

The first medal was presented to Jean de Labarriere, son of Commandant Rene de Labarriere, a French officer who was the first U.N. peacekeeper to die. He was killed by a land mine while serving in Palestine on July 6, 1948.

Another medal went to Count Bertil Bernadotte, the son of Count Folke Bernadotte of Sweden who was assassinated in Jerusalem in September 1948 while serving as U.N. mediator in Palestine.

A third medal was handed to Elinor Hammarskjold, grand niece of the late secretary general.

Annan announced that a memorial would be built in the U.N. grounds as a tribute to fallen peacekeepers, to be financed from prize money for the 1988 Nobel Peace Prize awarded to U.N. peacekeeping forces.

98.10.10. 朝 B

アフリカをどう援助しますか

外務省アフリカ第二課長 太田 清和さん

アフリカ日本協議会事務局長 尾関 葉子さん

第二回アフリカ開発会議（TICAD II）が二九日、東京で始まる。日本政府の途上国援助（ODA）は頭打ち。市民の力に期待が集まる。アフリカは「離陸」できるのか。

聞き手・川崎 剛（外報部次長）

基本は人材づくり 発展段階も踏まえ政策に

累積債務が足かせ 自力開発できる環境必要

■アフリカ会議
[illegible]

■主要な国のODA
[illegible]

■アフリカ開発会議
[illegible]

정신대할머니들 日帝 화형식　일제 때 위안부 피해 할머니들과 한국정신대문제 대책협의회 회원들이 30일 낮 서울 종로구 중학동 일본대사관앞에서 '金大中 대통령 방일에 따른 한일 연대 결의대회'를 갖고 일본 군국주의를 상징하는 인형을 불태우고 있다.

(李泰卓기자 uk@seoul.co.kr)

見出し：挺身隊ハルモニ達の日帝（ママ、以下同じ）火刑式

内容：9月30日昼、日帝時代の慰安婦被害ハルモニ達と抵対協会員達がソウル鍾路区中学洞の日本大使館前で「金大中大統領訪日に伴う日韓連帯決議大会」を開き、日本軍国主義を象徴する人形を燃やしている。

1998年 10月10日 ハンギョレ新聞 26面

위안부 일본사죄 요구

김대중 대통령의 일본방문을 일주일 앞둔 30일 오후 서울 중학동 주한 일본대사관 앞에서 한국정신대문제대책협의회 등 한국과 일본의 시민단체 회원들이 일본군위안부 문제에 대한 일본 정부의 사죄와 배상을 요구하며 일본 군국주의 상징 조형물을 불태우고 있다.　이정우 기자

見出し：慰安婦、日本謝罪要求

SOON-DEOK (left), 78, and other South Koreans who were forced to serve as "comfort women" for during World War II, attend a protest rally in front of Japanese embassy in Seoul this week. They demanded President Kim Dae-Jung to seek Tokyo's apology and compensation. *Photo by Reuters*

But that might take a long time too, as Ms. Sabado herself admitted. For instance, there have already been two human rights experts sent by the United Nations, in separate instances, to study and investigate sexual slavery. In turn, both UN Special Rapporteurs Radhika Coomaraswamy and Gay McDougall were convinced that the Japanese government had a legal responsibility toward victims of their war crimes. So far, however, the Japanese government has still not budged, except for a carefully worded apology from the Prime Minister himself which conveniently left out the subject of compensation.

"Despite evidence to the contrary, despite victims' testimonies, despite documentation from lawyers, despite pressure from the UN, despite the recognition of the international human rights community and human rights experts, the Japanese government continues to refuse to accept and fulfill their legal responsibilities for the victims," she said.

To make matters worse, the *lolas* — 15 of which have now passed away — do not enjoy any sort of substantial support from the Philippine government. Unlike in Korea, for example, where the comfort women were the recipients of funds raised by the Korean government and where 90% of the Korean Diet members signed a resolution in their behalf, urging the Japanese government to pass its postwar compensation law.

"We received no such support from the Ramos administration, despite repeated appeals from the Lolas for medical and financial assistance," Ms. Sabado said. "In fact, the Philippine government is supportive of the Japanese position. *Isang malaking pagkukulang ng gobyerno ang pagtingin, pagtulong, at pagsuporta sa mga lola.*"

Meanwhile, although there are resolutions filed in the Senate by Senator Francisco Tatad and by then Sorsogon representative Bonifacio Gillego, only the latter's resolution passed at the committee level and it still has yet to be acted upon.

This is why the AWHRC, Lila-Pilipina, and the *lolas* welcomed the recent move of Representative Romeo Candazo, who will lobby for the signatures and support of legislators in behalf of Filipina comfort women, which was launched, together with the AWHRC's book launching of *War Crimes on Asian Women: The Case of Filipino Comfort Women* last Sept. 30 at the University of the Philippines' Balay Kalinaw.

Mr. Candazo's legislators signature campaign, among other things, will call on the Japanese Diet to enact a postwar compensation law and on the Japanese government to pursue the recommendations contained on the August 1998 Report on Systematic Rape, Sexual Slavery, and Slavery-like Practices of UN Special Rapporteur McDougall, which was submitted to the UN Sub-Commission on Human Rights in Geneva.

But whether Mr. Candazo's campaign succeeds or not still depends on a lot of things in the same way as many other factors are hinged on the Tokyo district court's ruling.

Today is judgement day. Today is the day of reckoning for the Filipina comfort women and the Japanese government. And whether the ruling would affirm or deny the latter's legal responsibility toward the former, the struggle of the *lolas* would definitely go on.

omfort women in upbeat mood as

Asian health care during an

:IETY

bert J.A. Basillo, Jr.

ay is judgement day. Today is of reckoning for the Filipina women and the Japanese gov- t. Today, at 9 a.m., Philippine Tokyo district court will decide it filed by 18 Filipina women s in April 1993 — which in- to 46 women five months later ing legal compensation of Y20 per person for the crimes alleg- mmited against them by the e government such as military d sexual slavery during World

erly expecting such a ruling Asian Women's Human Rights (AWHRC), a nongovernment ation which has helped Filipina women in various capacities; ipina, Inc., an organization of survivors of rape and sex slav- Japanese troops during World ; and of course, all the 169 comfort women themselves re raped and kept as sex slaves for Japanese soldiers in a total laces in the country including , Pampanga, Baguio, Manila, , Aklan, Mindoro, Sorsogon, te, Capiz, Antique, Iloilo, J, Cebu, Leyte, Cagayan de Oro, del Norte, and Davao City.

lou Sabado, AWHRC's pro- sociate, reported that the mood ilipina comfort women — *lolas* are fondly called — is upbeat. though they have waited six nd endured 19 court hearings, f which they personally testi- the *lolas* are optimistic about cyo district court ruling," she

h a positive mood, Ms. Sabado as reinforced by the ruling of r Japanese court — the oseki branch of the Yamaguchi — which issued a positive ver- t April regarding the lawsuit of Korean comfort women. In the

However, the verdict, positive as it may have been, is still not enough to render justice and give due compensation to Japan's sex slaves during the Second World War, Ms. Sabado said.

"Although the Yamaguchi court has upheld that the Japanese government had a legal responsibility and that it completely neglected it, it still said that it would require a post-war compensation law for the comfort women to be properly compensated. Such a law would still have to be passed by the Japanese Diet," she said.

This led her to believe that the struggle of the Filipina *lolas* for Japanese government recognition and compensation, among others, may still continue — and for a long time at that.

For one thing, Ms. Sabado said their counterpart lawyers in Japan have already told them that they themselves already have apprehensions about the verdict, given the country's current conservative political climate.

Secondly, she admitted that the Tokyo district court may still decide to cite the Yamaguchi ruling.

The third factor is that although the case of the Filipina *lolas* is just the second of its kind; it has no legal precedents.

"The Korean comfort women's case is different," she said, explaining that Korea was once a Japanese protectorate and the Philippines is an independent country and that different laws may apply. Moreover, as far as the Korean comfort women are concerned, their cases involved only one crime — that of sexual slavery — since they were confined in garrisons or "comfort stations" for long periods of time.

"For our Filipina *lolas*, there is a distinction because the crimes are not only sexual slavery but also of rape, too," she said.

During the Japanese Occupation, she said Japanese soldiers would swoop down on a village, rape women, and sometimes, massacre them. "Whenever the Japanese waged war during World War II, they raped women and brought the system of comfort women with them because it's part of their strategies of war. They did it to make their soldiers happy and to boost their women, who during the time, were staying at the Dutch colonies in Java.

But fortunately, since Filipino resistance to the Japanese Occupation was strong, and by virtue of the country's geography, the Japanese were not able to completely institute a systematic comfort women system, compared to the ones established in other countries. For instance, although there may have been "comfort stations" in various parts of the country, there were no medical certificates issued to our *lolas* nor were there any medical inspections.

"They were never seen by any doctors, they suffered miscarriages, and they were afflicted with malaria," Ms. Sabado said. "Although the comfort women system was not systematic, it was nonetheless widespread."

In the meantime, whether the ruling will be positive or negative, the *lolas'* struggle will continue. "If it will be negative, we will still appeal and bring this to the Supreme Court," Ms. Sabado said.

Ms. Sabado feels that their struggle may be helped by the fact that there have already been three resolutions filed in the Japanese Diet — all of which are sympathetic to the cause of the comfort women — but these have yet to reach the required number of votes.

"The struggle does not end with compensation," she said. "We feel that if the court case wins, it would really pressure Japan to conduct a full investigation so that the whole truth about this issue would be revealed. This case is not just about the 46 plaintiffs — it is also about historical research. We want to know exactly the extent of the responsibility of the Japanese government."

Included in their demands are the disclosure of the restricted files in Japan's war archives and the prosecution of the individual criminals, such as the generals.

"First and foremost, we are asking that Japan admit such crimes," she said. "To concretize such admission, it should open itself up to a full-scale investigation and based on that investigation, they will have to compensate

COMFORT WOMEN HOLD VIGIL IN FRONT OF JAPANESE EMBASSY

Pray for favorable verdict from Tokyo

By LYN LIRIO-PENARANDA

FORTY comfort women have started holding a vigil before the Japanese Embassy on Roxas Boulevard while awaiting and praying for a favorable verdict from the Tokyo District Court in the class suit they filed against the Japanese Imperial Army.

[illegible] Lila Pilipina, an organization of Filipina survivors of rape and sex slavery by Japanese troops, said they are anticipating the Tokyo court to grant their petition for compensation of $200,000 to each victim.

"Our struggle does not end in compensation, these lolas will continue fighting to liberate women from violence during time of war," said Maribel Balansag, information officer of Lila-Pilipina.

People's Tonight gathered that 173 comfort women in the country have accused members of the Japanese Imperial Army of bringing about 200,000 Asian women to frontline brothels to become sex slaves during World War II.

Aside from the class suit, the victims also asked the court to order the Japanese government to make a public apology and to include the hapless fate of the comfort women in history.

The vigil started at [illegible] p.m. yesterday and will continue until the verdict is issued today, after seven years of legal battle in court.

During the picket, the lolas took turns airing their sentiments against the Japanese army.

Lola Viring, 68, said many lolas failed to join the vigil because most were not feeling well and some of them were already dead.

"Nangamatay na and iba sa amin at ang iba naman ay naubos na ang lakas dahil sa katandaan, pero hanggang ngayon ay wala pa rin kaming hustisyang natatamasa sa ginawa sa amin," Lola Viring shouted over a megaphone while other rallyists ren-

[illegible] in front of [illegible] Embassy. Picture [illegible] JACSON

[illegible] Tagalog [illegible] popular [illegible] during the [illegible] invasion.

Catalina Lorenzo, 83, the oldest in the group, recalled her one-month ordeal in the hands of the invaders.

Lola Catalina is senile and can hardly remember her own birthday and her address, but when she was asked to recapitulate her experience during the war, she vividly recalled them all.

"May asawa na ako nang dumating sila at dukutin ako sa bahay namin. Isang buwan din nila akong ginahasa at pagkatapos ay pinakawalan nila ako. Ilang buwan kong hinanap ang asawa ko. Nang magkita kami ay galit na galit siya, pero wala siyang magawa kundi tanggapin ang nangyari sa akin dahil alam niyang papatayin siya kapag lumaban siya," Lola Catalina recounted.

GABRIELA and other women's organizations showed their support by joining the lolas in their overnight vigil.

THE PHILIPPINE STAR

1998. 10. 1 0

Tokyo court dismisses suit filed by 46 'comfort women'

The Tokyo District Court dismissed yesterday a lawsuit filed by 46 Filipina comfort women seeking a total of $7.9 million in compensation for allegedly being forced to provide sex for Japanese soldiers during World War II.

The complainants, who held an overnight vigil in front of the Japanese Embassy in Manila, assailed the decision and vowed to continue their crusade for just compensation for their ordeals during the war.

Presiding Judge Yoriaki Ichikawa ruled that international laws cited in the complaint against the Japanese government "do not allow personal demands for compensation."

The women, some of whom were as young as 10 during the war, alleged that Japanese soldiers confined them and forced them into sex slavery.

The suit asserted that the Japanese government was obliged to compensate the women because sexual slavery violates the 1907 Hague Treaty and international rules that protect civilians in military occupied territories.

The Japanese Imperial Army occupied the Philippines from 1942 to 1944.

The Japanese government argued that international laws stipulate rules among countries and do not cover individuals demanding compensation. It also insisted that local laws in Japan and the Philippines do not apply to countries.

Some 200,000 women, mostly from the Korean Peninsula, were allegedly forced into sex slavery by the Japanese soldiers during the war.

In the Philippines, 18 elderly women initially filed the suit in 1993, with 28 more joining them six months later. Seven of the plaintiffs have since died.

Nelia Sancho, spokeswoman for the group, described the judge's decision as a "letdown for women's human rights worldwide."

She said it was both "sad and painful" for the women, because it showed that some segments of Japanese society were still unable to admit and make amends for Japanese war crimes.

"We will continue our fight," one of the women said as she broke into tears.

"Win or lose, we will fight on," he companions said.

They have banded together under the Lila Pilipina and the GABRIELA organizations to wage their crusade for just compensation.

She added that the women were also seeking passage of a compensation law by Japan's Parliament.

Sancho said they would immediately appeal the ruling, the second decision on such compensation cases filed in Japan.

Last April, a court in southwestern Japan ordered the Japanese government to pay ¥300,000 ($2,500) in damages to three South Koreans used as sex slaves during the war.

Japan has provided some aid to former sex slaves through a privately funded body, but most of the claimants have refused to accept the offer saying it was not enough.

They also charged that it was part of Japan's attempt to avoid taking official responsibility for its war crimes. Cecille Suerte Felipe with DPA, AFP reports

PHILIPPINE DAILY INQUIRER

1998. 10. 10

SETBACK IN TOKYO

Sex slaves vow to press fight

ELDERLY Filipinas who were forced into sexual slavery for Japanese soldiers during World War II said yesterday they will continue to seek redress from Japan despite a Tokyo court's refusal to grant them compensation.

A dozen Filipino "comfort women" and their supporters burst into tears after they were told of the Tokyo ruling.

"This is a painful occurrence," one of the elderly women sobbed. "We will continue our fight."

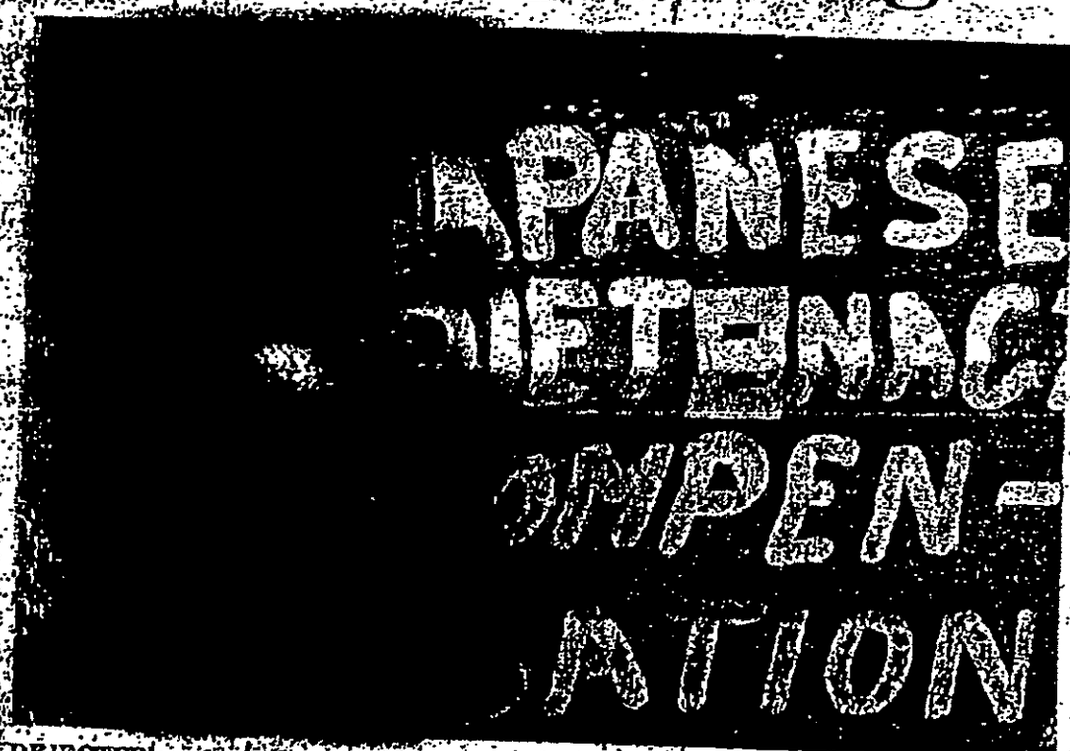
Nella Sancho, spokeswoman for the former sex slaves, called the decision a "letdown for women's human rights worldwide."

About 30 elderly former sex slaves, many sitting on cardboard and newspapers, held an overnight vigil in front of the Japanese Embassy while waiting for yesterday's court verdict.

"Rape victims have a right to compensation," said a sign held by one woman.

In its ruling, the Tokyo District

SEX/ p.6



DEJECTED comfort woman joins a rally Friday in front of the Japanese Embassy. ERIK ARAZAS

st year, farmers from Sumilao, Bukidnon take to the barricades in front of the
n office.

JOAN BONDOC

Sex slaves vow to press fight

(From page1)

Court rejected claims from 46 Filipino women for 20 million yen ($169,000) each in compensation.

The presiding judge said the international law under which the plaintiffs sought damages did not permit compensation demands by individuals, Kyodo News service said.

Foreign Secretary Domingo Siazon said the government could not do anything about the women's case because the claim involved private individuals. He added the government had received payment for war reparation from Japan under the peace treaty that ended the war.

Sancho said the women would immediately appeal the ruling.

"This has made the Filipino women even more determined to continue with the struggle to pursue redress," she said.

She said the decision was "both sad and painful" for the women because it showed that some parts of Japanese society were still unable to admit and make amends for Japanese war crimes.

Sancho said the women are also seeking passage of a compensation law by Japan's Parliament.

Yesterday's ruling was the second on compensation lawsuits filed by former sex slaves in Japan.

In April, a court in southwestern Japan ordered the Japanese government to pay 300,000 yen ($2,500) in damages to three South Koreans used as sex slaves during the war.

Historians say as many as 200,000 women, mostly Koreans but also Filipinos, Chinese and Dutch, were forced into sexual slavery during the war.

It was only in 1992 that the Japanese government admitted that its Imperial army was involved in establishing and running the front-line brothels.

Japan maintains, however, that all questions of compensation for the war already have been settled with the various nations involved.

Of the 46 Filipino women, some were age 10 and others were teenagers when they were seized by the Japanese for service in brothels, their lawyers have said.

To date, seven of the Filipino plaintiffs, including Maria Rosa Henson, the first Filipino woman to publicly admit she was forced into sexual slavery, have died.

Japan has provided some aid to former sex slaves through a private-funded body. Most women have refused to accept the payment, saying it is not enough and is part of attempts by Japan to avoid taking official responsibility

atone for its past Imperial a
against South Korea.

Apology to South K

The ruling coincided w
South Korean President Kim
during which he has received
government apology for Japa
1910-45 colonial rule.

The apology to South Kor
to mention the sex slaves whi
recruited from Asian countries
court ruling is likely to revi
bitter memories.

Presiding Judge Yoriaki I
said the Filipina plaintiffs "do
a legal ground for their dema
cited the lack of any internati
enabling individuals to dema
compensation from governmen

The ruling came during a 10
session in the case which ha
more than five years.

Enraged supporters of the
in the courtroom shouted "Sha
and "You don't know anythi
Press reported.

Stunning

The decision followed a st
court victory in April for three
Korean women forced into pros
by Japan's troops. For the fir
since the war the governme
dered to pay compensation.

The plaintiffs had demanded
of 564 million yen and an offici
ogy. The sum was not large b
victory stunned the Japanese g
ment.

Japan has refused state com
tion for the victims, saying a 19
lateral treaty settled such war
issues.

Tokyo has instead subsidized
vate Asian Women's Fund, set
1995 with payouts starting in 19
a move which many former co
women consider an attempt to
state compensation.

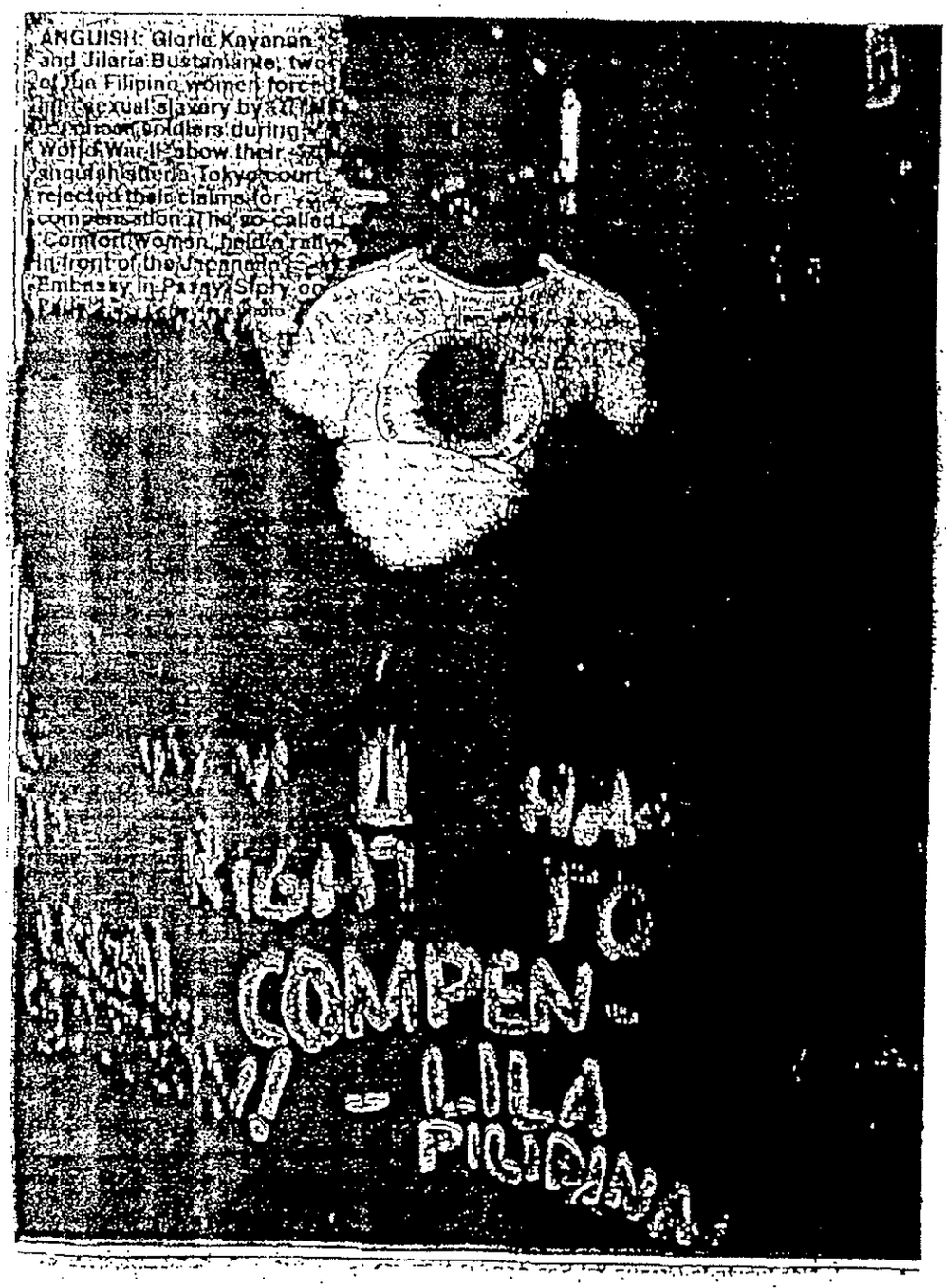
South Korea has repeatedly
manded that Japan apologize and
pensate the women. Only in Marc
the Seoul government drop den
for compensation from Japan, say
would pay each victim 31.5 millio
($22,800).

Activists in Taiwan and other
neighbors hailed the April ruling
Yamaguchi court while Japan's
justice minister Kokichi Shimoi
said he was "stunned" by it.

Judge Hideaki Chikashit
Yamaguchi ruled at the time tha
Japanese government and lawma
had failed to establish a law to com

THE PHILIPPINE STAR

1998. 10. 1 0



ANGUISH: Gloria Kayanan and Jilaria Bustamante, two of the Filipina women forced into sexual slavery by Japanese soldiers during World War II show their anguish after a Tokyo court rejected their claims for compensation. The so-called Comfort Women held a rally in front of the Japanese Embassy in Pasay. Story on Page 2. (Photo by [illegible])

Manila Standard

1998. 10. 1 0.

Filipino protesters in an office area, [illegible] over the decision of a Japanese court to throw out the demand of dozens of Filipinos for compensation from the Japanese government. The aging "comfort women" vowed to continue their quest to get paid by Tokyo for the abuses committed by the Japanese Imperial Army. [illegible]

'o court...

ial rules

laws are used to settle
states," Ichikawa said.
viduals to seek com-
sions, there must be
ich give individuals
compensation."
vent among so exci-
ically Asian women
brothels for Japan's

documented cases of
n women," more than
died.
paid direct compen-
on, saying all claims
are treaties that con-
e. Instead, it has sup-
port for a private fund
s.

the existence of the sex slaves in July 1992.

References to their plight appeared for the first time in Japanese school textbooks in April 1994.

Continuing

But the women forced into sexual slavery for Japanese soldiers said they will continue to seek redress from Japan despite the Tokyo court's refusal to grant them compensation.

Nelia Sancho, national chairman of Lila Pilipina, called the decision a "setback for women's human rights worldwide."

About 30 elderly former sex slaves, many sighing on crutches and newspapers, held an overnight vigil in front of the Japanese Embassy along Roxas Boulevard while waiting for the court verdict.

"Rape victims have a right to compensation," said a sign held by one woman.

the struggle to pursue redress," she said.

She said the decision was "both sad and painful" for the women because it showed that some parts of Japanese society were still unable to admit and make amends for Japanese war crimes.

Sancho said the women are also seeking passage of a compensation law by Japan's Parliament.

Friday's ruling was the second on compensation lawsuits filed by former sex slaves in Japan.

In April, a court in southwestern Japan ordered the Japanese government pay 300,000 yen ($2,500) in damages to three South Koreans used as sex slaves during the war.

200,000 women

Historians say as many as 200,000 women, mostly Koreans but also Filipinos, Chinese and Dutch, were forced into sexual sla-

Tokyo court throws out comfort women's suit

TOKYO — A Japanese court yesterday rejected a lawsuit filed by 46 aging Filipinos, who demanded that Tokyo pay them $200,000 in cash each in compensation for forcing them to serve as sex slaves for Japanese soldiers during World War Two.

Presiding Judge Masaki Yoshimura of the Tokyo District Court said "international laws do not allow individuals to demand compensation (from a government)."

The group of women belonging to Lila Pilipina, an organization of 180 Filipinos who were forced "comfort women" of the Japanese armed forces, called on Japan, ruled a lawsuit with Japanese courts in 1993 along with dozens of others. [illegible]

The Filipinos, in addition to the $200,000 each, demanded the Philippine [illegible] pay a total of 920 million yen ($7.93 million) in cash compensation from the Japanese government.

Turn to page 2

THE MANILA TIMES

1998 10 1 0

Sick and afraid, lola still fights

JUANITA Jamot had waited with bated breath yesterday for a decision that she had hoped and prayed would be favorable to her and 46 other "lolas" like her.

At 72, Lola Juanita was hoping to be indemnified by the Japanese government after being forced into sexual slavery for Japanese soldiers during World War II.

At noon, the decision came and it brought no consolation to Lola Juanita, who has recently been diagnosed with cancer. The Tokyo District Court turned down

➤ 4

Sick and afraid, lola still fights

From Page 1

a demand of 20 million yen ($169,000) for each of the victims who have collectively been called "comfort women."

"Nagriningirigil ako sa galit, ang tagal na ng paghihirap ko. Panahon pa ng digmaan hirap na ako, hanggang ngayon ba naman?" she said in an interview with THE TIMES. [I'm turning mad. I have suffered for so long. During the war, my life had been difficult, why should it remain so?]

Lola Juanita said she has no one to take care of her and must face her battle with cancer—which has affected her left neck, left breast and left armpit—alone.

"Basta ang sabi sa akin ng duktor sa East Avenue Medical Center ay cancer daw pero hindi ko na maintindihan kung anong uri," she said. [The doctor at the East Avenue Medical Center said I have cancer, but I don't know what type it is.]

Lola Juanita was among the comfort women awarded compensation by a Japanese private firm last year. She had used her share of P480,000 to build a house in Marikina City.

But she has not been living in that house because she would be all alone there.

Today, Lola Juanita has found a new shelter and family in Lila Pilipina, the organization which has been fighting for the rights of comfort women.

For now, she has been getting free medicines from a benefactor at EAMC, but Lola Juanita knows even this may not last.

The hardy old woman, however, said she's not going to give up her group's cause.

"She won't stop. Not now, not in the thick of battle," said Maribel Balanay, an information officer of Lila Pilipina.

—Dona Pollicar

REPRIEVED. Three women who suffered as sex slaves during World War II find comfort and strength in one another after learning that a ...as dismissed their claims for damages. LIM ...

nfort women' lose legal battle

NILA TIMES

), 10. 1 0

A TOKYO court yesterday threw out the claims for compensation of 46 Filipina women who were forced into sexual slavery for Japanese soldiers during World War II.

The Tokyo District Court turned down a demand of $169,000 in compensation for each of the 46 plaintiffs, or a total of $7.85 million. Presiding Judge Yoriaki Iaitkawa ruled that "international laws do not allow individuals to demand compensation (from a government)."

The ruling was the second on compensation lawsuits filed by "comfort women" before the Japanese courts. In April, another court ordered the Japanese government pay $2,500 in damages to three South Koreans who were also used as comfort women during the war.

The 46 Filipina plaintiffs were teenagers when they were seized by the Japanese and pressed into service in brothels during the war. Some of them were as young as ten years old.

To date, seven of the Filipina plaintiffs, including Maria Rosa Henson, the first Filipino woman to publicly admit she was forced into sexual slavery, have already died.

In 1993, Hanson and 46 other Filipino women

➤4

omfort women' lose legal battle

age 1

class suit against the Japa- vernment in the Tokyo Dis- urt to demand direct com- ns and an official Japanese

s are 168 documented cases pine comfort women, more of whom have died.

n has given some assistance r sex slaves through a pri- nded body. Most women fused to accept the payment, it was just part of attempts n to avoid taking full re- ility for its wartime actions.

Special rules

Tokyo judge cited the need cial rules governing the f compensation to individu- overnments under interna- w.

rnational laws are used to disputes between states," a said. "In order for indi- to seek compensation from there must be special rules ive individuals rights to de- compensation."

an's and human rights immediately assailed the , calling it a major setback to bring justice to victims ese excesses in World War

back but it will also spur us survivors of Japan's war crimes, and our supporters to heighten our struggle," the group said in a statement.

Vigil

Members of the group held an overnight vigil in front of the Japanese embassy in Makati to await the verdict. They were told about the decision of the court around noon.

Lila Pilipina national chairWella Seacho said the verdict wronged the memory of all the victims who have died without seeing justice.

"It is also a letdown for women's human rights worldwide, especially for the victims of war and armed conflict situation," Seacho, a former beauty queen, said.

Still, the group's Japanese lawyers, through counsel Kanichi Takagi, said the lawsuit succeeded in bringing the cause of Filipina comfort women under an international spotlight, forcing Japan to correct its historical records and reflect the truth about its war atrocities.

No help from RP

Lila Pilipina has already launched a signature campaign among local senators and congressmen urging the Japanese Parliament to pass a law giving the victims a chance to win the fight," another official of Lila Pilipina said.

Foreign Secretary Domingo Siazon said the Philippine government will not intervene in the case, since it was a private claim.

"I cannot appeal a case in court because that's not a government case," Siazon said, stressing that claims by the Philippine government for Japanese atrocities have been settled long ago.

Demands

The victims are demanding compensation from the Japanese government, as well as a formal public apology. They also want their ordeal to be written in all Japanese history books.

Several Filipina women last year accepted $18,500 in compensation from the private Japanese welfare fund and a letter of apology from then Prime Minister Ryutaro Hashimoto.

Historians say as many as 200,000 women, mostly Koreans but also Filipinos, Chinese and Dutch, were forced into sexual slavery during the war.

It was only in 1992 that the Japanese government finally admitted that the Imperial Army was involved in establishing and running the front-line brothels.

No comfort for comfort women

ARESTI TANGLAO

A Tokyo district court yesterday dismissed for lack of evidence a class suit filed by some Filipinas seeking indemnity for their ordeal as "comfort women" to Japanese soldiers during World War II.

The suit was filed in their behalf by Lila Pilipina, an organization of 180 women who survived their sexual enslavement. Leaders of Lila Pilipina and Gabriela, a national alliance of women's groups, said they plan to file an appeal.

The case, filed in 1996, seeks a total of $9.2 million in damages for the suffering the comfort women experienced after they were reportedly snatched from their families and sexually used by Japanese soldiers.

The dismissal came after the United Nations recently expressed support for the comfort women by issuing two resolutions calling on the Japanese government to recognize war crimes, make immediate indemnification to their victims.

Earlier this year, the Japanese government issued a public apology and admission of the atrocities committed against Filipinas, but refused to provide compensation or monetary compensation.

An estimated 1,000 young Filipinas are believed to have been taken as comfort women more than 50 years ago. Majority of them died inside the Japanese camps while others who survived live with memories of abuse, according to Lila Pilipina.

Please see Page 6

Malaya

1998. 10. 10

No comfort...

From Page 1

Lila Pilipina was established in 1994 from Task Force on Filipina Comfort Women after a number of women in their twilight years decided to come out in the open and demand justice for the agony they experienced in the hands of Japanese soldiers.

Seven of the 46 complainants have died.

Zamora: Gov't to intervene for comfort wome

By REGINA BENGCO

Executive Secretary Ronaldo Zamora yesterday said government is seriously studying the possibility of intervening in the case between Filipino comfort women and the Japanese government.

But Zamora said government still has to talk to the comfort women and their representatives to determine what they want and what can be done.

"These are the things we now have to explore, and it's possible that at some point we may be able to use the good offices of the government to work out something else. But these are all preliminary, we cannot do anything until we are able to talk to the comfort women or their adherents," he said.

A class suit in 1993 seeking indemnity for the women for atrocities they suffered in the hands of Japanese soldiers during the World War II was dismissed by a Tokyo court for lack of evidence because the complainants did not have witnesses.

Zamora said the offers of other forms of reparation from the Japanese government and Japanese non-governmental organizations are not enough for the comfort women.

Palace to help 'comfort women' get redress from Japan

Malacañang announced yesterday that it is offering help to Filipino women forced into sexual slavery by Japanese troops during World War II to get individual compensation for their suffering after a Tokyo court rejected their demand Friday.

Executive Secretary Ronaldo Zamora, in an interview, said that the Filipinas, more commonly called "comfort women," should tell the government what they want it to do so alternatives to the ruling of the Tokyo district court can be explored.

"We cannot do anything until we are able to talk with the comfort women or their adherents, until they tell what they want us to do," he said.

Zamora added that the Philippine government has already made previous representations with the Japanese government on the demands of the comfort women, now all grandmothers aged 67 to 72.

"At some point, we may be able to use again the good offices of the Philippine government to work on something else," he explained, adding that some of the options they could take were for Manila to negotiate with Tokyo or for (around $169,000) in compensation for each of the 46 comfort women, the Tokyo court said international law under which they sought damages did not permit individuals to demand compensation from a government.

Zamora, however, said the Philippines has already forged an agreement with Japan in the United States several years ago wherein the Japanese government agreed to pay compensation to another group of comfort women through a private organization.

The agreement did not cover individual cases, though. He said that although the 46 Filipino women filed their lawsuits individually, there is still hope that the previous agreement may be used in appealing their cases.

"Now there are some who feel from our side and from the comfort women's side that this agreement is not enough. This we have to explore and it is possible that at some point, we may be able to use it to work on something else," he said.

The earlier group of women, the Lila Pilipina, is composed of 180 comfort women. They filed a lawsuit in Japanese courts in 1993 and asked for 920 million yen or $7.93 million in com-

forced to supply sexual services to Imperial Army troops in frontline brothels. In the Philippines, there were 169 documented cases of women who were exploited this way.

Until the early '90s, the Japanese government insisted the brothels were run by private organizations and businesses until official documents were uncovered, demonstrating the government's involvement.

—Paolo Romero, DPA

EDITORIALS

Judgment in Tokyo

FILIPINO "comfort women" have vowed to pursue their struggle for justice after a Tokyo judge threw out their case the other day. A group of 46 Filipinas had demanded that the Japan government pay them cash compensation for forcing them to serve as sex slaves for Japanese troops during World War II. A Tokyo presiding judge said international law under which the plaintiffs sought damages does not permit compensation demands by individuals.

The decision represents another setback for the Filipinas who have found the courage to speak against the bestiality committed against them by the Japanese imperial army. The comfort women are mostly in their teens when they were conscripted to service enemy soldiers during the war.

Records show that as many as 200,000 women, coming from Korea, the Philippines and China, were pressed into sexual slavery during World War II. It was only in 1992 that the Japanese government admitted that its new shoguns were involved in establishing and operating front-line prostitution houses.

The Japanese government, however, has maintained that all questions of compensation for the war have been settled with the various countries involved. Under pressure, Japan decided to provide aid to the comfort women in a roundabout way, through a private fund.

Most victims refused to accept compensation from the fund, saying the money offered was not enough and the fund was part of Japan's strategy to avoid taking official responsibility for its wartime crimes.

The Filipinas took heart when last April, a court in southwestern Japan ordered the Japanese government to pay 300,000 yen ($2,500) in damages to three South Korean women used as comfort women during the war. The judge said the government had failed to establish a law to compensate wartime prostitutes.

But the recent Tokyo judgment is a major reversal. Their quest for justice has receded further. They will have to wait for another day.

Foreign Secretary Domingo Siazon said the Philippines could not do anything about the women's case because the claim involved private individuals. But Executive Secretary Ronaldo Zamora has more cause for optimism. He said the Philippine government ought to take up the cudgels for the comfort women. He wants Manila to negotiate with the Japanese government.

Let's do it, Mr. Zamora.

TOKYO
BISMOUTE
MEL STANDARD 10-10-78

Willie Ng

Can Filipino comfort women still get justice?

THE term "comfort women" slept for 46 years after World War II and it was not until some Korean women complained in the early 1990's that the term and the horrors it connoted shocked the world.

With that complaint came the revelation that the Japanese Army forced some 200,000 women, mainly Koreans but including also Chinese, Filipinas and a scattering of Dutch women, into providing sex for the soldiers.

Comfort women, in short, is a euphemism for sex slaves. Girls, many in their teens, were taken to army-run dormitories where for years they were raped at all hours.

The Japanese soldiers in those days were a far cry from the Japanese today. They were short, bowlegged and many sported buck teeth. They were also crude.

Former Singapore Prime Minister Lee Kuan Yew, in his memoirs, described these soldiers well. They stank.

* * *

The Japanese government has some officials who, up to this day, deny that the well-documented Rape of Nanking ever took place.

Unlike Germany which readily admitted its guilt for the Holocaust and other atrocities, Japan has always avoided apologizing for its war crimes.

Only now has its government apologized, in a carefully worded paragraph, to Korea for its decades of colonization of that country, a period marked by unspeakable brutality. Now it is readying that same paragraph to deliver to China, which suffered even greater humiliation and brutality, not to mention the massive confiscation of its assets and treasures.

* * *

It took Japan over a year to finally admit the existence of the comfort women.

But as to compensation, it flatly refused to entertain the idea. It would open the door to demands for compensation for the millions of other victims of Japanese wartime atrocities.

There were countless women who were raped in Japanese-occupied countries. What about those who were tortured or killed?

What about that other recently unearthed atrocity in Manchuria where Japanese scientists injected deadly germs into their victims in the course of their endless medical experiments?

* * *

While the Japanese rejected compensation from the government, it encouraged the private sector to put up a fund.

Last year, several Filipina comfort women were paid $18,500 each from that fund. Earlier this year, a local Japanese court ordered the government to pay three Korean women $2,500 each.

Hence it comes as no surprise that the Tokyo District Court, after years of delay, threw out last week a suit by 46 Filipina comfort women seeking compensation of $200,000 each.

The court ruled that "international laws do not allow individuals to demand compensation" from any government.

(Cont'd on page 36)

What about elementary decency?

* * *

Nelia Sancho, the former beauty queen, now president of Liga Filipino, the organization of Filipina comfort women, has announced she would appeal the decision.

The outlook is not brilliant. The Japanese judges obviously side with their country.

Still, the injustice demands a resolution. If the perpetrators of the crime are no longer around to account for the acts, then the government must answer for them.

World opinion and the universal sense of justice are the weapons left to Ms. Sancho and her rape victims. These may not work in the Japanese courts. They may be used politically. Can the Japanese legislature be influenced to pass a compensation law?

It's a long, long shot. The Japanese sense of justice is reserved for its own nationals.

THE LAST days of the last great war," says
blurb for Steven Spielberg's "Saving Private
n," "the greatest risk for a group of men was
ng one man." Or words to that effect. Well, I
t say I blame Spielberg for looking for other
es in war than the obligatory one depicting
atent horrors. "Empire of the Sun" looked at
Japanese Occupation from the point of view
n English boy. "Schindler's List" looked at
Holocaust from the point of view of a German
o saved many Jews form the gas chamber.
"Saving Private Ryan" looks at war from the
t of a view of a group of men who must risk
r lives to save one POW for its symbolic
e.

But I don't know that the notion of a "great
" is something to want to blithely parvey, even
blurb form. That's how the World War II of
rse has often been called—by the victors, to
om the spoils go: the "Great War." The "great"
nothing to do with the scale of the war, though
as truly global. It has to do with the apparent
ity of the moral issues there. It was Good ver-
Evil, with copious displays of heroism even
n the forces of Evil. The war was still gov-
ed by a code of conduct acceptable to civilized
nanity. Not so the Vietnam War—to which the
eat" World War II is inevitably contrasted. The
tnam War was the miserable war, the dirty war,
war that had no right or wrong. Only a lot of
d bodies and deader minds.

A comfortable—and widely accepted—dis-
ction, but a sublimely illusory one. As every-
e from Thucydides to Tolstoy reminds us, there
no splendid little wars, there are no clean
rs, there are no great wars. War is uniformly
rrific. It doesn't matter if it's global war or
al, whether it uses swords or nuclear bombs.
e only heroic thing in war is the struggle of
man beings to remain human in the inhuman
te they are reduced to. The "Iliad" is about
ector being butchered by Achilles too. And as
ripides kept pointing out, it's the women who
t hit by war most. It's the women who stay
me and raise the kids, not knowing when—or
—their husbands will come home. It's the
omen who get raped and turned to sex slaves
hen their communities are sacked by the con-
ering hordes.

So it was in the Peloponnesian War, so it was

THERE'S THE RUB

Conrado de Quiros

In the last "great war," the greatest threat to the invaded was the comfort of their invaders. In the last "great war," thousands of Asian women were seized from their families and kept in pens to make the Japanese soldiers happy. "Comfort" was the word used for the service they were made to provide—a most malevolent euphemism. Nelia Sancho, chairperson of Lila Filipina and the Manila office of the Asian Women Human Rights Council, has just finished putting together the second volume of "War Crimes Against Asian Women," the volume dealing with the ordeal in particular of the Filipino comfort women. Even now their stories chill to the bone, notwithstanding that they speak of events that happened more than half a century ago. The book is a good reminder of what the Japanese Occupation was all about. It is a good reminder of what war is all about.

Before the Filipino "comfort women" came out to tell their stories—which wasn't too long ago; Rosa Henson did so only in 1992—I always thought, each time the old folks talked about how they used to hide the women from the Japanese, or tried to make their daughters look ugly even to the extent of mutilating them, that I was listening to *kuwentong kutsero*. Or to "*kuwentong Hupon*" with all the hyperbole and mythic resonance that attach to it—not unlike Fernando Poe Jr. mowing down hordes of Japanese. In fact the only exaggeration was FPJ mowing down the hordes of Japanese. There was no exaggeration about the women being raped by the Japanese. If you were a parent during the Japanese Occupation, you were an absolute fool to keep your wife or daughter in plain view of the Japanese soldiers. If they obeyed a code, it was only the one that said war was rape and pillage.

"War Crimes Against Asian Women" tells of that experience, from the point of view of the victims themselves. Most of those victims were the Japanese and turned into sex slaves. Some had just began to menstruate. One saw her father bayoneted in front of her when he protested. Others saw their entire families killed before they were taken away.

But the one account that really stokes the fires of anger, and gives the deepest insight into what the "comfort women" really endured, is the one given by Remedios Tecson. And quite ironically, her worst ordeal does *not* have to do with the Japanese. "I was only able to recover and live a normal life when I met my husband and fell in love with him. I told him what had happened to me, and he seemed to understand. We were together for three years. But there came a time when his friends learned about my past and they started taunting him. They said I was damaged goods and he was making do with the leftovers of the Japanese. He believed them. One day, he abandoned me while I was pregnant with our second child."

No, there is nothing pretty about war. The only honorable thing there is the struggle of people to keep their dignity amid the indignities to which they are subjected—from *all* sides. Nelia's book should help to remind us of that. But I wish we too could produce a movie about the "comfort women" of a quality akin to "Saving Private Ryan," and not the exploitation types that feed on them like maggots on carcasses. What a despicable concept, turning the ordeal of the "comfort women" into a voyeur's paradise. You wonder when the ordeal of the "comfort women" will truly end.

Making the past live again is the only way the "comfort women" will be able to win their case—beyond the one they have filed against the Japanese government. As I write this, all the newspapers have just reported that the "comfort women" have lost their case in a Japanese court. I myself can't see that the case will prosper through legal means alone—or in large part. The only way it can prosper is by making the world *see* what they went through. It is the only way they can win back their dignity. It is the only way they can win their peace. It is the only way they can win their case against the Japanese government. First, the court of public opinion, then the court of justice.

Then it can be said that in the last great peace, a group of women waged a great war to make